

明治大学国際日本学部 学生論集

SCHOOL OF GLOBAL JAPANESE STUDIES STUDENT JOURNAL

第11集(2024)

国際日本学部学生論集の刊行に寄せて……………	国際日本学部長 鈴木 賢志
健全かつ持続可能なファン活動のための制度整備の必要性 —K-POP の事例を中心に—……………	PARK SOHEE (1)
間の音楽、魔の音楽—日本の美的感覚がつくる伝統芸能の音楽—……………	新村 百華 (39)
不幸な女は美しい?—Z 世代のキャラクタービジネスと歌舞伎の 女性キャラクターに見る「不憫かわいい」の追究—……………	栗山 葵衣 (65)
漢詩に新語を入れる可能性と未来像 —日本漢詩、和歌、俳句からの発想—……………	TANG GETIANYU (91)
「バイト敬語」の社会的妥当性に関する検討……………	山口 稜太 (119)
なぜタイ語では「道を教える」と言わないのか —日タイ言語コーパス研究を通じた考察—……………	佐藤 加奈 (143)
中学校英語授業において深層レベルの異文化理解教育を行うには —指導法の提案と課題—……………	佐藤 菜緒 (157)
小中学校移行に伴う英語授業好感要因調査……………	廣澤 美吹 (173)
継続性のある英語学習者の特性に関する考察……………	森 媛花 (191)
コミュニケーションを取ろうとする意思と習熟度の関連 —習熟度別の関連要因調査—……………	水嶋 春佳 (209)
「押しコンテンツ」が第二言語学習の動機づけに与える影響： ケーススタディを通じた考察……………	滝川くるみ (225)
日本における英語偏重教育についての考察……………	橋爪 萌花 (241)
国際社会で求められる外国語運用能力 —テキストマイニングによる学習指導要領の分析—……………	袴 誠人 (255)
日本の Native-Speakerism と学習者の自己肯定感についての分析と提案……………	大島 瑚遥 (273)
「教育虐待」の言説分析 —「クレーム申し立て活動」からみる第三者と当事者—……………	津川 さくら (309)
計量分析による文体模倣評価の可能性と課題 —「金色夜叉」を題材として—……………	櫻井 千恵 (333)
椎名麟三論——評価の変遷——……………	芥川 徳 (374)
落語における独り言……………	堀口 愛仁 (392)
大江健三郎「夜よゆるやかに歩め」に見られる リアリティとフィクションのあいまいさについて……………	笹井 悠太 (408)
国語教科書における尾崎放哉と自由律俳句……………	野本 駿介 (426)
2024 年度卒業論文等テーマ一覧……………	(427)

国際日本学部学生論集の刊行に寄せて

国際日本学部長 鈴木賢志

みなさんご存知の通り、本学部は卒業論文の執筆が学位取得における必須条件ではありません。そのおかげで、論文という形にとらわれずに様々な学びと経験を在学中に得ることができるのは事実です。けれども、自分の関心を1つのテーマに集中させ、その中で問いを發し、その答えを探してもがき苦しむという経験、さらにそれを誰もが理解できるように言語化する努力を積み重ねることで、自分がこの明治大学国際日本学部で学んできた証を後世に残すことができるのが、論文の大きな魅力です。

今回、この国際日本学部学生論集に自らの論文を掲載されたみなさんは、ここまでそうした苦労や経験、努力を積み重ねてこられたことでしょう。これから卒業し、それぞれの道を歩んで行かれる中で、物事がうまく運ばないことがあるかもしれませんが、そんな時にはこの学生論集を読み返して、自分はこの研究をやり遂げたのだということを思い出せば、きっと自信と元気を取り戻すことができると思います。

なお、この論集に論文を発表するまでには至らなかった方々についても、これまで取り組んできた研究テーマを一覧として掲載し、本学部におけるみなさんの学生生活の足跡を残すようにしています。本学部において取り組んできた研究が、みなさんの将来に何か影響を与えるのか、与えるとすればいかなる形であるのかは、まだ誰にも分からないことですが、みなさんそれぞれの学びの証として、大切にしてください。

本学部における学びは、既存の学問体系の枠組みにとらわれず、扱われるテーマはとても幅広いものです。しかしそれこそが、自由な発想で日本や世界の姿を明らかにするというこの学部の学びの姿勢であり、かけがえのない魅力です。本学部における学びを糧にして、みなさんがさらに幅広い視野を持って活躍してくれることを切に望みます。

健全かつ持続可能なファン活動のための
制度整備の必要性
—K-POP の事例を中心に—

The need for institutional preparation for healthy
and sustainable fan activities
—Focusing on the K-POP cases—

明治大学 国際日本学部

パク ソヒ

Meiji University School of Global Japanese Studies
Park Sohee

目 次

はじめに一持続可能なファン活動に向けて

I 問題意識、分析方法、本論文の構成

1. 問題意識 韓国の「推し疲れ」
2. 先行研究及び分析方法 ファン活動を探して

II K-POP ファン活動の実態と課題

III 競争心理をあおる仕組み ストリーミングチャートと市場操作

1. ファン活動としての「ストリーミング」
2. ストリーミングチャートの仕組みとファンの役割
3. 「総攻」活動の実態
4. 業界の対策－MELON の取り組みとその限界
5. 今後の対応 政府の強い規制による競争緩和

IV 過剰マーケティングによるパッケージアルバムの環境問題

1. ファン活動としての「アルバム購入」
2. ファンがアルバムを買う理由
 - (1) ランダム構成品
 - (2) 初動
 - (3) イベント応募
3. ゴミになるアルバム
4. エコアルバム「プラットフォームアルバム」の登場と限界
5. 環境対策－生産者としての責任あるマーケティング

V K-POP ファンダムの本質と社会全体の問題

おわりに

参考文献

はじめに一持続可能なファン活動に向けて

BTS、SEVENTEEN、NCTなどの有名アイドルを筆頭に、韓国の「K-POP」産業は毎年その規模を拡大させ、今や韓国の輸出を担う重要な産業の一つとして位置づけられている（イン、2023）。外交部の韓国国際交流財団によると、2022年基準でK-POPアイドルファンダム産業の規模は8兆ウォン（約9300億円）に達する（べ、2023）。コロナ以後に続いたK-POP市場の好況により、2024年では産業の規模がさらに大きくなると推計されている（アジア経済、2023）。このような好況の中で、ファン関連の産業を称する「ファンダストリー」という単語も新しく登場した。

本論では、「アイドルファンダム（以下、ファンと称する）」は K-POP の単なる消費者だけでなく、産業を支えている大事な要素の一つであると考え（シン、2022）。しかし、数多あるアイドルグループの中で、いわゆる有名アイドル、「1 軍」になるための過剰競争がファンを疲れさせている。好きなアイドルを有名にさせるための労働のようなファン活動をつづけたファンは結局疲れ、ファンをやめることになる。ファンがいなければ成立できない「K-POP」産業の生存のためでも、制度整備とアイドル事務所の責任感ある生産を通じた持続可能なファン活動の考察が必要である。

I 問題意識、分析方法、本論文の構成

1. 問題意識 韓国の「推し疲れ」

K-POPは韓国の代表的な文化であり産業である。しかし、最近のK-POP市場は多数のアイドルによる飽和状態であり、これに伴う過度な競争のため、代表的な「レッドオーシャン」の一つでもある。このような状況の中で筆者は長い間K-POPのファンとして活動しながら、ファン活動自体に疲れ、K-POPから離脱してしまうファンを多数見てきた。これに対し筆者はファンが疲れる理由を過熱した競争の中で好きなアイドルを浮上させるため、様々な活動を行い、その結果、ファンの負担が大きくなるためだと考えた。したがって、ファンがいてこそ成り立つK-POP産業の存続のためにも、過熱した競争を減らす必要がある。

しかし、ファン活動は誰かが強制的にさせるものではなく、「好きな心」から始めた自発的活動であるため規制することが難しい。したがって、ファン活動を分析した後、その活動をしなければならない理由を探し、ファン活動をしながら感じる負担を少なくするための根本的な方案を探さなければならない。

2. 先行研究及び分析方法 ファン活動を探して

これまでK-POP産業、ファン活動は様々な論文のテーマになってきた。ハン(2022)はアイドルファンダムが社会的に無視される状況で、共同体としての価値を認められるために

進行する認定闘争を繰り広げていると述べた。彼女は彼らがファン活動を通じて共同体の価値を表現し、自分たちの好みを正当化し、社会的認識を変化させるために積極的に対抗していると分析し、ファンダム内での連帯とコミュニケーションを通じて共同体としてのアイデンティティを強化していると述べた。ファンダムは認定闘争を通じて社会的認定を得て、共同体としての価値を確立することができ、友情や愛のような個人の原初的関係を回復し、多様な意識が共存できる談論の地平を拡張することを目標にしていると分析した。

アン（2022）はK-POPアイドルの中で活発に利用されているSNS、X（旧TWITTER）を中心に、アイドルファンダムのタイプ別特性を研究した。アンはファンの活動が感情的動機から始まるが、その持続可否は合理的な選択の結果と見ることができ、ファン活動には個人的な消費だけでなく他のファンとの関係性を重視する活動も含まれ、このような活動を通じてファンはお互いに関係を結ぶと述べた。ファン活動は他の人との相互作用なしに一人で遂行する個人的行為と、他のファンと共にする対話やイベント参加のような共同の活動である協力活動に区分し、ファンダムを「能動的」「受動的」「非購買」の3つのタイプに分類し、各タイプ間にはファン活動に対する態度と社会資本に対する認識で差があり、能動的なファンは関係中心の活動を重視する反面、受動的なファンは消費中心の活動にさらに集中する傾向があると説明した。

しかし、大部分の論文はファンダム活動をジェンダー（オ、2021）などの他のキーワードと結びつけている。ファンダム文化を分析したとしてもファンダム文化が共同体として社会的に持っている意味などを分析した論文である（ハン、2022）。本論文は、アイドルファンダムのファン活動を分析するが、これまでの研究ではあまり分析されたことがないファン活動の問題点とその解決方法について考察するという点はオリジナリティを持つ。

したがって、本論文では先行研究を踏まえつつ、長時間K-POPが好きなファンのインタビューを通じて実態を把握し、本論文で重点を置くべき「ファン活動」の種類を決める。また、これまでに作成された記事や事務所の発表資料、ファンのSNSを通じて、過去および現在に行われているファン活動について調査する。

II K-POPファン活動の実態と課題

本研究では調査方法として質的調査方法を採用し、K-POPが好きなファンにインタビュー調査を行った。データ統合管理プラットフォームであるDIGITYが2022年に韓国のファンダムアプリを分析した結果に基づき、最も多くインストール数を保有しており、着実に成長している「WEVERSE」アプリを基準に対象を選定した。その結果により、最も多い性別および年齢層である20代の女性をインタビュー対象に選定した。

現在ファンダムの中で行われている活動についてありのままの話を聞くために、最小限の質問だけを選定して半構造化インタビューを行った。インタビュー対象者の基本的属性

は以下の通りである。

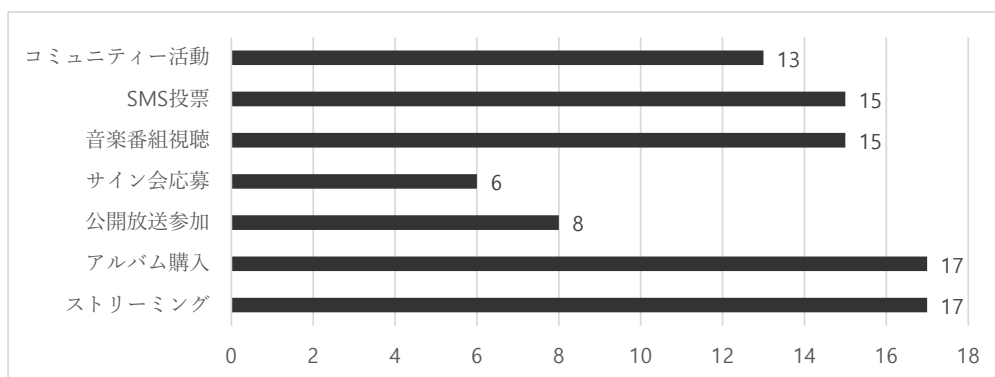
表 1 インタビュー対象の情報

回答者	年齢	経歴	好きだったグループ	現在好きなグループ
A	24	2017～	NU'EST, WANNA ONE, NCT127 等	RIIZE
B	24	2009～	SHINEE, B1A4, ATEEZ	&TEAM
C	24	2012～	B1A4, PRODUCE 101 2	SHINEE
D	22	2017～	PRODUCE 101 2	NCT 127
E	23	2013～	BEAST, WANNA ONE, NCT127	SEVENTEEN
F	25	2012～	BEAST, EXO, PRODUCE 101 2, NCT 127	SEVENTEEN
G	24	2020～	—	NCT 127
H	22	2017～	NCT127, STRAY KIDS, SEVENTEEN	RIIZE
I	25	2011～	INFINITE	AESPA
J	23	2019～	IZONE, SEVENTEEN, TOMORROW X TOGETHER	ATEEZ
K	23	2013～	WANNA ONE	SEVENTEEN
L	26	2014～	THE BOYZ	NCT 127
M	23	2012～	EXO, SEVENTEEN	THE BOYZ
N	21	2020～	SEVENTEEN	KISS OF LIFE
O	23	2009～	SNSD, EXO, SEVENTEEN ...ECT	NCT 127
P	26	2010～	—	INFINITE
Q	23	2013～	NCT, STRAY KIDS	TWS

(出典) 筆者作成。

ファン活動の種類について調べるために、アイドルが新規曲を公表したとき（以下、カムバック¹と称する）した時行うファン活動について聞いた結果、インタビューに答えた18人が共通して答えたのは「ストーリーミング」と「アルバム購買」だった（グラフ1）。その他にも公開放送およびファンサイン会応募、音楽番組視聴、SMS投票などの応答があったが、皆から共通して出てきた返事は「ストーリーミング」と「アルバム購買」の2種類だけだった。したがって、本論文ではK-POPが好きなファンの最も基本的な活動を「ストーリーミング」と「アルバム購買」に定め、重点的に分析する。

¹ アイドルが休憩期から戻って来たという意味。



グラフ 1 アイドルがカムバックした時のファン活動（複数回答可）

（出典）筆者作成。

Ⅲ 競争心理をあおる仕組み ストリーミングチャートと市場操作

1. ファン活動としての「ストリーミング」

ファン活動としての「ストリーミング」という行為について調べるため、インタビューに応じたファンに「ストリーミング」を説明してほしいと要請した。これらの回答を集め、意味を持った最小単位である形態素別に分類した後、高頻度で登場する単語を並べると次の結果が得られた。これらの分析には韓国のデータ分析専門企業「NEWSJELLY」が開発し、ウェブ上に公開している「形態素分析」ツールを利用した。

表 2 ストリーミングについて説明した文の形態素分析結果

順位	単語	頻度
1	音源	16
2	順位	14
3	再生	9
3	繰り返す	9
5	歌	7
5	する	7
5	チャート	7

（出典）筆者作成。

また、同じ意味を持つ「上げる、上がる、高める、高い」の登場頻度を合わせると計10回で、3位の「再生、繰り返す」より多く登場する。高頻度で出現した単語だけで、ファン活動としての「ストリーミング」を定義すれば、「歌を繰り返し再生して、音源チャー

トの順位を高めること」と言える。一般的に大衆が歌を聞く時、高い順位の曲を探して聞く場合はあるが、特定の曲の順位を高めるために歌を繰り返して聞く場合はほとんどないだろう。そのような面で、ファンの「ストリーミング」は一般的に歌を聴く行為とは明確に区分される「ファン活動」の一つといえる。

では、ファンはなぜストリーミングをするのだろうか。筆者はこれまでの経験を踏まえて、想定される理由の選択肢を作った後、インタビューに応じてくれたファンに最も大きな理由と2番目に大きな理由を選ぶように依頼した。「最も大きい理由」として選ばれた場合2点、「2番目に大きい理由」を選ばれた場合1点を付与し、その結果を順位で表すと次のようになる。

表 3 ストリーミングをする理由

順位	回答	合計点
1	音楽番組で1位になるため	20
2	音源チャートの順位を上げて歌を広報するため	16
3	皆が実施しているため	6
4	ファンなら当然ストリーミングをしなければならにため	3
5	歌がいいため	2
5	時間が余ったため	2
5	ストリーミングイベントに参加するため	2
8	ストリーミングしなければ不利益があるため	0

(出典) 筆者作成。

音源チャートで高い順位を記録した曲が音楽放送で1位になるため、1位の回答と2位の回答はある程度共通した部分がある。つまり、ファンは主に音源チャートの順位を上げ、好きなアイドルを音楽番組で1位にするためにストリーミングをしていると言える。また、どのファンもストリーミングをすれば不利益があると答えなかったにもかかわらず、彼らは自発的にストリーミングをしているという点も分かった。

2. ストリーミングチャートの仕組みとファンの役割

「ストリーミングチャート」とは、ストリーミングアプリの中の「TOP100」のようなリアルタイム音源チャートを意味する。通常1時間単位で累積された音源消費量²を合算してチャートに反映する。現在、大衆が多く聞いている歌、流行している歌を知らせるために作られたこのチャートはアイドルファンには特に重要であるが、それはまさに「賞」の

² 音源ダウンロード数+ストリーミング回数。

ためだ。

韓国には様々な音楽番組が放送されているが、その中でもファンが大切にしているのは火曜日から日曜日まで、1日に1本ずつ、計6本ある放送である。この放送は新規アルバムを発売したアイドルたちが一回のカムバック³あたりで、約3週間出演するのが一般的だ。ファンにこの放送が重要な理由は、放送ごとに毎週独自の順位を作り、1位をした歌手にはトロフィーを授与するためだ。この「独自の順位」を構成する方式は、放送ごとに少しずつ異なるが、デジタル点数、放送点数、SNS(ミュージックビデオ)点数などを合算するのが一般的であり、放送により事前投票や放送中行われるメッセージ投票あるいはパッケージアルバム販売量が反映される場合もある。

表 4 各音楽番組の点数反映比率 (2025年1月時点)

項目	THE SHOW (TUE)	SHOW CHAMPION (WED)	M COUNT DOWN (THU)	MUSIC BANK (FRI)	SHOW CORE (SAT)	INKIGAYO (SUN)
音源	40	35	50	60	50	55
アルバム	10	15	15	5	10	10
ミュージック ビデオ	20	10	10	5	10	30
放送 ⁴	15	20	10	20	10	10
事前投票	5	X	15	10 ⁵	10	5
リアルタイム投票	10	20	10 ⁶	X	10	5

(出典) 筆者作成。

重要なことは、すべての放送で最も高い割合で反映される点数が「音源点数」、すなわちストリーミング点数ということだ。他の点数に比べて少なくは2倍、多くは5倍程度多い割合で反映されるストリーミング点数は、複数のストリーミングチャートの結果を反映するようになっている。言い換えれば、自分が好きなアイドルを1位にしたいなら、ファンが最も重要に考えなければならないのが他の点数でもなく、ストリーミングチャートだということだ。

³ 歌手がこの前の活動以降の休養期を終わらせ、新しいアルバム（曲）を発表すること。アイドルだけでなく、アーティストでも使われる。

⁴ 音楽番組が放送される放送局のプログラムやラジオにどれぐらい出演したか。

⁵ 視聴者委員会5%+アプリ事前投票5%。

⁶ 1位候補2チームだけ。

3. 「総攻」活動の実態

ファンは本人が好きなアイドルの歌をストリーミングチャートの高い順位にすることを通じて、音楽放送で賞を受けられるようにする。ファンは組織的で体系的な活動を通じて効率的にファン活動をするが、ストリーミングに関する一連のファン活動を「総攻」と呼ぶ。大部分のアイドルファンダムには各グループの「総攻チーム」が存在する（図1）。



図 1 韓国アイドルグループの音源総攻チーム例（SVT, AESPA）

（出典）X（旧TWITTER）、筆者キャプチャー。

これは事務所や公式ファンクラブで管理するチームではなく、ファンが自発的に、本人のアイドルのために作るチームである。通常、Xを中心に活動し、このアカウントを生成した人は本人がファンであることの証拠⁷を通じて人々の信頼を得る。この総攻チームは一人で運営できる規模ではなく、総括担当以外にも会計やデザイン、翻訳、アカウント管理などの色々な分野で人々を募集することが一般的である（図2）。このように募集された人たちはファンであることの証拠を提出して応募し、選ばれる。インタビューに応じたファンもまた、この総攻チームを認知しており、彼らに従っている。音源総攻チームに従う理由について、17人のファンは共通して彼らが最も効率的であるためだと答え、一部は彼らが信頼できる認証されたファンであり、自分が音源を聞いた回数が音源成績に反映されない事故を防ぐためだと追加的に答えた。

アイドルはカムバックする前、記事などで時期を発表する。カムバックが予告されれば、総攻チームの活動が始まる。最初に募金とヘルパーの募集が始まる。募金の場合、総攻チームによって四半期ごとに募金を受ける場合とカムバックごとに募金を受ける場合があり、二つの募金は時期の違いにだけで、他の活動に大きく影響を及ぼさない。集まったお金はカムバック後、本格的なストリーミング活動が始まった時、タイトル曲の有料音源ダウン

⁷ ストリーミング回数、アルバム購買履歴、過去のコンサートチケットなど

ロードまたはストリーミング奨励イベントの商品購入などに使われる。ヘルパーの場合、大多数のグループがカムバックごとにヘルパーを募集する。ヘルパーもまた、本人がファンであることの証拠を提出して支援しなければならないが、総攻チーム自体の募集よりはその基準が厳しくない。

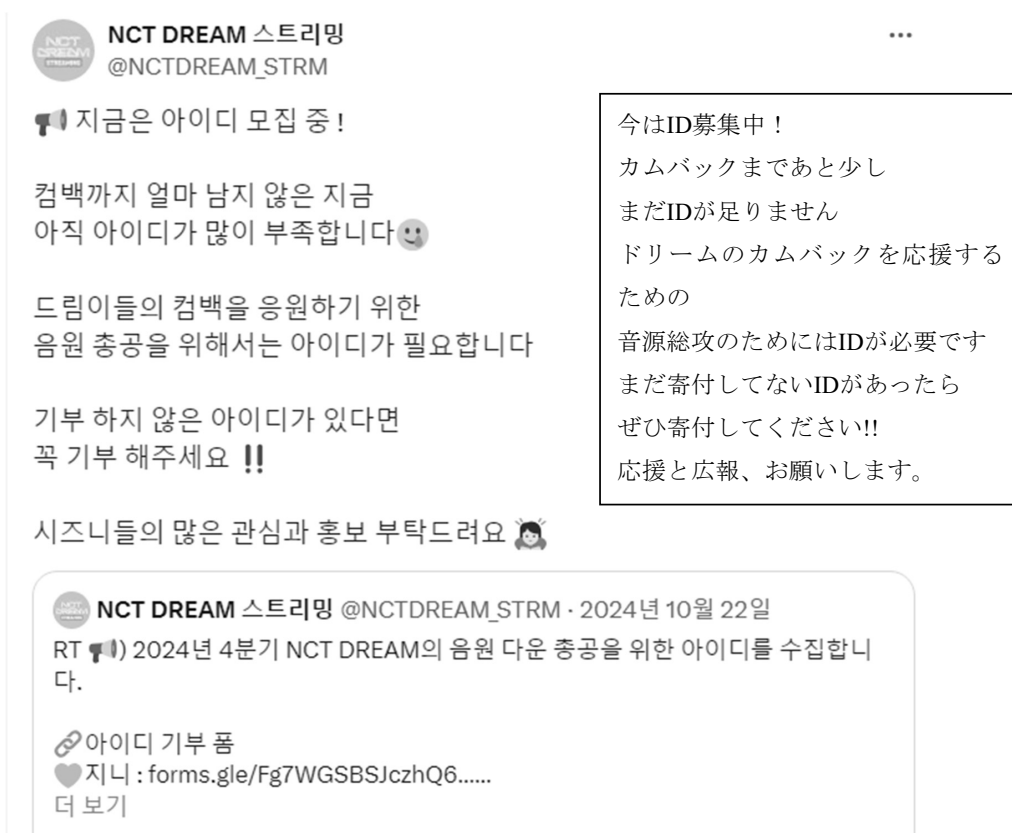
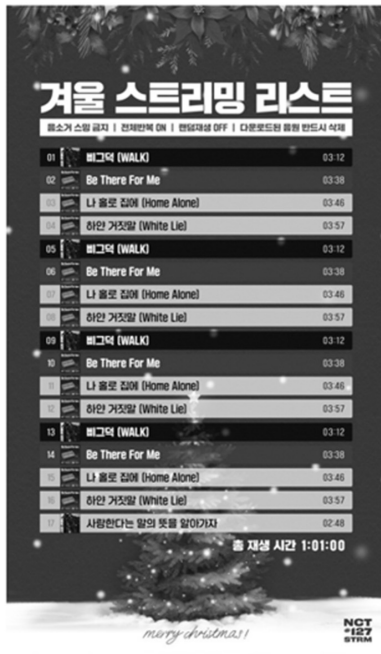


図 2 韓国アイドル総攻チームのID募集文 例 (NCT DREAM)

(出典) X (旧TWITTER)、筆者キャプチャー。日本語は筆者翻訳。

募金とボランティアの募集が始まると、同時に「ストリーミングサイトID募集」が始まる。募集されたストリーミングサイトのIDは、カムバック後、ヘルパーがログインし、音源をダウンロードする行為を繰り返す。ストリーミングサイトのIDを募集することは、総攻チームの最も大きな課題であり、目標値の達成が最も難しい分野でもあるが、一人当たり生成できるIDの数に制限があるためである。音源ダウンロードのためには有料決済機能を使用できなければならず、そのためには必ず「本人認証」手続きを経なければならない。現在、韓国の大部分のサイトでは一つの名義で三つのIDを作ることができ、人々

は本人が使用するアカウント以外に、他の追加アカウントを生成して総攻チームに寄付する。カムバック前日まで総攻チームは目標値を達成するため、繰り返し寄付現況をアップロードし、人々を督励することになる。



ウィンターストリーミングリスト

音量0禁止・全体繰返ON・ランダム再生OFF・ダウンロード音源は必ず削除

黒い曲：この前発売されたタイトル曲
赤い曲：今回発売されたタイトル曲
白い曲：今回発売されたアルバムに収録されたタイトル曲以外の曲

総再生時間 1:01:00

図 3 ストリーミングリスト 例(NCT 127) (写真=X @NCT127STRM)

(出典) X (旧TWITTER)、筆者キャプチャー。日本語は筆者翻訳。

募金とヘルパー、IDの募集に集中していると、すぐにカムバック当日が近づいてくる。カムバック当日は総攻チームにとって最も重要な日であり、最も忙しい日である。まず音源が公開されれば、総攻チームは1時間以内に「ストリーミングリスト」を作成する。ストリーミングリストとは、ファンが最も効率的にストリーミングを回すためのプレイリストを意味する。すべての曲が漏れることなく、きちんとチャートに反映されるためにタイトル曲⁸は2回以上入り、総再生時間が1時間前後になるように調整する。作成されたプレイリストは、総攻チームの公式SNSアカウントにアップロードされ、ファンはこのリストをそのまま繰り返し再生することで本格的な「ストリーミング」を始める。再生する際にもいくつかの条件があり、再生している機器の音量を0にすること、ランダム再生、ダウンロード（オフライン保存）されている音源で再生することは禁止されている。

⁸ アルバムで最も重要な曲。

ストリーミングリストの作成と配布が終われば、本格的なヘルパー活動が始まる。ヘルパーたちは募集されたIDでログインして音源をダウンロードする。音源を1回ダウンロードするのが、音源を1回再生するより高い点数で反映されるため、ヘルパーたちはダウンロード行為を繰り返すことになる。しかし、同じアカウントで複数回の音源購買(ダウンロード)は不可能なため、主に「音楽プレゼント」機能を利用して他のヘルパーのIDに音源をプレゼントし、ダウンロードすることを繰り返す。⁹

アイドルが音楽番組に出演する期間中、このストリーミングチームの活動は続く。ストリーミングチームは1時間ごとに、ストリーミング推移をアカウントにアップロードして督促し、誰でも参加できる「ストリーミング認証イベント」を進行することで該当のアイドルファンだけでなく他の人々も新曲を聞いてもらう。

ストリーミングチームの活動はアイドルの最後の音楽放送を基点にしばらく休息期に入り、休息期間中には募金した人々に精算内訳を公開したり、次のカムバックに備えてチーム員を補充するなどの活動をする。



図 4 活動募金精算 例 (NCT127)

(出典) 筆者キャプチャー。

⁹ プレゼントされた音源をダウンロードすることには回数制限がない

このように複雑な段階を持ったストリーミング総攻は、ファンでさえ「面倒だ」と感じる。実際に、インタビューに回答した17人のうち14人のファンはストリーミングが「面倒で大変だ」と答えた。インタビューでは、ストリーミングがうまく作動しているか一時間おきに確認しなければならず、聞きたい歌があるにもかかわらず聞けず、普段あまり使わない音源サイトをわざと決済しなければならないため、面倒だと感じると答えた。このようなストリーミングはしないからといって不利益があるわけでもなく、義務でもないが、ファンは義務感を感じて誠実に行っている。インタビューで「義務感を感じる」と答えたファンは、その理由に関して多様に答えたが、ファンダムの中で自主的に「ストリーミングをしなければファンではない」という雰囲気を作るため、ほとんど強要に近いと言えるという回答が多かった。

専門家たちは、総攻文化に対する批判的な態度を長い間見せてきた。総攻文化、ストリーミングを完全な不法と見なすことはできないが、韓国で一時期問題となった「買いだめ」について研究したイ・ミナ(2020)は、次のように述べている。

「総攻文化は特定歌手が好きなファンダムの自発性に基づいた文化であり、不法とは言えないが、自然に音楽を聴く行為とはその性格が異なるため、組織的な介入といえる。」

このような総攻文化ができてから、人々がよく知っている「タイトル曲」以外にもアルバムに収録されたが、ファン以外にはあまり聞かない「収録曲」がチャートに多く進入するようになった。このような現象はますます激しくなり、少数のアイドルグループがチャートの過半数を占めるに至った。この現象を「チャートの並び替え」とも呼ぶ。

4. 業界の対策—MELONの取り組みとその限界

関連業界も「総攻」に気づいていた。「チャートの並び替え」を防ぐために政府とストリーミングサービス会社は今まで数回の改善を経てきた。MELON¹⁰は、これまで5回の改善を通じて現在のチャートを構成した。

表 5 MELONチャートの変化

時期	変更内容
2017.02.27	チャート反映時間改善
2018.07.11	ライブチャート凍結
2020.07.06	「24HIT」チャート導入
2021.01.25	「最新 24HIT」チャート導入

¹⁰ 韓国の最も代表的なストリーミングサービスの一つであり、ビルボードのような世界的なチャートでメロンチャートを反映しているため、本研究ではMELONの例を挙げる

2021.08.09	「TOP 100」チャート導入

(出典) 筆者作成。

過去にはほとんどの音源が午前0時（0時）に発売された。発売した時間に関係なくチャートに反映されたため、最大限多くの一曰累積ストリーミング回数を作ることができた。それだけでなく、比較的一般利用者が少なく、ファンの利用が多い夜明け時間帯に音源を発売することにより、最初から高い順位に進入し注目を集めることができるという利点があった。これに対し、政府は2017年2月27日、チャートの反映時間を12時から18時までに制限した。12時から18時までの間に発売された音源に限り、リアルタイムで反映され、その他の時間に発売された音楽は次の午後1時にストリーミングチャートに反映された。過去の慣例どおり午前0時に音源を発売することになれば、午前0時から午後1時まで、13時間のストリーミング回数は全て死票になることになる。したがって、事務所では正午または午後6時に音源を発売する比率が多くなったが、その中で退勤や下校と重なって音源使用量が突然増加する午後6時の比率が圧倒的に高くなった。

しかし、この制限は大きな効果がなかった。最初の登場順位は低くても総聴取者数が少ない夜明けになれば、ファンダムの影響でアイドル音源はチャート上位圏を占めることになるのだ。そこで2018年7月11日、MELONは1時から7時までの間のチャートの運営を停止する、「ライブチャート凍結」を実施した。

2018年韓国では、アイドルファンダムのチャート順位だけでなく、後述する連鎖音源買いだめの余波により、リアルタイムチャートの問題点が大きく注目された。したがってMELONはストリーミングチャートの大きな改善を予告し、その結果2020年7月6日、登場したのが「24HITS」チャートである。最近24時間を基準に集計するものの、1時間ごとアップデートされるチャートである。しかし、最近24時間で集計した結果、発売されたばかりの新曲には非常に不利だという大きな短所があった。

この問題を補完するため、翌年1月24日には追加で「最新24HITS」チャートを導入した。このチャートは発売1週あるいは4週の新曲だけで構成されるチャートで、一般24HITSチャートと同様に最近24時間の成績を基に集計される。このチャートのおかげで新曲もある程度チャート入りできるようになったが、メインチャートである24HITSとは別の、付属チャートというイメージが強く、まだ新曲の不利な問題が完全に解決されたとは見られなかった。

これに対し2021年8月9日、24HITSを廃止し、新しく「TOP100」チャートが導入された。このチャートは最近24時間利用量と1時間利用量を同等の割合で合算したチャートで、最新データを反映して新しく出た音楽をより速く、多く反映することを目標にした。総利用者が少ない時間のファンダムによるチャート歪曲を防ぐために深夜と早い午前の01時~07時には最近24時間利用量を100%反映したチャートを反映した。このチャートがまだ維持

されているMELONのメインチャートである。

5. 今後の対応 政府の強い規制による競争緩和

イ・ミンア(2020)は、ファンの買いだめに対する解決方を研究した論文で政府の積極的な介入が重要だと主張した。ストリーミングに関する行為を全て管理することは現実的に難しく、制限したとしても、管路および調査するためには多くの個人情報が必要で莫大な時間もかかる。

筆者は具体的に、政府が「ストリーミングサービス会社」側に介入し、今のチャートを順位のないチャートに変化させる必要があると考える。ファンの目標は単純にチャートに歌を進入させるのではなく、「高い順位」を獲得させることだ。順位が高くてこそ音楽放送でさらに高い点数を受け、アイドルを1位にすることができるためである。このようなシステムがファンにとって過熱したストリーミング文化、すなわち総攻を作っているのだ。

しかし、ストリーミングチャート自体を廃止することは望ましい選択肢ではないと考える。ストリーミングチャートの本来の趣旨は現在人々が多く聞いている音楽を共有することであり、このチャートはアイドルだけでなくアーティストの重要な収入源の一つであるからだ。

ファンにとって、曲をチャートに進入させるのは難しいことではない。しかし、元々大衆が聞いていた認知度の高い曲を抜いて、高い順位に進入させるために「総攻」活動をしている。もし、ストリーミングチャートの順位がなくなれば、ファンはチャートに進入させた後にこれ以上できないことがないため、今のような過熱した総攻活動をする必要がなくなる。代わりに、の動画ストリーミングサイトでミュージックビデオを再生したり、ラジオに歌を応募したりしながら行為で他の分野を攻略し、音楽放送で高い点数を得られるように努力するだろう。順位のないストリーミングチャートは過熱したストリーミング文化を解消するだけでなく、ストリーミング以外に他の音楽産業全体の循環をもたらすことができる。

インタビューに応じたファンは、このようなアイデアに対して大部分肯定的な反応を示した。一部では、「いくら順位をなくしても、すでに過熱しているK-POPファンダムを落ち着かせるのは難しいだろう」という否定的な見方を示した。しかし、大部分のファンは順位をなくすことが順位に対する執着を低くし、ストリーミングに対する負担感もまた低くできると答えた。

しかし、ストリーミングチャートの順位をなくすということは、これまで長い時間行われた慣例をなくすことである。音楽放送だけでなく、年末にその年に最も愛される曲を選ぶアワードなどのシステムも、全て修正する必要があるだろう。また、ストリーミングサービスを提供している会社は、今のように順位を維持のあるチャートで人々の競争を通じてより多くの利益を得ることができるため、順位を廃止することはできないだろう。した

がって、政府が強力に会社側に介入し、これまでのシステムを変える必要があると思われる。

IV 過剰マーケティングによるパッケージアルバムの環境問題

1. ファン活動としての「アルバム購入」

「アルバム販売量」はどんなアイドルにとっても重要な数字である。ストリーミング回数は一般人が正確に知ることができないため、ストリーミングチャートで推測するだけだが、アルバム販売量はその数字が正確に、1時間ごとに表示されるためだ。すなわち、アルバム販売量は該当アイドルの人気を最もよく示す客観的な指標とも言える。したがって、アイドルがカムバックすれば、ファンは外食の代わりにお弁当、タクシーの代わりに電車を利用してお金を節約し、代わりにアルバムを一枚でも多く買おうとする。

最近のファンはアルバムを1枚だけは買わない。同じ歌が収録されたアルバムであるにもかかわらず、アルバムのバージョン¹¹ごとに1枚ずつ購入する等、様々な理由で数十、数百枚のアルバムを買うこともある。買いすぎたアルバムは結局どうなるのか。



図 5 渋谷に捨てられたSEVENTEENのアルバム

(出典) Xより。

上の画像は2024年4月29日、渋谷で撮影したものである。韓国の有名アイドル、SEVENTEENの新規アルバム「17 IS RIGHT HERE」が渋谷の街に箱のまま置かれていた。箱には「自由にどうぞ」と書いてあり、残されたアルバムは結局渋谷の路上に捨てられたと伝わっている。韓国でも買いすぎたアルバムを保管できず、ゴミになってしまい、環境問題につながっている。なぜファンは同じ内容のアルバムを必要な数以上買うのだろう。

¹¹ 各バージョンに収録されている曲は同じだが、写真や構成品が違う

実際にファンがどれだけアルバムを購入するのか詳しく知るために、インタビューに応じた人々にアルバム購入数について質問した。

表 6 アルバムの購数

回答者	回答	回答者	回答
A	バージョン別に 1 枚ずつ、フォトカードが気に入ったら 3 枚以上	J	バージョン別に 1 枚ずつ、バージョンが多いなら 3~4 種くらい気に入ったもので
B	気に入ったら買う	K	20 枚
C	バージョン別に 1 枚ずつ、フォトカードが気に入ったら 3 枚以上	L	40 枚
D	バージョン別に 10 枚以上	M	3 枚
E	バージョン別に 3 枚程度	N	バージョン別に 2 枚ずつ、フォトカードが気に入ったら 5 枚ずつ
F	バージョン別に 2 枚ずつ	O	平均 3 枚
G	バージョンを全部合わせて 9 枚	P	2 枚
H	バージョン別に 1 枚ずつ、フォトカードが気に入ったら 3 枚以上	Q	5~60 枚 以上
I	バージョン別に 1 枚		

(出典) 筆者作成。

最近、ほとんどのアイドルのアルバムは少なくとも3バージョン以上発売されるため、ファンは少なくとも3枚以上のアルバムを購入し、多くの場合50枚以上のアルバムを購入するということが分かった。このようなファンはランダム構成品を除いた他の構成品が同じであるにもかかわらず、アルバムを数枚購入する。

筆者はファンがアルバムを買ういくつかの理由の選択肢を準備し、ファンに最も大きな理由と2番目に大きな理由を選ぶように依頼した。「最も大きい理由」として選ばれた場合2点、「2番目に大きい理由」を選ばれた場合1点を付与し、その結果を順位で表すと次のようになる。

表 7 アルバムを買う理由

順位	回答	点数
1	欲しいフォトカードを取るために	27
2	初動に役立つため	11
3	アルバムを所蔵するため	9

4	ファンサイン会などのイベントに応募するため	4
5	歌を聞くため	0

(出典) 筆者作成。

回答者の中には「最も大きな理由」と「2番目に大きい理由」の両方とも「欲しいフォトカードを取るため」と答えた回答者もいた。それだけファンがアルバムを購入する最も重要な理由は「フォトカード」であるといえる。次に、「初動」と「イベント」というキーワードに注目し、本論文ではファンがアルバムを買う理由について詳しく分析し、ファンがアルバムを買う行為によって生じる問題について分析する。

2. ファンがアルバムを買う理由

(1) ランダム構成品

一つ目はランダム構成品が欲しいためである。韓国のパッケージアルバムはその構成品がかなり豪華なことでも有名だ。例えば、ソロアイドルTEAMINのアルバム「TEAMIN THE 4TH MINI ALBUM GUILTY - ARCIVEBOX」の構成品は以下の通りである（図



6)。

図 6 アルバムの構成品 例 (TEAMIN、製品広告写真)

(出典) SM ENTERTAINMENT.

表 8 アルバムの構成品 例 (TAEMIN)

アーカイブ・ボックス	ブックレット96P	歌詞集14P	CD-R
フォトカード*	ポラロイド*	カードセット	ジップブロック
領収書	プリント写真	パフシクルパッケージ	メンバーシップカード
運動靴のひも	ロゴシール		

*:ランダム仕様

(出典) 筆者作成。

このうちランダム仕様は2つ、フォトカード¹²とポラロイドで、それぞれ3種のうち1つが同封されている。すべてのファンがそうではないが、多くのファンは好きなアイドルのフォトカードを集めたがるだろう。あるファンがこのアルバムのランダム構成品を3種とも集めようとするでしょう。運良く3個を購入して全種類を揃えたとしても、必要なのはフォトカードとポラロイドだけで、CDなど残りの重複する構成品は処置が不可能な雑貨になってしまうのだ。

現在のトレンド上、折りたたみ式ポスター、ポラロイド、しおり、はがきなど色々なランダム構成品が登場しているが、ファンが一番欲しがる構成品は「フォトカード」である。このフォトカードはメンバーがランダムで、アルバムのバージョンが異なると入っているフォトカードの種類も変わる。また、同じバージョンのアルバムだとしても、フォトカードがメンバーごと2種類以上の場合もあり、購入先ごとにもらえる¹³特典フォトカードの種類も異なる。アルバムが発売され、フォトカードが公開されれば、ファンはどんなアルバムのどんなフォトカードが入っているのか、その種類を集めて「フォトカードリスト」を作り、交換先を探したりする。

¹² 日本の「トレカ」。韓国ではフォトカード、略称フォカ(pc)

¹³ 購入先ごとに1枚購入すると特典フォトカードを1枚もらえる。絵柄は選べない。



図 7 SEVENTEENメンバーHOSHIの「SEVENTEENTH HEAVEN」トレカリスト
(出典) X @STELLA_TILA.

図7は、2023年10月23日に発売された男性アイドルグループSEVENTEENの「11TH MINI ALBUM SEVENTEENTH HEAVEN」のフォトカードリストで、その中でも一人のメンバーだけまとめたフォトカードリストである。上段2行がアルバムの中に入っている一般フォトカードで、下段3行が特典フォトカード¹⁴¹⁵である。このグループの場合、メンバーが13人なので、全メンバーのフォトカードリストをまとめると下図のようになる。

¹⁴ 購入先ごとのフォトカード、ラッキードローフォトカードなどをまとめて特典特典トレカと呼ぶ

¹⁵ オフラインショップでアルバムを1枚購入するとガチャポンのような機械を1回回せ、フォトカードを1枚もらえる。「購入先ごとの特典フォトカード」は通常オンライン限定の場合が多かったが、コロナ以降、対面の販売ができるようになったからラッキードローが導入され、オフラインのみの購入先特典フォトカードが得られるようになった。



図 8 「SEVENTEENTH HEAVEN」アルバム内蔵トレカリスト

(出典) X @STELLA_TILAより。



図 9 「SEVENTEENTH HEAVEN」アルバム外蔵トレカリスト

(出典) X @STELLA_TILAより。

このような数え切れないほどの種類のフォトカードは慣行的に行われてきた。ファンからも不満の声が少なくないが、不買運動などは好きなアイドルに悪い結果を招く恐れがあ

るため容易ではない。また、アルバム販売量から見ても、本格的にこのようなラッキードロー及び購入先特典フォトカード制度が実施された2020年以降、アイドル、特に男子アイドルのアルバム販売量が大きく増加したことから¹⁶、今後もこのような慣行が続くと考えられる。

(2) 初動

初動は日本から韓国へ輸入された単語で、アルバム発売後1週間のアルバム販売量を意味する。

表 9 韓国男子アイドルグループの初動順位

順位	アーティスト	アルバム名	発売日	販売量	アルバム種数
1	SEVENTEEN	SEVENTEENTH HEAVEN	2023 年 10 月 23 日	約 509 万 1,800 枚	6
2	STRAY KIDS	★★★★★ (5-STAR)	2023 年 06 月 02 日	約 461 万 7,400 枚	5
3	SEVENTEEN	FML	2023 年 04 月 24 日	約 455 万 200 枚	6
4	STRAY KIDS	樂-STAR	2023 年 11 月 10 日	約 370 万 2,600 枚	6
5	NCT DREAM	ISTJ	2023 年 07 月 17 日	約 365 万 2,800 枚	6
6	BTS	MAP OF THE SOUL : 7	2020 年 02 月 21 日	約 337 万 8,600 枚	4
7	SEVENTEEN	SPILL THE FEELS	2024 年 10 月 14 日	約 316 万 600 枚	6
8	SEVENTEEN	17 IS RIGHT HERE	2024 年 04 月 29 日	約 296 万 7,900 枚	6
9	BTS	PROOF	2022 年 06 月 10 日	約 275 万 2,400 枚	3
10	NCT DREAM	DREAM()SCAPE	2024 年 03 月 25 日	約 246 万 700 枚	5

(出典) 筆者作成。

初動は総販売量よりも重要な意味を持つ。総販売量の場合、集計するのに短くて数ヶ月、長くて数年かかる。アルバムが絶版にならない以上「総販売量」の集計は事実上不可能だ。したがって、集計しやすくするため、販売量が集中される発売1週間の販売量を集計する。各種アワードで1年のベストアルバムを選定する際、初動は重要な指標として使われている。

初動は業界関係者にとっても、ファンにとっても他の数字よりも重要視される傾向がある。初動がすなわちアイドル人気の尺度、ファンダムの大きさを意味するためだ。したが

¹⁶ 5-3で後述

って、事務所もファンも初動を上げるために様々な方法を取っている。その一つに、5-4で述べるイベントの多くは初動集計期間に応募を受け付ける。確実に販売量が初動に反映される予約販売期間からイベント応募を始め、初動集計終了と同時に応募を締め切る場合が多い。

また、アルバムの種類を増やすことも初動のための戦略だともいえる。上の表は韓国の男性アイドルの初動、上位10アルバムのリストと発売されたアルバムの種類数をまとめた表である¹⁷。BTSを除いてほぼすべてのアイドルがメンバーごとに各1種ランダムバージョンを発売しており、メンバーごとアルバムを1種と考えて数えても大多数が5種以上である。新型コロナウイルス前は多ければ4種だったアルバムの種類はコロナが始まって以来、5種あるいは6種、そしてメンバー別ランダム仕様まで、突然その数が増加した。これはコロナによってオフラインイベントで得られる収益が減った事務所が、アルバム販売で収益を上げようとした結果だと推測される。実際、新型コロナウイルス以後2020年代には2010年代よりはるかに多くのアルバムが販売された。韓国の男性アイドルグループのアルバムの中で初動100万以上を達成したアルバムが計39枚あるが、このうち2010年代に発売されたアルバムは3枚に過ぎない。すなわち、会社がアルバムの種類を増やすことが初動に有意義な影響を示すため、この戦略はまだ持続されると考える。

表 10 韓国アイドルの初動現状

		年度						
		2023	2022	2021	2020	2019	2018	合計
達成回数	500 万枚	1						1
	400 万枚	3						3
	300 万枚	5			1			6
	200 万枚	8	3		2	1		14
	100 万枚	16	9	4	3	1	1	34
	合計	33	12	4	6	2	1	

(出典) 筆者作成。

なお、ファンダム的にも初動を重視する風潮が作られている。初動集計期間中のフォトカードの金銭取引（買取）は暗黙的に禁止されている。本人がアルバムを買って直接取ったフォトカードを交換することは構わないが、お金を払って譲渡することが禁止されているのだ。これはフォトカードを買うためのお金でアルバムを購入するのが初動にさらに役

¹⁷ レコード販売量集計会社である「ハンターチャート」をベースに作成され、音楽番組やその他のアワードでもハンターチャートの資料を参考に点数を算出するため、アイドルファンがよく利用するチャートである

立つため、生じた風潮である。アイドルがカムバックすれば、初動集計期間にSNSでは、あるファンが初動推移グラフを引用しながら他のファンがアルバムを購入するよう督促するポストがよく見られる。また、ファンは本人がどれだけ多くのアルバムを買ったかを誇らしくSNSに載せ、アルバムを多く購入するほどより大きな愛を持っているように映ったりもする。すなわち、アルバム購買がファンという証拠になり、このような雰囲気もファンが数枚のアルバムを購入するようにする。

(3) イベント応募

ファンが数枚のアルバムを買う2つ目の理由は、イベントに応募するためだ。イベントと言えば、大きく分けて対面イベントである「ファンサイン会」とオンラインイベントである「ビデオコール」の2種類があり、2種類ともアルバム1個購入当たり応募券1枚を得ることができる。イベントが開催される回数はアイドルごとに、事務所の規模によって大きく差があるが、女性アイドルグループ「TRIPLES」の場合、「(KR)YSTALEYES」活動当時、100日間サイン会36回、ビデオコール43回を開催したりもした。

好きなアイドルに寄り添い、会話できるこのイベントは、ほとんどのファンにとって夢のようなものだ。したがって、ファンはイベントに行くために同じアルバムを数十枚、数百枚買う。イベントの抽選方式としては純粋に抽選である「手抽選」方式と、購入数順で選抜する「機械抽選」方式がある。新型コロナウイルス感染症の前にも「手抽選」である購入先より「機械抽選」である購入方式がより多かったが、最近はほぼすべての購入先が「機械抽選」で選抜する。特に、オンラインで応募するビデオコールの場合、いずれも「機械抽選」と考えても差し支えない。たまにSNSなどに1枚だけ買ってイベントに当選されたというファンがいるが、普通100人選抜するとすれば、99人は「機械抽選」で、1人を「手抽選」で抽選し、その「1人」が当選したファンである。

これに「ファンサカット」という単語が新しく登場したが、これはファンサイン会とカットラインの合成語で、簡単に言えば安全にファンサイン会に当選されるためのアルバムの枚数を意味する。ファンサカットは会社や運営店舗で公開するものではないが、ファンは長年の経験からファンサカットを推測する。

ある程度認知度がある男子アイドルの新型コロナウイルス感染症前のファンサカットが70~80枚だったのに比べ、新型コロナウイルス感染症後には少なくとも100枚以上と推測されている。ファンサカットが上がった理由は大きく2つで、まず対面で行われるサイン会の人数が大きく減少したことだ。過去には一つのイベント当たり100人を抽選するのが一般的だったが、最近のトレンドは50人である。半分に減ったのに比べ、依然としてファンサイン会に行きたがるファンが多いため、その競争率が上がったのだ。二つ目の理由は、海外ファンの参戦が増えたためだ。新型コロナウイルス感染症前には主に対面のサイン会だけが行われたため、地理的制約のある海外ファンは参加できなかった。しかし、新型コ

新型コロナウイルス感染症によってサイン会の開催が難しくなり、その代替制として登場したビデオコールは、海外にいるファンも携帯電話さえあれば参加が可能だった。したがって、競争しなければならない相手の範囲が国内から全世界に広がったため、競争率が高まったのだ。

ファンサカットが知られば知られるほどさらに激しい競争をしなければならないため、ファンサカットを公開された場所で話すことは暗黙的に禁止されている。しかし、最近では様々なところで情報を集めたファンが「ファンサカット相談アカウント」をSNS上で運営しながら、有料相談をしたり、ブログに有料ポストをアップロードして購入先ごとの特徴やアイドルごとのファンサカット、外国人の比率などの情報を販売したりする。



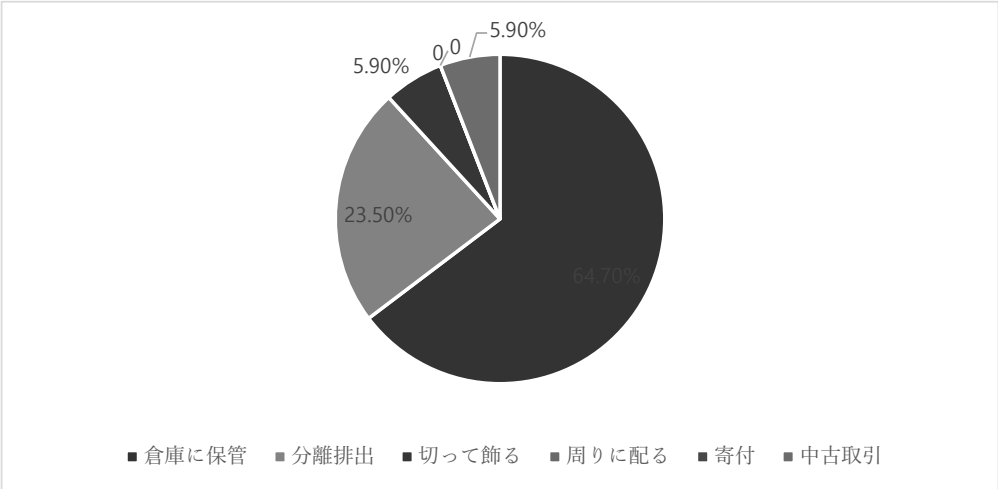
図 10 ファンサイン会を開催するサイトの情報を販売しているブログ
(出典) POSETYPE、筆者キャプチャー。

3. ゴミになるアルバム

様々な理由で多くのアルバムを購入したファンは、そのアルバムをすべて保管できない。過去には買いすぎたアルバムを保育施設などに寄付したりもしたが、保育施設でも必要ないアルバムが多くなり、拒否声明を出したりもした。したがって、最近、保管できなかったアルバムは捨てられるようになったのだ。

しかし、アルバムをリサイクルするのは非常に難しい。構成品のうち、紙でリサイクルできない両面コーティングが多いためだ。気候危機とゴミ問題解決のための消費財包装解剖を主題とする韓国日報で企画「ゼロウエスト実験室」ではK-POPアルバムを解剖し、リサイクル可能かどうかを調べた。記事によると、ほとんどのフォトカードの場合、両面ビニールコーティング紙を使用するためリサイクルが不可能だ。ビニールコーティングでは

なく一般紙でも、段ボールでリサイクルされる染色用紙と新聞紙でリサイクルされる印刷用紙の使い分けが難しく、リサイクル品の品質を下げているという。



グラフ 2 余ったアルバムの処理方法
(出典) 筆者作成。

実際に国会環境労働委員会のウ・ウォンシク議員が環境部から提出された資料を分析して公開した情報によると、2022年国内アルバム製作会社のプラスチック、紙パック、合成樹脂、フィルムなど廃棄物およびリサイクル発生量が801.5トンであることが明らかになった。2017年に比べ14倍も多くなったにもかかわらず、専門家たちはこの集計より多くの量の廃棄物があると推測している。韓国の代表的な事務所の一つである「HIVE ENTERTAINMENT」が2022年に公開した持続可能な経営報告書では、1年間包装と製品に使われたプラスチックだけで894.6トンだと明らかにした。韓国の現政策では、こうした環境問題に対して廃棄物負担金¹⁸とEPR¹⁹分担金の2つの政策で「ごみ税」を徴収している。実物アルバムに関連したゴミ税は大部分プラスチックに賦課される。韓国の有名事務所が4年間納付した「プラスチックごみ税」は表11のとおりだ。

表 11 韓国の有名事務所が4年間納付した「プラスチックごみ税」

	CD など廃棄物負担金	一部包装材 EPR 負担金 (生産者責任リサイクル活用制度)

¹⁸ 廃棄物負担金はリサイクルが難しい物を作ったり、輸入した業者に廃棄物処理にかかる費用を負担させる制度。

¹⁹

年	プラスチック重量(T)	負担金	出庫量(T)	負担金
2018	145	199 万 2 千円	185	197.48 万円
2019	136	216.8 万円	204	275.71 万円
2020	225	490.47 万円	260	347.07 万円
2021	478	1080 万円	387	717.74 万円
合計	984	1914.58 万円	1036	1538 万円

(出典) ハンギョレ新聞。

資源の節約とリサイクル促進に関する法律施行令第11条により、プラスチックを材料として使用して製造された建築用以外のプラスチック製品の廃棄物1KG当たり負担金は150ウォン（約2円）に過ぎず、年間売上高10億ウォン（約1億円）または年間プラスチック使用量1万KG以下の製造業者に対しては負担金を減免する。それに比べ、サークルチャート²⁰の資料によると、過去4年間のアルバム販売量は大きく増加し、2019年までは2500万枚だった販売量は2020年4170万枚、2021年5708万枚と前例のない販売量を記録した。すなわち、事務所では、アルバム販売で得ている利益に比べて環境のための税金として払う金額が途方もなく少ないということだ。

4. エコアルバム「プラットフォームアルバム」の登場と限界

気候危機に対抗するためにK-POPファンが組織したプラットフォーム「K-POP 4 PLAN ET」では過去「死んだ地球にK-POPはない」キャンペーンの一環として持続可能なK-POPに対するアンケート調査を実施した（図11）。彼らが公開した結果によると、環境にやさしいK-POPを作るために「事務所」が最も多く変化しなければならないと答えた人が95.6%であり、K-POP産業が気候危機に関心を持って気候行動を取らなければならないということに同意した人は88.9%であった。

²⁰ 韓国音楽コンテンツ協会が立ち上げた韓国の公認音楽チャート。日本のオリコンチャートみたいなチャートで、各音楽アワーズや番組にデータを提供している。



図 11 K-POP 4 PLANETサイト

(出典) 筆者キャプチャー。

無論、事務所も環境問題に気づいていた。エコアルバムとも呼ばれる「プラットフォームアルバム」を発売したのだ。プラットフォームアルバムとは、アプリケーションにアクセスしてNFCやQRコードを通じてアルバムを楽しめるアルバムである。歌だけでなくアルバムに収録されている歌詞、写真、さらにはミュージックビデオまで鑑賞でき、実物で提供されるCDはない。プラットフォームアルバムの元祖は2014年に発売された「KIHNOアルバム」だが、本格的に環境に配慮するESG経営のための対策として発売し始めたのは2022年からだ。2022年1月18日に発売された男性アドルグループVICTONの3枚目のシングルアルバム、「CHRONOGRAPH」は、音楽を鑑賞できるQRコード、ファンが欲しがる構成品であるメッセージカードとフォトカードだけを発送する形の「METAアルバム」の形で発売された。価格は一般的なアルバム価格の半分であり、希望するファンに限って実物アルバムの購入も可能な形で製作された。その後、WEVERSE COMPANYの「WEVERSEアルバム」、SM ENTERTAINMENTの「SMINI」など、2022年からは名前と形だけが少し異なるプラットフォームアルバムが多数登場した。



図 12 プラットフォームアルバム「WEVERSEアルバム」例 (NEW JEANS)

(出典) WEVERSE STORE.

しかし、親環境マーケティングの一部であるプラットフォームアルバムが偽装環境主義、すなわち「グリーンウォッシング」であるという指摘もある。実際に事務所は現在プラットフォームアルバム「だけ」発売するのではなく、既存の方式どおりいくつかの種類の一般アルバムを発売した後、追加でプラットフォームアルバムを発売している。当然、アルバムの種類が異なるため、同梱されているフォトカードの種類も異なる。言い換えれば、ファンにとっては環境にやさしいアルバムの登場というよりは、ただフォトカードのために買わなければならないアルバムの種類が増えただけなのだ。

インタビューに応じたファンの中で11人はプラットフォームアルバムが環境に役立つと答え、6人は役立たないと答えた。役に立つと答えたファンは、CDと内紙が少ないため、確実に他のバージョンのアルバムに比べれば、排出されるゴミが少ないためだと答えた。逆に役に立たないと答えたファンたちは、事務所が収益創出のために既存アルバムに追加でプラットフォームアルバムを生産しており、フォトカードの種類も違うために結局追加でアルバムを購入するのだけであるため役に立たないと答えた。

5. 環境対策—生産者としての責任あるマーケティング

アルバムを購入する人々を制限して、捨てられるアルバムの数を減らすことは現実的に不可能であろう。全国各地、オンラインおよびオフラインで販売されるアルバムの数を制限できないだけでなく、このような政策は後にアルバムが暗黙的にプレミアム価格で引きされる現象を呼び起こすかもしれない。したがって、政府と事務所の措置でこのよう

な問題を解決するために努力しなければならない。

政府レベルでは、ごみ税の新しい基準を立てる必要がある。先に述べたように、アルバムの販売を通じて得られる収益がゴミ税よりはるかに多い。無論、現在の所属事務所は今の基準に合わせて廃棄プラスチックの量を報告し、それに合わせた税金を納付しているだろう。それにもかかわらず、こういう結果が出るということで今の規制と税金を強化し、より効率的で積極的な環境保護をする必要があると考える。しかし、ごみ税の場合、エンタテインメント会社だけでなく、すべての製造および輸入業者に関わる問題であるため、このバランスを考慮した新たな規制が必要だろう。

事務所レベルでは二つの対策が考えられる。一つ目はプラットフォームアルバムへの完全な代替である。今はプラットフォームアルバムがグリーンウォッシングという批判を受けてはいるが、他のアルバムに比べて構成成分が少ないために排出されるゴミの量を減らすことができるということは事実だ。したがって、既存のアルバムにプラットフォームアルバムを追加するのではなく、すべての一般アルバムもプラットフォームアルバムに代替が可能ならば、排出されるゴミの量を減らすことができるだろう。しかし、アルバムはアルバムそのもので所蔵価値がある。現在問題になるのはアルバムを「あまりにも多く」買うことであり、アルバムを「買う」ことではない。これに、上で述べたVICTONの「METAアルバム」のような形を参考にすることができる。このアルバムは、希望する人に限って実物アルバムを購入できる形である。ファンは実物アルバムは必要なだけ購入し、残りはプラットフォームアルバムを数枚買うことでフォトカードも集めるだけでなく、各種イベントの応募および販売量を初動に反映させることも可能だったのだ。このように、エコを考えるアルバムを考慮すると、実物アルバムの受け取りをあきらめてランダム構成成分だけを受け取ることができるオプションを追加したり、すべてのアルバムの(同封されているランダム構成成分の種類が同じ)プラットフォームアルバムを発売することで、捨てられる構成成分が多いパッケージアルバムをプラットフォームアルバムに代替することができる。

このようなやり方はK-POPファンの間で長い間必要だと主張されてきた方式でもある。実際に筆者のインタビューでVICTONのMETAアルバムのような方式のアルバム、すなわちアルバムなしでランダム商品と応募券だけ受け取ることができるオプションができれば「積極的に利用する」と答えたファンが70.6%、「利用しそうだ」と答えたファンが17.6%で、過半数をはるかに越えた。

二つ目はアルバムリサイクルシステムを研究することだ。実際、アルバムをリサイクルすることは、現在、事務所で研究されている環境政策の一つだ。SM ENTERTAINMENTの2022持続可能経営報告書によると、不良であるため返品処理されてきたアルバムを回収しリサイクルするシステムを考案した。これまで不良返品または一定期間以上在庫が循環しないアルバムは販売できず焼却廃棄されたが、2022年からアルバム廃棄物を素材別に分類し、紙をリサイクルして再生紙を作るシステムを構築したのだ。このシステムは実施さ

れて間もなく、まだ正確なその効果が知られていないが、このシステムがきちんと施行されれば、その対象を拡大することも考えられる。つまり、不良返品あるいは販売不可商品だけでなく、ファンから回収したアルバムもその対象に含ませることだ。無論、一度販売したものを再び回収しなければならないという非効率的なシステムと思われるかもしれないが、過度なマーケティング戦略を通じてファンに過消費をさせた生産者として責任を負わなければならないと考える。

V K-POPファンダムの本質と社会全体の問題

結論から言えば、K-POP ファンはアイドルという「人」が好きなので、彼らの幸せを願っている。したがって、ファン活動の負担が大きいにもかかわらず、ファン活動を続けて結局疲れて去るのだ。彼らの心は自発的であるため、彼らの負担を減らすための制度整備、システムの改革が必要である。ところが、このような意見を提示した時、好きな心の程度は自ら制御できるものだという反論が出てくることもありうる。筆者はまさにこの「自ら制御」が難しいため、規制や制度整備を通じて人々の負担を減らさなければならないと主張する。

自ら心を制御できない理由について説明するために、「アイドル」に対する具体的な理解が必要だ。アイドルは歌手に分類されるが、シンガーソングライターのような歌手とはその雰囲気が少し違う。アイドルにははるかに複合的な面が要求されるためだ。その証拠はオーディション番組で簡単に見つけることができる。過去に韓国で大人気となり、複数のシンガーソングライターを輩出した「K-POP STAR」と「SUPER STAR K」という番組を見ると、参加者は予選で歌だけ歌う。楽器を演奏したり、あるいはじっと立って、歌を歌う。そして審査員たちは彼らの音楽性について評価する。それに比べて韓国の有名アイドルグループ WANNA ONE、IZONE のメンバーを選抜するためのプログラムである「PRODUCE 101」を見ると、参加者は歌だけでなくダンス、個人技、演技、容貌などを総合的に披露する。審査員でありトレーナーたちは彼らにダンスと歌だけでなく、舞台上持たなければならない態度、表情、カメラと観衆を意識する方法など、より多様な分野について教える。アイドルがデビューすれば、彼らの音楽と舞台に関連した部分だけでなく、芸能感、価値観、性格などがさらに多く見られるようになる。このようにアイドルの複合的な部分は結果的にアイドルの音楽だけでなくアイドルという「人」自体のブランディングと商品性が重要になり、ファンもアイドルという「人」が好きになる。

「人」が好きなことはゲームや映画が好きなこととは大きく差があると思う。彼らが生きている知性体であり、コミュニケーションと相互作用ができるという点だ。たとえ「ファン」という巨大な集団の一つとして交流しているだけだが、相互作用をしているということは否めない事実であり、最近ではファンサイン会やビデオ通話のようなイベント、そ

して BUBBLE というメッセージングプログラムを通じてアイドルと直接的にコミュニケーションできる機会が増えている。このような相互作用とコミュニケーションが対象に向けた愛着と好感を高めるための必須的な要素だということは、これまで多くの研究を通じて明らかになっている(イ、ユ、2016) (キム、ジャン、2023)。こうして作られた好きな感情は簡単には諦められない。それだけでなくファン活動が「結果」を重要視する活動ということも好きな心を簡単に止められないようにする要素の一つだ。正確に言えば、大変だからといって今すぐやめられなくなっている。例えば、映画や小説の場合、最後のエンディングも重要だが、エンディングに向かう過程自体にも興味を感じるコンテンツである。しかし、ファン活動の中間過程は誰が見ても「面白くない」ことだ。1枚当たり1万ウォンをはるかに超えるアルバムを数十枚購入し、購入したアルバムをまた数時間かけて開封し、好きな歌を聴けないまま同じ音楽を24時間再生し、夜明けに起きてストリーミングがまともに行われているかを確認しなければならない。体力的にも時間的にも金銭的にも決して容易だとも面白いとも言えない過程だが、このような過程があるからこそ、好きなアイドルに受賞の栄光を与え、幸せなアイドルの姿が見える。そしてその姿を見ることがファンの幸せと達成感となる。苦労の末に得る幸せと達成感は中毒的なものであるため、ファンは本人が耐えられる限界を越えても、その後にアイドルが幸せになることを知っているため、本人がそれを見て幸せになることを知っているため、その過程を止めることはできない。しかし、このように本人を酷使する「好きな心」が大きくなると、ある瞬間疲れてしまったファンは永遠に K-POP を離れることになるのだ。

アイドルを好む心を病気とは言えないが、そのため彼らが自らを制御できない場合には深刻な社会現象の一つだと考える。本論文では産業の側面で現れる客観的な問題を主に扱ったが、実はさらに多くの問題がファン活動のために起きている。代表的なのが「サイバーブーリング」だ。上述のストリーミングは、義務ではないにもかかわらずファンダムの中で自主的に義務化させる雰囲気を作っている。このような状況の中でストリーミングができないファンは X のようなファンコミュニティの中で不特定多数の人々にひどい悪口を言われたり、「ファンではない」という話を聞く。また、金銭に関わる問題も少なくない。ファンサイン会に行くために周辺の人たちに数百万ウォンに達するお金を借りて行方をくらました人に向けた告発文がコミュニティにたびたび上がってくることもあり、最近では小学生たちが本人の消費水準に合わないほどの高価なフォトカードやアルバムを購入することが問題になったりもする。

人々が何かを好む心は規制してはならないことであり、規制することもできない。したがって、人々がより健全に本人の心を表現し維持できるように体系的な規制が必要なのだ。

おわりに

本論文では K-POP、特にアイドルが好きなファンの活動についての長年の観察を踏まえて、インタビュー調査・アンケート調査を行い、その結果の分析から、K-POP ファンダムが長時間健全に維持されるようにする方案について考察した。

過剰競争の中で、好きなアイドルを有名にさせ、各種アワードで1位にさせるためのファンの努力と活動は「労働」のようなもので、結局ファンが疲れアイドルファンをやめるか可能性がある。ファンがいるからこそ、成り立つ「K-POP」の生存のためにも、持続可能で健全なファン活動を目指す必要がある。本論文ではインタビューを通じて K-POP ファン活動の代表的な種類を「ストリーミング」と「アルバム購入」と特定し、その方法と影響について調査した。ストリーミングの場合、ファンが同じプレイリストを繰り返し聞く行為は一般的に歌を聞く行為と明確に区分され、これを自然でない「組織的介入」と見る見解も存在する。このようなストリーミングはアイドルの音源の順位を高めて音楽放送でアイドルに1位を与えるために行われ、したがって順位自体をなくすことが根本的な解決策になりうる。「アルバム購入」の場合、ファンは音楽を聴くためではなくフォトカードを集めるためにアルバムを購入していることが分かった。ファンは同じアルバムを数枚購入するために処置が不可能になったアルバムは結局家に放置されたり捨てられたりし、この現象が環境汚染につながっている。したがって、政府による規制を通じて所属会社がアルバムを通じた過度なマーケティングを減らすようにしなければならず、所属会社では環境にやさしいアルバムまたはリサイクルシステムの開発を通じて生産者としての責任を負わなければならない。アイドルファン活動が社会的に取り組みなければならない問題である。

本研究が主題とした「K-POP ファン活動」の実態について先行研究がほとんどない分野だ。したがって、本研究が今後行われる研究の先行研究になりうるという点に意義がある。また、ファンのインタビューを通じて現在行われているファン活動について具体的に調査したという点に意義がある。しかし、本研究でファン活動を調査するために行ったインタビューには17人の20代女性のみであるため、彼らの意見がK-POP ファンダムを代表する意見とは言えない。彼らが長い間K-POP ファン活動をしてきたので、彼らの経験談が重要な資料になるのは事実だが、年齢や性別、好きなグループによって少しずつ変わることができるのがファン活動だ。したがって、より多くの多様な人々を対象にした調査を通じた情報収集と分析が今後の課題になるだろう。

参考文献一覧（読みのアルファベット順に掲載）

AESPA 音源総攻チーム Xアカウント [HTTPS://X.COM/AESPA_STREAM](https://x.com/aespa_stream)（最終アクセ

ス2025年1月3日)

アン・ジュンヨン、イ・スヨン (2022) 「TWITTERアイドルファンダムのタイプ別特性に関する研究:態度、主観的規範、社会的資本を中心に」『韓国エンターテインメント産業学会論文誌』16(8)、45-59.10.21184/JKEIA.2022.12.16.8.45

アジア経済(2023)「『K-POP歴代級好況』エンター4社、9ヶ月ぶりに昨年よりさらに稼いだ」アジア経済 [HTTPS://POST.NAVER.COM/VIEWER/POSTVIEW.NAVER?VOLUME](https://post.naver.com/viewer/postview.naver?volumeNo=36886223&memberNo=11466887&searchKeyword=K%ED%8C%9D%SEARCHRANK=69)
[ENO=36886223&MEMBERNO=11466887&SEARCHKEYWORD=K%ED%8C%9D%SE](https://post.naver.com/viewer/postview.naver?volumeNo=36886223&memberNo=11466887&searchKeyword=K%ED%8C%9D%SEARCHRANK=69)
[ARCHRANK=69](https://post.naver.com/viewer/postview.naver?volumeNo=36886223&memberNo=11466887&searchKeyword=K%ED%8C%9D%SEARCHRANK=69) (最終アクセス2025年1月3日)

ベ・ジョンウォン(2023)「同じアルバムを数百枚ずつ買う…『8兆Kポップ市場』を食べさせる彼ら」中央日報

[HTTPS://WWW.JOONGANG.CO.KR/ARTICLE/25139333](https://www.joongang.co.kr/article/25139333) (最終アクセス2025年1月3日)

DIGHTYブログ(2022)「大韓民国ファンダムアプリ分析」

[HTTPS://BLOG.DIGHTY.COM/TREND/?Q=YTOX-](https://blog.dighty.com/trend/?q=ytox-ontzojeoyoijr3xl3b3jkx3r5cgui03m6mzo-iywxsijt9&bmode=view&idx=13272144&t=board)
[ONTZOJEYOIJR3XL3B3JKX3R5CGUIO3M6MZO-](https://blog.dighty.com/trend/?q=ytox-ontzojeoyoijr3xl3b3jkx3r5cgui03m6mzo-iywxsijt9&bmode=view&idx=13272144&t=board)
[IYWXSijt9&BMODE=VIEW&IDX=13272144&T=BOARD](https://blog.dighty.com/trend/?q=ytox-ontzojeoyoijr3xl3b3jkx3r5cgui03m6mzo-iywxsijt9&bmode=view&idx=13272144&t=board) (最終アクセス2024年11月21日)

ファンサイン会開催サイト情報販売ブログ [HTTPS://WWW.POSTYPE.COM/@SITE123](https://www.postype.com/@site123)
(最終アクセス2025年1月3日)

ファンサイン会カット 相談 Xアカウント [HTTPS://X.COM/NNEEOONNCCUUTT](https://x.com/nneeoonnccuutt)
(最終アクセス2025年1月3日)

グ・ズレ(2019)「ストリーミング・銃攻…私たち、もうやめてくれない？」ハンギョレ
[HTTPS://WWW.HANI.CO.KR/ARTI/CULTURE/MUSIC/796137.HTML](https://www.hani.co.kr/arti/culture/music/796137.html) (最終アクセス2024年11月21日)

ハン・ユヒ (2022)「新しい趣向の共同体:アイドル-ファンダムの認定闘争」『人文コンテンツ』

(67)、127-147.10.18658/HUMANCON.2022.12.127

ハントチャート 「THE HALL OF FAME-INITIAL CHODONG RECORDS」

[HTTPS://WWW.HANTEOCHART.COM/HONORS/INITIAL](https://www.hanteochart.com/honors/initial) (最終アクセス2024年11月21日)

HYBE ENTERTAINMENT(2023)「2022 持続可能経営報告書」HYBE ENTERTAINMENT

イム・ユンジュ(2023)「K-POPグループにも『MADE IN KOREA』重要、国家自負心の上昇に寄与」

[HTTPS://WWW.KF.OR.KR/KFNEWSLETTER/MGZINSUBVIEWPAGE.DO?MGZINSU](https://www.kf.or.kr/kfnewsletter/mgzinsubviewpage.do?mgzinsubbsn=27163#:~:text=%ED%95%9C%EB%A5%98%EB%A1%9C%20%EC%9D%B8%E)
[BSN=27163#:~:TEXT=%ED%95%9C%EB%A5%98%EB%A1%9C%20%EC%9D%B8%E](https://www.kf.or.kr/kfnewsletter/mgzinsubviewpage.do?mgzinsubbsn=27163#:~:text=%ED%95%9C%EB%A5%98%EB%A1%9C%20%EC%9D%B8%E)

D%95%9C%20%EA%B5%AD%EA%B0%80%20%EC%9D%B4%EB%AF%B8%EC%A
7%80%20%EC%83%81%EC%8A%B9%EC%9D%80%20%EA%B3%A7%20%EC%9A%
B0%EB%A6%AC%EB%82%98%EB%9D%BC%EC%9D%98,%EC%A6%89%20'MAD
E%20IN%20KOREA'%EC%97%90%20%EA%B8%8D%EC%A0%95%EC%A0%81%2
0%EC%98%81%ED%96%A5%EC%9D%84%20%EB%AF%B8%EC%B3%A4%EB%8
B%A4. (最終アクセス2025年1月3日)

チョンアイン(2023)「渋谷の路上に大量に捨てられた韓国男性アイドルグループの最新
アルバム...NEWJEANS手掛けたミン・ヒジン氏の警鐘が話題に」 朝鮮日報
[HTTPS://WWW.CHOSUNONLINE.COM/SITE/DATA/HTML_DIR/2024/05/03/20240503
80020.HTML](https://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2024/05/03/2024050380020.html)

(最終アクセス2025年1月3日)

カン・シンギョ。 (2022)「コミュニケーションを消費するファンダム:アイドルファンブ
ラットフォームとファンダムの再構成」『韓国言論学報』66(5)、5-56.10.20879/KJJ
CS. 2022.66.5.001

キム・ヒョシル (2022)「『K-POPアルバムに『気候』はない』…わずか1億台の『プラ
スチックごみ税』」
[HTTPS://WWW.HANI.CO.KR/ARTI/SOCIETY/ENVIRONMENT/1062476.HTML](https://www.hani.co.kr/arti/society/environment/1062476.html) (最
終アクセス2024年11月21日)

キム・ヒョンジョン(2021)「リサイクルできない紙、プリスティックケース… K-POPアル
バムを開けてみた」
[HTTPS://WWW.HANKOOKILBO.COM/NEWS/READ/A2021103116120002479](https://www.hankookilbo.com/news/read/a2021103116120002479) (最終
アクセス2024年11月21日)

キム・インソン(2022)「『過剰消費』に陥ったK-POP文化…ファンと地球だけ『呻き』」環
境日報
[HTTPS://WWW.HKBS.CO.KR/NEWS/ARTICLEVIEW.HTML?IDXNO=697288](https://www.hkbs.co.kr/news/articleview.html?idxno=697288) (最終
アクセス2024年11月21日)

キム・ソジン、チャン・ヒョンユ (2023)「インフルエンサー-フォロワー相互作用性によ
るインフルエンサー特性の愛着への影響」『顧客満足経営研究』25 (3)、59-77
韓国コンテンツ振興院(2024)「2023音楽利用者実態調査」韓国コンテンツ振興院
国家法令情報センター(2016)「資源の節約とリサイクルの促進に関する法律施行令」
[HTTPS://WWW.LAW.GO.KR/법령/자원의_절약과_재활용촉진에_관한_법률_시행령](https://www.law.go.kr/법령/자원의_절약과_재활용촉진에_관한_법률_시행령)
(最終アクセス2024年11月21日)

イ・ヘイン(2022)「2022エンターテインメントの始まりーK-POP産業再跳躍」YUNATA RESE
ARCH

イ・ジェヨン(2023)「『BBC今年の女性』K-POP気候活動家『危機を防ぐ小さな変化が必

要』」連合ニュース

[HTTPS://WWW.YNA.CO.KR/VIEW/AKR20231124109500530](https://www.yna.co.kr/view/AKR20231124109500530) （最終アクセス2024年11月21日）

イ・ジへ、ユ・スンヨプ(2016)「SNSコミュニケーション行動に影響を及ぼす要因の因果モデル分析：SNS愛着性向の媒介効果を中心に。」『広告学研究』27(2)、291-311
イ・ギョソク（2024）「YES24、CDのない『プラットフォームアルバム』動向分析…『4年連続販売増加』」ニュースワイヤー

[HTTPS://WWW.NEWSWIRE.CO.KR/NEWSREAD.PHP?NO=994743](https://www.newswire.co.kr/newsread.php?no=994743) （最終アクセス2024年11月21日）

MELON(2018)「リアルタイムチャート営業時間変更案内」

[HTTPS://WWW.MELON.COM/CUSTOMER/ANNOUNCE/INFOMAN-NOUNCE.HTM?SEQ=565&NO=387&SINDEX=281&TITLEHEADER-CODE=&SEARCHKEYWORD=&MAXNO=674](https://www.melon.com/customer/announce/infoman-nounce.htm?seq=565&no=387&sindeX=281&titleheader-code=&searchkeyword=&maxno=674) （最終アクセス2024年11月21日）

MELON(2020)「近づく夏、リアルタイムチャートが新しく変化します」

[HTTPS://WWW.MELON.COM/CUSTOMER/ANNOUNCE/INFOMAN-NOUNCE.HTM?SEQ=743&NO=33&SINDEX=1&TITLEHEADER-CODE=N03001&SEARCHKEYWORD=&MAXNO=47](https://www.melon.com/customer/announce/infoman-nounce.htm?seq=743&no=33&sindeX=1&titleheader-code=N03001&searchkeyword=&maxno=47) （最終アクセス2024年11月21日）

MELON(2021)「MELONチャートが新しくなります」

[HTTPS://WWW.MELON.COM/CUSTOMER/ANNOUNCE/INFOMAN-NOUNCE.HTM?SEQ=921&NO=38&SINDEX=1&TITLEHEADER-CODE=N03001&SEARCHKEYWORD=&MAXNO=47](https://www.melon.com/customer/announce/infoman-nounce.htm?seq=921&no=38&sindeX=1&titleheader-code=N03001&searchkeyword=&maxno=47) （最終アクセス2024年11月21日）

NCT 127 音源総攻チーム Xアカウント [HTTPS://X.COM/NCT127STRM](https://x.com/NCT127STRM)
（最終アクセス2025年1月3日）

NCT DREAM 音源総攻チーム Xアカウント [HTTPS://X.COM/NCTDREAM_STRM](https://x.com/NCTDREAM_STRM)
（最終アクセス2025年1月3日）

オ・ヒョンジュ（2021）「アイドルファンダムの感情構造とジェンダー的特性」『韓国放送学会学術2021春定期学術大会論文集』209

音楽番組点数予測 Xアカウント [HTTPS://X.COM/KSHOWANALYSIS_](https://x.com/KSHOWANALYSIS_)（最終アクセス2025年1月3日）

SEVENTEEN 音源総攻チーム Xアカウント [HTTPS://X.COM/SVT_STREAM](https://x.com/SVT_STREAM)
（最終アクセス2025年1月3日）

シン・ユヨン(2022)「ファンダズツリーの登場とファンプラットフォームの進化」KDB未来戦略研究所産業技術リサーチセンター

[HTTPS://EIEC.KDI.RE.KR/POLICY/DOMESTICVIEW.DO?AC=0000162910&ISSUS=](https://eiec.kdi.re.kr/policy/domesticview.do?ac=0000162910&issus=)

(最終アクセス2025年1月3日)

SM ENTERTAINMENT(2022) 「THE FUTURE OF CULTURE TECHNOLOGY- 2021SMエンターテインメント持続可能経営報告書」 SM ENTERTAINMENT

SM ENTERTAINMENT(2023) 「2022SMエンターテインメント持続可能経営報告書」 SM ENTERTAINMENT

SM ENTERTAINMENT(2024) 「THE FUTURE OF CULTURE TECHNOLOGY- 2023エンターテインメント持続可能経営報告書」 SM ENTERTAINMENT

延世大学校高等教育革新院IHEI(2023) 「K-POPアルバム産業の未来を描くーECO-FANDLY」

[HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=9EGNAMLKITQ](https://www.youtube.com/watch?v=9EGNAMLKITQ) (最終アクセス2024年11月21日)

ヤン・インファ(2023) 「韓国アイドルファンダム文化研究:ファンダムの日常的文化実践を中心に」 『博士学位論文』 韓国外国語大学

コ・スンア(2022) 「VICTON 『プラットフォームアルバム』、実物アルバムとどんなのが違うか[N焦点]」 ニュース1

[HTTPS://WWW.NEWS1.KR/ENTERTAIN/MUSIC/4568523](https://www.news1.kr/entertain/music/4568523) (最終アクセス2024年11月21日)

間の音楽、魔の音楽

—日本の美的感覚がつくる伝統芸能の音楽—

“Ma”gic Music or Magical Music with Pauses:
Music in Japanese Traditional Performing Arts
Developed through Indigenous Aesthetic Sense

明治大学 国際日本学部

新村 百華

Meiji University School of Global Japanese Studies
NIIMURA Momoka

目 次

はじめに

第一章 美的感覚

- 1-1 日本の芸術と間―書道と茶道を例に
- 1-2 自然との関わりから生まれた日本的な美

第二章 宗教性

- 2-1 日本での多様な現れ方
- 2-2 武士と禅

第三章 日本の伝統芸能における音楽一能を中心に

- 3-1 能の音楽
- 3-2 その他の例

まとめ

参考文献一覧

はじめに

日本の伝統芸能の音楽は、西洋の音楽理論から考えると大変奇妙に聞こえる。なるほど、西洋の音楽理論から考えてしまうことに、まずは考えの偏りがあると言える。しかし、現代社会でよく聞かれるポピュラーミュージックの多くは、西洋の音楽理論を基準に作られている。だから、無意識にも、十二音階とそれにもとづく調性によって音を聞き分けているのである。その耳で日本の伝統芸能の音楽を聞いてみると、違和感にさいなまれる。不安定な音程をさまよう笛の音や、拍の数え方が分からない鼓の音に、不慣れな聴き手は途方に暮れるだろう。

しかし何度か聞くうちに、なんとなくその音楽に引き込まれる感覚が芽生える。長い歴史を持ち、日本を代表する芸能なだけあって、たしかに独特の美学を貫いているのである。

そのように、長い間日本で愛されてきた伝統芸能の音楽にはどのような特徴があるのだろうか。さらにその美的感覚はどのようにして生まれたのか。本稿ではこうした問いを、日本という土地で暮らしてきた人々の考えや他の伝統文化を確かめながら明らかにしたい。

以降、第一章では、茶道と書道を主軸に日本で重んじられる美的感覚について考察していく。第二章では、日本の宗教と信仰心について追究する。そして第三章では主として能の音楽について探り、それが日本独特の美的感覚とどのような関係にあるかを明らかにすることを試みる。

第一章 日本の美的感覚

1-1 日本の芸術と間―書道と茶道を例に

日本の文化・芸術の特徴を、一言で言ったらどのように表せるだろうか。文化、芸術と広い言葉では拾いきれないほど、そして一概に言えないことはあるが「日本的」と言われるものには共通点がありそうだ。

絵画、書、音楽、舞などを考えてみると、日本的なものは「間」「空白」「白」「気」といった言葉で特徴付けることができると思われる。民族音楽研究者の小泉文夫は、日本の音楽の特徴が他の日本文化のそれに即していることを以下のように示唆している。

絵画において、西洋画のような遠近法や影の描写が発達しなかったかわり、線の持つ表現力やニュアンスが特に重要視された点は、立体的な和声音楽よりも、もっぱら線的な表現に重きを置いた伝統音楽との共通点としてすぐに思い当たるところであるが、この線の持つニュアンスでおもしろいのは書道である。[中略]棒を一本横に引くにも、まずドスンと筆を置いて少し筆先をおらしたり、にじらせたりしながらその頭を大きくくし、それから一気に横に引いてとまる。そのとまった所でまた団子のように太く力を入れてから筆を上げて、初めて「一」の字ができ上がる。これも声をただ一本引きに長く引く場合と似ている。初めに必ずといえるくらい小さな装飾音がついてから、真っすぐにのび、声をとめる時にも改めて力を入れながら音を下げる。この邦楽特有の発声法もやはり音楽独自の技法と見るよりは、絵画や書道の筆の動きと関連させてみると、いっそうその美意識の性格やねらいがはっきりする。

こうして、伝統文化の他の分野と音楽との平行現象をあげていくときりがなくらいに思い出されてくる。

(小泉, p. 79)

小泉が指摘するような日本の文化芸術全体に共通する美的感覚とは、どのようなものなのか。ここでは書道と茶道を例にとって述べることにする。

書道

小泉の例にも出てきた書道について述べたい。日本の小学校では習字・書道の授業があるし、子どもの習い事でも人気がある。2023 年に学研が行った「小学生の日常生活・学習に

関する調査」では、書道は6位だった。¹手書き文化が薄まりつつある現代においてなお、字がきれいなことに価値を見いだす人が多いことがうかがえる。

しかし、習字と書道は少し違ったものである。習字はきれいな字を書くことを目指す。その一方で、書道・書はアートの感覚も入ってくるため、必ずしも字形が美しいだけでは成り立たない。

芸術の観点から見た書は、元の字を把握した上で、墨の潤滑、筆を動かすスピード、呼吸、全てを白い面に乗せていく。また、条幅という大きな紙に数文字を書く場合は、全体のバランスを見て配置を考えなければいけない。

全体を考えながら一画一画に表情をつけるところが書の難しいところでもあり、面白さでもある。1本の線は、筆のかすれなどがあるため、その時にしか生まれない。二度と同じものが生まれない線同士が1枚の紙に収められ、字となる。

また、作品を見る人には、そこに込められた感情が作品から気迫として伝わるのではないだろうか。芸術作品の良さは観る人それぞれの感性に委ねられると思われるが、「良い」とされる作品の多くには「気」「気迫」のようなものが感じられる印象がある。

さらに、全体を見る際には、墨の黒ではなく余白の白を見ることが大事だ。白がはっきりしている作品は見栄えがする。書いたものではないところに美しさを見出す、というのも不思議だが、字だけではなく紙全体を意識すること、墨のある部分と墨のない白い部分すなわち「間」を見て取ることが求められるのである。

茶道

次に、茶道を取り上げる。茶道での「間」を考えた時、想起されるのは「臨機応変」「一期一会」という言葉だ。

「一期一会」は、茶人でもあった井伊直弼が言った言葉とされる。会う人も会話も、その時その場限りのものだという、仏教の「縁」的な考えにもつながる考えだ。

茶道ではその精神が強く表れている。季節や正客に合わせた、その場に一番ふさわしいものを用意することが、亭主の一番のもてなしだ。その場に即した会話、身のこなしは、簡単そうで、実は一番難しい。その場に適した、というのは、空気、会話での「間」に意識を向けるということのように思われる。

わび茶の道は、中世の日本で村田珠光によって開かれた。千利休に継がれていくわび・さびの美学は、完全なものをくずしたところに美を観る。完全なものをあえて「やつす」のだ。唐物といわれる華やかな道具よりも、質素な茶碗、素材感のある道具を尊重するといった、徹底した「わび」の世界で、茶人たちは精神の在り方を追求した。

また、茶室や茶庭といった建築要素にも、茶道の美学が徹底的に貫かれている。アシンメ

¹ 1位から5位までは以下の五つ。水泳、受験のための塾・学校の補習のための塾、英会話教室、音楽教室（歌や楽譜など）、通信教育。

トリーに石が配置される庭からは、自然そのものが感じられる。高く吹き上がる噴水、きれいに刈り込まれた木々ではなくて、自然に生えているような緑が重んじられる。

茶人は禅の思想を茶に取り入れる。どうしたら心を無にすることができるのか、どうしたら「直心の交わり」ができるのか。茶が室町時代から戦国時代を生きる武士たちの精神に強く結びついた理由も、この心の在り方にあるだろう（禅の考えや思想については二章で詳述する）。

以上、書と茶の湯について取り上げた。両者に共通して言えることは、美しいとされるものに、余白ないし「白」あるいは「間」の存在があることだ。白い色は清潔さや純心さを想起させ、非常に尊重される。それは精神的な「白」つまり「無になること」にもつながると考えられる。さらに、茶道で挙げた「一期一会」の考えからは、同じものは二度と表れない、ということに対して美しいと感じる心があると思われる。

1-2 自然との関わりから生まれた日本的な美

ではこれらの美意識はどこからきているのだろうか。なぜ、日本では「間」や「空白」が美しいと考えられるのだろうか。

民族音楽演奏家の若林忠宏は、こうした間の感覚には風土が関わっていると指摘し、次のように解説する。

日本人独特の「間の感覚」は、狭い国土と、地域により寒暖と乾湿の差が大きい季節の移り変わりのある風土には実に適していました。三味線にしても琵琶、箏、鼓にしても、基本的に余計な機能や無駄な装飾はありません。石庭・枯山水の侘び寂びにも通じる、「極限まで洗練された美」にも通じるのです。いずれも基本は「割愛」であり、「消去法」ではないのです。ですから、きわめて自然に、程よい緊張感のある「間」をつくり出すことができるのです。

（若林，p. 250）

若林にしたがえば、日本の人々の美的感覚に大きな影響を及ぼしているのは、自然との関わり方だ。言い換えれば、日本に生きる人々が置かれた環境的な要因である。

日本は古代から自然災害が多く、地震や土砂崩れや津波など、人間の力ではどうすることもできない状況が多い。その一方で、島国で四季があり、漁業や農業の点で自然からの恩恵を大いに受けている。そのため人間と自然との関わり方が重視されたと思われる。自然とともに生きる知恵を培ってきたといえよう。その環境的要因が、日本で暮らす人々の考えや価値観に影響を与えていったと考えられる。

自然との関わり方の例としては、梶井基次郎の『櫻の樹の下には』が挙げられる。この作品

は「桜の樹の下には屍体したいが埋まっている！」という一文から始まり、満開の桜と屍という、対極の連想が同時に行われる。前面に出されるのは、無常なもののはかなさだ。華やかできれいな桜の姿を見られるのはたった数日間だけで、春の風が吹いたら一瞬にして散ってしまう。それを知りながら、あと何日見られるだろうと満開の桜を見上げる人々は、花の美しさと同時に散る寂しさを見出している。吉田兼好の『徒然草』には「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」という一節があるが、不完全なものにも美しさを感じる感性がここにも見られる。

そして、骨董商・古美術鑑定家中島誠之助によると、日本の美意識の本質には二重性がある。「わび・さび」に見る不完全性は、完全なものの美しさを知ってこそその感性であるということだ(p. 51-52)。さらに、「わび・さび」の基本精神として、「小さな死と再生をくりかえして、たんたんと日常が積みかさねられ」たものと説明付ける。「何もないところに喜びを感じるという充実感」(p. 149-150)が日本特有の美的感覚だという見解を示している。

第二章 宗教性

前章では日本の芸術における美的感覚について探り、その背景の一つ、日本という場所の自然環境的要因について確かめた。本章では、もう一つの重要な背景である宗教的要因について追究する。

2-1 日本での多様な現れ方

「日本人は無宗教と言うが実はさまざまな宗教に影響されている」「海外留学に行った時、海外の人はアイデンティティーとして宗教を語っていて驚いた」などといった発言がしばしば聞かれる。あたかも日本で宗教は遠い存在であるかのようだ。

しかし実際日本において、宗教についての問題は身近に存在する。例えば、2023 年の自民党の裏金問題は、統一教会と政治家との結びつきを露呈させた。宗教と政治のこうした癒着の問題は記憶に新しく、ますます日本の人々と宗教の関わり方について考えさせられる。実のところ、日本の人々は宗教と深く結びついている。これは、結婚式はキリスト教、葬式は仏教、といった分かりやすい次元の話ではない、もっと根の深いテーマだ。

歴史的に見て、日本では、政治と宗教は切り離せないものだった。日本に仏教が伝わったのは6世紀、飛鳥時代と言われている。聖徳太子が定めた憲法十七条の第一条「和を以て貴しとなし、さかふること無きを宗とせよ」には儒教の影響が、第二条「篤く三宝を敬へ。三宝とは仏・法・僧なり」には仏教の影響が表れている。あるいは、奈良時代には聖武天皇のもとで、奈良に盧舎那仏の大仏が建立された。そして国を治めるために仏教が用いられ、護国寺が全国に建てられた。このように、仏教は日本で政治と結びつきさまざまな形で人々に浸透していく。特に仏教は時代によって派生を続け、徹底的に人々の心に寄り添って来たと思われる。もちろん仏教が日本の伝統文化に与えた影響は計り知れないほど大きい。しかしそれと同じくらい、日本にもともとある信仰心が大きな存在感を示す。

以下は、宗教が人々の心と強く結びついたことを示している例について記したい。娯楽は人の身近な動きから生まれるもので、それが文化になっていくと考えられる。だから、伝統文化と呼ばれるものにも起源があり、その当時の人びとの生活や価値観を強く反映しているはずだ。

能

例えば能の『羽衣』という作品では、天女が羽衣を使って舞うのだが、人間にはない、空を飛べるという不思議さと神秘さが見て取れる。また多くの作品に精霊、鬼、怨霊が登場するが、人間を超越した存在を主人公にすることによって想像の世界に託す日本の伝統の在り方が見られる。

僧侶であり宗教学専門でもある釈徹宗と、専門がフランス現代思想・武道論・教育論・映画論などである内田樹は、能が内包する宗教性について、ある対談で次のように言及している。

釈：能は、自分の中にある宗教性について、とても自覚的な芸能ですよ。だからこそ、世界最古の現役舞台芸能として今なお続いているのでしょう。芸能は宗教性を軽視すると、ダメになったりします。

内田：そうだと思います。芸能が力を汲み出すのは「外部」「異界」「他者」からです。芸能は人間的な価値体系の「外」から滋養を得て、それによって例外的な魅力を発揮している。芸能民というのは、「内」と「外」を掛橋する異能者なんです。

(内田・釈, p. 98)

「内」と「外」を掛橋する異能者」という言葉からは、この世と死後の世界のつながりも連想させられる。実際、能舞台にある橋掛りは、あの世からこの世につながる橋という意味を持つ。さらに、大乘仏教の教えに「現世の行いは前世からの輪廻でつながっている。そして来世で救われるように現世で念仏を唱えたりして徳を積む。」というものがある。この考えから人々が死後の世界を案じてきたことが分かり、総じて未知の世界に対しての恐怖が根本的に人間に備わっていると考えられる。

映画『となりのトトロ』

以上は能における宗教の表れの例だが、類例はもっと現代日本の人々に身近だと思われる、スタジオジブリのアニメーション作品にも見られる。例えば1988年に公開された『となりのトトロ』だ。この作品には、クスノキを中心とする雑木林への自然観が見られる。草壁家が引っ越してきた家の近くに大きなクスノキがあり、その根本にはしめ縄が結ばれている。それは人々がその大木を神聖視してきたことを表しているだろう。トトロ、まっくろくろすけ、ネコバスといったキャラクターたちは、サツキとメイにしか見えないが、それは目に見えないものへの信仰心を示すと考えられる。

スタジオジブリの作品と宗教心の関係について、同スタジオの映画監督である宮崎駿は、あるインタビューで次のように意見を表明している。

—監督は、『となりのトトロ』『もののけ姫』でも、日本の草木に宿る神々を書いているが、なぜでしょう。

宮崎：これはなくなった司馬遼太郎さんがおっしゃっていたことなんですけど、途中から仏教や儒教が入ってきても、結局僕たち日本人の中には原始的な宗教心が残っている。…無垢であることは至上的なことなんです。清めること、けがれを払うこと、清々しくあること、邪念をなくすことが、至上のものであるという考えが、この島

国の人間たちの心の奥に、今なおあるんです。そういう無垢への憧憬みたいなものを、僕らは今なお心のどこかで追っている。

(宮崎, p. 261)

宮崎の言う、仏教や儒教よりも前からある「原始的な宗教心」こそが、日本的なものの根源を特徴付けているのだと考えられる。

原始的な宗教心

では「原始的な宗教心」とはどのようなものだろうか。以下に示す文芸批評家の杉田俊介の言葉を手掛かりに考えてみたい。

古来、日本人の信仰心は、「産むこと」を重視してきた。例えば日本の記紀神話には、天地を創造するような創造主や絶対神は存在しない。イザナギとイザナミは、生々しく交わって日本の国土を産むのである。その後も連綿と、日本人の神々に対する信仰心は、五穀豊穡への願いと性愛的な交わりとが切り離せないものとしてあった。日本の八百万の神々は、民たちの自然(太陽や嵐、雷や海など)に対する畏怖と雑じり合っている。[中略]日常のあらゆる小さな部分、微細な部分の中に、生命の内在的欲望を認めるような信仰心のあり方。身の回りの森羅万象の中に、すべての存在を生かしめる「いのちの流れ」(カミ)を感じとるという自然観。人間以外の動物や植物に限らない。例えば、地方の鄙びた温泉街で購入した珍妙なぬいぐるみや、神社仏閣の怪しげなキャラクターグッズ、ゆるキャラたち、あるいはインターネットの中の劣化コピーのようなグロテスクなキャラクターたちにかすかな生命の気配を感じとっていく。それは名付けようもない信仰心であって、教義や宗教体系を持つものとしての宗教とは異なる。

(杉田, pp. 76-77)

ここで重視したいのは、日本人の信仰心は「名付けようもない」「宗教とは異なる」と論じられていることだ。いわば、定義づけられないあいまいさこそが日本的なものをつくり上げている。大江健三郎の『あいまいな日本の私』を思い出しても、あいまいさが全ての基盤になっているといえそう。ただ、日本的なるものはその信仰心だけでつくられているわけではない。

日本特有の価値観とは、日本在来の宗教心と大陸から伝わった外来の宗教が混じったものだと考えられる。外来の宗教は仏教や儒教などだが、それらを含め、あらゆる思想が各地に広まった。それらを受け入れたことが日本人の生き方だったと主張する内田は、以下のよう述べている。

基本的に、外来のものに関しては、これを「客人」として受け入れていく。まずは歓待

する。それが大切だと思います。外来のものを敵視したり、押し戻したり、戦ったり、殲滅したりする対象として観るのではなくて、とにかく応接する。もし、先方が「暴れたい」というのなら、そのあたりで一通り暴れていただいて、それで気がすんだらお引き取り願う。そのまま居着きたいというなら、共生して、混淆して、ゆっくりと同化する。それによって破局的な事態を回避するというのが、日本列島住民が太古から採択してきた生存戦略だったんじゃないかと思います。

(内田・釈, p. 90)

こうしてみると、宗教心・信仰心とは、見えない世界や現実ではない世界に対しての畏怖の気持ちから生まれたものだと考えられる。そして畏怖の気持ちを抱く対象は、死後の世界や、人間の力で支配することのできない自然に対してである。

島国である日本列島には大陸から多くの新しい考えがもたらされたが、それらが既存の思想に都合良く加えられることによって、日本独特の考え方が生まれたと考えられる。

2-2 武士と禅

さて、飛鳥時代や奈良時代からさらに時代が下るとどうだろうか。ここで、武士と禅の思想について考えてみたい。というのも、さきに触れた能は室町時代に成立した芸術であり、そこには武士の精神が色濃く表れている。また先述した茶道を含め、その前の鎌倉時代に開花した芸術文化も数多くある。これらは主に武士が、往々にして禅の考えに依拠してつくり上げたものだ。

禅ないし禅宗は、達磨によって開かれた仏教の一派である。座禅によって悟りを得ようとするのが一番の特徴だ。念仏を唱えるだけではなく、身体的にも精神的にも鍛え上げることが重視される。ではこのような禅がなぜ武士と結びついたのか。

仏教哲学者の鈴木大拙は禅について以下のような見解を示している。

現在の私たちの一般的な理解では、武士道の究極的な構成要素は、武士の尊厳の断固とした守護神になるための行為だろう。その尊厳は、忠誠、孝行、仁愛からなる。これらの責務を無事に果たすためには、二つのことが必要とされる。一つは、実践的な面だけでなく哲学的な面でも、自分を克己的に鍛え上げること。もう一つは、いついかなる時にも死に直面する準備をし、つまりは、その時が来たら自分の命をためらいなく犠牲にすることだ。そうするためには、多大な心理的・精神的な鍛錬が必要となる。

(鈴木, p. 114)

自ら心を鍛えるというストイックさを持った禅は、武士たちの気風に合い、精神的な支えになっていった。鎌倉時代初期の武士は、文字すら書けない、文化とは縁遠い生活をしてい

た。そのため、源頼朝が「折にふれて「質実剛健」を説いて」いたようで（野村，p. 24）、その気風に禅が適合したと考えられる。そして、常に死と隣り合わせだった武士にとって、禅は強い心の拠り所になったにちがいない。

さらに、鈴木は禅の修行が日本の芸術と深く関わっているとも主張する。

禅でも、剣でも、これらの学びに励むだけでは、その修行に全面的に取り組んだことにはならない。両者ともに、究極の現実、つまりは〈空〉や〈絶対〉の獲得が求められるのだ。後者は、どんな形の相対性も超えている。剣術の場合、技がその奇跡を自ら発現させる時、すべての技は忘却され、残された〈無意識〉だけが状況を操作する。禅の場合もこれと同様だ。すなわち、〈空〉が自らを現し、多様な世界を照らす時、概念化されたものは何であれ、心の外側へ追い出される。こうした理由から、禅の修行の原理は、日本で学ばれる芸術に例外なく浸透していると、私たちは主張する。

（鈴木，p. 231）

鈴木の上張の通り、禅が修行によって目指す心の在り方は、日本の芸術のそれに通じているように思われる。そして、武士と禅の結びつきは、多くの日本の伝統文化に大きな影響を与えている印象がある。

しかし、禅が全てだとは言いきれない。先に挙げた、日本特有のあいまいな信仰心も同じくらい文化の基盤をつくっている。

いずれにせよ、神と仏が分かれていて、仏教、神道それぞれの影響が各芸能に見られる、というような認識は的外れなようだ。神と仏を分ける考え方は、1867（慶応3）年の神仏分離令によって植え付けられたものだ。つまり本来、日本では神も仏も一緒くたになって存在していた。だから近代以前の古典芸能を見ると、何の思想が根本にある、とはっきりさせることは難しい。思想の混沌さも踏まえて、やはり日本を説明するには「あいまい」という言葉が一番しっくりくるのかもしれない。

第三章

日本の伝統芸能における音楽—能を中心に

以上、第一章では書道と茶道を中心に、日本の美的感覚について、第二章では日本の信仰について論じた。これらを踏まえて本章では、日本の伝統芸能における音楽にはどのような特徴があるか見ていく。主に論じるのは能の音楽である。能は武士が席卷していた室町時代に生まれた芸能であるため、武士が重んじた禅と強く結びついていると想像する。そして日本の伝統文化として、日本古来からの信仰心が音楽にも表れていると考える。

3-1 能の音楽

能とは、舞、謡、そして囃子の音楽から成る舞台芸術である。正方形の舞台上で、正面席の観客から見て右側が地謡（合唱隊）、正面がシテ方（舞い手）、その後ろが囃子方（楽器隊）の人々の位置である。

囃子

能の音楽で、器楽を担当するのは囃子方である。基本的な構成は、笛、小鼓、大鼓、太鼓がそれぞれ一人ずついて、横一列に並び、演奏する。この楽器隊の役割はバレエやミュージカルにおけるオーケストラ、つまり伴奏のように見える。バレエ、ミュージカルではオーケストラピットが存在し、BGMや主人公の気持ちを表す音楽を生演奏しているので、その点では両者とも変わらない。しかし、能楽の囃子と西洋舞台の音楽にはいくつかの違いがある。

まず、その存在感である。例えばバレエやミュージカルでは、舞台から観客席の間に、観客席から中が見えないように、舞台よりも下がったスペースがある。オーケストラボックス、オーケストラピットと呼ばれるその区画は、観客には見せない。指揮者が頭を舞台の床の高さに頭を出し、舞台の進行を見ながら指揮棒を振る。それに対して、能楽の囃子方はシテ方の後ろに座っているものの、しっかりと存在感を示している。衣装も、観客に見せることを意識して、全員統一されたものを着用している。

また、オーケストラには指揮者が登場するが、能楽囃子方には指揮者は見られない。指揮者の不在は能音楽だけではなく、日本の音楽全体の大きな特徴として挙げることができる。能楽研究者の三浦裕子は次のように記している。

対象に従属することなく、独自の論理で音楽を構築している点にその大きな特徴がある。また、シテや地謡の意向に添う演奏を意図するが、これらをまとめる、いわば指揮者の存在が顕在化していないことにも特色がある。実は、指揮者的な役割を果たすのがシテであり、地頭である。シテのちょっとした合図や地頭の気迫を感じて、テンポに緩急を付けたり、演奏内容を変化させたりすることがある。微妙なタイミングに臨機応変

に対応しながらも自己を主張する演奏を心掛ける囃子の理論と実際にはさまざまな知恵が見受けられる。

(三浦, p. 32。下線部は筆者による強調)

しかしシテが「指揮者的な役割を果たす」といっても、実際囃子方はどのように音を合わせているのだろうか。

西洋のクラシック音楽とは違って、指揮者がいない日本音楽の場合は、コミと呼ばれるものでタイミングを取る。「大鼓が三拍目を打つには、二拍目にその用意をする。能ではこの準備のための気合と呼吸を「コミ」といつている」(三浦, p. 59)。コミは、音を出す前の「間」であるが、「ツ」と実際に声を出す場合もあるようだ。小鼓と大鼓は「ポン」と楽器の音を出す前に「ヨオ」というかけ声をする。そのかけ声の前に、コミという一瞬の空気の留場があるのである。図示すると次の通りだ。

<u>小鼓</u>	ツ	ヨオ	ポン
<u>大鼓</u>	ツ	ヨオ	ポン

ここで重要となるのは、「ポン」という鼓自体の音の重なりではなく「ツ」で表される空白の時間が合うこととされる。そのため「能ではコミをいかに的確に取るかが大事なのであって、実際の音が何拍目に当たろうとも、どんな音であってもそれほど重きを置かないという考え方も成り立つ」(三浦, p. 60)。コミがあることによって、かけ声と楽器の音を出すタイミングを計り合っている。

この〈音が合わない〉ことは、能以外でも日本の伝統音楽にはよく見られる。日本の人々の感性が音楽に現れていることを、日本伝統音楽の研究者である釣谷真弓は次のように主張する。

ほかの楽器と時間的にわざとそろえないことを「ずれる」という。先ほど説明した音取や、管弦の演奏スタイルでも、一斉に始まったり終わったりしない。複数のパートがブレス、区切りなど「一致」させることをとても嫌っている。[中略]物事をスパッと割り切るのではなく、日本画のボカシのような微妙な感覚が好まれたのかもしれない。

(釣谷, p. 90)

あるいは、三浦は囃子方の特徴として流動性を挙げ、次のように記している。

囃子はあるきっかけを待って次の態勢へ移る準備が整っている、いわば常に運動体の状態にある。変化するその瞬間まで、ある種の手組をつなぎとして繰り返し演奏しながら待つことも多い。これを「見計ライ」という。音楽を含めた時間芸術ではどんなジャ

シルのものでも、即興的な要素がなければ成り立たないこともいえる。しかし、囃子は即興性を高める弾力的なシステムを持っている。この点が、楽譜に定められた音組織を丹念に再構築する音楽とは大きくちがうところではないだろうか。

(三浦, p. 78)

また、観世流のシテ方、観世淳夫は、2024年11月29日、明治大学中野キャンパスで、能全体における即興性について次のように語った。すなわち、面をつけるのは本番のみで、本番当日までは面も装束もつけないで稽古するのが普通である。そして囃子方との合わせ稽古も本番までに一度しかなく、しかもメインとなる部分だけしか合わせない。曲ごとに常識的なテンポ、リズムがあるため、各自が練習してきて、合わせ稽古の一回で個々の差を埋め合わせる。そのため、一度だけの本番がセッションのようなおもしろさを持つ。前出の三浦が囃子方に関して指摘する即興性は、能全体に見られると言える。

囃子方は、能において、単なる伴奏ではない。舞台上でのシテ方の動きや謡とのセッションで成り立つ囃子方は、伴奏のような立場を持ちながらも自己主張をし、他とのバランスを図っている。それは個々の楽器にも言えることで、それぞれが互いのテンポや音、間を探り合いながら自分の音を出す。そのことが、その場でしか生まれない即興性や流動性を生み出している。

謡

シテも謡うことがあるが、ここでは地謡の役割に注目したい。地謡は、ストーリーと音の抽象的な動きを表すことに加え、ドラマを展開する役割も担っている。言葉を音に乗せているが、西洋音楽のように絶対音高は定まっておらず、日ごとに核となる音の高さが変わる。頭取というリーダーが出す音に合わせて、周りは音程を定めている。地謡はナレーションのような働きをするが、その旋律とリズムに大きな特徴がある。

旋律

その旋律について言うと、弱吟と強吟という二つの種類がある。以下、主に三浦(1998)と小泉(1994)に依拠して記していきたい。

基本的に、弱吟は女性的で優美な世界観を表した役柄、強吟は男性的で勇ましい役柄で用いられる。役によってどちらを使うと厳密に決まっているわけではない。

弱吟は、小泉の言い方を借りれば「大体五線譜で書きあらわすことができるようなきまった音の高さを持った音律で示すことができる謡い方」(p. 178)である。三浦によると、現在の弱吟には「ヨワ音階」「サシ音階」「クズシ音階」の三種類の音階がある。「ヨワ音階」が基本的だが、これは四度の幅で構成された音階になっている。

弱吟は、小泉によれば「一番プリミティブで幼稚な音楽構造を持っていると考えられるわらべうたなどと、ほとんど同じような構造を持っている」(p. 179)。四度枠で構成される音

階をテトラコルドと言うが、日本の民謡がテトラコルドの積み重ねで成り立っていることを考えると、弱吟は「日本的な」音階から演劇的要素を付け加えられて成立したと考えられる。

一方、強吟は弱吟とは違って、音の高低はあるものの、明確に楽譜に記せるような音ではなく不安定な音の集まりである。勇ましい役柄に使われることが多いことから分かるように、強吟は力強さや喜びを表す謡で、「ツヨ音階」の一種類しかない。

三浦によれば、強吟は「音域を広く取って豊かな旋律線のうねりをねらうというよりは、息扱いの気迫を特に聞かせる目的で謡われ」、「美しい旋律よりも声による力そのものを尊ぶという〔中略〕発想は、能にだけ見られる特殊な美学といえる」(pp. 42-43)。

また小泉によれば、強吟は「本来弱吟と同じような動きをするはずのメロディに対して、それを非音楽的に、非旋律的に抑制した表現を求めた結果生まれてきた謡い方なので、音の動きは音程の幅もたいへんに狭く、しかも一つ一つの音の中に、こまかな、激しい動きがたたみ込まれてい」る (pp. 179-180)。

リズム

一方、能のリズムも特徴的だ。これは大きく二つに分けて「コトバ」と「フシ」に分けられる。

コトバは演劇のセリフに近い一方、フシはリズムの特徴から、拍を感じさせない謡である「拍子不合（ひょうしあわず）」と、拍節が分かりやすい「拍子合（ひょうしあい）」に分けられる。後者は八拍子からなっていることが多く、この八拍子の一フレーズを「一鎖」という。

また三浦は、八拍半から歌いだす理由について、鎌倉期に武士の間で流行した早歌の影響があると主張する。早歌も七五調を基本とし、ある決まったリズムを繰り返していたという。能が早歌の特性を吸収したから独特のリズム体系が形成されたようだ。

さて、フシのうち、拍子不合はさらに、サシノリと詠ノリ、拍子合は平ノリ、修羅ノリ（中ノリ）、大ノリに分類することができる。これらは七五調、つまり 12 文字をどのように八拍に収めるかを工夫したリズムである。

ここでは、その中でもまた文字とリズムの関係を工夫した〈三地謡〉と〈ツヅケ謡〉について記す。三浦はこれらを「もしもしかめよカメサンヨ」を例に説明している（図 1 の譜例参照。三浦，p. 56）。

図 1

譜例 2-15
《ツツケ謡》×《ツツケの手組》

大鼓	1 拍
ヤ△ハ	2
ハ	3
▲	4
△ヤ△ハ△	5
●ヤ●	6
○ハ○ハ○	7
	8

譜例 2-14
《三^{みづ}地^ぢ謡^い》×《三^{みづ}地^ぢの手^て組^{ぐみ}》

大鼓	1 拍
ヤ	2
ア	3
ハ	4
△	5
	6
ヤ○	7
ハ●ハ○	8

*片カナの「ヤ」「ハ」などは掛け声
△は大鼓の強く響く音。チョンなどと唱えられる。
▲は大鼓の弱く響く音。ツなどと唱えられる。
○は小鼓の低く豊かな音。ポなどと唱えられる。
●は小鼓の高く弱い音。チなどと唱えられる。

譜例 2-14 の〈三^{みづ}地^ぢ謡^い〉では、「もしもしかめよ」の言葉はそのまま、拍が変形していることが分かる。言葉に合わせて拍の取り方を工夫しているのである。一方、譜例 2-15 の〈ツツケ謡〉は、拍は一定のリズムを保ち、言葉を伸ばしたり、最後に空白の八拍目をつくったりして合わせている。

これらは〈地拍子〉と呼ばれる。どちらの譜例も謡と手組の合わせになっており、言葉を拍に合わせて伸ばす。

拍自体を縮める発想は、西洋のクラシック音楽には見られない。曲の途中で拍子が変わることはあっても、メトロノームが存在するくらいに、まず曲の基幹には拍子がある。一方、囃子方は、偶数拍に当たる文字さえ押さえておけば、あとは多少謡の方に拍の振幅があっても、その影響を受けずに演奏できる。

さらに能楽では、一句の中にも揺れがある。また、テンポが一定ということはない。拍が伸縮しながらテンポが上がっていく。シテ方の動きと一緒に聞くからか、まるで各楽器から出る音が生きているかのような感覚になることがあ

る。その生き生きとした感じは、テンポの揺れから生まれるのだと考えられる。

3-2 その他の例

ここまで能の音楽に注目してきたが、他の日本の伝統音楽についても特徴を見てみたい。ただ「日本の伝統音楽」と一言で言えるほど話は簡単ではなく、楽器についても音楽性についても、純粋な日本固有のものであるとは限らない。

そもそも日本の伝統音楽、日本の伝統楽器と聞いて人々が思い浮かべるのは何だろうか。箏、三味線、琵琶などはよく日本の楽器として挙げられるが、起源をたどれば大陸から入ってきたものだ。だから「日本のその他の伝統音楽」というのは、厳密に言えば日本発祥ではない。

しかしこうした細かいことについては、本稿では問わないでおきたい。ここではおおまか

に、日本の伝統音楽の特徴について、西洋のクラシック音楽と比較しながら明らかにしていく。

和音

まずは和音だ。雅楽師の東儀秀樹は、笙の和音について、「五線譜で西洋の楽理で言うと、あってはならない和音構成」(p. 139) だと言う。西洋音楽で不協和音と言われる音の重なりが、笙では通常のものとして現れる。

ハーモニーを重視する西洋では、バロック時代に3音の和音がベースとなる倍音が理論化された。すなわち、デカルトなどの近代哲学が自然法則を見つけ出そうとする流れを受けて、ジャン・フィリップ＝ラモーが倍音の構造とコードを結び付けて理論化した。

こうした西洋音楽の理論化、規則化は徹底されたもので、ティンパニがそれをよく表している。西洋のクラシック音楽では打楽器があまり使われないが、ティンパニは音程を持つため、演奏に使われるようになった。

音階

西洋のクラシック音楽ではあり得ないとされる日本の音の重なりだが、独自の音階を持っている。小泉によると、日本で用いられる五音音階は主に以下の四つに分類される(図2を参照)。

- ・民謡、わらべうたの音階
- ・都節の音階
- ・律の音階
- ・沖縄の音階

図2 (日本の音階: 4種のテトラコルドとその性質 [小泉文夫(1958)『日本伝統音楽の研究 1—民謡研究の方法と音階の基本構造—』音楽之友社からの、水里真生による引用²⁾)

	 上行的な性格 ascending tendency	 下行的な性格 descending tendency
陽 yō anhemitonic	 【民謡のテトラコルド】 tetrachord of min'yō ↗ conjunct ↘ disjunct  ◆ 民謡音階 (陽旋, 田舎節音階) min'yō scale (yō/yōsen, inakabushi)	 【律のテトラコルド】 tetrachord of ritsu  ◆ 律音階, 陽旋, 田舎節音階 ritsu, yō/yōsen, inakabushi scale
陰 in hemitonic	 【琉球のテトラコルド】 tetrachord of ryūkyū  ◆ 琉球音階, 沖縄音階, 琉陰 ryūkyū, okinawa, ryūin scale	 cf. hirajōshi, iwato tuning 【都節のテトラコルド】 tetrachord of miyakobushi  ◆ 都節音階, 陰旋 miyakobushi, in/insen scale ○ 終止音の候補 candidates for final

全てに共通するテトラコルド (テトラコード) だが、テトラは4、コルド (コード) は弦の意味だ。ドとファ、ソとドという4度の音の枠をテトラコードという。この枠にはさまれる1音の高さが4通りであるため、4種類の音階がある。

そして、4種類それぞれの音階の代表曲として「千本桜」「君が代」「うさぎ」「谷茶前 (たんちゃめ)」を音付で掲載しているのが、文化デジタルライブラリー「律音階を体験する」³⁾だ。日本の民謡やわらべ歌はもちろん、現代の人気曲「千本桜」にも日本の音階が使われ

²⁾ 水里真生「日本の音階 (1) いろいろな種類と理論を研究史から整理する【民族音楽学】」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://acua-piece.com/ethnomusicology/scales-of-japanese-music/>

³⁾ 独立行政法人日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」「[TOP](#) > [舞台芸術教材で学ぶ](#) > [日本の伝統音楽](#) > [歌唱編](#) > [なっとく！よくわかる歌唱](#) > [日本語と歌唱](#) > [音階](#) > [基本となる4つの音階](#) > 「律音階」を体験する」[2024年12月26日最終閲覧]

ているということであり、すなわち、「千本桜」がヒットした理由は、ボーカロイド曲であることに加えて、この日本的な音色にも理由があるとも考えられる。

テンポ

さらに日本の音楽は、テンポが一定ではない。「序破急」という言葉があるように、だんだん速くなることが特徴的である。

ギタリストの渥美幸裕によれば、日本の音楽は〈呼吸の音楽〉であり、そのことは邦楽すべてに通じる。呼吸の〈間合い〉によって、曲の小節の長さが伸び縮みする(中村 2020/2021)。

小節の長さが伸び縮みするということは、先述の、能楽の鼓の場合でも確かめた。メトロノームで作られる一定規則のリズム感覚に音を合わせていくのではなく、むしろ演奏者がその場に合わせて速さを決めるところに、日本音楽の独特さが見いだされる。

雑音

日本の伝統音楽の特徴は雑音にも見られる。ノイズとも呼ばれ、西洋のクラシック音楽では極力排除される、しかし日本ではあえてノイズを取り入れてきた。

例えば尺八のムラ息、琵琶のパチを叩きつける音。能管は、雅楽で使われる龍笛に比べて、ノドという空気の通り道が狭く作られているので、ノイズ音が出るようになっている。そして箏や三味線等の弦楽器では、ナイロンや金属の弦は使われていない。三味線は3本の弦からなる楽器だが、このうちの1の糸だけ、あえて棹に触れるように作られている(これを「さわわり」と言う)。この仕組みによって、鋭くかすれた響きを持つ三味線独特の音色を生むことができる。

これらについて、前出の邦楽家、釣谷は、「雨音、水音、風 音、、、自然界に存在する音すべてをそのまま音楽に表現しているからであろう」(釣谷, p. 36)という見解を示している。この視点は、日本に生まれ育った人々の美的感覚がどのようなものなのかを考えさせる。というのも、雨音、水音がノイズだと理解する西洋のクラシック音楽とは反対に、日本の人々は、まずこれらをノイズだと認識していない。ノイズを「排除」する前に、日本の人々にとって、それらはノイズではないから、排除する必要がないのである。むしろ、あえて楽器でノイズを出そうとすると、自然世界の現象に人間を適応させようとする姿勢が見られる。

この関連では前出の東儀の以下のような発言が示唆に富む。

東洋人は、狂いやすいものをねじ伏せて狂わないようにするより、見た目の美しさとか、

覧]

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc8/nattoku/nippon/kihon/ritsu.html>

人間のほうが合わせてやろうとする。そういう気持ちが音楽表現にも表れている。それが日本的な文化の考え方だと思います。いまだに絹糸を使っているからすごく狂いやすい。湿度や乾燥度によってかなり音が狂うけど、絹糸を作るところから職人がものすごく手を掛けている。そういうものを音楽として、神仏にささげるところもちゃんと考えていたからではないでしょうか。

(東儀, p. 87)

継承の仕方と楽譜

あるいは継承の仕方も独特だ。日本の伝統楽器の技法の多くは師匠から弟子へ受け継がれる。流派があり、その流派ごとに異なる演奏法がある。

例えば箏では生田流と山田流が主流とされている。弦をはじく爪の形が違うことがよく知られているが、同じ楽器を演奏するのに違った道具(爪)を使用するのである。能楽でも、シテ方では観世流、金春流、宝生流、金剛流、喜多流の5つの流派に分かれている。大きな違いによって区別されるわけではないものの、流派ごとのルールややり方があり、違っていることが当たり前なのだ。演奏者によっても、楽器個体でも、完全に同じということがない。その認識があるから、みんなが同じように演奏することは目指されない。

楽譜もユニークだ。例えば三線の楽譜は、縦書きで漢字が書いてあるだけで、音符がない。これを見てどうやって演奏するのだろうと不思議に思う人もいるだろう。同じように音の高さやテンポを示すのではない楽譜の例として、詩吟の吟譜がある。これを田中健次は次のように説明する。

旋律をあらわす詩吟の楽譜「吟譜」は流派によってその記譜法はすべて違います。五線譜を使っても音符ではなく、リニアな音の高低を線であらわすものや、九線譜という記譜もあります。どの流派でも共通することは、記譜は絶対的な音高を示すものでなく、吟じるときの高・中・低の音高を意味していることです。流派によって音の高低を細かく分けているのがありますが、旋律の正確さよりも、息継ぎの場所、母音の強調、感情表現などの「原則」を守ったうえで、その人なりに吟じたほうが魅力的であるといわれます。

(田中(2018), p. 140)

一方、西洋のクラシック音楽、例えばピアノなどの場合、詩吟の場合のように、誰に教わったかによって、当人の弾き方が違い、流派がある、ということにはならない。ピアノの演奏では、もちろん、個人で弾き方や、表現の仕方や、好む音の出し方は違うかもしれない。しかし大体は同じだろう。なぜなら、楽譜に作曲家の意図がきちんと書き込まれているからだ。

中世ヨーロッパで聖歌隊のために編み出された記譜法と楽譜は、五線譜の上に音が記号

化され、それを頼りに、誰でも同じように演奏することができる。楽譜から、テンポ、強弱、音のつながり方を読み取ることができる。そして、作曲家の意図を汲み取った上で、奏者なりに演奏することが目指されるのだ。

まとめ

以上、日本の美的感覚、宗教性から説き起こして、能の音楽とその他の日本の伝統音楽について論じてきた。これらの音楽は、西洋のクラシック音楽と比べると、あらゆる点で違いがある。その違いあるいは特徴が生まれる理由について、最後に考えてみたい。

前出の鈴木大拙は、音楽を含めた日本の芸術について、以下の見解を示している。

日本人はどの分野の芸術を学ぶにせよ、その「主観的」側面の重要性を常に強調する。一方で、技術的な面には二次的な配慮しかせず、あるいは、取るに足らないとすら考えている。芸術は芸術であり、それ固有の意義を持つ。だが、日本人は芸術を、自己の精神性を高めるための機会として活用しようとする。例えば、＜道＞や宇宙の＜天理＞、人間の＜天性＞、あるいは事物の「空」や「如」の道具ではなく、生が私たちにその秘密を開示するための方法の一つとなる。

(鈴木, p. 240)

こうしてみると、日本文化のキーワードの一つは「主観的」だと言えそうだ。実際、日本語には一人称がたくさんある。「僕」「俺」「私」「うち」「自分」、自身を名前で呼ぶ場合もある。しかし皆、場面によって適したものを選ぶ。つまりその場に自分を適応させていると言えるだろう。

「主観的」といっても、この場合、それは内部で細分化され、互いに矛盾したものと言える。総じて、強く自己主張をするわけではない。あいまいな反応でもまかり通るし、そのあいまいさが美德とされたりする。そして興味深いことに、そのあいまいさの一方で、強く自己主張することもあって、そうした振れ幅も特徴的だ。能楽についてみると、シテ方、囃子方、地謡すべてが、しっかりと自己主張している。シテ方が上演中の流れを進めるリーダー的役割を持っているとしても、決して地謡がナレーターで囃子方が BGM 担当というわけではない。いわばすべてが主役であり、各自の場所をつくっている。

また「主観的」とは、人間に限った話ではない。アニミズム信仰が盛んだった日本では、おそらく人間が自然の気持ちになってその目線に立つことは普通のことだった。自然と共生してきた日本の人々は、古来から人間以外の物に命が宿ると信じてきた。いわゆる「八百万の神々」が良い例で、何にでも神を見出し祈ってきた。

以上に鑑みると、日本的なものには全て、日本で生まれ育った人々の「名付けようもない」信仰心が基盤にあるように思われる。そしていわば、ボカシ絵のようなあいまいさが美しいとされる。この感覚が全ての日本の伝統文化に共通する特徴であると言っていいい。

音楽についても同じだ。本稿では能の音楽を中心にみてきたが、日本の伝統芸能の音楽の最大の特徴は「間」であると言ってよさそうだ。そして、間の取り方も、音の高さもテンポも、西洋のクラシック音楽の場合に比べて、演奏者に委ねられる部分が多い。ここでも主観

性につながってくるが、日本の伝統芸能の音ないし音楽は、その演奏者個人だけがその時に
出せる音、奏でられる音楽である。その場限り、その人だけ、という一期一会の感覚が、西
洋のクラシック音楽よりも、日本の伝統芸能の音楽では強いと考えられる。

自然を信仰し、敬い、自然とともにあろうとする日本の人々が紡いできた美的感覚は、自
然な動き、ナチュラルさであると考ええる。西洋のクラシック音楽の立場からすれば、たびた
び現れる間も、ドレミで歌えないあやふやな音たちも気持ち悪くて仕方ないだろう。魔物め
いた、つかみどころのない音楽だ。しかし奏者の呼吸によって生まれる間は、きわめてナチ
ュラルである。音とともに、その音が生まれる瞬間の息遣いやパワーが共鳴し、聴衆の心を
揺さぶってきたのだ。その間の感覚は、知識として手に入れて実践できるものではない。楽
器の鍛錬を積み重ね完璧にできるようになってもまだ一人前ではなかろう。「くずす」とい
う感覚にも近いが、余裕やこなれ感が出てきた時初めて、本当の間を生み出せるのだと考える。
勉強したから、楽器が上手だから、といった理由で本当の良さを出せないところからも
「魔の音楽」と言えそうだ。このように日本の美的感覚が作り出す伝統芸能の音楽は、すな
わち間の音楽、そして魔の音楽であり、いわば間によって魔法をかけ人を魅了するのかもしれ
ない。

参考文献一覧

- 内田樹・釈徹宗(2023)『日本宗教のクセ』ミシマ社
- 角一典(2016)「ジブリ映画の環境思想 日本の風土に関わる考察」『北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)』第66巻 第2号 73~88頁
- 勝又浩(2008)「二人のノーベル賞作家 川端康成と大江健三郎」[星野(2008) 161-184頁]
- 北川純子(2010)「日本音楽における『間』概念の検討ー浪曲三味線の現場からー」『大阪教育大学紀要 第I部門』第59巻 第1号 1~12頁
- 熊倉功夫(1997)『禅と日本文化 第3巻 禅と能楽・茶』ペリかん社
- 小泉文夫(1994)『日本の音 世界のなかの日本音楽』平凡社
- 小宮正安(2011)『オーケストラの文明史 ヨーロッパ三千年の夢』春秋社
- 杉田俊介(2014)『宮崎駿論 神々と子どもたちの物語』NHK出版
- 鈴木大拙(2022)(碧海寿広訳)『禅と日本文化』新訳完全版 KADOKAWA
- 武満徹(2000)『武満徹著作集5』新潮社
- 多田富雄(監修)(2015)『新版 あらすじで読む名作能50選(日本の古典芸能)』世界文化社
- 田中健次(2018)『図解 日本音楽史 増補改定版』東京堂出版
- 田中英道(2016)『鎌倉文化の思想と芸術 武士・宗教・文学・美術』勉誠出版
- 釣谷真弓(2002)『おもしろ日本音楽の楽しみ方』東京堂出版
- 東儀秀樹(2005)『雅楽のこころ 音楽のちから』大正大学出版会
- 中島誠之助(2017)『中島誠之助先生、日本の美について教えてください。』祥伝社
- 中西進(2011)『こころの日本文化史』岩波書店
- 中村望(2020/2021)「【渥美幸裕インタビュー】「邦楽 2.0」で示す日本音楽の新たな姿「次世代と世界へ伝えるために」ARBAN(アーバン)ジャズを中心としたカルチャーメディア」投稿日: 2020.11.06 更新日: 2021.12.03 <https://www.arban-mag.com/article/64164>
- 西野春雄(2008)「欧米人の能楽発見」[星野(2008) 131-160頁]
- 野村朋弘(2014a)(編)『伝統を読みなおす1 日本文化の源流を探る』幻冬舎
- 野村朋弘(2014b)「明治維新の廃仏毀釈と西洋化」[野村(2014a) 33-40頁]
- 配川美加(2016)『歌舞伎の音楽・音』音楽之友社
- 福岡正太(2003)「小泉文夫の日本伝統音楽研究 ー民族音楽学研究の出発点としてー」『国立民族学博物館研究報告』第28号 257~295頁
- 星野勉(2008)(編)『外から見た〈日本文化〉』財団法人法政大学出版局
- 本郷和人(2014)「日本文化の基層の成立」[野村(2014a) 23-31頁]
- 本郷恵子(2014)「日本文化の形成」[野村(2014a) 13-21頁]
- 三浦裕子(1998)『能・狂言の音楽入門』音楽之友社
- 水里真生「日本の音階 (1) いろいろな種類と理論を研究史から整理する【民族音楽学】」
[2024年12月26日最終閲覧]

<https://acua-piece.com/ethnomusicology/scales-of-japanese-music/>

南博(1983)『間の研究－日本人の美的表現』講談社

宮崎駿(2008)『折り返し点 1997～2008』岩波書店

村上重良(2020)『日本の宗教 日本史・倫理社会の理解に』吉川弘文館

山崎有一郎(監修)(1999)『能楽入門① 初めての能・狂言』小学館

若林忠宏(2019)『「シリーズ・ニッポン再発見⑩ 日本の伝統楽器－知られざるルーツとその魅力－』ミネルヴァ書房

学研教育総合研究所(2023年10月調査)「小学生の日常生活・学習に関する調査 7. 習い事について」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://www.gakken.jp/kyouikusuken/whitepaper/202310/chapter7/01.html>

新纂浄土宗大辞典「仏教音楽」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://jodoshuzensho.jp/daijiten/index.php/%E4%BB%8F%E6%95%99%E9%9F%B3%E6%A5%BD>
デジタル大辞泉 ジャパンナレッジ「空気(くうき)を読(よ)・む」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001020473300>

独立行政法人日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」[「TOP」](#) > [舞台芸術教材で学ぶ](#) > [日本の伝統音楽](#) > [歌唱編](#) > [なっとく！よくわかる歌唱](#) > [日本語と歌唱](#) > [音階](#) > 基本となる4つの音階」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc8/nattoku/nippon/kihon/index.html>

独立行政法人日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」[「TOP」](#) > [舞台芸術教材で学ぶ](#) > [日本の伝統音楽](#) > [歌唱編](#) > [なっとく！よくわかる歌唱](#) > [日本語と歌唱](#) > [音階](#) > [基本となる4つの音階](#) > 「律音階」を体験する」[2024年12月26日最終閲覧]

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc8/nattoku/nippon/kihon/ritsu.html>

不幸な女は美しい？

—Z 世代のキャラクタービジネスと歌舞伎の
女性キャラクターに見る「不憫かわいい」の追究—

Are Miserable Women Attractive?

— “Pitiful–Cute” Seen in the Character Business for Generation Z
and in the Kabuki Female Characters—

明治大学 国際日本学部

栗山 葵衣

Meiji University School of Global Japanese Studies

KURIYAMA Aoi

目 次

はじめに

I 「かわいい」という日本語

1. 語源
2. 古典文学作品での使用例

II おばんちゅうさぎ

1. 概要とキャラクター分析
2. 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ」

III サンリオキャラクター

1. 概要とキャラクター分析
2. 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ」
3. 「サンリオキャラクター大賞」にみる「かわいそう」さ

IV 歌舞伎の女性キャラクター

1. 歌舞伎の女性キャラクターのパターン
2. キャラクター分析
 - (1) お里
 - (2) お三輪
 - (3) 千鳥
3. 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ／美しさ」
 - (1) 「かわいそう」な女性が増えた背景
 - (2) 〈クドキ〉とその他かわいそうな女を目立たせる演出
 - (3) 歌舞伎の女性キャラクターにみる「かわいそう」と「かわいい」の総括

終わりに

参考文献

はじめに

日本の文化を語る上で、「かわいい」という感情や美意識は欠かせない要素のひとつだ。この「かわいい」は、単なる見た目の愛らしさに留まらず、社会や時代の価値観を反映した多面的な文化現象として進化してきた。

現代では、その主戦場がキャラクタービジネスにあるといえる。企業が展開する多様なキャラクターたちは、愛らしい外見だけでなく、性格や背景設定、物語性などを通じて「かわいさ」を構成し、人々の共感を得ている。キャラクターは単なる商品ではなく、心を癒し、生活に彩りを与える存在として、消費者の日常に深く根付いているといえるかもしれない。

一方で、「かわいい」という感情は現代だけのものではない。歴史を遡ると、古典文学にその感情を発見することができ、また伝統芸能にもその表象を見出すことができる。特に歌舞伎における女性キャラクターのかわいさや美しさには、当時の社会構造や時代背景が深く影響している。

不幸な女性像や儚さを美德とする表現は、日本文化における「かわいい」の系譜を考える上で興味深い事象である。本稿は、現代で人気を集めるキャラクターコンテンツと伝統芸能である歌舞伎の女性キャラクターが持つ「かわいさ」について考察し、日本のかわいい文化の古今を比較検討する。この試みを通じて、現代のキャラクタービジネスに具現化されている、「かわいい」という感情の内実も明らかにしたい。

以下、第一章では語源と古典文学における使用例を確認し、日本語としての「かわいい」を紐解いていく。第二章・第三章では、1990年代後半から2000年代にかけて生まれた〈Z世代〉に支持されているキャラクターとして、それぞれ〈おぱんちゅうさぎ〉と〈サンリオキャラクター〉を取り上げ、現代で愛されるキャラクターのかわいさの出自を追究する。そのうえで、第四章では歌舞伎の女性キャラクターを主軸としそのかわいさ・美しさについて論じる。

上記三者のかわいさがどのように関わり合うのかを考えながら、時代を超えて受け継がれてきた日本人の美的感覚のひとつに迫っていきたい。

第一章 「かわいい」という日本語

1-1 語源

日本の「かわいい」文化を論じていくにあたり、まず「かわいい」という用語の定義や語源について確認しておく必要がある。

『広辞苑』（第七版）は「かわいい」を以下のように定義する。

【かわいい・可愛い】

- (1) いたわしい。ふびんだ。かわいそうだ。
- (2) 愛すべきである。深い愛情を感じる。
- (3) 小さくて美しい。

(『広辞苑 第七版』, 2018, pp. 639-640)

「かわいい」の意味として、「いたわしい。ふびんだ。かわいそうだ。」が何よりも先に挙げられていることに注目しよう。「かわいそう」という感情を「かわいい」という語で表せるというのだ。

時代を遡り、「かわいい」の元になった「かわゆい（かわゆし）」あるいは「かはゆい（かはゆし）」の意味と語源を見てみよう。比較文化学者の四方田犬彦によれば、「かはゆし」が最初に文献に登場するのは、12世紀に編纂された『今昔物語集』である（四方田, 2006, p. 30）。この語を『日本語源大辞典』は次のように解説する。

【かわゆい】

「かはゆし（かわゆし）」は「かほはゆし（顔映）」の変化した語。

- (1) はずかしい。
- (2) (物をまともに見ていられない意から) かわいそうだ。
- (3) 愛らしい。かわいい。

〈語源〉〔中略〕「見るに忍びない」の意から気の毒、不憫という（2）の意が生じ、中世の用例の大部分はこの意で用いられている。中世後半に至って、女性・子供など弱者への憐みの気持ちから発した情愛の念を示す（3）の意を派生させ、近世以降はこの意味が優勢となる。

(『日本語源大辞典』, 2005, p. 374)

「かはゆし」の語源である「かほはゆし（顔映い）」、またこれに関連する語として、

「おもはゆい（面映い）」や「まばゆい（目映い）」がある。これらに共通するのは「目立っている（＝映えている）ものを、見ていられない」という意味だ。「見るに忍びない」気持ちから生まれた「かはゆし」。すなわち「かわいい」の根源には「かわいそう」の感情があることが確認できる。

1-2 古典文学作品での使用例

さて、『今昔物語集』が編まれる中世よりも前はどうかっただろうか。奈良時代や平安時代に「かはゆし」の感情を表していた言葉は、「うつくし」である。

うつくしきもの。

瓜に書きたる児の顔。雀の子の、鼠なきするに、をどりくる。

二つ三つばかりなる児の、急ぎて這ひくる道に、いと小さき塵のありけるを目ざとに見つけて、いとをかしげなる指にとらへて、大人などに見せたる、いとうつくし。

頭は尼そぎなる児の、目に髪のおほへるを、かきはやらで、うち傾きて、物など見たるも、うつくし。〔中略〕葵の小さきも、いとうつくし。何も、何も、小さきものはみなうつくし。

上記の『枕草子』第146段の引用部の最後、「何も、何も、小さきものはみなうつくし」という態度に、千年以前から変わらない日本の「かわいい」観が見出せると指摘するのは前出の四方田である（四方田，2006，p. 33）。さきの日本語源大辞典に準拠すれば、この説で清少納言が見出した、小さな生き物をかわいく思う気持ちとは、未成熟で、脆弱で、力のある他者の庇護を必要とする存在への憐れみのようなものだろう。また四方田は日本人の「かわいい」観について、次のようにも分析している。

小さなもの、繊細なものが愛でられるのと同様に、いまだ完全に成熟を遂げていないもの、未来に開花の予感を持ちながらもまだ十分に咲き誇っていないものにこそ、価値が置かれるという事態が、日常生活のいたるところで見受けられる〔中略〕。日本人とは、人に花を贈るのに蕾を好んで贈る民族であるとは、しばしばいわれるところである。

（四方田，2006，p. 122）

四方田によれば、単に小さな生き物というだけでなく、未来の開花を控えながら成熟

を遂げていないという点にこそ、憐れみと同時に価値を見出せる¹。「七つ前は神のうち」という慣用句の背景には当時の比較的高い幼児死亡率があったようだが、古来から日本人の多くは、幼児の存在そのものや、年月と共に失われるいとけなさに尊さや希少性を発見し、愛おしさを感じていたのかもしれない。

小さな生き物への愛おしさを説いたのは枕草子だが、より深い愛情から生まれる愛おしさについては、そのはるか昔から言葉にされている。8世紀に成立した『万葉集』にたびたび登場する「かなし」がその好例である。比治山大学の前柴博子によれば、その意味は次の二つに分けられる。

①「愛し」…いとおしい。(抱きしめたいほど) かわいい。

②「悲し」…せつない。(締めつけられるように胸が) 苦しい。悲しい。

(前柴, 1990, p. 60)

前柴はさらに、当時の人々にとっては「愛し」と「悲し」の両語は交錯し、深められ、「愛が深ければ深いほど悲しい」と感じられていたと考察する(前柴, 1990, p. 60)。

語源に注目すれば、「かわいい」とは、「かわいそう」の後に生まれる気持ちだったはずである。しかし前柴が挙げる「かなし」は、「愛おしく思う気持ちが深いほど、胸が締め付けられ、悲しい」と解説されており、すなわち、「かわいそう」の後に「苦しい」が生まれている。場合によっては、「かわいそう」な「かわいい」もののせいで、「苦しい」のだ。「かわいい」とは、古来から人々を苦しめ、振り回してきた感情なのかもしれない²。

¹ 四方田はこの機微を次のような例によっても裏付けている。

歌舞伎でいまだに声変わりをしない少年たちにあえて白浪五人男を演じさせ、やがて彼らが成人して堂々たる役者となる日を空想して愉しむという習慣は、おそらく世界の舞台広しといえども、日本に固有のものである。完成されたものをあえて遠ざけ、拙くも未完成のものを愛でるという美学を、日本人は長らく大衆的に享受してきた。

(四方田, 2006, p. 122-123)

確かにこの美学は、現代にも通じている。例えば、アイドルや宝塚音楽学校の生徒がデビュー前にもかかわらず舞台に出演したり、歌手を目指す若者たちのオーディションの様子が密着取材されたりする。

² ところで、本稿は頑なに「かわいい」「かわいそう」を平仮名で表記している。両語を漢字で「可愛い」「可哀想／可哀相」と表記したところで本論考の筋道になんら影響はないのだが、清少納言の記述や「かはゆし」の語源が示すような、女性らしさや子供らしさ、庇護の要る小さき弱者、といったイメージを喚起させるために平仮名を採用している。平仮名が持つ丸みやあ

以上、「かわいい」および「かわいそう」の語源、また古典文学作品での使用例について確かめた。次章以降は、Z世代に人気のキャラクターである〈おぱんちゅうさぎ〉とサンリオキャラクター、そして歌舞伎作品に登場する女性キャラクターを例として取り上げ、「かわいそう」が喚起する「かわいさ」について探っていく。

たたかみも〈かわいい〉。

丸みのかわいさについては、本稿第三章で取り上げるサンリオも主張している。2021年から3年以上にわたって開催されている巡回展「サンリオ展 ニッポンのカワイイ文化 60年史」（筆者は2021年10月、東京シティビューの展覧会を訪問）のパネル展示のひとつには次のような文章があった。

「丸」と「三角」ならば、どちらがカワイイと感じるか？丸の方がカワイイ。では「赤い丸」と「黒い丸」ではどちらがカワイイか？赤い丸の方がカワイイ。

単純な方法ですが、それを膨大に積み上げていけば「カワイイ」のルールが浮かび上がってくるのです。

繰り返されるこうした〈比較〉によって、サンリオ社のキャラクターデザインにおける「カワイイ」の基準は生み出されている。

また、ローマ字での「kawaii」や片仮名での「カワイイ」の表記もよく目にされる。前者は海外から見た日本の若者文化について形容するときによく用いられるように思われる。対して後者は、海外の人々が「kawaii」と感じるような日本のポップカルチャーを日本人が目にしたときに発せられる言葉のような印象がある。

第二章 おばんちゅうさぎ

2-1 概要とキャラクター分析



(写真：おばんちゅうさぎ。³⁾)

〈おばんちゅうさぎ〉は、イラストレーターの可哀想に！が手掛ける、ウサギをモチーフとしたキャラクターである。2022年1月に初めてTwitter（現X）に投稿されて以降、2コマ漫画や短編アニメーションが不定期に投稿されている。GMOメディアが女子中高生を対象に行ったアンケートでは「2023年に流行ったキャラクター」として首位を獲得している⁴。

おばんちゅうさぎというキャラクターを分析するにあたり、まずその身体的特徴から列挙しよう。ピンク色の体に、大きなおむつのような形のパンツを身につけ、二足歩行をする。二頭身で、耳と手足は顔に対して極端に小さく、頭には水色のリボンがついて

³ 原田曜平／高橋学(2023)『原田曜平の若者発ヒット講座 第47回 謎ヒット「おばんちゅうさぎ」とは Z世代に響く「不憫かわいい」』, 日経クロストrend(2023/10/20), 2024年12月26日最終閲覧 <https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00019/00046/>

⁴ 『2023年流行ったキャラクターランキングは「ちいかわ」を抑えて「おばんちゅうさぎ」が1位！～「2023年のトレンド」に関するアンケート調査を実施～』, GMOインターネットグループ株式会社, 2023年12月20日, 2025年1月20日最終閲覧 <https://www.gmo.jp/news/article/8749/>

いる。顔の特徴としては、下がり眉の下に、常に涙をたたえた大きな目を持ち、唇は分厚い。喜んだり落ち込んだりと表情は豊かだが、下がり眉は維持されたままである。

作者である可哀想に！は、おばんちゅうさぎ誕生の背景について次のように明かしている。

ある日、お風呂上がりの着替えとして用意していた服の中になぜかパンツだけがなくて、『おばんちゅう……、おばんちゅう……』と言いながら探していたんです。そのときに、ふと、これは儂くて良い語感だなと思って。私が一番儂くて悲しいイメージを持っていた生き物がウサギだったので、その2つを掛け合わせて、『おばんちゅうさぎ』が生まれました⁵。

作品内ではおばんちゅうさぎの日常生活が描かれる。捨て猫を見捨てられず12匹の子猫を抱いて家路についたり、海外旅行先で家のエアコンの電源の切り忘れに気づいた人のためにビート板で海を渡ったり、火事が起き激しく燃えている家屋に子供用のじょうろを持って必死に駆けついたりなど、ひたむきな、それでいてことごとく報われないおばんちゅうさぎの様子がコミカルに描かれている。

2-2 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ」

本稿は、おばんちゅうさぎ、サンリオキャラクター、そして歌舞伎に登場する女性キャラクターを取り上げるが、このうち、おばんちゅうさぎは「かわいそうさ」がアイデンティティであるという点で特異である。最大の個性が「かわいそう」なのである。

作者の可哀想に！が制作にあたって採用したウサギの「儂さ」「悲しさ」に着目したい。「ウサギは寂しいと死んでしまう」という広く知られた迷信は、ウサギの弱々しさや儂さを象徴している。加えて寿命が7年前後と比較的短命で、繊細な性質を持ち、ストレスを抱えやすい動物であることもまた、このイメージを裏付ける要因である。そしておむつのような形をしているパンツや、「おばんちゅう」という幼児らしい発音を思わせる名称に鑑みても、おばんちゅうさぎというキャラクターの根幹には明らかな幼児性が見て取れる。ウサギという生物のデリケートさ、おばんちゅうさぎの幼児性、単純さや健気さの全ては、おばんちゅうさぎの生物としての弱さの証しである。

そんなおばんちゅうさぎのかわいさはどこにあるのか。おばんちゅうさぎのかわいそうさには既述の知的小および身体的な弱さがあり、枕草子第146段で示された「小さな生き物のかわいさ」にこれを繋げることは容易だ。しかし、より適当だと感じられる表現

⁵ 『「おばんちゅうさぎ」が大ヒット 可哀想に！がZ世代の心をつかむ理由』Forbes Japan, 2023年9月30日, 2024年12月26日最終閲覧

がある。マーケティングアナリストの原田曜平がおばんちゅうさぎに代表される「かわいい」の在り方を称した〈不憫かわいい〉である。すなわち、不憫であることが可愛く、応援したくなる、という感情だ。原田はこの〈不憫かわいい〉が 2020 年代の現代の若者に広く人気を博していると指摘し、その要因について以下のように考察する。

この 30 年間、給料も変わらず、がんばってもあんまり状況が変わらない、という時代になっているわけです。Z 世代の子たちはこの低成長な時代が当たり前なので、「がんばれば報われる」という図式に共感を持ちづらいのではないかと、思うんです⁶。

低成長の時代によって〈不憫さ〉が若者の共感を集めている、というのがその主旨だ。不憫であることがかわいいという機微は、若者にとって、不景気の世の中に生きる自分たちを慰め、励ましてくれるお守りのようなものなのかもしれない。

ところで、「キュートアグレッション」という言葉がある。人間の赤ちゃんや動物などのかわいい生き物を見ると攻撃したくなってしまう、という心理現象または衝動の意だ。かわいいおばんちゅうさぎがかわいそうな目に遭っているという構図を、キュートアグレッションに当てはめることは可能だ。しかし実際の〈不憫かわいい〉に魅せられたおばんちゅうさぎの受け手は、その不遇さを憐れみながら楽しみ、可愛がり、応援している。不幸であってほしいのか、幸せになってほしいのか。どっちつかずの姿勢ではあるが、この楽しみ方は「キュートアグレッション」の進化系と見なすこともできそう。いずれにせよ、似て非なるものであることには留意しておきたい。

⁶ 原田曜平(2023).『第1回 不憫な状況を愛でる文化? | 「Z 世代」って、どんな世代?』ほぼ日刊イトイ新聞 (2023/4/22), 2024 年 11 月 8 日最終閲覧 https://www.1101.com/n/s/yohei_harada/2024-04-22.html?srsltid=AfmB0ooOWjW0DxMrv4019YaQ5hj3pKt05_KWxk0f9Xyi4G51eg1okwDu

第三章 サンリオキャラクター

3-1 概要とキャラクター分析

サンリオキャラクターとは、株式会社サンリオが著作作品および商標を保有するキャラクターである。株式会社サンリオは 1960 年に東京都に設立された日本の企業で、「みんななかよく」の企業理念のもと、ギフトおよびグリーティングカードの企画・販売、テーマパーク事業などを行ってきた。独自のキャラクターを資産とし、1973 年に初めて生み出された〈コロちゃん〉をはじめ、世界中で人気を博している〈ハローキティ〉や〈シナモロール〉など、その総数は 450 以上に上る。

そのキャラクターのうち、本章で取り上げたいキャラクターは〈クロミ〉、〈ポムポムプリン〉、および〈ハンギョドン〉である。



(写真：左から、クロミ、ポムポムプリン、ハンギョドン。⁷⁾)

クロミは、ウサギのキャラクター〈マイメロディ〉のライバルとして 2005 年に登場したキャラクターで、りーも、小林久美子によって考案された。白いウサギの女の子で、黒い頭巾を被っている。まつ毛が生えた吊り目をしており、先端がスペード型の悪魔のような尻尾を持っている。テレビアニメ『おねがいマイメロディ』(2005)では、日常生活や恋路を主人公のマイメロディに邪魔され乱暴な言動を繰り返すが、涙もろく人情に

⁷ 「クロミ | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日最終閲覧

<https://www.sanrio.co.jp/characters/kuromi/>

「ポムポムプリン | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日最終閲覧

<https://www.sanrio.co.jp/characters/pompompurin/>

「ハンギョドン | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日最終閲覧

<https://www.sanrio.co.jp/characters/hangyodon/>

厚いキャラクターでもある。

ポムポムプリンは 1996 年に地井明子によって考案されたゴールデンレトリバーのキャラクターである。全体的にかなり丸みを強調したデザインであり、その四肢は耳よりも小さい。目、鼻、口のパーツはサンリオキャラクターの中では比較的シンプルで小さい。黄色い体に茶色のベレー帽を被っている姿から「プリン」と呼ばれており、チャームポイントはおしりの穴とされる。

ハンギョドン は 1986 年に井上・ヒサト、原田香によって考案されたキャラクターで、中国から来た不思議な半魚人という設定である。二頭身で、鱗の付いたからだと四肢を持っているが、頭部にも背鰭と胸鰭のようなデザインが施されている。顔の横幅いっぱい広がった分厚い唇はあまり動くことはなく、笑顔は口角を上げず目だけで表現される。ヒーローになりたがっているが、いつもうまくいかないのだそう。

3-2 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ」

さて、前節に挙げたキャラクターたちの「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ」について考察していこう。

クロミのかわいさは、その「一生懸命さ」によるところが大きい。2021 年からは「世界クロミ化計画」と銘打って、ファンを世界中に増やすべく、歌手活動や単独 SNS に尽力している。『おねがいマイメロディ』では何かと報われなかったクロミであるが、2024 年現在のマイメロディを凌ぐ人気⁸や世界クロミ化計画の盛況から、その存在はサンリオのキャラクタービジネスにもはや不可欠である。

ポムポムプリンの〈おしりの穴〉はキャラクタービジネスにおいて前代未聞の試みであった。しかし開発当時サンリオ社ではその個性を絶賛されたといい、〈おしりのしるし〉として、ポムポムプリンの友達やガールフレンドのキャラクター全員にも同じデザインが採用されている⁹。また、その表情に見出せる〈ゆるさ〉も好評だ。小さな点で描かれたシンプルな目と、小さな鼻と口。おぱんちゅうさぎの、ハイライト（光が当たって白くなっている部分）がのった大きな瞳とは対極にある。ゆるキャラを愛好・研究するアイドルの寺嶋由芙は、ポムポムプリンははじめとするサンリオキャラクターについて、「顔のパーツが少なく、間に空白が多いという特徴から文字通り「間が抜けた」顔つきをしている」と指摘するとともに、「この表情筋の少なさにより、キャラ本人が発する表情（感情）の精度が落ちるため、受け手が自由に想像する余地が生まれます」と

⁸2024 年のサンリオキャラクター大賞（人気投票企画）では、2,723,108 票のマイメロディを破り、4,125,678 票を獲得し総合順位 3 位に輝いた。

⁹ 過去にはおしりの穴からペーパーを取り出すティッシュカバーも発売された。

分析し、この魅力を「マヌかわいい」と名付けている¹⁰。「おしりのしるし」やその間の抜けた表情は、洗練されたデザインとはほど遠い。しかしその「間抜けさ」こそがファンを魅了したことは、ポムポムプリンがデビュー1年目にして人気投票で首位を獲得した事実が証明している。

ハンギョドンのかawaiiさは、半魚人がモチーフという、王道から外れた「ブサかわいさ」にある。「ブサかわいさ」なる感情の構造については、東京女子大学の石川なつ美が「気持ち悪い、ブサイクだという理由で本来「かわいい」から排除されていたものに対して、同情心から愛着が湧き、その結果「かわいい」と形容することができる」と解析しており(石川, 2016, p29)、ここにも「かわいい」の根源たる「憐れみの気持ち」が働いていることを発見できる。またサンリオ社のマーケティングを担当する川崎真子は、ハンギョドンの人気の背景を次のように考察する。

思春期の頃って、“人とは違う自分”を演出したくなる時期がありますよね。最初にサブカルにハマるのもその時期。ハンギョドンが若い世代に人気なのも、いわゆる“王道のカワイイじゃない何か”を求めている年頃にフィットした方が多かったのかな?¹¹

ここで、以上三つのキャラクターについて整理してみよう。黒色や悪役モチーフのクロミ、間抜けさとベビースキーマ¹²に当てはまらない小さな目売りにするポムポムプリン、そして半魚人というカワイイ文化の中ではいわば「ゲテモノ」に位置するようなハンギョドン。これらのキャラクターは、「王道のかawaiiさではない」という「かわいそうさ」を有しており、その「かわいそうさ」こそが「かわいい」を生み出している¹³。この「かわいい」こそ、おばんちゅうさぎにも見出せた〈不憫かわいい〉そのものである。またこの「非王道かわいい」こそが、サンリオキャラクター、ひいては日本と世界

¹⁰ 寺嶋由芙(2021)『マツコの知らないサンリオキャラクター(とゆるキャラ)の世界』note, 2021年3月2日 2024年12月26日最終閲覧
https://note.com/yufu_terashima/n/ndfc289d2e7db

¹¹ 川崎真子(2023)【サンリオ社マーケティング担当者】『なぜ?「ハンギョドン」謎の返り咲き、ブサカワかサブカルか…Z世代求める“王道じゃない何か”にフィット』ORICON NEWS, 2023年7月31日【2024年12月26日最終閲覧】
<https://www.oricon.co.jp/news/2288847/full/>

¹² 「かわいい」と表現される対象に共通する特徴をまとめたもの。身体に比して大きな頭、顔の中央よりやや下に位置する大きな眼、短くてふとい四肢、全体に丸みのある体型などの例がある。

¹³ 劣勢な立場にある者やチームに同情の心を抱き応援したくなる心理現象である〈アンダードッグ効果〉や〈判官贔屓〉は、こうした憐れみから生まれる愛着に類似している概念である。

のカワイイ文化の多様性を生み出している。

3-3 「サンリオキャラクター大賞」にみる「かわいそうさ」

ところで、各サンリオキャラクターの人気の指標として活用されているのが、人気投票企画として 1986 年から毎年実施されている「サンリオキャラクター大賞」である。現在は国内に加え、海外部門として 13 の地域別の投票も行われており、サンリオ社の世界規模でのキャラクタービジネスにおける調査および広報を担う重要な企画である。その投票期間の中で、エントリーしたキャラクターは、SNS 等を通じて自身への投票を呼びかける。この運動に見出せる「かわいそうさ」にも言及しておきたい。以下にその例を挙げる。

1980～90 年代に注目された男子キャラクターたちによるユニット「はぴだんぶい」には〈ポチャッコ〉や〈パッドばつ丸〉といった人気キャラクターが在籍しているが、この中でリーダーである〈あひるのペックル〉のみが、キャラクター大賞で唯一トップ 10 入りを果たせない状態に思い悩んできた。2021 年には「はぴだんぶい」公式 X において、トップ 10 入りを経て発売された他のメンバーの新商品を宣伝し、「来年こそは必ずぼくも…！」とその野心を覗かせている¹⁴。そんなペックルだが、2024 年にはここ数年立ちはだかってきた“上位 15 位の壁”を乗り越え見事 11 位にランクインした。最後にトップ 10 入りした 1994 年から 30 年の時を経て、ペックルは多くのファンを感動させるドラマを見せた。

あるいは〈かぶきにゃんたろう〉だ。これは松竹とサンリオが共同開発した、歌舞伎座に住む三毛猫のキャラクターである。そんな彼のキャラクター大賞における野望は、トップ 10 入りではなく、「にゃんにゃん」に因んだ 22 位の座¹⁵。公式 X では、22 位を

¹⁴ はぴだんぶい【公式】[@hapidanbui], (2021. 9.15), ペックル「全国のセブン-イレブンとイトーヨーカドーで、5 人が登場する

サンリオキャラクター大賞当りくじが発売中だよ！

来年こそは必ずぼくも…！！ぼく、もっともっと頑張るから、みんなも応援よろしくね！」

5 人「来年こそは一緒に…！待ってるよ、ペックル！」

<http://eng.mg/6c838>

#当りくじ, [X], Retrieved from <https://x.com/hapidanbui/status/1437974490370088961>

¹⁵ かぶきにゃんたろう【公式】[@kabukinyantaro], (2023.5.24)にゃんにゃんの 22 位になれたら・・・

#サンリオキャラクター大賞 2023 #キャラ大 2023

▼投票はコチラ_

https://ranking.sanrio.co.jp/characters/kabukinyantaro/?utm_source=tw&utm_medium=social

達成したご褒美として旅行やスイーツを楽しむ妄想をしている¹⁶。

最後の例に挙げる〈リトルラヴィン〉で、これはサンリオがあいち銀行のイメージキャラクターとして開発した犬のキャラクターである。毎年キャラクター大賞にエントリーしているものの、その結果は芳しくなく、最高順位は初登場の 2016 年に記録した 90 位（100 キャラクターのうち）。特に 2020 年からは、22 年の 79 位（80 キャラクターのうち）を除いて、全ての年で最下位を記録しているという、極めて不憫なキャラクターである。あいち銀行公式 X では、笑顔で飛び跳ねながら最下位を報告するリトルラヴィンが確認できる¹⁷。

SNS を用いたこのような運動の中に、ファンがつい応援したくなるようなキャラクターの「かわいそうさ」が見出せる。ペックルの 30 年ぶりの好成績は、アンダードッグ効果の賜物だろうか。

&utm_campaign=twkn_ct2023_01[X], Retrieved from
<https://x.com/kabukinyantaro/status/1661296980998623232?mx=2>

¹⁶ 同上

¹⁷ あいち銀行[@aichibank_jp], (2021.4.30), #サンリオキャラクター大賞 去年の順位は…

#愛知銀行 #リトルラヴィン #サンリオ, [X], Retrieved from
https://x.com/aichibank_jp/status/1387916170297102336?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1387916170297102336%7Ctwgr%5Ec30b87de59630cdd1f30ed043056d34ea7222bd6%7Ctwcon%5Es1_&ref_url=https%3A%2F%2Fnote.com%2Fnaiteikumamori%2Fn%2Fnb9d6f544ab50

第四章 歌舞伎の女性キャラクター

4-1 歌舞伎の女性キャラクターのパターン

本章以降はキャラクタービジネスから目を転じて、歌舞伎の女性キャラクターにみる「かわいさ」「かわいそうさ」について論じていく。

歌舞伎はユネスコの世界無形文化遺産にも登録されている日本の伝統的な演劇で、1603 年に出雲阿国という女性が京都で披露した〈かぶき踊り〉がその発祥である。当初は女性が演じていたが、風紀を乱すとしてまもなく女性の出演が禁止され、少年が演じる〈若衆歌舞伎〉を経て、成人男性だけが演じる〈野郎歌舞伎〉が主流となった。

男性のみによって演じられることは、歌舞伎における最大の特徴である。男性を演じる役者は〈立役（たちやく）〉と呼ばれるのに対し、女性を演じる役者は〈女形（おんながた／おやま）〉と呼ばれ、女形を専業とする場合もあれば、立役と女形の双方を務める場合もある。女形が演じるキャラクターにはさまざまな役柄がある。

本稿で注目したいのはエッセイストの酒井順子による記述である。酒井は「不幸こそが、女性（正確に言えば女形の、ということになるわけですが）の美を引き立たせる役割を担っている」（酒井，2014，p. 9）と断言し、女形の役柄のうち 20 のパターンを紹介している。その一部が次のパターンだ。

・嫉妬する女	・突っ走る女
・身を落とす女	・いじめられる女
・運の悪い女	・だめんず好きな女
・無理する女	・追う女
・化ける女	

（酒井，2014，p. 7）

酒井はこれらのパターンに見られる「不幸によって引き立てられる女の美しさ」の存在を繰り返し主張している。幽霊となって化けて出たり、廓に身を落としたりといった、女性が不幸の底に落ちた「かわいそう」な姿は、女性の美しさを増幅させ、観客に興奮をもたらすものであるようだ。

次節からは、そんな不幸に翻弄された三人の女性キャラクターである、お里、お三輪、千鳥を例に、彼女たちの美しさの源に迫っていく。

4-2 キャラクター分析

4-2-1 お里

お里は『義経千本桜』の『すし屋』に登場する娘である。自分の生家であるすし屋に住み込みで働く許嫁の弥助にのぼせ上がっており、弥助を無理やり「新婚ごっこ」に巻き込むほど祝言を待ちきれない様子だ。しかし浮かれた雰囲気から一転して、物語中盤には弥助（実は平維盛）が妻子ある身であったことが発覚する。するとお里は切々と、次のような台詞で娘心を吐露する。

絵にあるような殿御のお出で
女の浅い心から、かわゆらしい、愛らしい、と思ひ染めたが恋のもと
雲居に近き御方へすし屋の娘が惚れられうか
一生連れ添う殿御ちゃと思ひ込んでゐるものを

こうしてひどく苦しんだお里であったが、潔く維盛を諦め、源氏方に追われている維盛とその妻子を匿う手助けをする。

このお里は、歌舞伎で最もドラマチックに描かれているヒロインのひとりである。前半の娘らしい無邪気な浮かれっぷりから一転して、不幸のどん底に落とされるこの落差が、お里を記憶に残る魅力的なヒロインたらしめている。

前半の弥助と戯れる場面では、コメディタッチな〈新婚ごっこ〉が特に印象的である。お里は弥助に、帰宅したら手ぬぐいを肩にかけ片足を少し前に出して「女房どものお里、今戻った」と言うように指示し、お手本を見せて何度か練習をさせ、満足のいく演技を見て嬉しそうに喜ぶ。

「女房どものお里」と呼び捨てにしてくれ、という件りは、原作の人形浄瑠璃にはない、歌舞伎の〈入れ事〉の演出である¹⁸。この演出はお里の無邪気さにさらに磨きをかけ、恋に恋する娘らしさを示す。その一方で伏線となり、後に弥助との悲恋に泣き叫び、潔く恋を諦める展開になった際には観客の同情を誘う。維盛の妻帯を受け入れ、あまつさえ維盛と妻子を匿おうとする姿には、お里の腹の据わりようや健気さが感じられる。

4-2-2 お三輪

次にお三輪だ。彼女は『妹背山婦女庭訓』の『三笠山御殿』ほかに登場する酒屋の娘である。お三輪は、恋い慕う求女（もとめ。実は藤原鎌足の息子）に橘姫という許嫁がいることを知り、激しい嫉妬に駆られる。姫を追う求女を追いかけけるお三輪は、たどり着いた屋敷で官女たちに取り囲まれる。官女たちは求女に会わせると言いながらも、罵

¹⁸ 弥助と二人でいるところを邪魔された兄に向かって「兄さん、ビビビビビー」とあっかんべーをする演出とともに、江戸の蓮葉なお転婆娘を得意にした女形五代目岩井半四郎によって確立された（古井戸, 2010, p. 149）。

倒したり、田舎の歌を歌わせたりして、お三輪を激しくいじめ抜く¹⁹。その後、奥から求女と橘姫の祝言を祝う声を聞きつけたお三輪は、理性を失い、奥へ駆け入ろうとする。

しかしそのとき、鎌足の家来がお三輪に刃を突き立てる。この家来がお三輪を刺した目的は、〈嫉妬の相〉がある女の生き血である。すなわち、情念が深ければ深いほど効果があるという生き血によって、鎌足と求女の念願である、宿敵・入鹿の討伐が叶うというのである。自分の死が恋人の役に立つ、と知ったお三輪はとても喜び、もう一度逢いたい、と求女を想いながら息絶える²⁰。

このお三輪の「かわいそうさ」は衝撃的だ。思い人である求女に振り向いてもらえず、必死に追いかけた先の屋敷の中ではいじめられ、最後には刺し殺されてしまう。なんとも救いのない末路をたどる女性である。求女の役に立てるなら、と喜んで生き絶えていくさまは壮絶だ。悲劇的な運命の中に光る、求女への一途で献身的な愛は、お三輪の健気な人間性を象徴している。

4-2-3 千鳥

最後に挙げる千鳥は、『平家女護島 俊寛』に登場する海女の娘である。

『俊寛』の舞台は、都から遠く離れた鬼界ヶ島だ。平清盛への謀略を図った罪で、俊寛僧都が、丹波少将成経、平判官康頼とともに流罪にされて、三年が経っている。都の優雅な暮らしとは程遠く、衣食もままならず、いつの日か許されて都に帰ることだけを唯一の希望とする毎日である。

ある日、成経が海女の千鳥を妻に迎えるといっただけで連れてきた。千鳥は「りんによぎやってくれめせ（かわいがってくださいませ）」と挨拶する。4人はこれから家族同様に暮らしていこうと、盃代わりの貝殻、酒のつमりの清水で、ささやかな祝いの宴を始める。

そこへ、待望の、都への帰還を許す赦免船がやってきた。帰りたいが三人は喜んで、千鳥を伴って船に乗り込もうとする。しかし赦免状に名前がないとして、千鳥の乗船が拒まれてしまう。千鳥は「鬼界ヶ島という名の島だが鬼はいない、鬼がいるのは都だ」と嘆き悲しむ。俊寛はそんな千鳥をかわいそうに思い、使者を斬り殺す。そうすることで、自らを犠牲にして、代わりに千鳥を船に乗せるのだ。つまり俊寛は島に永遠に留まる決意をした。俊寛は、遠ざかる船に向かって悲痛な叫びを繰り返しながら船を見送る。この場面で物語は幕を閉じる²¹。

¹⁹ いじめられている最中にも、求女がいる方の舞台上手を常に気にして、求女が見えないか探っている。ここにもお三輪の健気さがうかがえる。

²⁰ 『妹背山婦女庭訓 | 歌舞伎演目案内』Kabuki Play Guide 2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://enmokudb.kabuki.ne.jp/repertoire/1176/>

²¹ 『平家女護島～俊寛 | 歌舞伎演目案内』Kabuki Play Guide 2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://enmokudb.kabuki.ne.jp/repertoire/1158/>

島流しにされた主人公俊寛の無念や都への憧憬は、本作の冒頭から繰り返し強調されており、それ自体が俊寛への深い同情を誘う重要な要素として機能している。そして、念願の都への帰還が赦されながらも、現地の田舎娘・海女千鳥によってその夢は再び叶わぬものとなる。このプロットを見る限り、千鳥が物語の〈悪役〉として描かれる可能性は十分にあり得た。

しかし、そうはならなかった。それは、千鳥が単なる障害ではなく、むしろ彼女自身の魅力的な人間性が際立って描かれていたからに他ならない。その人物像はとにかく健気だ。

俊寛に紹介される場面で初めて登場する千鳥は、田舎娘らしく、どたどたと花道を駆けってくる。しかしその直後、照れ臭さと身分違いの都人に紹介される恥ずかしさで、我を失い、花道を引き返し、走って戻っていつてしまう。

その後も恥ずかしそうに顔を隠したり、既述の薩摩訛りで可愛らしく挨拶したりと、千鳥の純粋な娘らしさは観客の頬を緩ませる。しかしそんな序盤から一転して、自分だけが都行きに船に乗れないと分かった際の千鳥の取り乱しようもまた強く印象に残る。そして千鳥の乗船を拒む使者と俊寛との立ち回りでも、千鳥はその健気さから、熊手を持って加勢しようとする。

2024年10月に歌舞伎座・錦秋十月大歌舞伎にてこの千鳥を演じた上村吉太郎は、千鳥について感情の起伏がはっきりしており、かつその感情に素直に動くことのできる人物と捉え、次のように語っている。

千鳥にとっては少将が初恋だと思います。その人が連れていかれる。一緒に連れていってもらいたい。裕福な生活なんて望んでいない、一緒にいらればそれでいいのにと。でも自分のために三人が残るというのは申し訳ない、どうしよ、どうしよという気持ち。ここはもうめっちゃくちゃ複雑です²²。

また吉太郎によると、千鳥の出で立ちは海女の身分を仄めかせるヒトデ柄の着付けに珊瑚の髪飾りという趣向²³。結婚の挨拶に際して、自分のコレクションの中から髪飾りを選んだのかもしれない。自分で獲ったであろう珊瑚を髪飾りにしておしゃれを楽しむところにもまた、千鳥の健気な娘らしさが垣間見える。

²² 上村吉太郎(2024), 取材・文:五十川晶子 『「ゆけ! ゆけ! 歌舞伎「深ボリ」隊!!」 今月の歌舞伎座、あの人に直撃!! 特集(第32回) 上村吉太郎『俊寛』千鳥「かわいくて純粋。強い一面も持つ娘」』ぴあエンタメ情報, 2024年10月2日 2025年1月13日最終閲覧

<https://lp.p.pia.jp/article/series/220561/383206/index.html?page=4>

²³ 同上

4-3 「かわいそうさ」から生まれる「かわいさ／美しさ」

さて、ここからは、より「かわいそうさ」に焦点を当てて、歌舞伎に登場する女性たちの魅力の核心に迫っていこう。

4-3-1 「かわいそう」な女性が増えた背景

ところで、歌舞伎の作者が男性だけだったということも、歌舞伎の中のジェンダーを考える上では示唆に富む。前出の酒井は次のように指摘している。

男性戯作者が江戸時代に書いた、古典歌舞伎。そこで描かれる女性像というのは、その時代に女性がどんな存在であったか、そしてどんな存在であるべきであったかを示します。さらに歌舞伎に登場する女たちからは、その時代の男性が、女性のどこを恐れていたかも、透けて見えるような気がするのです。

(酒井, 2014, p. 2)

酒井によれば、古典歌舞伎の女性像には「その時代に女性がどんな存在であるべきだったか」が反映される。先に引用した酒井の「不幸こそが、女性の美を引き立たせる」という言葉を思い出しても、古典歌舞伎で描かれる女性像の多くに関して、不幸がアイデンティティのひとつであったという点は断言してよい。

この不幸を生み出したものを推理すると、歌舞伎が生まれた江戸時代の身分制度に見える、男尊女卑の価値観が想起される。この価値観がいつ頃から、何に端を発して、我が国に根付いたのかについては、本稿では詳しく追究しないが、少なくとも、武士が生まれ台頭し、武家政権が成立したことは、日本のジェンダー史をたどる上で必ず論及されたい。

江戸時代の男尊女卑的価値観は、武士の台頭や武家政権の成立によって強まった。鎌倉時代以降、女性が夫の家庭に入る結婚形態が定着し、〈三行半〉なしでは離婚もできず、武家では男児を産むことが重視され、女性に大きな負担がかかった。江戸時代には武士が最上位の身分とされ、武家に生まれた男子は、武士としての教育、女子は夫を支える教育を受けていた。典型的なのは、貝原益軒(1630-1714)によるそれだ。本草学や医学を研究する傍ら、儒学に基づいた教育思想も伝播させ、江戸時代の教育に多大なる影響を与えた益軒の著した『和俗童子訓』(1710)の中に、女子教育に対する彼の考えを垣間見ることができる。

女は人につかふるものなれば、父の家富貴なりとても、夫の家にゆきては、其おやの家にありし時より身をひきくして、舅姑にへりくだり、つつしみつかへて、朝夕のつとめおこたるべからず。

父母に順はざると、夫の家にありて、しうと、しうとめにしたがはざるは、婦人

第一の悪なり。

いにしへ、天子より以下、男は外をおさめ、女は内をおさむ。

女子には、早く女功をおしゆべし。女功とは、をりぬい、うみつむぎ（紡績）、すすぎあらひ、又は食をととのふるわざを云。

（貝原，1974[1710]，pp. 215-220）

以上は益軒による女子教育思想のほんの一部にすぎないが、彼の理想とする女子像を察するに十分事足りる。『和俗童子訓』は日本における教育論の先駆けとして、後の寺子屋教育の礎とされた（中村学園大学・中村学園大学短期大学部「貝原益軒アーカイブ」）。益軒の教育思想は、江戸時代におけるジェンダーギャップを深化させた要因の一つに考えられよう。

あるいは、「五障三従」という言葉がある²⁴。仏教の展開の中で形成された女性観を表す語である。女性の資質や能力上、女性には達成できないと主張される五つの事柄（五障）と、未婚時は父に、結婚後は夫に、夫の死後は子に従うべき（三従）だという主張であり、女性は生涯にわたり、家族内において従属的であるべきだったことを指す。

儒教や仏教の教えにあったこのような女性観も、古典歌舞伎において不幸な女性キャラクターが誕生した背景のひとつとして推測される。

4-3-2 〈クドキ〉とその他かわいそうな女を目立たせる演出

ところで、本章では歌舞伎作品に描かれたかわいそうな女性キャラクターを論じてきたが、実際の舞台では、そんな彼女たちに花を持たせるような演出が存在する。そのひとつが、女性が自らの心情を訴える場面である〈クドキ〉である。

〈クドキ〉では、時に繊細で時に力強い台詞回しや、高低や強弱で表現される抑揚のついた発声によって、登場人物の内情が最大限に発散される。クドキは、台詞劇ではもちろん、舞踊においても、女形の激情を表す重要な芸の見せどころ、聴かせどころであり、物語や感情の盛り上がりを観客に伝えるために欠かせない技法だ。お里が弥助との悲恋に苦しむ様子を伝える一連の台詞や、千鳥がたった一人舞台上で恋人と離れ離れになる辛さを訴える台詞は、まさにこのクドキの例である。

ここで打ち明けられる女性の胸の裡は、切ない恋慕の情や悲しみ、葛藤、恨みつらみといったものが多い（金田，2023年12月14日最終閲覧）。言い換えれば、切ない恋や恨めしい気持ちに悶え苦しむ様子が、歌舞伎における女性の重要な見せ場のひとつとされているということである。

²⁴ 新纂浄土宗大辞典「五障三従」2024年12月26日最終閲覧

<https://jodoshuzensho.jp/daijiten/index.php/%E4%BA%94%E9%9A%9C%E4%B8%89%E5%BE%93>

またそのようなクドキの場面では、しばしば女形が泣き崩れる。女形が心境を切々と吐露し、その台詞を言い終わったことを暗に示すように泣き崩れる、とその時、観客からどっと拍手が湧き起こる。つまり、怒りや悲しみ、嫉妬といった感情が爆発する場面に、歌舞伎の女性キャラクターの美しさが光っているのである。このことは、女形が伝える〈不幸さ〉と〈美しさ〉を考える上で、特に注目に値する。

4-3-3 歌舞伎の女性キャラクターにみる「かわいそう」と「かわいい」の総括

歌舞伎に登場する女性たちの「不憫さ」は、ただ「報われない」「想いが成就しない」といったものにとどまらず、「田舎者であること」「殺されてしまうこと」など、400年の歴史を感じさせる豊富なバリエーションがある。しかし、その幅広く、時には過激な不憫さと同時に、女性の一生懸命さや一途さもはっきりと描写されている。こうして「かわいそうさ」と「かわいさ」がセットで描かれることで、両者はより一層際立ち、物語に強いインパクトを生んでいる。

加えて、当時のジェンダーギャップが生み出した身分の低さをベースとしたキャラクター性や展開も印象深い。例えば、武将との悲恋に苦しむお里が大店の令嬢であったら、強烈なクドキの場面になっただろうか。「すし屋の娘に過ぎない自分が絵に描いたような素敵な武将に夢中になってしまった」、というお里の悲痛な叫びは、単なる恋心の告白ではなく、二人の間に存在する身分の違いという大きな壁を強調する。この身分の違いという設定が、維盛との関係がいかに望み薄であったかを浮き彫りにし、この『すし屋』の場を一層味わい深いものにしている。

このお里に限らず、ここまでに論じてきた歌舞伎の女性キャラクターは、その全員が「かわいそう」さを有し、そしてそれが「かわいさ」や「美しさ」といった魅力に繋がっている。このことは、現代のキャラクタービジネスを象徴する「不憫かわいい」に通じるように思われる。あるいは、歌舞伎に「不憫かわいい」のルーツのひとつが見出せる、ともいえるかもしれない。

終わりに

本稿は、Z世代に支持される日本のキャラクターと、歌舞伎に登場する女性キャラクターを取り上げ、それらを通じて、「かわいい」という感情の在り方について考察してきた。「かわいい」という日本語が示す感情の対象は非常に幅広く、その背景には多様な要因が存在する。その中でも本稿が特に注目したのは、「かわいそうさ」から派生する〈不憫かわいい〉という感情であった。この感情が、歌舞伎の演出や現代のキャラクタービジネスを支える重要な要素であることを改めて強調したい。

成功や完璧さよりも、不完全さや不遇さに共感を寄せるZ世代の感受性が、〈不憫かわいい〉という感情の基盤を形成している。一方、歌舞伎に登場するかわいそうな女性キャラクターには、当時の社会に根付いていたジェンダーギャップや、不幸を美しいものとする演出の影響が色濃く見られる。これらのキャラクターは当時の価値観を象徴する存在であると同時に、現代の〈不憫かわいい〉という感情に通じる点も持ち合わせている。時代を超えて受け継がれる日本の美的感覚のひとつがここにかがえる。

本稿は、「かわいい」という感覚だけでなく、日本のキャラクターコンテンツにおける多様性や、歌舞伎という伝統芸能に見られるジェンダー観や表現技法についての理解を促すことを試みた。「かわいい」は、日本の文化や歴史を読み解くための、最も有効な鍵のひとつなのである。

参考文献

- 石川なつ美(2016).『「かわいい」の意味について』東京女子大学言語文化研究 24, pp 21-35, 東京女子大学言語文化研究会
- 『妹背山婦女庭訓 | 歌舞伎演目案内』Kabuki Play Guide 2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://enmokudb.kabuki.ne.jp/repertoire/1176/>
- 『「おぼんちゅうさぎ」が大ヒット 可哀想に！が Z 世代の心をつかむ理由』Forbes Japan 2023 年 9 月 30 日 2024 年 12 月 26 日 最終 閲 覧
<https://forbesjapan.com/articles/detail/66135>
- 貝原益軒(1774[1710]).『和俗童子訓 (宝永七年版)』(「貝原益軒 上巻」日本図書センター, 1974 年 1 月より)
- 『貝原益軒アーカイブ | 図書館 | メディアセンター | 研究所・付置施設 | 中村学園大学・中村学園大学短期大学部』
<https://www.nakamura-u.ac.jp/institute/media/library/kaibara/archive04.html>
2023 年 12 月 14 日最終閲覧
- 河竹登志夫監修、古井戸秀夫編 (2010).『歌舞伎登場人物辞典 (普及版)』白水社
- 金田栄一,『くどき 口説き | 歌舞伎用語案内』, 歌舞伎用語案内, 2023 年 12 月 14 日
最終閲覧 <https://enmokudb.kabuki.ne.jp/phrasology/3365/>
- 上村吉太郎, 取材・文:五十川晶子(2024).『「ゆけ！ゆけ！歌舞伎“深ボリ”隊！！」
今月の歌舞伎座、あの人に直撃！！特集(第 32 回) 上村吉太郎『俊寛』千鳥「かわ
いくて純粋。強い一面も持つ娘』ぴあエンタメ情報, 2024 年 10 月 2 日 2025 年
1 月 13 日 最 終 閲 覧
<https://lp.p.pia.jp/article/series/220561/383206/index.html?page=4>
- 「企業理念 | 株式会社サンリオ」2024 年 12 月 12 日最終閲覧
<https://corporate.sanrio.co.jp/corporate/spirit/>
- 「クロミ | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日 最終 閲 覧
<https://www.sanrio.co.jp/characters/kuromi/>
- 酒井順子(2014).『女を観る歌舞伎』, 文藝春秋
- 寺嶋由芙(2021).『マツコの知らないサンリオキャラクター(とゆるキャラ)の世界』,
note, 2021 年 3 月 2 日, 2024 年 12 月 26 日 最終 閲 覧
https://note.com/yufu_terashima/n/ndfc289d2e7db
- 新纂浄土宗大辞典「五障三従」2024 年 12 月 26 日最終閲覧
<https://jodoshuzensho.jp/daijiten/index.php/%E4%BA%94%E9%9A%9C%E4%B8%89%E5%BE%93>
- 新村出編(2018).『広辞苑 第七版』, 岩波書店

『なぜ? 「ハンギョドン」 謎の振り返り、ブサカワかサブカルか…Z 世代求める “王道じゃない何か” にフィット』ORICON NEWS, 2023 年 7 月 31 日 2024 年 12 月 26 日最終閲覧

<https://www.oricon.co.jp/special/64213/2/>

『2023 年流行ったキャラクターランキングは「ちいかわ」を抑えて「おばんちゅうさぎ」が 1 位! ～「2023 年のトレンド」に関するアンケート調査を実施～』, GMO インターネットグループ株式会社, 2023 年 12 月 20 日, 2025 年 1 月 20 日最終閲覧
<https://www.gmo.jp/news/article/8749/>

はぴだんぶい【公式】[@hapidanbui], (2021. 9. 15), ペックル「全国のセブン-イレブンとイトーヨーカドーで、5 人が登場するサンリオキャラクター大賞当りくじが発売中だよ! 来年こそは必ずぼくも…!! ぼく、もっともっと頑張るから、みんなも応援よろしくね!」5 人「来年こそは一緒に…! 待ってるよ、ペックル!」

<http://eng.mg/6c838>

当 り く じ , [X], Retrieved from
<https://x.com/hapidanbui/status/1437974490370088961>

原田曜平(2023).『第 1 回 不憫な状況を愛でる文化? | 「Z 世代」って、どんな世代?』ほぼ日刊イトイ新聞(2023/4/22), 2024 年 11 月 8 日最終閲覧
[https://www.1101.com/n/s/yohei_harada/2024-04-](https://www.1101.com/n/s/yohei_harada/2024-04-22.html?srsltid=AfmB0ooOWjW0DxMrv4019YaQ5hj3pKt05_KWxk0f9Xyi4G5leglokWdu)

[22.html?srsltid=AfmB0ooOWjW0DxMrv4019YaQ5hj3pKt05_KWxk0f9Xyi4G5leglokWdu](https://www.1101.com/n/s/yohei_harada/2024-04-22.html?srsltid=AfmB0ooOWjW0DxMrv4019YaQ5hj3pKt05_KWxk0f9Xyi4G5leglokWdu)
原田曜平(2023).『「あざとかわいい」はもうイタいだけ…若者のトレンドが「不憫かわいい」に転換している根本理由 Z 世代がハマる「おばんちゅうさぎ」の魅力』PRESIDENT Online (2023/09/21), 2024 年 12 月 26 日最終閲覧

<https://president.jp/articles/-/73928>

原田曜平／高橋学(2023).『原田曜平の若者発ヒット講座 第 47 回 謎ヒット「おばんちゅうさぎ」とは Z 世代に響く「不憫かわいい」』, 日経クロストrend(2023/10/20), 2024 年 12 月 26 日最終閲覧

<https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00019/00046/>

「ハンギョドン | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://www.sanrio.co.jp/characters/hangyodon/>

『平家女護島～俊寛 | 歌舞伎演目案内』Kabuki Play Guide 2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://enmokudb.kabuki.ne.jp/repertoire/1158/>

「ポムポムプリン | サンリオ」サンリオ、2025 年 1 月 13 日最終閲覧
<https://www.sanrio.co.jp/characters/pompompurin/>

前柴博子(1990).『古代和歌における「かなし」の語史的研究』『たまゆら』22, 比治山女子短期大学国文学会, p59-72,

前田富祺監修(2005).『日本語源大辞典』, 小学館

四方田犬彦(2006). 『「かわいい」論』, ちくま新書

漢詩に新語を入れる可能性と未来像

—日本漢詩、和歌、俳句からの発想—

The Possibility and Future of Incorporating

New Words into Chinese Poetry

—Inspirations from Japanese Poetry, Waka, and Haiku—

明治大学 国際日本学部

唐 歌天語（トウ カテンゴ）

Meiji University School of Global Japanese Studies

TANG GETIANYU

目 次

1. はじめに
2. いままでの取り組み、黄遵宪、楊圻、胡適
3. 日本漢詩からの着想
 - 3.1. 荻生徂徠に見る技法
 - 3.2. 漢詩における和風語の利活用
 - 3.3. まとめ
4. 和歌からの着想
 - 4.1. 和歌の掛詞と漢詩の諧音
 - 4.2. 漢詩聯間における「連鎖型」的な可能性
 - 4.3. 極密極疎の構成
 - 4.4. まとめ
5. 俳句からの着想
 - 5.1. 新旧を兼容する俳句とその軽み
 - 5.2. 竹枝詞に見る漢詩を軽くする可能性
 - 5.3. 詞の試みと詩の慎重さ
6. 結論

参考文献

調査資料

1. はじめに

唐代以降、典範として確立されて以来、漢詩は海外への伝播を含む様々な交流や発展を経てきた。しかし、近代になると、漢詩の創作は新しい言葉や新しいイメージを取り入れがたいといった、時代への適応という難題に直面するようになった。

先行研究として、漢詩論的背景の面では、蔡毅（2022）において、近代の日中詩人交流について主に紹介されており、黄遵憲や梁啓超を代表とする近代詩人が日本漢詩や文化の影響をどのように受けたか、そしてその交流から生まれた作品について述べられている。時國炎（2015）では、魯迅や郁達夫を代表とする新文学を主張する詩人たちの、旧体詩の創作とその見解が述べられている。また、孫志軍（2015）では、現代における旧体詩の執筆環境が論じられ、漢詩が自己定義や文化的な文脈の喪失、執筆および創作空間の縮小といった深刻な問題に直面していることが指摘されている。その一方で技術的な側面では、施議對（2019）において議論されている胡適が新体詩¹や詞²において行った試みの示唆と評価が参考になるものである。また、黄遵憲の『日本雜事詩』や楊圻の『江山萬里樓詩詞鈔』などの作品も、先駆的な試みとして注目されており、それらの作品が、新しい言葉や新しいイメージを導入するベースである。

しかし、創作面の方法論に対する議論は非常に珍しい。いわゆる、新しい語彙を詩にどう取り入れるか、新しい物事をどう表現するか、句や詩の構成においてどのような革新を試みれば新しい言葉がより漢詩に入りやすいかなど詩の創作に直接に関係する問題に対する関心がまだ不足している。そのため、本稿で掘り下げて考察するのは、技術的な側面において、新語を漢詩に入れる可能性と未来像についてである。

この問題は、漢詩の創作において非常に解決が難しいながらも極めて重要な課題である。新しい語彙やイメージは、古典中国語の文脈に溶け込みにくいことが多いため、漢詩の中に取り入れることは非常に困難である。しかし、新しいイメージを適切に取り入れることができなければ、漢詩は時代遅れとなり、やがて「死文学」となってしまう可能性がある。これは、現代における漢詩が克服しなければならない問題と挑戦である。この問題は、漢詩の枠を超えた課題とも言えるであろう。

¹ 筆者注：民国時代から白話文（話し言葉）を詩に取り入れる新しい詩体である。

² 筆者注：唐宋、宋代から流行され、音楽性が豊かな詩体である。

そのため、問題を解決するためには、より広い視点から発想を得る必要がある。たとえば、過去の詩人たちがこの問題に関して行った試みをより多く取り上げ、それらの成功例や不足点を分析することである。また、他の詩体から表現技法や構成に関する発想を得ることや、このような問題が存在しない詩や文体を探し出し、その要因を分析して、漢詩がそこから学べる可能性を模索することなどが挙げられる。

具体的に言えば、中国の作者が新語に関する問題に直面する以前に、日本漢詩の作者はすでに和風語（日本的な表現や言葉）において漢詩を取り入れる試みを行ってきた。加えて、和歌の掛詞のように、詩意の縁語表現と前後連続や不連続により、意味を重ねるという漢詩には多く利用されていない技法もある。俳句が新語や新しいイメージを受け入れられた理由を分析することの上で、漢詩への応用を目的として筆者は日本漢詩、和歌、俳句を対象とした。この目的を達成するために、研究方法として、筆者自身が読んだ漢詩の中から、新しい語彙や新しいイメージ、あるいは和風の表現を取り入れる試みが顕著で、一定の成果を収めている作品を素材として選び、以下の観点から新語を漢詩に取り入れる可能性について模索する。

1. 日本漢詩から新語を漢詩に取り入れる方法を学ぶこと。
2. 和歌の掛詞を参考にし、漢詩がこれまで深く試みてこなかった縁語表現を見直し、それが詩の構成に及ぼす可能性を探ること。
3. 俳句に自然に溶け込む新しい語彙やイメージの分析を通じて、漢詩が俗化や白話文、新語、新しいイメージを受け入れる可能性を模索すること。

既存の詩例を参考にしながら、漢詩の言葉遣いをどのように拡張し、将来的な試みをどのように行うべきかを本稿で議論する。

2. いままでの取り組み、黄遵憲、楊圻、胡適

黄遵憲（1848—1905）、楊圻（1875—1941）、胡適（1891—1962）は、外交や留学経験がある清末や民国時代の詩人たちである。彼らは激しい変革や海外文化、科学技術、政治などの交流の時代背景により、新しい事物を漢詩で描写するという問題に直面していた。この問題に対処するため、当時の詩人たちは古代のイメージを用いて新しい物事を置き換えたり描写したりした。また、古来の詩語や、より雅的な、慣習的な語彙を使い、新しい言葉を代替する方法もあった。他には、正面から新しい物事を受け入れ、直接的または間接的な方法でそ

れらを説明や描写する技法もあった。

これらの技法は、黄遵憲や楊圻のように、新しい事物や海外文化に積極的に触れた詩人の作品に多く見られる。例えば、黄遵憲は新しい名詞やイメージを避けることなく直接それぞれを描写している。彼が娘に地図や地球を説明する詩がある。

小女

一燈団坐話依依、簾幕深藏未掩扉。

小女挽髻爭問事、阿娘不語又牽衣。

日光定是舉頭近、海大何如兩手圍？

欲展地球圖指看、夜燈風幔落伊威。

小女

一灯にて団坐し依依に話し、帘幕深く藏して未だ扉を掩はず。

小女髻を挽きて争ひて事を問ひ、阿娘語らずして又衣を牽く。

是定めて日光の頭を挙ぐるほど近く、海の大きなもいかにして両手で囲むか。

地球図を展かんとして指し見て、夜灯風幔 伊威落ちる。

(『黄遵憲全集』より引用、筆者訳)

ここで、「地球」という語は、中国において西洋の科学知識が流入した近代以降に登場した新しい概念であり、西洋科学を通じて翻訳・導入された地理学や天文学の用語である。彼は地球という概念を直接描写している。比喻や古い言葉に置き換えることなく、素直に新しい言葉を使っている。これは、伝統的な漢詩の語彙には存在しないため、その使用は詩的文脈において斬新かつ挑戦的な試みである。これにより、漢詩が時代の変化に応じて進化する可能性を提示している。また、彼の日本文化に関する詩では、以下の例がある。

日本雑事詩 一六二

弦弦掩抑奈人何、假字哀吟伊呂波。

三十一聲都愴絶、莫披萬葉読和歌。

日本雑事詩 一六二

弦弦の掩抑、人いかに、假字にて伊呂波を哀吟せむ。

三十一声、すべて愴しみ絶えず、万葉を抜き和歌を読むことなかれ。

(『黄遵憲全集』より引用し、筆者訳)

第二句の「伊呂波」は、日本の仮名を指しており、「万葉集」が仮名で書かれていることを描写している。このような言葉は中国語には存在しないが、黄遵憲は躊躇せずに直接使用した。さらに、後の二句で「三十一声」という和歌の形や構成を説明した。日本文化をあまり知らない人には理解が難しいかもしれないが、詩の後に注釈を付けて説明しており、そこまで理解しにくいわけではない。このような注や解釈を付け、直接に新しい言葉を使うことも一つの解決策であろう。この詩はまさに黄遵憲の「我手で我口を書く」という詩人の思想が束縛されないような詩作理念が表されている。

次に、人力車を描写した詩の例である。

日本雑事詩 一八一

滾滾黄塵掣電過、萬車轂擊復竿摩。

白藤轎子葱灵閉、尚有人歌踏踏歌。

日本雑事詩 一八一

滾滾の黄塵、電を掣きて過ぎ、万車の轂撃、また竿の摩きたり。

白藤の轎子、葱灵に閉ぢ、尚ほ踏踏歌を歌ふ人有り。

(『黄遵憲全集』より引用し、筆者訳)

当時、人力車はまだ新しい乗り物であり、伝統的な籠という乗り物とは異なるものであった。詩人が注で「車の形状は箕のようで、軽便であり、上部には小さな帷がついており、開閉可能である。一人で引っ張ることで、その速さは風のごとく、二馬車と競うことも可能である。この乗り物は横浜で初めて創られ、「人力車」と名付けられた。その後、上海や香港、南洋の島々で模倣され、「東洋車」とも呼ばれるようになった。」³と述べている。つまり、注や解説を通じ、新しい言葉を漢詩の中に書くことは不可能ではない。丁寧に解説しながら、円滑に漢詩の中に挿入すればいいものである。

古い時代から存在する言葉やイメージを利用し、新しい事物に関連付けて詩の中で新しい事物を書く方法もある。たとえば、楊圻が「巴黎怨」で行った方法がまさにその一例である。彼はドイツとフランスの戦争と、のちの第一次世界大戦を描写するとき、戦闘機という現代的な言葉やイメージを詩の中に取り入れることに違和感を覚え、代わりに、「天空甲馬」と表現した。これは、古代の戦争、武器、馬との連想を可能にするもので、「空を飛ぶ甲冑をまとった馬」という意味になる。このようにして、新しい言葉を直接使うのではなく、既存の言葉や作者自身が創作した言葉を用いることで、詩をよりスムーズかつ調和的に表現した。

巴黎怨

倉卒延秋萬騎屯、天空甲馬步虛塵。

將軍夜入淮陰市、月照千街不見人。

巴黎の怨

倉卒に延秋の万騎屯まったり、天空甲馬、虚塵に歩みたり。

將軍は夜淮陰市に入り、月は千街に照し、人見えず。

³ 原文は次の通り『黄遵憲全集』「小车形若箕，体势轻便，上支小帷，亦便卷舒，以一人挽之，其疾如风，竟能与两马之车争先后。初創於橫濱，名人力車。今上海、香港、南洋諸島仿造之，乃名為東洋車矣。日本舊用木轎，以一木橫貫轎頂，兩人肩而行，轎離地只數寸。乘者盤膝趺坐，四面嚴關，正如新婦閉置車帷中，使人悵悵。今昔巧拙不侔如此。」

(『江山万里楼诗词钞』より引用、筆者訳)

同じく、第一次世界大戦の光景は漢詩にとっても前例のないものであるので、楊圻は「長平の戦」の故実を引用し、戦争の残酷さを伝える伝統的な作法を用いて、戦後のベルリンの光景を描写した。また、「茶花」というイメージを使うことで、よりドイツ的な雰囲気を加えている。

柏林怨

十萬長平動地哀、閨中齊上望夫台。

茶花不解封侯怨、猶傍春庭對月開。

柏林の怨

十萬の長平動地に哀み、閨中は齊しく望夫台に上る。

茶花は封侯怨を解かず、猶ほ春庭の傍で月に対ひて開く。

(『江山万里楼诗词钞』より引用、筆者訳)

一方、胡適は詞や新体詩の中で別のアプローチを取り、全体のスタイルや雰囲気を現代に近づけ、伝統的な雅語だけでなく俗語も受け入れられる文脈を作り出した。彼の新体詩（ある場合新しい形式の詞ともいえる）はその代表例である。以下は施議対（2019）から引用され、胡適の4つの作品である。

1. 回首十年前、愛著江頭燕子。一念十年不改、記當時私誓。 當年燕子又歸來、從此永相守。誰給我們作證、有雙雙紅豆。

十年前を振り返る 江のほとりで燕を愛していた 一念は十年経っても変えず 当時の誓いを覚えている あ那年、燕はまた帰ってきた それからは永遠に一緒に過ごす 誰が私たちの誓いを証明するだろう、双双の赤い豆のように

2. 我從山中來，帶得蘭花草。種在小園中，希望開花好。

私は山から来た、蘭花草を持って。それを小さな庭に植え、花がきれいに咲くことを願っている。

3. 一日望三回、望到花時過。急壞種花人、苞也無一個。

一日に三回も見て、花が咲くのを待っているが、結局花が咲く時期を過ぎてしまった。花を育てている人は焦り、つぼみさえ一つもない。

4. 眼見秋天到、移花供在家。明年春風回、祝汝滿盆花。

秋が来るのが見え、花を移して家に飾る。来年の春風が帰る時、君に満たされた花鉢を祝おう。

(施議対 (2019) より引用、筆者訳)

これらの新体詩では、「愛著江頭燕子」「誰給我們作證」「眼見秋天到」などの多くの白話文(話し言葉)が用いられている。当時としては珍しい手法であった。施議対 (2019) によれば、1つ目の作品は「好事近」という詞牌名を基に、2つ目の作品は「西江月」という詞牌名の前半を基に作られたものである。胡適は既存の詞牌名を改編し、親近かつ平易な白話文を詩に取り入れる文脈を作った。

当時、胡適のこの方法は様々な指摘を受けた。旧詩、新詩の両方からも受け入れられず、施議対は「胡適は「活文学」を提唱し、旧体詩を「半死の詩」と呼んだが、彼が提唱した新体詩は適切な形式を見つけることができなかった。そのため、詞を使った方法で彼自身が考える「詩」を試みた。しかし、胡適の「実験作」は、新詩の作者からも旧詩の作者からも評価されることはなく、旧体詩は「死文学」として批判され、新体詩も「活文学」としてはあまり成功しなかった。」と指摘している⁴。

⁴ 施議対 (2019 : 22) 「胡適提倡活文學，稱舊體格律詩為半死的詩詞，但他所宣導的新體白話詩，又找不到合適的形式，所以，他以填詞的方式、方法寫作他心目中的“詩”，試圖以新體詩創作尋找生路。他的“實驗品”，無論是《生查子》的半截，還是全闕，都可以看作是一種形式創造。只可惜，胡適的創造，新詩作者不領情，舊詩作者也看不慣。到頭來，舊體詩被當作死文學，白白挨了一刀，新體詩之作為活文學，活得也並不怎麼精彩。」

しかし、このように改編を通じて新たな創作を行い、親近で新しい事物や言葉を受け入れられる文脈を詩詞の中で成立させることこそが、この革新の最大の意義とも考えられる。これは新詩、旧詩の受け入れや指摘より重要視されるべきものである。

これらの技法はそれぞれ成功した例がある一方で、限界も存在している。それは、新しい事物や新しいイメージを直接描写しようとする際、古代とは大きく異なる現代の新語や新しいイメージを詩にそのまま取り入れることが難しいというポイントである。黄遵憲が成功したのは、彼が遭遇した新語や新しいイメージが、現代の詩人が直面するものほど既存のものと大きく異なっていなかったためである。さらに、現代の多くの新語は、その構成方法が古代とは全く異なり、多くが白話文的な構造で作られるものである。このため、これらを詩に完璧に取り入れるのは、構造上は非常に困難である。現代の詩人たちは、黄遵憲の時代には想像もつかなかった困難に直面していると言える。

古代の類似するイメージや言葉を用いて新しい語を説明や代替する作法も、限界がある。現代の多くの言葉や事物は、古代には対応するものが存在していない。たとえば、『トランスフォーマー』に登場する「サイバトロン」というイメージは、まだ『西陽雜俎』に述べられた「月は古代の工匠が彫刻し、作られたものである」という神話や伝説に類例を見出すことができるかもしれないが、それよりもさらに新しい物事は、類例を見つけるのが極めて困難である。これは楊圻が直面しなかった課題である。

胡適は詞牌を改編し、新しい詩を創作したが、漢詩は果たしてそのように容易に変えることができるのであろうか。前述した胡適の作品に対する批判は、この問いに既に答えを与えている。

3. 日本漢詩からの着想

3.1. 荻生徂徠に見る技法

前述の問題は、実は日本の詩人が中国の詩人よりも早く直面していた。それは、漢詩の文脈において和風語や日本の地名などが当時は漢詩に馴染みにくいという点である。彼らが漢詩を創作する際、よく使われる詩語を用いて既存のテーマを繰り返し描く以外に、日本に関連する詩人の身近な和風のテーマを創作しようとする場合、日本の地名や和風語を詩にどのように取り入れるかという課題に直面せざるを得なかった。

この問題に対して、荻生徂徠（1666－1728）は解決策を提示した。それは、漢語の文脈に

合わせる和語の雅称を創作することである。たとえば、荻生徂徠の以下の詩では、藩主を「君侯」と呼び、伊予守という官職を「豫侯」と称するほか、「牛込御門」を「牛門」として書いている。また、「染井」を「蘇迷」、「山城」を「中原」または「穀輦の下」とするなど、和風の地名を、中国の地名や故実に対応できるものに改め、それを漢詩の創作に用いる方法である。

猗蘭君侯將之國就別予草堂賦此奉餞 爾、此を賦し餞し奉る	猗蘭君侯の將に國に之かんとし就ち予の草堂に別
古來能為布衣游、魏有信陵今豫侯。	古來能く布衣の游を為す、魏に信陵有り今豫侯。
豫侯況復詩書敦、牛門何必讓夷門。	豫侯は況して復た詩書に敦し、牛門 何ぞ必ず夷門に讓らん。
門前五柳系五馬、科頭笑視列侯尊。	門前の五柳 五馬 繋ぎ、科頭 笑いて視る列侯の尊。
尊酌濁醪焚枯魚、細剪於陵園中蔬。	濁醪を酌み枯魚を焚き、細かに剪る於陵園中の蔬
再拜殷懃上君壽、祝君封内雨隨車。	再拜 殷懃に君の壽きを上い、君の封内雨車に隨うを祝る
方今大旱萬民哭、聞君心盡河内粟。	方今が大旱にして萬民哭くに、君が心を河内の粟に尽くすを聞く
仁聞仁政兩不虛、天必為君降福祿。	仁聞仁政兩つながら虚ならず、天は必ず君の為に福祿を降さん
河内從來皇畿南、南山佳氣映蔚藍。	河内 從來 皇畿の南、南山の佳氣 蔚藍に映ず
君行弦誦樂民樂、穆如清風日颯颯。	君行きて絃誦し民の樂を楽しみ、穆ぐるごと清風の如く日び颯颯
此時回頭憶小人、牛門此地天一垠。	此の時 回頭し小人を憶わるるも、牛門の此の地は天の一垠
白雲渺予亦思君、君且盡觴且逡巡。	白雲 渺として予も亦た君を思ふ、君且つ尽觴し且

つ逡巡せよ

(『荻生徂徠全詩』より原文、訓読引用)

特に興味深いのは、詩の「聞君心尽河内粟」という句は『孟子』の「梁恵王上」に述べられる「河内粟」の典故を扱った点である。この部分は荻生徂徠の友人の本多忠統が河内国に転封されたこととも関連付けられている⁵。この「河内」は、典故に登場する中国の河内を指すと同時に、日本の近畿地方にある河内国をも意味しており、一語で二つの意味を持たせる巧みな双関表現となっている。

荻生徂徠のこの作法は、彼の詩作における擬古的な傾向と深く結びついている。彼は李夢陽を代表とする前七子の復古派の影響を強く受け、「文章は秦漢の風格であるべき、詩は盛唐の風格であるべき」（文必秦漢、詩必盛唐）という考え方が非常に彼の作品へ影響していた。この理念に基づき、和語を漢風の言葉に置き換え、純粋な唐詩の風格を追求していた。しかしながら、このような純粋な擬古の作法には批判もあり、「古代のものを繰り返しているにすぎない」などの指摘もあった。一方で、彼の作法を高く評価する人々もあり、「彼の考え方は、日本のイメージや言葉をより雅的な語彙で表現するための指針を提供した」と評価されている。結果的に言えば、彼の作品は成功を収めたと言えるだろう。

実際、荻生徂徠の手法はすでに定式化され、『大東詩家地名考』や『東藻会集』といった書物にこれらの漢風地名が記録され、他の詩人が参考にできるようになった。

4.1. 漢詩における和風語の利活用

荻生徂徠とは異なり、他の日本の詩人たちは和風語や日本独特のイメージを直接に漢詩に取り入れる傾向もあった。彼らは漢詩の中での自然かつ円滑な表現にあまり気にせず、時には冒険的な試みを行なった。しかし、和風語を詩に加えることは詩全体が難解になる危険性も伴うが、一部の例では、和風語が漢詩にうまく溶け込んでいることもあり、それらを分析

⁵ 荻生徂徠著 荒井健、田口一郎訳注 (2020) 『荻生徂徠全詩』「正徳元年（一七一）六月、忠統が就封の暇を賜り、初めて封地の河内西代藩（西代村、現大阪府河内長野市）に赴く際の作」 p. 143

することで、和風語が漢詩に調和する理由を探ることができる。これは、将来的に漢詩に新しい語彙を取り入れる際の指針や着想ともなるのではないだろうか。

まず、江馬聖欽（1825－1901）は詩の中で「櫻雲」を直接に使用した例がある。

遊月瀬

都人艷賞説嵐山、半嶺櫻雲映碧灣。

争似一天香世界、梅花十有五村閑。

月瀬に遊ぶ

都人艷賞して嵐山を説く、半嶺の櫻雲碧湾に映ずと。

争か似ん一天香世界、梅花十有五村の閑。

（『和漢朗吟詩集』より原文、訓読引用）

この詩では、江馬聖欽が山で咲き誇る桜の景色を「櫻雲」と表現している。これは難解な技法を使用せず、和風語を漢詩に用いる一例である。山で咲き誇る桜は中国の常にある景色ではないため、このイメージは伝統的な漢詩においては数少ないものである。しかし、「櫻雲」という言葉の構成が漢詩によくある「海雲」や「翠雲」などの表現と同じ、理解しやすいである。加えて、雲のように山で咲き誇る桜も容易に想像できる光景なので、このような和風語を直接に漢詩に取り入れる作法は可能である。いわゆる、「櫻雲」という語が理解しやすく、構成も漢詩の文脈に適しているため、この詩の運用が自然で違和感がない。

次は、梁川星巖（1789－1858）が詩の中で「御魂」という非常に日本的な表現を直接に使用した例である。

芳野懷古

今來古往跡茫茫、石馬無聲抔土荒。

春入櫻花満山白、南朝天子御魂香。

芳野懷古

今来古往跡茫茫、石馬声なく抔土荒。

春は櫻花に入りて満山白く、南朝の天子御魂香ばし。

(『和漢朗吟詩集』より原文、訓読引用)

この詩では、春の桜と南朝の天皇の御魂を一緒に描写している。簡単に説明すると、桜が天皇の御魂によって白さを増し、天皇の御魂が桜によって香りを増すという意味である。「御魂」という語は中国語には全く存在せず、中国の詩人であれば魂や天子の霊を「魂」「英魂」「魂魄」と表現する方が多い。しかし、梁川星巖は違和感が生じる可能性を気にせず、あえて「御魂」をそのままに使用し、日本の天皇であることを強調した。また、この場面で適切な漢語の語彙に置き換えることが可能であるにもかかわらず、あえて和風語を採用することで、詩人の自由を重視し、意図が縛られない詩風も反映されている。

一方で、もし荻生徂徠のような細部や円熟な漢風を非常に重視する詩人であれば、この点について指摘をする可能性があるかもしれない。また、絶句は四句しかないので、この違和感を他の句の調和によって補うことが難しい。もし律詩であれば、第二聯や第三聯に「御魂」を位置することで、対句を工夫し、違和感を緩和することも可能である。あるいは、「御魂」を最終句に置きつつ、他の句をより平易に書くことで、この句の「奇」を立たせる手法もありえるのではないだろうか。

次の例はさらに重要なものである。石川忠久（1932－2022）（2012）によれば、「金婚有感」で和風語の「絆」を直接使用した。

金婚有感

北國始知童稚日、東都共唱好述篇。

爾來五十年間絆、元是三千里外縁。

幾歴浮沈到偕老、久成伉儷喜雙全。

平生舒嘯奚疑句、余命相携聊樂天。

金婚感有り

北国始めて知る童稚の日、東都共に唱う好述の篇。

爾来五十年間の絆、元是れ三千里外の縁。

幾たびか浮沈を歴て偕老に到り、久しく伉儷と成りて双全を喜ぶ。

平生舒嘯す 奚疑の句、余命相い携えて聊か天を楽しまん。

(『江都晴景：わが心の詩』より原文、訓読引用)

「絆」は中国語における意味と日本語の意味が全く異なる。中国語では「絆」は物を結ぶ紐や束縛、拘束を指すが、日本語では人と人、または人と組織・地域との間の繋がりや関係を表している。加えて、「絆」は抽象的な概念であり、他文化に完全に同等の言葉を見つけるのは非常に困難である。つまり、先述した様々な解決策もこの場合には適用が難しいように思われる。しかし、詩人は以下の条件を満たすことで、この不可能と思われた挑戦を可能にした。まず、詩人は第二聯で「絆」を使用している。これにより、出句と対句を用いて相互に句意を補足し合うことが可能になり、対句「縁」が、漢詩でよく見られる語として「絆」の意味を補助的に説明する役割を果たしている。このため、読者が「絆」を理解する助けとなっている。さらに、「絆」という言葉は日本語の語彙であるものの、近年の日本文化の影響により、中国語圏においても「絆」に「羈絆」(日本語の「絆」と同じ意味として使われている)という新しい意味が生じている。そのため、「絆」という語は説明なしに、文脈に基づいて理解されることが可能である。第三に、今の多くの読者は十分な伝統文化教育を受けておらず、多くの場合、読者の中では「絆」の中国語本来の意味よりも、アニメやドラマなどから派生した日本語の「絆」の意味の方が深く浸透している可能性がある。これら三つの条件に加え、作者の巧妙な技法によって、「絆」という和風語を漢詩の中に見事に調和させることに成功した。

4.2. まとめ

前文で挙げた漢詩に和風語を導入する三つの例は、難易度に差がある。「櫻雲」が最も容易で、「御魂」が次に難しく、「絆」が最も難しいと言える。この三つの和風語を分析することで、漢詩に和風語を取り入れるためには以下の条件を満たす必要があることが明らかにした。

1. その語の理解が漢詩の文脈で難しくないこと。
2. 理解に困難がある場合でも、対句や前後の句による説明で補う手段があること。

3. その語が多文化的な背景で理解可能であること。(異文化ノイズが小さいこと)

4. その語の構成が、一般的な漢詩の詩語と大きく離れていないこと。

これらの条件を満たし、さらに詩人の高い技術が加われば、和風語は漢詩に見事に溶け込むことができる。したがって、和風語がこのような方法で漢詩に取り入れられるのであれば、西洋諸国の新しい語彙やより現代的な語彙やイメージも同様の方向で努力することが可能になる。そのためには、漢詩の句式、構成、文脈を調整する必要がある。この点については、次に述べる和歌や俳句から得られる着想に関連している。

5. 和歌からの着想

5.1. 和歌の掛詞と漢詩の諧音

和歌には「掛詞」と呼ばれる修辞技法が存在する。その定義について、時枝誠記は『国語学原論』第六章で以下のように述べている。「一語によって二語に兼用し、あるいは前後句を、一語によって二つの異なった語の意味において連鎖する修辞学上の名称」。時枝誠記の研究により、掛詞には「兼用型」と「連鎖型」の二種類がある。以下の掛詞の説明は趙青(2007) から引用される

兼用型

花の色はうつりにけりな徒わが身世にふるながめせしまに
(小野小町『古今和歌集』春下 113)

連鎖型

梓弓はるの山辺を越えくれば道もさりあへず花ぞちりける
(紀貫之『古今和歌集』春下 115)

兼用型の例では、「ふる」は「経る」と「降る」の二語に、また「ながめ」は「詠め」と「長雨」の二語に兼用されている。ひとつの語彙を二つも意味を表している。一方、連鎖型の例では、「はる」は先行する「梓弓」に対しては「張る」の意味で用いられ、後続の「山辺」に対しては「春」の意味として解釈される。これらの作法で、和歌に対する美的な効果を作りだせる。兼用型の掛詞は「協和美」を構成し、連鎖型の掛詞は「旋律美」を構成している。つまり、一つの音声によって二つの概念が同時に喚起され、ま

るで音楽における和声のような配列をなすものが「協和美」を生み出す。これに対し、まず一つの概念が喚起され、次にもう一つの概念が喚起され、音楽における旋律的な展開を示すものが「旋律美」とされている。

和歌の掛詞と同様に、漢詩にも諧音を利用した表現手法が存在しているが、注意すべき点として、漢詩における諧音や双関語は、和歌の掛詞ほど大きな影響力を持っていない。漢詩の諧音表現は、作者の巧みな発想によって特定の詩や特定の題材において偶然に活用されるにすぎず、和歌における掛詞の使用頻度や文学的影響力には遠く及んでいない。このような諧音表現は、各詩人の詩集に散見される。

たとえば、杜牧の詩に「蠟燭有心還惜別、替人垂淚到天明」という句がある。この中で「心」と「芯」が双関となり、蠟燭が燃える「芯」を表現するとともに、別れを惜しむ擬人化された「心」も示している。また、柳中庸の「朝朝馬策與刀環」では、「環」と「還」が双関となり、「刀環」を指すと同時に「還家」（家に帰る）を意味している。さらに、劉禹錫の有名な句「東邊日出西邊雨、道是無晴卻有晴」では、「晴」と「情」が双関となり、「晴天」を示すとともに「感情」をも表現している。ただし、このような双関や諧音の使い方は漢詩の中では数少ないであり、和歌の掛詞と同等と見なすことはできない。むしろ、前述した掛詞の「兼用型」と似ているものの、「連鎖型」に類似する用法はほとんど存在しないとも言えるであろう。

5.2. 漢詩聯間における「連鎖型」的な可能性

掛詞、特に連鎖型の掛詞の最大の特徴は、一つの句の不連続な箇所になされた新たな解釈や連想を生み出すことである。以下の例を見てください。

立わかれ往なばの山の峰に生ふる待つとしきかば今かへりこむ

（在原行平・古今・離別365）

この和歌では、「往なば」「因幡」「待つ」「松」という掛詞が使われている。これで、和歌には「立わかれ往なば待つとしきかば今かへりこむ」という意味と、「因幡の山の峰に生ふる

松」という二重の意味が込められている。この和歌の意味を理解するためには、句を前後に分けてそれぞれ解釈し、二つの意味を得た上で全体のイメージを形成する必要がある。言い換えれば、掛詞を用いることで和歌の句を前後に分割して理解することが可能になる。この点から、漢詩構成への新たな発想をもらうことができる。

たとえば、劉禹錫が友人に贈った長詩の中に、次の一聯がある。「使君灘頭揀石硯、白帝城辺尋野蔬」この聯は、故郷の野趣あふれる生活の細部を回想しており、前の聯「山州古寺好閑居、読尽龍宮宮里書。」で述べられた閑居生活の描写をさらに補足している。また、この聯では對仗（対句）の手法が用いられており、劉備が劉璋の招請を受けて蜀地に入ったとき経た「使君灘」と、劉備が孫權に敗れて最期を迎えた「白帝城」とが對仗を成り立っている。この對仗により、詩句の意味はさらに豊かになっている。しかし、この聯は次のような誤読も可能であろう。つまり、「君に灘頭で石の硯を拾えり、白帝城のほとりで野菜を探せる」と理解されることである。

もちろん、これは誤読にすぎない。しかしながら、この誤読から筆者は漢詩構成（のちの章法）の新たな可能性を見出した。この誤読は、前述の和歌のように句を分割して理解する特徴をある程度にも示されている。つまり、「使君灘頭揀石硯」と「使君白帝城辺尋野蔬」という二つの意味が生まれるわけである。ただし、和歌における掛詞とは異なり、漢詩では一つの句を分割して解釈することは不可能であり、句を任意に分けたり入れ替えたりすると詩意が理解不能になってしまう。さらに、漢詩の文法自体は十分に柔軟性を持っているため、句中で掛詞のような技法を用いる必要もない。しかし、あまり注目されていないのは、詩の聯間では上述のすべてが可能になっている。

たとえば、この聯の前聯に「使君灘」や「白帝城」に関連する歴史上の故事や詩人の感想を述べ、この聯の後聯に友人が石硯を拾い、野菜を探す具体的な詳細を描写することができる。いわゆる、聯間で和歌の掛詞のように前後べつべつに理解することが可能になる。つまり、和歌の掛詞によって成立する分割解釈の句意を、漢詩の異なる聯間に取り入れることが可能になる。さらに明確に言えば、詩中の一聯を掛詞のような存在として機能させるということである。これにより、漢詩の複数の聯間で、より大きな意味の差異を表現することが可能になる。たとえば、前半では新しい事物を描き、後半では伝統的な内容に切り替える可能性もある。このような奇抜な構成によって、新しい言葉やイメージが漢詩に取り入れにくい場合でも、詩の構成によってそれをすでに補うことができるので、違和感を減少することができる。このようにして、新しい言葉やイメージに適応した漢詩の新たな構成が生まれる可

能性が見出している。

5.3. 極密極疎の構成

双関語を活用することで、詩中に極めて密と疎が入り混じった構成を生み出すことが可能であり、これは漢詩に新しい語彙を導入する際に有意義なのである。というのも、新語は多くの場合では、翻訳や白話文的な構成を通じて生まれており、その構成や意味の密度が古典漢語の語彙と大きく異なるからである。新語の多くは意味の密度が低く、古典漢語の一語に相当する意味を表すのに複数の字が必要となることが多いのである。そのため、詩中に新語を取り入れると、密と疎のバランスが崩れ、不自然さが生じることが多くある。例えば、成島弘（1837－1884）の詩では、次の例がある。

発横浜舟中

亞刺羅山何處邊、風濤森漫碧涵天。

艙間並載牛羊豕、彷彿千秋諾亞船。

横浜を発する舟中

亞刺羅山は何れの處の邊ぞ、風濤森漫として碧天を涵す。

艙間併せ載す牛羊豕、彷彿たり千秋諾亞の船。

（『和漢朗吟詩集』より原文、訓読引用）

この詩の第一句には「亞刺羅山」という新語が用いられているが、漢詩では通常、山を指す際には1～2字、多くても3字で済む。しかし、ここでは4字を使っている。このため、七言一句において、本来なら1～2字でさらに多くの意味を表現できた部分が、新語の使用により意味が減少され、詩の全体に不自然さを生じている。ただし、この詩は全体的に浅い意味をしか表現していないため、第一句の違和感はそれほど目立たないかもしれない。また、中井弘（1839－1894）の詩にも同様の例がある。

西紅海舟中

煙鎖亞羅比亞海、雲迷亞弗利加洲。

客身遙在青天外、九萬鵬程一葉舟。

西紅海舟中

煙は鎖す亞羅比亞海、雲は迷ふ亞弗利加洲。

客身遙に青天の外に在り、九萬の鵬程一葉の舟。

(『和漢朗吟詩集』より原文、訓読引用)

この詩の第一聯には、「亞羅比亞海」と「亞弗利加洲」という新語が用いられている。前述のように、詩中で海を指す際には通常2字程度で済むところが、音訳語の採用によりそれぞれ5字が使われている。つまり、伝統的な言葉に比べて、各句で3字分の意味が減少してしまう。その結果、第一聯全体で6字分の意味が少なく、後文の句との密度のズレが著しくなっている。

このように、新語や新しいイメージを取り入れる際に同様の問題が頻発している。この問題を詩の構成上解決できなければ、いかなる詩人も上記の例に見られるような問題に直面することになるはずである。しかし、この問題を解決するために、双関語、いわゆる和歌の兼用型掛詞に似た手法を巧妙に利用することによりできると考えられる。つまり、詩中の一つの句が二重の意味を表現できるようにすることで、その句がより注目を集め、他の句では比較的少ない意味を表現することが可能になる。そして、少ない意味を表現する句に自然に新語や新しいイメージを挿入することができるようになる。特に絶句の場合、全体が4句しかないため、この手法を用いることで極めて密な句と極めて疎な句が交互に配置される新たな構成を構築することが可能である。ただし、このような構成を実現するためには、現在の漢詩ではあまり深く探求されていない双関語、諧音、縁語表現に対する詩人のさらなる理解と研究が必要不可欠である。

5.4. まとめ

以上の説明から、和歌の掛詞を通じて漢詩にこれまでなかった新たな構成の発想が得られた。これにより、漢詩に新語や新しいイメージをより自然に挿入することが可能になる。詩

人は、聯間における二重の意味を用いて異なる二つの意を表現し、それらを結びつけて理解することができるようになり、和歌の連鎖型掛詞と類似する構成もありえる。また、諧音や双関語といった表現を活用して、極めて密度の高い一句を作り出し、その一方で、比較的少ない意味を表現する句に新語や新しいイメージを挿入することで、疎密の対比が明確な構成を生み出すことも可能である。

詩の構成の調整は必然的に詩全体の文脈に影響を与え、またその影響を受けるものである。いかにより柔軟で自由度の高い詩全体の文脈や雰囲気を作り出せるか。これが、俳句から得られる着想について、次に詳しく議論する。

6. 俳句からの着想

6.1. 新旧を兼容する俳句とその軽み

漢詩に新しい言葉や新しいイメージを導入する際に、参考とするべき例や着想を得るために、既に新旧を見事に兼容している例を見つけることは非常に重要である。その例が俳句だと考えられる。作品から見ると俳句は古今を完全に調和させることのできる稀有な詩形とも言える。

まず、俳句は古典的な側面を持っている。たとえば、朱實（1994）によれば、与謝蕪村の「易水に葱流るる寒さ哉」という句は、駱賓王の漢詩「昔時人已没、今日水猶寒」を翻案して作られている。この俳句は漢詩の翻案を通じて、荊軻の「風蕭蕭兮易水寒、壯士一去不復還」と歌われたような荒涼とした寒々しい情景を表現しつつ、易水の別れという典実とも結びつけられ、その中身を深めている。

また、同じく朱實（1994）によれば、松尾芭蕉の「秋十年却って江戸を指す故郷」という句は賈島の詩句「却望并州是故郷」と関係していると述べられている。賈島がさらに遠くへ旅立つにあたり、本来北方にある并州すら故郷のように感じられる心情を詠んだものである。この俳句も、賈島の漢詩と同様に作者の郷愁を表現している。

一方で、俳句では新しい語や新しいイメージも自然に使用されえる。たとえば、川崎果連の「戦争に視聴率ありソーダ水」⁶という句。この句では、ソーダ水と戦争ニュースの視聴率

⁶ 現代俳句協会（2024）「第 61 回現代俳句全国大会優秀作品発表」＜
<https://gendaihaiku.gr.jp/news/news-14232/>>

を巧妙に関連付け、人々が戦争ニュースに対して持つ一時的な関心を表現している。特に、ソーダ水が夏と連想されるため、俳句に求められる季語の要件も満たしている。また、栗原かつ代の「恐竜の名前が長い夏休み」⁷という句も例として挙げられる。この句では、恐竜と夏休みを結びつけることで、時間の寂寥感を表現し、さらにその感覚を身近なものとして引き寄せている。

以上の例から分かるように、俳句は古今を見事に兼容することができる。なぜなら、これは俳句の美が、漢詩のような伝統的で論理的かつ感嘆的な描写ではなく、抽象的なイメージの重なりから生まれるためである。実際、多くの場合、論理的で感情を露わにする表現は俳句では避けるべきである。漢詩がこれまで多くのものを背負わされ、重くなり硬直化してきたのに対し、俳句はそうのように多くを背負わされることが全然ない。俳句は、日本の連歌に由来する俳諧歌や発句に源を持ち、さらに遡ると、志田義秀（1932）『俳文学の考察』によれば、「俳諧」という語は中国に起源があり、「滑稽」という意味を持っている。俳句・俳文学・俳諧の根源は漢詩の戯作や俳諧体由来している。山本健吉（1952）『純粹俳句』「挨拶と滑稽」の中でも俳句の本質を「俳句は滑稽なり」「俳句は挨拶なり」「俳句は即興なり」の三か条として挙げている。つまり、漢詩は重く、俳句は軽いということである。この「軽み」こそが俳句を時代に即応させ、新旧を兼容させる要因となっているとも考えられる。

6.1. 竹枝詞から漢詩を軽くする可能性

漢詩を軽くする、あるいは新しい言葉やイメージを取り入れることは、伝統的な漢詩の美意識から見ると非常に難しい課題である。古くから「劉郎は糕字を題するを敢えず」という話がある。これは、劉禹錫のように優れた詩人でさえ「糕」のような俗字を自身の詩に書き込むことができなかったことを示している。歴代、漢詩を軽やかにしようと試み、詩風が軽くとされた作者たちは、多くの場合は軽佻浮薄と批判を受けてきた。たとえば韓偓や温庭筠への評価が挙げられる。張侃は韓偓の詩を「淫靡であり、詩ではなく詞に類似する。前輩たちはしばしばその詩句を取り入れたり、その言葉を一部抜き出して詞の中に混ぜ込んだりした。歐陽文忠はその語を転用し、さらに新しい趣を生み出している」と評した⁸。また、温庭

⁷ 現代俳句協会（2024）「第 61 回現代俳句全國大會優秀作品発表」＜
<https://gendaihaiku.gr.jp/news/news-14232/>>

⁸ 張侃『張氏拙軒集』「偓之詩，淫靡類詞家語，前輩或取其句，或剪其字，雜於詞中。歐陽文忠嘗轉其語而用之，意尤新。」

筠の詩についても陸時雍は『唐詩鏡』で「浪芷浮花のごとく、初めより根蒂がなく、麗しいが浮薄であり、その質を損ねている」と批評している⁹。彼らが漢詩の中で浅薄さや浮華さを示したことは批判されたが、一方で、詞は高く評価されている。つまり、漢詩を俳句のように軽くする可能性を探るには、詩と詞の中間点を見出す必要がある。この中間点こそが「竹枝詞」であろう。

竹枝詞は中国南西部の民謡に由来し、唐代に劉禹錫がそれを改編して一つの詩体とした。その後、「竹枝」という詞牌名にもなった。竹枝詞は拗体の七言絶句であるとともに、歌唱できる詞でもある。一句の第四字が「竹枝」と呼ばれる合唱点となり、二句または四句で構成される。竹枝詞では、俗語や新しい言葉、新しいイメージを取り入れることが普通の漢詩よりも容易である。たとえば、以下は清代の楊榮による「鎮城竹枝詞」の一例である

都統差人捉漢奸、各家閉戸膽俱寒。
誤投羅網冤難解、小教場中血未干。

都統人を差し漢奸を捉へ、各家戸を閉ぢ、膽俱に寒し。

誤ちて羅網に投ずるの冤、解き難く、小教場の中、血未だ干ず。

(朱易安 (2017) より引用、筆者訳)

この詩は、鎮城が英軍に攻略された後の惨状を描いている。官吏が無実の人々を漢奸（裏切り者）として乱暴に逮捕し、多くの人々を殺害した状況を表している。「漢奸」「小教場」といった語や全体の言語スタイルは、伝統的な漢詩というよりも民謡に近いものである。

また、現代詩人の夏啓龍の「吉安竹枝詞」のうちに代表的な例として取り挙げる。

其二・職工居民樓

狹長楼道擠單車、鎖匙門開浸落霞。

圍坐家人觀彩電、牆框合影著婚紗。

⁹ 陸時雍『唐詩鏡』「溫庭筠詩如浪芷浮花，初無根蒂，麗而浮者，傷其質矣。」

其二・職工居民樓

狭くて長い廊下には自転車が押し込まれ、鍵を開けたドアから落ちる夕日の光が差し込んでいる。家族が囲んで座り、カラーテレビを見て、壁に掛けられた写真には、ウェディングドレスを着た姿が映っている。

（「吉安竹枝詞」より引用、筆者訳）

この作品では、「單車」「ドアの鍵」「カラーテレビ」「家族写真」など、伝統的な漢詩には見られないイメージが使用され、住民楼内の日常風景が鮮やかに描かれている。

其七・工農兵电影院

节假欢喧影院門、儿童蜂拥票高伸。

屏聲落座訂銀幕、到散場時猶入神。

其七・工農兵电影院

祝日や休暇には映画館の前が賑やかで、子どもたちは一斉に集まり、チケットを高く掲げる。スクリーンの音が消え、座席に落ち着いて、上映が終わるときでも、まだ夢中になっている。

（「吉安竹枝詞」より引用、筆者訳）

映画があまり普及していなかった時代、人々が映画を楽しみ熱心に観賞する光景を生き生きと描いている。

其八・文山步行街和百貨商場

時裝何處覓潮流、閃綴珠光百貨樓。

衣鏡試身模特范、匱台佇列盡回頭。

其八・文山步行街と百貨商場

ファッションはどこで探すのか、輝く光が飾られている百貨店に。試着室の鏡、モデルのポーズ、ステージの列に並んでいる人々、顧みている。

（「吉安竹枝詞」より引用、筆者訳）

この詩では「時装」（ファッション）「百貨店」「モデル」といった新しい語を用い、小都市の百貨店の賑わいを生き生きと描いている。夏啓龍の「吉安竹枝詞」は、まさに新しい言葉やイメージを詩に取り入れる見本と言える作品であり、詩歌の発展に大きく貢献している。

竹枝詞がこのような表現を可能にするのは、単に民謡に由来するからでも詩人の技量が高いからでもない。竹枝詞には、主流の漢詩を補完し地方を記録する役割があるという特徴がある。朱易安（2017）において、明代の竹枝詞が地方記録の補助的な役割に留まっていた一方で、清代には即興的な記録や史実の評価など、時事を記録する機能も加わったと示している。これらの特徴こそは詩の六義の中の「風」と「賦」に回帰すると言える。このような特性により、竹枝詞は詩の補助であり軽やかな詩形として、新しい語句やイメージを受け入れやすい形式となっているのである。

したがって、竹枝詞や、西江月、鷓鴣天、羅唢曲など、詩と近い形式の詞を創作することで、新しい語やイメージを徐々に活用し、漢詩を軽くする可能性を切り開くことができるはずである。この「軽み」が評価の対象となり、最終的には俳句のように新旧のイメージを自由に使用できる雰囲気を生み出せるのではないだろうか。

6.3. 詞で試みと詩の慎重さ

『尚書』には「詩言志、歌永言、声依永、律和声」という言葉がある。もし中国詩の二つの伝統が「言志」（志を言う）と「歌詠」（歌を詠う）であるとするならば、漢詩は「言志」に属し、詞は「歌詠」に属することになる。このため、詞はその誕生時から「倚声」（音楽性）と「側艷」（艶やか）の特徴を備えていた。つまり、詞は意味の面で一定の優位性を失ったとしても、特有の音楽的な美しさによって地位を確立することが可能である。このため、詞においては古来の意味の深さと雅的な言葉遣いが必須の要件とはされていなかった。詞に新しい語彙やイメージを取り入れることにも抵抗はあるが、それは漢詩ほどではない。実際、現代の多くの詩人が詞において新しい語彙やイメージを取り入れる試みを行っている。前述の胡適による試みもその一例である。これに対して、詞のような音楽的な美しさは、漢

詩には欠けている。音律に最も精通している詩人でさえ、漢詩を詞と同じような音楽美を持つようには書くことができない。つまり、漢詩の本質を定めるものは「言志」という属性であり、これが意味の深さや詩全体の密度に対する要求を生み出している。このため、漢詩を軽くすることや新しい言葉やイメージを取り入れること、さらには詩全体の雰囲気を変えるような試みは、漢詩の根本に手を加える行為となる。そのため、これらの試みは非常に大きな困難を伴う。しかし、変革の方法を考えなければ、漢詩は時代からますます取り残され、最終的には「死文学」として消滅してしまうであろう。したがって、本稿では、言葉遣い、詩の構成、全体の雰囲気という段階的な視点から、漢詩を時代に適応させる可能性を日本漢詩、和歌、俳句に見出し探求している。

要するに、現在、詞と漢詩のいずれにおいても新しい言葉やイメージを取り入れることには困難が存在する。しかし、両者の間には根本的な違いがある。詞では新しい語彙やイメージを自由に試みることができ、胡適のように大胆な試みも可能である。ただし、現代の多くの作者の技量が低いため、成功例が少なく、かえって拙劣な結果に終わることもある。一方で、漢詩における試みは、その本質と衝突しないように慎重かつ細心の注意を払いながら進める必要がある。これは高い腕を持つ詩人であっても困難な作業である。

7. 結論

本稿では、日本漢詩、和歌、俳句から得られた発想と連想を通じて、漢詩に新しい語彙や新たなイメージを取り入れ、漢詩を新時代により適応させる可能性を探究するとともに、さまざまな既存の詩例を引用しながら、言葉遣い、詩の構成、全体の雰囲気などの視点から、漢詩がどのように新しい語彙や新イメージを受け入れやすくなるかについて議論した。議論の上で、言葉使いの面から、詩の構成及び詩の全体的な雰囲気まで漢詩に新語や新しいイメージを取り入れる方法と試みも提案した。

まず、日本漢詩における和風語の活用事例を通じて、漢詩に和風語や将来的な外来語、新語を挿入する際の語選択の要点を明らかにした。次に、和歌特有の掛詞による多義性の特徴を取り上げ、ズレが大きい新しいイメージを漢詩に取り入れる際の可能性について論じ、さらに新語がもたらす言語密度の変化による違和感にどのように対応するかをも考察した。また、俳句を出発点として、漢詩の「重み」と「軽み」、そして全体的な雰囲気の変化の可能性について議論を展開した。漢詩に近い形式である詞を用いた試みを先行させることで、人々がより軽やかな漢詩を受け入れやすくなる可能性を提示し、これらの観点から、漢詩が時代とともに進化し、新しい語彙やイメージを取り入れながらその魅力を保ち続ける道筋を提案

し議論した。

将来的な課題として、代表的な和風語を用いる漢詩の詩人に焦点を当てた研究が重要となる。さらに、「掛詞」の中国語翻訳についての研究も、中国文学における修辭的試みに未来の方向を提供する可能性がある。また、コーパスや文法的な研究を通じて、データに基づき漢詩における新しい表現と既存の古典中国語との違いを探り、その違和感が生まれる原因をデータ分析の観点から明らかにすることも重要である。これらの研究は、いずれも将来に取り組むべき課題だと言える。

参考文献

- 蔡毅（2022）『清代における日本漢文學の受容』汲古書院
- 志田義秀（1932）『俳文学の考察』明治書院
- 時國炎（2015）『現代意識與 20 世紀上半期新文學家舊體詩』華中師範大學出版社
- 施議對（2019）「中國詩歌古今演變的樂曲標誌」福州大學學報（哲學社會科學版）2019 年第 3 期 pp. 15－23
- 朱實（1994）「俳句と漢詩とのかかわり―芭蕉・蕪村・一茶俳句新考―」岐阜協立大学論集 第 27 卷 第 4 号
- 朱易安（2017）「論清代竹枝詞創作範式轉變與地位提升」文藝理論研究 37(2):pp. 69-78
- 孫志軍（2015）『現代舊體詩的文化認同與寫作空間』華中師範大學出版社
- 搜韻<<https://sou-yun.cn/index.aspx>> [2024 年 12 月 26 日閲覽]
- 趙青（2007）「掛詞と双関―日中詩歌の構造に関する一考察―」言葉と文化 8 pp. 53-68
- 時枝誠記（1941）「掛詞による美的表現」『国語学原論』第六章 岩波書店
- 山本健吉（1952）『純粹俳句』創元社

調査資料

- 奥村恒哉校注（2017）『古今和歌集』新潮社

荻生徂徠著 荒井健、田口一郎訳注（2020）『荻生徂徠全詩』平凡社

石川忠久（2012）『江都晴景：わが心の詩』研文出版

夏啓龍（2020）「吉安竹枝詞並序」＜<https://mp.weixin.qq.com/s/VfdoBoH3mKzYsDX0JbkIbA>
＞ [2024 年 12 月 26 日閲覧]

現代俳句協會（2024）「第 61 回現代俳句全國大會優秀作品発表」＜
<https://gendaihaiku.gr.jp/news/news-14232/>＞ [2024 年 12 月 26 日閲覧]

國語漢文研究會編（1936）『和漢朗吟詩集』明治書院

黃遵憲著 陳錚編（2005）『黃遵憲全集』中華書局

張侃（1986）『張氏拙軒集』景印文淵閣四庫全書、集部 216 臺灣商務印書館

陶敏、陶紅雨校注（2003）『劉禹錫全集編年校注』岳麓書社

楊圻（2003）『江山萬里樓詩詞鈔』上海古籍出版社

陸時雍（1986）『唐詩鏡』景印文淵閣四庫全書、集部 638 臺灣商務印書館

「バイト敬語」の社会的妥当性に関する検討
A Study of the Social Validity of “Baito Keigo”

明治大学 国際日本学部
山口 稜太

Meiji University School of Global Japanese Studies
YAMAGUCHI Ryota

目次

1. はじめに
 2. 先行研究
 3. 研究課題
 4. 調査の概要
 - 4.1. 調査対象者
 - 4.2. 手続き
 - 4.3. 調査用紙
 5. 結果と考察
 - 5.1. 設問 1 の結果と考察
 - 5.1.1. 場面によるバイト敬語の使用有無に関する調査の結果と考察
 - 5.1.2. 対話相手によるバイト敬語の使用有無に関する調査の結果と考察
 - 5.2. 設問 2 の結果と考察
 - 5.2.1. バイト敬語の認知と使用有無に関する調査の結果と考察
 - 5.2.2. バイト敬語の禁止の是非についての調査の結果と考察
 - 5.3. 総合的考察
 6. おわりに
- 付記
- 参考文献
- 付録

1. はじめに

接客業に従事していると、「バイト敬語」や「ファミコン（ファミリーレストラン，コンビニエンスストアのこと）言葉」と呼ばれる，接客特有の敬語表現（以下，バイト敬語という）に触れる機会がある。このような敬語表現は「誤用」として，接客マニュアルなどで禁止されている場合も少なくない。文化庁（1997）の「国語に関する世論調査」では，「お会計のほう，1万円になります」「千円からお預かりします」といった表現に対して，半数以上の者が「気になる」と回答していた。このように，バイト敬語は長らく接客において忌避されてきた。また，筆者自身も，テーマパークでアルバイトをしていた際に，「～になります」や「～でよろしかったでしょうか」といった表現の使用を禁止されたことがある。この経験から，当初はバイト敬語を「誤用」だと考えていた。しかし，現在でも日常の中でバイト敬語を耳にする機会があることから，バイト敬語を単なる誤用とする見方に疑問を抱くようになり，バイト敬語の妥当性について再考する必要があるのではないかと考えるようになった。

そこで，本稿では，「バイト敬語」に関して，実際にアルバイトをしている者は，それを禁止されるべきだと考えているのか，また，そもそもバイト敬語を認知しているのか，について調査を行う。また，どういった場面で，どのようなことを考えてバイト敬語を使用しているのか，調査する。本稿では，バイト敬語の正誤を論じるのではなく，その使用がもたらす影響について，使用者に焦点を当てて調査する。

この研究によって，「誤用」とされながらも使用され続けるバイト敬語の妥当性が明らかになることで，従来の「正しい日本語」に対する見方を再考する契機となるだろう。これは，教育現場において「生きた日本語」を教えるうえで，重要な示唆を与えるものと考えられる。

2. 先行研究

本研究に関わる先行研究としては，洞澤・岡（2006），島岡（2012），古俣（2019）の知見が参考になる。

まず，洞澤・岡（2006）では，岐阜大学の学生 254 名を対象に，バイト敬語の使用有無や理由，印象について調査した。調査において，4 つのバイト敬語（「～のほう」「～よろしかったですか」「～になります」「～から」）を，実際に使用しているかどうか，また，その理由についての質問を行った。ただし，使用する理由については，「先輩が使用していたから」など，明確な回答が得られず，「お客様との程よい距離感を作り出すため」という筆者の考察にとどまっていた。

次に，島岡（2012）では，10 代から 50 代の 55 名を対象に，「～のほう」や「～になります」といったバイト敬語の使用状況と理由，印象について調査した。「～のほう」については，文法的な間違いを指摘する意見が多くみられるなど，バイト敬語に対するネガティ

ぐな印象が散見された。使用する理由としては、「丁寧さを表現するため」という合理的なものから、周囲の影響など、曖昧な回答も存在した。

また、古俣（2019）では、石川県金沢市でアルバイト経験がある大学生を対象に、バイト敬語の使用頻度や使用理由、敬語に関する指導の有無などについて調査した。調査の結果、使用者は丁寧さを表現したり、柔らかさを持たせたりするために使用していることがわかり、敬語に不安のある若者が、周囲の影響で誤った敬語を使用し、一般化したのではないかと考察している。敬語に関する指導については、半数以上が「指導は必要だと思う」と回答していたが、実際に指導を受けたことがある者は2割未満であった。ただし、この研究では、正しい敬語の使用に関する意識調査のみ行われており、バイト敬語を使用する者や、認知している者に関する分析が不足している。

3. 研究課題

以上の先行研究を見ると、バイト敬語の使用理由についての考察は、おおよそ知見が一致しているが、「なんとなく」など、明確な回答が得られておらず、使用理由に関する分析が不足している。また、古俣（2019）では、正しい敬語の使用に関する分析がされているが、「バイト敬語」という特定の言葉に対する意識調査がされておらず、再調査の余地がある。

そこで、先行研究で得られた知見と、課題を踏まえ、本研究では、「バイト敬語」を中立的に評価し、そのあり方を再検討するために、以下を研究課題として設定する。

課題1：アルバイトをしている者の「バイト敬語」に関する意識はどのようなものか

課題2：「バイト敬語」を使う（使わない）者は、なぜその選択をしているのか

4. 調査の概要

4.1. 調査対象者

本稿では、現在アルバイトをしている者の意識調査を前提とすることから、調査対象者を「1年以内にアルバイトの経験がある者」とすることとした。ただし、調査時は調査対象者にこの条件を明示せず調査し、90名から回答を得た。このうち、17名が条件を満たさなかったため、これらを調査対象外とし、残る73名について調査対象とした。なお、この73名のうち、72名が日本語母語話者、1名が韓国語母語話者であった。

4.2. 手続き

調査は2024年11月にMicrosoft formsを用い、SNSのダイレクトメッセージにURLを送付し、実施した。はじめにフェースシートを用い、調査対象者の社会的性別、アルバ

イトの勤務歴や職種、日本語母語話者かどうかを確認した。次に、本調査を2つの設問に設定し、最後に調査への同意書記入を設けた。回答の所要時間は全体として約10分程度になるよう設計した。

4.3. 調査用紙

調査用紙の本調査部分は、設問を大きく2つに分け、1つ目はバイト敬語の認知について、2つ目は使用者および非使用者の意識を問うものとし、すべて必須回答とした。なお、バイト敬語が忌避されるべきだという意識のある者が、「バイト敬語に関するアンケートである」という先入観をもって回答をするのを避けるため、1問目で「バイト敬語の使用実態」を問い（以下、設問1という）、2問目で「バイト敬語の認知」について、調査を行った（以下、設問2という）。

設問1では、多肢選択式でバイト敬語の使用有無、その理由（複数回答可）を尋ねた。具体的には、「誤用であるバイト敬語を使いたくなる理由」を問う目的から、バイト敬語を「になります」に限定し、複数の場面を設定し、それぞれの場面で「になります」を使用するか否か、およびその理由を問う設問を6つ設けた。具体的には、バイト敬語の使用の有無に環境要因があるのではないかと考え、価格帯や利便性、身近さの違いなどを考慮し、「ファミリーレストラン」、「コース料理を取り扱うレストラン」、「居酒屋」、「コンビニエンスストア」、「スーパー」、「百貨店」という6つの場面を設定した。それぞれの場面にせりふを付したが、せりふによって回答にゆれが生じないように、モダリティや敬語表現をできるだけ用いない簡素な内容にとどめた。使用理由は、予備調査の結果を踏まえ、「丁寧さ（より丁寧さを表現したいか・最低限の丁寧さを表現したいか）」、「高級感」、「知性の表現」、「その他」の選択肢を設け、「その他」を回答した場合は記述を求めた。また、理由に関して、先行研究の知見から、「なんとなく」という選択肢を設定すると、そこに回答が集中してしまう可能性があるため、「無意識的に使用していた場合は、それを使用することで、何を表現できると思うか」というように、使用者の潜在意識を引き出すようにした。また、対話相手をかえた場면을提示し、バイト敬語の使用の有無を問う問題を2問設定した。具体的には、バイト敬語の使用の有無に対話相手（顧客）の影響があるのではないかと考え、顧客に「どこにある？」とぶつきらばうに聞かれた場面と、「どこにあるか教えていただけますか？」と丁寧に聞かれた場面を設け、それぞれにおいてどのように返答するかを尋ねた。

設問2では、バイト敬語の認知と使用有無を尋ねたうえで、その使用有無の理由について、記述形式で尋ねた。また、認知しているかどうかにかかわらず、バイト敬語は今後どう扱われるべきだと考えているか、多肢選択肢と記述形式で尋ねた。

なお、調査用紙の詳細は付録を参照されたい。

5. 結果と考察

5.1. 設問1の結果と考察

設問1は、課題2の調査にあたる質問である。あらかじめ設定された場面や対話の中で、バイト敬語が使用されるかどうかを問うものである。

5.1.1. 場面によるバイト敬語の使用有無に関する調査の結果と考察

設問1のうち、設定した6つの場面と設問は以下の通りである。設問では、下線部に最も当てはまる言葉を「です」、「になります」、「でございます」の3つの中から1つ選ぶよう指示した。

- ① 1人あたりの支払い額が1000円程度のファミリーレストランで、料理を提供するとき「カルボナーラ_____。」（以下、ファミリーレストランという）
- ② 1人あたりの支払い額が5000円を超えるコース料理を取り扱うレストランで、料理を提供するとき「デザートのカラメル_____。」（以下、コース料理という）
- ③ 安価な飲み放題プランを提供している居酒屋で、料理を提供するとき「お通し_____。」（以下、居酒屋という）
- ④ コンビニエンスストアで、会計をするとき「お会計は500円_____。」（以下、コンビニエンスストアという）
- ⑤ 地域でも安いと評判のスーパーで、尋ねられた品物の場所を案内するとき「お探しの商品はこちら_____。」（以下、スーパーという）
- ⑥ 高級ブランドを取り扱う百貨店で、尋ねられた品物の場所を案内するとき「お探しの商品はこちら_____。」（以下、百貨店という）

表1 場面によるバイト敬語の使用有無に関する調査

	です	になります	でございます	計
ファミリーレストラン	27(36.99%)	14(19.18%)	32(43.84%)	73
コース料理	2(2.74%)	4(5.48%)	67(91.78%)	73
居酒屋	60(82.19%)	7(9.59%)	6(8.22%)	73
コンビニエンスストア	41(56.16%)	18(24.66%)	14(19.18%)	73
スーパー	35(47.95%)	18(24.66%)	20(27.40%)	73
百貨店	0(0.00%)	3(4.11%)	70(95.89%)	73
計	165	64	209	438

この設問の回答は、表1の通りとなった。ファミリーレストラン、コース料理、百貨店では、「でございます」が最も多く選ばれ、居酒屋、コンビニエンスストア、スーパーでは「です」が最も多く選ばれている。「になります」が最も多く選ばれた場面はなかった

ものの、ファミリーレストラン、コンビニエンスストア、スーパーでは 20 パーセント程度の回答者が選んでいることが確認された。

次に、上記の各場面について、「です」、「になります」、「でございます」を選んだ理由について多肢選択式（複数回答可）で尋ねた。選択肢は、「より丁寧さを表現したいから（以下、丁寧さの表現）」、「より高級感を感じさせたいから（以下、高級感という）」、「知性を表現し、自身をよく見せたいから（以下、知性の表現という）」、「最低限の丁寧さを表現すればよいから（以下、最低限の丁寧さという）」、「その他」（自由記述）の 5 つである。その結果は、表 2 の通りである。なお、「その他」の回答については、データの可読性と分析効率の向上のため、記述内容を一部簡略化して示した。

まず、ファミリーレストランにおける選択理由の結果は表 2 の通りである。「です」を用いる理由としては、最低限の丁寧さを表す意図であること、「でございます」は丁寧さを表現したい意図であることが確認された。しかし、この結果だけでは、「になります」を使用する理由は明らかではない。

表 2 ファミリーレストランにおける選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	4	0	1	21	3
になります	5	0	1	8	1
でございます	30	1	4	1	1

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。これを見ると、「になります」が正しい表現でないとして理解していることが窺える。また、「になります」は「でございます」より丁寧度が低い表現だと考えていることもわかる。

【です】

- ・ 「になります」は変化を表すため、料理には「です」を用いるべきだと教わったから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であり、「でございます」は丁寧すぎるから。

【になります】

- ・ 必要以上の丁寧さ（「でございます」）は場面不相応であるから。

【でございます】

- ・ 万人に受け入れられ、相手を不快にさせない表現であるから。

次に、コース料理における選択理由の結果は表 3 の通りである。価格帯が高くなること、丁寧さや高級感を表現するために、「です」よりも「になります」や「でございます」を選択する傾向にあることが確認された。しかし、この結果だけでは、「になりま

す」を使用する理由は明らかではない。

表 3 コース料理における選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	0	0	1	1	1
になります	2	0	0	2	0
でございます	51	34	6	0	3

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。この記述からも、「になります」が間違いであると認識している者が一定数いることが窺える。

【です】

- ・ 「になります」の表現は間違いだと教わったから。

【でございます】

- ・ 自身が接客された際に、より丁寧な接客をしてほしいと思うから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であり、「です」は粗雑に扱われているように感じるから。

次に、居酒屋における選択理由の結果は表 4 の通りである。最低限の丁寧さを表現するために「です」を使っている者が多かったが、安価であっても丁寧さを表現したいためか、断定的でない「になります」を選択した者も散見された。

表 4 居酒屋における選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	2	0	2	46	12
になります	2	0	0	4	1
でございます	6	0	0	0	0

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。「になります」を間違いだと認識している意見もあったが、「自然と使いやすく、丁寧だ」という意見もあり、「になります」を意図的に使用している者がいることが明らかとなった。

【です】

- ・ 親しみやすさが必要な状況であるから。
- ・ 対応にかかる時間をできるだけ少なくできるから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であり、「でございます」は丁寧すぎるから。

【になります】

- ・ 言いやすい表現で、スピーディーかつ丁寧さが表現できるから。

次に、コンビニエンスストアにおける選択理由の結果は表 5 の通りである。「最低限の丁寧さ」を表現するために「です」を使用している者が最も多かった一方で、「丁寧さの表現」のために「でございます」を使用している者も見受けられた。また、「になります」は「最低限の丁寧さ」を表現するために使用している者が最も多かったが、「丁寧さの表現」のために使用している者も散見された。

表 5 コンビニエンスストアにおける選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	3	0	0	34	4
になります	6	0	2	12	0
でございます	8	0	2	4	0

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。ここでも、「になります」を間違いだと認識している意見が散見された。

【です】

- ・ コンビニエンスストアで「でございます」は仰々しいから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であるから。

次に、スーパーにおける選択理由の結果は表 6 の通りである。回答は分散しており、「です」では「最低限の丁寧さ」が最も多く、「でございます」では「丁寧さの表現」が最も多く確認された。コンビニエンスストアと同様に、「になります」は「最低限の丁寧さ」と「丁寧さの表現」がどちらも多かった。

表 6 スーパーにおける選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	6	0	1	27	2
になります	6	0	2	9	1
でございます	15	0	2	2	2

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。「になります」に関して、「スーパー特有の丁寧さを表現するため」という回答が確認された。バイト敬語には他の敬語にはない特徴的な

丁寧さがあると考えていることが窺える。一方で、バイト敬語を誤用だと理解している者も散見された。

【です】

- ・ 親しみやすさが必要な状況であるから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であるから。

【になります】

- ・ スーパーでは、料理提供とは違った丁寧さが必要だと感じたから。

【でございます】

- ・ 万人に受け入れられ、相手を不快にさせない表現であるから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であり、「です」はお客様に不快感を与えてしまう可能性があるから。

次に、百貨店における選択理由の結果は表 7 の通りである。「でございます」に回答が集中しており、「です」を選択した者は確認されなかった。「になります」を使用する者は 4 パーセント程度にとどまり、高級感を表現するために使用している者が最も多かった。しかし、この結果からは、「になります」を使用する理由は明らかではない。

表 7 百貨店における選択理由

	丁寧さの表現	高級感	知性の表現	最低限の丁寧さ	その他
です	0	0	0	0	0
になります	0	2	0	1	0
でございます	41	48	4	1	3

また、「その他」の回答については、記述内容を整理したところ、以下の通りとなった。なお、記述は一部簡略化して示してある。この設問においても、「になります」を誤用だと認識している意見が散見された。

【でございます】

- ・ 万人に受け入れられ、相手を不快にさせない表現であるから。
- ・ 「になります」は日本語として不適切であり、「です」はお客様に不快感を与えてしまう可能性があるから。

以上より、バイト敬語「になります」を使用する割合は、最も少ない百貨店では約 4 パーセント、最も多いコンビニエンスストアやスーパーでは約 25 パーセントであった。また、それぞれの表現を選んだ理由として、「です」は最低限の丁寧さ、「でございます」はより高い丁寧さの表現を挙げる者が多かった。一方、「になります」は「丁寧さの表

現」と「最低限の丁寧さ」の両方を理由とする回答が半数以上を占めた。どの場面でも「知性の表現」を理由とする回答は非常に少なく、接客業においては、言葉づかいが主に丁寧さや店舗の高級感を表現する手段として機能していることが窺える。

多くの場面で、高価格帯の店舗では「でございます」>「になります」>「です」、低価格帯の店舗では「です」>「になります」>「でございます」の回答比率となっている。この結果から、言葉づかいは価格帯によって異なり、バイト敬語「になります」はコンビニエンスストアやスーパーなどの中価格帯の場面で好まれる傾向にあると考えられる。

さらに、その他の回答に注目すると、「になります」が誤用だと知っており、使用していない者が散見された。バイト敬語を選択した者の中には「です」がやや断定的であり「でございます」は丁寧すぎるため、「になります」を選択したという理由を述べている者もいた。さらに、「です」、「になります」、「でございます」の全てを使い分けており、スーパーで「になります」を選択した者は、「料理提供とは違う丁寧さが必要である」と回答していた。「です」を選択した者の中には、「親しみやすさがある」という意見も散見された。

バイト敬語「になります」は、「です」と「でございます」の中間的な丁寧さを表現できる表現として、幅広く使いやすいつと考えられる。特に、「になります」には親しみやすさよりも特有の丁寧さや適度な距離感があり、場面によっては他の敬語表現よりも使用しやすい場合があると考えられる。また、接客において親しみやすさや丁寧さが求められるかどうかは、取り扱う商品の価格帯やサービスの形態（飲食と物販など）によって異なる。その結果、状況に応じて異なる言葉づかいが選ばれ、「になります」は幅広い表現の選択肢を補完する役割を果たしているといえる。具体的には、「です」は居酒屋などのアットホームな環境で親しみやすさを表現する際に適し、「でございます」はレストランや百貨店など特別な場面で高い丁寧さを表現する際に使われる。一方、「になります」はスーパーやコンビニエンスストアのような地域密着型の店舗で、親しみやすさと顧客への丁寧さの両方をバランスよく表現する際に選ばれることが多い。

5.1.2. 対話相手によるバイト敬語の使用有無に関する調査の結果と考察

設問1のうち、設定した2つの対話と設問は以下の通りである。設問では、下線部に最も当てはまる言葉を「こちらの棚です」、「こちらの棚になります」の2つの中から1つ選ぶよう指示した。

- ① （書店で）客「この本を探してるんだけど、どこにある？」店員「はい。_____。」
（以下、日常語という）
- ② （書店で）客「この本を探しているのですが、どこにあるか教えていただけますか？」
店員「はい。_____。」（以下、敬語という）

表 8 対話相手によるバイト敬語の使用有無に関する調査

	です	になります	計
日常語	52(71.23%)	21(28.77%)	73
敬語	36(49.32%)	37(50.68%)	73
計	88	58	146

対話相手の話し方とバイト敬語の使用有無には、はっきりとした相関がみられなかったが、敬語のときはバイト敬語「になります」を選択する者が、「です」を選択する者よりも多くなった。「です」も敬語であり、敬語に対する返答としては自然であるが、相手がより敬度の高い表現を用いると、バイト敬語を使いたくなることから、バイト敬語には、相手への敬意が「です」よりも高く感じられると考えられる。また、日常語よりも距離感のある敬語を使用した場合に、バイト敬語「になります」を使う傾向にあることから、「です」よりも距離感のある表現として、用いられているのではないだろうか。

以上より、バイト敬語は接客をする上での言葉づかいとして認められる余地が十分にあると考えられる。

5.2. 設問2の結果と考察

設問2は、課題1の調査にあたる質問である。バイト敬語を知っているかどうか尋ねたのち、「接客業でない・使う場面がない」と答えた者を除いて、使用の有無を理由とともに尋ねた。また、バイト敬語は禁止されるべきかどうかについても、理由とともに尋ねた。

5.2.1. バイト敬語の認知と使用有無に関する調査の結果と考察

設問2のうち、認知と使用有無をクロス集計した結果は、表9の通りであった。

表 9 バイト敬語の認知と使用有無

	使っていた	使っていなかった	その他	計
知っていた	11(31.43%)	23(65.71%)	1(2.86%)	35
知らなかった	14(36.84%)	20(52.63%)	4(10.53%)	38
計	25	43	5	73

(注) 「その他」には「接客業でない・使う場面がない」を含む。

また、使用有無の理由については、表10、表11の通りであった。なお、理由について、記述式回答を分析するにあたり、回答内容を整理しやすくするため、記述内容をカテゴリー化してまとめた。

表 10 バイト敬語を使用する理由

	周囲の影響	自然と出る	より親しみやすい	使うように教わった	計
知っていた	1(9.09%)	7(63.64%)	3(27.27%)	0(0.00%)	11
知らなかった	7(50.00%)	4(28.57%)	2(14.29%)	1(7.14%)	14
計	8	11	5	1	25

表 11 バイト敬語を使用しない理由

	違和感がある	自然と出る	正しい日本語を使いたい	使用を禁止された	計
知っていた	0(0.00%)	2(8.70%)	10(43.48%)	11(47.83%)	23
知らなかった	8(40.00%)	0(0.00%)	3(15.00%)	9(45.00%)	20
計	8	2	13	20	43

バイト敬語の認知に関しては、おおよそ半数が認知していると回答した。また、認知している者は全員が「誤用」とされていることを知っていた。表 9 を見ると、誤用であることを知りながらも使用している者は 35 名のうち 11 名おり、接客をしていると自然と出てしまうと答えた者や、バイト敬語のほうが接客らしく、親しみやすいという理由が散見された。誤用だと知らずに使用している者は、周囲の影響が最も大きく、バイト敬語の使用を求められている者もいた。バイト敬語を使用していない者は、正しい日本語で接客し、周囲によく見られたいという理由や、バイト敬語の存在は知らなかったものの、「になります」といった日本語に違和感があるという記述が散見された。また、表 11 の通り、バイト敬語を使用していない者で最も多かった理由は、「使用が禁止されている」であった。多くが会社のマニュアルなどによって禁止されているという理由であったが、家族や知人に指摘された者もいた。

バイト敬語の存在を認知している者は半数程度であるが、実際の現場においては使用が禁止されていることが多く、バイト敬語は社会的に忌避されているのが現状である。アルバイトをする者の中にも、正しい日本語を使いたいという理由で、バイト敬語を使わないように心がけている者は少なくなかった。しかし、アルバイトをしている者の中には、接客らしさや親しみやすさを求め、意図的にバイト敬語を使用している者も存在することが明らかになった。

バイト敬語が誤用とされていることを知りながら使用している者や、意図的にバイト敬語を使用している者がいることから、バイト敬語を一概に「誤用」と断定するのは慎重になるべきである。

5.2.2. バイト敬語の禁止の是非についての調査の結果と考察

設問 2 のうち、バイト敬語の禁止の是非について問う質問の結果は、表 12 の通りであった。なお、理由について、記述式回答を分析するにあたり、回答内容を整理しやすくするため、記述内容をカテゴリー化してまとめた。

表 12 バイト敬語の禁止の是非

	禁止するべき	禁止するべきでない
正しくないから	12	0
相手を不快にさせるから	7	0
自分自身のためになるから	4	0
禁止するほどではないから	0	12
そこまで求めるべきではないから	0	5
丁寧さが伝わればよいから	0	4
気にならないから	0	21
使いやすいから	0	4
言葉の変化として認められるべきだから	0	4
計	23	50

また、表 12 のうち、それぞれの回答における回答者の職種は、表 13 の通りであった。
 なお、複数選択のため、回答数は調査対象者数に準じない。

表 13 「表 12 バイト敬語の禁止の是非」における回答者の職種

	禁止するべき	禁止するべきでない
コンビニ・スーパー	4	10
アパレル・雑貨販売	4	5
携帯・家電販売	0	1
食品販売	5	4
専門ショップ	0	1
キッチンスタッフ	2	7
カフェ	6	14
高級レストラン（ホール）	3	7
ファミリーレストラン（ホール）	6	10
ファストフード	2	12
居酒屋・バー	3	12
レジャー・娯楽施設	3	5
テーマパーク	9	14
旅行	1	1
ホテル・ブライダル	2	3
清掃	0	1
事務・データ入力	1	4
テレアポ・テレオペ	0	1
受付・秘書	1	2
塾講師・家庭教師	4	6
接客その他	5	11
非接客その他	1	4

表 12 の通り、バイト敬語について、半数以上の者が「禁止すべきでない」と考えていることがわかった。「禁止すべき」と答えた者は、これまでバイト敬語が忌避されてきた理由である「日本語として正しくない」を挙げる者が最も多かった。また、「相手が不快に思う」や「アルバイトで学ぶことができれば将来の自分自身のためになる」というように、正しい日本語を使うことの重要性について言及する意見が多くみられた。一方で、「禁止すべきでない」と答えた者は、「社会全体でバイト敬語を禁止すること」に対する懐疑的な意見が多く、使いたくない人が使わなければよい、アルバイトに求めるべきではない、といった理由が散見された。また、バイト敬語は接客をする際に自然と出てきて使いやすいといった理由や、丁寧さが伝われば日本語の間違ひは気にならないといった理由もみられた。

回答者の職種を見ると（表 13）、居酒屋・バーやファストフードといった比較的低価格な商品を提供している職種において、「禁止すべきでない」の回答が顕著であった。しかし、高級レストランやテーマパークなど、比較的高価格な商品やサービスを提供している職種においても、「禁止すべきでない」の回答数は「禁止すべき」を十分に上回っていることから、バイト敬語は現場での柔軟な言葉づかいとして許容されているという実態が明らかになった。

これまでバイト敬語が「誤用」だとして忌避されてきたように、正しい日本語ではないという点でバイト敬語は禁止されるべきだという意見は、現在でも支持されている。しかし、半数以上の者は、バイト敬語がマニュアルによって禁止されることに対して懐疑的であった。接客（特にアルバイトとして）においては、相手に丁寧さを伝えることが大切だと考えている者が多く、その結果として、バイト敬語が用いられていると考えられる。

また、相手に丁寧さを伝える言葉づかいの習慣は個人の価値観や文化的背景などによってさまざまであり、バイト敬語の使用禁止をはじめとする言葉づかいの規定は、従業員の個性や自然な表現力を抑圧する可能性があるのではないかと考えられる。さらに、忙しい環境でのアルバイトで、自身の言葉づかいを制限されながら接客することが、ストレスや労働意欲の低下につながる可能性も考えられる。

5.3. 総合的考察

今回の調査で、バイト敬語「になります」は、「です」や「ございます」の中間的な表現として、断定的すぎず、かつ過度に丁寧すぎないバランスの取れた表現として幅広く使用され、ある場面や相手との関係性において、独自の役割を果たしていることがわかった。その使用は、「丁寧さの表現」や「最低限の丁寧さ」を理由にする者が多く、適度な距離感や柔らかさを与える表現として機能していると考えられる。また、価格帯や業種によって使用頻度が異なり、特にコンビニエンスストアやスーパーといった中価格帯の店舗で選ばれる傾向がみられた。このことは、「になります」が地域に密着した環境（心理的距離が近

すぎず、遠くもない)で、丁寧さと親しみやすさを両立させる特性を持つことを示していると考えられる。

バイト敬語の認知と使用に関して、一部の利用者は、それが誤用であることを認識しながらも使用している。また、誤用であるという認識がなく、自己の意思ではなく使用を禁止されているために使用しないという回答も多かった。このことから、バイト敬語の使用は単なる「誤用」ではなく、現場での実用性や効率性に基づいていることが示唆される。さらに、顧客に対する「敬意」や「親しみやすさ」のバランスをとるために、バイト敬語が役立つ場面も多い。また、忙しい環境などで無意識的になると、従業員はバイト敬語を自然と使う傾向があることから、バイト敬語の妥当性は十分にあるといえる。

しかし、バイト敬語の使用数を見ると、「になります」は「です」や「でございます」の半数未満にとどまっている。「禁止するべきでない」と答えた者のほうが多いが、現場での使用が顕著でないことに鑑みると、バイト敬語の是非については、慎重になるべきである。

また、バイト敬語を禁止する意見では、バイト敬語を「誤用」として捉え、日本語の正しい使用を重視している。特に、接客マニュアルが厳格に存在していると考えられる高価格帯の接客業では、「でございます」といった表現が正しいとされている。一方で、バイト敬語を支持する意見では、バイト敬語が現場での使いやすさや適切な丁寧さを表現するものとして評価されている。特に、中価格帯の業態では、「でございます」は堅苦しく、「です」は親しみやすいが断定的すぎるため、中間的な「になります」を使用する意見が多い。このように、両者のギャップの本質は、「理想の言葉づかいを目指すべきか」と「現場に即した柔軟性を優先すべきか」の優先順位の違いにあると考えられる。しかし、使用の有無はさておき、高価格帯の業態に従事していても、バイト敬語の禁止について懐疑的な意見が散見されているのも事実である。

以上より、バイト敬語が禁止されるべきである環境が存在しており、その選択に合理的な理由は存在するものの、労働者や顧客のバイト敬語に対する寛容さは高まってきていることから、「バイト敬語」とよばれ誤用とされてきた日本語が受け入れられる可能性は十分にあるのではないかと考えられる。

6. おわりに

本研究では、「誤用」とされてきたバイト敬語が現場において使用されている現状から、バイト敬語の妥当性について再検討する目的で、アルバイトをする者のバイト敬語に対する認知や使用有無、是非について、また、こういった場面で、なぜバイト敬語を使用するのかという2つの課題について、検討した。その結果、バイト敬語の認知は半数程度であり、「正しい日本語ではないから」という理由で使用しない者、「効率」や「親しみやすさ」といった理由で使用する者がいた。以上の理由でバイト敬語の禁止を求める意見があったものの、いわゆる「正しい敬語」が求められる高価格帯の職場で働く者であってもバイト

敬語を支持する意見が散見された。全体として「バイト敬語は禁止すべき」という意見は、「バイト敬語は禁止すべきでない」という意見を下回り、バイト敬語が今後、受け入れられる可能性が十分に示唆された。また、「です」は断定的であり、「でございます」は丁寧すぎるという理由で、主に中価格帯の店舗において「になります」が使用される場合があることがわかった。相手との距離感を作り出す際に、「になります」は「です」と異なるはたらきをしており、バイト敬語には使用の傾向や理由が存在していることがわかった。この研究により、「誤用」とされてきたバイト敬語の使用に関する妥当性や合理性、使用者の意識が明らかとなった。このことは、企業における「バイト敬語」の認識や、教育現場における「正しい日本語」について再考の余地を示唆するものとなるだろう。

しかしながら、課題も残されている。まず、調査対象語を「になります」に限定したことで、バイト敬語全体の特徴や妥当性について明らかにするためのデータが不足していた。よって、今後は、調査対象語を広くバイト敬語から選出し、より俯瞰的なデータで、再調査を行う必要がある。また、現場では無意識的に使用しているという意見が散見されたが、今回の調査は記述式および選択式であったため、回答が誘導的であり、実情をそのまま反映していない可能性も否定できなかった。そのため、今後は、実際の使用場面で録音などによる調査を行い、より自然で自発的なデータを収集する必要がある。

今後は、バイト敬語に関して、現場での調査や、幅広い単語について調査し、より実用的な考察を提示することで、接客マニュアルの存在する企業や店舗、または教育現場に示唆が与えられるように、研究を続けていきたい。

付記

本研究にあたり、研究の過程では、小森和子教授、ゼミのメンバー（川本涼乃さん、佐藤加奈さん）から、多くの示唆をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

参考文献

- 古俣美夏（2019）「バイト敬語の違和感と使用について」、『論文集 / 金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習【編】』, 14, pp. 15-30.
- 島岡晴香（2012）「若者の敬語意識：アルバイト敬語を参考に」、『国文研究』, 57, pp. 150-120.
- 洞澤伸・岡江里子（2006）「「バイト敬語」を使う若者たち：話し手の心理と聞き手の印象」、『岐阜大学地域科学部研究報告』, 19, pp. 1-31.
- 文化庁文化庁国語課（1997）「国語に関する世論調査」、『世論調査報告書』, pp. 1-87.

付録

【フェースシート】

まずは、あなたについて、おうかがいします。

1. あなたは、現在アルバイトをしていますか。また、していない場合は、最後にアルバイトをしていたのはいつですか。

- ☐ している
- ☐ 過去 1 年以内にしていた
- ☐ 1 年以上前にしていた
- ☐ したことがない

2. あなたの自認する性別を教えてください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他・回答しない

3. あなたの年代を教えてください。

- ☐ 10 代
- ☐ 20～24 歳
- ☐ 25～29 歳
- ☐ 30 代以上
- ☐ 回答しない

4. あなたの母語を教えてください。

- ☐ 日本語
- ☐ その他：_____

5. あなたの、アルバイトとしての勤務経験を教えてください。

(ア) 現在しているアルバイトの職種を教えてください。なお、現在アルバイトをしていない場合は、最後にしていたアルバイトについて、教えてください。(複数回答可)

- ☐ コンビニ・スーパー
- ☐ アパレル・雑貨販売
- ☐ 携帯・家電販売
- ☐ 書店・CD・レンタルショップ
- ☐ 食品販売
- ☐ 専門ショップ
- ☐ キッチンスタッフ
- ☐ カフェ
- ☐ コース料理やセット料理を提供する高級レストラン（ホール）
- ☐ 単品料理を提供するファミリーレストラン（ホール）
- ☐ ファストフード
- ☐ 居酒屋・バー
- ☐ レジャー・娯楽施設（遊園地など）
- ☐ テーマパーク
- ☐ 旅行
- ☐ ホテル・ブライダル
- ☐ 清掃
- ☐ 事務・データ入力
- ☐ テレアポ・テレオペ
- ☐ 受付・秘書
- ☐ 塾講師・家庭教師
- ☐ 試験監督・添削
- ☐ 接客その他
- ☐ 非接客その他
- ☐ したことがない

(イ) 上で回答したアルバイト（複数回答の場合は、最も長い期間従事しているもの）は、
どれくらいの期間、続けています（いました）か。

- ☐ 半年未満
- ☐ 半年～1 年程度
- ☐ 1～3 年程度
- ☐ 3 年以上
- ☐ したことがない

【調査票】

あなたは、以下の場面で、店員として、顧客に対してどのような言葉で接客すると思いますか。
下線部に当てはまる、あなたの考えに最も近いものを、次の選択肢から選んでください。なお、この店舗に、接客用語に関するマニュアルは存在しないものとします。

1. ①1人あたりの支払い額が1000円程度のファミリーレストランで、料理を提供するとき
「カルボナーラ_____。」

- ☐です
☐になります
☐でございます

2. ①で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

- ☐より丁寧さを表現したいから
☐より高級感を感じさせたいから
☐知性を表現し、自身をよく見せたいから
☐最低限の丁寧さを表現すればよいから
☐その他：_____

3. ②1人あたりの支払い額が5000円を超えるコース料理を取り扱うレストランで、料理を提供するとき「デザートはティラミス_____。」

- ☐です
☐になります
☐でございます

4. ②で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

- ☐より丁寧さを表現したいから
☐より高級感を感じさせたいから
☐知性を表現し、自身をよく見せたいから
☐最低限の丁寧さを表現すればよいから

☐その他：_____

5. ③安価な飲み放題プランを提供している居酒屋で、料理を提供するとき「お通し_____。」

☐です

☐になります

☐でございます

6. ③で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

☐より丁寧さを表現したいから

☐より高級感を感じさせたいから

☐知性を表現し、自身をよく見せたいから

☐最低限の丁寧さを表現すればよいから

☐その他：_____

7. ④コンビニエンスストアで、会計をするとき「お会計は 500 円_____。」

☐です

☐になります

☐でございます

8. ④で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

☐より丁寧さを表現したいから

☐より高級感を感じさせたいから

☐知性を表現し、自身をよく見せたいから

☐最低限の丁寧さを表現すればよいから

☐その他：_____

9. ⑤地域でも安いと評判のスーパーで、尋ねられた品物の場所を案内するとき「お探しの商品はこちら_____。」

- ☐です
- ☐になります
- ☐でございます

10. ⑤で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

- ☐より丁寧さを表現したいから
- ☐より高級感を感じさせたいから
- ☐知性を表現し、自身をよく見せたいから
- ☐最低限の丁寧さを表現すればよいから
- ☐その他：_____

11. ⑥高級ブランドを取り扱う百貨店で、尋ねられた品物の場所を案内するとき「**お探しの商品はこちら_____。**」

- ☐です
- ☐になります
- ☐でございます

12. ⑥で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。また、特にはっきりとした理由がない場合は、**それを使用することで、他の選択肢にはないどのような効果がある**と思うか、教えてください。(複数回答可)

- ☐より丁寧さを表現したいから
- ☐より高級感を感じさせたいから
- ☐知性を表現し、自身をよく見せたいから
- ☐最低限の丁寧さを表現すればよいから
- ☐その他：_____

あなたは、お客様から質問を受け、それに答えています。以下の会話の空欄（あなた（店員）の発言）に、あなたの考えに最も近いと思う選択肢を選び、教えてください。

1. （書店で）客「この本を探してるんだけど、どこにある？」店員「はい。_____。」

- ☐こちらの棚です

☐こちらの棚になります

2. (書店で) 客「この本を探しているのですが、どこにあるか教えていただけますか？」店員
「はい。_____。」

☐こちらの棚です

☐こちらの棚になります

ここからは、あなたがアルバイトで使う敬語に対する考えについて、おうかがいします。

1. 主に接客場面のみで使われる、『バイト敬語』という特徴的な敬語表現があることを知っていましたか。

☐知っていた

☐知らなかった

2. 「知っていた」と答えた方へ、あなたは『バイト敬語』が「誤用」とされていることを知っていましたか。また、そのうえで、それらの表現を普段使っていますか。

☐「誤用」とされていることを知っているが、使っていた

☐「誤用」とされていることを知っており、使っていなかった

☐「誤用」とされていることを知らずに使っていた

☐「誤用」とされていることを知らなかったが、使っていなかった

☐接客業ではない・使う場面がない

3. 「知らなかった」と答えた方へ、あなたは、アルバイトで接客する中で、「5000 円になります」「1000 円からお預かりします」「サイズのほうはどうなさいますか」といった、日常会話にはないような表現を普段使っていますか。

☐はい

☐いいえ

☐接客業でない・使う場面がない

☐わからない

4. その理由を教えてください。

5. 接客において使われる「～でよろしかったでしょうか」「～になります」といった敬語表現

は、『バイト敬語』や『ファミコン言葉』とよばれ、しばしば日本語の乱れだと言われています。会社によっては、マニュアルで明文化され、こういった言葉づかいを禁止している場合もあります。あなたは、『バイト敬語』は、禁止されるべきだと思いますか。

☐はい

☐いいえ

6. その理由を教えてください。

【調査協力についての同意書】

この度は調査にご協力いただき、ありがとうございました。本調査で得られた一切のデータや収集した個人情報は、山口稜太の実施する「バイト敬語」に関する卒業研究にのみ使用し、それ以外の目的で使用することはありません。また、卒業研究で使用する場合にも、貴殿が特定されることはありません。この説明を読んで、本日ご記入いただいた調査票が山口稜太の研究に使用されることに同意しますか。

☐同意する

☐同意しない

調査へのご協力、ありがとうございました。

明治大学国際日本学部国際日本学科 4 年 山口稜太

eu210241@meiji.ac.jp

なぜタイ語では「道を教える」と言わないのか

—日タイ言語コーパス研究を通じた考察—

Research on difference between Japanese usage of “oshieru” and

Thai usage of “sǎn”

- Japanese and Thai corpus studies-

明治大学 国際日本学部

佐藤 加奈

Meiji University School of Global Japanese Studies

SATOU Kana

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 研究課題
4. 調査の概要と結果
 - 4.1. BCCWJ の調査手続き
 - 4.2. TNC の調査手続き
 - 4.3. 「教える」の分析方法と結果
 - 4.4. 「sōon」の分析方法と結果
5. 考察
 - 5.1. 「教える」の分析結果の考察
 - 5.2. 「sōon」の分析結果の考察
 - 5.3. 研究課題の考察
6. おわりに
- 付記
- 参考文献

1. はじめに

本研究では、日本語とタイ語で対訳とされる語同士について、対象範囲や使用場面の違いについて検討する。

英単語「wear」は、日本語母語話者によってしばしば「着る」と訳される。だが、実際は、「wear」の意味範囲は、日本語で「衣類」に属する単語とのみ共起する「着る」よりも広く、帽子や靴、指輪等にまで及ぶ。このように、外国語のある意味とその対訳とされる母語の意味とは、必ずしも一対一の等価関係にない(今井 1993)。また、対訳とされる語同士においても、対象とする意味範囲が異なる場合も存在する。例えば、日本語において、体の肩から手首までを「腕」、手首から指先までを「手」、異なる語で区別するが、肩から指先まで区別せず、一語で表す言語も複数存在する。しかし、学習者がこれらの点に自覚的でなく、自らの母語の辞書における語の定義を、そのまま外国語に置きかえて使用すると、誤用となる可能性がある。誤用は様々な言語間で起こりうるが、とりわけ、日本の中等教育までの外国語学習において履修者が少ない東南アジア諸語の学習者の誤用研究において、上述したような意味範囲の違いを要因とする誤用に焦点をあてた研究は、まだ多く行われていない。

そこで、本研究では、二言語間で、一対一の等しい関係と捉えられがちだが、実際は対象範囲や使用場面が異なる単語について調査してみたい。特に、長きにわたり日本語学習者数が多く、近年は日本との間で、ビジネス、旅行観光、留学等の目的で人々の往来が活発なタイの公用語であるタイ語と、日本語の単語とで比較調査を試みる。同様の評価基準で対象言語となりうる言語は他にもあるものの、本稿においてタイ語を対象とするのは、筆者にとってタイ語が学習言語であること、さらに、筆者がタイ留学時、大学で日本語を学ぶ現地学生らと関わり、語彙学習が双方にとって難しいことを実感していることによる。

対象とする単語は、日本語の「教える」と、タイ語の「sǎwn (ソーン)」である。これらは対になる語として対訳辞書に掲載されているものの、タイ人日本語学習者、日本人タイ語学習者の内省において、実際には対象範囲と使用場面が異なる可能性が示唆されている。

本研究では、「教える」と「sǎwn」の対象範囲と使用場面の違いを、両言語のコーパスを用いて明らかにすると共に、用法の違いの原因を考察する。この研究によって、日本語教育とタイ語教育に対して示唆を与えることができると考える。

2. 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、日本語学習とタイ語学習に関する研究の中で、対訳とされる語や表現の意味範囲の違いに関する知見であるが、本研究と同じ「教える」に関する研究成果は見当たらない。これまでの研究成果の中で、日本語とタイ語の意味の違いや、調査方法において本研究に示唆を与えるものとしては、浜田・成田(2007)、木田・PRAWANG・生田(2014)が挙げられる。

まず、浜田・成田(2007)では、日本語母語話者とタイ語母語話者の計 278 名(日本語母語話者 92 名、タイ語母語話者 83 名、留学経験のないタイ人日本語学習者 84 名、タイ人

日本留学経験者 19 名)を対象に、談話完成テスト (DCT) を用いて、日本語の「大丈夫」とタイ語の「mây pen ray (マイペンライ)」の使用範囲の違いを調査した。具体的には「申し出の断り」場面として、日本語において「大丈夫」が自然であるもの (引っ越しの手伝いの申し出を断る場面等) と不自然なもの (マンガを貸す申し出を断る場面等)、上下関係、親疎関係という対比も含めて 13 種類並べたものを提示し、タイ語母語話者の「マイペンライ」の使用範囲と、日本語母語話者や学習者らの「大丈夫」の使用範囲とを比較した。その結果、日本語の「大丈夫」は、心配する状況での申し出かどうかが使用に影響するが、タイ語の「マイペンライ」は、飲食物の提供や物を勧めるといった内容以外の手助けの申し出か否かが使用に影響するという違いがあり、日本語学習者が「マイペンライ」の使用範囲で「大丈夫」を使用すると、不適切となる可能性があるという結論付けた。しかしながら、この調査で対象とされた 13 の場面は限定的であり、社会における話者同士の発話が網羅的にはカバーされていない。また、「マイペンライ」「大丈夫」を使わない場合にほかのどのような表現を使うのかについては、この研究において言及されていない。

次に、木田・PRAWANG・生田 (2014) では、タイ語母語話者の内省や学習者の誤用を踏まえ、日本語の「勉強する」と、その対訳とされるタイ語「rian (リアン)」とが意味・用法において異なる領域を有しているという仮説をもとに、『現代日本語書き言葉 均衡コーパス』(BCCWJ) とタイ語のコーパス『Thai National Corpus』(TNC) を用いて比較研究を行った。各言語の辞書におけるそれぞれの語義を記したうえで、検索対象にはそれぞれの「出版・新聞」「出版・雑誌」「出版・書籍」「図書館・書籍」「特定目的・ベストセラー」を設定した。調査の結果、「勉強する」と「rian」の対象語に重なりがある部分と異なる部分があり、「rian」の対象語だが「勉強する」の対象とならないものは「本」、「目標である職業」「学校教育のプログラム」、「趣味的な習い事」であると結論づけた。つまり、それは「勉強する」と「rian」以外の関連語同士においても、日本語とタイ語とで異なる意味・用法の領域を有する可能性があるということであるが、この調査ではそれについて言及されていない。

3. 研究課題

浜田・成田 (2007) の研究成果は示唆に富んでいるものの、意味範囲を比較するにあたって提示された場面が限定的であり、多様な話者の自然な発話を対象とするためには、より広範なデータを活用すること、また、共起する別の語が存在するのか、それは何かであるかについても同様に調査対象とすることが必要であると言える。

また、木田・PRAWANG・生田 (2014) の研究は、「勉強する」と「rian」の対象語に焦点を当て、それぞれコーパスを用いて比較研究を行い、重ならない対象語があることを示した。このことは、類義語においても、対訳とされる語同士の対象語が重ならない可能性を示唆するものであるが、実際には類義語について検討はしていない。そのため、言語データを用いて実際に調査を行う必要がある。

そこで、これらの先行研究で得られた知見と、残された課題を踏まえ、日本語とタイ語で対訳とされる語同士の対象場面や使用範囲の違いについて知るために、本研究では以下を研究課題として設定する。

課題 1：日本語の「教える」と、その対訳とされるタイ語の「sǎon (ソーン)」が対象とする範囲（ヲ格名詞）は異なるのか。

課題 2：課題 1 において、一方が対象とする語を、もう一方が対象としないのはなぜか。

4. 調査の概要

4.1 BCCWJ の調査手続き

「教える」が日本語ではどのようなヲ格名詞と共起するかを調査するために、本研究では、コーパス検索アプリケーション「中納言」を利用し、国立国語研究所が開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ) から、「教える」と共起する語や表現を抽出した。

抽出する際には、短単位検索を用い、キーの書字形出現形に「教える」、前方共起に「を」を設定した。なお、キーを書字形出現形に限定したのは、語彙素で検索した場合 7,846 件がヒットし、分析対象とするには数があまりにも多すぎるため、対象を終止形、連体形のみとしたためである。

また、BCCWJ と比較する TNC と検索の条件を揃える必要があるため、以下のような手続きを踏んだ。尚、後述するが、TNC のジャンルには「FICTION」「NEWSPAPER」「ACADEMIC」「NON-ACADEMIC」「LAW」「MISC*¹」があり、全てを選択する、あるいは一つだけを選択する、のいずれかしか条件設定ができず、数種類のジャンルを選ぶことができないため、タイ語の全てのジャンルに類するものを BCCWJ で設定することで条件を揃えることとした。

これに従って、BCCWJ で検索対象を「出版・新聞」「出版・雑誌」「出版・書籍」「図書館・書籍」「特定目的・ブログ」「特定目的・法律」「特定目的・国会議事録」「特定目的・広報誌」「特定目的・教科書」「特定目的・韻文」とした。年代については、TNC が年代を選択することができないため、BCCWJ では全年代を対象とした。

その結果、「教える」と共起するヲ格の語や表現は 402 件あることが確認された。よって本研究では、この 402 件のヲ格の語と表現を分析対象とした。

なお、次の(1) (2)のようにニ格名詞に相当する語がヲ格で出現している場合には、誤記、あるいは誤用と判断し、本研究の分析対象から除外した。

(1) いかなる時と処にあっても融通無碍に法を説き、ひとびとを教えることのできる境

¹ MISC は、その他諸々という意味である。

地。

(2) 学校教師の多くは、三年制の村落学校で一～三年生までを教えるだけで、高学年を教える資格は持っていなかった。

この分析対象外を除いた結果、「教える」のヲ格の語や表現の用例は 381 件となった。それらを語の特性によって、下記の通り語義の①～③に分類した。なお、語義は『デジタル大辞泉』を参照した。

おし・える【教える】

- ① 知識・学問・技能などを相手に身につけさせるよう導く。教育する。教授する。
- ② 知っていることを相手に告知知らせる。
- ③ ものの道理や真実を相手に悟らせて導く。戒める。教訓を与える。

4.2 TNC の調査手続き

「สอน (以下 sǎon)」がタイ語ではどの語と共起するかを調査し日本語の「教える」と比較するために、本研究では、「Thai National Corpus Third Edition」を利用し、「sǎon」と共起する語を抽出した。抽出する際には、WORD 欄に「สอน」、COLLOCATE 欄に R1 (=右側に 1 語)を設定した。タイ語は、英語等と同じく、SVO の語順であり、目的語が動詞の後にくるため、このように設定することで「教える」の対象語が抽出できる。なお、本稿でのタイ語の表記については、タイ語をアルファベットで表記するか、あるいは IPA で表記するかのいずれかの方法が考えられるが、読者の利便性を考えて、筆者としては音をより正確に表せる IPA が適切だと考え、以下、タイ語はすべて IPA で表記する。

抽出の結果、頻度の高い語から順に 100 種類、5,062 件の対象語が抽出された。

なお、「sǎon」の目的語の位置にはあるものの、慣用表現の一部分だけが抽出されてしまった用例や、日本語と同様に、対象語ではなく対象者が抽出された用例は、分析対象から除外した。

その結果「sǎon」の対象語の用例は 1,742 件となった。それらを語の特性によって語義①と②に分類した。なお、タイ語の語義は『phótcaanaanúkrom chabàp ràatchaban dittayásathán』というタイ王国言語学会の公式辞書を参照した。

sǎon (動詞)

- ① 知識を教えること。善悪を理解させるために、話すか見本を見せる方法で教えること。
- ② 練習を始めること。結果が出始めること。

4.3 「教える」の分析方法と結果

前述の通り、日本語のヲ格の語と表現として抽出された語の数は 381 件であった。これらの語を「教える」の意味に基づいて分類した。

まず、技術や方法、言語行為、学問、学びの基礎となる知識についての語を①の意味に分類した。「君が代」や「日の丸」など、国家や国際事情に関する語も、その国に生きる人たちに身につけさせたいという国の意図で教えていると考え、①に分類した。「読み書き」や「文字」は、言語行為とも、学びの基礎となる知識ともいえるが、言語学習の下位分類として言語行為に分類した。「くり上がり」は数学や算数の下位分類として学問に分類した。「政治のあり方」という語は、政府関係者や有権者自らがコントロールできるものとして①に分類した。また「麦泥棒」という語は、語彙を教える言語行為ではなく、悪知恵を使ってどう得をするかという方法ではないかと考え、①に分類した。

次に、「～こと」「～もの」などの概念、具体物、意見や主張についての語を②の意味に分類した。①における、学びの基礎となる知識と類似しているものもあったが、学問に発展していくと考えられず、かつ一時的に知り得たい情報と判断できるものは②に分類した。

最後に、この世の真実をある立場の人がどう捉えているか、社会生活の指針、社会をどう生き抜くかの助言に関する語を③の意味に分類した。例えば、宗教における教義經典をどう解釈するかで、また、その解釈を踏まえて人々は困難をどう乗り越えるかであり、そのなかでさらに、指針と具体的な助言とに分類した。「勤行」は仏道を修行するという行為であり、社会を生き抜くために行った方が良いという助言であると考え、社会をどう生き抜くかの助言に分類した。最後に、「何」「何か」などの疑問詞は、上記のどの語義にも当てはまるとも判断がつかねるため分類をしなかった。

このようにして 381 件を、三つの意味に分類した結果は表 1 の通りである。

表1 「教える」意味別の語の例（用例は、頻度の高かった対象語から順に各5語掲載）

語義内の分類	延べ語数 () 内は全体に対する割合	異なり語数	用例
技術・方法	92 (24.1%)	82	技術 / 技法 / 生き方 / 書き方 / ピアノ
言語行為	48 (12.6%)	21	日本語 / 英語 / ことば / バスク語 / 手話
① 学問	41 (10.8%)	31	数学 / 勉強 / 科学 / 歴史 / 英文学
学びの基礎となる知識	18 (4.7%)	13	知識 / (筋肉の緊張と) 弛緩 / 数 / アラビア数字 / 動物や
国家・国際事情	14 (3.7%)	13	君が代 / 国 / 日の丸というものの / 中国事情 / 外国
合計	213 (55.9%)		
概念	58 (15.2%)	26	～こと / ～もの / それ / 感覚 / 世界観
具体物	41 (10.8%)	34	住所 / 場所 / 道 / 名前 / 個人情報
②			どうしたらよいか / いかに難しいか / 歌を聴いてどう感じるべきか / 日本は負けたんだ / 手伝ってあげなければいけない
意見・主張	9 (2.4%)	9	
合計	108 (28.3%)		
この世の真実をある立場の人がどう捉え	24 (6.3%)	24	無常 / 生きるとはどういうことなのか / 世界がいかに
③ 社会生活の指針	18 (4.7%)	14	道徳 / ルールを守ること / 秩序 / 責任 / 善悪
社会を生き抜く上での助言	12 (3.1%)	10	勤行 / 人生の知恵 / 服従 / 人生の勝ち方 / 人生を自分で切り拓くこと
合計	54 (14.2%)		
疑問詞	6 (1.6%)	2	何 / 何か
合計	381 (100%)	266	

4.4 「sǎn」の分析方法と結果

前述の通り、抽出された語は1,742件であった。これらの語を「sǎn」の意味に基づいて分類した。

「sǎn」は、辞書の意味記述において、教える内容ではなく教授者と学習者の行動が記されている点で、日本語の「教える」とは異なる。筆者はタイ語のネイティブ・スピーカーではないため、「sǎn」の意味分類について、タイ人の僧侶にヒアリングを行ったところ、こ

の意味分類は仏教の「三慧（さんえ）」という考え方が反映されているのではないかとの示唆が与えられた。その考え方とは、知恵には三つの段階があり、それは、聞くことによって得られる知恵、考えることによって得られる知恵、そして実践することによって得られる知恵の三つである。その示唆によれば、辞書に掲載されている二つの意味は、そのうちの一つ目、三つ目に該当すると考えられる。

これを踏まえ、教える人が講義を行い、学習者がそれを聞く場合は①に分類した。それに対して、教える人が自らの実践経験をもとに講義し、学習者もその場で同じように実践してみる場合は②に分類した。なお、分析にあたっては、単語から連想される状況が、①であるか②であるかを、タイ語母語話者に一つずつ確認したうえで分類を行った。最後に、疑問詞は、学ぶ側の参加方法の区別がつかねるため、①と②のいずれにも分類をしなかった。その結果は表2の通りである。

表2 「sǎn」意味別の語の例（用例は、数の多いものから順に各5語を掲載）

語義内の分類	延べ語数 () 内は全体に対する割合	異なり語数	用例
① 学校の先生	697 (40.0%)	15	wíchaa 教科 / nǎnsúu 教科書 / bɛ̀ɛp 教科書 / wíchaachii 学問 / wíthayaasàat 科学
親・保護者	24 (1.4%)	1	kaan bāan 宿題
合計	721 (41.4%)		
② *語義内の分類なし		33	phaasāa 言語・言葉 / sàatsānāa 宗 教 / wíthii 方法 / sǐnlápā 芸術 / sǐ inlātham 道德
合計	948 (54.4%)		
疑問詞	73 (4.2%)	1	arai 何
合計	1742 (100%)		

5. 考察

本章では、これまでの分析結果に基づき、本研究の研究課題について総合的な考察を行う。本研究の研究課題は、前述の通り、(1) 日本語の「教える」と、その対訳とされるタイ語の「sǎn」が対象とする範囲は異なるのか、(2) 課題1において、一方が対象とする語を、もう一方が対象としないのはなぜか、の二つであった。以下で、両語の分析結果の考察と、それぞれの研究課題の考察を行う。

5.1 「教える」の分析結果の考察

まず、日本語「教える」の分析結果から、意味①に該当する語が全体の55.9%、意味②に

該当する語が 28.3%を占めることが示された。これは、有識者や有資格者による知識の教授がこの語の主たる用法ではあるものの、知識の授受を目的としない一次情報の伝達もまた、この語が対象としていると捉えられ、日常的に用いられていることを示唆するものである。

意味①に該当する語のなかで、とりわけ出現頻度が高かったのが、技術や方法に関連する語や文章であった。このことは、分野を問わず、学習者に何らかの技能を身に付けさせるという行為に「教える」という語が頻繁に用いられることを示している。また、同じく意味①に該当する語のなかに、国家や国際事情に関連する語や文章も確認された。頻度が 3.7%に留まるため、日常的に用いられているとまでは言えないものの、日本の教育課程において、国家像や政府の指針に関する情報が、誰もが等しく学ぶべき内容とされている可能性を示唆する。実際に、2017 年 3 月告示の社会科の学習指導要領において、小学校の第 6 学年で扱う内容に「我が国の国旗と国歌の意義」が記載されていることがこれを裏付けると考える。

意味②に該当する語のなかで、とりわけ出現頻度が高かったのが、頻度が 15.2%にのぼった概念で、「～こと」や「～もの」等の形式名詞句である。次に頻度が高かったのが「住所」や「名前」に代表される具体物であり、頻度は 10.8%であった。これらは、意味②の「知っていること」というのが、教授を目的とした知識にとどまらず、分野や具体性・抽象性を問わない一次情報全般であることを示唆している。さらに、意味②にあたる語や文章として、頻度は 2.4%と低いものの、有識者ではない個人による意見や主張も見受けられ、以上のことは「教える」という行為が、社会的地位や資格の有無を問わず、誰によってもなされる情報の伝達行為であることを示唆している。

意味③に該当する語や文章には、宗教の教義経典をどう解釈するか、それを踏まえ人々はどう困難を乗り越えるべきかという二つの内容が含まれていた。このことは「教える」という行為が、人生全般における指針を示すこと、さらに、社会生活において実践可能な知恵を授けるという意も含んでいることを示唆する。実際に、日本では 1958 年以降、小学校と中学校において週 1 単位時間の道徳の時間が設置されており、かつ、1981 年に、高等学校の道徳教育目標に「人間としての在り方生き方」が記載されたことがこれを裏付けると考える。

5.2 「sōon」の分析結果の考察

タイ語「sōon」の分析結果から、意味①に該当する語が全体の 41.4%、意味②に該当する語が全体の 54.4%を占めると示された。前述した通り、人々が知恵を得る段階を基準に意味を分類すると考えられるこの語は、共起する語や表現内でも、知識や、それを踏まえた実践経験がほとんどを占めた。

「教科」、「学問」に代表される①では、とりわけ教科書や資料を用いた講義に関する語が見られた。前述した、知恵の三つの段階によれば、これは第一段階の聞くことによって得られる知恵であり、共通した教科書や書類をもとにそれぞれの学習者が身に付けるべき知識を聞かせる、つまり学習者の理解度に応じた説明を伴って伝える様子を想起させる。このことは「sōon」の動作主体が、教科の専門性と教授技術を兼ね備える者であることを示唆する。

また、頻度は1.4%に限られるものの、「宿題」という語も共起した。この共起について、タイ語母語話者からは、子どもたちが主な学習科目であるタイ語や算数などの宿題をする際に、親や保護者らがそれに助言を与えている様子ではないかとの示唆が与えられた。このことから、場面は限られるかもしれないが、「sǎon」の動作主体に子どもの親や保護者も含まれるとすることができる。

「言語」、「宗教」、「方法」に代表される②では、教授者が、知識をもとに自ら実践した経験を踏まえて、学習者にも実践を促す場面に関する語が見られた。このことは、「sǎon」の動作主体は、①と同様に教科の専門性と教授技術を兼ね備えていること、さらに、自身も実践を積み、その経験を示せる者であることを示唆する。実際に「宗教」、「(仏教)の教理」、「瞑想」など仏教にまつわる語が「sǎon」と共起したことについて、タイ人の僧侶から、仏教の知識を兼ね備えた僧侶たちが修行を積み重ね、そこで得られた経験をもとに人々に説法をする様子ではないかとの示唆が与えられた。ただし、この語の動作主体が、専門性や教授技術といった要素を持ち合わせておらずとも、立場がより上の人物全般にあたる可能性も指摘できる。それは、「行儀、礼儀作法」という語が共起した際、その動作主体を一つずつ目視で確認したところ、その全てが親や保護者であったからである。前述したように、場面は限られるものの、親や保護者といった立場がより上の人物全般が「sǎon」の動作主体となる可能性があるのだ。さらに、このことは、学習者が話を聞いたり学んだりする際の姿勢、態度からも、裏付けできると考える。古くから上座部仏教を信仰し、現在も国民の約95%が仏教徒であるとされるタイでは、出家し修行を積んだ僧侶は、人々から大いなる尊敬を集める存在である。仏教の教えや修行で得た経験を人々に説く際は、場面を問わず、常に人々より高い位置に座す。仏教の教えが文化や人々の価値観に浸透しているこの国において、歴史的に、教える側と教えられる側との間に物理的な高低差があることは、人々が「sǎon」という語と上下関係とを結び付けて考える可能性を想起させる。

5.3 研究課題の考察

まず、日本語の「教える」とタイ語の「sǎon」が対象とする範囲については、「教える」が分野や具体性・抽象性を問わず、一次情報全般を含むのに対し、「sǎon」はそれを含まない点で異なる。その理由として、動作主体に違いがあること、「住所」や「場所」のような一次情報全般と共起する別の動詞があること、さらに日本語とタイ語とで上下関係を示す語の特徴に違いがあることが挙げられる。

日本語の「教える」の動作主体は、有識者・有資格者から、社会的地位や資格の有無を問われないすべての人に至るまで、広義的である。それに対し、タイ語の「sǎon」の動作主体は、特定分野の有識者・有資格者であり、かつ自身の実践経験を示すことができ、さらに学習者よりも立場が上の者のみと、限定的である。つまり「教える」はあらゆる人により、単一情報を伝える行為から学問的知識を身に着けさせる、さらには人生をより良い方向へ導くといった場面に至るまで幅広く用いられているが、「sǎon」は限られた人々により、知識

とそれを踏まえて実践した経験を、学習者に聞かせたり実践させたりする場面に限られるため、「教える」とは共起する「住所」や「場所」のような一次情報に関する語は、「sǎwn」の対象語ではないのである。

では、タイ語では「住所」や「場所」のような一次情報全般はどのような動詞と共起するのかであるが、タイ語母語話者により二つの動詞が挙げられた。「บอก (bòk)」と「อธิบาย (athibaay)」である。前者は「言う」「話す」「告げる」「伝える」の意味を持ち、後者は「説明する」の意味を持つ。名前、場所、意見に代表される一次情報は、これらの語と共起するのが一般的であるとの示唆が与えられた。つまり、日本語の「教える」がタイ語の「言う」「話す」「告げる」「伝える」をもカバーする、意味範囲の広い動詞であるということである。また、タイ語の「บอก (bòk)」と「อธิบาย (athibaay)」は「sǎwn」とは異なり、動作主体は教師や僧侶のような有識者・有資格者である必要はないため、「住所」や「場所」のような一次情報全般を表す語と共起できるということである。

さらに、日本語とタイ語の違いとして、日本語の「教える」は、タイ語と異なり、動作主体が特定分野の有識者・有資格者に限られず、誰でも「教える」主体になり得るために、タイ語のように「sǎwn」を使うのか、「บอก (bòk)」や「อธิบาย (athibaay)」を使うのか、と検討することがない。このことは、日本語とタイ語とで、上下関係を示す敬語の種類が異なることが起因すると考えられる。日本語が相対敬語、つまり場面や話す相手との関係性によって待遇表現を変えるのに対し、タイ語は絶対敬語、つまりいかなる場面や相手との関係性においても敬語の使用が変化しない。こうした違いから、「教える」と「sǎwn」に限らず、辞書上では対訳とされている両言語の別単語同士で、その対象範囲や使用場面等が異なる可能性があると言える。

6. おわりに

本研究では、日本語とタイ語で対訳とされる語同士の、対象範囲と使用場面の違いについて検討する目的で、日本語の「教える」と、その対訳とされるタイ語の「sǎwn (ソーン)」が対象とする範囲(ヲ格名詞)は異なるのか。また、「教える」と「sǎwn」の間で、一方が対象とする語を、もう一方が対象としないのはなぜか、について、コーパスで用例を確認することによって検討した。その結果、日本語の「教える」とタイ語の「sǎwn」が対象とする範囲については、「教える」が分野や具体性・抽象性を問わず、一次情報全般を含むのに対し、「sǎwn」はそれを含まない点で異なること、その理由として、動作主体に違いがあること、「住所」や「場所」のような一次情報全般と共起する別の動詞があること、さらに日本語とタイ語とで上下関係を示す語の特徴に違いがあることが明らかになった。この点は、日本語教育とタイ語教育の双方に対して示唆が与えられるという点で意義があると言えよう。

しかしながら、課題も残されている。まず、「教える」のコーパス研究の際に、検索条件から、「教えて」や「教えます」等の、異なる語形を排除したことにより、言語使用の実態を十分に反映できていない可能性がある。さらに、このことにより、日本語とタイ語との対

象語の数に大きな差が出ており、十分な比較ができていない可能性も否定できない。よって、今後は、検索条件をより広げた結果の分析をもとに、調査を行う必要がある。

今後は、異なる分野における語同士の、日本語とタイ語の意味範囲の違いについても研究を進め、日本語学習とタイ語学習の教育の現場に示唆が与えられるよう、研究を続けていきたい。

付記

本研究は、スリーエス・エデュケーションの原田モンルタイ先生、タイ瞑想の森のコンカーラッタナラック・ブラボンサック氏に、アドバイスをいただきました。深く感謝いたします。さらに、研究の過程では、小森和子教授、ゼミのメンバー（山口稜太さん）からたくさん示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 今井むつみ（1993）「外国語学習者の語彙学習における問題点 一言葉の意味表象の見地から」『Japanese Journal of Educational Psychology』、41 号、pp. 243-253.
<https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep1953/41/3/41_243/_pdf>（最終閲覧日：2024 年 12 月 23 日）
- 浜田昌子・成田高宏（2007）「タイ人日本語学習者の『申し出の断り』表現に見られる『マイペンライ』の影響 ―ポジティブ・ポライトネスの表明として―」『小出記念日本語教育研究会論文集』15 号、pp.39-52.<https://koidekinen.org/wp/wp-content/uploads/2024/03/2007_hamadanarita.pdf>（最終閲覧日：2024 年 12 月 23 日）
- 木田真理・PRAWANG, Khommapat・生田守（2014）「『勉強する』と『rian』の対象語の分析―BCCWJ と TNC（Thai National Corpus）を用いて―」『第 6 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』、国立国語研究所、pp.201-208.
<https://www2.ninjal.ac.jp/past-events/2009_2021/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop_no6_papers/JCLWorkshop_No6_25.pdf>（最終閲覧日：2024 年 12 月 23 日）
- 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』p.61.
<https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf>（最終閲覧日：2024 年 12 月 23 日）.
- 文部科学省教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ（2016）『資料 4 道徳教育について』p.2.
<https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/078/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/05/1375323_4_1.pdf>（最終閲覧日：2024 年 12 月 23 日）.

中学校英語授業において深層レベルの
異文化理解教育を行うには
—指導法の提案と課題—

How to promote cross-cultural understanding
at a deeper level in junior high school English classes
—Proposals and challenges for teaching methods—

明治大学 国際日本学部
佐藤 菜緒

Meiji University School of Global Japanese Studies
SATO Nao

目 次

- I. はじめに
- II. 先行研究
 - 1. 深層レベルの異文化理解教育とは
 - 2. 深層文化の教育に関する研究について
 - 3. 深層レベルの異文化理解教育を行う必要性和メリット
- III. 研究方法
 - 1. 研究課題
 - 2. 調査協力者
 - 3. 調査方法
- IV. 結果と考察
 - 1. 中学生に対し、異文化理解教育を深層レベルまで行う必要性
 - 2. どこまで教えるべきなのか
 - 3. 課題と現状
 - 4. 改善案、実践されている指導法
 - 5. 指導にあたって意識していること
- V. 改善案としてチェックリストの提示
- VI. 今後の課題
- VII. おわりに
- 参考文献

I. はじめに

英語を教育する意義は、単に英語から日本語、日本語から英語への機械的な翻訳ができればよい、といった言語習得だけでなく異文化理解も含まれる。異文化理解には様々な定義があるが、田中（2012）は「異文化理解とは、自分とは異なるものごとの見方、世界の捉え方の存在を認め、それを理解すること」と定義している。異文化理解教育の重要性についてはこれまで再三説かれてきたが、本研究では文化の「見えない部分」に着目し、その重要性や教育における理想と現実を調査し、改善案を提示する。

本研究の調査対象を中学校英語授業とした理由は、義務教育において本格的な英語学習が中学校から始まるためである。単語の暗記や文法理解、長文読解といった言語習得が外国語学習の第一目標ではあるが、異なる言語を学ぶことで、言葉の背景にある文化に触れ、自身の価値観や考え方が広がっていく面白さを知り、言語学習の楽しさを一人でも多くの生徒に実感してもらいたいという筆者の願いが本研究を始めたきっかけである。

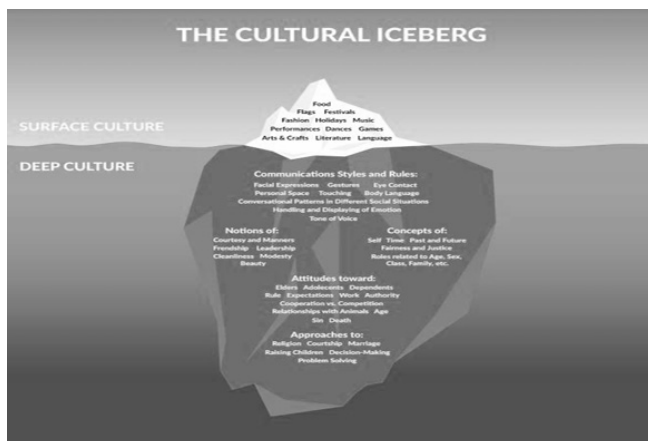
II. 先行研究

まず、本研究の表題にある「深層レベルの異文化理解教育」の定義を確認したうえで、中学校英語授業における異文化理解教育の必要性とそのメリットについて検討する。

1. 深層レベルの異文化理解教育とは

異文化コミュニケーションの先駆者である Edward T. Hall（1976）は、文化の冰山モデルを提唱した（図 1）（Ikeguchi, 2022）。冰山の上部には、言語、習慣、儀式といった要素が存在し、これらは文化の観察可能な側面を表している。しかし、注意を払うべきは水面下にある層、つまり観察が難しい暗黙の信念、価値観、規範、コミュニケーション・パターンであると指摘している。本研究では、文化の冰山モデルにおける表層部分だけでなく、深層部分まで教育することを「深層レベルの異文化理解教育」と定義し、調査を行う。ただし、深ければ深いほどよいといった単純なものではなく、学習者の英語力や異文化理解能力、学習到達目標に応じて適切なレベルの教育を行う必要がある。中学校英語授業における適切なレベルについて検討することも、本研究の調査対象の一つである。

図 1：文化の冰山モデル(Cecilia, 2022)



2. 深層文化の教育に関する研究について

中学校英語授業における深層文化教育を主題として書かれた先行研究は存在しない。しかし、教科書分析の一部で深層文化に触れた先行研究は散見される。大山（2013）、印田（2010）、中山・栗原（2015）らはそれぞれの研究において、中学校英語検定教科書を異文化理解の観点から分析した。分析結果に細かな違いはあるが、共通していえることは、扱われているトピックにおいて深層文化の占める割合が表層文化に比べて非常に低い、という点である。教科書は授業の進行において重要な役割を果たす道具であるため、教科書において深層レベルの内容がほとんど取り上げられていないということは、授業全体においても深層文化について考える機会は少ないと予想される。本調査は、教科書分析からは明らかにならなかった実際の授業現場における深層レベルの異文化理解教育について、専門家と英語教諭へのインタビューを通して調査し、改善案を提示する。

3. 深層レベルの異文化理解教育を行う必要性とメリット

まず、中学校英語授業において、異文化理解教育を行う必要性を文部科学省が定めた学習指導要領の記載内容に基づいて検討する。文部科学省（2017）が出した中学校学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が改訂の主旨である。その中で、「深い学び」の鍵として「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、その教科ならではの物事を捉える視点や考え方を働かせることが重要になると述べている。上記の全教科に共通する見方・考え方に関して、本研究の対象である外国語科については以下のように記されている。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、（中略）「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考

えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。(文部科学省, 2017, p. 10)

深い学びの鍵となる見方・考え方について前述の通り記されたうえで、今回の改訂では、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれに関わる目標を設定しており、「学びに向かう力、人間性等」については以下のように記されている。

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う（中略）
「外国語の背景にある文化に対する理解を深める」ことは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。また、「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮」することは、外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることにつながる。(文部科学省, 2017, p. 14)

さらに、「学びに向かう力、人間性等」の目標は「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の方向性を決定付ける要素となること、また、外国語学習において、生徒の主体的な取り組みがコミュニケーション能力の向上に不可欠であることから、重要な観点として位置づけられている。つまり、中学校での学習では全教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現することが目標であり、外国語科ではコミュニケーションを図る三つの資質・能力を育成することを目指している。中でも、「学びに向かう力、人間性等」の育成目標である「外国語の背景にある文化に対する理解を深めること」は重要視されており、深層レベルでの異文化理解教育の必要性が学習指導要領で説かれていると言える。

次に、先行研究から深層レベルの異文化理解教育を行うメリットを示す。

Rodríguez (2015) は、文化の表層部分のみを教えることは学生の異文化理解を高める方法ではなく、むしろステレオタイプの考えを招き、受動的な態度を形成させる危険性を孕んでいると指摘した。その上で、深層部分まで教えることがステレオタイプの普及を食い止める一助となり、生徒の異なる文化的側面に対する意識を高め、文化を認識する批判的能力を育むことができると述べた。

金 (2004) は、異文化学習と英語学習による相乗的な効果に注目し、これが生徒たちの情意的側面に与える影響を、小学校時代に経験したカリキュラムと対応させて実証的に分析した。その結果、英語学習と異文化学習が半分ずつを占めている「異文化併用型」の方が、英語学習を中心とする「英語重視型」よりも、異文化への関心度、許容度、そして積極性が高いことが明らかになった。

木村・岩野（2018）は、中高生の海外派遣事業に焦点を当て、生徒の異文化理解の変化について明らかにした。その結果、いくつかの側面ではプラスの効果が見られたが、「見える文化、見えない文化の理解」については、アンケート結果から、見える文化への理解は進むが、見えない文化を見る意識や態度の育成については短期間の研修では難しい、と結論付けた。また、「他者への視野の拡大」についても、自分や日本人と違うと気づける点までは達成することができるが、その意味や背後にある価値観、問題解決に向けた自他の行動の変換までは理解できない段階にある、と結論付けた。このことは、村松（2017）が Byram（1997）の ICC モデルを示し、次のように指摘したことと通じるものがある。「上記の図のなかで中心にあるのは「教育」（Education）である。ヨーロッパの長年における異文化教育研究の中で、異文化コミュニケーション能力を育成するにあたり、教育は極めて重要な位置を占めることが指摘されている。教育なしには、長時間異国で就労し、生活している海外生活者であっても、異文化の本質を深く理解し、それに適応することは困難であるケースが見られるからである」。（村松, 2017, p. 77）

上記の先行研究から、異文化理解は教育によって促進されること、そして小・中学校の段階から深層レベルまで教育を行うことで、単に異文化への理解が深まるだけでなく、外国語学習への意欲を刺激し、言語知識の構築を高めるなど、情意面にも効用をもたらすことが明らかになった。しかし、実際の授業においてそのような教育がどのように行われているかについては未だ明らかにされていない。そこで本研究では、中学校英語授業における実態と課題を調査し、改善策を提案する。

III. 研究方法

1. 研究課題

本研究では、インタビューを行い中学校英語授業において深層レベルでの異文化理解教育を行うにあたっての課題と改善策を明らかにする。

2. 調査協力者

本研究では異文化理解教育に造詣の深い大学教員（教員 A）と、過去に中学での英語指導経験と共生を考える授業実践を行ってきた小学校教頭（教員 B）の 2 名に対し、個別にインタビュー調査を行った。

3. 調査方法

質問項目は表 1 の通りである。なお、インタビュー内容は協力者の同意を得て録音し、その後筆者が文字化した。インタビュー実施日時は、教員 A、教員 B の順に 11 月 5 日、11 月 18 日である。

表 1：インタビュー質問項目

1	中学生に対し、異文化理解教育を深層レベルまで行う必要はあるのか
2	どこまで教えるべきなのか
3	課題と現状
4	改善案、実践されている指導法

IV. 結果と考察

前述した質問項目について、2名の回答をポイントごとに分けて記載する。各ポイントの下に、回答内容をそのまま示し、その後筆者によるまとめと考察を述べる。

1. 中学生に対し、異文化理解教育を深層レベルまで行う必要性

(1) 学習意欲向上への寄与

教員 A（以下、A）：異文化理解教育を深層レベルまで行うことは英語学習の動機づけに大きく貢献する。異文化に対する興味関心を成長させてあげることで英語を好きになってくれたり、英語に対する見方も変わったりする。

教員 B（以下、B）：授業で深層レベルまで含めた異文化理解教育を取り入れ、英語を通して人と人とのつながりに触れていくことで、子どもたちは自分から進んで学ぶようになっていくと感じている。

(2) 異文化理解能力の習得は達成すべき目標

B：外国語を学習する目的は文化を深層レベルで理解させることだと思うのでやる必要がある、むしろやらなければいけない。

両者とも深層レベルでの異文化理解教育は必要であると述べた。異文化理解能力の育成が英語教育において達成すべき目標であることに加え、何より生徒の学習意欲向上につながると A は述べており、実際に効果があることが、B の発言からも明らかになった。Aからは日本語とのルールの違いから単語暗記や文法の習得で英語に苦手意識を抱いてしまう子どもたちでも、文化的な事柄には興味を持ちやすいとの発言もあった。また、先行研究で指摘したように、教壇に立つ先生も深層レベルでの異文化理解教育の必要性を認識し、それを授業に取り入れなければならないと考えていた。しかし、多くの授業では、発音の練習や単語の暗記など、テストで点数を取るための技術的な側面ばかりに焦点が当たっているのが現状である。その結果、英語を学習する本当の意味を見失い、英語嫌いになってし

まっている子どももいる。

2. どこまで教えるべきなのか

A：変にゴールを作ってしまうと無理が生じると予想されるため、子どもたちの疑問を拾いながら一緒に探究していく姿勢が大事。

B：文化の深層部分はそれぞれの生徒の心の中の問題に入っていくところであるため表層とは違って明確なこの段階まで、というのではないのだと思う。だからどの段階まで教えていくというよりは、子どもたちが深層レベルのところに気が付くような仕掛けをどんどん作っていき、その子どもに合わせた気づきを促していくべきなのだと自身でやっていて思う。レベル分けは難しいのかなと思う。

文化の深層部分は人によって考え方や価値観が違うため、正解不正解や優劣はない。また、教師も文化のすべてを知っているわけではない。こういった理由から、明確なゴールを設定するのではなく、子どもたちの気づきや疑問に寄り添いながら教師と生徒が共に探究し、異文化理解を深めていく必要がある。

3. 課題と現状

(1) 学習指導要領における課題

A：学習指導要領の文化に関する解説に課題がある。学習指導要領には「生徒が世界の中の日本人であることの自覚を高める」「平和な共生社会を気づいていくための国際協調の精神を養う」とあるが、まず、この文言は生徒が全員日本人であることを前提にしている。また、「日本人であることの自覚」「日本人としてのアイデンティティ」をどのように養うかはすごく人それぞれでフォーミュラがあるわけではない。同じ日本人だからと言って同じ価値観を持つわけでもない。物の見方、価値観は人それぞれ違う、というところから始めなければいけない。しかし、学習指導要領に沿った教科書では、深層レベルでの違いまで教えること、自分の中にある多様な価値観や文化に気づいてそれを批判的に分析する、といったようなことは求められていない。文化をあたかも既に確立されたものと捉え、国として確立してきている文化だけを扱うことはすごく表層的であって異文化間能力を育成するにはそれでは不十分だ。

(2) 小学校で英語が教科化されたことによる弊害

A：小学校で英語が教科化された結果、英語嫌いの子が大量に中学校に入ってくる。中学でゼロからのスタートだった数年前とは違い、入学時点で差が開いている。小学校での既習事項を前提に中学校の教科書は作られているが、実際は既習事項が全く入っていない子どもも多くいる。にもかかわらず、難しいテキストから始めなければいけない。正直、異

文化理解教育どころではなく英語そのものをどうやって教えていくかということが大きな課題になっていると推測できる。

B: 小学校で英語教育が始まり、子どもたちは、はじめは珍しくて喜んでいたが、残念なことに段々と苦手意識が高まり、嫌いだと感じる子どもたちも増えている。

(3) 教える時間がないという課題

B: 課題は二つある。まず一つは時間が取れない、ということを先生はよく言う。教科書の内容（文法、構文等）をやることで精一杯で他のことをやる時間がない。

(4) 教師の力量の差

B: 授業をやっていない教頭という立場で授業を外から見るときに感じる二つ目の課題は、先生一人一人の力量、ものの見方、考え方が大きく左右するという。授業を進めながら何を教えたいのか、子どもたちの心のどこを育てたいのかを考えている人は、同じ教材を扱うにしても上手に異文化理解教育を行っているが、教員の頭の中に目的や意識がないと教科書をただそのままやるだけになってしまう。研修でいくら大切さを伝えても入ってこない先生もいる。感覚の問題が大きいのかなと思う。なぜそれが大事なのかを字面ではわかっていても本当の意味で重要性を理解できるかどうかは個人の資質の問題による。先生が教えてくれなければ子どもたちは習い事や留学など授業外で学ばない限りは何も分からないということになるので、たくさんの先生方が重要性に気づかなければならない。

学校教育の指針である学習指導要領には、深層レベルでの異文化理解教育の必要性が説かれている。しかし、内容をみると表層的な部分にとどまっており、一人一人異なる文化について自文化を俯瞰してみたり、他文化を知り比較したりといった深層レベルでの学習を促す教科書や指導書の作成は行われていないと言える。明確な指導法が確立されていないため、教員一人一人の力量に左右されているのが現状である。

4. 改善案、実践されている指導法

(1) ヨーロッパの事例を取り入れる

A: 最近注目しているのは intercultural citizenship の概念、つまり市民性教育を取り入れること。ヨーロッパの例である ICEPELL には綿密な指導法、指導案が書かれていて、深層文化を小学生にも気づかせる取り組みがなされている。国外の事例を集めて日本に合ったものと考えていくのが大事。ヨーロッパのものを日本にそのまま持ってきてもうまくいかない。また、生徒たちが自分で調べることも重要で、自分がどこに興味を持っているのかを大事にさせる必要がある。

(2) 授業の組み立ての工夫

B: 時間が無いという課題を改善するために、同じことを教えるにも少し見方を変え、内容と関連付けて世界のことを学ばせるように授業の組み立てを工夫している。例えば色を教える単元では、色を使って世界の様々な景色を見せたり、「平和の色ってどんな色だろう？」と問いかけ考えさせたり、世界の様々な国旗や果物などのイラストや写真を用意し、アクティビティを取り入れたりしている。

(3) 教師間での情報共有

B: また、先生一人一人の力量に左右されるという課題に対しては、実践の結果を先生間で共有する取り組みを行っている。こんなことをやったら子どもはこんな風に考えた、子どもたちの思考力、表現力が高まったというような実践を紹介するようにしている。メリットが分かれば先生たちも自分もやってみようかなと思うようになる。カリキュラムをみんなで考えながら色々やっている。

A からは、異文化理解教育が進んでいるヨーロッパの事例を日本の教育に適応する形で導入することが提案された。ICEPELL とは“INTERCULTURAL CITIZENSHIP EDUCATION THROUGH PICTUREBOOKS IN EARLY ENGLISH LANGUAGE LEARNING”の略称である(“Icepell” <https://icepell.eu/> 2024 年 12 月 17 日閲覧)。このプロジェクトは、5 歳から 12 歳の子どもを対象に、絵本を通じて外国語教育の中で異文化間シティズンシップ教育を行うことを目的としており、2018 年 9 月から 2022 年 8 月まで実施された。プロジェクトの一環である ICE Kits には、ピックアップされた 18 冊の絵本について、授業内での取り組み方が 1 冊ごとに詳細に記されている。この絵本を使って教育することで生徒にどのような力が育まれるのか、背景情報や生徒が抱えているイメージをシェアするアクティビティの提案、さらには表紙と裏表紙に描かれている情報について話し合うことが含まれている。本文を読む際には、1 回目と 2 回目で読み方や問いかけ、行動を変えるよう指示があり、読み終えた後には感想の共有や新たなアクティビティも行われる。さらに、他国の学校とオンラインで行う活動も含まれており、異なる国に住む人々との交流は生徒にとって新たな考え方や視点をもたらし、異文化理解の促進が期待される。このプロジェクトの対象年齢は 5 歳から 12 歳だが、英語の絵本を使用し、他者との関わりについて学べるため、中学生でも十分活用できると A は述べていた。

B からは、教科書の題材に関連させて世界の様々な文化について教える方法が提案された。また、教師の能力差を改善するためには、単に異文化理解教育の重要性を説くだけでなく、取り組みの内容やその結果生徒にどのようなプラスの効果があつたのかを伝えることが、本当の意味で必要性を理解し行動に移すためには重要であるとされた。

5. 指導にあたって意識していること

先行研究とインタビューを通して、異文化理解、特に深層部分に関しては考え方や価値観が人によって千差万別であり、また、教師自身も全てを理解しているわけではないことが明らかになった。このことから、一方的に教えるのではなく、共に学んでいく姿勢が重要であり、子どもたちに気づきを与えることが大切なのだと認識した。明確な答えが存在しないため教育は非常に難しいものの、その中で文化を一方的に教えるのではなく、気づかせるための仕掛けづくりをどのように実践しているのかが気になったため、事前に質問項目としては用意していなかったが B に尋ねた。

B: 子供たちが自分で気が付いて、自分で納得することがすごく大事。ということは、どうしたらよいのかというと、まずは授業の組み立てを工夫すること。授業の中で子どもたちの心が動くことが大事。びっくりするような写真を見せたり、今まで思ってきた価値観が覆されるような質問の仕方をしたり、ステレオタイプの思っているであろうものをわざと出して、比べてみたり、その後友達と意見を交換できるような課題を出してみたりする。すべての教科において授業の組み立てを工夫することは必要であるが、特に深層レベルでの異文化理解教育のような、点数では計れない教育を進めていくうえではより重要になってくる。

V. 改善策としてチェックリストの提示

本論文の最も重要な目的は、中学校の先生方が本論文を読み、深層レベルでの異文化理解教育を明日から授業に取り入れられるようにすることである。そのために、授業中に教師が実施すべき指導の観点と、それによって養うことが期待される生徒のスキルおよび態度を以下に具体的に示した。教師は英語の授業を定期的に振り返り、各項目を 5 段階で自己評価することで、深層レベルでの異文化理解教育を実施できているか確認できる。このチェックリストは「情報を与える」、「自文化について内省する、他文化について熟思する」、「行動に移す」、「態度」の 4 つのカテゴリに分けて構成した。「情報を与える」、「自文化について内省する、他文化について熟思する」については Byram et al. (2002) が提唱した教師が養うべき 5 つの要素 (attitudes, knowledge, skills of interpreting and relating, skills of discovery and interaction, critical cultural awareness) のうち、“knowledge”および“skills of interpreting and relating”を取り入れた。具体的には、Huber-Kriegler et al. (2003) に記載されている質問やアクティビティの具体例を抽象化して活用した。「行動に移す」、「態度」については、Byram らが示した“skills of discovery and interaction”, “critical cultural awareness”, “attitudes”の 3 つの要素を基にしている。これらの要素の解説を筆者が和訳し、抽象的な表

現であると感じた部分については、中学校検定教科書に掲載されたトピックや構成を参考に、具体的な活動として明記した。以下に4つの分類についてそれぞれ詳細な説明を記述する。

表2：チェックリスト1

【情報を与える】
ユニットのトピックや登場人物に関する文化的背景の情報を与えた
ユニットのトピックや登場人物に関する絵や写真に含まれている文化的な情報について質問や話し合いを通して気づかせた
ユニットのトピックから派生させ、関連する多様な文化について学習する時間を作ったり教材を用意したりした
ユニットのトピックから派生させ、関連する多様な文化についての絵や写真を見せ、そこに含まれている文化的な情報に気づかせた

インタビューで挙げられた「時間がない」という課題を解決するために考えられる現実的な方法の一つは教科書内容に含まれる文化的題材を深め、広げることだ。Byram らが挙げた要素の一つに“knowledge”があるが、教師は生徒に情報を提供する必要がある。本文の読み合わせに加え、教科書に掲載されている絵や写真にも多くの情報が含まれているため、生徒がそれらにも目を向けることが重要だ。文字だけでは伝わりにくい情報も、視覚的な要素を通じてイメージしやすくなる。また、教科書で取り上げられている国に関連する内容に加え、他の国の面白い事例を紹介することで、生徒の興味や関心を引き出す工夫が求められる。

表3：チェックリスト2

【自文化について内省する、他文化について熟思する】
ユニットのトピックに関する事柄について自分だったらどのように行動するか、感じるかを考える時間を作った
ユニットのトピックに関する事柄について自文化の状況を振り返るよう促した
他文化の習慣や価値観について自身はどう感じるか、捉えるかを考える時間を作った
自文化と他文化を比較し共通点や相違点を一緒に探した
文化の違いから生まれる誤解について共に予測した

情報を提供した後は、受け取った情報をどのように解釈したか考えたり、自文化と関連付けたり比較したりすることで、より深い学びに繋げていく。これは Byram らが提示した要素のうち、“skills of interpreting and relating”に該当する。また、先述した“knowledge”には歴史や習慣など特定の文化に関する知識に加え、円滑にコミュニケーションを取る方法に関する知識も含まれる。文化間の違いを理解した上で生じる誤解を予測することが、より良い交流を築くための一つの方法である。文末に「一緒に探した」や「共に予測した」という表現を用いたのは、Byram et al. (2002) が示すように、教師が文化に関する知識の全て

を持っているわけではないため、生徒と共に学んでいく姿勢が大切だからである。絶対的な正解が存在しない文化を扱う上では、一方的な指導ではなく、生徒が「気づき」を得て自ら学びを深めていけるような声かけや行動の工夫が求められる。

表 4：チェックリスト 3

【行動に移す】
生徒は、自身の信条や価値観、習慣など文化について伝えることができる
生徒は、相手の信条や価値観、習慣など文化について聞き出すことができる
生徒は、自文化、他文化それぞれについて自身の考え、捉え方を伝えることができる
生徒は、相手の自文化、他文化それぞれについての考え、捉え方を聞き出すことができる
生徒は、自文化について明確な基準をもって批判的に評価できる
生徒は、他文化について明確な基準をもって批判的に評価できる

「行動に移す」及び「態度」は、大別した 4 つの項目のうち、既に説明した 2 つの項目を授業内で教師が実践した結果、生徒が上記のような行動をとれるようになったか、また、下記のような態度を身に付けたかを判断する項目である。これらの内容はテストなどで数値化して測定できるものではなく、また測定すべきではない。文化の深層部分にあたる価値観や考え方には一つの正解や優劣がなく、絶対的な基準で判断することは不可能だからである。したがって、授業中の生徒の様子を観察することや、生徒に授業で学んだことや授業を通して思ったこと、感じたことを記録してもらい、その記述内容を基に判断する方法等が考えられる。また、前回の内容と比較するなどして、目に見えない部分ではあるが、教師がしっかりと生徒の成長を確認する必要がある。Byram らが提示した要素のうちの一つ“skills of discovery and interaction”は、実際のコミュニケーションの場で自身の考えを伝え、また、相手について知ることで、新たな知識を得たり、すでに持っている知識と結びつけたりすることが求められる。さらに、“critical cultural awareness”では、自文化や他文化について、思い込みだけで判断したり、与えられた情報を鵜呑みにしたりせず、多角的な視点から捉え、認識する力が求められる。

表 5：チェックリスト 4

【態度】
生徒は、自身の視点や考え方に固執せず、他者の視点や考え方、見えている世界を理解できるようになった
生徒は、他文化に接したときにすぐに判断したり拒否したりしないようになった
生徒は、意欲的に文化について知ろうとするようになった
生徒は、寛容な態度を取れるようになった

Byram らが提示した要素のうち、最も重要なのは“attitudes”である。“attitudes”についての

原文, “curiosity & openness, readiness to suspend disbelief about other culture and belief about one’s own” から, 好奇心, 寛容さ, 自身の文化に固執しない態度, そして他文化を根拠なく拒絶しない態度の4つに項目を分けた。異文化理解教育の到達目標は, 生徒が最終的に上記のような態度を身に付けることである。

先述の通り, 深層レベルの異文化理解教育において, どのレベルまで掘り下げて教えるかは, 教科書内容による話の広げやすさ, 他の指導内容との時間的な兼ね合い, 生徒の英語力や異文化への興味・関心の度合いなど, 様々な要因によって異なる。そのため, 明確かつ一律の目標を設定することは難しい。しかし, 本チェックリストはそうした多様な状況に対応可能な設計となっており, 先生方には, 各項目で満点を目指して授業に取り組んでいただきたいと考えている。このチェックリストが, 深層レベルの異文化理解教育を実践するための指標の一つとなれば幸いである。

VI. 今後の課題

本研究におけるインタビューと改善策の提示を踏まえ, 今後の課題を二点述べる。第一は, 異文化理解教育を深層レベルまで行うことが英語学習にプラスの効果をもたらすことは明らかになったが, その効果を数値等, 目に見える形で示すことができなかった点である。第二は, 先生方に授業準備の重要性を再認識してもらうこと, 授業中の生徒へのアプローチ方法の紹介, 授業後に活用してもらいたいチェックリストの提示については実施できたが, 子どもたちの異文化理解教育に対する反応や捉え方を調査することができなかった点である。これらの課題を解決する一つの案として, 生徒へのアンケート実施が考えられる。深層レベルでの異文化理解教育を取り入れた場合とそうでない場合を比較し, 授業への参加意欲や授業内容の理解度がどのように変化したかを尋ねることで, 情意面での効果を測ることができるだろう。学力については, 情意面よりも長期的な指導が結果に繋がると考えられるため, 異文化理解教育のカリキュラムが組まれている学校とそうでない学校の学力を比較する案も検討したが, 直接的な因果関係を断定することが非常に難しいため計測は困難だろう。

VII. おわりに

誰一人として同じ文化を持っている人はいない。だからこそ「違う, 異なる」ということに拒否反応を示しては, 人とのつながりはうまくいかない。自分とは異なる考えを持つ人に出会った時, まずは理解しようと努め, その上で受け入れるか距離を置くかを定めることが大切ではないだろうか。言葉を通じて文化に触れることで, これまで当たり前だと思っていたことが実は当たり前ではなかったと気づく瞬間があるだろう。相手の見え

ない部分を知ろうとするのはもちろん、普段は意識していない自分自身の価値観や信条などの深層部分を俯瞰してみることで、世界がまた違って見えてくる。文化の深層部分は見えないため難しいが、見えないからこそ言葉を使って理解しようとするのが面白い。本論文を読み、一人でも多くの先生方が深層レベルでの異文化理解教育を実践し、子どもたちが言葉を通じて相手を、そして自分自身をより深く理解するきっかけになれば幸いである。

参考文献

- Ikeguchi, C. (2022). Integrated culture in language teaching. *The IAFOR International Conference on Education in Hawaii 2022. Official Conference Proceedings*, 35-41.
- Hall, E. T. (1976). *Beyond culture*. Anchor Press.
- ICEPELL. (n.d.). In *Icepell – Icepell*. Retrieved from <https://icepell.eu/>
- Gómez Rodríguez, L.F. (2015). Critical intercultural learning through topics of deep culture in an EFL classroom. *Íkala, revista de lenguaje y cultura*, 20(1), 43-59.
- Huber-Kriegler, M., Lázár, I., & Strange, J. (2003). Mirrors and windows: An intercultural communication textbook. *Council of Europe Publishing*.
- Byram, M. (1997). *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Multilingual Matters.
- Byram, M., Gribkova, B. & Starkey, H. (2002). *Developing the Intercultural Dimension in Language Teaching: a practical introduction for teachers*. Language Policy Division, Directorate of School, Out-of School and Higher Education, Council of Europe.
- 印田佐知子. (2010). 「英語教育における異文化コミュニケーション能力の育成—中学英語教科書の内容分析—」『目白大学人文学研究』第6号, 163-180.
- 大川光基. (2013). 「新学習指導要領における中学校英語検定教科書が扱う文化題材と日本文化理解に関する題材の考察～異文化理解の観点から～」『MEDIA, ENGLISH AND COMMUNICATION』No.3, 79-94.
- 金 瑠淑. (2004). 「小学校英会話カリキュラムが卒業生の情意的側面に及ぼす影響：『異文化併用型』と『英語重視型』の比較事例分析」『カリキュラム研究』75-89.
- 木村雅幸・岩野雅子. (2018). 「山口県における青少年海外派遣事業を通した中高生の異文化理解の促進について—英語圏への姉妹都市派遣研修プログラムについて—」『山口県立大学学術情報』第11号, 65-88.
- 田中一嘉. (2012). 「言語教育と異文化理解教育のインターフェース—大学における初級ドイツ語教育の場合—」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会学編』第61巻, 111-121.
- 中山夏恵・栗原文子. (2015). 「中学校英語検定教科書に見られる異文化間コミュニケーション

ョン能力ー『言語と文化の複元的アプローチのための参照枠』を用いた分析を通してー」
『言語教師教育』 Vol.2 No.1, 54-55.

村松直子. (2017). 「高等専門学校における異文化理解教育ー異文化コミュニケーション能力育成のための理論とアプローチー」『沼津工業高等専門学校研究報告』第 51 号, 75-78.
文部科学省. (2017). 「中学校学習指導要領解説【外国語編】」文部科学省.

小中学校移行に伴う英語授業好感要因調査
An Investigation into Factors Affecting Positive Attitudes Toward English
Classes During the Elementary to Junior High School Transition

明治大学 国際日本学部

廣澤 美吹

Meiji University School of Global Japanese Studies
HIROSAWA Ibuki

目 次

I. はじめに

II. 先行研究

III. 研究方法

1. 研究課題

2. 調査協力者

3. 調査方法

(1) 小中英語授業比較

(2) 教員インタビュー

(3) 英語授業見学

IV. 結果と考察

1. 小学校と中学校の英語授業

(1) 英語授業比較

(2) 授業外の活動

2. 英語授業好感要因

3. 小中連携

(1) 教育現場の実情

(2) 連携方法の提案

V. おわりに

参考文献

付録 小中英語比較表

謝辞

I. はじめに

グローバル化に対応した英語教育改革として、2020年に小学校、2021年に中学校で新学習指導要領が導入された。その改訂前には、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲が低下することや、学校種間の接続が十分でなく、進級や進学後にそれまでの学習内容や指導方法が発展的に生かされにくいという課題が指摘されていた（金森他，2017）。また、教育現場では、小学校で楽しく学んでいた英語が中学校に進学すると苦手意識に変わる「英語の中1ギャップ」が問題視されている。この「英語の中1ギャップ」を解消し、学習者の英語授業への意欲を保つためには、小中連携が不可欠であると考えられる。

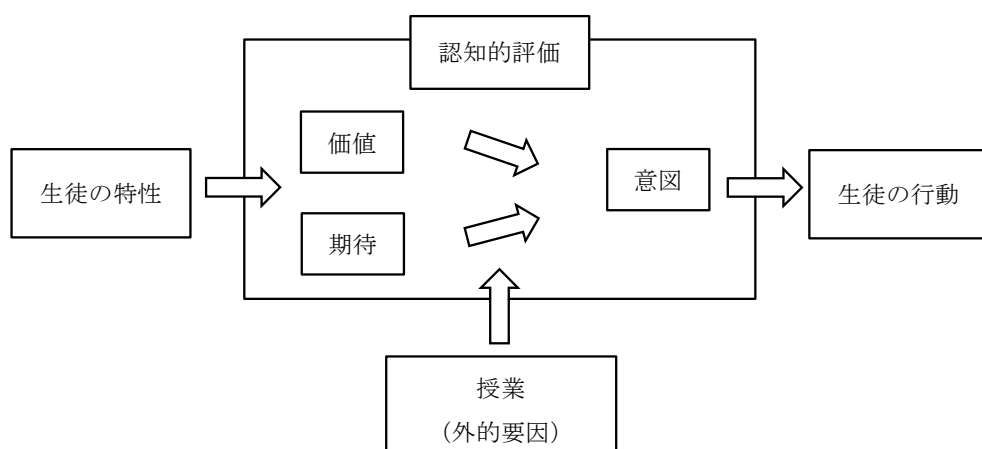
そこで本研究は、小中学校間の英語授業の変化を踏まえた上で、その変化が英語学習者の授業への好き・嫌い（＝以下、「英語授業好感」とする）にどのように影響を及ぼしているかを調査し、学習者のモチベーションを維持するための小中学校間の連携方法を検討・提案することを目的とする。

II. 先行研究

学習者の英語授業に対する意識は、小学校から中学校への移行を経て変化していく。文部科学省（2023）が実施した全国学力・学習状況調査では、「英語の勉強は好きですか？」という質問に対し、「そう思わない」および「どちらかといえばそう思わない」といった否定的な回答が、小学校では30.8%、中学校では47.7%であった。この結果から、学校移行に伴い英語学習に対する好感度の低下が示されている。一方で、及川（2024）の調査では、小学校時に英語が「好き」だったが中学校で「嫌い」になった例が6.3%、小学校で「嫌い」だったが中学校で「好き」になった例が32.2%であった。また、このように好感度が変化した要因としては、「英語力・音声因子」「英語力・文字因子」「英語有用性因子」「英語活動因子」の4つの因子が抽出され、変化のうち「嫌い→好き」と「嫌い→嫌い」を分けるものが「英語力・文字因子」であることが明らかになった。つまり、小中学校間の移行は、英語授業好感の低下のみではなく上昇につながることもあり、好感度の変化に影響した授業要因は完全に明らかになっていないことが分かる。

さらに、磯田（2008）は、学習者の授業に対する「認知的評価」が動機づけに与える影響を示し、授業の価値や期待に対する評価が学習意欲を左右することを指摘している。認知的評価とは、学習者が授業や課題に対して行う主観的な判断であり、生徒の個人的な特性は直接行動に結びつくわけではなく、認知的評価を介して動機づけと行動が形成される。動機づけのプロセスは図1の通り行われており、「授業」という外的要因が学習者の動機づけに強く影響していることが分かる。認知的評価に影響する授業の側面としては、「自信」「学習内容」「学習方法」「学習の場」が関係しているということが分かった。

図 1：認知的評価を中心にした動機づけのプロセス（磯田，2008 を一部改変）



加えて、西村（2013）の研究によると、小・中・高校生の英語学習における動機づけについて、小学生は異文化への興味関心が、中学生以降はキャリアや資格取得と言った実利的な目標が強い影響を与えていることが示された。これにより、英語学習に対する動機づけは学年によっても異なり、特に中学校への移行期は英語学習や英語授業の変化に関する重要な転換点となっていると考えられる。

これまで見てきたように、学習者の英語授業好感は小学校から中学校への移行を経て変化する傾向があり、その要因として学習者個人の特性以上に、外的要因である「授業」が大きく影響していることが明らかになった。しかしながら、具体的に小学校・中学校の英語授業がどのように変化していくのか、また授業の担い手である教員が学習者の英語授業好感要因についてどのように感じているのか、実態に基づいて小中英語授業の比較を行っている研究は少ない。そこで本研究では、教員の視点を通して、小学校と中学校の英語授業の違い・学習者の英語授業好感要因を比較し、教育現場へ反映可能な連携方法を検討する。

III. 研究方法

1. 研究課題

小学校から中学校への移行に伴い、学習者の英語授業好感に影響する要因を比較検討し、英語学習者がモチベーションを保つための小中学校間の連携方法を提案する。

2. 調査協力者

調査対象は、外国語活動が始まる小学校3・4年生の中学年、教科としての外国語が導入される5・6年生の高学年、そして学校移行を経験した中学校1年生を担当する教員計6名である。さらに、小学校での指導経験を持ち、現在は教育委員会に所属する1名、および小学校・中学校の教員経験を経て現在は大学で教鞭をとっている1名を加え、計8名の協力を得た。多様な教育段階での指導経験を持つ教員を対象に選定することで、授業の違いや学習者の意識変化について広範な視点からの意見を収集することを目指した。

表1：調査対象者一覧

	職場	授業担当学年	授業経験学年
Aさん	公立小学校	小学校5年生	中学校1年生～3年生
Bさん	公立小学校	小学校3年生～6年生	小学校1年生～6年生
Cさん	公立小学校	小学校3・4年生	-
Dさん	公立小学校	小学校1年生～6年生	支援学級
Eさん	私立中高一貫校	中学1年生・中学3年生	中学校2年生 高校1年生～高校3年生
Fさん	私立中間一貫校	中学1年生・中学3年生・ 高校3年生	-
Gさん	教育委員会	-	小学校1年生～6年生
Hさん	大学	-	小学校1年生～中学校2年生

3. 調査方法

本研究では小中英語授業比較を基に、教員インタビューを用いた調査を実施した。また、授業比較のみで分からなかった授業の実状を把握するために授業見学を行った。以下、それぞれについて説明する。

(1) 小中英語授業比較

文部科学省(2015a, 2015b, 2017a, 2017b, 2018, 2021)、および村野井(2018)、西村(2013)、磯田(2008)を参考に、計14項目の比較指標(表2)を設定し、小学校中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)、および中学校1年生の英語授業の構造や特徴を比較した。比較指標には、学習指導要領から読み取れる「学習目標」や「重点領域」などに加え、先行研究にて動機づけに影響する要因として挙げた「学習の場」や「実利性」などを加えた。

表2：小中英語授業比較14指標

1. 授業名	授業の名称
2. JS レベル	世界基準である CEFR に準拠した、外国語運用能力に関する日本ス

	タンダード（JS）のレベル（川成，2013）
3. 授業タイプ	活動型か教科型
4. 学習の場	クラス規模や教員形態
5. 授業教材	授業内で使われている教材
6. 学習目標	学習の過程で何を学べるのか，何ができるようになるのか
7. 重点領域	5 領域のうち特に重視されているもの
8. 単位時間数	授業の時間数（週・年間）
9. 語彙数	学習する語彙の数
10. 学習範囲	授業で扱う文や文法範囲
11. 5 領域の学習内容	5 領域ごとに扱う内容
12. 異文化理解	授業内でどのように取り入れられるか
13. 成績評価の有無	数値による評価があるかどうか
14. 実利性の有無	授業が試験合格など，ある具体的な実利的目標につながるか

（2）教員インタビュー

上記（表 2）を踏まえて，教員に対してインタビュー調査を行った。インタビューは個別に 30 分程度ずつ，内容は教員の基本情報（職務経歴・担当学年等）に加え，「小学校と中学校の英語授業について」「教員が考える学習者の英語授業好感要因」「小中連携の実状・具体例」の 3 項目について質問した。

（3）英語授業見学

小中英語授業比較表のデータに加え，実際の授業の進行や内容，学習者の様子を直接観察することで，正確な授業実態を把握するため，各学年への授業見学を行った。授業見学の観点として，学習内容に加え，加藤他（2020）が挙げる授業観察の視点のうち以下の 7 点を参考にした。

表 3：観察の視点（加藤他，2020 より）

新教材の導入	新しい文法や語法がどのような目的，場面，状況が意識されたコミュニケーションで導入されているか。
コミュニケーション活動	目的をもってコミュニケーションを行う活動があるか。 具体的にはどのようなものを行っているか。
質問	教員は学習者の理解度，場面や状況に応じてどのように質問を使い分けているか。
誤り	教員は学習者の誤りに対していつ，どのように対処して

	いるか。
授業の構成	授業の展開やそれぞれにかかる時間。
激励、注意	教員がいつどのように学習者を激励・注意するのか。
学習者の様子	学習者がどのように授業に参加していたのか。

加えて、町田市の小学5年生対象の「スヌーピーミュージアム英語校外学習」および「町田市教育委員会主催放課後英語教室」（詳細については後述。）を見学し、通常授業とは異なる学習場面での学習者の反応や好感度の変化についても観察を行った。

IV. 結果と考察

1. 小学校と中学校の英語授業

(1) 英語授業比較

上記の表1で記した14指標を基に、小学校中学年、小学校高学年、中学校1年生の英語授業比較を行った結果、様々な箇所で見受けられた。例えば、「授業時間」は、小学校中学年が週1回（年間35時間）、小学校高学年が週2回（年間70時間）、中学校1年生が週4回（年140時間）と、学年が進むにつれて大幅に増加している。また、「成績評価」が小学校高学年から導入され、「実利性」は定期テストや高校受験に直結する中学校1年生の授業で顕著にみられるなど、特定の学年に特有の特徴も確認された。

一方で、「学習目標」や「5領域の内容」など小学校中学年から中学1年生にかけて、移行前の学年から段階的に発展しており、学年ごとに「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」の要素が徐々に加わっている。このような段階的な変化は、学習者が小学校から中学校に移行する中で、英語授業へのモチベーションを維持するために重要な要素であると考えられる。例えば、「聞く」に関しては、小学校中学年では自身の身の回りの物を表す簡単な語句に慣れ親しむ活動が中心であるが、小学校高学年になると日常生活の身近な話の概要を捉える活動が加わり、中学校ではさらに発展して日常的な話題や社会的な話題についても要点を捉える活動が行われる。このように英語の授業内容が段階を踏んで具体的かつ実践的になるため、学習者にとって学びの意義が分かりやすくなり、好意度や学習意欲を高める効果が期待できる。

では、実際の教育現場や学習者の様子はどのようなのだろうか。小学校中学年から中学校1年生を担当する教員へのインタビューによれば、概ね比較シートの通りの内容が実践されているとの回答を得た。しかし、学習目標や5領域の内容はあくまで指導の目標として掲げられたものであり、実際に学習者がその目標を完全に達成できているかどうかは定かではないとの指摘があった。特に語彙に関しては、小学校では600～700語の語彙習得が目標とされているものの、英単語の読み書き指導が行われないため、学習者が中学校進学時点

で目標の語彙数を習得しているとは言い難い状況がある。実際に小学校 6 年生の授業を見学した際、語彙の発音や書き取りを練習する場面はあったが、学習者が語彙を記憶し、自ら書く活動は授業内で見られなかった。このことから、小学校英語の授業内で語彙を定着させることは難しいと言えるのではないだろうか。

他にも小学校と中学校の授業見学を通して、比較表では明らかではなかった授業の実状が判明した（表 4）。小学校では、「聞く」を中心とした活動型の授業が展開されており、中学年のみならず教科化された高学年においても文法指導はなく、歌やゲームなどを活用したアクティビティが重視されていた。6 年生の授業では英文を「書く」活動があったが、ピリオドや一文字目を大文字にするなど英文の基礎的なルールを注視していた。一方、中学校の授業では「書く」「読む」を中心に、文法指導を含む講義型の授業が主流であった。ただし、教員の一方的な講義にとどまることなく、文法事項を活用したペアワークなどのアクティビティが取り入れられており、小学校と共通する部分も見られた。これにより、中学校の授業でも活動型の要素が一定程度保持されていることが確認できた。

表 4：授業見学の結果

	小学校中学年	小学校高学年	中学校 1 年生
重点領域	「聞く」	「聞く」	「書く」「読む」
授業タイプ	活動型	活動型	活動型＋教科型
新教材の導入	学習者の身のまわりにある基礎的な英単語（形・色・学校施設など）や英語表現	学習者の身近なもの（施設・Where～？）や興味があるもの（動物・I am～/I like～）	学習者の身近なもの、興味があるもの（推し・三単現）
コミュニケーション活動	教員からクラス全体に向けての質問、ペアワーク	教員からクラス全体に向けての質問、ペアワーク	教員とクラス全体のやりとり
質問	状況に応じて日本語と英語を使い分ける	理解度によって英語から日本語に変更	単純に答えられる質問（A or B）を多用
誤り	発音やアクセントの違いを指摘	発音やアクセントの違いを指摘、机間巡回で個別に指摘	机間巡回で個別にフィードバック、問題回答時に指摘
授業の構成	「聞く」を中心にした 6 つの活動	5 年生は 7 つの「聞く」「話す（やりとり）」の活動、6 年生は 6 つの「書く」「話	「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「書く」の 3 つの活動

		す（発表）」の活動	
激励，注意	英語を「言えた」「分かった」際にはめる，学校のルールを守れない際に注意	英語を「言えた」際にはめる，指示が通らない際に注意	正しく「言えた」「書けた」際にはめる，学校のルールを違反や集中力が散漫になった際に注意
学習者の反応・様子	問いかけに対して反応が見受けられる，活動によって一部の学習者の参加度が低下	発言・反応が多く積極的，指示が不明瞭な場合に反応減少	受け答えや反応がある，活動によって一部の学習者の参加度が低下

(2) 授業外の活動

授業外の活動の一例として、「町田市教育委員会主催放課後英語教室」および町田市の小学5年生を対象とした「スヌーピーミュージアム英語校外学習」を見学した。

「町田市教育委員会主催放課後英語教室」は、小学2～5年生を対象に英語コミュニケーション能力の向上を目的とした実践型の英語教室である。筆者は小学3年生の授業を見学した。授業内では、体を動かしながら英語をインプットする運動型プログラム「spoglish」など、多彩な活動を取り入れることで学習者の興味を引きつける工夫がなされていた。授業中は、教員が英語のみで指示を出し、それを学習者が理解して動いている様子が見受けられた。また、「Here you are.」や「I'm finished.」といった英語フレーズや単語を学習者が自発的に発する場面も見られ、放課後英語教室が英語をより身近な存在にすることに寄与していると推測できる。

「スヌーピーミュージアム英語校外学習」とは、小学5年生がスヌーピーミュージアムと隣接するまちライブラリーを訪れ、英語のアクティビティを行う校外学習である。アクティビティには、ミュージアム館内でワークシートのクイズに答える活動と、図書館で形や動作を表す言葉を英語で発音しながらキャラクターを描く活動の2つがあった。この校外学習を見学した際、学習者が積極的に英語を話す場面が多く見られた。また、この校外学習を主催した MEPS（英語授業の質の確保，向上を目的に小学校教員の指導，補助を行う専門員）のスタッフによれば、この校外活動は普段の授業の様子がよく表れるものであり、今回の学習者たちは特に反応が良いほうだという。校外学習に参加した学習者たちは、英語を使うことへの心理的なハードルが低く、普段の授業でも発話の機会が多いことがうかがえた。アクティビティ中には学習者から「楽しい」という発言も聞かれ、学外で英語を使用する機会が、英語を「楽しいもの」として認識させる効果につながると感じられた。

以上の2つの活動を見学し、授業外での活動が学習者に発話の機会を与え、英語をよ

り身近に感じさせる効果があると実感した。今回、中学生を対象とした授業外活動を見学する機会はなかったものの、そのような活動を行っている中学校も存在するという話を聞いた。これらの活動は、通常の英語授業にはない非日常感を提供し、学習への楽しさを引き出すとともに、英語授業だけでは補いきれない「英語を実際に学校外で使う機会」を学習者に提供している。そのため、こうした授業外活動は、学習者にとって非常に価値のあるものといえる。

2. 英語授業好感要因

教室にはさまざまな学習者がおり、要因を一つに絞ることは難しい。しかし、教員インタビューと授業見学を通して、本稿では2つの英語授業好感要因を見出した。

第一の要因は「成績評価の有無」である。この要因は、多くの教員が英語授業好感要因として挙げたものである。外国語活動が始まる小学校中学年では成績評価がなく、外国語に触れ、慣れ親しむことが重視されている。この段階では評価のプレッシャーがないため、学習者は英語に対して比較的ポジティブな印象を持ちやすいと考えられる。しかし、小学校高学年から成績評価が導入されると、学習者は良くも悪くも周囲との比較を意識するようになる。この変化は、学習者にとって英語授業への印象を左右する大きな要因となる。

さらに中学校に進学すると、テストでクラス順位や学年順位がつけられ、自分が「できる」「できない」がより可視化されるようになる。中学1年生を担当するEさんは、「英語授業ではできる子とできない子の差が開きやすい環境がある」と指摘している。授業見学をした際、小学校・中学校ともに授業への参加意欲は高かったが、教員からの問いかけが分からないなど、授業活動の難易度が上がった際に「できない」と感じたのか、一部学習者の反応が少なくなる場面が見受けられた。このように初期段階の学習者にとって、英語が「できる」ことが授業を「楽しい」と感じることに直結しており、この「楽しい」という感情が授業へのモチベーションにつながる。そのため、成績評価という「できる・できない」の指標は、学習者の英語授業好感を大きく左右する要因であると言える。

第二の要因は「語彙」である。小学校と中学校の間には語彙学習において大きなギャップが存在する。学習指導要領では、小学校中学年から高学年にかけて600～700語の語彙を学ぶと規定されているが、実際にはその語彙が学習者に十分定着しているとは言い難い。小学校での活動は「話す」「聞く」に重点が置かれ、高学年で英語が教科となっても授業内容に大きな変化はない。見学した小学校6年生の授業では、英文の書き取り活動が行われていたものの、教員が指導していたのは文の最初の文字を大文字にすることや文末にピリオドをつけることといった基礎的な部分に限られていた。つまり、小学校英語では「読む」「書く」語彙指導まで十分に行われていない実情がある。中学校に進学すると1600～1800語もの新たな語彙を習得しなければならず、語彙指導の下地が整っていない学習者に大きな負担を強いている。また、教員インタビューから、小学校と中学校の教員間で語彙指導

に対する認識に大きな差があることが明らかになった。中学校の教員は、小学校での語彙指導の実態を十分に理解しておらず、移行段階で学習者が 600～700 語の語彙力を既に有していると想定している。一方、小学校の教員は中学校の授業内容を把握していないため、どのレベルまで指導すべきかが不明確であり、教員や学校ごとに語彙指導にばらつきが生じている。

以上のように、成績評価を通じた「できる・できない」の意識や語彙指導は英語授業好感に深く影響しているといえるだろう。

3. 小中連携

(1) 教育現場の実情

インタビューで「小学校もしくは中学校の授業実態をどの程度知っていますか？また、知る機会がありますか？」と尋ねたところ、小学校・中学校で教鞭をとっている現職の教員 6 名のうち、4 名が「知らない」「知る機会がない」と否定的な回答をした。文部科学省（2022）の「英語教育実施状況調査」によると、小学校との連携に取り組んでいる中学校が 82.8%と報告されているが、数値と教員の声に大きな乖離が見受けられる。残り 2 名の教員は、中学校で教鞭の経験があることからの認知、自治体ごとに設けられる小中連携の日や研究発表を通じて他校の実態を知る機会があると述べた。それでもなお、小中連携の実施状況は個人の経験による偏りが見受けられ、大多数の教育現場では小学校と中学校の連携は全く行われていない、もしくは形式的なものに留まっていると推測される。

(2) 連携方法の提案

学習者の授業好感を維持し、小学校から中学校へのスムーズな移行を実現するためには、教員間の情報共有と系統性のある学びの確立が重要である。

第一に、教員間の情報共有についてである。教員インタビューから明らかになったように、小中連携を進める上で、小学校と中学校の教員がお互いの教育現場を十分に知らないという課題がある。特に、2020 年度の学習指導要領改訂に伴い導入された小学校の外国語活動や外国語科については、現職の中学校教員は学習者として授業を受けた経験がないため、その実態を把握しづらい状況にある。このような背景を踏まえ、まず教員が移行前後の教育内容や実態を「知る」というプロセスから始めることが重要である。

その一案として、広島県呉市の事例を挙げる。呉市では、平成 19 年度から中 1 ギャップの解消や児童生徒の自尊感情の育成を目的に、すべての中学校区で小中一貫教育を推進している。その取り組みの一つとして、中学校教員が小学校で授業を行い、小学校教員が中学校で授業を行うといった校種を交えた「乗り入れ授業」（呉市教育委員会学校教育課小中一貫教育指導グループ、2022）がある。この乗り入れ授業によって、教員は小学校と中学校の相互の指導方法や学習者の実態について理解を深めることが期待されている。また、呉

市では計画的な乗り入れ授業を支援するため、中学校区内の小学校 5・6 学年の学級数を合わせて 7 学級以上の中学校に加配講師を配置している。このような体制整備により、教員の負担を軽減しながら効果的な授業が実現されている。実際に、加配講師を配置した学校を対象としたアンケートでは、毎年 90%以上の児童が「乗り入れ授業はよく分かる」と回答しており、その有効性が示されている。

しかしながら、このような取り組みは時間と労力を要する大規模なものであり、多忙な教育現場では即座に導入することが難しいと推測される。そこで、まずは手軽に取り組める方法として、本稿で作成した小中英語授業比較表（付録）のように、小学校と中学校の英語授業の実状を簡単に知ることが可能なリーフレットを作成することを提案する。このリーフレットは、教員が互いの授業内容や教材の違いを把握するきっかけとなり、小中連携を進める基礎的なツールとなり得るだろう。なお、教員や地域ごとに授業内容や教材が若干異なるため、現場での導入にあたってはさらなるアップデートが必要となるだろう。

加えて、授業好感要因の一つである「成績評価」についても教員同士の情報共有が必要である。成績評価における小中連携の実践例として、埼玉県戸田市の取り組みを挙げる。戸田市では、「戸田市立小・中学校 英語教育ブックレット 2022」（戸田市教育委員会・戸田市英語教育研究推進委員会, 2022）を作成し、小中連携の促進を図っている。このブックレットには、戸田市の英語教育に関する取り組みや授業案に加え、評価の観点及びその趣旨について記載されている。これにより、小学校中学年、小学校高学年、中学校の各段階における評価基準や項目の変化が分かりやすく示され、小中間での指導と評価の一貫性が確保されることが期待できる。特に、このブックレットは、教員が互いの学年での評価基準を共有する際の重要なリソースとして機能しており、小学校から中学校への移行期における学習者のスムーズな適応を支援している。また、戸田市のように成績評価の観点を明確化して共有することで、教員間の連携が深まり、教育内容の系統性が向上する実践例となっている。

第二に、系統性のある学びについてである。「系統性のある学び」とは、順序立てて組み立てられている知識や技能を積み上げる学習のことを指す。文部科学省（2017c）は、小学校学習指導要領改訂の趣旨を「総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視すること」としている。これは、小学校から中学校への移行過程において、学習内容が系統立てて配置され、それらを順番に、かつ段階的に学習することが求められていることを示している。

しかし、教員インタビューや授業見学を経て、学習内容の系統性には懐疑的な部分が伺えた。特に授業好感要因の「語彙」については小・中学校で大きなギャップが生じている。このギャップを解消する小中連携案として、宮崎大学教育学部附属小学校・中学校における「Small Talk」を活用した実践例を挙げる（興津他, 2023）。Small Talk とは、雑談や世間話など対人関係の維持に関わるやり取りを指し、小学校高学年の外国語科での実施が推

奨されている活動だ。宮崎大学教育学部附属小学校・中学校では、小学校から中学校への学びの接続を意識し、「話すこと [やり取り]」の系統的な指導の在り方を検討する試みとして、小学校中学年から中学校の7年間にわたる到達目標を作成した。そのうえで、この目標に基づき、Small Talk を活用した指導を実践した。Small Talk は、主に既習表現を繰り返し利用して定着を図ることや、会話の開始・終了、相槌、話題の展開や転換といったやり取りを円滑に行うための基本的な表現を学ぶことを目的としている。小学校中学年から中学校にかけての継続的な導入することで、語彙学習に前向きな影響を与えることができるだろう。また、教員間での目標や指導方針の共有を通じて、小中連携を強化し、学習者の語彙力や発話力を段階的に向上させる効果も見込まれる。この取り組みは、系統性のある学びの接続を強化するためのモデルケースとなり得るものであり、他の教育現場でも参考にできるものだろう。

V. おわりに

本研究では、小学校中学年（3・4年生）、小学校高学年（5・6年生）、中学校1年生の英語授業を比較し、共通点・相違点を踏まえたうえで、教員インタビュー・授業見学を行った。その結果、授業好感要因を「成績評価」と「語彙」であると特定し、この要因を解消し学習者の授業好感度を維持する小中連携案を、教員間の情報共有のための「乗り入れ授業」と系統性のある学びの確立のための「Small Talk」の導入を提案した。

本研究は、現職教員合わせて8名のインタビューと3校の授業見学、2つの課外活動見学を通して行った研究であり、英語教育現場の実情を把握するための意義のある研究であったと言える。しかし、いくつかの限界点もある。第一に、本研究は横断で小・中学生の英語授業調査を行ったが、学習者の授業好感度の変化をより正確に捉えるためには、縦断でどのように変化するかを調べる必要がある。第二に、研究対象地域が関東圏に限定されているため、地域ごとの違いや特性を十分に特定することができなかった。よって、今後も継続して他の地域との比較を通じて、より広範な理解を深める必要があるだろう。本論文を通し、教育現場に小中連携の必要性を訴え、連携の促進に貢献することができれば幸いである。

謝辞

本論文の執筆にあたり多くの方々にご協力いただきました。指導教官である廣森教授、研究に協力していただいた東京未来大学こども心理学部こども心理学科の橋元先生、お忙しい中インタビューに答えてくださった8名の教員・教育関係者の皆様、快く授業見学を受けてくださった3校の学校の皆様、そして廣森ゼミナールの学生の皆様に心より感謝申

し上げます。

参考文献

- 磯田貴道. (2008). 『授業への反応を通して捉える英語学習者の動機づけ』 溪水社.
- 及川賢. (2017). 「小中の英語授業好感の変化及びその原因に関する予備調査」『埼玉大学紀要. 教育学部』第 73 巻 1 号, 175-186.
- 興津紀子・園田伊公子・坂口瑞穂・柳田章衣・山口耕・荒川ひかり. (2023). 「小中連携の到達目標を意識したやり取りの指導」『宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要』第 31 号, 135-144.
- 加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子. (2020). 『英語科教育実習ハンドブック 第 4 版』 大修館書店.
- 金森強・本多敏幸・泉恵美子. (2017). 『主体的な学びをめざす小学校英語教育』 教育出版.
- 呉市教育委員会学校教育課 小中一貫教育指導グループ. (2020). 「呉市の小中一貫教育」 <<https://www.city.kure.lg.jp/uploaded/attachment/76488.pdf>> (参照日 2024 年 12 月 18 日)
- 国立教育政策研究所. (2023). 「全国学力・学習状況調査の結果」 <<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/question.html>> (参照日 2024 年 10 月 31 日)
- 西村洋一. (2013). 「小・中・高校生における英語学習の動機づけ―国際的志向性を用いた検討―」『北陸学院大学短期大学部研究紀要』第 6 号, 161-171.
- 戸田市教育委員会・戸田市英語教育研究推進委員会. (2022). 「戸田市立小・中学校 英語教育ブックレット」 <<https://www.toda-c.ed.jp/uploaded/attachment/19044.pdf>> (参照日 2024 年 12 月 18 日)
- 村野井仁. (2018). 『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』 大修館書店.
- 文部科学省. (2014). 「グローバルな英語コミュニケーション能力の到達基準を求めて：CEFR 準拠の JS「ジャパン・スタンダード」の策定と実践」 <https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343401_04.pdf> (参照日 2024 年 11 月 27 日)
- 文部科学省. (2015a). 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」 <https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/07/24/1354768_1.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)
- 文部科学省. (2015b). 「少子化に対応した活力ある学校づくりに関する参考資料」 <https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/07/24/1354768_1.pdf>

5/01/29/1354768_3.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)

文部科学省. (2017a). 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」
<https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)

文部科学省. (2017b). 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」
<https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)

文部科学省. (2017c). 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編」<https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf> (参照日 2024 年 12 月 18 日)

文部科学省. (2018). 『「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表』
<https://www.mext.go.jp/content/1407196_26_1.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)

文部科学省. (2021). 「標準授業時数について」<https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_kyoiku01-000016453_4.pdf> (参照日 2024 年 10 月 31 日)

文部科学省. (2022). 「英語教育実施状況調査」<https://www.mext.go.jp/content/20240527-mxt_kyoiku01-000035833_1.pdf> (参照日 2024 年 11 月 27 日)

付録 小中英語授業比較表

【小中英語授業比較表】

学年/項目	小学校中学年 (3・4年生)	小学校高学年 (5・6年生)	中学校 1年生
授業名	外国語活動	外国語科	外国語科(英語)
CEFR-J	Pre-A1	Pre-A1～A1.1	A1.2
授業タイプ	活動型	教科型	教科型
学習の場	1クラスあたり35名、1学年あたり2～3学級 担任もしくは専任教員・ALT	1クラスあたり35名、1学年あたり2～3学級 担任もしくは専任教員・ALT	1クラスあたり40名、1学年あたり4～6学級 専門教科担当・ALT
授業教材	歌、ゲーム、簡単な会話	会話、短い文章、簡単な読み書きの教材	語彙、文法を含んだ読解・作文教材、 ディスカッション用の資料
学習目標	外国語を通じて言語や文化の理解を深め、 基本的なコミュニケーション能力を養い、 相手に配慮しながら主体的に外国語で コミュニケーションを図ろうとする態度を 育成する。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などを理 解し、実際のコミュニケーションに活用できる基礎的 な技能や、目的や状況に応じた聞く、話す、読む、書 く能力を身に付け、さらに異文化理解を深め、主体的 に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育 成する。	外国語の音声や文法、表現を理解し、日常のおよび 社会的な話題についての情報や考えを外国語で理 解・表現・伝達する能力を養い、異文化理解とともに 主体的にコミュニケーションを図る態度を育成する。
重点領域	聞くこと、話すこと(やりとり)、 話すこと(発表)	聞くこと、話すこと(やりとり)、 話すこと(発表)、読むこと、書くこと	聞くこと、話すこと(やりとり)、 話すこと(発表)、読むこと、書くこと
単位時間数	週1回(年間35時間)	週2回(年間70時間)の「外国語」の授業	週4回(年間140時間)
授業数	600～700語		
学習範囲(文・文法)	-	文・単文、平叙文、命令文、 疑問文、基本的な代名詞、動名詞、過去形	文・疑問文 文法：代名詞、助動詞、動詞の時刻

5領域の内容	聞くこと	自分のことや身のまわりの物を表す簡単な語句を聞き取り、意味がわかる程度まで慣れ親しむ。	日常生活の身近な話の概要を捉えることができる。	日常的な話題に加え、社会的な話題についても要点を捉えることができる。
	読むこと	「文字の読み方」指導は「文字の名称」の読み方に留める。	「文字の読み方」には「名称」と「文字が持っている重」まで加えて指導する。	短い文章から自分が必要とする情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりすることができる。
	話すこと(やりとり)	簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	メモしたことや、聞いたり読んだりしたことを簡単な語句や文を使って述べ合うことができる。
	話すこと(発表)	実物や写真などを見せながら話す。	身近で簡単な事柄について、話す内容を整理して自分の考えや気持ちを表現できるようにする。	日常的な話題に合わせ、社会的な話題についても考えたことや感じたことを話したりすることができる。
	書くこと		アルファベットの大きな文字・小さな文字を活字体で書く、識別する、慣れ親しんだ語句や表現を書き写す、などができるようにする。語順やスペースに注意して「書く」活動をする。	小学校で学習した文字や書き写した英文を土台にして、さらに「書く」をしたり、まとまった文を書いたりする。
異文化理解		日本文化や外国文化に触れ、多様な考え方や生活様式を学び、興味を持たせる。	異文化に関する基本的な理解を促進させる。	英語圏の文化や社会について深く学び、異文化への理解と配慮を持ってコミュニケーションを図る力を育成する。
成績評価の有無		無	有	有
実利性の有無		無	無	有

※成績評価＝数値による評定
※実利性＝授業が試験合格や就職など、ある具体的な現実の利益につながる要素

継続性のある英語学習者の特性に関する考察
A Study of the Characteristics of Persistent English Language Learners

明治大学 国際日本学部
森 媛花

Meiji University School of Global Japanese Studies
MORI Himeka

目 次

- I. はじめに
- II. 先行研究
 - 1. 継続性の重要性
 - 2. 授業時間外で英語学習を行う必要性
 - 3. 大学生の英語学習について
 - 4. 先行研究のまとめ
- III. 研究方法
 - 1. 研究課題
 - 2. 調査協力者
 - 3. 調査方法
- IV. 結果と考察
 - 1. 大学生における継続的英語学習の現状
 - 2. 4項目における学習者の分布
 - 3. 成績上位群と成績下位群のデータ比較
- V. 継続性的英語学習に必要な観点
- VI. おわりに
- 参考文献
- 謝辞

I. はじめに

本研究に着手した背景には筆者自身が大学生活を送る中で、「継続性のある英語学習方法」にたどり着けず、授業内のテストや TOEIC 受験などの特定の目的のための短期的な英語学習しかできなかったという経験がある。小学校から高校までの義務教育に比べて自由に行動できる時間が増加し、英語力のスキルアップに時間を割くことも可能な状況であったにも関わらず、英語学習を継続することができなかった。世の中には筆者のように英語学習を挫折したり、モチベーションが下がったりした経験がある人も大勢いる一方で、英語学習の継続に成功している人も存在する。そこで本研究では、大学生における継続性のある英語学習とは何か、継続性のある英語学習の成功者の特性は何か、を先行研究と大学生へのアンケート等の多角的な調査から明らかにすることを目的とする。そして最終的には英語学習の継続を困難に感じる学生の一助としたい。

II. 先行研究

本研究では「継続性の重要性に関する研究」、「授業時間外の英語学習に関する研究」、「大学生の英語学習に関する研究」の3つの観点から先行研究の検討を行った。以下、順にそれぞれについて説明する。

1. 継続性の重要性

Teimouri et al. (2020)は、第二言語 (L2) の習得の成功は、学習者の持続的な努力に大きく依存すると指摘している。さらにこの研究では、性格特性として長期的な目標に対する忍耐力と情熱の組み合わせとして定義されている「Grit」がさまざまな学術的および非学術的領域のさまざまな集団にわたる成功の重要な予測因子であると指摘している。持続的な努力、すなわち継続性についての性格特性に関する研究は近年注目されつつある。しかし、なぜ必要なのか、どのような条件が揃うと継続的と言えるのか、などの継続性に関する行動特性については多く言及されていない。竹内 (2003) では、外国語学習成功者の学習方略を取り上げているが、その中で「本章にまとめた外国語学習を成功に導く (可能性のある) 31 の方略をみると、その多くが比較的単純なものであり、どちらかといえば、ありふれたものであることに驚く。秘術的な要素とはほど遠く、ありふれたことを挫折せず、きちんとこなしておれば、相当に高いレベルまで外国語を習得できるというのが結論なのである。」(p.207) と述べられている。このように、革新的な英語学習方法が存在するわけではなく、学習を継続することが大切であると考えていることが読み取れる。また、「当たり前の方法や活動を根気よく、着実に続けていくことができるかどうか、学習の成否がかかっていくことになる。そしてその当たり前の方法や活動をたゆまず続けていくことを可能にする諸条件は、本書が主として取り扱うテーマを超えた別の研究テーマへと踏み出していかなければ、十分に解

明されることはないだろう。」(p.208)とあるように、英語学習の継続のための諸条件は解明されていない。また、高橋(2024)では、「本研究で特に重要だと考え、着目したのが、動機づけ3側面のうち最も研究が足りていない“persistence”である。先行研究で多く調べられてきたのは、動機づけ3側面のうちの“choice”(選択)と“effort”(努力)、すなわち、なぜある外国語を勉強し、どのくらいの努力量でどの外国語を勉強しているかという側面である一方、persistence については、最近になるまで、実証研究も少ない状況であった。」(p.14)とある。「persistence」は「粘り強さ・持続性」と一般的に訳すことができ、ここにおける訳は英語学習の「継続性」と読み取ることができる。しかしながら、言語学習の継続性に関する研究は重要であると考えられているにも関わらず、実証研究の数も限られている。以上3つの先行研究から、継続性は英語学習において重要な要素であると考えられているが、いまだに実証研究が少なく、継続の諸条件については深く言及されていないという結論にたどり着いたため、本研究では英語学習の継続性の諸条件について明らかにしたい。

2. 授業時間外で英語学習を行う必要性

日本の義務教育では実用的な英語力を身に着けるために必要な時間数を確保できないため、授業外で学習を行うべきであると繰り返し指摘されている(福田・坂田, 2011, 柳瀬, 2021)。福田・坂田(2011)は、指導要領の改訂などで授業時間数が多少増えることも考えられるであろうが、日本人が英語を習得するために必要とされる2000~5000時間の学習を(Odlin, 1992; 井上, 2000; 中島, 2006; 古野, 宮崎・藤村, 2011; Fukuda・坂田, 2010)、授業時間内で補うことは現実的には非常に難しいと考えられることから、現実的な観点からみれば、授業時間を増やすことよりも、足りない部分の時間数を学習者がいかにして補うか、が実用的な英語力を身につける上での重要なカギになると指摘している。

また、柳瀬(2021)は、「現行の学校教育の中だけで必要な時間数の教育を提供するのは非常に難しく、学習者が自身の目標に向かって学習計画を立て、授業時間外に自律的に学習する必要性があると言える。」と問題提起している。実際に、筆者自身の学生時代を振り返ると英語の授業時間は先述した2000時間以上に到底及ばないと考える。具体的には、小学校では週1回45分の授業を5~6年までの2年間、中学校では週2~3回50分の授業を3年間、高校では週6~7回50分の授業を3年間受講した。小学校から高校までの合計の英語授業時間を概算すると、72時間+420時間+720時間=1212時間である。いずれの英語授業時間も、長期休みや定期テストを考慮していないため、実際はさらに短い可能性が高い。この概算から、大学生で1000時間以上の英語学習を行わなければ、2200時間に到達しない可能性が浮上した。以上の2つの先行研究と自身の経験から、実用的な英語力を身に付けるためには、義務教育の範囲内では学習時間が大幅に足りないため、「授業外」に「自ら」英語学習を行う必要があるということが判明した。

3. 大学生の英語学習について

次に、義務教育では補えない英語教育の時間をどこで確保するのかという問題が浮上してくる。福田・坂田（2011）では、継続的英語自律学習について、「現状を見る限り、小・中・高校では難しいかもしれないが、大学入試や学習指導要領などの「縛り」が少ない大学レベルであれば十分に改革は可能であり、学習者にとっての「最後の砦」として、かつ生涯学習への入り口として機能するためのドラステックな改革を推進していくことができるのではないかと考える。」と述べられている。大学生の英語学習は個人の裁量に委ねられる傾向にあり、継続的自律学習が一番実現可能であると考えられている。しかし、現状は異なる。中学校、高校では、自宅での課題学習時間とその他の自主学習時間を合わせて、合計1,051.8時間の英語学習を行っているのに対して、大学ではこの学習時間が激減する。理由としては、部活動・サークル活動・アルバイト等の時間が増加し、授業への出席、卒業論文・卒業研究を除いた、学生の自律的な学習時間を上回るからだ（国立教育政策研究所、2016）。具体的には、授業に関連した課題学習時間が34.1時間、授業以外の自主学習時間は、4年間の合計で約75.1時間となっている。このように、時間や選択の縛りが減り、自由な時間が増えたはずの大学で、自主学習時間が大幅に減少しているということだ。この現状を変え、大学生における英語の自主学習時間を増やすことが、実用的な英語力を身に付ける大きな一歩になると考えた。

4. 先行研究のまとめ

以上の先行研究から、①継続性は英語学習において重要な要素の一つである ②現行の小学校から大学までの学校教育の中だけでは、実用的な英語力を身に付けることは難しい ③大学生の英語学習は小学校から高校までの英語学習に比べて、縛りが少なく、個人の裁量に委ねられる傾向がある、という可能性が浮上した。この可能性を踏まえて、実用的な英語力を社会人になる前に身に付けるためには、大学生が授業時間外で継続的に英語学習を行うことが必要であると考え。そこで本研究では、先行研究では明らかにされていない英語学習における継続性の諸条件や行動特性について調査を行い、大学生が授業時間外で継続的に英語学習に取り組めるよう指針を示すことを目的とする。

III. 研究方法

1. 研究課題

大学生の「過去」と「現在」の英語学習経験から、継続性のある英語学習者の定義を明らかにし、特性や諸条件について検討する。

2. 調査協力者

本研究に参加したのは、日本人の大学1年生から4年生までの44名であった。対象者の

協力を得て、選択式独自アンケート調査を実施した。本研究では、継続的英語学習の経験から定義や諸条件を解明する必要があったため、継続的英語学習の経験が無いと回答した参加者 16 名はデータから除外した。

3. 調査方法

本研究では、Google Form を用いた選択式独自アンケート調査を実施した。選択式独自アンケートは 1 ヶ月間の回答期限を設けた。

(1) 学習歴等の個人情報を問うセクション

①名前 ②連絡先 ③年齢 ④性別等の個人情報、⑤学年 ⑥学部系 ⑦通っている大学を問う質問を作成した。さらに対象者の英語学習歴を問うために、⑧TOEIC の成績英検の有無 ⑨留学経験 ⑩海外居住経験を問う質問を作成し、計 13 項目で構成した。質問項目には選択肢から当てはまるものを選ぶ回答方式と自由記述の回答方式（項目例：「留学の経験があると答えた方にお聞きます。どこにどのくらいの期間行きましたか」）の 2 種類がある。個人の要因がどのように英語学習に影響を与えるかを検討するため、質問を設定した。

(2) これまでの英語学習経験を問うセクション

①授業外で、ある程度の期間、英語学習を行った経験があるか否かを問う質問 学習に関する具体的な ②期間 ③頻度 ④1 回の学習時間 ⑤学習方法 ⑥学習目的について問う 6 項目 8 問で構成されている。選択肢から当てはまるものに最も近い選択肢を選ぶ回答方式と自由記述の回答方式（項目例：「質問 14 で「はい」と答えた方にお聞きます。英語学習を継続できた理由は何だと考えていますか」）の 2 種類がある。大学生の英語学習の現状を把握するため、質問を設定した。

(3) 現在の英語学習経験を問うセクション

冒頭の、授業外で、ある程度の期間、英語学習を行っているか否かを問う質問、以外は(2)これまでの英語学習経験を問うセクションと同様の内容である。大学生の英語学習の現状を把握するため、質問を設定した。

IV. 結果と考察

1. 大学生における継続的英語学習の現状

まず、アンケートの回答から実際に大学生のどのくらいの割合が継続的英語学習を過去に行っていたか、もしくは現在行っているかの現状を分析する。

過去の英語学習については、「大学の授業外で、ある程度の期間、継続的に英語学習を行

った経験はありますか」という質問に対して、44 名が「はい」と回答した。全体の 7 割以上が過去に継続的英語学習を行った経験があるという結果であった。しかし、筆者自身が国際系の学部に所属しているということもあり、回答者に同学部所属者が多く、英語に対する関心が高い人が多い可能性も考慮に入れなければならない。また、「現在、ある程度の期間、継続的に英語学習を行っていますか」という質問に対して、22 名が「はい」と回答した。過去に継続的英語学習の経験がある学習者の割合に対して、現在、継続的英語学習を行っている学習者の割合は著しく減少しており、全体の 3 割程度に留まった。詳しく見ると、継続的英語学習を現在行っている学習者の内、過去にも継続的英語学習を行っている学習者は 19 名、反対に、過去に継続的英語学習を行っていない学習者は 3 名であった。この結果から、現在も継続的英語学習を行っている者の 8 割以上が過去にも継続的英語学習を行っており、過去に英語学習経験がない学習者に比べて英語学習へのハードルを低く感じているため取りかかりやすいのではないかと考えた。最後に、過去に継続的英語学習の経験があるが、現在は継続的英語学習を行っていないと回答した学習者は 25 名であった。この学習者らは特定の目的のために英語学習を行っていたが、現在は目標を達成した、もしくは目標がなくなった等の理由で英語学習を行う必要がなくなったと考えられる。

2. 4 項目における学習者の分布

(1) 分析と考察の前提条件

アンケート項目における、選択式であった(1)学習期間、(2)学習頻度、(3)学習時間、(4)学習方法、の 4 項目の回答結果から分析と考察を行う。4 つの要素のそれぞれの定義は、英語学習をいつからいつまで行ったかを表す「学習期間」、英語学習を週に何回行ったかを表す「学習頻度」、英語学習 1 回の所要時間を表す「学習時間」、英語学習をどのような方法を用いて行ったかを表す「学習方法」である。アンケート調査では、過去と現在の継続的英語学習の経験についてセクションを分けて回答させる形式であったため、分析は過去と現在を分類して行った。最終的に、過去に継続的英語学習を行ったことがあると回答した 44 名と現在継続的英語学習を行っていると回答した 22 名の分析と考察を行った。また、分析と考察を行うにあたり、習熟度別に行動特性を比較するため、アンケート調査で得た学習者の TOEIC と実用英語技能検定の成績から学習者を成績上位群（以下、上位群）と成績下位群（以下、下位群）の 2 群に分けた。

表 1 分析を行った学習者数

	上位群 (グループ 1)	下位群 (グループ 2)	合計
過去	25	19	44
現在	14	8	22
合計	39	27	66

(2) 成績上位群と成績下位群の定義

分析結果の前に、上位群に属する学習者について定義する。本研究における成績上位の学習者とは、CFER の B2 に属する学習者とする。日本英語検定協会のホームページより、B2 に属する英語学習者とは、「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。」とある。母語が日本語の大学生で、この条件を満たす学習者は習熟度が高いと言えるのではないかと考えた。また、同協会は、英検準 1 級はおよそ大学中級程度のレベルであると述べており、大学生の一般レベルより少し高いレベルに設定していると考えられるため、CFER の B2 が妥当なレベルであると判断した。今回のアンケート調査では、習熟度を判別することを目的として、持っている①TOEIC L&R の成績②実用英語技能検定を回答させた。①の回答と以下に示した表 2 を照らし合わせ、TOEIC L&R のスコアで、B2 の基準である 785 点以上の成績を持つ学習者を上位群に属する学習者と定義した。また同様に、②の回答と以下に示した表 2 を照らし合わせ、B2 の基準である英検準 1 級を持つ学習者を上位群に属する学習者と定義した。

表 2 英検と TOEIC の CEFR 対照表 (出典：文部科学省)

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表									
CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
 TOEFL：米連ETIS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=ckb>
 IELTS：ブリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より
 TEAP：第1回 英語力の評価及び入国における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より
 Cambridge English (ケンブリッジ英検)：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>
 ※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

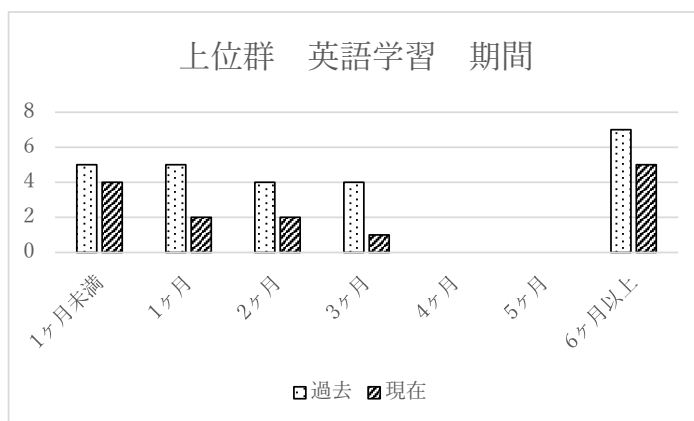
本研究で行ったアンケート調査では、CFER の B2 に所属する、かつ、過去に継続的英語学習を行ったことがある学習者は 25 名であった。また、CFER の B2 に所属する、かつ、今現在も継続的英語学習を行っている学習者は 14 名であった。成績上位群はこの 2 つで構成さ

れる。次に、下位群に属する学習者を定義する。上位群に属さない、かつ、過去に継続的英語学習を行ったことがある学習者は 19 名であった。また、成績上位群に属さない、かつ、現在も継続的英語学習を行っている学習者は 8 名であった。下位群は、上位群に属さないこの 2 つで構成される。以下より、上位群と下位群それぞれの分析と考察を行う。

(3) 上位群の分析と考察

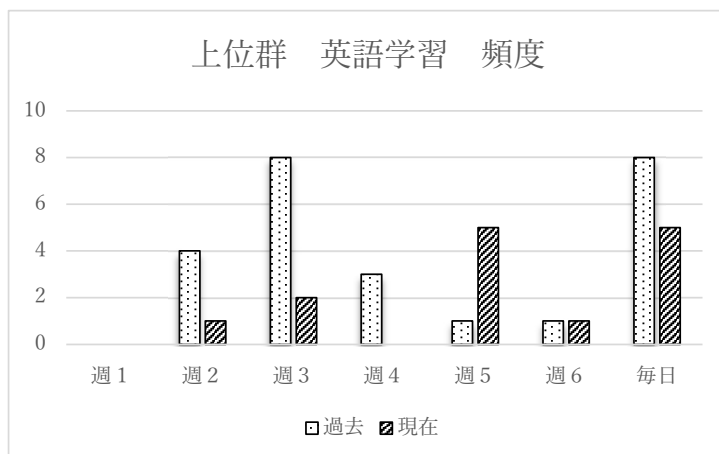
学習期間においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、1 ヶ月未満～1 ヶ月の短期間と 6 ヶ月以上の長期間に学習者が集中している傾向がある。また、4～5 ヶ月の選択肢では学習者は見られず、中間層に属する学習者は少ない傾向である。現在の継続的英語学習に焦点を当てると、最も多いのは 6 ヶ月以上と回答した 5 名、次いで 1 ヶ月未満と答えた 4 名である。過去と同様に 4～5 ヶ月の選択肢では学習者が見られなかった。過去と現在において、2～3 ヶ月の学習者が少なく、4～5 ヶ月の学習者が存在しないことから、中間層の学習者がほとんど見られないという共通点が明らかになった。この結果は、短期的な目標を設定して学習する層と英語学習を習慣的に長期で行う層に二極化していることを示唆している。

図 1 上位群における学習期間



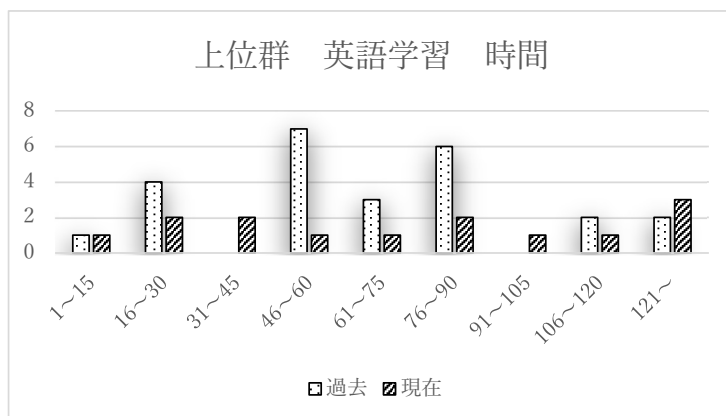
学習頻度においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、週 3 と回答した学習者と毎日と回答した学習者がそれぞれ 8 名で最も多い結果となった。一方、現在の継続的英語学習に焦点を当てると、週 5 と回答した学習者と毎日と回答した学習者がそれぞれ 5 名で最も多かった。過去と現在の学習者を総合的に見ると、毎日と回答した学習者が最も多いことが確認でき、多くの学習者が高頻度で英語学習を行い、学習習慣を維持する傾向があると考えた。

図 2 上位群における学習頻度



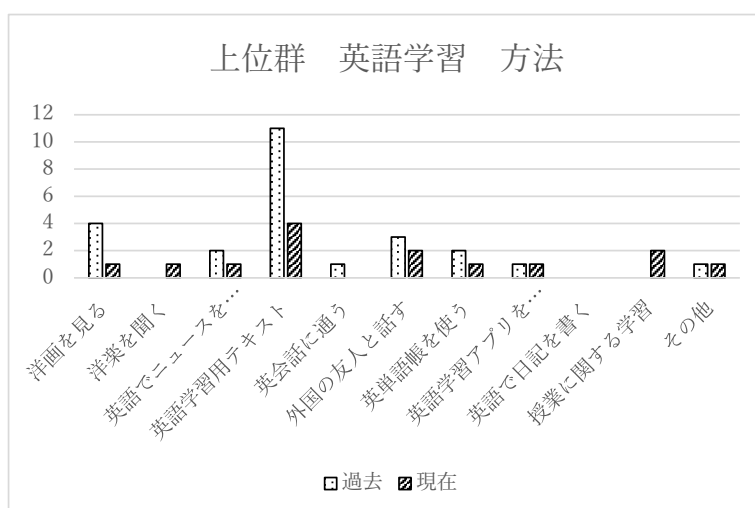
学習時間においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、46分～60分と回答した学習者が7名と最も多く、次いで76分～90分と回答した学習者が6名であった。また、46分～90分に分類される中間層には全体の64%にあたる16名が分布している。反対に、残りの学習者は1～30分に5名、106～121分以上に4名がそれぞれ分布していた。この結果から、学習者の大半が中程度の学習時間に集中している一方で、短時間または長時間学習を行う少人数のグループも存在していることがわかる。現在の継続的英語学習に焦点を当てると、すべての選択肢に1～3人の学習者が存在しており、幅広く分布している。学習時間は、各学習者の個別の学習目的や頻度に応じて設定されている可能性が高い。

図 3 上位群における学習時間



学習方法においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、英語学習用テキストを使用すると回答した学習者が 11 名と最も多かった。この選択肢に回答が集中した背景として、上位群には TOEIC や英検の資格取得を目的に英語学習を行った経験を持つ学習者が多かったことが挙げられる。そのため、目的達成に適したテキストを使用する場面が多かったことに起因していると推測される。その他の学習者については、洋楽を聞く、英語で日記を書く、授業に関する学習、を除いた全ての選択肢において、1～4 名が分布していた。現在の継続的英語学習に焦点を当てると、英語学習用テキストを使用すると回答した学習者が 4 名で最も多く、これは過去の学習方法と同様の傾向を示している。英会話に通う、および英語で日記を書く、を除く全ての選択肢において、1 名以上の学習者が存在する。

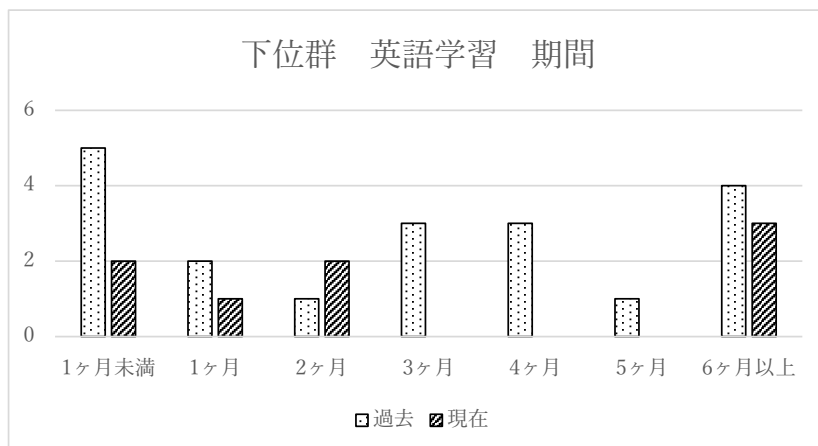
図 4 上位群における学習方法



(4) 下位群の分析と考察

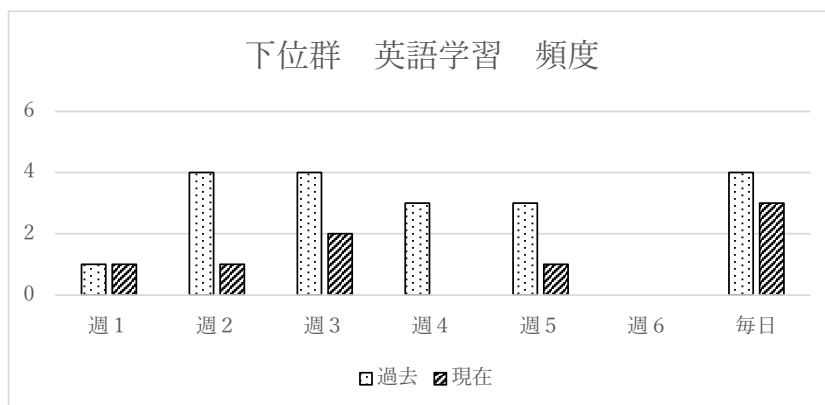
学習期間においては、過去の英語学習経験に焦点を当てると全ての期間に 1 人以上の学習者が存在している。そして、最も多かったのは 1 ヶ月未満と回答した学習者で 5 名、次いで 6 ヶ月以上と回答した学習者が 4 名であった。下位群においては、学習者が幅広い学習期間に分布しており、顕著な規則性は見られなかった。このことから、学習期間は一定の傾向があるのではなく、個人の学習目的と密に関係しているため、結果が分散しているのではないかと考えた。また、現在の英語学習経験に焦点を当てると、3.4.5 ヶ月と答えた学習者はおらず、2 ヶ月以内に 5 名、6 ヶ月以上に 3 名という結果であった。こちらは、偏りがあるように見えるが学習者数が 8 名と限られていることを考慮すると、学習者数が増えることで結果が変化する可能性もある。

図 5 下位群における学習期間



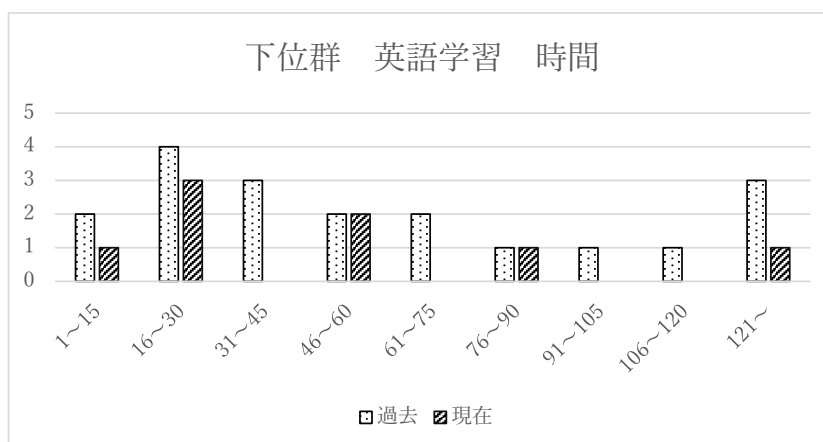
学習頻度においては、過去の継続的英語学習の経験に焦点を当てると、週 6 を除いて全ての選択肢に学習者が存在する。そして、週 2、週 3、毎日と答えた学習者がそれぞれ 4 名と同率で 1 番多かった。学習期間と同様に学習頻度に関しても、学習者が幅広い選択肢に分布しており目立った規則性はない。また、現在の英語学習に焦点を当てると、毎日と答えた学習者が 3 名と最も多く、他 5 名は幅広い選択肢に分布している。過去および現在のいずれにおいても、週 6 で学習を行う者は確認されなかった。この結果は、学習頻度が平日に集中することによって週 5 で学習を行う場合と、平日および土日に分散して学習を行うことによって毎日学習を行う場合に分かれることに起因する可能性がある。また、平日と土曜または日曜のいずれかを組み合わせた週 6 の頻度、あるいは土日の両日と平日 4 日間を組み合わせた週 6 の頻度の学習者が存在しなかったことも影響していると考えられる。

図 6 下位群における学習頻度



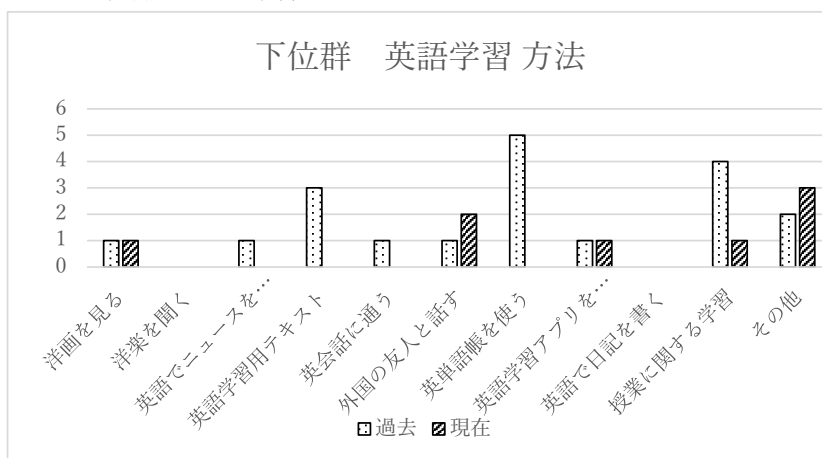
学習時間においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、学習者全体の7割弱が1分～75分の範囲内に集中していることが明らかになった。特に、16分～30分の学習時間を選択した学習者が4名と最も多い。次いで、31分～45分および121分以上の学習時間を選択した学習者がそれぞれ3名で、これらが2番目に多い結果となった。全体の約7割の学習者が75分以内の学習時間に集中している一方で、すべての学習時間に学習者が分布していることが確認された。この結果から、英語学習における学習時間の設定が多様であることが示唆される。また、現在の継続的英語学習においても、過去と同様に16分～30分を選択した学習者が最も多い結果となった。こちらは、対象学習者が少ないため、5つの選択肢にそれぞれ分布が見られるものの、明確な傾向を示すには至らなかった。

図 7 下位群における学習時間



学習方法においては、過去の継続的英語学習に焦点を当てると、英単語帳を使用する学習者が5名と最も多く、次いで英語学習用テキストを使用すると回答した学習者が3名であった。一方で、洋楽を聞く、または英語で日記を書くとは回答した学習者はいなかった。また、英単語帳や英語学習用テキストといった紙ベースの媒体を使用する学習者は19名中8名と全体の半数を占めていることが明らかになった。その他と回答した学習者の具体的な学習方法としては、英語のYouTubeを視聴する、および英語の文章を読むという方法が挙げられた。現在の継続的英語学習に焦点を当てると、その他を選択した学習者が最も多く、その具体的な学習方法としては、「英語の論文を読む」や「アルバイトで海外の方を接客する」など、個々の目的に応じた独自性のある学習方法が挙げられた。また、残りの学習者においても、授業に関する学習の1名を除き、洋画を見る、外国の友人と話す、英語学習アプリを使用する、など手軽に英語に触れられる方法を選択する傾向が見られた。

図 8 下位群における学習方法



3. 成績上位群と成績下位群のデータ比較

(1) 学習期間について

過去と現在のデータを合わせて上位群と下位群で比較を行った。以下から、過去と現在の学習者を足したものを学習者数、および学習者と表現する。共通点として、学習者が1ヶ月未満、および6ヶ月以上、の期間に集中していることが明らかになった。この傾向は学習者の学習期間が短期的に集中して行うか、または長期間にわたって学習を行うかに二極化していることを示唆する。一方で相違点としては、二点挙げられる。第一に、上位群では、1ヶ月から5ヶ月にかけて学習者数が緩やかに減少する傾向がみられるのに対して、下位群では1ヶ月から4ヶ月にかけて学習者数が常に3人であり、変動がないことが確認された。第二に、上位群では、3ヶ月以内の学習者の割合が69%であり、一般群の59%を10%上回っている。このことから、上位群には短期間で学習を終える学習者が多いことが示唆される。以上で指摘した共通点と相違点から、上位群においては短期間で質の高い学習を行う者が多いのではないかと予測される。

(2) 学習頻度について

両群の共通点として、最も多い学習頻度は毎日、次いで週3回という結果が挙げられる。また、最も少ない頻度および2番目に少ない頻度は、いずれの群においても週1回と週6回である点も一致している。一方で、相違点としては学習者数の人数差を除き、頻度における学習者の分布傾向に顕著な差異は見られなかった。この結果は、学習者の習熟度と英語学習の頻度との間に強い関連性が存在しない可能性を示唆するものと考えられる。

(3) 学習時間について

共通点としては、学習者の分布が最も少ない選択肢は 91～105 分である点、および 30 分や 60 分、121 分以上といった時間間隔が明確な選択肢に学習者が集まりやすい傾向が挙げられる。一方、相違点としては、上位群において学習者数が最も多かったのは 46～60 分と 76～90 分であるのに対し、下位群では 16～30 分であった点が指摘される。また、上位群では 1 時間未満の学習者が全体の 46%を占めるのに対し、下位群では 1 時間未満の学習者が全体の 63%と割合が高かった。これらの結果から、上位群の学習者にはより長い学習時間を確保している者が多い傾向があり、学習者の習熟度と英語学習の学習時間との間に密接な関連性がある可能性が示された。

(4) 学習内容について

共通点としては、英語で日記を書く、洋楽を聞く、英会話に通う、という学習方法を選択した学習者が 0～1 人と上位群および下位群でも極めて少なかった点が挙げられる。また、相違点としては、英語学習用テキストを使用すると答えた学習者の割合が挙げられる。上位群では全体の 38%の学習者が英語学習用のテキストを使用すると回答したのに対し、下位群ではこのように回答した学習者は全体の 0.1%にとどまった。この結果から、上位群では、英語学習用のテキストを積極的に活用する学習者が多いことが明らかになった。上位群と下位群の間に見られたこのような差異の要因として、上位群の学習者の多くが TOEIC や英検といった資格取得を目的として英語学習を行っていた点が注目される。この目的意識から、目標達成に適したテキストを使用する場面が多かったことに起因していると考えられる。さらに、英語学習用テキストを使用することで、学習者は目的達成のためにすべきことを可視化することが可能となる。さらに、テキストの進行自体が目標達成への最短経路となるため、学習者のモチベーションを維持し、学習の継続を促進する要因になったと考える。

V. 継続的英語学習に必要な観点

前節で考察した、上位群と下位群の継続的英語学習の 4 要素における差異から、大学生が継続的英語学習を成功させるための重要な観点について考察し、結論付ける。これまでの結果と考察から、継続的英語学習を成功させるためには 4 つの観点から学習を進める必要性が浮上した。まず、学習期間における考察から、1 点目の観点を導く。上位群では短期間の学習者が多い傾向が確認され、このことから短期間で質の高い学習を行っている可能性が示唆される。この結果から導かれる重要な観点として、短期集中型または長期継続型といった自身の学習スタイルを認識し、それに応じ、目的と学習スタイルに合った計画を策定することが、効果的な学習成果を得るために必要であると考えられる。次に、学習頻度における考察から、2 点目の観点を導く。上位群と下位群の比較において、英語学習の頻度に関して顕著な差異は見られなかった。この結果から、英語学習の頻度と習熟度の

高さの間に強い関連性は存在しない可能性が示唆され、継続的英語学習においては、学習頻度にこだわる必要性は低いと考えた。それよりも、自身が無理なく実行可能な範囲内で英語学習を行うことが重要な観点である。さらに、学習時間における考察から、3点目の観点を導く。上位群は、下位群と比較して長い学習時間を確保している傾向が確認された。この結果から、英語学習の時間と習熟度の高さの間には密接な関連性が存在する可能性が考えられる。したがって、短すぎない適切な学習時間を確保するとともに、集中力を活かした英語学習を行うことが重要な観点である。最後に学習方法の考察から、4点目の観点を導く。上位群では、下位群と比較して英語学習用のテキストの使用率が高いことが確認でき、特定の目標達成に適した教材を選択する傾向が示された。この結果から、英語学習の明確な目標を設定し、それに適した教材を活用することが学習を進める上での重要な観点であると考えられる。以上が、本研究の4要素から導き出された継続的英語学習における重要な観点である。これらの観点を基に、英語学習を計画し、実行することで、モチベーションを失うことなく、効率的で継続性のある英語学習が可能になると考えた。

表 3 継続的英語学習における重要な4観点

学習期間	短期集中型か長期継続型か、自身の学習スタイルと英語学習の目標の両方と合致した計画を立てる
学習頻度	高頻度に固執せず、無理なく実行可能な範囲内で英語学習を行う
学習時間	短すぎない適切な学習時間、かつ、集中力を維持し活かせる学習時間を確保する
学習方法	英語学習における明確な目標を設定し、それに適した教材を使用する

VI. おわりに

本研究では、大学生における継続性のある英語学習の諸条件や継続的英語学習の成功者の特性について、大学生へのアンケート調査を行い、主に「学習期間」「学習頻度」「学習時間」「学習内容」の4項目ごとに分析を行った。本研究から、大学生が継続的英語学習を成功させるために重要となる観点は、目標や先を見据えた学習スケジュール策定等の「計画力」と自身の学習スタイルや学習容量の限界を「認知」することであるという結論を導いた。よって、他の学習者との比較に重きを置くのではなく、自分自身に焦点を当て、適した英語学習を模索し、計画・実行することが、英語学習の成功に近づくのではないだろうか。今後、グローバル化が進行する上で、大学生における継続的英語学習は、将来の選択肢や活躍の場を増やすための「準備」として無視できない存在になると予想される。本研究で導かれた結論が、これから継続的英語学習を行う学習者の指針となれば幸いである。

参考文献

- Teimouri, Y., Plonsky, L., & Tabandeh, F. (2022). L2 grit: Passion and perseverance for second-language learning. *Language Teaching Research*, 26(5), 893-918.
- 公益財団法人日本英語技能検定協会 (2024). 『英検 CSE スコアとは』
<<https://www.eiken.or.jp/cse>> (2024/12/18)
- 国立教育政策研究所 (2016). 「大学生の学習実態に関する調査研究について (概要)」
<www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf06/160330_gaiyou.pdf> (2024/12/17)
- 坂田浩・福田 T, スティーブ (2011). 「継続的英語自律学習の支援するためのワークシートー「Learning How to Learn」と自己評価用紙の作成についてー」『徳島大学国際センター紀要・年報』 14-24.
- 坂田浩・福田 T, スティーブ (2019). 「日本人の英語学習時間について：これまでの学習時間とこれから求められる学習時間」『国際センター利用・年報』 11-27.
- 高橋千佳 (2024). 『人はなぜ言語を学ぶのか：2 人の日本人多言語学習者の記録』くろしお出版.
- 竹内理 (2003). 『より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究』松柏社.
- 廣森友人 (2023). 『改訂版 英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店.
- 文部科学省 (2016). 『各試験団体のデータによる CEFR との対照表』
<https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985_15_1.pdf> (2024/12/18)
- 柳瀬真紀 (2021). 「大学生の自律型英語学習の継続につなげる授業の実践ーマインドセット, 学習方略, 振り返りの重要ー」『高知大学教育研究論集』 26(5), 53-64.

謝辞

本論文の作成にあたり、多大なるご指導いただきました明治大学国際日本学部の廣森友人教授をはじめ、助言を頂きました廣森ゼミナール院生の皆様、10 期生の皆様、そしてアンケート調査にご協力頂きました学生の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

コミュニケーションを取ろうとする
意思と習熟度の関連
—習熟度別の関連要因調査—

The relationship between willingness to communicate and
language proficiency
—Survey of relevant factors by proficiency level—

明治大学 国際日本学部
水嶋 春佳

Meiji University School of Global Japanese Studies
MIZUSHIMA Haruka

目 次

- I. はじめに
- II. 先行研究
 - 1. WTC とは
 - 2. WTC と習熟度
- III. 研究方法
 - 1. 研究課題
 - 2. 調査協力者
 - 3. 調査方法
 - (1) 習熟度を測る質問紙
 - (2) WTC を測る質問紙
 - (3) WTC に影響を与える要因を特定する質問紙
 - 4. 分析方法
- IV. 結果と考察
 - 1. 分析結果
 - (1) 調査に用いた各要因の記述統計量
 - (2) WTC と習熟度の関係
 - (3) 習熟度別の WTC に影響を与える要因
 - 2. 調査結果を踏まえた学習法・指導法提案
- V. 今後の課題
- VI. おわりに
- 参考文献
- 謝辞
- 付録：調査で用いた質問項目

I. はじめに

学習成功にあたってコミュニケーションが重要な役割を担うことは、これまでの研究で繰り返し明らかにされている。平成 30 年告示の高等学校学習指導要領においては、外国語科の目標を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とされている。授業形態もこれまでとは全く異なるものとなり、学習者がコミュニケーションを取ろうとする意思を高めることが重要であると考えられる。さらに、Rubin (1975) によると、言語学習成功者はコミュニケーションへの指向性が強く、実際のコミュニケーションを通じて学びを得るという共通の特徴があり、コミュニケーションの重要性が理解できる。

そこで本研究では (1) コミュニケーションを取ろうとする意思と習熟度に相関はあるのかどうか、(2) 習熟度によってコミュニケーションを取ろうとする意思に影響を与える要因が異なるのかどうかについて調査を行いたい。ここでいうコミュニケーションを取ろうとする意思は *Willingness to communicate* (WTC) を指し、MacIntyre et al. (1998) の概念モデルを中心に本研究を進めることとした。

WTC に影響を与える要因に関する調査はこれまでに再三行われてきた。WTC と習熟度の関連を調査した研究も過去にも行われているが、その結果には一貫性が見られない。さらに、習熟度の違いに焦点を当てて WTC に影響を与える要因を調査した研究はこれまでに行われていない。今回、習熟度に着目した理由として興味深い経験談がある。私自身は習熟度が高ければ高いほど L2 使用についての自信を高くもち、WTC も当然高いだろうと考えていた。しかし、ある知人は、自信がない言語ほど WTC を高くもつ傾向があると話し、そのことは私にとって驚くべきことであり、WTC と習熟度の関係について再検討したいと考えた。

そこで本研究では大学生を対象としたアンケート調査を実施し、WTC と習熟度の関連及び WTC に影響を与える要因について調査を行う。この結果から、WTC を高める指導法・学習法について考察することを目的とする。

II. 先行研究

1. WTC とは

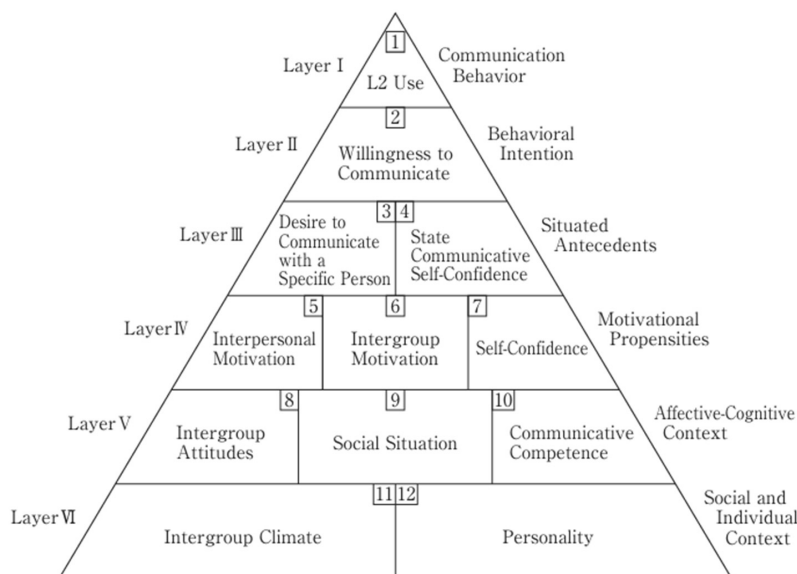
まず前提として、なぜ WTC を高める必要があるかということを述べておきたい。冒頭で述べた平成 30 年告示の高等学校学習指導要領により、外国語の授業形態がコミュニケーション中心に変化している。学習者によって WTC が異なるため、コミュニケーション中心の授業に好感を抱く学習者がいる一方で、WTC が低い学習者は授業についていけなくなる可能性が考

えられる。さらに、学習成功にはコミュニケーションが重要であるということが Rubin (1975) によって明らかにされている。そこで、より多くの学習者が学び続けられるようにするためには、いかにして WTC を高めることが出来るのか調査することが不可欠である。

また、Yashima (2002) によると、WTC が高い学習者は英語学習へのモチベーションが高く、このモチベーションが習熟度と L2 コミュニケーションの自信に影響を与えることが分かっており、WTC を高めることが英語学習成功の鍵を握っているということができるだろう。

MacIntyre et al. (1998) は WTC に関して概念モデルを提示した。この概念モデルにおいては、異文化間の接触動機や態度など社会状況の影響を受ける要因と、自信や性格などの個人差要因が複雑に合わさり、第 1 層の第二言語使用に影響を与えるプロセスを示そうとしたものである(詳細は図 1 参照)。第二言語コミュニケーションには、社会状況や個人など、第一言語でのコミュニケーションよりも多くの要因が複雑に影響していることをこのモデルはよく捉えている。このモデルの特徴は、上 3 層は状況に依存して変化しやすい要因と考えられている一方で、下 3 層は比較的安定した要因と考えられていることである。

図 1 : L2WTC モデル (MacIntyre et al., 1998)



第 1 層の L2 使用は、実際に第二言語を使用する段階である。例えば、英語を使ってネイティブスピーカーと会話をしたり、英語でプレゼンテーションしたりすることが該当する。本来は外国語の新聞を読むことやテレビの外国語放送を見ることも含まれるが、本研究ではスピーキング能力に焦点を当てるため、L2 使用も口頭コミュニケーション活動に限定して捉えること

とする。

第2層は、ある状況で第二言語を用いて、自発的にコミュニケーションを取ろうとする意思を指している。言い換えれば、コミュニケーションを始めようとする準備が出来た心理状態を意味する。

第3層には、WTC に直接影響する要因として、特定の相手とコミュニケーションを取ろうと思うかどうかということと、その状況でどの程度第二言語コミュニケーションに自信をもてるかどうかということが挙げられている。会話の相手が気の合った友人なのか初対面の人なのかといったことや、これまでに経験したことのない状況であることなどがその場での WTC に影響を与えると考えられる。

第4層から下は、比較的安定した項目と考えられている。(5) 対人接触動機は、特定の相手とコミュニケーションを取ろうとする動機に関する要因である。例えば、プロジェクトのチームメンバーと協力の必要性からコミュニケーションを取る場合と、純粋に友人になりたいという動機でコミュニケーションを取る場合では WTC が変化するだろう。(6) 対グループ接触動機は、異なる言語学習者と関わりたい気持ちや異なる文化に参加したいという気持ちに関連する要因である。異文化への興味からその文化圏の人々と交流したいと思いコミュニケーションを取る場合と、グループワークがあるから仕方なく異なる文化圏の人々とコミュニケーションを取る場合で WTC は変化するだろう。(7) 自信は、自身のコミュニケーション能力に対する認知や言語を使用することへの不安感を指している。自信を支える要因が、第5層のコミュニケーション・コンピテンスや第6層の性格と考えられている。

第5層は、(8) 対グループ態度、(9) 社会的状況、(10) コミュニカティブ・コンピテンスの3要素から構成されている。(9) 社会的状況は、コミュニケーションが行われる状況に関連する要因である。例えば、自分が置かれた状況が、国際交流が盛んなクラスなのか、あるいは異文化交流に興味がないクラスなのかということである。

第6層は、(11) グループ間の関係、(12) 性格の2要素で構成されている。(11) グループ間の関係は、学習者が属するグループと対象言語のグループの政治的関係や歴史的背景のことを指している。そしてこの要素は、(6) 対グループ接触動機と、(8) 対グループ態度と密接に関連していると考えられている。

上記のように、対グループ態度やグループ間の関係などの異文化コミュニケーションに関連する要因がモデルの左側に配置されている。一方で、モデルの右側には、性格や自信などの個人差要因が配置されていることが分かる。

2. WTC と習熟度

WTC と習熟度の関係性を調べた研究として Yashima (2002) がある。この研究は、297名の日本人英語学習者を対象に WTC に影響を与える要因を調査した研究である。この調査で WTC に影響を与える要因として調査されたのは、国際的志向性・モチベーション・習熟度である。

この研究の結果、国際的志向性と L2 コミュニケーション自信が WTC に強く影響を与えることは確認されたが、習熟度と WTC の間に相関は見られなかった。

また Matsuoka (2004) でも、WTC と習熟度に相関がないことが確認されている。この研究は、日本人英語学習者 32 名を対象に、どのような動機づけ要因が WTC や言語能力を規定するかを調査した研究である。調査の結果、WTC と英語力に相関はなく、英語に堪能な学習者でもコミュニケーションに対して消極的、つまり WTC の低い学習者は存在することが分かった。

一方、WTC と習熟度に相関があることを実証した研究もある。Alemi et al. (2011) はイラン人大学生 49 名を対象とし、教室内外の WTC と習熟度の関係を調査した。結果として、WTC と習熟度には相関が見られ、WTC が言語能力によって異なることが明らかにされた。WTC と習熟度に相関は見られたものの、驚くべきことに教室内の WTC と習熟度には正の相関、教室外の WTC と習熟度には負の相関が見られた。つまり、教室内においては習熟度の高い学習者の WTC が高く、教室外では習熟度の低い学習者の WTC が高いという結果だった。習熟度の高い学習者は教室内では教師のサポートを受けながら自信をもってコミュニケーションを取れるのに対し、教室外ではそのサポートが受けられなかったり、否定的な評価をされたりすることへの恐れを感じたためこのような結果となっている。対する習熟度の低い学習者に関しては、教室内では評価されることへの恐れから WTC が低く、教室外では評価されることへの恐れが少ないために WTC が教室内より高いという結果になっている。以上のように、この研究では WTC と習熟度に相関があることが分かっている。

このように、これまで WTC と習熟度の関係性は調査されてきたが、その結果には一貫性が見られない。調査結果に一貫性が見られない理由として、調査に用いた WTC や習熟度の尺度が異なるため一言で WTC や習熟度といっても、データにバラつきが見られる可能性がある。また、WTC は状況によって変化しやすく、学習者の心理的な状態を反映するため、習熟度のレベルがある程度共通していても同程度の WTC を常にもつとは限らず、そのために調査結果に一貫性が見られないといったことも考えられる。

そこで、本研究においては、WTC と習熟度に相関があるのかどうかを再度調査することを本研究の第 1 の目的とする。また、習熟度に焦点を当て、習熟度別に WTC に影響を与える要因が異なるのかどうかを調査した研究はこれまでにない。そこで、習熟度別に WTC に影響を与える要因を明らかにすることを本研究の第 2 の目的とする。

III. 研究方法

1. 研究課題

第 1 に、コミュニケーションを取ろうとする意思と習熟度の関連について検討する。さらに習熟度によって WTC に影響を与える要因が異なるのかどうか明らかにすることを本研究の第 2 の課題とする。

2. 調査協力者

本研究の調査協力者は、日本人大学生を対象とした。アンケート調査を行い、計 64 名から回答を得た。アンケート回答者の内 4 名は、本研究において必須の TOEIC スコアに関して回答がなかったため、分析の対象外とした。結果として、以下の分析では、男性 11 名、女性 48 名、その他 1 名の計 60 名の回答を分析対象とした。

3. 調査方法

本研究では質問紙、ならびにインタビューを用いた調査を実施した。質問紙の内容は、大きく 3 つのパートで構成されている。以下、それぞれについて説明する。

(1) 習熟度を測る質問紙

習熟度の指標として TOEIC のスコアを用いた。本研究の調査対象者からは大学入学以降に受験したスコアを回収している。なお、TOEIC スコアに関しては、公開テスト及び IP テストの両形式から収集したデータを区別せずに使用した。そのため、スコアに若干のばらつきが生じている可能性があることを断っておく。

(2) WTC を測る質問紙

Yashima (2009) および渡邊 (2017) を参考に、計 8 項目からなる「WTC 質問紙項目」を用いた。この質問紙は全 8 つの質問に回答することによって、英語で話すさまざまな状況において自ら進んでコミュニケーションを取ろうとする意思の度を測るものである。本研究では、複数の WTC を測る質問紙を検討した結果、信頼性及び回答のしやすさの観点から本質問紙を採用した。「1. 決して話さない」～「6. 常に話す」の 6 段階で回答を求めた。

(3) WTC に影響を与える要因を特定する質問紙

八島 (2003) を参考に、計 10 項目からなる「WTC に影響を与える要因を特定する質問紙」を作成した。この質問紙は前述した WTC ピラミッドモデルの第 3 層以下を説明し、それぞれの項目がどの程度、調査協力者の WTC に影響を与えているかを測るものである。「1. 全く当てはまらない」～「6. 非常に当てはまる」の 6 段階で回答を求めた。

なお、本研究では対象者の基本情報として学部や性別、留学経験、MBTI など複数の情報を収集したが、時間的な制約から一部のデータを本分析では使用しなかった。これらのデータに関しては、今後の研究において調査する必要がある。

4. 分析方法

本研究では、以下の手法を用いてデータ分析を行った。まず記述統計により、TOEIC の平均スコア及び、WTC の平均値と標準偏差を算出した。次に、第 1 の研究課題である、WTC と習熟度の相関を調査するために相関分析を実施した。さらに、第 2 の研究課題である、習熟度によって WTC に影響を与える要因が異なるのかどうかを検討するために、重回帰分析を用いて詳細な分析を行った。

IV. 結果と考察

1. 分析結果

(1) 調査に用いた各要因の記述統計量

まず、調査に用いた各要因に関して記述統計によって算出した値を示す。表 1 は、TOEIC スコアおよび WTC スコアについて、平均値、標準偏差、最小値、最大値をまとめたものである。

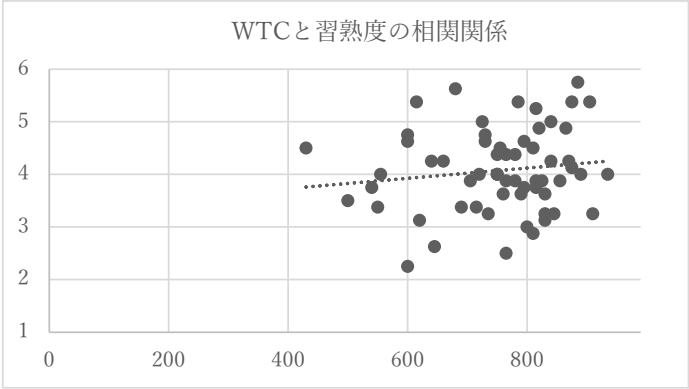
表 1: 各要因の記述統計量

	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TOEIC スコア	749.5	108.2	430	910
WTC スコア	4.07	0.80	2.25	5.75

(2) WTC と習熟度の関係

研究課題 1 を検証するため、WTC スコアと習熟度の指標とした TOEIC スコアについて、相関分析を行った。以下の図 2 は、相関分析の結果を示したものであり、TOEIC スコア（横軸）と WTC スコア（縦軸）の散布図に近似直線を重ねたものである。

図 2: WTC と習熟度の相関関係



散布図から、TOEIC スコアが高い対象者ほど WTC スコアが高い傾向があることが確認され、TOEIC スコアと WTC には正の相関があると考えられる。しかし、近似直線に対してデータのバラつきが大きいことから相関は弱いものである可能性が高い。そこで、相関係数を求めたところ、 $r=0.13$ と正の相関を示しているものの、その相関は極めて弱いものであると認められる。この結果により、習熟度は WTC に直接的な影響を与えるものではないと考えられる。相関が弱い理由として、WTC が状況に応じて変化しやすいという特性をもつことが挙げられる。具体的には、WTC は会話の相手や会話の状況、さらには心理的要因など多くの要素に左右されやすい。これにより、習熟度が高いからといって必ず WTC が高くなる、あるいは習熟度が低いからといって必ず WTC が低くなるといった明確な相関関係を見出すことは難しかったと考えられる。

WTC に関する質問項目を見ると、習熟度の高い学習者、習熟度が低い学習者は共通して以下の質問項目で高い WTC を示した（表 2）。この結果から、WTC は習熟度に関係なく、特定の状況下で一貫して高くなったり低くなったりする傾向にあることが分かった。なお、本研究では、習熟度の高い群と低い群の分類を行う際に、回収した TOEIC スコアの中央値を基準に振り分けを行った。具体的には、TOEIC スコアが中央値を超える 30 名を習熟度の高い上位群とし、中央値を下回る 30 名を習熟度の低い下位群とした。

表 2：WTC が高い質問項目

質問項目	TOEIC 上位群の平均値	TOEIC 下位群の平均値
英語の授業中のグループ ディスカッションのとき	4.70	4.53
列に並んでいて 友達が前にいたとき	4.93	4.83
友人のグループで 討論するとき	4.80	4.55

以上の項目を見ると、会話の相手が知り合いや友人の場合や、会話が少人数で行われる場合に比較的 WTC を高くもつ学習者が多いと推察される。これらの状況では、学習者は心理的な安心感を得やすく不安や緊張が軽減されることが WTC を促進する要因になっていると考えられる。

一方で、対象者が低い WTC を示した項目は以下の通りである。

表 3：WTC が低い質問項目

質問項目	TOEIC 上位群の平均値	TOEIC 下位群の平均値
大勢の前でスピーチする	3.46	3.36

機会があるとき		
英語の授業中に自由に 発言する機会があるとき	3.30	3.31
英語のクラスで前に出て 話す機会があるとき	3.76	3.78

以上の項目を見ると、不特定多数の前に立ったり、注目が集まったりするような状況、すなわち人前で英語を使って発言するというプレッシャーのかかる状況下では WTC は低くなる傾向があると推測される。

これらの結果から、WTC は状況や会話の相手によって変化しやすいということが再確認できた。WTC に影響を与える要因をより詳細に調査するために行ったアンケートの分析結果を次に示す。

(3) 習熟度別の WTC に影響を与える要因

研究課題 2 を検証するために、WTC に影響を与える要因に関する質問項目を分析した。習熟度別に分析を進めるため、TOEIC スコアの中央値を基準に 30 名ずつに対象者を分類したことを断っておく。ここでは、従属変数を WTC、独立変数を WTC に影響を与える要因 10 個に設定し、重回帰分析を実施した。

まず TOEIC スコアの上位群、つまり習熟度が高い学習者について結果を報告する。重回帰分析の結果、モデル全体の説明力は有意であり、決定係数は $R^2=0.54$ であった。この値は、独立変数が従属変数の変動を 54%説明することを示している。各独立変数の結果から、比較的強い正の相関が見られると考えられるものを以下の表に示した。

表 4：重回帰分析の結果（上位群）

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数
対人接触動機	0.14	0.14	0.25
対グループ態度	0.09	0.17	0.17
社会的状況	0.27	0.14	0.33

この結果は、対人接触動機や対グループの態度、さらには社会的状況の認知が WTC の変動において重要な役割を果たすことを示唆している。対人接触動機とは特定の相手とコミュニケーションを行う動機に関する項目であり、授業での必要性からといった理由や親しくなりたいといった理由が考えられる。先に述べた、WTC が高い質問項目の中に英語の授業中のグループディスカッションという状況があったことから、協力が求められる場面では比較的 WTC は高

まりやすいのではないかと推測できる。また、特に高い係数を示したその場の社会的状況の認知に関しては、英語を話すときどのような状況に置かれているかということを示しており、やはり WTC が状況によって大きく変動するものであることを再確認できる結果となった。

次に TOEIC スコアの下位群、つまり習熟度が低い学習者について結果を報告する。重回帰分析の結果、モデル全体の決定係数は $R^2=0.21$ であった。この値は独立変数が従属変数の変動を 21%説明することを示している。本研究では、先に説明した WTC ピラミッドモデルに含まれる 10 個の要因を独立変数として採用したが、WTC に影響を与えるその他の要因が含まれていない可能性がある。そのため、本モデルでは WTC の変動についての説明力が限定されたと考えられる。上位群と同様に、各独立変数の結果から比較的正の相関が強いと考えられるものを以下の表にまとめた。

表 5：重回帰分析の結果（下位群）

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数
その場でのコミュニケーションの自信	0.09	0.19	0.14
対人接触動機	0.17	0.24	0.22
自信	0.17	0.25	0.24

上記の結果は、その場でのコミュニケーションの自信、対人接触動機、自信が WTC の変動に強く影響を与えていることを示唆している。その場でのコミュニケーションの自信は、環境による英語を話すことへの自信が WTC に影響を与えるかどうかということを示している。具体的には、授業内などいつも英語を話す環境と公なスピーチなど初めて経験する場面で英語を使う場面それぞれでのコミュニケーションの自信の相違が WTC に影響を与えるかどうかということである。一方で自信は、状況に左右されない英語を話すこと自体への自信を示している。特徴的なのは、自信に関する項目が揃って上位に挙げられていることである。このことから、習熟度が低い学習者にとっては、英語を話すときに自信をもつことが出来るかどうか WTC に非常に強く影響を与えと考えられる。

上位群と下位群を比較すると、対人接触動機という項目に関してはどちらも WTC に強く影響を与えるようだが、その他の項目については異なるものが挙げられた。上位群に関しては、対グループの態度や社会的状況の認知が重要な要因と考えられる。一方で下位群については、その場でのコミュニケーションの自信や単純に英語を話すことへの自信などが重要な要因と推測される。

2. 調査結果を踏まえた学習法・指導法提案

上記のような質問紙調査の結果及び分析を踏まえ、学習者の WTC を高めるための学習法・指導法の提案を行う。本調査においては、習熟度に関わらず学習者の WTC が一貫して低くなりやすい状況が存在することが明らかになったため、まずそのような状況下ではどのようなアプローチが必要かを検討する。さらに分かったこととして、習熟度の高い上位群と習熟度の低い下位群で WTC に影響を与える要因が異なっていたため、その点を考慮し、それぞれのグループに対するアプローチを提案する。

まず、習熟度に関係なく、学習者の WTC が低くなりやすい状況に対するアプローチを検討する。始めに、WTC が低くなりやすい状況及び高まりやすい状況それぞれの特徴をまとめる。WTC が低くなりやすい状況としては、「大勢の前でスピーチする機会があるとき」「英語の授業中に自由に発言する機会があるとき」「英語のクラスで前に出て話す機会があるとき」が挙げられた。これらの状況に共通して言えることは、人前で英語を使って発言するというプレッシャーが大きい状況であるということである。他者からの評価が気になって他人と比較してしまったり、不特定多数の前に晒されたりして心理的負担が大きいという点で共通している。一方、WTC が高まりやすい状況としては、「英語の授業中のグループディスカッションのとき」「列に並んでいて友達が前にいたとき」「友人のグループで討論するとき」が挙げられる。これらの状況の特徴は、友人やクラスメイトなどの知り合いと話す状況で、自然と発言が求められるという点である。気の知れた人々との交流という点やスピーチなどと比較すると、小規模な点で比較的安心して発言できると推測できる。一方的な発話ではなく、相互の発言が求められるという点からは、ある程度強制的に発言が求められる状況であるとも捉えることができる。

WTC が高まりやすい状況と低くなりやすい状況を比較し、WTC を高めるために必要と考えられる要素は心理的安全性の確保である。話し相手が誰であろうとリラックスして発言できる心理状態やその場の状況作り、さらには失敗を許容する雰囲気作りが重要であると考えられる。では、具体的な学習法及び指導法の提案に移る。学習法としては、どのような場面でも安心して話すための基盤として準備の段階的な取り組みが効果的であると考えられる。具体的には以下のような方法がある。スピーチが課せられたとしたら、まずは個人で繰り返し練習をし、その後ペアでフィードバックを行う。さらに少人数のグループでリハーサルをし、最後には大勢の前でスピーチを披露するといったように徐々に規模を広げていくことで自信をつけながら最後のスピーチに挑むことができると期待される。加えて、指導法としては積極的にペアワークを取り入れ協力を促すことにより、1 人でやらなければならないという孤立感や不安感を軽減したり、学習者のミスに対してポジティブなフィードバックをすることで失敗が悪いことではない、失敗は成功の一環であるという認識を持たせたりすることが有効であると推測できる。

次に、習熟度の高い上位群と習熟度の低い下位群で WTC に影響を与える要因が異なっていたため、それぞれのグループの学習者が WTC を高める方法を検討する。

上位群について特徴的なのは、社会的状況にかなり WTC が影響を受けるという点である。社会的状況とは例えば、学習者の置かれた状況が、国際交流が盛んなクラスで英語によるコミ

コミュニケーションを取る場合は WTC が高まりやすいが、異文化交流に興味のないクラスで英語によるコミュニケーションを取る場合では WTC が低下する可能性が高いことを示している。社会的状況に強く影響を受ける上位群の学習者に対しては、交流を促し、モチベーションを高める学習環境の創造が重要であると考えられる。先述した、WTC が高まりやすい状況の中に相互の発言が求められるという項目があり、学習者同士の交流を促すことは WTC を高めることに効果があると推測される。具体的には、ペアワークを取り入れることで自然に会話への参加を促すことが可能である。また、モチベーションを高めるためには学習者の興味をひくトピックを採用したり、英語が役立つ状況をイメージさせて学習への積極性を高めたりすることが有効であると考えられる。

一方下位群は、自信に関する項目が WTC に影響を与えやすいことが顕著である。ここで示す自信とは、そもそも英語を話すことに関する自信と、状況によって変動する自信の2つである。英語を話すことへの自信は、成功体験を重ねることで実現可能だと考えられる。授業にしても自主学習にしても、簡単なタスクから始め達成感を感じさせることが重要である。そして小さな成功体験から徐々に自信をつけ、結果的に WTC を高めることにつながると推測できる。また、状況によって変動する自信をもたせるためには、心理的安全性の確保が重要である。そこでポジティブフィードバックの活用が有効であると考えられる。学習者は自分自身を振り返って改善する点のみではなく、良かった点も言語化することで自ら自信をつけることが出来る。また、指導者の観点では、学習者にポジティブなフィードバックを与えることで、ここでは安心して発言ができるという印象を学習者に与えることができ、学習者はその状況での自信を獲得できると言えるだろう。

これらの取り組みにより、学習者の WTC を高め積極的なコミュニケーションへの参加を促進できると考えられる。

V. 今後の課題

これまでの調査結果を踏まえ、今後の課題について3点述べる。

始めに、本調査ではアンケート回答が60名と調査対象が少なく、回答者は国際系の学部に所属する女性に偏っていた。また、TOEICの点数に関しては公開テストとIPを分類していないため、スコアに若干のバラつきが見られる可能性があり、分析結果が真意を表現し得るものなのか疑問が残る。さらに幅広い範囲の学習者から多くの回答を集め、同様の調査を行った場合に今回とは異なる結果が得られる可能性は十分にあり、結果の一般化が今後の課題であると考えられる。

また、本調査では分析に至っていない項目が残っており、さらなる分析の余地がある。例えば、アンケート項目の中に含まれていたMBTIがWTCにどのような影響を与えるのか、WTCに影響を与える要因としてピラミッドに含まれていない要因はどのように関与しているのか

などがある。これらについても調査を進めることで、より学習者や指導者によって有益な WTC を高める方法を提供できる可能性がある。

さらに、今後の調査では、より客観的なデータから分析することが望ましいと考えられる。今回の調査では、WTC に影響を与える要因を調査する際に、アンケートを用い学習者自身の主観で判断をしてもらった。そのため、学習者自身の主観と実際の行動にズレが生じている可能性があり、結果の信憑性が担保されているかどうかは不透明である。例えば、教室内の観察を通して、学習者の WTC が何に影響を受けて変動しているかを調査することで、より精度の高い結果を得られるだろう。

以上より、本調査では対象やデータのばらつき、主観的判断の影響といった課題がある一方で、今後さらに幅広い分析を進めることで、より信頼性が高い WTC を向上させる方法を明らかにできる可能性が示唆された。

VI. おわりに

英語学習の成功にあたり、コミュニケーションが重要視されていることは言うまでもない。本研究では、WTC と習熟度の相関について、さらには WTC に影響を与える要因についてアンケート調査を行い分析した。分析の結果、WTC と習熟度にはほとんど相関がなく、しかし習熟度に関わらず WTC が高まりやすい状況を明らかにすることができた。また、WTC に影響を与える要因については習熟度に関わらず影響を与えやすい要因と、習熟度によって異なる項目も発見された。これらの結果から、心理的安全性は WTC を高めるための 1 つのキーワードであると言えるだろう。そして、本研究から得られた WTC を高めるための学習法・指導法が今後の英語コミュニケーション教育のさらなる発展のための一助になれば幸いである。

参考文献

- Alemi, M., Daftarfard, P., & Pashmforoosh, R. (2011). The impact of language anxiety and language proficiency on WTC in EFL context. *Cross-Cultural Communication*, 7(3), 150-166.
- MacIntyre, P. D., Clément, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. A. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *The Modern Language Journal*, 82(4), 545-562.
- Matsuoka, R. (2004). Willingness to communicate in English among Japanese college students. *Proceedings of the 9th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, Namseoul University, Korea, pp. 165-176.
- Rubin, J. (1975). What the "good language learner" can teach us. *TESOL quarterly*, 9(1), 41-51.
- Yashima, T. (2002). Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context. *The*

Modern Language Journal, 86(1), 54-66.

- Yashima, T. (2009). International posture and the ideal L2 self in the Japanese EFL context. In Z. Dörnyei, & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self* (pp. 144-163). Multilingual Matters.
- 文部科学省. (2018). 「高等学校学習指導要領解説【外国語編 英語編】」文部科学省.
- 八島智子. (2003). 第二言語コミュニケーションと情意要因: 「言語使用不安」と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」についての考察. *関西大学外国語教育研究*, 5, 81-93.
- 八島智子. (2004). 『外国語コミュニケーションの情意と動機』大阪: 関西大学出版部.
- 渡邊万里子. (2017). 日本人英語学習者の Willingness to Communicate とコミュニケーション活動における伝達内容. *中部地区英語教育学会紀要*, 46, 71-78.

謝辞

最後に、本論文の作成にあたり、ご指導いただきました明治大学国際日本学部廣森友人教授、助言をいただきました廣森ゼミナール大学院生の皆様、学部 10 期生の皆様、アンケート調査にご協力いただきました学生の皆様に心より御礼申し上げます。

付録：調査で用いた質問項目

パート 1：基本情報

①氏名 ②学部 ③学年 ④性別 ⑤連絡先

以下の TOEIC スコアは、大学入学以降に受験したものでハイスコアを教えてください。

⑥トータルスコア ⑦リーディングスコア ⑧リスニングスコア ⑨ライティングスコア
⑩スピーキングスコア

⑪英検、TOEFL など保有している英語資格及び受験時期 ⑫留学経験（ある場合は留学時期、期間、国）⑬MBTI

パート 2：WTC を測る質問

次に示すような英語で話す状況でコミュニケーションをするかしないかは全くあなたの自由だと仮定してください。それぞれの状況において下記の 1 から 6 の中からもっとも自分に当てはまるものを選んでください。

1：決して話さない 2：めったに話さない 3：あまり話さない 4：ときどき話す 5：たいてい話す
6：常に話す

① 大勢の前でスピーチする機会があるとき	② 列に並んでいて知り合いが前にいたとき
③ 英語の授業中のグループディスカッションのとき	④ 初めて会う人のグループで話す機会があったとき
⑤ 英語の授業中に自由に発言する機会があるとき	⑥ 列に並んでいて友達が前にいたとき
⑦ 英語のクラスで前に出て話す機会があるとき	⑧ 友人のグループで議論するとき

パート３：WTC に影響を与える要因に関する質問

WTC（特定の状況でコミュニケーションを取ろうとする意思、またその準備ができた状態を指します）に影響を与えると考えられている項目が以下に 10 項目あります。あなた自身の WTC にはどの程度影響を与えているか 1 から 6 のうちもっとも当てはまるものを選んでください。

1：全く当てはまらない 2：どちらかと言えば当てはまらない 3：あまり当てはまらない

4：どちらかと言えば当てはまる 5：やや当てはまる 6：非常に当てはまる

① 特定の相手とコミュニケーションをする意思	② その場でのコミュニケーションの自信
③ 対人接触動機	④ 対グループ接触動機
⑤ 自信	⑥ 対グループへの態度
⑦ その場の社会的状況の認知	⑧ コミュニカティブ・コンピテンス
⑨ グループ間の関係	⑩ 性格

「推しコンテンツ」が第二言語学習の動機づけに
与える影響：ケーススタディを通じた考察

The Influence of “Favorite Content” on Motivation for Second
Language Learning: A Case Study

明治大学 国際日本学部

滝川 くるみ

Meiji University School of Global Japanese Studies

TAKIKAWA Kurumi

目 次

I. はじめに

II. 先行研究

III. 研究方法

1. 研究課題

2. 調査協力者

3. 調査方法

(1) 選択式アンケート調査

(2) アイスブレイク

(3) 半構造化インタビュー，または記述式アンケート

4. 手続き

IV. 結果と考察

1. A, B 各グループにおける L2MSS の各因子の平均値と標準偏差

2. A グループ内の L2MSS 因子について

3. 半構造化インタビュー，または記述式アンケート

V. 今後の課題

VI. おわりに

参考文献

付録 1: 選択式アンケート内容

付録 2: インタビュー調査，または記述式アンケート内容

謝辞

I. はじめに

本研究では、英語以外の第二言語学習者における、第二言語動機づけ自己システム（L2 Motivational Self System, 以下 L2MSS）、特に L2 理想自己の形成や促進の要因としての「推しコンテンツ」について調査する。三省堂国語辞典第八版によれば、「推し」とは〈自分がファンである人・もの〉である。この定義に基づき、本研究における「推しコンテンツ」を、人物だけでなくひとつの作品や楽曲、またそれ以上に漠然とした「映画」「アイドル」といったジャンルを総合した概念とする。本研究では、「推しコンテンツ」に関連付け、好きな物事と言語学習が繋がっていることから得られる動機づけとはどのようなものか解明したい。なお、本来であれば、第二言語とは日本語母語話者にとって外国語と見なせるもの、つまり英語を含めた日本語以外の言語すべてを指すが、自発的に学習する第二言語の動機づけについて調査を行うという本研究の特性上、日本語と英語以外のすべての言語とする。

II. 先行研究

L2MSS 研究は数多くなされてきた。L2MSS は可能自己（possible selves）と未来へのガイドとしての自己（future self-guides）の関連に関する研究から生まれた概念である（Dörnyei, 2009）。この可能自己とは、ある人が現在の自分をいかに捉えるかということだ。Markus and Nurius（1986）は可能自己を（a）なるかもしれない自己、（b）なりたい自己、（c）なってしまうことを恐れる自己の 3 つに分類し、それとは別に、他人の目線からみた自己イメージである、あるべき自己のイメージをもつとした。Dörnyei（2009）によれば、動機づけとは実際の自分と、自分のなりたい理想の自己、または他人の目線からのあるべき自己の間にある乖離を縮めるために生まれるものであり、同研究ではこの Markus and Nurius（1986）の研究をもとに、以下の 3 つの要素からなる L2MSS を理論づけた（表 1）。

表 1: Dörnyei（2009）による L2MSS

1. L2 理想自己（Ideal L2 Self）

自分になりたいと思う人物像が L2 話者であるとき、現実の自分と理想の自分の不一致を減らしたいという願望のもと L2 を学ぶ強力な動機づけを得るという考え。

2. L2 義務自己（Ought-to L2 Self）

期待に応え、起こり得る否定的な結果を避けるために自分が L2 を話せるべきだという考えから、L2 を学習するという立場。

3. L2 学習経験（L2 Learning Experience）

教師の影響やカリキュラム、仲間からの影響、成功体験など現在の学習環境や経験から L2 を学習する動機を得ている学習者の立場。

この L2MSS について、Taguchi et al. (2009) は日本人、中国人、イラン人の英語学習についてその動機づけを調査した。「L2 学習への意図的な努力」「L2 理想自己」「L2 義務自己」「家族の積極的/消極的な影響力」「道具的動機－積極的（より良い仕事のために高い英語力を身に付けるなど、成功するための個人的な目標を設定すること）」「道具的動機－消極的（試験に合格するために英語を勉強するなど自らに規制をかけること）」「英語学習に向けた態度」「文化への興味」「L2 コミュニティに向けた態度」「統合への意識」の 10 因子について調査を行った。結果、積極的な道具的動機があるほど L2 理想自己を持ちやすく、意欲的に英語学習に取り組むことが分かった。対して、日本人は仕事を得るために英語を学習する必要があると考えているが、ただ就職する際に好ましいといわれる条件の一つに考えられているだけで、英語を使って成功を収めることは目的としていないとした。

この L2MSS について原（2022）は、学習者は学習言語の話者としての具体的な理想を超えた深層に、個人的な価値観に沿った抽象的な理想の自己像を抱いており、それが言語学習動機の根本ではないかとの仮説を立て、勤務する大学にて中上級日本語クラスに在籍したモンゴル人留学生 J に対してインタビュー調査を行った。当初 J は日本語を学ぶ理由として「日本にいるモンゴル人の役に立ちたい」と述べた。しかし、インタビュー内において、J は以前から性自認について悩んできたと話し、日本の漫画にみられる日本社会の性的少数者の受け入れられ方が母国モンゴルよりも寛容であることから、日本でなら自分自身でいられる、自由に生きられると話した。ここにおいて、当初の J の理想自己ともとれる動機はむしろ義務自己的で、J の L2 理想自己は自由で自分自身でいられることである。

原（2022）から示唆されるように、L2 理想自己には学習者のそれまでの経験と当時学習者が置かれていた社会的、個人的な状況や心境が関係しているのではないかと考えられる。このような研究は原（2022）以外に例がなく、日本人の外国語学習者について研究を行ったものもない。日本人の第二言語学習についての研究は英語に関してのものが多く、学校で学ぶ言語という文脈が存在するため、英語ではなぜ学習しているのかという理由に乏しい。

そこで、英語以外の第二言語を学習する日本人について、要因に「推しコンテンツ」が絡んでいると仮説を立てたい。本研究では、第二言語学習の動機づけを、そのような推しコンテンツからどのように見いだしているのかについて検討する。

III. 研究方法

1. 研究課題

推しコンテンツをきっかけに言語学習を開始した学習者は、どのような L2MSS を持っているか検討する。

2. 調査協力者

本研究に参加したのは、英語以外の第二言語の学習経験があり、その言語に推しコンテンツのある 7 名（以下 A グループ）に加え、学習経験はあるが推しコンテンツのない 7 名（以下 B グループ）、計 14 名だ。参加者はいずれも 20 代前半であった。

3. 調査方法

A グループには、以下 (1) (2) (3) の調査を行う。B グループには (1) のみ実施する。

(1) 選択式アンケート調査

参加者の言語学習への動機づけの要因やその強度について調査する。Taguchi et al. (2009) の調査紙を参考に、各問について 1（まったくあてはまらない）から 6（よくあてはまる）のうち一つの選択肢を選ばせる 6 件法のアンケートを行う。ただし、参加者について、推しコンテンツの影響からの言語学習は周囲の強制で開始されたものでないことや、参加者が必ずしも教室に通うなどして第二言語学習をしているわけではないことから、L2 義務自己や L2 学習経験についての設問は削除する。以降、L2MSS のそれぞれの因子を、(a) L2 学習への意図的な努力、(b) L2 理想自己、(c) 道具的動機－積極的、(d) 道具的動機－消極的、(e) L2 学習に向けた態度、(f) L2 コミュニティに向けた態度、(g) 統合への意識といったように記号を用いて表す。加えてその第二言語の習熟度として当てはまると思うものを自己申告してもらい、習熟度と動機づけの関連についても調査する。このアンケート調査は、B グループの参加者にも実施する。分析の観点を表 2 に示す。

表 2: 選択式アンケート調査の分析観点

・各設問の選択肢 6 つのうち、1 を 1 点、6 を 6 点とし（反転項目は 1 を 6 点、6 を 1 点とする）、因子ごとに平均点を出す。A、B 各グループについて、どの因子が最も強いと考えられるか。特に L2 理想自己について、各グループで違いはあるか。 ・A グループの参加者それぞれについて、L2MSS の因子の中でどの因子が最も強いと考えられるか。また、その因子は A グループの参加者全体で共通しているか。 ・L2MSS の因子の中で相関関係があると考えられるものはあるか。また、習熟度と L2MSS との間に関連はあるか。

(2) アイスブレイク

先述の原（2022）は、授業内で「私の一番の価値」と題して以下のようなスピーチ課題を行わせていた。

この活動は、まず学習者に以下のような質問を記した紙を配付することから始めた。

- ① あなたにとって、一番の価値は何か。どうしてそれが大切か。
- ② あなたが一番好きなものと、あなたの一番の価値は、どんな関係があるか。
- ③ あなたはどうして日本に来たか。それは、あなたの一番の価値と、あなたが一番好

きなことと、どんな関係があるか。

学習者は、事前にこの質問に対する答えを質問紙に書き込んでおき、当日はそれに基づいてクラスでスピーチすることとした。

以上について、本研究でもインタビュー冒頭で質問するものとする。ただし、③の「あなたはどのようにして日本に来たか」については、「あなたはどのようにして英語以外の言語を勉強し始めたのか」に差し替える。また、事前に与えられた質問という点でスピーチ課題と条件を同じにするため、アイスブレイクで何を尋ねるかに関しては事前に伝えることとする。

(3) 半構造化インタビュー調査、または記述式アンケート調査

参加者に対して、推しコンテンツと自らの関わり、言語学習と自らの関わりなど、参加者自身の体験を中心とした半構造化インタビュー調査を実施する。時間の都合がつかない参加者に対しては、記述式アンケートを実施した。分析の観点を以下の表 3 に示す。なお、本研究において、L2 理想自己とロールモデル的人物は異なる概念であると定義する。L2 理想自己は Dörnyei (2009) にならい、L2 話者としての理想の自分とする。本研究における推しコンテンツは明確な人物としての「推し」よりも曖昧で形のない概念であるため、その推しコンテンツに登場する明確な人物像をロールモデル的人物にとらえ、必要に応じて L2 理想自己と同一であるかについて議論する。

表 3: 半構造化インタビューの分析観点

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・参加者が言語学習を通じてになりたい姿をどのように描いているか。それは、推しコンテンツとどのような関わりを持っているか。・参加者の言語学習に大きな影響を与えたロールモデル的人物は存在するのか。・原 (2022) のモンゴル人日本語学習者 J のように、学習開始時期や推しコンテンツに出会った時期などに、参加者は身の回りで何か悩んでいたことや気になっていたことがあるか。推しコンテンツはそれを解消するような存在だったのか。・複数の参加者から共通して聞かれた発言はあるか。 |
|---|

4. 手続き

調査の大まかな方法について、以下の表 4 に示す。

表 4: A, B 両グループの調査内容と時期

時期	A グループ	B グループ
10 月中旬から下旬	参加者募集 選択式アンケート実施	
10 月下旬から 11 月上旬	半構造化インタビュー または記述式アンケート実施	
11 月中旬から下旬		参加者募集

		選択式アンケート実施

IV. 結果と考察

1. A, B 各グループにおける L2MSS の各因子の平均値と標準偏差

表 5 は A, B 両グループにおける各因子の平均値 (M) と標準偏差 (SD), 加えて Cronbach の信頼性係数 (α) を表したものである。信頼性係数 (α) は $0.6 < \alpha < 1$ で許容とされているため, それを大きく下回る (d) 道具的動機—消極的については排除する。(d) を除いた全体平均からは, A グループのほうが L2 学習における動機づけが高いようにみえる。しかし, (b) L2 理想自己について, t 検定を用いると $t=2.04$, $p=.07$ ($p<.05$ で有意) であることから, A, B 両グループにおける L2 理想自己の平均点の差は有意でない。ここから, 少なくとも, 推しコンテンツがあることは L2 理想自己が強いことを表すわけではないことがわかる。

表 5: A, B 各グループにおける L2MSS 各因子の平均値, 標準偏差及び信頼性係数 (α)

	α	A グループ		B グループ	
		M	SD	M	SD
全体 ※ (d) を除く		4.07	1.61	3.71	1.62
(a) L2 学習への意図的な努力	.64	3.86	1.38	3.36	1.39
(b) L2 理想自己	.72	3.54	1.50	2.66	1.37
(c) 道具的動機—積極的	.66	2.94	1.60	3.57	1.68
(d) 道具的動機—消極的	.32	2.50	1.55	2.14	1.51
(e) L2 学習に向けた態度	.91	5.29	1.22	4.86	1.25
(f) L2 コミュニティに向けた態度	.72	5.11	1.01	4.54	1.30
(g) 統合への意識	.73	4.95	1.05	4.29	1.48

2. A グループ内の L2MSS 因子について

表 6 は, A グループの各参加者について, L2MSS の因子に対する回答の平均や学習言語の話される国 (以下 L2 語圏) への渡航経験, 習熟度などをまとめたものである。アンケートへの回答があった順に I1, I2, I3, …と番号をふった。

各参加者内で平均を比較した際, その数値が高かった因子を見ると, 平均が高かった参加者が多い因子は, (e) L2 学習に向けた態度, (f) L2 コミュニティに向けた態度であった。L2 理想自己が最も高い参加者はいなかったもので, 推しコンテンツがあると L2 理想自己の形成が促進されるという事実はないようだ。また, 推しコンテンツが制作された国のコミュニティに向けた態度が寛容であるようだ。

表 6: A グループ各参加者の回答の因子別平均, 渡航経験, 習熟度など

	I1	I2	I3	I4	I5	I6	I7

L2 語圏への 渡航経験	なし	なし	あり	なし	あり	あり	あり
習熟度	中級	初中級	初中級	初級	初級	初級	初中級
(a)	4.25	2.00	3.25	5.00	3.75	4.50	4.25
(b)	3.80	1.60	4.00	3.80	3.60	4.20	3.80
(c)	2.40	1.80	1.60	2.60	3.40	4.80	4.00
(e)	6.00	2.50	6.00	6.00	5.50	5.50	5.50
(f)	5.50	3.75	6.00	5.00	6.00	4.25	5.25
(g)	5.67	3.67	5.67	5.33	5.67	3.67	5.00

両グループ参加者について、Pearson の相関係数を用いて、各因子間や習熟度と各因子の相関を示す表 7 を作成した。習熟度に関しては、「基礎」「初級」「初中級」「中級」「中上級以上」の 5 つを選択肢としていたため、基礎を 1、中上級以上を 5 として点数化している。

参加者は自らが L2 学習において努力していると思うほど L2 理想自己を持つ傾向にあり、それが学習の様子にも現れていること、また、L2 語圏への興味関心が高いほどそのコミュニティに参加したい、統合されたいと思う度合いが高いことが示唆される。習熟度と最も強い相関にあったのは (g) 統合への意識であり、学習が進むにつれて L2 語圏のコミュニティに入りたいという意識が生まれてくることがわかる。

表 7: 習熟度を含む L2MSS 因子の相関

	習熟度	(a)	(b)	(c)	(e)	(f)	(g)
習熟度	—						
(a)	.18	—					
(b)	.37	.71**	—				
(c)	-.18	.39	.34	—			
(e)	.24	.71**	.44	.12	—		
(f)	.45	.47	.52	.02	.76**	—	
(g)	.53*	.40	.51	-.04	.66**	.91**	—

注: *は 5%水準で有意, **は 1%水準で有意を表す。

3. 半構造化インタビュー、または記述式アンケート

III. 3. (2) に示した通り、アンケートを踏まえつつ、以下の (1) から (4) の観点から内容を分析する。なお、15、16 の 2 名に関しては記述式アンケートによる回答である。

(1) 参加者が言語学習を通じてなりたい姿をどのように描いているか。

「(そういう人に) なりたい」と明言していた参加者は I1, I3, I7 の 3 名だった。

I1 は twice, NiziU などのアイドルグループを推しコンテンツとして韓国語を学習している。中でも NiziU について、このグループは日本人で構成されているものの、2023 年に韓国でデビューし、現在ほぼすべてのコンテンツが韓国語で配信されているという。I1 は、

「自分と同年とか年下の子たちが一生懸命頑張ってるのを見て、私もそうなると思う」「努力してそれだけ違う国で活躍できるって本当に尊敬できる」と発言している。これは (c) 道具的動機—積極的のような動機づけだが、I1 の (b) L2 理想自己と (c) の平均値は 4 (あてはまる) を超えていない。そのため、I1 はアイドルグループを推しコンテンツとしながらも、それほど第二言語学習の動機づけに繋がられてはいないようだ。

I3 は映画の「アナと雪の女王」を推しコンテンツとしてノルウェー語を学習している。「外国語喋れるってかっこいいと思ってて、そのかっこいい自分になりたい」と話した。しかし、I3 も (b) よりも (e) L2 学習に向けた態度や (f) L2 コミュニティに向けた態度の平均値が高いため、発言ほど L2 理想自己による影響は強くない。

I7 は韓国ドラマを推しコンテンツとして韓国語を学習している。「たまに日本の女優さんとかが出てたりすると、もちろん韓国語もできますし、偉いな、そういう風になりたいなって」と発言した。I7 についても、(b) が L2MSS 因子の中で最も低い数値であるため、発言ほど L2 理想自己が動機づけと関連づいていないようだ。

(2) 参加者の言語学習に大きな影響を与えたロールモデル的人物は存在するのか。

I1, I3, I4, I6, I7 にはロールモデル的人物が存在すると考えられる。

I1 は韓国語学習を開始した理由について、「この人たち [NiziU] が韓国でデビューするようなときは、私も最初からコンテンツをちゃんと追えるように」「同じ日本人だしスタートは一緒」と述べている。ここにおいて、これから韓国語を習得するであろうアイドルをロールモデル的存在としてよいのではないかと考えられる。

I3 については、「アナと雪の女王」を推しコンテンツとし始めた当時について、「みんなと、うがった見方じゃないけど、違ったやり方したい、みたいな。」「小学生男子でディズニープリンセスハマるって結構キモくね？って思ってて」「自分の好きな物を隠す自分と氷の力を持ってるエルサを重ねたりして」と語っている。言語学習を開始した時期もこの当時であるため、I3 にとってエルサはロールモデル的存在であると考えられる。

I4 はカナダ人やフランス人の Vtuber (バーチャル YouTuber の略。動画配信サービスにてキャラクターを演じながら動画を配信する人のこと) を推しコンテンツとし、学習を開始した。「その人が楽しんでいる様子とか、(中略) ファンにもフランス語圏の人いっぱいいるから、楽しく見てコメントしたりしてる様子もフランス語分かった方がより感じられる」と話した。I4 にとっては視聴者を含めて推しコンテンツであり、一視聴者として日仏両語で配信を楽しむ自分を L2 理想自己としている可能性がある。ここにおいて、ロールモデル的人物は、フランス語話者の視聴者であると考えられる。

I6 の推しコンテンツは、韓国アイドルの出演するテレビ番組「Run BTS」である。学習を開始した理由として、「何で推しの言葉を理解できないんだろうっていう疑問と不満から勉強し始めた」と回答していることから、ロールモデル的人物として出演者である BTS

がいることは確かだが、L2 理想自己は視聴者としての自分だと推察される。

I7 は (1) より、韓国ドラマに出演する日本人俳優たちが韓国語学習に強い影響を与えたロールモデルの人物である可能性は低い。実際、I7 は韓国語学習を始めたきっかけについて、「大 1 のときに韓国語の授業取りたかったんですけど、でも必修とかぶってて取れなかったんで、代わりに自分でやろうって」と話した。日本人俳優への憧れの影響は、多少あるかもしれないが、I7 の L2 理想自己は視聴者としての自身ではないかと考えられる。

ロールモデルの人物がいないと判断した参加者は I2 と I5 である。I5 については、記述不足によりロールモデルの人物が存在しているかがわからなかった。

I2 はドイツの児童文学を推しコンテンツとしてドイツ語を学習していた。インタビュー調査にて、専攻を選んだ当時について尋ねたところ、特定のドイツ人作家が好きなわけではなく、ある一つの作品を研究しようと専攻を決めたわけでもないことが分かった。I2 にはロールモデルの人物がいないとすることができそう。

(3) 学習開始時期や推しコンテンツに出会った時期などに、参加者は身の回りで何か悩んでいたことや気になっていたことがあるか。

I1, I3 の発言や I6 の記述から読み取れた。I3 は (2) と内容が重なるので省略する。I1 は最初にアイドルグループを推しコンテンツにするきっかけとなった中学 1 年生当時について、「みんなとの一つの話題になるもの」だったからだと述べている。その背景として、「小学校の時田舎に住んで、家が遠かったから寮のある学校に入ったんですけど、おんなじ小学校だった人とかも一人もないから、新しい友達ができることとか、(中略) 楽しみにしてたっていうのもある」との発言があり、推しコンテンツを知ったきっかけや好きになったきっかけに当時の身の回りの状況に関連しているといえる。

I6 は「Run BTS」を見始めた当時「学校生活と家庭内での事について悩んでいました。(中略) 色々悩んでいた時にそのコンテンツを見ていた時は何も考えずに済んでいたからだと思います」と述べた。記述式アンケートのため、それ以上の回答は得られなかったが、推しコンテンツは参加者の生活や思考に影響を与えていた可能性がある。

(4) 複数の参加者から共通して聞かれた発言はあるか。

一番良く聞かれた言葉は「理解したい」であり、7 名中 5 名が言及した。学習を始めたきっかけについて尋ねた際に使われることが多かった (表 8)。

表 8: 「理解したい」と言及した参加者と発話例

参加者	発話例
I1	本当に好きな人たちで、これだけ応援してて <u>理解したい</u> のに、言葉の壁って大きいな
I3	「ああ、何言ってるか分かんねえ」ってなって、それ <u>理解したい</u> と思った

I4	まったく <u>理解</u> できなくて、これちゃんと全部聞き取れるようになりたいなって思って
I5	推しが話している内容を知りたい、歌詞の意味を <u>理解したい</u>
I6	字幕とかも良いけど自分の脳内を通して推しの言葉を <u>理解したくて</u>

ほかに、「自分らしさ」について、7名中4名から言及があった（表9）。

表9: 「自分らしさ」に言及した参加者と発話例

参加者	発話例
I1	<u>自分は自分の好きな物でいい</u> みたいなのはなんとなくあるかもしれない
I2	<u>自分が好きなことをすることを大事にしています</u> 。自分が好きなことしたら、いい人生になるかなって
I3	エルサは <u>ありのままで</u> みんなと生きることを決めたわけじゃん。やっぱそういう生き方できる人間ってかっこいいなって思って
I7	今まで、 <u>自分らしさ</u> を大切に生きてきたので、他人に影響されるの好きではなくて

また、語学力の向上への「実感」に言及する参加者も多かった（表10）。

表10: 「実感」に言及した参加者と発話例

参加者	発話例
I1	今まだ一回も行ったことがなくて、韓国に、(中略)英語の場合は、留学行つて、なんとなく英語は喋れるのかなって(中略)それが <u>実感</u> として分かったっていうか、(中略)それってすごくこれからのやる気に繋がったし、同時に、 <u>韓国語もできるって思いたい</u>
I3	外国人留学生と外国語で喋るだけでも楽しいし、 <u>「あ、喋れた」とか「あ、こういう表現ネイティブするんだ」みたいなに出会えるのも嬉しい</u>
I7	徐々に自分が勉強してってる感覚が、レベルが上がってるのかなみたいな、(中略) <u>徐々に成長してってる感じが分かる</u>

ここから、参加者は第二言語を学習することで推しコンテンツを「理解したい」思いが強く、その考えの根底には推しコンテンツを受容することで「自分らしさ」を表現したい思いがある可能性が考えられる。

V. 今後の課題

本研究において、課題と考える点は二つある。

一つ目は、A、B 両グループの参加者の第二言語の語学力レベルである。それぞれの参加者について、A グループは中級1名、初中級3名、初級3名、B グループは初級4名、基礎3名であり、語学力を両グループで揃えることができなかった。推しコンテンツを言語

学習や学習者自身の考えと関連付けるため、中上級レベル以上の学習者に対しても同様の調査を行うべきだろう。

また、原（2022）との関連について、留学生 J は日本語授業を通して「なぜ日本語を学習しているか」「日本語を使って何がしたいか」などの質問を繰り返し受けていたため、インタビュー調査においてより深層に迫ることができた。本研究において、インタビュー調査を受けたのはほとんどが筆者の知己であったが、参加者に対して「なぜその第二言語を学習しているのか」「その第二言語を使って何がしたいか」などについて日常的に尋ねていたわけではないため、条件が異なり、参加者の考えや価値観について本音を聞くことがあまりできていない可能性がある。この課題を解決したインタビュー調査を実施するには、参加者への追跡調査として定期的に同じ内容のインタビューを繰り返したり、「なぜその第二言語を学習しているか」などについて日頃から尋ねたりしておく必要がある。

VI. おわりに

本研究では、推しコンテンツをきっかけに第二言語を学習した人々がどのような動機づけをもっているか検討した。本研究冒頭には、推しコンテンツをもとに第二言語を学習する者は、L2 理想自己を持っているという文脈が含まれていたが、A グループの結果を見るに、他の英語以外の第二言語学習者と比べて特別動機づけが高いわけではなく、L2 理想自己をより強くもっているということもないようだ。今回インタビュー調査を行った参加者は、全員が原（2022）のモンゴル人留学生 J のように言語学習に向けて特別な思い入れがあるわけではないことからもうかがえる。一方で、推しコンテンツをきっかけに第二言語を学習する者は、L2 理想自己よりむしろ L2 語圏への興味や L2 コミュニティへの統合への意識が強い。これは、インタビュー調査にてよく聞かれた「理解したい」という発言からも示唆され、学習者の理想像は第二言語を用いて何かをする人物というより、一視聴者として推しコンテンツを享受したい、その推しコンテンツのファンのコミュニティでともに楽しみたいという思いから学習しているに過ぎないのだろう。

英語以外の第二言語について推しコンテンツがあることは、本研究においては L2MSS との関連がなかったが、第二言語やその文化圏への寛容、また第二言語に興味を持つきっかけにはなっているため、第二言語学習への入り口として機能している部分はある。日本人学習者の授業外学習に生かすのであれば、推しコンテンツをもつだけでは足りないようだ。

参考文献

Dörnyei, Z. (2009). The L2 motivational self system. In Z. Dörnyei & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self* (pp. 9–42). Multilingual Matters.

- Markus, H., & Nurius, P. (1986). Possible selves. *American Psychologist*, 41(9), 954–969.
- Taguchi, T., Magid, M., & Papi, M. (2009). The L2 motivational self system among Japanese, Chinese and Iranian learners of English: A comparative study. In Z. Dörnyei & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self* (pp. 66–97). Multilingual Matters.
- 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大(編)(2022).『三省堂国語辞典 第八版』三省堂.
- 原伸太郎(2022).「学習の動機づけのための「あなたはなぜその言語を学ぶのか」という教師からの問いかけの意義—ある留学生の一学期間の変容の考察に基づく試論—」『複言語・多言語教育研究』11, 215–226.

付録: 選択式アンケート内容

基本情報

1. あなたの名前をフルネーム、漢字でご記入ください。
2. あなたの年齢を教えてください。
3. あなたの性自認を教えてください。——男性/女性/その他（自由記述）
4. あなたの所属を教えてください。大学生であれば大学名と学部名、すでにお勤めであれば職業や職種などについて簡単に教えてください。
5. 海外への渡航経験はありますか？——はい/いいえ
6. (5. で「はい」と答えた方) それはどの国で、どのくらいの期間滞在しましたか？複数ある方はそのうち最も滞在期間が長いものについて教えてください。下の例のように教えてください。
例) アメリカ, 3 週間
7. あなたが学習している英語以外の言語（以下、第二言語と呼びます）を教えてください。複数ある場合はその中で最も「推しコンテンツ」に関係しているものを答えてください。
注: B グループ参加者には「複数ある場合は～答えてください」の記述なし
8. 7. で答えた第二言語の語学力として、当てはまると思うものを下の選択肢から選んでください。
 - ・中上級レベル以上——日常生活の一般的な事柄専門的な事柄についての会話ができ、講義や放送の大意を理解できる。新聞などの高度な文章が読め、自分の考えを書くことができる。
 - ・中級レベル——日常生活の一般的な事柄に関する会話がわかる。日常生活の一般的な事柄に関する文章が読め、簡単な文章を書くことができる。
 - ・初中級レベル——日常生活の身近な事柄についての会話がわかる。日常生活の身近な事柄についての文章が読め、簡単な手紙を書くことができる。

・初級レベル——挨拶や人の紹介などの簡単な会話ができる。簡単な文章が読め、基礎的な第二言語を用いて簡単な文書を書くことができる。

基礎レベル——決まり文句を用いて簡単な挨拶ができる。簡単な文が読め、短い文章の大意が理解でき、基礎的な第二言語を用いて簡単な一文を書くことができる。

パート 1

ここからは、前のセクションで答えていただいた、あなたが現在学習している第二言語についてお答えください。1（まったくあてはまらない）～6（非常にあてはまる）の選択肢から一つずつ選んでください。

1. 海外旅行をしたいので、その第二言語の勉強は大切である。
2. その第二言語が話されているのを聞くとわくわくする。
3. 異文化の価値観や習慣にとっても関心がある。
4. 今後さらに大学やその他のところで第二言語の授業があれば、受講したい。
5. その第二言語を勉強しておくといつか良い仕事を得るために役立つと思うのでその第二言語の勉強は大切だ。
6. もっと努力すれば、その第二言語を確実に身に着けられると思う。
7. 外国に住み、その第二言語で討論している自分を想像できる。
8. 国際化によって、日本人が日本文化の重要性を忘れる危険性があると思う。
9. その第二言語でネイティブスピーカーと話をする場合、不安を感じる。
10. 会話の中でのその第二言語の使い方に興味がある。
11. もし他の文化が日本文化にもっと似ていたら楽しいと思う。
12. その第二言語を一生懸命勉強している。
13. 将来昇進のために語学力は必要となるのでその第二言語の勉強は大切だ。
14. このまま勉強を続ければその第二言語で書かれたたいいていの文章を読め、理解できるようになると思う。
15. 自分が外国人とその第二言語で話をしている状況を想像できる。
16. その第二言語の影響で日本語が乱れていると思う。
17. その第二言語を勉強するのはとても面白い。
18. その第二言語ができなければ、旅行があまりできなくなるので、その第二言語の勉強は大切だ。
19. 日本語とその第二言語の単語の違いは面白いと思う。
20. その第二言語の勉強に努力を惜しまない。
21. 自分はほかの文化の価値観や習慣を尊重している。
22. 勉強や仕事等で海外に長期間滞在したいと思っているので、その第二言語を勉強しておくのは大切だ。
23. このまま勉強を続けたら、将来楽にその第二言語を書けると思う。

24. その第二言語が話せるようになって自分を想像する。
25. その第二言語が話される文化圏の国々の影響で、日本人のモラルが低下している。
26. その第二言語のネイティブスピーカーに会うと、不安になる。
27. その第二言語の勉強をしなければいけない。そうしなければ、将来仕事で成功できないと思う。
28. その第二言語の授業をいつも楽しみにしている。
29. その第二言語ができれば海外旅行が楽しめるのでその第二言語を勉強するようにすすめている。
30. 自分はその第二言語の学習をがんばっていると思う。
31. その第二言語のリズム感が好きだ。

パート 2

引き続き、1 セクション目で答えた第二言語について 1（まったくあてはまらない）～6（非常にあてはまる）でお答えください。

32. その第二言語が話されている文化圏へ旅行するのが好きですか？
33. その第二言語が話されている文化圏の人々の文化や芸術をさらに知るためには、どの程度言語学習は大切だと思いますか？
34. その第二言語が話されている文化圏に住んでいる人々が好きですか？
35. どの程度その第二言語が話されている文化圏の人々のようにになりたいですか？
36. その第二言語が話されている文化圏の人々と知り合いになりたいですか？
37. どの程度その第二言語が好きですか？
38. その第二言語が話されている文化圏の人々についてもっと知りたいですか？

パート 3

引き続き、1 セクション目で回答していただいた第二言語について 1（まったくあてはまらない）～6（非常にあてはまる）でお答えください。

39. あらゆる人が日本人のような生活を送れば、もっと良い世の中になると思う。
40. 今後さらに自分の専門について勉強していくためにその第二言語が必要になると思うので、その第二言語の勉強は大切だ。
41. その第二言語の文化的、芸術的価値観は日本の価値観をだめにすると思う。
42. 自分には言語学習の才能があると思う。
43. 将来の仕事について考えるときはいつもその第二言語を使っている自分を想像する。
44. 外国人にその第二言語で道を聞かれると緊張する。
45. その第二言語の資格試験で低い点数を取ったり不合格になったりしたくないのでその第二言語の勉強は必要だ。
46. その第二言語を学ぶのは本当に楽しい。
47. 国際化が進むと日本の独自性が失われる危険性があると思う。

48. その第二言語ができれば国際的に働くことができるので、その第二言語の勉強は大切だ。
49. 日本人であることを誇りに思っている。
50. 将来自分のしたいことをするためには、その第二言語が必要となる。

付録 2: インタビュー調査, また記述式アンケート内容

推しコンテンツと自分との関わりについての質問

- ・そのコンテンツは、いつどのようにして知ったのか
- ・好きになった、推し始めたのは知ってからどのくらい経ってからか
- ・当時自分の身の回りで起きていたことや考えていたことで覚えていることはあるか
- ・なぜ好きになったと思うか
- ・推しコンテンツの何が魅力的なところか

推しコンテンツと言語学習の関わりについての質問

- ・その推しコンテンツが明確に言語学習に繋がったのはいつなのか
- ・自発的に始めたのか、もしくは周りの人々から影響されたのか
- ・どうして言語学習を始めようと思ったのか
- ・学習開始当初なにか目的や目標はあったか

言語学習と自分との関わりについての質問

- ・今はどのくらいその言語を学習しているのか（頻度、時間帯など）
- ・どのような方法で言語学習をしているのか（教材、方略など）
- ・現在、言語学習をする上で何か目標はあるのか、その目標は「推しコンテンツ」とどのようなつながりを持っていると思うか
- ・（一度言語学習を辞めた時期のある参加者に対し）どうして辞めてしまったのか、また、どうして学習を再開できたのか

謝辞

本論文の作成にあたり、多大なるご指導をいただきました明治大学国際日本学部廣森友人教授、多くの助言をいただきました廣森ゼミナール院生の皆様、学部 10 期生の皆様、ならびにアンケート調査やインタビュー調査にご協力いただいた 14 名の皆様に心より御礼申し上げます。

日本における英語偏重教育についての考察
A Study of Overemphasized English Education in Japan

明治大学 国際日本学部
橋爪 萌花

Meiji University School of Global Japanese Studies
HASHIZUME Moeka

目 次

I. はじめに

II. 先行研究

1. 外国語教育の意義
2. 現在の日本の外国語教育
3. 日本の英語偏重教育の背景
4. 他国との比較
5. LOTE, L3 に関して
6. 複言語主義
7. 日本における L3 教育への取り組み
8. 日本の外国語教育の問題点

III. 考察

IV. 今後の課題

参考文献

I. はじめに

グローバル化が進む世界において、国際共通語とされる英語は重要な役割を果たしていることから、日本では英語教育に力を注いでいる。一方で、日本人の英語以外の外国語への関心は薄く、日本で行われている外国語習得や外国語教育についての研究のほとんどは英語に関するものである。現在の日本の外国語教育は英語偏重である。言語や教育の専門家は日本の英語偏重な外国語教育に対して問題提起を行ってきた。しかし、日本は多くの英語教育改革を行い、英語偏重は止まるどころか加速している。英語偏重教育への批判があるにも関わらず、日本はなぜ英語偏重教育のままなのだろうか。そこで本研究では、日本の外国語教育における英語偏重の背景をまとめ、複言語主義、L3 教育、LOTE に関する先行研究などから英語偏重の問題点を明らかにし、日本における英語以外の外国語教育拡充に向けての課題を考察する。

II. 先行研究

1. 外国語教育の意義

そもそも外国語教育の意義とは何であろうか。Nelson Mandela 氏の言葉に以下のようなものがある。“If you talk to a man in a language he understands, that goes to his head. If you talk to him in his language, that goes to his heart.” (吉田, 2017, p. 14)。吉田 (2017) はこの言葉を用いて、「国際共通語としての英語を使って頭で分かりあうことはできるが、本当に心から理解しあうためには相手の言葉を知らなければならないのである。」と指摘している。

外国語教育の目標には、特定の外国語を使えるようにするため言語の機能的側面を中心に学習させる「外国語の学習」という面と、特定の言語の技能だけに焦点を当てるのではなく、広くコミュニケーションについて理解を深めることを目標とする、より広い意味での「言語の学習」という面の二つの側面がある (大山, 2013)。後者の教育は、国際理解教育や異文化間コミュニケーションにおいて特に重要視されており、小学校、中学校、高校、いずれの段階の外国語学習指導要領でも「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めること」という目標が明記されていることから、国際理解教育としての外国語教育という立場は、日本の学校における外国語教育の理念においても認められていたと大山は述べている。

また、江利川 (2014) も世界に存在する六千を超す言語、民族と平和的に共生していくためには、多様な言語や文化への理解と寛容さこそが必要不可欠であると述べ、そして、このような原則から、中学・高校の教科名は「英語」ではなく「外国語」とされており、(平成 21 年) 学習指導要領外国語編の目標には「言語や文化に対する理解を深め」という条項が入っていると述べる。また、平成 30 年告示の学習指導要領では、言語の背景にある

文化という意味合いを明確に示すため上記の条項は「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」という文に改訂された。加えて、公教育で外国語を学ぶ目的は、単なるスキルを身につけるためだけではない。そのため、仮に外国語が実用的に使えるレベルに達しなくても学ぶ意義は大きいという（江利川，2013）。江利川（2013）は、「教育基本法が定めるように、人格の完成と、平和で民主的な世界の形成をめざして外国の人々との相互理解・交流・連帯を深めるためであり、母語を含む言語と文化の多様性と面白さに気づき、思考力や感性を拡充するためでもあるのです。」（p.11）と、公教育で外国語を学ぶ目的を述べている。

2. 現在の日本の外国語教育

平成 30 年告示高等学校の学習指導要領によると、「1 その他の外国語に関する科目については、第 1 から第 6 まで及び第 3 款に示す英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行うものとする。」と記述がある。英語に関しては約 100 ページにわたって事細かな説明がある一方、その他の外国語についてはこれ以外に言及がない。境（2013）は、高校における第二外国語教育の大きな問題として学習指導要領に言語ごとの記述がないことを挙げ、複数言語の学習が行政の側から等閑視されていることを指摘している。

2017 年の時点で、英語以外の外国語を学んでいた高校生の数は 44,539 人で高校生全体の 1.3 パーセントにすぎないことから、日本は他のアジアの国と比較して英語以外の外国語教育についてかなり遅れており、今後のグローバル化を考えると早急に手を打つ必要があると指摘されていた（吉田，2017）。

では、指摘されていた遅れは改善したのだろうか。表 1 は文部科学省による「令和 3 年度高等学校等における国際交流等の状況について」の調査をまとめたものである。この調査によると、英語以外の外国語科目を設置している高等学校等は 607 校で、扱われている言語数は 14 言語であった。言語別に見た学校数と人数は以下のようになっており、延べ人数は 42,324 人で、これは全日制の高校生の人数の約 1.4%にあたる。したがって、現在においても、英語以外の外国語教育についてはほとんど手を付けられていない状況が続いていることが分かる。

表 1: 高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況について（文部科学省，2023）

	中国語	韓国・朝鮮語	フランス語	スペイン語	ドイツ語	その他	計（延べ数）
学校数	457 校	335 校	182 校	89 校	82 校	45 校	1190 校

人数	17,847 人	12,304 人	6,379 人	2,533 人	2,276 人	985 人	42,324 人

また、中学校、高等学校、どちらの学習指導要領にも「グローバル化が進展する中、日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは言語やその背景にある文化を理解することにつながるため、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において、英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にすることが指摘された。」と記述されている。しかし、実際に文部科学省によって紹介されている英語以外の多様な外国語教育の推進事業は、『フランス語の学習指針』策定研究会による「フランス語の学習指針」と、慶応義塾大学外国語教育研究センターを中心とした「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」の二つのみであった。文部科学省は英語以外の外国語教育について理解はあるが、力を入れていないことが分かる。

3. 日本の英語偏重教育の背景

日本の外国語教育が英語偏重になった背景には、何度も英語教育に関する政策や改革が行われてきたことにある。英語偏重教育の歴史を遡ると、1873 年に開成学校における専門科目の授業を英語で行うように文部省から通達があり、ここから日本の外国語教育は「英学本位制」に移行した。これが英語一辺倒主義を促す一歩目であったと江利川は述べる（鳥飼，2017）。文明開化を目指した明治時代の指導者たちが西洋の学術を取り入れる際、不可欠だったのが西洋語の代表格である大英帝国の英語であったという理由と、教育経費の削減と語学教員間の派閥抗争を防ぐという理由から英学本位制に移行したと江利川は述べている。この明治時代に英米が近代国家建設のためのお手本であったこと、その後の第二次世界大戦での敗戦で、やはり英米には敵わないという認識が植え付けられてしまったこともあり、日本人は英語に対して盲目的な憧れを持っている。そして、この憧れと国際共通語としての英語の相乗効果によって、英語ができなければ「グローバル時代」を生き抜くことができないという認識が広まっている（斎藤，2014）。

また、江利川は今日の英語一辺倒主義が日米同盟強化と企業のグローバル化という国家戦略の一環であるように、外国語教育政策は国家戦略と密接に結びついていると指摘する（鳥飼，2017）。例えば、親米外交を展開していた中曽根康弘総理大臣主導で設置された臨時教育審議会は英語教育改革も含まれており、その第二次答申において英語を話すことはこれからの日本の国際的な活躍に重要であると書かれ、答申から三年後、学習指導要領改定で初めて英語教育に「コミュニケーション」という言葉が入り、臨時教育審議会の提言が実現された（大内，2022）。この臨時教育審議会以降、教育の政治主導が始まり、文部科学省が見ているのは国民というより、政権の方針や経済界という印象を持つと鳥飼は述べている（大内，2022）。

経済効率ばかりを優先する日本の財界人や政治家たちが「英語が使える人材育成」という実用的目標のみを要求することで、学校教育の本質的な目的が歪められている(江利川, 2014)。経済界が教育に影響を強く与えた例として、楽天の三木谷浩史 CEO が挙げられる。彼は、経済同友会 2012 年度教育改革による国際競争力強化 PT 委員長を務め、日本の大学の英語入試で実用的な英語力を問う外部試験を大規模に導入するという内容を「実用的な英語力を問う大学入試の実現を～初等・中等教育の英語教育改革との接続と国際標準化～」という提言にまとめた。加えて、三木谷氏は安倍晋三総理大臣の諮問機関であった「英語教育の在り方に関する有識者会議：英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会」の委員として 2014 年に出席した際に、センター試験の英語は外部試験に代替するべきと発言している(小林, 2023)。これらの発言は、大学入学共通テスト英語民間試験の導入に繋がった。これに対し、小林は三木谷氏のビジネスの論理・手法を国家全体の公教育に適用しようとする傲慢さと危うさを指摘し、経営者や企業が子どもの発達や認知活動、教育理念や学校文化などを考慮せずに、学校の英語入試方法や教育課程にまで社内英語公用語化の発想を持ち込むことは乱暴であると指摘している。

4. 他国との比較

日本は他国と比較すると、英語以外の外国語教育が遅れていると考えられる。2011 年に文部科学省によって行われた諸外国における外国語教育の実施状況調査によると、日本は各学校段階で英語以外の外国語科目を開設することも可能と表記されているだけである。一方、日本と同じアジアを見ると、韓国、台湾では高校で選択必修科目として開講、中国では高校で選択科目として開講されている。

中国は 1990 年～2010 年半ば、英語が個人の能力を示す指標とされており、就職や資格の最低条件のため生活で必要なくても学ばざるを得ない状況だったが、2015 年以降、周辺国の言語に長けた人材養成を課題として、マイナー言語人材育成政策が導入されてきた(グローバル化と言語政策, 2017)。

また、ヨーロッパにおいては 2002 年バルセロナ首脳会議で「欧州市民の三言語主義」が唱えられたこともあり、フランスでは英語以外の言語も英語教育と導入時期、開始学年等が同条件で実施されている。また、ドイツでは、第六学年(中等教育の二段階目)から第一外国語と同じ授業時数で導入された。フランスやドイツは地理的に他言語に触れる機会が多いため、早い段階からの L3 教育が進められていると考えられる。

5. LOTE, L3 に関して

LOTE とは、「Language Other Than English」を略したものである。1987 年のオーストラリア連邦議会で「言語に関する国家政策」が承認された際に外交上や経済上の実利の追及を目的として LOTE 教育が推進された。しかし、やがてオーストラリアから世界に広まった

LOTE 教育には課題が見受けられる。

Csizér & Dörnyei (2005) によると、複数の言語学習では、ある言語に対する肯定的な姿勢が別の言語の犠牲のもとに存在し、学習者の限られた言語学習能力において学習対象言語の間で競争が起こり、この競争でワールドイングリッシュが明らかな勝者だと見受けられるという。外国語学習は単にスキルや文法を学ぶ以上のことが関わっていて、自己イメージの変化や新しい社会的・文化的行動様式などのあり方の採用を伴い、学習者の社会的性質に大きく影響している。そのため、学校において英語以外の言語を学習する学習者が直面する問題の一つとして、その学習言語の話し手が実際に集まって交流する場などへのアクセスが欠如していることが挙げられている (Henry, 2012)。

また、L2 は母語の次に学習者が学習する言語を指すのに対し、L3 は母語、L2 の後、3 番目に学ぶ言語を指す。L3 の媒介性は英語ほど明白でなく、L3 の学習動機は学習者の学習経験や学習環境に対する評価によって影響を受けやすい (Gabrys-Barker, 2011)。また、Henry (2010) によれば、動機づけは言語間で均等に分散されることはなく、L3 としての英語以外の言語の自己概念は L2 である英語の自己概念によって否定的な影響を受け、L2 と L3 を相互参照することは L3 のモチベーションの低下を示唆していると述べている。

既に日本は英語偏重であるため、外国語教育政策を考える上では、上記の LOTE や L3 について考慮すべきだと考えられる。

6. 複言語主義

複言語主義と多言語主義は似たものに聞こえるが、この二つは異なるものである。多言語主義とは多様な言語が共存している社会の状況を表す用語であり、複言語主義とは個々人の複合的な言語能力や、コミュニケーションのための言語を複数持つような価値観を表す用語である (鳥飼, 2017)。鳥飼は「言語は生涯をかけて学ぶものである」、従って「自律した学習者の育成が肝要である」ことを複言語主義の基本原理として挙げており、2021 年に行われた「リベラルアーツと外国語」というシンポジウムにおいて鳥飼は、複言語主義とは自分の母語以外に二つの言語をマスターしなければならないというものではなく、学ぼうとすることで新しい世界を見ようということだと述べている。

また、新たな言語学習や教育を展開するためにはドラスティックな意識改革が、生徒や学生よりも大人たちに必要であり、とりわけ言語教育に従事している教員は自分の教えている言語だけで満足せず、その言語中心の世界に安住することもなく、自らが複言語・複文化能力を養うことで、専攻する言語・文化をより広い視野で相対化し捉え直すべきだという意見もある (境, 2022)。

さらに、この複言語主義は、日本の英語教育で多く取り上げられている CEFR の前提となる考え方である。CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) とは言語の共通参照枠を指し、多様な言語や多様な文化はコミュニケーションの障害になると考

えられがちであるが、実際はそうではなく、多様性から相互の理解と豊かさを生み出すには教育が必要だという欧州評議会の基本理念を具現化するために 1971 年から取り組んで開発されたものである。この欧州評議会の理念は、ヨーロッパに限らず世界で通用する理念であると鳥飼（2017）は考える。しかし、日本では CEFR のほんの一部に過ぎない「共通参照レベル」のみが大きく取り上げられ、それが CEFR の全てだと思われがちだが、それを支える行動中心主義、複言語・複文化主義、四つの *Savoirs* などの重要な理念を看過してはならないと境（2022）は指摘している。

東京外国語大学が科研費で CEFR の日本版（CEFR-J）を作り、ヨーロッパから専門家を呼んだ研究会において、おそらく教師である聴衆の一人が、中学校ではこのレベル、高校ではこのレベル、というふうに通達目標にしてしっかりやれば、これは一貫した英語教育になると発言したことに対し、ヨーロッパから来た研究者二人は「CEFR は評価の尺度であって、到達目標に使うものではない。これを到達目標に使ったら教育は壊れる」と断固とした調子で答えた（鳥飼，2014）。教師が CEFR について正しく理解できていないのであれば、生徒や学生も正しく理解していない可能性が高く、間違った解釈で CEFR が広まっている可能性が高い。

7. 日本における L3 教育への取り組み

「グローバル人材育成のための外国語教育政策に関する提言：高等学校における複数外国語必修化に向けて」（2014）という日本言語政策学会多言語教育推進研究会による提言は、高等学校において「第 2 の外国語」を必修選択科目と位置づけ、全ての高校生が「英語＋その他ひとつの外国語」を学べる環境を保障しようという内容で、グローバル人材育成の観点から高等学校段階での複数外国語教育の必修化が最優先事項という考えに基づいたものである。英語以外の国連公用語である中国語、フランス語、ロシア語、アラビア語、スペイン語に加えて、日本と深い関係にある地域の言語の韓国語、日本の近代化に大きく関与したドイツ語の計 7 言語の学習指導要領が、目標、内容、指導上の留意点、留意事項を含めて提案されている。ここでは優れた先行例として、日本以上に英語力強化に力を入れて成果を上げたうえに、中等教育においても第二外国語学習を保障している韓国の外国語教育政策が挙げられている。しかし、提言を実行するためには、高校の教員配置の変更、担当する教員の大学における養成、外国語学部、および外国語大学の増設、英語以外の外国語での大学受験の保障、さらに各外国語の教科書検定など、多くの根本的な対応が必要であると課題が挙げられている。

また、公益財団法人国際文化フォーラムによる「外国語学習のめやす」は、高校から始める外国語学習の指針で、理念や目標だけでなく、具体的な学習目標から授業設計や評価の方法までの全体像が提示された「外国語学習のめやす—ロシア語教育用—」、「外国語学習のめやす 2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言—」、「高等学校の中国語と韓

国朝鮮語：学習のめやす（試行版）」の3つの資料が発行されている。しかし、いずれの取り組みも、国または文部科学省の政策には取り入れられていない状況である。

8. 日本の外国語教育の問題点

近年の英語教育政策には混乱が見られ、その主な原因は政策決定過程にある。具体的には、英語教育の専門家や教員の意見がほとんど考慮されず、財界人や専門外の有識者が基本的な方向性を決定しており、このため、重要な方針がいつ、誰によって決定されたのかが不明であり、責任の所在も曖昧となっていることも指摘されている（江利川，2014）。これが顕著に表れているのが2013年に政府に答申された「第2期教育振興基本計画」で、小学校英語の早期化や教科化、中学校での英語による英語授業の実施が決定された。しかし、この内容は英語教育の専門家のいない私的な諮問機関の会議後に急遽盛り込まれた内容であった。また、学問的な根拠もなく、高校卒業段階の到達目標が頻繁に変更され、さらに、文部科学省が示した高校生の英語の到達目標（英検二級～準一級）と、英語教員に求められる英語力の目標（英検準一級）の設定が同じである点に関しては、支離滅裂だと江利川（2014）は問題視する。

また、日本は英語教育に関して熱心に何度も改革を行っているのにもかかわらず、短絡的な目的が多いと考えられる。文部科学省が2006年に発表した「小学校における英語教育について」という文書で、アジアの非英語圏における小学校段階の必修化の開始と、EUで母語以外に二言語を学ぶべきという考えの元にあるフランスでの必修化を、他国における英語早期教育の例として挙げている。このことに対し、アジア各国の国家政策としての早期英語教育政策と、EUにおける超国家共同体の政策としての複言語主義は性質を異にするにも関わらず同列に扱われていることを大山（2013）は指摘する。その後2012年に政府は「グローバル人材育成戦略」を公表したが、ここでの語学力・コミュニケーション能力は英語の運用能力を指しており、英語力はTOEFLのスコアが念頭に置かれ、TOEFL国別ランキングで日本が下位にあることを理由に英語教育の強化を図るべきと唱えられている（鳥飼，2018）。

自民党教育再生実行本部による提言で、大学入試の代わりに「TOEFL／TOEICなどの外部試験を使うべき」という提案があり、提言の中でTOEFLは「実用的な英語力を測る」と位置づけられていることについて、TOEFLの目的や内容を知らずに提案していることが露呈していると鳥飼（2013）は指摘する。

寺沢（2019）は、「グローバル化で英語ニーズが増える」と無根拠な決めつけから、小学校への英語授業導入や大学の英語入試改革など種々の英語教育改革が断行されているため、近年の英語教育政策における「グローバル化」理解はお粗末であると指摘している。日本は「英語」と「グローバル化」を繋げる傾向があるが、「世界の言語はさまざまであり、それぞれの言語がそれぞれの『生活やものの見方』とともに営まれているところに英語とい

う一つの言語だけで切り込んでいけるわけがない」(岡野, 2024, p.10) という指摘もあるように、グローバル化に対する外国語教育として、英語のみに力を入れるべきではないと考えられる。ただし、文部科学省の「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」では、グローバル化への対応は英語さえ習得すればよいわけではないことや、世界には英語に限らず数多くの言語があることを理解させることが重要であるという記述がある。そのため、国としても理解はあるが具体的に組み立てていない状況なのではないか。

III. 考察

言語や教育の専門家から批判があるにも関わらず、長年日本で英語偏重な外国語教育が続いてきた背景には、政権の方針や経済界から強い影響を受け、政府の短絡的な独断の判断で何度も英語教育改革が行われてきたことにあると考えられる。このまま英語偏重教育が続けば、世界の見方など、国民の考え方の偏りが強くなる可能性があるため、他国のように日本も英語以外の外国語教育を推進するべきであると考え。しかし、日本でより英語以外の外国語教育を普及させるためには課題がある。まず、教員養成やそれに伴う大学でのカリキュラム見直し、教材の検定など、環境整備に時間を必要とするだろう。日本人は国際共通語としての英語への憧れが強いことに加え、政府も国民も外国語を学ぶのであればちゃんとできる(話せる, 書ける, 読める, 聞き取れる)ようにならなければならないという固定観念を持っているのではないか。そのため、英語もできないのに他の外国語を学ぶ必要があるのかという批判も予測できる。固定観念を崩すことは簡単ではないが、教育改革に限らず、英語以外の外国語や多言語の重要性を理解してもらうための啓発活動など国民一人一人の外国語への意識を変える必要がある。そして、英語以外の外国語教育推進に欠かせないことは、経済界など専門外の有識者先導の教育改革を止め、言語や教育の専門家主導で外国語教育の見直しを図ることだと考える。

「... 外国語の学習を通して、他者に配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることも重要である」(文部科学省, 2018)。これは高等学校学習指導要領外国語編の第1章3節、外国語科の目標に書かれている一文である。はたして現在の英語偏重な外国語教育で多面的思考ができる人材は育つのであろうか。英語偏重の外国語教育では、母語である日本語と英語の二面からしか物事を見ることができないのではないか。グローバル化する社会に対応できる人物を育成するのであれば、「英語ができる」人材ではなく、物事を多面的に見ることができる人材の育成が必要なのではないだろうか。そのために日本は、英語以外の外国語教育の普及を含め、外国語教育の見直しを図るべきだ。

IV. 今後の課題

本論文では、現在の日本の英語偏重な外国語教育について先行研究から考察を行った。そのため実際に複数の外国語を学校教育で受けたことによる具体的な影響は明らかにできていない。複数の外国語教育を受けた学習者が実際に多面的に物事を考える能力が向上しているか実証するためのデータ収集が必要である。さらに、この多面的な思考力の向上をどのように判断するか、基準策定も課題となる。また、本論文では英語以外の外国語教育を推進したが、具体的にどの外国語を学ぶべきなのか、どの段階で導入すべきなのかなど、具体的な提案まで至らなかったため、英語以外の外国語教育推進にはさらなる調査と研究が必要である。

参考文献

- Csizér, K., & Dörnyei, Z. (2005). The internal structure of language learning motivation. *The Modern Language Journal*, 89, 19-36.
- Gabrys-Barker, D. (2011). Appraisal systems in L2 vs. L3 learning experiences. *International Journal of Multilingualism*, 8(2), 81-97.
- Henry, A. (2010). Contexts of possibility in simultaneous language learning: Using the L2 Motivational Self System to assess the impact of global English. *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 31(2), 149-162.
- Henry, A. (2012). L3 motivation. *Gothenburg Studies in Educational Sciences*.
- Winke, P. (2014). Results of structural equation modelling. *Modern Language Journal*, 89, 19-36.
- 石井洋二郎 (2022) .『リベラルアーツと外国語』 水声社.
- 江利川春雄・斎藤兆史・鳥飼玖美子・大津由紀雄 (2014) .『学校英語教育は何のため?』 東京：ひつじ書房.
- 大内裕和 (2022) .『なぜ日本の教育は迷走するのか』 青土社.
- 大津由紀雄・江利川春雄・斎藤兆史・鳥飼玖美子 (2013) .『英語教育、迫り来る破綻』 ひつじ書房.
- 大山万容 (2013) .「国際理解教育としての小学校「外国語活動」と日本における「言語への目覚め活動」導入の可能性」『言語政策』第9号, 43-64.
- 岡野一郎 (2024) .「英語教育と言語相対性のポリティクスー英語支配へのメディア論的アプローチ」『社会情報学』第13巻1号, 1-17.
- 公益財団法人国際文化フォーラム めやす Web
(<https://www.tjf.or.jp/meyasu/support/about.php>) (2024年7月17日)
- 小林正佳 (2023) .「日本の大学英語教育の現状について (下)」『横浜経営研究』第44巻

第 1 号, 33-49.

境一三 (2013).『「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR)は日本の外国語教育に何をもち
らしたか?』『「複言語・多言語教育研究」日本外国語教育推進機構会誌』第 1 巻, 34-52.

境一三 (2022).「日本の外国語教育で複言語・複文化主義を实践する」『慶応義塾大学日
吉紀要刊行委員会』第 62 巻, 1-12.

寺沢拓敬 (2019).「グローバル化で英語ニーズ増加」の虚実『中央公論』8 月号.

當作靖彦・中野佳代子 (2016).「外国語学習のめやす 2012 高等学校の中国語と韓国語教
育からの提言」『公益財団法人国際文化フォーラム』

〈https://www.tjf.or.jp/meyasu/common_pr/02meyasu2012_final.pdf〉(2024 年 7 月 17 日)

鳥飼玖美子・大津由紀夫・江利川春雄・斎藤兆史 (2017).『英語だけの外国語教育は失敗
する』ひつじ書房.

宮崎里司・杉野俊子 (2017).『グローバル化と言語政策』明石書店.

森住衛・古石篤子 (2014).「グローバル人材育成のための外国語教育政策に関する提言一
高等学校における複数外国語必修化に向けて一」『日本言語政策学会 多言語教育推進研
究 会 』 〈 [https://jalp.jp/wp/wp-](https://jalp.jp/wp/wp-content/uploads/2014/12/c62f1c06c99e0f810541b5c1a3235f721.pdf)

[content/uploads/2014/12/c62f1c06c99e0f810541b5c1a3235f721.pdf](https://jalp.jp/wp/wp-content/uploads/2014/12/c62f1c06c99e0f810541b5c1a3235f721.pdf)〉(2024 年 7 月 17 日)

文部科学省 (2009).「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」

〈[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf)
[01/29/1282000_9.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf)〉(2024 年 12 月 20 日)

文部科学省 (2011).「諸外国における外国語教育の実施状況調査結果 (概要)」

〈 [https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/082/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2011/0](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/082/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2011/01/31/1300649_03.pdf)
[1/31/1300649_03.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/082/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2011/01/31/1300649_03.pdf)〉(2024 年 7 月 2 日)

文部科学省 (2014).「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に
対応した英語教育改革の五つの提言～」

〈 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm 〉

(2025 年 1 月 6 日)

文部科学省 (2017).「小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編」

〈https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf〉(2024 年 7 月
2 日)

文部科学省 (2017).「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編」

〈https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kyoiku01-100002608_010.pdf〉(2024 年 7 月
2 日)

文部科学省 (2018)「【外国語編 英語編】高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説」

〈https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf〉(2024 年 7 月 2 日)

文 部 科 学 省 (2 0 2 1) . 「 高 等 学 校 教 育 の 現 状 に つ い て 」

〈https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/20210315-mxt_kouhou02-1.pdf〉(2024 年 7 月 2 日)

文部科学省総合教育政策局国際教育課. (2023). 「令和 3 年度高等学校等における国際交流等の状況について」 〈https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20230403-mxt_kouhou02-1.pdf〉(2024 年 7 月 2 日)

吉島茂・Stephen Ryan (2014). 『外国語教育 V 一般教育における外国語教育の役割と課題』 朝日出版社.

吉島茂・Stephen Ryan (2015). 『外国語教育 VII グローカル時代の外国語教育』 朝日出版社.

吉田研作 (2017). 「日本の学校教育における外国語教育の課題と展望」『複言語・多言語教育研究 日本外国語教育推進機構会誌』第 5 巻, 3-19.

国際社会で求められる外国語運用能力
—テキストマイニングによる学習指導要領の分析—
Foreign Language Proficiency Required
in the Global Society
—Analysis of the National Curriculum Standards by Text Mining—

明治大学 国際日本学部
俣 誠人

Meiji University School of Global Japanese Studies
INORI Makoto

要旨

本研究の目的は、前回と現行の学習指導要領の内容を比較し、その変化から今後の国際社会に求められる外国語運用能力を考察することである。KH Coder を用いて小学校、中学校、高等学校の外国語科目の学習指導要領のテキスト分析を行った。全課程で総語数の増加が見られ社会や日常の話題について自分の気持ちや考えのアウトプットに関する記述が目立った。知識のインプットと「気持ち」を表現する練習の両方が、グローバル社会に必要な素養を育むことを指摘した。

目次

1. はじめに	1
2. 先行研究	1
2.1 日本の英語教育.....	1
2.2 実践的な英語の習得に向けた取り組みと現状.....	2
3. 従来と現在の英語教育の比較.....	3
3.1 比較対象と方法について.....	3
3.2 全体を通しての比較.....	3
3.3 高等学校学習指導要領の外国語科目の比較.....	4
3.3.1 頻出語と共起ネットワーク	4
3.3.2 着目点	5
3.3.3 考察	5
3.4 中学校学習指導要領の外国語科目の比較.....	6
3.4.1 頻出語と共起ネットワーク	6
3.4.2 着目点	7
3.4.3 考察	7
3.5 小学校学習指導要領の外国語活動の比較.....	7
3.5.1 頻出語と共起ネットワーク	7
3.5.2 着目点	8
3.5.3 考察	9
3.6 登場頻度が増えた「気持ち」という語.....	9
3.7 登場頻度が減った「音声」という語.....	10
3.8 この章の考察.....	11
4. まとめと今後の展望.....	12
謝辞	13
参考文献	14

1. はじめに

日本で生まれ育った人々は、多かれ少なかれ学校教育の中で英語を学んだ経験がある。義務教育を通して英語に触れる期間が全員にあるため、まったく英語を理解できないという人は少ないといわれている。事実、日本人は基本的な英語を読んで理解できる人の割合が高く、英語が全然理解できない人の割合は国際的にみても少ない、という傾向があることを寺沢（2015）は指摘している。一方で街中には社会人向け英語スクールが遍在していて、近年ではビジネスマン向けのオンライン教材の広告を目にする機会が増えた。これまでの英語教育で学んできた英語と社会で求められている英語にはその性質に明確な違いがあり、学校で実施されてきた従来の英語教育で多くの人々が獲得した英語は、ビジネスシーンでは太刀打ちできないということを、渡部（2018）は示している。

本論文では、KH Coder によるテキストマイニングを通して、英語教育改革の前後の学習指導要領の外国語科目の内容を比較する。そして浮かび上がった相違点から、国際社会の場で通用する英語を構成する要素について分析・考察することを目的とする。第2章では、日本の英語教育や実践的な英語の習得に関する先行研究について要約する。第3章では、現行の学習指導要領を前回のものと比較し相違点や特徴を指摘する。第4章では、文章全体をまとめた後に今後の展望について述べる。本論文では外国語科目について取り上げているが、今の社会では外国語＝英語と捉えられている。そのため文中の外国語という語はすべて英語について言及しているものであり、他の言語についてはこの論文では言及しない。

2. 先行研究

2.1 日本の英語教育

始まりは江戸時代からともいわれる日本の英語教育について、その内容や目的、当時の時代背景を時系列に沿って追い、これまで日本で行われてきた英語教育がどのようなものだったのかについて考える。なお取り上げるのは戦後期からの教育についてであり、それは民主化されたという同じ時代の中で比較し、差異をわかりやすくするためである。

小川（2017）によると、戦後の英語への人気は高かった。英語教育体制が整備されるようになり、英語が入試科目に加わったことでほぼ必修科目と認識されていた。そんな動向の中、学校教育では実用的な英語が身につかないという、現在でも叫ばれている主張があり、「実用性」を重視した英語教育を目指して様々な教育法が模索されていた。その後も、いわゆる受験英語への批判の声は続いており、コミュニケーションを中心に学ぶような英語教育への転換点となったのがこの時代である。また東京オリンピックの開催によって、「役立つ英語」の習得への機運が社会の中で高まっていたことも事実である。

平成に入り冷戦が終結してアメリカのスーパーパワーが確固たるものになったことで、グローバリゼーションが急速に進み英語人気がより一層高まったとも、小川は述べている。そして中学校と高校の学習指導要領が改訂され、「コミュニケーション能力」の養成

が大きな目的として掲げられるようになった。2002 年からは公立小学校での英語活動が認められ、2008 年には小学 5、6 年生の英語の授業が必修化されたことが分かった。昭和から平成にかけてのグローバル化の影響により英語の重要性は増し、国外とのコミュニケーションを想定した英語の教育への動きがより一層進んだ。

昭和中後期と平成期の日本の英語教育はそれぞれ異なった時代背景のあおりを受けて、コミュニケーションを中央に据えた英語教育を目指していたことが分かった。その姿勢は現在と大きく変わらないが、平成に入ってからそのスピードは高まった。カリキュラムに本格的に取り入れられるようになったという点から、昭和期の実質的な必修科目だったころよりも、英語教育への関心は時代が進むにつれて大きくなっているように見える。

2.2 実践的な英語の習得に向けた取り組みと現状

前述したとおり、従来型の日本の英語教育は残念ながら国際シーンでは通用しない。学校では主に文法や語彙の学習を主に行っていて、確かにこれらは不可欠であるが英語を習得するためには不十分であることは明白である。岩中（2024）は、「しかし、それ以上に大切な要素として挙げられるのがインプット、アウトプット、そしてインタラクションである」と述べている。これら 3 つの要素はそれぞれ、「目標言語に触れること」、「スピーキングやライティングを行うこと」、「目標言語を意味のやり取りのために使用すること」とされている。岩中によれば、インプットを増やし、多くの「気づき」を発見し、身に付けた言葉をアウトプットして、コミュニケーションなどのインタラクティブな活動を繰り返すことで、英語を自在に操れるようになる。また、これら 3 つのプロセスは、文法や語彙の知識が多いほど効果的に機能するとも述べている。つまり、文法や語彙の学習が多い従来型の英語教育と、得た知識を活用するインタラクティブな活動は、それぞれが独立しているのではないのである。その 2 つの柱はどちらも、実践的な英語が身につくために必須な土台となっていることがわかる。

確かにアウトプット中心の学習は効果的であるが、アウトプット重視の学校教育を十分に行えるだけの資質を備えた指導員を十分な人数を確保することには課題が残る。文部科学省は、67 都道府県・指定都市教育委員会及び大阪府豊能地区教職員人事協議会（計 68）を対象に、公立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の「教師不足」の実態調査を行った（2022）。令和 3 年度（2021 年度）の始業時点で、教師不足が生じている学校数は 1,897 で全体の学校数 32,903 の 5.8%、教師の不足数は 2,558 で学校に配当されている定数 836,079 の 0.31%であることがわかった。教員数が不足している状況では、教育の質を向上させることはおろか、現状の学校教育を維持することすら難しい。アウトプットに重点を置いた教育に転換するのはもっての外で非現実的である。

そこで、英語指導員の人材不足の問題を解決する一つの方法として、AI などのテクノロジーの活用がある。機械による自動学習を取り入れた学習方法はこれからの英語教育に活用できる可能性が大いにあると考えられる。学習者が話しかけるとその発話へフィードバ

ックをくれるようなサービスはすでに存在しており、自身の発話を取り込ませる機械さえあれば、場所を選ばず一人でも話す能力を鍛えられるようになる。例えば、「Duolingo」というサービスは、読む・聞く・書く・話すの4技能をスマートフォンのアプリケーションを通して学習することができる。さらに、世界中のユーザーから集めた膨大なデータを分析し、個人にパーソナライズされた学習プロセスを提案してくれる。そのため、自分の苦手な部分を人の目を気にせずに納得いくまで練習することができる。

実践的な英語の習得には、アウトプット中心の学校英語教育が効果的である。しかし指導者の質と量に関する問題への具体的な解決策はいまだ見つかっていない。そんな中 AI の活用は人材不足解消の糸口になり得る。デバイスさえあればいつでもどこでも、アウトプットの練習ができる時代が到来しつつあるということが分かった。

3. 従来と現在の英語教育¹の比較

3.1 比較対象と方法について

文部科学省の資料から、現行の学習指導要領に改訂されたのが平成 29～30 年で、その前の改訂が平成 19 年～20 年にあったことが分かった。ここでは現行の平成 30 年前後の新学習指導要領（以下、現行）とその前に改訂されたもの（以下、前回）を取り上げ、それぞれの指導要領の小中高の外国語科目（小学校においては外国語活動）の内容の比較・分析を教育課程ごとに行う。国立教育政策研究所の教育研究情報データベースから入手した PDF ファイルに適宜文字化けなどに修正を加えテキストファイルにしたものを、KH Coder に入れてテキストマイニングを行った。使用頻度や共起ネットワークを抽出し、その結果を分析、考察をした。なお、文章中に通し番号として使われた記号はあらかじめ除いてから作業を行った。

3.2 全体を通しての比較

すべての学年を通して、総語数が増加していた。前回から現行にかけて、高校では 4385 語から 13577 語の約 3.01 倍、中学では 2869 語から 4395 語の約 1.53 倍、小学校では 1255 語から 2513 語の約 2.00 倍に増えたことが分かった。10 年の間に国際社会に求められる英語のかたちに変化が起き、求められる素質や目指す目標が複雑になり全体的に内容がより詳細になったため、すべての学年で文章量の増加がみられたと考えられる。

前回と現行の同じ学年の学習指導要領を比較すると、抽出語リストや共起ネットワークには当然変化があった。例えば、「気持ち」という語は現行のもの、特に中高に顕著にみられるようになったという変化があった。一方で、「言語」や「コミュニケーション」という語は前回と現行の小中高すべての学習指導要領にみられたが、頻度は下がりネットワークも現れなかった。ここについてはそれぞれの語ごとに取り上げ前回と現行の間にどの

¹ 先述したとおり、学習指導要領の中でも外国語＝英語として扱っていることに則り、本章内で用いられる外国語という語もすべて英語について言及している。

前回の頻出語上位 3 語は「英語」(58 回)、「言語」(43 回)、「コミュニケーション」(41 回)だったのに対し、現行の 3 語は「活動」(157 回)、「伝える」(129 回)、「文」(129 回)となった。それぞれの共起ネットワークは次の図 1, 2 のとおりである。

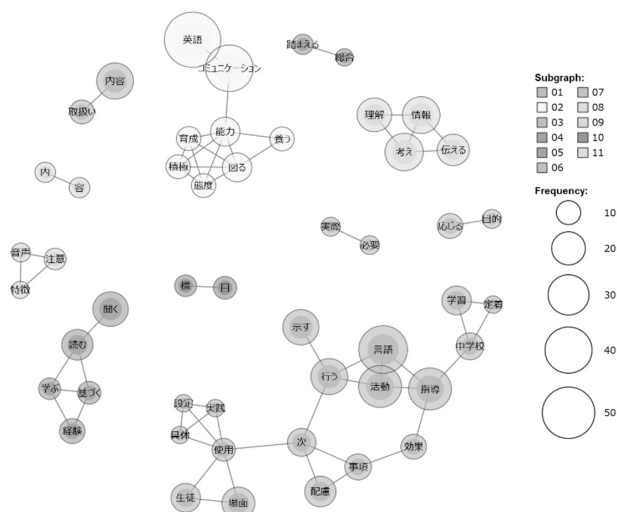


図1 前回の高校の共起ネットワーク

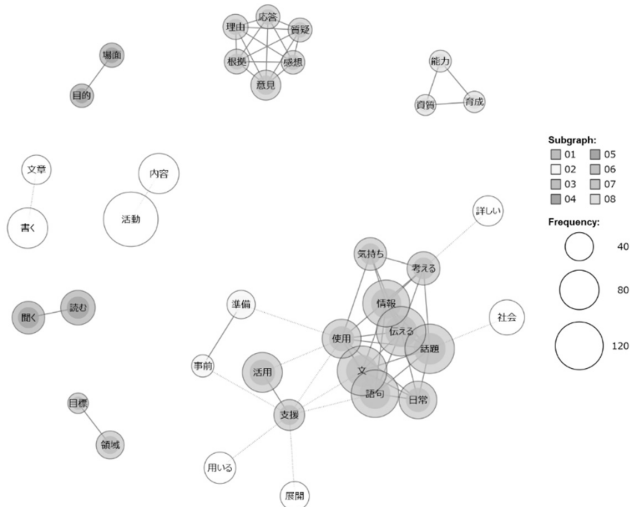


図2 現行の高校の共起ネットワーク

3.3.2 着目点

使用頻度と共起ネットワークとして着目したのは以下の8点である。第一に、出現頻度トップ3の語が「英語」「言語」「コミュニケーション」から「活動」「伝える」「文」にトップ3が変化した(①)。第二に、「情報」の共起が変化した。前回の「理解」「考え」「伝える」から、現行の「語句」「文」「伝える」「話題」「考える」「気持ち」「日常」「使用」になった(②)。第三に、「英語」「言語」「コミュニケーション」の頻度が落ち、それらの単語が含まれるネットワークがなくなった(③)。第四に、「能力」「育成」は「英語」「コミュニケーション」と同じネットワークだったが、「資質」が加わって独立した共起が現れた(④)。第五に、「意見」「感想」「応答」「質疑」「根拠」「理由」のネットワークが現行のものに登場した(⑤)。第六に、前回の「言語」のネットワークに「行う」「活動」「指導」「効果」、「学習」「定着」、「実践」「設定」「具体」「使用」「場面」「生徒」が含まれていた。しかし現行にはそもそも「言語」のネットワークが形成されていない(⑥)。第七に、「読む」「聞く」のネットワークに「学ぶ」「基づく」「経験」があったが、「読む」「聞く」の2語のみになった(⑦)。そして第八に、「学習」「指導」がネットワークに現れなくなった(⑧)。

3.3.3 考察

「情報」の共起の変化と「意見」を含む共起の出現から、内容に厚みが増したということが考えられる。「日常」や「社会」の「話題」について「文」や「語句」を「使用」して「気持ち」や「情報」を「伝える」・「考える」ことを目標にしていることが考察できる。また、「意見」や「感想」に「根拠」や「理由」をつけて「質疑」や「応答」をするような内容も盛り込まれている。つまり、理論立てて幅広いテーマについて自分の考えを建設的に述べることを目指した内容に修正されたということが考えられる。②⑤

前回の「言語」や「活動」のネットワークを見ると、『「設定」した「場面」のもとで「言語」を用いた「活動」を「行(う)」って「効果」の「定着」すること』がねらいだったのではないだろうか。それに加え、「読む」「書く」と「学ぶ」、「英語」「コミュニケーション」と「能力」「育成」「養う」が同じネットワーク内に存在していること、前回の頻度上位3語の頻度が落ちたことから、英語は外国語の授業で学ぶものであり、それを通して何かしらの能力を伸ばすことを目的としたカリキュラムが想定されていたのではないだろうか。つまり前回の内容は、外国語は他の科目と同様に学ぶ授業科目としての側面が現行より大きかったのではないかと推測する。①③④⑥⑦

それに対し現行のものには「学習」や「指導」の頻度も下がり共起ネットワークにも現れず、「活動」「伝える」の頻度が上がった。10年の間で、科目としての外国語の色があまり外国語を使用した活動として捉え直されているのだろう。③⑧

3.4.1 頻出語と共起ネットワーク

図3 前回の中学校の共起ネットワーク

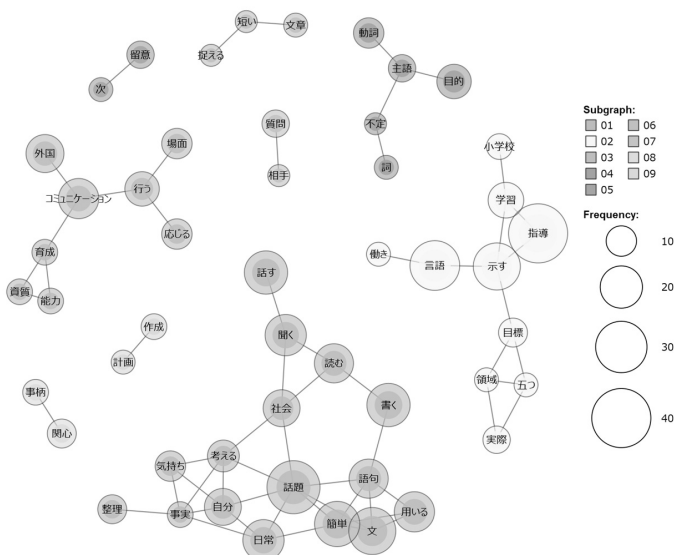


図4 現行の中学校の共起ネットワーク

3.4.2 着目点

使用頻度と共起ネットワークとして着目したのは以下の7点である。第一に、使用頻度上位3語が「言語」「指導」「活動」から「指導」「活動」「話題」になり、「指導」と「活動」の頻度が伸びた(①)。第二に、前回「自分」「気持ち」「考え」「伝える」と「読む」「聞く」「話す」が別々のネットワークで存在していたが、現行ではそれらに「書く」、「話題」「日常」「社会」「簡単」「語句」「文」などが加わったネットワークに統合された(②)。第三に、前回では「コミュニケーション」と「言語」は「活動」「場面」「働き」「図る」「使用」「行う」「取り上げる」と同じネットワークに属していたが、現行ではその2語は別のネットワークを形成するようになった(③)。第四に、現行のコミュニケーションの共起は、「外国」「場面」「応じる」「行う」、「育成」「能力」「資質」になった(④)。第五に、現行の「言語」の共起が、「示す」「目標」「学習」「指導」「五つ」「領域」等になった(⑤)。第六に「質問」「相手」、「文章」「短い」「捉える」、「関心」「事項」のネットワークが現行で出現した(⑥)。そして第七に、文法事項に関する語句の共起ネットワークは改訂後も存在している(⑦)。

3.4.3 考察

現行からは「読む」「聞く」「書く」「話す」が同じネットワークに属するようになり、これらの4技能を関連付けて学習指導要領が考案されるようになったということがわかる。習得のための内容もより詳細になったため共起ネットワークが拡大したと考えられる。具体的には、高校と同様に、『「社会」や「日常」の「話題」について、「簡単」な「語句」や「文」を「用い(る)」て「自分」の「気持ち」や「事実」を「整理」して「考える」こと』が4技能の能力向上に必要なのだろう。②

「コミュニケーション」の共起ネットワークに着目すると、前回では「言語」を「使用」した「活動」だったものが、現行から加わった語から「能力」や「資質」の「育成」を想定していることがわかる。また、「言語」という語は、現行では「目標」や「指導」といった語とともに使われている。この2点から、中学校の外国語科目の重要度が増し、明確なゴールのもとに取り組む科目にステップアップしたといえる。③④⑤

内容や目標をはっきりさせたことによって、いくつかの新しいネットワーク(「質問」「相手」、「文章」「短い」「捉える」など)が現行から出現するようになったのだろう。またその記述を詳細にした結果、「指導」「活動」の頻度も増えたのだろう。①⑥

しかし、改訂の前後どちらにも文法に関する語を含んだネットワークが存在していることから、文法的素養は外国語の習得、あるいは到達度や成績の確認のために不可欠である、という考えが変わっていないことが読み取れる。⑦

3.5 小学校学習指導要領の外国語活動の比較

3.5.1 頻出語と共起ネットワーク

前回の頻出語上位3語は「外国」(22回)、「コミュニケーション」(19回)、「活

動」(14回)だったのに対し、現行の3語は「活動」(31回)、「言語」(25回)、「簡単」(21回)となった。それぞれの共起ネットワークは次の図5、6のとおりである。

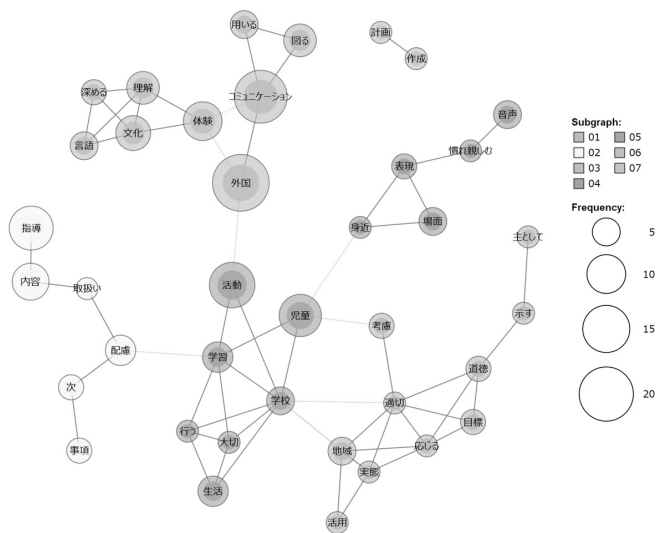


図5 前回の小学校の共起ネットワーク

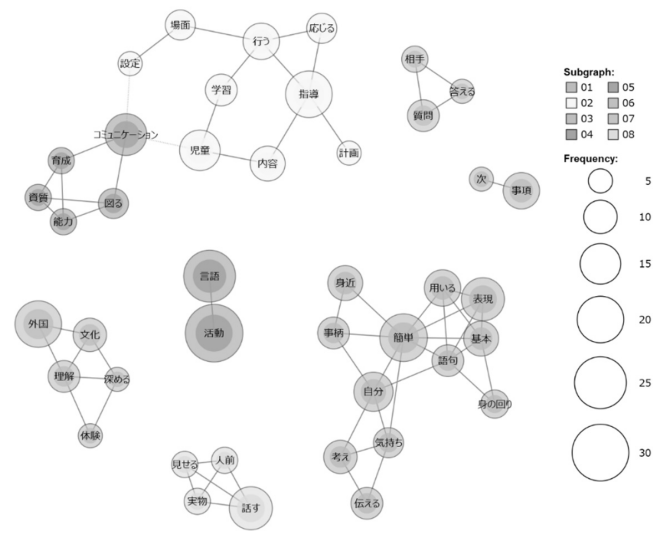


図6 現行の小学校の共起ネットワーク

3.5.2 着目点

使用頻度と共起ネットワークとして着目したのは以下の8点である。第一に、使用頻度上

位3語が「外国」「コミュニケーション」「活動」から「活動」「言語」「簡単」になり、「活動」「言語」の頻度が上昇した(①)。第二に、「活動」の共起が「学習」「学校」「児童」「行う」「大切」「生活」から「言語」になった(②)。第三に、「コミュニケーション」の共起が「外国」「用いる」「図る」から「育成」「資質」「能力」「図る」になった(③)。第四に、「指導」のネットワークが「内容」「取扱い」「配慮」「次」「事項」から、「内容」「計画」「児童」「学習」「応じる」「行う」「場面」「設定」になった(④)。第五に、「音声」「慣れ親しむ」という語がネットワークに現れなくなった(⑤)。第六に、「実物」「見せる」「人前」「話す」のネットワークと「相手」「質問」「答える」のネットワークが現れた(⑥)。第七に、「簡単」「基本」「語句」「表現」「身の回り」「用いる」「身近」「事柄」「自分」「気持ち」「考え」「伝える」の大きなネットワークが現れた(⑦)。そして第八に、「文化」「理解」「体験」「深める」と同じ共起の語が、「言語」から「外国」に変化した(⑧)。

3.5.3 考察

「活動」という語の共起が「学習」や「指導」などから「言語」のみに変化した。「活動」の頻度も上昇したことから、現行の内容は「言語」を用いた「活動」に関する記述が多いということがわかる。①②

「コミュニケーション」の共起が「育成」「資質」「能力」などに変化した。中学校と同様に、「コミュニケーション」を通した「能力」等の向上を目指している。「指導」の共起ネットワークの変化からその内容についても変化があったことが考えられる。「設定」された「場面」のもと授業が「行(う)」われているなど、授業内容がより綿密になったのだろう。③④

高校や中学校と同じような語で構成されたネットワークがみられる。『「簡単」な「表現」で「身近」な「事柄」や「自分」の「気持ち」や「考え」を「伝える」こと』を盛り込んでいる。「人前」や「話す」などのネットワークや「相手」「質問」「答える」のネットワークは、その具体的な内容を示していると考えられる。そういった活動を小学校の授業から行い、これからの時代に必要な英語力の築くことが目的なのではないだろうか。⑥⑦また、これまでに挙げた3つの変化は、小学校の外国語が正式に科目になったことが一因だと考えられる。

「音声」と「慣れ親しむ」の共起ネットワークがなくなったり、「文化」や「理解」などのネットワークと同じ語が「言語」から「外国」になったり、「理解」を「深める」対象がより広く総合的になった。⑤⑧

3.6 登場頻度が増えた「気持ち」という語

前回から現行にかけて使用頻度に大きな変化が見られた単語として「気持ち」がある。前回の小学校には1回、中学校には7回、高等学校には1回出現したのに対し、現行の小学校には8回、中学校には10回、高等学校には53回の出現が確認できた。

また前回の学習指導要領では学年にかかわらず「気持ちを伝える」という使われ方をされていた。対して現行の学習指導要領には、前回とは異なり多様な共起がみられる。小学校には「自分の考えや気持ちなどを伝え合う」「簡単な語句や表現を用いて」といった表現とともに使用されている。中学校では「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し」「表現する」「伝え合う」「話したりする」「書く」などの共起が確認できた。以下のものは現行の高等学校に見られた表現をいくつか取り上げたものである。

- ・ 基本的な／多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを
- ・ 目的や場面、状況などに応じて適切に用いて
- ・ 理由や根拠とともに／明確な理由や根拠とともに／効果的な理由や根拠とともに
- ・ 聞き手／読み手を説得できるよう
- ・ 論理性に注意して話して伝える／文章を書いて伝える
- ・ 話して伝える／段落を書いて伝える
- ・ 論理の構成や展開を工夫して話して伝える／文章を書いて伝える
- ・ 整理して話して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする
- ・ 会話を発展させる

「気持ち」という語の使われ方の変遷に着目することで学習指導要領の改訂にどのような狙いがあったのかを推し量ることができる。まず、学習過程にかかわらず使用頻度が増えたことから、「気持ち」を外国語学習で重視していることがわかる。次に「気持ち」の使われ方が、単に「伝える」だったものが様々な修飾語や述語とともに使われるようになった。例えば使われている動詞は「話して伝え合う」「書いて伝える」「会話を発展させる」と伝える方法に幅が生まれ、修飾語は「論理性に注意して」「明確な理由や根拠とともに」など一工夫を必要とする内容になっている。特に、高等学校の内容からは、論理性を伴った会話や文章を構築することができるようになったり、情報や考え、気持ちを適切に整理して相手に表現できるようになったりするとところに主眼が置かれていると考えられる。以上の2点から、話したり書いたりして論理的に「気持ち」を伝えるやり取りを行うことが外国語の学習に必要であり、そうして培われた力がこれからの国際社会で活躍するための要件なのだろう。

3.7 登場頻度が減った「音声」という語

前回の3つの共起ネットワークに現れていたが現行のすべてに現れなくなった語に「音声」がある。前回の小学校では5回、中学校では6回、高校では6回使われている。現行の小学校では5回、中学校では5回、高校では4回使われている。総語数が増加している

にも関わらず使用頻度が増えていないということは、「音声」の重要度が低下したといえる。

また「音声」の使われ方にも変化がみられる。前回の小学校では、「外国語の音声や基本的な表現に」「外国語の音声やリズムなどに」「慣れ親し(む)」と使われていたり、音声面を中心とした外国語でのコミュニケーションの体験について書かれたりしていた。前回の中学校では、「英語の音声の特徴をとらえ」「正しく聞き取る」「正しく発音する」のように使われていた。前回の高校では、用例のほとんどが「英語の音声的な特徴(中略)に注意し」「聞いたり話したりする」という使われ方であった。現行の小学校では、日本語と外国語との「音声」の違いに気付く、「音声」や基本的な表現、リズムに慣れ親しむ、というように使われ方にあまり変化がない。現行の中学校では、外国語の音声を理解し、知識を深めたり、日本語との違いに留意したりする内容になっている。現行の高校は、現行の中学校と同じように使われていた。また、現行のすべての学年で、「コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、(中略)実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること」という前回では見られない項目が記述されていた。

以上のことを受けて、かつての外国語の授業現場では「音声」的な正確性を重視し、正しい発音で話すことを小中高の学習の中で目標にしていたことが窺える。リズムや表現に慣れる小学校から始まり、中学校で正しく発音できるようにトレーニングして、高校では正確な発音でコミュニケーションを行う、という流れを感じさせる。それに対し現行では、発音の正しさとそれに基づいたコミュニケーションについては記述がない。慣れ親しみ、理解し、知識を深めることが肝要で、絶対的に正しい発音を目指す必要はないという方針に転換した。音声の正確さよりも、実際にコミュニケーションをとる場面になったときに、獲得した音声的知識をどのように活用するかを学習することを重視している。いかにして実地のコミュニケーションで知識を生かし、外国語でやり取りをするか、その前提となる知識と方法を得るのが、現在行われている外国語教育の場なのだろう。

3.8 この章の考察

学習指導要領の内容がより細くなったことによる文量の増加が全課程で見られた。語数が増える中で単語の出現頻度や共起ネットワークにも変化が起こった。社会や日常の話題についての自分の考えや気持ちを伝える活動に関する記述が、全学年を通して前回の学習指導要領から増えているということがわかった。小学校から高校にかけて段階的に、自分の考えや意見などを論理的に伝えられるようにするような授業を目指していることが分かった。その中でも特に「気持ち」という語がキーになっていることが明らかになった。つまり、自ら工夫して考えや気持ち、意見などの内面を伝え合う活動を通して培われる「自分自身を表現する力」が、国際社会でも通用する外国語運用能力の獲得に重要な要素なのである。その一方、改訂後に登場頻度が減少した語として「音声」があげられる。音声や

発音の正確さなど知識面にこだわっていた前回に対し、気持ちの伝達などコミュニケーションをとることを優先するようになった現行という違いが、「気持ち」と「音声」という2語の頻度に表れていると考えられる。前回と現行の学習指導要領の相違点を拾い上げることで、文科省が目指している国際社会で活躍できる人材の像を推し量ることができる。

今回は「外国語科目」に絞ってテキスト分析を行ったが、高等学校の学習指導要領には「英語」の項目が存在する。そこに注目してテキスト分析を行えば、英語に特化した国際社会に必要な人材の定義づけができるだろう。グローバル＝英語のイメージが強い現代においては、より実用性が高くイメージしやすい情報が得られるのではないか。ここについては取り組む意義があり、今後の研究課題にふさわしいと考える。

4. まとめと今後の展望

平成20年ごろに行われた前回の改訂から平成30年ごろの現行のバージョンに改訂される間に、コミュニケーションをより重視する内容に変化した。言語や音声など知識面に關する項目は減り、幅広いテーマに関して自分の考えや気持ちを伝える活動をカリキュラムに盛り込むようになったという変化が、小中高すべての学習課程を通してみることができた。文法的な正しさや発音の正確さが先行した頭でっかちな英語学習から脱却し、とにかくアウトプットの回数を増やすように方針が改められたと捉えられる。

この動きに対し私の考えはおおよそ賛成である。話す力は座学だけで伸ばすことは難しく、だれかにアウトプットしてみて初めて得られる気づきがある。その気づきを積み重ねていって言語はようやく使えるようになるため、学校教育の段階から積み重ねを経験することは言語獲得にとって重要である。アウトプットのトレーニングを繰り返し、伝える力を養う授業内容は、外国語（主に英語）を活用できる国際人材の育成に有効であると考えている。一方で文法や音声などの知識面の学習も依然として続けていく必要があるとも考えている。単に英語を話せるようになることを目指すのではなく、国際人材として世界で活躍できるようなコミュニケーション能力の習得を目標にするのであれば、正しい発音や正確な文法に則ってやり取りをすることは避けられない。どちらか一辺倒に偏った学習をするのではなく、知識面を増強する授業とアウトプットの練習の両方を取り入れたバランスのよい学びが、国際的な場面で求められる外国語能力の習得に重要であると考えられる。発音が正確だからといって絶対に相手に間違いなく伝わるとは限らない。正しい英語より伝わりやすい英語を身に着けるための初期段階の教育が、現行の英語教育なのだろう。その先は各人のやる気やニーズに応じて段階的にレベルアップしていくことが求められる。

アウトプットの練習を学校教育に取り入れることは、英語を活用できる人材の育成には重要である。しかしながら前述の通り、生徒のアウトプットに適切なフィードバックを与えられるような教員の質と日本全国の生徒のアウトプット量に対応できる教員の数を用意するのは困難である。AIを取り入れた外国語学習サービスはこれからもますます発達していくことが見込まれる。指導する教員の育成や雇用にかかるコストを抑えられるため、AI

を用いたアウトプットの練習は今後の学校教育でも取り入れられていくだろう。そうなれば人手不足の解消につながり、現時点で求められるような国際人材の育成はより容易になるだろう。しかし同時に、人間が外国語教育に携わる意義を模索し続ける必要がある。例えば「気持ち」という言葉が現行の学習指導要領のキーワードになっていたが、人の気持ちは今のところ人間にしかわからない。計量不可能で、幅や曖昧さがありながらも人を人たらしめる根源的な要素を扱えるかどうか、人類とテクノロジーの決定的な差といえるだろう。「気持ち」を伝えることで自分自身を表現できるような教育の場を提供できるのは現時点での人間の特権であり、そこに人間が外国語教育にかかわる意義がある。人間がもつ持ち味をどう生かすか、そしてどう取り入れるか、ここにこれからの外国語教育の命運が託されている。

謝辞

本論文の作成にあたり、明治大学国際日本学部国際日本学科 大矢政徳教授には、指導教員として適切にご指導を賜りました。ここに深謝の意を表します。共に卒業論文の作成に取り組んだ大島瑚遥さんには、多くの助言と示唆を頂きました。感謝申し上げます。

参考文献

岩中貴裕（2024）「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習について」『山口県立大学学術情報』17 巻、山口県立大学、pp651-659

小川修平（2017）「英語教育の歴史的展開にみられるその特徴と長所」『盛岡大学紀要』34 号、盛岡大学文学部英語文化学科、pp55-66

寺沢拓敬（2015）『「日本人と英語」の社会学—なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』研究社、pp61-62

渡部淳（2018）「グローバル化時代の大学の人文社会科学教育における英語の布置—コミュニケーション体験から自律的思考を形成する教養の構成要件へ—」『北海道文教大学論集』第 19 号、北海道文教大学、pp113-119

文部科学省（2011）『「学習指導要領」とは？』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm、2024 年 10 月 22 日アクセス

文部科学省（2022）『「教師不足」に関する実態調査』

https://www.mext.go.jp/content/20220128-mxt_kyoikujinzai01-000020293-1.pdf

2024 年 11 月 20 日アクセス

国立教育政策研究所 教育研究情報データベース（2016、2017）『学習指導要領の一覧』

<https://erid.nier.go.jp/guideline.html>、2024 年 10 月 22 日アクセス

Duolingo - 世界 No.1 の外国語学習法

<https://ja.duolingo.com/>、2024 年 11 月 20 日アクセス

日本の Native-Speakerism と学習者の自己肯定感に
ついての分析と提案

Analysis of Native-Speakerism in English Education in Japan and How
it Affects Learners' Self-esteem and a Proposal

明治大学 国際日本学部

大島 瑚遥

Meiji University School of Global Japanese Studies
OSHIMA Koharu

目次

1 はじめに

2 問題提起

2.1 Native-Speakerism の概念と定義

2.2 日本における Native-Speakerism の浸透

2.3 学習と自己肯定感の関係

2.4 日本の子供の自己肯定感

2.5 日本の英語教育と自己肯定感の関係

2.6 日本の英語教育における Native-Speakerism と学習者の自己肯定感

2.7 まとめ

3 提案

3.1 World Englishes の概念と背景

3.2 Lingua Franca Core と共有可能な日本語英語

3.3 まとめ

4 結論

5 注

6 参考文献

1 はじめに

日本で生まれ育った 60 歳（1964 年生まれ）以下のほとんどは学校教育の中で 6 年以上は英語を学んだ経験を持っている（注 1）。英語の早期教育化はどんどん進み、さいたま市では 2016 年から小学 1 年生からの英語教育を開始している（さいたま市）ため、大学進学率の上昇に伴い、これからは 14 年間以上英語を学習する世代が出てくる（注 2）。英語学習期間の長期化に伴い、まったく英語を理解できないという人は少なくなっている。実際に、日本人は広告やパッケージに書かれた基本的な英語を読んで理解できる人の割合が高く、英語が全く理解できない人の割合は国際的にみても少ない、ということを寺沢（2015）は指摘している。一方で、自分の英語に自信を持っている人の割合は少なく（EF,2024）、日本人の 9 割は自分の英語に自信がないと回答している（Duolingo, 2023）。このように、日本の英語教育は学習者の自己肯定感を育むことはできておらず、上達に必要な英語の積極的な使用を促せていないのが現状だ。

本稿では、第 2 章で日本人英語学習者の自己肯定感が低い理由を、ネイティブスピーカーを唯一の英語のモデルと考える Native-Speakerism にあることを説明し、現状の日本英語教育が Native-Speakerism のイデオロギーに塗れていることを問題点として指摘する。そのイデオロギーに抵抗する方法として、第 3 章で、World Englishes の一つとしての日本語英語の肯定、Lingua Franca Core を抑えた共有可能な日本語英語

の教授を提案する。自信とは英語力ではなく、自己認識の方法に宿ると主張し、義務教育で英語を習った全ての学習者が、自身の英語に自信をもてる様になる教育を行うための手がかりとなる論文である。

キーワード：英語教育、自己肯定感、Native-Speakerism、World Englishes、Lingua Franca Core、日本語英語

2 問題提起

2.1 Native-Speakerism の概念と定義

Native-Speakerism という用語は、Adrian Holliday (2005) によって提唱された概念であり、英語教育における「ネイティブスピーカー」の理想化とその影響を批判的に捉えるための枠組みを提供するものである。Holliday は、Native-Speakerism を次のように定義している。

an ideology that perpetuates the belief that ‘native speakers’ represent a superior model of the English language, culture, and teaching methodologies.

（「ネイティブスピーカー」が英語の言語的・文化的および教育的方法論の優れたモデルであると信じるイデオロギーである）

この定義を通じて Holliday は、英語教育界においてネイティブスピーカーが持つ特権的な地位と、それに伴う偏見を問題視している。具体的には、ネイティブスピーカーでない教師（NNESTs）や学習者がしばしば「不十分」とみなされる風潮や、ネイティブスピーカーが唯一の「正しい英語」を体現しているとされる信念を指摘した。続いて、Holliday（2005）は Native-Speakerism を次のように補足した。

A pervasive ideology within English language teaching (ELT), characterized by the belief that 'native-speaker' cultural norms represent a Western culture from which spring the ideals both of the English language and of English language teaching methodology.

（英語教授法（ELT）に蔓延するイデオロギーで、「ネイティブ・スピーカー」の文化的規範が西洋文化を代表し、そこから英語と英語教授法の理想が生まれるという信念によって特徴づけられているもの。）

この定義において、「ネイティブスピーカー」は英語そのものや ELT の「理想的な基準」として見なされる特定の文化的背景（主に西洋）を反映していることが強調されている。Kachru（1992）の同心円モデル（図 1 参照）における外心円（Outer

Circle) の話者は、こうした理想像には含まれず、むしろ非母語話者 (Non-native Speakers) として位置づけられ、しばしば「不足している」存在と見られることがある。

Holliday (2005) の定義にしたがって、本稿では、ネイティブスピーカーという単語を、Kachru の同心円モデルにおける内心円 (Inner Circle) 圏内の英語話者をさす際に使用する。言語話者を「ネイティブ」と「非ネイティブ」の二つに分類することの問題点は、その定義の曖昧さや偏見の助長、多様性の否定、そして教育的観点から適切ではないことは十分承知である。本稿はむしろ、そのネイティブ/非ネイティブの分類を超えた教育的アプローチを提供するためのものであり、便宜上、「ネイティブスピーカー」という単語を多用するが、この二項対立のない教育現場の実現に向けたための論文であることを理解していただきたい。

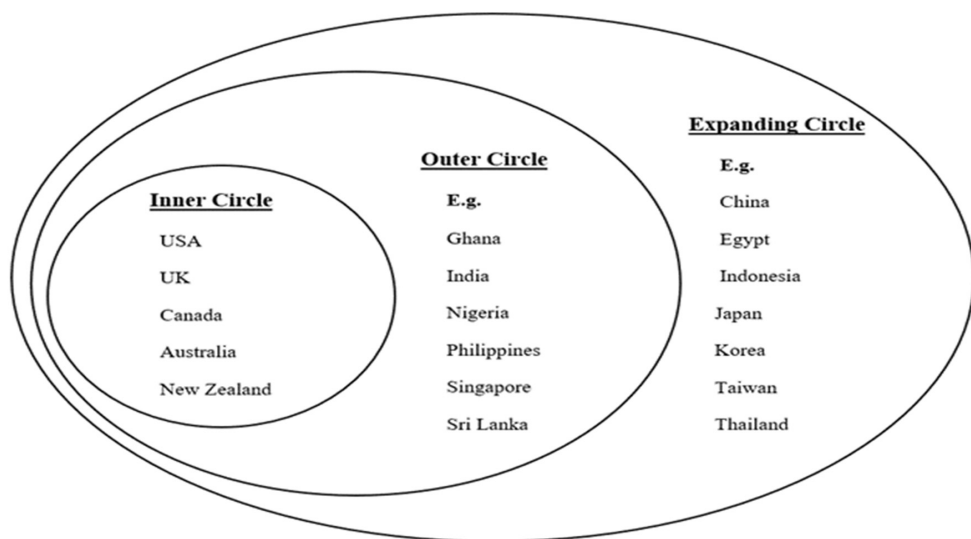


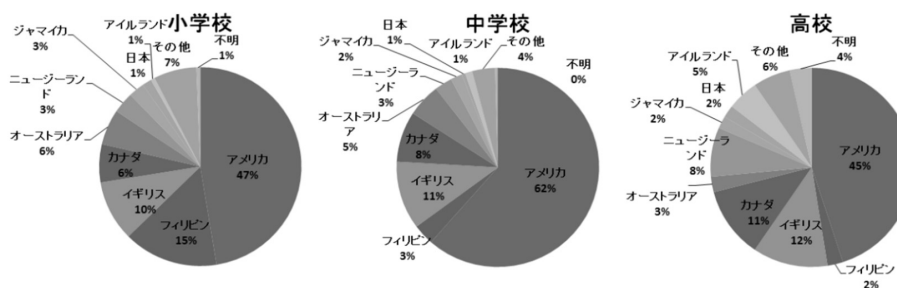
図1 Kachru's Concentric Circles of English (Kachru, 1992)

2.2 日本における Native-Speakerism の浸透

Native-Speakerism のイデオロギーは、日本の英語教育産業においても顕著に現れてお

り、上智大学（2014）が調べた日本の公的教育機関に採用された外国語指導助手

（ALT）の出身国の割合を見ると、アメリカ合衆国が小中高どれにおいても、最も多



い結果となっている（小：47%、中：62%、高：45%）。次にイギリスとカナダ（小：16%、中：19%、高：23%）である。小学校のみフィリピン出身の ALT が15%と突出して多いものの、総じて、ネイティブスピーカーの割合が、小学校で73%、中学校90%、高等学校84%と高くなっている。

小中高校の ALT の国籍の割合 出典 上智大学（2014）p.9

このように、日本英語教育では、一般的な7歳から18歳が広く関わる英語話者はネイティブスピーカーである。音声教材や語彙に関しても、1977年に学習指導要領の音声教育に関する項目で「イギリスまたはアメリカの」という文言が削除された（和田, 2018）にも関わらず、「現在の日本の英語教育現場では、この「一般米語」（補足:General American と呼ばれる、東部と南部以外の全米人口3分の2以上が話しているとされる）が事実上の規範となっている（東外大言語モジュール）」。

このイデオロギーが学習者主導で形成されたのか、教育者主導で形成されたのかは今となっては不明瞭である。しかし、より重要な点としてここで指摘したいのは、Native-Speakerism のイデオロギーは英語教師の雇用の領域のみならず、学習者の意識にも深く浸透している点だ。Cater M. A. （2017）が大手英会話学校首都圏校で学習者32人に対して行った意識調査では、学習者の、ネイティブスピーカー英語教師（NESTs）、非ネイティブスピーカー英語教師（NNESTs）、日本人英語教師

(JETs) に対する意識が顕著にあらわれている。調査データによれば、学習者である自分たちと同じ第一言語を共有する教師 (JTEs) は、なぜ学習者が間違いをするのかを理解できている、という信念も一部で確認されたものの、NESTs は JTEs や NNESTs よりも、発音、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、文法のすべての面で教える能力が優れていると信じる参加者が多かった。また、スピーキングと発音以外の分野では、参加者は JTEs が他の教師よりもこの点で優れていると考える傾向があったが、NESTs は変わらず高い評価を得ていた。一方で、NNESTs については、英語を学習を通じて習得したにもかかわらず、全ての分野で誤りを教えたり認識したりする能力が高いと考える参加者は少数にとどまった。

このように Native-Speakerism のイデオロギーは、雇用の機会と指導現場において具現化され、NNESTs が教育者として学習目標を達成するのに不十分とされている点において日本の英語教育現場で顕著に現れている。加えて、Native-Speakerism は、NNESTs のみならず、NESTs の人権も尊重していないのではないか、という批判をしたのが Noriguchi (2006) である。

日本語や日本文化の知識は、NEST を本物の教材と見なす機関から見た NEST の価値により大きなダメージを与える。日本語を話す NEST はもはや「新鮮」では

ない。むしろ「調整された」NESTなのだ。そして、生徒のニーズに合わせて調整することは、日本では悪い習慣と見なされている。

Noriguchi (2006) によると、日本の習慣で NESTs は、標準的な英語を話す「教材」としてしか見られていない。それは、NESTs の文化的背景や、日本に対する興味から日本にきていることは無視して、彼らの話す英語と内円英語圏の文化の純粋性を保つことを強制される。NESTs がそういったプレッシャーを実際に感じているかどうかは定かではないが、その可能性がここで示唆された。元々、ネイティブスピーカーの英語教育産業における特権を批判する文脈で語られていた Native-Speakerism が、その標的がネイティブスピーカーたち自身にまで広がっているという視座を与えたこの考察は、非常に有益であると考ええる。

このように、日本において、Native-Speakerism は公的機関の雇用にも、私的教育機関の教育者及び学習者の意識にも浸透しており、NNESTs のみならず、NESTs にまで悪影響を与えている。次に、Native-Speakerism のイデオロギーは学習者の自己肯定感にも悪影響を及ぼしているという論を提示したい。

2.3 学習と自己肯定感の関係

教育において学習者の自己肯定感を育むことの重要性は 1980 年代から語られはじめ、カリフォルニア・タスクフォース（1990）は自己肯定感を以下のように定義した。

Appreciating my own worth and importance and having the character to be accountable for myself and to act responsibly toward others.

（自分自身の価値と重要性を認識し、自分自身に責任を持ち、他人に対して責任ある行動をとる人格を持つこと） p35

この定義に従うと、自分自身の価値と重要性の認識は、自分と他者に責任ある人格になるための出発点なのである。この考えは教育基本法（2006 年公布、施行）が説明する、教育の目的と 5 つの目標が目指す人物像に一致している。

教育基本法第 1 条は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」ことを教育の目的としている。教育が目指す「人格の完成」にはカリフォルニア・タスクフォースの定義にあるような、「自分自身の価値と重要性の認識」が必要であるという解釈は容易に可能だろう。続く、5 つの教育目標を定めた第 2 条では、始めの 3 つの項目で、「豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな

身体を養う」こと、「自主及び自律の精神を養う」こと、「自他の敬愛と協力を重んずる」ことが定められている。カリフォルニア・タスクフォースによると、学校の役割は、「倫理的な選択をし、自身と社会に責任のある人間になるために必要な自己肯定感を養うこと」であるとしている。教育基本法第2条における「豊かな情操と道徳心」はカリフォルニア・タスクフォースにおける「倫理的な選択」にパラフレーズが可能で、「自身と社会に責任のある人間」とは「自主及び自律の精神をもち、自他の敬愛と協力を重んずる人間」とすることが可能であろう。

つまり、教育基本法第2条が定めた教育目標と、カリフォルニアタスクフォースが説明する教育の役割はほぼ同義であり、教育の成功には学習者の自己肯定感が必要不可欠であると説明ができる。

1990年代時点でカリフォルニア・タスクフォースに関わった研究者たちは低い自己肯定感は学習の妨げになると考えており、高い自己肯定感が学習を促進する可能性を示唆している。この考えを裏付けるように、自己肯定感（self-belief）（注3）と学業成績（academic achievement）の関係を縦断的に研究した結果をメタ分析によって統合した Valentine&Cooper（2004）は、自己肯定感と学業成績は、相互に影響しあい、学業での成功が自己肯定感を高め、高い自己肯定感がさらなる学業への努力を促すという循環的關係が成り立つことが説明した。一般的な自己肯定感に比べて学業的自己概念（academic self-concept）の領域の方が、自己肯定感と成績の相関性が高く、生

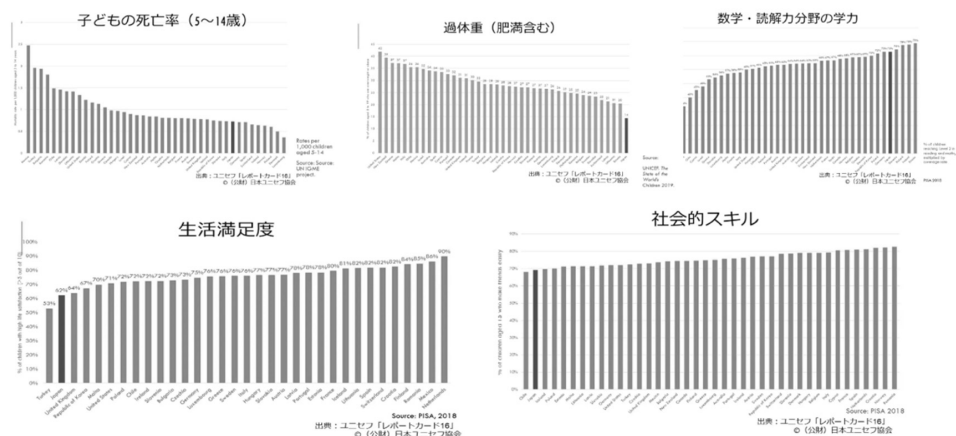
徒の自己肯定感と学業成績の両方を向上させるためには、生徒の状態に合わせた介入や支援的な環境を通して自己肯定感を育てることが重要であることが強調されている。同じように、多くの研究者が、学生の学業成績を向上させる方法は自己肯定感を高めることであると示していたり（Aryana, 2010, Rubie, Townsend, & Moore, 2004）、学業での失敗は低い自己肯定感をもたらすという証拠を見出している（Bankston & Zhou, 2002）。一方で、学業成績と自己肯定感の間には影響力が弱～中程度に止まると主張する研究（Baumeister, Campbell, Kreuger, & Vohs, 2003, Booth & Gerard, 2011）や、相関性がないとする研究（Bankston & Zhou, 2002）も存在している。このように、自己肯定感と学業成績の正確な関連については一貫性がない状態が続いている。（Dawn Camel, 2020）学業の成功には、教師や教材との相性やクラスの雰囲気など様々な要因が関わるため、必ずしも、全ての研究で自己肯定感と学業成績の相関性が証明されているわけではない。

しかし、教育の目的が学業成績ではなく自己肯定感の向上であり、学業成績の向上が自己肯定感の低下を招くというデータは見つからないことから、これらの否定的な結果をもたらした研究によって、教育において自己肯定感が重視されない、と結論づけるのは適切ではない。むしろ、学生に良い成績を取らせることと、健全な自己肯定感を育てることの双方のアプローチが必要であるということが考えられるのだ。それ

では、日本の実際の教育現場における学習者の自己肯定感はどのようになっているのだろうか。

2.4 日本の子供の自己肯定感

2020 年のユニセフレポートカード 16 によると、子供の幸福度の日本の総合順位は 38 カ国中 20 位という低い結果となった。しかし、子供の死亡率や肥満児の割合などの身体的健康は一位を誇り、また数学、読解力分野の学力も 5 位という高い順位である。一方で、生活満足度は 62%で下から 3 位の 36 位、15 歳から 19 歳の自殺率も 7.5%と平均より高く、12 位となった。また、社会スキルもチリに続いて下から 2 位の 37 位と低い結果となった。このように、日本は医療や教育のレベルは世界から群を抜いているのに関わらず、生活満足度が低く、自殺率も高く、社会スキルが低い結果が出てしまっている。



出典 UNICEF (2020)

精神的幸福度の中に自己肯定感が含まれると考えると、このような総合的な幸福度を計るデータにおいても日本の子供の自己肯定感が高いとは言えない。日本は謙遜や自己主張を抑える文化がある（Duolingo, 2023）ため、実際の肯定感よりも低く見積もって回答している可能性があるとしても、自己高揚的な人よりも、謙虚な人が好まれるというのは、アメリカ社会でもみられる（山口, 2017）。そのため、日本だけ実際の生活満足度と相違があるということとはできない。また、謙虚と自己主張といった二項対立は東アジアと欧米でよく語られるが、（イギリス, 64%やアメリカ, 71%）も生活満足度は低いため、当データの正当性は保証されるだろう。

2.5 日本の英語教育と自己肯定感の関係

Duolingo が 2023 年に日本語を母国語とする 15 歳から 59 歳の男女 4700 名に対して各都道府県 100 名の回答を収集した「日本国内における語学学習に関する調査」によると、自身の英語力の自信が「ある」「どちらかというところ」と回答した割合は 10.7%となった。最低でも 6 年の英語教育を受けていた世代（注 1）から、8 年から 10 年受けている世代（注 4）まで、英語力に自信がないままであるというのは、自己肯定感の形成という教育目標に対して、英語教育が寄与できていると評価することはできない。他にも、日本人は、アメリカ人、オーストラリア人、韓国人、中国人、フィリピン人、プエルトリコ人より対人コミュニケーション不安が比較的高い（矢島,2003）ことが報告されている。また、近年、日本の英語教育はリスニングやスピーキングに力を入れていて、コミュニケーションを重視した英語教育にシフトしている（袴 2025）が、教室内にリスニング・スピーキング活動が多くなると、外国語の学習不安が高まりやすい（矢島, 2003）。したがって、教育目標の達成、国際的にみても学習者の不安が高いこと、近年の英語教育の動きの観点から、日本人英語学習者の自己肯定感には、ますます優先的に注意を払う必要が出てきている（安田, 2015）。

2.6 Native-Speakerism と学習者の自己肯定感

英語に自信がない理由として、英語力が国際的にみても低い（EF, 2024）ということが考えられる。実力が伴わないから自信がない、という正しく自己評価をしている場

合だ。しかし、動機づけや学習方法の好みと選択によっては、習熟度が低くても自己肯定感が高い場合はありえる（安田, 2015）。

加えて、学習者が普段から国際比較を用いて自己評価を行っているとは考えづらい。むしろ、学校の場合では自分の隣の席の生徒と、社会人の場合は取引先のビジネスパーソンなど、身近な存在と比較するだろう。実際に、児童生徒及び大学生にアンケートをとった末吉（2020）では、工業大学生に限定したアンケートの中で、今の自分に満足しているかに関する自由記述の中で、「周囲の人の目を気にし過ぎて、場合により自信を失くす」という回答がみられた。つまり、自己評価とは何かとの比較によって行われるのだ。また、James（1890）によると、成功と期待のバランスが自己評価の基礎が基礎となる。具体的には成功 ÷ 期待 が自己肯定感となるのだ。つまり、学習においては、自身の目標や理想、期待される達成度と自分の習熟度（成功）を比較して、自己評価を行う場合がほとんどなのである。そして、日本の英語教育において、目標とされる英語のモデルとはいわゆるネイティブスピーカーなのだ（本稿 2.2）。しかし、ネイティブスピーカーを目指した英語学習では、高すぎる目標に対して、いつまでたっても成功が期待を上回らず、10 年間学校教育で英語学習をしたとしても、自信がないままにいる学習者がほとんどになってしまう。日本の英語教育では実用的な英語は身につかない、といった議論は多くされているが、改善が必要なのは、英語力をあげることだけではなく、自己評価や自己認識の方法を変えることなの

ではないのだろうか。つまり、ネイティブスピーカーを唯一とした評価軸を変えることで、自分自身の英語に自信を持てるようになる、という提案である。矢島（2003）は言語の上達に必要な積極的なコミュニケーションの実現には、「いかに学習者が自分の英語力を肯定的に認知し、知っている知識 を活用できるような学習環境を創設できるかどうかが鍵である」と示唆している。

2.7 まとめ

英語教育界ではネイティブスピーカーが特権的な地位を持ち、彼らの英語を唯一のモデルとし、その他の英語を不十分とみなす Native-Speakerism が蔓延しており、英語学習者、外円の話者、そしてネイティブスピーカーたちに対しても悪影響を与えている。学習者は、自身の英語を自己評価する際に、目標や期待値と、自分の成功を比較している。日本の英語教育ではその期待値をネイティブスピーカーに設定させているため、期待値にいつまで経っても達成できず、学習者の自己肯定感、国際的にみても非常に低くなってしまっている。日本人は対人コミュニケーション不安が他国に比べて高い（矢島, 2003）というデータや、そもそも教育の目的は自己肯定感の向上であることを考慮すると、自己肯定感を上げるための教育に切り替える緊急性は高い。現状の、ネイティブスピーカーを目指させる英語教育のままでは、言語使用不安を減らし、積極的なコミュニケーションを図るための自信をつけさせ、さらなる英語力の向上によって成功体験を増やさせていくことは困難であると判断できる。そのため、

Native-Speakerism 的な教育から脱却する方法を検討していく必要がある。次の章では、その方法として、中心を目指す Native-Speakerism ではなく、英語のバリエーションに注目した、World Englishes を用いた英語教育を提案し、日本英語教育への導入を検討してみたい。

3 提案

3.1 World Englishes の概念と背景

「World Englishes」という用語は、Braj B. Kachru の同心円モデル (2.1, 図 1) に基づいている。同心円モデルとは、英語の話者をその広がりや英語の使われ方から、内円、外円、拡張円の三種類に分類したものである。本論でネイティブスピーカーと呼んでいる、英語話者の移動の歴史によって英語が広がった英語話者で、第一言語として英語 (English as the First Language) (EFL) を話す人々を内円の話者とし、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド (50 音順) の英語がそれに値する。次に、植民地期に英語が広まった国で、第二言語として英語 (English as the Second Language) (ESL) を話す人々を外円の話者とし、インド、シンガポール、ナイジェリア、フィリピン、パキスタンなど 10~15 カ国がそれに値する。最後に、国際化によって英語が広まり、ビジネスや観光、学術交流で外国語として英語 (English as a Foreign Language) (EFL) を話す人々を拡張円の話者とし、ブラジ

ル、韓国、中国、日本、ロシアなどがそれに値する。全てのモデルは単純化しすぎていて完璧なものとはなりえないが、さまざまな種類の英語使用について考える上で、この方式がいまだに最も便利な枠組みを提供しているため、多くの学者が今日までこの方式を採用している (Jenkins, 2014)。この同心円モデルは、多様な英語の現実を表し、World Englishes という用語の社会言語学的背景を強調するために使用される。Oxford English Dictionary は World Englishes を以下のように定義する。

a term referring to localized or indigenized varieties of English spoken throughout the world by people of diverse cultural backgrounds in a wide range of sociolinguistic contexts.

(さまざまな社会言語学的文脈の中で、多様な文化的背景を持つ人々によって世界中で話されている、地域化または土着化された英語の変種を指す言葉)

この概念は、英語が単一の標準形として存在するのではなく、地域や文化的背景に応じて多様な形で発展しているという現実を反映している。英語の多様性を認識するこの概念は、外円、拡大円の英語を、英語のあり様そのものとして肯定し、英語のヴァリエーションの一つとする点から、言語的平等を促進する。そして、英語が英米文化のみと結びつき文化的、教育的規範となることを否定し、全英語話者の文化的背景を

尊重する。これは、ネイティブスピーカーのみを唯一のモデルと考え、英語が西洋文化を代表すると主張する Native-Speakerism と対極的な立場を示している。

加えて、English as a Lingua Franca (ELF) (国際共通語としての英語) に関する研究では、コミュニケーションの成功が標準英語に基づく正確性よりも、相互理解に依存することが示されている (Jenkins, 2000, Seidlhofer, 2011)。つまり、ネイティブスピーカーたちのコミュニケーションモデルに合わせようとする Native-Speakerism 的コミュニケーションよりも、自分の文化を反映させ、多様な英語を理解する態度である World Englishes 的な英語のコミュニケーションのほうがコミュニケーションは成功することを表している。

このように、World Englishes の立場は、言語的平等、文化的多様性の尊重の観点のみならず、国際コミュニケーションの強化においても非常に重要であり、Native-Speakerism 的な態度からの脱却の糧となる点から、教育現場で求められるべき態度である。そして、当論文の目的である、日本人英語学習者の自己肯定感の観点においても、日本語英語を一つの英語のバリエーションとして肯定的に捉えることの正当性を World Englishes は示している。つまり、英語を話すからと言って、日本人らしい発音を捨てる必要はないし、西洋人のように握手で挨拶をして、彼らのような言葉選びでジョークをとばす必要はないのだ。現代の英語は「自分の文化を表現する言語でもあるし、他の多様な文化を理解する言語でもある」(本名, 2003) ため、挨拶の時に

辞儀をして、共有できる範囲内で日本語らしいアクセントの英語を使用することがむしろ奨励されるのだ。このことは、英語学習において、ネイティブスピーカーの英語に近づけるという Native-Speakerism 的な従来の軸から、自分らしい英語を話すという新しい軸を提供する。そしてそれは、いつまで経っても到達することが難しかった従来の期待値とは違い、今ある日本人としての自分の延長線に存在するものであり、学習者の自己肯定感をあげる重要な鍵となる。

そして、World Englishes を通して多文化を理解することは、国際的なコミュニケーションの成功率をあげる。英語を 10 年勉強したのに、アメリカ人の英語でなくとも理解できない人より、色々な英語のバリエーションに触れてきた人の方が、国際的なコミュニケーションが成功しやすいというのは想像に難くなく、実際にそれを裏付ける研究結果が出ている (Smith and Bisazza, 1982)。さらに、Jenkins (2000) は国際的なコミュニケーションに置いていかれないように、英語のネイティブスピーカーたちにも国際英語の発音指導をするべきだという提案を 2000 年の時点で行っている。このように、World Englishes を理解することは国際的なコミュニケーションで成功体験を得るのに必要不可欠であり、その体験は自己肯定感の向上に必ず寄与するものなのだ。つまり、これからの日本英語教育は、自分の英語を肯定的に捉えさせる教育と、世界各国の多様な英語を理解させる教育の 2 つの観点からアプローチをすることで、教育の目的であり、語学上達の足がかりとなる「自己肯定感」を手に入れるこ

とができるのだ。この理論のもと、次に、共有可能な日本語英語とはどのようなものなのか、検討していこう。

3.2 Lingua Franca Core と共有可能な日本語英語

全ての英語がその国文化や言語的特徴を反映しているユニークなものとして肯定されるように、日本人英語学習者は、日本語英語を World Englishes の一部として肯定すべきである。そして、日本語話者らしい発音や、文化のスタイルを誇りに思うべきである。一方で、国際的なコミュニケーションをより円滑にするために、その日本語英語は共有可能である必要がある。自国の文化を維持した態度と、共有可能な英語を話す態度は、対立するものではなく、むしろどちらも国際コミュニケーションを成功させる要因になることは前章まで説明がなされた。国際コミュニケーションに置いて共有可能な英語を考えるには、Jenifer Jenkins (2000) が考案した Lingua Franca Core (LFC) の概念が役に立つ。これは、英語母語話者が話す方言を含む様々な英語の中に共通する核となる発音があるという研究分野の中で、対象を非母語話者間のコミュニケーションで使われる英語に広げたものである。Jenkins は LFC の研究で、非母語話者間の英語によるコミュニケーションで、相互理解を図るのに最低限必要な発音を発見した(表2)。

子音(consonant)	すべての子音 (/θ/ and /ð/, [ɪ]を除く)
	/r/は[r] アメリカ英語の様に
	母音の間の/t/ (e.g., better の/t/はイギリス英語の様に)
	/p/,/t/,/k/の帯気音(aspiration)は必須<無声音 (voiceless)を強調
連続子音(consonant cluster)	語頭及び語中の連続子音は明瞭に発音する (e.g., product の/pr/は明瞭に)
母音(vowels)	母音の長短の区別をつける 無声音の前の母音は短く(e.g., kit) 有声音の前の母音は長く(e.g., kid)
	/ɜ:/は正しく発音する (e.g., girl, bird)
核強勢(nuclear stress)	文章内の適切な位置に強調とポーズを入れる (e.g., women without her/ man is nothing women without her man/ is nothing)

表2 Lingua Franca Core (LFC)リスト

(Jenkins (2000) p137-156、中山 (2023) 表 6、ELF pronunciation (2013) をもとに作成)

まず、子音に関して、日本語に存在しない/l/と/r/そして/b/と/v/の区別は変わらず重要だが、/θ/と/ð/に関する指導は熱心に行う必要はない。そして、連続子音に関して、Jenkins (2000 p142) は日本人が連続する子音の間に、[ə]を挿入し、product を [pə'rodʌkətə] と発音しても、完璧に理解されていたことを発見している。そのため、全ての子音の後ろに母音を入れる日本語英語の特徴は、否定される必要がない。

次に、母音については、英語は約 15 の母音があるとされているが、LFC になりえるのは、その長さと/ɜ:/のみである。長さに関しては、日本語は母音の長さで意味を変える言語ではあるものの（主人 shujin と囚人 shu-jin）、続く子音が無声音か有声音かで分ける言語ではないため、指導が必要である。

最後に、強勢に関しては、文章全体の強調に関しては言及があったものの、英語特有のストレスタイミングは言及がされておらず、相互理解可能性においては優先度が低い。

以上の日本語英語の特徴と LFC との比較を、現在の文部科学省が定める発音教材（参考資料 3）に当てはめると、（イ）のリンキングと（ウ）の語と句の強勢は LFC ではなく、国際的なコミュニケーションの成功に寄与しないことがわかった。（ア）

に関しては、/l/と/r/、/b/と/v/、/3:/にターゲットを絞ればよく、大部分を占めるその他の指導の優先度は低い。むしろ、帯気音の概念を教えることと、母音の長さのルールを教えることが新しく必要である。

忘れてはならないのは、LFC の概念は、現状のネイティブスピーカーに寄せた非現実的で過剰な期待値を捨て、コミュニケーションに重点をおくために作られたものである。LFC から発音が外れていたとしても、コミュニケーションが成功すれば、それは成功である。本稿で行った LFC を用いた提言は、あくまでもコミュニケーションを成功に導き、学習者の自己肯定感をあげるためのものである。

(3) 言語材料

(1) の言語活動は、以下に示す言語材料のうちから、1の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。

ア 音声

(ア) 現代の標準的な発音

(イ) 語と語の連結による音変化

(ウ) 語、句、文における基本的な強勢

(エ) 文における基本的なイントネーション

(オ) 文における基本的な区切り

参考資料 3 文部科学省が定める発音教材

3.3 まとめ

前章では、期待値をネイティブスピーカーに設定しないことが語られたが、3章では、世界の英語の使われ方の現実と、現実的な国際社会でコミュニケーションを成功させるための、新しい英語の基準を提案した。

まず、Kachru の World Englishes の概念をあげ、英語は西洋の文化を理解するためのものではなく、自分の文化を表現し、他の多様な文化を理解するための言語に変化した現実が説明され、自分の文化背景を反映させた英語を話す正当性が示された。そして、国際的なコミュニケーションが成功するかどうかは、いかに標準の英語に合わせるか、ではなく、異文化理解に依存する (Jenkins, 2000, Seidlhofer, 2011) ことが示された。つまり、ネイティブスピーカーは、今まで英語の基準であったかもしれないが、現状とこれからの未来は、多様な英語を理解しようとする態度と、自分の文化を英語で表現する態度が、コミュニケーション成功の鍵となるのだ。

次に、日本人英語学習者の自己肯定感の向上のために、自分の発音を肯定的に捉え直し、国際コミュニケーションを成功に導く方法として、非母語話者間の英語によるコミュニケーションで、相互理解を図るのに最低限必要な核となる Lingua Franca Core を抑えた日本語英語を検証した。文部科学省が定める音声教材と照らし合わせた際に、LFC において優先順位が低い項目を教えていたり、優先順位が高い項目を取り逃がしていることが多々あることがわかった。英語学習においてスピーキングやリスニングの優先度が上がっている現状 (禰, 2024) から、音声教育の改善が必要であることがわかった。

4 結論

今回は、Native-Speakerism への抵抗するための、新しい期待値を提案するという文脈から、LFC を提案することにとどまったが、学習者にかかる称賛の言葉やフィードバックのやり方なども、直接的に自身の発音に自信をつけさせる方法として重要である。また、今回は World Englishes の義務教育での教授の重要性は認めたものの、教授法についての研究や、自己肯定感との実際のつながりを検証するには至らなかった。これらの研究は、西洋が所持していた英語というパラダイムから、世界共通語としての英語にシフトした現実を反映させ、国際的なコミュニケーションを成功させて学習者の自己肯定感を上げるという本稿の目的のために重要であるため、これからの課題とし、研究していきたい。また、本稿で言及されたのは音声を中心だったが、World Englishes の重要性の高まりや、オンラインでのコミュニケーションが増えたことから、ライティング指導に導入させる (Abdul 2020) 研究も進んでいるため、文字情報での学習への導入の検討も同様に必要である。

インターネットには、英語学習者の発音を指摘する日本人をよく見かける。そういった、ネイティブスピーカー近づけることのみを期待する英語学習は、国際社会での現実を反映しておらず、時代と逆行していて、無意味で有害である。新しい基準は完成されつつある。自分達を逆差別し続けるイデオロギーを子供達に強制することに終止符を打つ世代として、これからも、生涯学習である言語学習を続けていきたい。

5 注

注 1) 1964 年生まれは、中学、高校で英語教育を受けていて、高校進学率は約 94% であった（総務省統計局, 2020)ことから、当時多くの 10 代が 6 年間は英語教育を受けたとした。

注 2) 大学教育の必修英語は 2 年間のカリキュラムが多いため、小学校 6 年間、中高 6 年間、大学 2 年間の計 14 年間の計算である。

注 3) 自己肯定感の定義は様々な議論があるが、当論文ではその議論をまとめた

Dawn Camel (2020) の定義 ” *the overall sense of confidence a person has in their worth and abilities* (自分の価値や能力に対する総合的な自信) のもと、self-esteem のみならず、self-belief といった単語も自己への自信という観点から同じように自己肯定感と訳した。

注 4) 2002 年生まれは 2011 年に小学校での英語教育の義務化が始まってから 2 年間、中学、高校で 6 年間、彼らが 18 歳を迎え大学進学を検討した 2020 年の大

学進学率 55%（総務省統計局, 2020）で一般的な大学は 2 年間の英語の必修があるとした場合、半分以上は 10 年間英語教育を受けることになる。ちなみに 2011 年生まれは小学 3 年生から外国語活動として英語教育を受けているため、大学進学した場合、11 年間英語教育を受けることとなる。

6 参考文献

- Abdul, K.S. (2020) World Englishes Approaches to the Teaching of Writing: A Survey of Afghan University English Teachers. *Cornerstone Minnesota State University Mankato*.
<https://cornerstone.lib.mnsu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1993&context=etds>
- Aryana, M. (2010). Relationship Between Self-esteem and Academic Achievement Amongst Pre-University Students. *Journal of Applied Sciences*, 2474-2477.
- Bankston, C., & Zhou, M. (2002). Being Well vs. Doing Well: Self-Esteem and School Performance among Immigrant and Nonimmigrant Racial and Ethnic Groups. *International Migration Review*, 389-415.
- Baumeister, R., Campbell, J., Krueger, J., & Vohs, K. (2003). Does High Self Esteem cause better performance, interpersonal success, happiness, or healthier lifestyles? *Association for Psychological Sciences*.

Booth, M., & Gerard, J. (2011). Self esteem and academic achievement: A comparative study of adolescent students in England and the United States. *Compare: A Journal of Comparative and International Education*.

California Taskforce. (1990). Toward a state of Esteem. The Final Report of the California Task Force to Promote Self-esteem and Personal and Social Responsibility. *California State Dept. of Education, Sacramento*
<https://files.eric.ed.gov/fulltext/ED321170.pdf>

Carter, M. A. (2017). Learner Native-Speakerism at the Eikaiwa Gakkou. *JALT*.
<https://jalt-publications.org/files/pdf-article/jalt2016-pcp-001.pdf>

Dawn Camel, B.A. (2020). Improving Student's Academic Performance from the Inside Out: The Relationship Between Self-Esteem and Academic Performance A
RESEARCH SNAPSHOT
https://www.jsums.edu/murc/files/2020/07/Self.EsteemAcademicPerformance.MURC_Snapshot_June30.2020.pdf

Duolingo. (2023). Duolingo Language Report 2023
<https://drive.google.com/file/d/1M3ArpAPofs6fbLZ3Dstcadzk1EMYoCEo/view>

EF. (2024). Sekai Saidaino Eigo nouryoku shisuu ranking 2024 “*World Biggest English Proficiency Ranking 2024*”

<https://www.efjapan.co.jp/epi/>

EFL Pronunciation (2013) What is the Lingua Franca Core?

<https://elfpron.wordpress.com/2013/11/21/what-is-the-lfc/>

Holliday, A. (2005). *The Struggle to Teach English as an International Language*

Oxford University Press

Valentine, J. C., DuBois, D. L., & Cooper, H. (2004). The relation between self-beliefs

and academic achievement: A meta-analytic review. *Educational Psychologist*

39(2)p111-133

[https://dukespace.lib.duke.edu/server/api/core/bitstreams/6601a42f-6d53-44fa-](https://dukespace.lib.duke.edu/server/api/core/bitstreams/6601a42f-6d53-44fa-8876-e05dc54e4079/content)

[8876-e05dc54e4079/content](https://dukespace.lib.duke.edu/server/api/core/bitstreams/6601a42f-6d53-44fa-8876-e05dc54e4079/content)

James, W. (1890). *The principles of psychology*. New York: Henry Holt and Company.

<https://www.gutenberg.org/cache/epub/57628/pg57628-images.html>

Jenkins, J. (2000). *The Phonology of English as an International Language: New*

Models, New Norms, New Goals.

Jenkins, J. (2014). *Global Englishes: A Resource Book for Students*. Routledge.

Kachru, B. B. (1992). Teaching world Englishes. in Kachru, Braj B., ed. *The other*

tongue: English across cultures. University of Illinois Press, 1992.355-366.

Noriguchi, S. (2006.9.15). English education leaves much to be desired. *Asahi Shimbun*.

Rubie, C., Townsend, M., & Moore, D. (2004). Motivational and Academic Effects of Cultural Experiences for Indigenous Minority Students in New Zealand. *Educational Psychology*.

Seidlhofer, B. (2011). *Understanding English as a Lingua Franca*. Oxford University Press.

Smith, L. E., & Bisazza, J. A. (1982). The comprehensibility of three varieties of English for college students in seven countries. *Language Learning*, 32, 259-270.

<https://pweb.cc.sophia.ac.jp/1974ky/Interim%20report%20of%20ALT%20Survey%202014.pdf>

埴誠人（2024）国際社会で求められる外国語運用能力ーテキストマイニングによる学習指導要領の分析ー 『明治大学国際日本学部学生論集第 11 集』（2024）

さいたま市 『さいたま市の英語教育“グローバルスタディ”』

<https://www.city.saitama.lg.jp/003/002/008/101/001/p062652.html>

上智大学（2014）. 小学校・中学校・高等学校における ALT の実態に関する大規模アンケート調査研究中間報告書（p.9）

末吉（2020）今、求められる児童生徒等の自己肯定感を高める教育課程の一考察ー児童生徒及び大学生を対象にした自己肯定感調査を通してー. *日本工業大学*

<https://jaell.org/wp-content/uploads/2022/04/25yasuda.pdf>

総務省統計局 (2020). 『学校基本調査 年次統計進学率 (1948 年～)』

https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003147040&utm_

寺沢拓敬 (2015) 『「日本人と英語」の社会学—なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』

研究社

東外大モジュール, アメリカ英語とイギリス英語の発音の違い

https://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/en/comparison/usuk_p/

中山聡 (2023). 日本人英語学習者の発音の容認度：LFC に基づく予備調査の結果と仮説の提案. 『西南学院大学紀要』, 17, 1-12.

<http://repository.seinan-gu.ac.jp/bitstream/handle/123456789/2438/gs-n17-p1-12-nak.pdf?sequence=1&isAllowed=y>

本名信行 (2003) 『世界の英語を歩く』. 集英社新書

矢島智子 (2003) 第二言語コミュニケーションと情意要因：「言語使用不安」と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」についての考察. 『外国語教育研究』 第 5 号 (2003 年 3 月). 関西大学

『第 5 号 (2003 年 3 月)』. 関西大学

https://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_education/05/6yashima.pdf

安田利徳 (2015) 日本人英語学習者の自尊感情を高めるために—基盤となる尺度の作成. 早稲田大学

<https://jaell.org/wp-content/uploads/2022/04/25yasuda.pdf>

山口勸（2017）謙遜と自己高揚の普遍性に関する 13 カ国比較研究：脳生理学的基盤

の検討を含めて、*科研費*

[https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-](https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-25285177/25285177seika.pdf?utm)

[25285177/25285177seika.pdf?utm](https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-25285177/25285177seika.pdf?utm)

UNICEF. (2020). ユニセフ報告書「レポートカード 16」先進国の子どもの幸福度をラ

ンキング 日本の子どもに関する結果

<https://www.unicef.or.jp/report/20200902.html>

和田あずさ（2018）. 学習指導要領にみる英語音声教育の変遷. 『兵庫教育大学 JAILA

Journal』, 4, 119-129

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jailajournal/4/0/4_119/_pdf/-char/ja

「教育虐待」の言説分析
—「クレイム申し立て活動」からみる第三者と当事者—
Discourse Analysis of “Educational Abuse”
from the ‘Claims-Making’ Perspective

明治大学 国際日本学部
津川 さくら

Meiji University School of Global Japanese Studies
TSUGAWA Sakura

目 次

はじめに

- 1 「教育虐待」について
 - 1.1 そもそも「教育」「虐待」とは何か
 - 1.2 「教育虐待」の定義、使用例
- 2 本研究の方向性
 - 2.1 先行研究
 - 2.2 問題意識
 - 2.3 研究方法
 - 2.3.1 「児童虐待」問題における構築主義的な先行研究
 - 2.3.2 J. I. キツセ、M. B. スペクター『社会問題の構築』（訳書 1990 年）
 - 2.4 本研究の意義
- 3 「教育虐待」の使用例の変遷
 - 3.1 初期の使用例
 - 3.2 事件を契機にした言説の盛り上がり
- 4 「クレーム申し立て活動」としての妥当性
 - 4.1 クレームの「前提」「論拠」「結論」のレトリック
 - 4.1.1 クレームの「前提」
 - 4.1.2 クレームの「論拠」
 - 4.1.3 クレームの「結論」
- 5 語の使用による効果
 - 5.1 言説の成果、及び期待される効果
 - 5.1.1 非クレーム側としての一般受容層への効果
 - 5.1.2 クレーム申し立て者への効果
 - 5.2 言説の意図しない影響

おわりに

はじめに

近年、“毒親エンタメ”が若者の間で人気を博している。その代表例として、お笑いコンビであるラランドによる「お母さんヒス構文¹」や、つつみのコミックエッセイ『毒親に育てられました²』が挙げられる。

お母さんヒス構文は、ラランドのYouTubeチャンネルの中でも人気のコンテンツであり、特に2023年7月9日に投稿された「お母さんヒス構文の作り方【ラランド切り抜き】#shorts³」と題するショート動画は2024年10月3日時点で520万回再生もされている。また、つつみの『毒親に育てられました』は自身のブログ⁴で2019年7月9日から連載されており、2020年に第1巻として書籍化されたものが発表された。のちに完結版の第3巻が2022年に発売され、一時は話題書となった。

上記で挙げたコンテンツは、家庭という、人々が他人に話すことを憚るようなセンシティブな内容を取り扱い、その家庭の中で生成されたスティグマをポップに表現するという点で共感を得ており、ラランドの動画のコメント欄の中には、「ヒス構文」を応用して、母親とのさまざまな「ヒスエピソード」を共有しているのが窺える。

このようなトレンドが渦巻く中で、「教育虐待」という語も近年使用例が増えてきている。「教育虐待」という語は、子どもシェルターである「カリヨン子どもセンター」理事長・坪井節子が、2011年12月に行われた日本子ども虐待防止学会学術集会において、「親が望む進路を押しつけ、服従させることは『教育虐待』と認識するべきです」と主張したことが『朝日新聞』の2012年2月9日の記事⁵に掲載されており、それが始まりとされている。それ以降、「教育虐待」により殺害事件にまで発展したものはニュース報道や、新聞記事となり、教育ジャーナリストや臨床心理士などにより語られ続けている。

本研究は、「社会問題は言説によって構築される」という社会構築主義的な視点に立脚し、「教育虐待」という概念がいかに関与されてきたかに焦点を当てる。具体的には、「教育虐待」問題における「クレイム申し立て活動⁶」に注目し、その言説を分析することで、「教育虐待」の社会的構築過程を明らかにすることを目指す。

¹「お母さんヒス構文」とは、ラランドのサーヤ曰く、「お母さんが論理を飛躍させたり論点をすり替え、ヒステリックな語気を伴うことで相手に罪悪感を抱かせる構文」である。(参考：ララチューン【ラランド公式】YouTube「お母さんヒス構文解説」2023年1月12日、<https://www.youtube.com/watch?v=cQG5j8hdfUE> (参照 2024年10月2日))

²つつみ『毒親に育てられました』KADOKAWA、2020年

³ララチューン【ラランド公式】YouTube「お母さんヒス構文の作り方【ラランド切り抜き】#shorts」2023年7月9日、<https://youtube.com/shorts/VriDszt8qqk> (参照 2024年10月2日)

⁴つつみ「つつみのブログ」livedoor Blog、<https://tutumi0123.blog.jp/> (参照 2024年10月3日)

⁵大久保真紀「「教育という名の虐待」、学会で警鐘 親の過干渉・教師の放置」『朝日新聞』2012年2月9日

⁶社会学において、M. B. スペクターとJ. I. キツセが提唱した概念であり、「ある活動したいから他の者に向けての、ある想定された状態について何かをすべきだという要求」という意味を持つ (M. B. スペクター、J. I. キツセ、村上直之訳『社会問題の構築』マルジュ社、1990年)。

1「教育虐待」について

1.1 そもそも「教育」「虐待」とは何か

「教育虐待」は、「教育」と「虐待」の2つの単語から構成されている。そのため、「教育虐待」言説について考察を進める前に、それぞれの用語の定義をおさえておく必要がある。

「教育虐待」の成立過程を順序立てて考察するためにも、まずは「虐待」から確認したい。

「虐待」の中でも、「児童虐待」においては、2000年に「児童虐待の防止等に関する法律」（以下、「児童虐待防止法」）が施行された。それによれば、「児童虐待」とは、「保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、児童を現に監護するものをいう。）がその監護する児童（十八歳に満たない者をいう。）について行う次に掲げる行為」のことを指し、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待の4種類で構成されている⁷。

法的に見た場合、「教育虐待」は児童虐待防止法の中に含まれないが、2023年3月に佐賀県鳥栖市で起きた、大学生の長男が両親を殺害するという事件の裁判で、懲役24年を言い渡した岡崎忠之裁判長が、「父親による身体的、心理的、教育虐待と、それらによる精神的支配のもとで育った」と被告の事情を認めた⁸という事実から、法律における「虐待」とは別に、「教育虐待」であるかどうかという判断が意味を持つものとなっているといえる。しかし同時に、判決を不服とした弁護側が控訴した結果棄却された⁹ことは、刑を軽減できるほどの効力を持たないということもわかる。

上の事例からわかるように、「教育虐待」は児童虐待防止法の中で定められた虐待行為の範囲外を照準するため、「虐待」と定める範囲が広くなる傾向にあり、「教育虐待」の語の使用の中でも、「虐待」とみなす基準には程度の差がある。

例えば、「塾ソムリエ」の西村則康は、子どもにたくさんの習い事をさせることに関して、「（中略）親がいろんなチャンスを与えるのはよいことだ。ただ、子どもが楽しく感じず、毎日忙しくてしんどいと思っているなら教育虐待だ¹⁰」としている。習い事や教室に通わせること自体は「虐待」行為には該当しないが、それを子どもが苦痛だと感じているのであれば、それは「虐待」であるという主張だ。他方で、2023年5月12日、『読売新聞』のコーナーである「人生案内」で、娘が高校受験に失敗し、相談者の「気持ちを立て直したい」という相談に対し、作家である藤原智美は「それは教育虐待にもなりかねません¹¹」と答えている。これは、親の子どもに対する身体的な攻撃的接触が伴わないような場合でも、「虐待」

⁷ 「児童虐待の防止等に関する法律」平成十二年法律第八十二号

⁸ 三ツ木勝巳「両親殺害、19歳懲役24年 「教育虐待受け育った」 佐賀地裁判決」『朝日新聞』2023年9月16日

⁹ 太田悠斗「両親殺害、元九大生の控訴棄却 懲役24年「不当といえない」福岡高裁【西部】」『朝日新聞』2024年3月7日

¹⁰ 「子に過大な要求「教育虐待」に注意、プロ家庭教師西村則康さん——中学受験、親は常に笑顔で（育む）」『日本経済新聞』2019年9月24日、夕刊

¹¹ 藤原智美「[人生案内] 娘の受験失敗 意気消沈」『読売新聞』2023年5月12日

とみなされるケースである。

「児童虐待」においては、身体的な暴力だけでなく、心理的虐待も包摂する傾向にあるということもあり、それを前提に「教育虐待」の範囲を広く捉える専門家がほとんどだ。

次いで「教育」という言葉は、「虐待」よりも広範囲な意味合いで捉えられる傾向にある。実際、辞書上においても共有される定義は辞書によって異なると同時に、それぞれ意味の範囲が広く、柔軟に捉えられる可能性が高い。例えば、『広辞苑¹²』では、「教えること」と簡潔に定義される。一方、一般的な辞書よりも現代的で言葉のニュアンスや感覚に重点を置いた『新明解国語辞典¹³』での定義は、「一般的な（その方面の）知識や技能の習得、社会人としての人間の形成などを目的として行われる訓練。特に、学校で行われるものを指す」と、学校教育を中心とした具体性が強調されており、国内唯一の大型辞書である『日本国語大辞典¹⁴』でも「一定期間、計画的、組織的に行う学校教育」について言及される。辞書による多少の差異はあるが、3つの辞書に共通するのは、「知識を与える」という定義をいずれも持つということだ。「教育」という言葉は、このように柔軟性があるが故に、広範囲の概念を当てはめることができる自由度の高いものなのだ。そのため、「教育虐待」に関するコメントも、その語の使用者ごとの異なる「教育観」が垣間見える。

例えば、『ルポ教育虐待¹⁵』の著者であり、教育ジャーナリストのおおたとしまさは、『中学受験「必笑法」¹⁶』や『母たちの中学受験¹⁷』などの本も執筆しており、中学受験を専門分野としている。そのため、「教育虐待」に関する新聞記事でのコメントも中学受験にフォーカスする傾向が強い。一方で、『教育虐待：子供を壊す「教育熱心」な親たち¹⁸』を著したノンフィクション作家の石井光太は、広範囲に「教育」の射程を広げており、2023年の『文春オンライン』での記事では、ボクシングの亀田三兄弟に言及し、「スポーツにおける教育虐待」と称して石井の「教育虐待」論を展開している¹⁹。これらのおおたと石井の例からわかるように、「教育虐待」に関する記事や本の中では、語の使用者それぞれの「教育」に関するさまざまな価値観が反映されている。

1.2 「教育虐待」の定義、使用例

前述のように、「教育虐待」が文字として初めて世に出たのは2012年2月9日の『朝日新

¹²新村出編『広辞苑』第七版、岩波書店、2018年

¹³山田忠雄、柴田武他『新明解国語辞典』第八版、三省堂、2020年

¹⁴『日本国語大辞典』第二版、第四巻、小学館、2001年

¹⁵おおたとしまさ『ルポ教育虐待』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2019年

¹⁶おおたとしまさ『中学受験「必笑法」』中央公論新社、2018年

¹⁷おおたとしまさ『母たちの中学受験』小学館、2024年

¹⁸石井光太『教育虐待：子供を壊す「教育熱心」な親たち』早川書房、2023年

¹⁹石井光太「「東大に行けなければ、ホームレスになって凍え死ぬしかない」と脅迫してくることも…“官僚以外は職業でない”と考える母に育てられた「虐待サバイバーの告白」」『文春オンライン』2023年7月1日、<https://bunshun.jp/articles/-/63989?page=3>（参照 2024年11月11日）

聞』の記事である²⁰。教育1の欄に大きく印刷された「教育という名の虐待」という見出しの紙面の中で、坪井は「親が望む進路を子どもに押しつけ、服従させることは『教育虐待』だと認識するべきです」と述べている。これは、国内において初めて提唱された「教育虐待」の定義であると考えられる。

これ以降、現在に至るまで「教育虐待」に言及する記事が次々と出てくるようになるのだが、これもやはり語の使用者の間で、どこからどこまでが「教育虐待」なのかという行為における範囲と、どの文脈において使用するのかという使用方法における論者間における理念の差異がみられる。

例えば、上記のおおたに並び「教育虐待」関連の発言が顕著な臨床心理士の武田信子は、「親が「子どもの心身が耐えられる限界を超えて教育（スポーツや音楽などを含む）を強制（無理強い）すること」²¹」を狭義の「教育虐待」であると定義づけており、同時に「教育虐待」を「エデュケーショナル・マルトリートメント²²」の中に位置づけた上で、「社会の価値観が生む現象として、社会全体で対応に取り組み始めるきっかけとなる概念として広がりなくてはなりません」と強調する。

他方で、小児精神科医の古荘純一は、同じく鳥栖両親殺害事件に関する『朝日新聞』の記事²³でのコメントで、「子どものやりたいことを考慮せず、保護者が一方的に教育やしつけを押しつける行為」を「教育虐待」と呼んでいる。次章で先行研究として取り上げるが、2022年に発表された、福井大学の大西薫と大西将史による「エデュケーショナル・マルトリートメントに関する研究の概観²⁴」という論文において分析されている古荘の「教育虐待」論が重視している点の一つとして、子どもの発達障害や特別支援教育における「教育虐待」があるが、上で述べた武田はそれらに関して言及していない。精神科医という立場で子どもの発達への関心や専門性があるということから、「教育虐待」の範囲も独自のものが見受けられる。

つまり、「教育虐待」という語自体抽象性が高く、柔軟性のある定義が基盤として共有されており、それを軸に語の使用者それぞれが各自の専門性、教育や社会に対する価値観をその定義に反映させ、彼ら独自の「教育虐待」に発展させ、その上で具体的な「教育虐待」行為の範囲にも多様性が生じるのである。

²⁰実際には、2010年あたりからTwitter（現X）で使われていたことが確認できるが、現在共有されている意味合いではこの時期から使用されはじめた。

²¹武田信子「教育虐待まとめ（資料を探している方へ 更新していきます）」note、<https://note.com/nobukot/n/nb9723283c1a2>、2023年7月15日（参照 2024年11月14日）

²²武田曰く、「親による教育虐待だけではなく、社会全体の歪んだ教育観によってなされる、大人たちから子どもたちへの不適切な行為」のこと（武田『やりすぎ教育』ポプラ社、2021年）。

²³高浜行人、三ツ木勝巳「教育虐待、子を圧迫 父から「1日10時間勉強」強まる復讐心」『朝日新聞』2023年10月5日

²⁴大西薫、大西将史「エデュケーショナル・マルトリートメントに関する研究の概観—概念の定義に焦点を当てた検討—」『福井大学教育実践研究』第46号、2022年4月4日

そもそも、「教育虐待」は使われ始めてから 10 年以上の間、一定の効力を保ち続けているわけではなく、変化を遂げている。この用語が使われ始めた当初と 2023 年の記事を見比べてみるとその変化が明確になる。

上記でも取り上げた鳥栖両親殺害事件において、「教育虐待」を、裁判所という公的な場で実効的な概念として弁護士だけでなく、裁判官にも使われているという事実を確認した。しかし、「教育虐待」という概念は、出現当初から制度的な有効性を持つものではなかった。というのも、語の源流を辿ってみると、「教育虐待」という語が出現し始めた 2012 年に、先に言及したカリヨン子どもセンター・事務局長（2012 年当時）である石井花梨が、『教育虐待』はカリヨンの造語²⁵と述べており、当初、この語は一子どもシェルター内で使われる用語にすぎなかったのだ。この 2 つの事例からわかるように、「教育虐待」は、10 年余りの月日を経て実効性を帯びる用語になっていったのだ。

2 本研究の方向性

2.1 先行研究

前章でも取り上げた大西らの研究は、「エデュケーショナル・マルトリートメントについての代表的な研究者である武田信子、古荘純一、宮本信也の 3 氏の研究について概観し、エデュケーショナル・マルトリートメント及びその関連概念の定義、概念の範囲、それぞれの概念の異動について整理した」ものである。

この研究は、「エデュケーショナル・マルトリートメント」を、「先行き不安な社会の中で我が子に何とか幸せになってほしいと願う親心によって暗黙裡に行われてしまっているものであり、親だけの責任に帰することのできない、社会全体の問題である」と提起し、「(エデュケーショナル・マルトリートメントの) 法的根拠を示すために児童虐待防止法上の何らかの虐待概念に位置づけておく必要がある」と主張する。大西らは、「教育虐待」と「教育ネグレクト」を含んだ「エデュケーショナル・マルトリートメント」という新しい概念を、3 人の主な「研究者」による用語の捉え方や理論の違いを体系的に概観し整理することで、学術領域における理論的な検討が中心である先行研究を、客観的に整理することで体系化し、用語をより公的に実用可能な形に近づけるという点で評価されるべきものである。

2.2 問題意識

しかし問題は、大西らの研究において、「教育虐待」を含んだ「エデュケーショナル・マルトリートメント」は、最初から「忌避し、社会全体で防ぐべき対象」というレッテルが貼られており、ここではそれが議論の基盤となっていることである。つまり、大西らの

²⁵杉原里美「(どうする?) 成績理由に子を追い詰める 親の価値基準に偏り」『朝日新聞』2012 年 10 月 20 日

検討はあくまで既存の定義や概念の範囲を整理することを主な目的としており、「教育虐待」という語や概念がいかにして構築され、広まり、議論されてきたのか、という社会構築主義的な視点を十分に取り入れていない点が指摘できる。

加えて、「教育虐待」の言説が、「研究」や「研究者」という社会的に権威付けされた視点から分析されているという事実も検討の余地がある。というのも、上述したように、「教育虐待」という語は、カリヨン子どもセンターの職員たちが提唱したことを草分けに、次第に新聞、ラジオ、テレビなどのメディアを通じて広まった概念であり、「研究者による研究」という限定された領域では語ることはできないのだ。そのため、大西らの研究対象である「研究者」の言説だけでなく、専門家や当事者による言説、マスメディアで発信された言説を視野に入れることで、より多角的な分析が可能になる。

2.3 研究方法

本稿では、社会構築主義的な観点から、「教育虐待」の言説分析を行う。特に、「教育虐待」を問題視する人々（研究者、臨床心理士、ジャーナリスト、メディア等）による「クレーム申し立て活動」に着目し、その概念がどのように構築され、広まっていったかを分析する。まずは、その前提となる「クレーム申し立て活動」という分析概念について確認し、上野加代子や内田良らに代表される「児童虐待」問題における社会構築主義的な先行研究を見ておきたい。

2.3.1 「児童虐待」問題における構築主義的な先行研究

「児童虐待」における社会構築主義的な議論は、アメリカの小児科医である C. H. ケンプらによる“The Battered-Child Syndrome”（日本語では「被虐待児症候群」）と題された 1962 年の論文²⁶をめぐって本格的に開始された。これまで社会問題として深刻に捉えられなかった子どもの「虐待」を、ケンプらの医師団が X 線写真における複数の骨折の跡を発見したことで、「児童虐待」が「発見（discovery）」されたと言われている²⁷。日本でも、1990 年代に入ってからメディアにおいて「虐待」というワードが著しく増加するようになり、2000 年には児童虐待防止法が施行された後、2004 年に改正され、「児童の人権を著しく侵害する」行為としての「児童虐待」の定義や目的規定が明確にされた。

このような状況に対し、上野や内田は社会構築主義的な視点からこの「児童虐待」についての研究を行い、「児童虐待」が社会問題として人々の認知に行き渡った過程を批判的に分析した。

特に内田は、「児童虐待」という概念が日本に受容された 1990 年代に、虐待行為が突然現れたわけではないと指摘する。それ以前にも同様の行為は存在していたが、「暴力」「体

²⁶C. Henry Kempe, M.D., Frederic N. Silverman, M.D., et. al (1985). *The Battered Child Syndrome*. Child Abuse & Neglect Vol. 9

²⁷石川義之「子ども虐待の基礎理論：身体的虐待を中心に」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』7号、2008年

罰」「攻撃」「放任」「放置」「無視」など、異なる名称で呼ばれていた。1990年代以降、それらの行為は「やってはならない」という意味づけを通じて、「禁止」を含意する概念へと変化していったという²⁸。

また、上野によれば、我が国において「虐待」に対して「やってはならない」「禁止」というレッテルを貼ることに寄与したのは、民間の子ども虐待防止団体であるという²⁹。これらの団体の電話相談や報告書の発行、学会発表などを通じた「クレーム申し立て活動」がメディアにより取り上げられることで、問題の認知が社会に広まったと指摘する。このように、「児童虐待」問題において、構築主義の視点を用いた代表的な研究が行われている。

2.3.2 J. I. キツセ、M. B. スペクター『社会問題の構築』（訳書 1990年）

本研究で用いる理論の原典となるのが、J. I. キツセと M. B. スペクターによる『社会問題の構築』である。彼らは、「クレーム申し立て」活動を担う人々（上野の場合は民間子ども虐待防止団体）のことを「クレーム申し立て者」や「クレームメイカー」と呼び、社会問題はクレーム申し立て者の「クレーム申し立て活動」によってつくられた「構築物」であるという立場をとる。「教育虐待」も、「児童虐待」と同様、「やってはならない」「あってはならない」とクレーム申し立て者たちを筆頭に社会的に意味づけをされ、上野の言葉を借りれば、「禁止されるべき行為として急速に台頭」した問題であるため、「まさに構築主義の枠組みにおいて分析されるべき最適の対象」なのだ。

留意すべき点は、本研究が、仮に「教育虐待」が客観的事実として存在すると想定し、上記の理論的立場を取る一方で、「教育虐待」問題に直接関わる「当事者」の苦悩や、民間シェルター、専門家による問題意識や活動を全面的に否定するものではないということである。ここでは、「教育虐待」が実際に横行しているか否かの客観的状态の存在は問わないと同時に、実態に関心を向けることの意義を否定し、現状を無視してよいという極端な論を提示するものでもない。キツセとスペクターも、「（中略）事実の根拠はどうであってもよい。「クレーム申し立て活動」とそれに応える活動自体が、社会問題の社会学の研究対象なのである」と述べている。つまり、本調査は、「教育虐待」の存在を認識し、それに解決策を提示し解決しようとするものではなく、この概念を「社会問題」として取り扱うクレーム申し立て者たちの「クレーム申し立て活動」に着目し、そこから読み取れる構造を分解して解明していく作業なのである。

そのため、本研究は「教育虐待」現場へのフィールドワークや児童虐待発生率などの統計データを分析するものではなく、「教育虐待」という語が誰にどのように使用されているか、そしてどのようにして「社会問題」として構築されているかという考察を行う。上

²⁸内田良『「児童虐待」へのまなざし』世界思想社、2009年

²⁹上野加代子『児童虐待の社会学』世界思想社、1996年

でも述べたように、「教育虐待」という語は自然発生したものではなく、民間シェルターが提唱し、それをメディアや専門家が取り上げて広まった概念である。そのため、文字媒体で「教育虐待」という語を活用するメディア（書籍、新聞、ネット記事、雑誌等）を分析対象とすることが有効だと考える。

2.4 本研究の意義

本研究には2つの研究意義があると考ええる。

まず、社会構築主義的な意義がある。内田や上野らによって構築主義的な視点から批判的に「児童虐待」問題を分析する研究がなされてきており、この卒業研究においても彼らの論文を重要な先行研究として参考にしている。しかし、「教育虐待」問題の構築主義的な分析は未だなされていない。特筆すべきは、内田が、2023年12月17日の「Yahoo!ニュース」の記事³⁰において、「とりわけ教育虐待とよばれるものは、身体的虐待やネグレクト（養育の放棄）と比べるとその被害が身体に直接的には生じにくいいため、より見えにくいものです」というコメントを残していることである。内田は前掲書で、「児童虐待」が「社会的な文脈を削ぎ落としたいわば真空地帯において、科学の名のもとでそして「子ども最優先」という大義のもとで、攻撃・放置の語り方が、強い聖性を帯びながら一方向に押し込められていることに対して、強い疑念を示しているのである」と主張し、社会構築主義の立場を表明していたにもかかわらず、「教育虐待」問題においてはその実態が存在することを前提に見解を述べている。この事実から、「児童虐待」問題の研究では語られえなかった、比較的新しく出現した「教育虐待」を分析することで、社会問題の構築主義的研究に新しい視点をもたらすことが可能になるといえよう。

次に、本研究の教育社会学的意義について述べる。「教育虐待」や「エデュケーショナル・マルトリートメント」に関連する先行研究は、大西らの研究をはじめ、主に問題とされる実態に重点を置いており、構築主義的な視点からの検討はほとんどなされていない。本研究は、権威づけられた「研究者による研究」を体系的に分析するものでもなく、フィールドワークや個人間のインタビュー等を通じたマイクロレベルの調査でもない。本研究は、「教育虐待」という用語が用いられたニュース記事、新聞、雑誌などのメディアを対象に調査を行う。この調査を通じて、「教育虐待」に直接関与しない一般読者の意図や、それに応じるメディア側の相互作用にも注目することで、より包括的な研究を目指す。本研究の成果は、「教育虐待」という特定の事例にとどまらず、「社会問題」の構造そのものを論じる上で革新的な視点を提供する可能性があると考ええる。

3「教育虐待」の使用例の変遷

³⁰森健「水風呂に頭入れられ... 受験強制され失敗... 親に植え付けられた恐怖と劣等感 教育虐待で歪んだ人生」Yahoo!ニュース、<https://news.yahoo.co.jp/articles/9b4dfb8448f4b7233116bd31872224b7a8c3f432?page=6>、2024年12月17日（参照 2024年12月2日）

この章では、「教育虐待」という言葉が文字媒体において初めて出現した2012年から現在に至るまでの使用例の変遷を確認する。本研究では、「教育虐待」という語を題名、もしくは本文に含んだ書籍、雑誌、学術誌、データベースが閲覧可能な主要新聞記事（『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』『日本経済新聞』）、テレビ番組、およびラジオのホームページ、ネット記事から、計160件収集した。これらの資料から、類似した使用例をもつ記事を分類し、その特徴や変遷を考察する。

3.1 初期の使用例

まずは、国内において「教育虐待」という語が初めて取り上げられるようになった2012年あたりの言説状況を見ていきたい。

前述のように、現時点で確認できる文字媒体における国内初のこの語の使用は、2012年2月9日の『朝日新聞』の記事だ。本稿の冒頭で述べた内容に加え、坪井はカリヨン子どもセンターに入ってくる子どもたちの中にも「教育虐待」の被害者がいるとし、その具体的な「教育虐待」エピソードを載せている。その半年後の8月23日に公開された『毎日新聞』の記事³¹においては、『朝日新聞』同様、同センターの活動内容、およびそこで保護された子どもたちの体験談が掲載されている。ここでは、「子どもを苦しめる「教育虐待」という考え方が広がっている」としており、この半年間でこの概念の世間的な認知が広まってきていることを示唆している。また、前掲した同年の10月20日の『朝日新聞』の記事で、同センターの当時の事務局長が「『教育虐待』はカリヨンの造語」と述べているのが象徴的である。特筆すべきなのは、この3つの記事全てに、武田がコメントを残しており、子育てをする親に対し「教育虐待」に関する助言をしていることである。武田は、前述の日本子ども防止学会に登壇しており、2012年あたりの「教育虐待」問題における重要人物であるといえる。

3.2 事件を契機とした言説の盛り上がり

注目したいのは、家庭内で、子どもや親が死に至った事件が起きると、議論に動きが見られる傾向があるということだ。ここでは、2016年に起きた名古屋市小6受験殺人事件、2018年の滋賀医科大学生母親殺害事件、2023年の鳥栖両親殺人事件発生後、それぞれの語の使用例を確認する。

まず、2016年に名古屋市で起きた事件は、中学受験を控えた当時小学6年生の長男を父親が包丁で刺し、死亡させたというものだ。おおたは、父親に対する懲役13年の実刑判決が下された2019年7月にその裁判の傍聴記を「名古屋教育虐待殺人事件「中学受験で父親が息子を刺すに至るまで」」というタイトルで『文春オンライン』に記事として公開している。この記事を含め、判決が下された7月から9月にかけて、『文春オンライン』のみならず、『朝日新聞』『デイリー新潮』『週刊ダイヤモンド』など、多岐にわたる媒体で「教育虐待」について、彼の著作に触れつつコメントするなど、記事を計7つ執筆してい

³¹ 鈴木敦子「教育虐待：勉強できる子になってほしい……過剰な期待」『毎日新聞』2012年8月23日

る。この事件に関しては、武田も『note』で記事³²を発表しており、「親による教育虐待を結果的に生み出しているのは、日本の教育に対する価値観である」と日本の教育を強く非難する姿勢をあらわにし、自身の教育観を関連させてこの事件における「教育虐待」の背景や構造を考察している。

次に、2018年に起きた滋賀医科大学生母親殺害事件は、9年間の浪人生活を経て医学部を受験させられ、長女が母親を殺害したというものである。言説が盛り上がりを見せるのは、2021年1月の控訴審判決で懲役15年から10年に減刑されたという報道がされてからだ。2021年3月に「Abemaニュース」がこの事件を取り上げ、専門家として武田が登壇した³³。また、この事件を題材に、斎藤彩が『母親という呪縛 娘という監獄³⁴』と題したノンフィクションを発表し、2025年1月16日現在もAmazonにおいてベストセラー1位で、在庫切れで購入できない状態になっている。この書籍は「教育虐待」という語をタイトルおよび本文に用いていないのだが、この本を紹介する記事ではキーワードとして頻繁に使われている。例えば、『母・娘・祖母が共存するために³⁵』を著した臨床心理士の信田さよ子は、2024年5月4日の『朝日新聞』記事³⁶の「売れてる本」において、「ここまで多くの人たちに読まれた理由について、「母娘問題」と「教育虐待」という視点から考えてみたい」と述べ、自身の専門分野である「母子問題」と当概念とを絡めて自身の見解を綴っている。

最後に、2023年に起きた、佐賀県鳥栖市で当時大学生だった長男が両親を殺害した事件でも「教育虐待」の使用が目立つようになる。特に、『朝日新聞』と『読売新聞』が記事上で「教育虐待」という語を用いながらこの事件の審理過程をくまなく追っており、懲役24年が確定するまで合わせて12件の記事を発表している。語の使われ方としては、出廷した臨床心理学の専門家や弁護側が、この事件は被告の父親による「教育虐待」によって起こったものであると主張し、保護処分を求める、というものだ。また、1審判決で24年の判決を受けて被告側が控訴した際に、「長男が幼い頃から父親に激しい「教育虐待」を受けたことの影響を1審判決が軽視しているとして、刑の軽減を求めた³⁷」。判決においても、被告が「父親から「身体的、心理的虐待」「教育虐待」を長期間受けたことが犯行に影響した³⁸」と裁判長は指摘したが、「父親の殺害をとめようとした母親も刺殺したこと

³²武田信子「教育虐待：名古屋小六受験殺人事件」note、<https://note.com/nobukot/n/n6a13ba60db75>、2019年7月19日（参照 2024年11月29日）

³³「父親の事故死に“嬉し涙”も…解放されても残る教育虐待のトラウマ「自分の名前を見る度に父を思い出すので本名を変えたい」」Abema TV、<https://times.abema.tv/articles/-/8651584>、2021年3月25日（参照 2025年1月19日）

³⁴斎藤彩『母親という呪縛 娘という監獄』講談社、2022年

³⁵信田さよ子『母・娘・祖母が共存するために』朝日新聞出版、2017年

³⁶信田さよ子「（売れてる本）『母という呪縛 娘という牢獄』 斎藤彩〈著〉」『朝日新聞』2024年5月4日

³⁷「鳥栖両親殺害 上告」『読売新聞』2024年3月20日

³⁸「鳥栖の両親殺害、懲役24年確定へ 最高裁が上告棄却 【西部】」『朝日新聞』2024年8月22日

などを考慮し、「相当長期間の実刑で臨むほかない」とし、減刑されることなく懲役24年の実刑が確定した。また、本事件関連の12件の記事の中でも、武田が「教育虐待という言葉」を初めて発表した一般社団法人ジェイス代表理事で臨床心理士³⁹⁾としてこの事件についてコメントを残しており、この事件の原因とされる「教育虐待」について力説している。

4「クレーム申し立て活動」としての妥当性

第5章で実際に上記の一連の言説状況を構築主義的に検討する前に、いま一度、この「教育虐待」が構築主義の土台で分析されるに恰好な概念だということを、ジョエル・ベストの『社会問題とは何か⁴⁰⁾』に沿って確認していきたい。特に、本書の第2章「クレーム」を参考に、「教育虐待」言説の中でクレームのレトリックがどのように使われているかを検討する。これらの理論は、ベストの拠点であるアメリカにおけるクレームに適応されるものだが国内におけるそれにもある程度当てはめることができる。

4.1 クレームの「前提」「論拠」「結論」のレトリック

ベストは、「クレームの主題となる状態」を「トラブル状態」と称し、説得的なクレームは、そのトラブル状態を記述する「前提」と、なぜそれが問題なのかを説明する「論拠」、どのような行動がなされるべきなのかの説明となる「結論」で構成される。

4.1.1 クレームの「前提」

クレームの「前提」とは、「トラブル状態が存在する」という主張を支持するものだ。「前提」を構成する3つの「レシピ」を以下で確認する。

(1) 典型例の提示

クレームは、事の深刻さを表現するために、「特に極端で、劇的で、不穏で、忘れられない」典型例の提示から始まる。ベストは「児童虐待」問題の例を挙げ、「小さい子どもが虐待によって殺されたという物語」などを活用することで人々の関心を募る。「教育虐待」においても、しばしば親による子どもへの暴力の詳細な描写や、家庭内で起こった殺害事件が引き合いに出されることがあり、出現当初から現在にかけてこのレトリックが見受けられる。

例えば、第3章でも取り上げた2012年2月9日の『朝日新聞』では、「ある女子高校生は裕福な家庭に育ったが、小さいころから母親にナイフをつきつけられて勉強をさせられてきた。中学生になって口答えをするようになると、母親は手を出し、掃除機でたたき、物を投げた。父親は知らん顔だった」という、カリヨン子どもセンターで保護された子どものストーリーを取り上げている。

³⁹⁾三ツ木勝巳「親族「判決受け入れられぬ」 鳥栖の両親殺害、長男に懲役24年 / 佐賀県」『朝日新聞』2023年9月27日

⁴⁰⁾ジョエル・ベスト、赤川学監訳『社会問題とは何か』筑摩書房、2020年

(2) 命名

次に、クレイムは問題を命名する。例えば、60年代のアメリカにおいて、X線で子どもの不自然な骨折の跡を見つけ、「虐待」を「発見した (discovery)」したケンプらはそれを“Battered Child Syndrome (被虐待児症候群)”と名付け、問題化し、世界的な子ども虐待防止活動を先導したのは代表的な一例だ。内田は前掲書で、「児童虐待」について、「実態のレベルで虐待の原因となるというよりは、むしろ都市の公的機関や周辺の人びとの「虐待」をみるまなざしのあり方が攻撃・放置を「虐待」と名づけ、都市の文脈で「虐待」発生の原因を語るのである」と述べており、「虐待」と名付けることで「禁止」や「やってはならないこと」という意味づけがなされる効果がある。「教育虐待」も2012年あたりから現在のようない意味合いで使われるようになっており、おおたは2016年の名古屋市小6受験殺人事件を「名古屋“教育虐待”殺人事件」と命名することでこの事件の性質を表現している。

(3) 統計の使用

最後に、クレイムは問題の範囲を表す何らかの統計を引用する。ベスト曰く、現代のアメリカでは統計は正確なものであるという考えがあるため、統計が頻繁に使われ、主に特定の「トラブル状態」が広がっていることを示唆することに機能する。

国内の「教育虐待」問題においても、政府による調査データや自殺動機の統計等が度々活用される。例えば、古荘と磯崎祐介による『教育虐待・教育ネグレクト⁴¹⁾』では、本書の第1章で厚生労働省による「児童相談所における児童虐待の相談対応件数」とNPO法人児童虐待防止全国ネットワークによる「虐待により死亡した子どもの人数と年齢（心中以外）」という2つのデータを用いて「虐待」が増加していることと、以前に比べて「心理的虐待」の割合が高くなっていることを強調している。

これら3つの「レシピ」は、「効果的なレトリックの定番として多くの社会問題クレイムに見られ」、組み合わせると、ベストが言う「厄介ごとの印象を強める」作用が生まれるのだ。

4.1.2 クレイムの「論拠」

次のレトリックは、「トラブル状態に対して何かをすることを正当化し、なぜそれがなされるべきなのかを説明するもの」である「論拠」だ。「論拠」は、「ほとんどの人が支持できるような、曖昧な規範で表現される」傾向があるとベストは述べる。

「教育虐待」問題のクレイムにおいて活用される「論拠」は、「児童虐待」問題でも頻繁に取り上げられる「子どもの人権の侵害」である。「子どもの権利条約」は1989年に第44回国連総会で採用され、1990年に発効、1994年に日本で批准した⁴²⁾。その結果、世間の「児童虐待」に対する関心が高まり、2000年に児童虐待防止法が施行されるようになった。

⁴¹⁾古荘純一、磯崎祐介『教育虐待・教育ネグレクト』光文社、2015年

⁴²⁾「子どもの権利条約」unicef、<https://www.unicef.org/tokyo/crc> (参照 2024年12月16日)

た経緯がある。そのため、「教育虐待」問題のクレームにおいても、「教育虐待」が悪だとされる理由として、「児童虐待」問題一般と同様に「子どもの人権を守るべきだから」という記述がしばしばなされる。「教育虐待」問題の場合、そのことは書籍の序章などでしばしば記述される。例えば、武田は、『やりすぎ教育』の冒頭で、「さて、子どもたちの人権は本当に守られているでしょうか。不適切な養育が、子どもたちの人権を奪っていないでしょうか」という問いかけをしている。また、大西将史は、2024年9月に著した『エデュケーショナル・マルトリートメントの理解と対応⁴³』の第1文目で、「エデュケーショナル・マルトリートメントは、教育の名のもとに行われる子どもの人権を著しく傷つける行為です」と断言している。このように、「教育虐待」のクレームにおいても、現代のほとんどの人々が賛成するような「子どもの人権を守る」という規範の中で「論拠」が展開されているのだ。

特に、武田の「論拠」を補強する要素として、第1章でも取り上げた武田の「エデュケーショナル・マルトリートメント」の定義においてもベストが主張する曖昧さが指摘できる。彼女の定義は、子どもが認識する「心身が耐えられる限界」の基準が規定されていない曖昧さを内包すると同時に、「子どもの心身が耐えられる限界を超える」と「強制（無理強い）すること」というフレーズは「無理な行為」という意味をどちらも含んでおり、「無理な教育行為は無理な行為である」という循環的な意味合いとなる。これはある種トロジー的な定義であり、ベストのいう「ほとんどの人が支持できるような曖昧な規範」について明確な基準を示さないまま議論を進めるためのレトリックとなっている。

4.1.3 クレームの「結論」

最後は「結論」で、これは「社会問題を解決するため何をすべきで、どんな行動が取られるべきかを特定する言論」である。「結論」は、「前提」と「論拠」で構成されており、ベストは、「もしクレームの前提が酷い苦しみの原因となる状態をうまく描き出し、論拠が苦しみを緩和する必要性に関して人道的な懸念について述べる場合、その結論は苦しんでいる人を救う方法に焦点を合わせるだろう」と主張する。また、「結論」には、しばしば短期的な目標と長期的な目標⁴⁴が含まれる。これまでの章で挙げた事例からわかるように、新聞記事やラジオ、テレビ等のマスメディアを通じて問題の認知を他者に広める活動としての短期的な目標を確認することができた。しかし、「教育虐待」問題のクレームがベストの主張と若干異なるのは、政策の変革を促す典型的な長期的な目標は見受けられないということだ。というのも、「教育虐待」問題におけるクレーム申し立て者は「児童虐待」問題において実践された児童虐待防止法を施行し、子どもの権利条約を批准するなど、政策の変革を

⁴³大西将史、廣澤愛子『エデュケーショナル・マルトリートメントの理解と対応』中央法規出版、2024年

⁴⁴ベストによると、短期的な目標とは、他人に問題を認知させ、人びとを運動に巻き込み、メディアにその問題を報道させるために注目を集めようと試みるもので、長期的な目標は、政策の変化を目指すものである。

集団的に促すようなクレームというよりは、それぞれの専門性に基づいて「虐待者」になりうる親、もしくは「被虐待者」になりうる子どもに対して助言を提示するという形をとるのだ。

例えば、うつ病を経て偏差値29から東京大学に入学したという経歴をもつ作家の杉山奈津子の教育方法に関する記事⁴⁵において、「子どもに無理やり勉強を強いるのではなく、やってみようと思えるようにうまく気分をのせていくのが親の役割ではないでしょうか」と本人が述べており、これは政策の変化を促すというよりは、親子という最小単位の間人間関係に対する提言である。他にも、自身がかつて「教育虐待」の「被害者」だったと主張する文筆家の古谷経衡は、「「親孝行」するに値しない親には、子供は一切感謝する必要は無く、むしろ自らが受けた被害の回復や謝罪の要求を正当な権利として有しているという事実を、社会が共有することが重要である⁴⁶」という自身の主張を述べており、これも集団的な社会変革ではなく、「教育虐待」を受けている子どもがいかに親に対応するかという方法を提案することにとどまっている。

4.1.1と4.1.2で見たように、「教育虐待」問題におけるクレームは、ベストの提唱したクレームの枠組みにおける「前提」と「論拠」の特徴を有している。しかし、「教育虐待」問題におけるクレームの「結論」は、彼が提唱する、公的な改革や政府の介入を促す典型的な長期的な目標を伴うものではない。そのような点で、「教育虐待」言説を「クレーム申し立て活動」として扱う場合、ベストの「結論」を広く捉える必要がある。

ベストによって提唱されたクレームの「前提」、「論拠」、「結論」を確認した上で、実際の「教育虐待」の「クレーム申し立て活動」の実例を見てみると、「結論」部分はベストが挙げた長期的な目標を伴うような典型的な形とは若干異なるものの、「教育虐待」言説は「標準化されたかたちをとる傾向がある」「クレーム申し立て活動」だといえる。よって、本章冒頭でも主張したように、「教育虐待」は、構築主義的な視点で分析するのに適当な概念であることがわかる。

5「教育虐待」の使用による効果

本章では、これまでに取り上げた事例、およびこれから挙げるその他の使用例に基づき、分析対象をクレーム申し立て者と非クレーム側である一般受容層に区分した上で、「教育虐待」の語の使用によってもたらされる効果を考察する。

5.1 言説の成果、及び期待される効果

⁴⁵杉山奈津子「「人生に疲れた」とこぼす小学生も 東大卒ママが指摘する「教育虐待」に陥りやすい親の特徴」AERA dot.、<https://dot.asahi.com/articles/-/42493?page=1>、2022年2月6日（参照 2024年12月29日）

⁴⁶古谷経衡「「毒親に感謝する必要は一切ない」私が両親からの教育虐待を告発した理由」プレジデントオンライン、<https://president.jp/articles/-/41139?page=4>、2020年12月10日（参照 2024年12月29日）

前提として、クレーム申し立て者は、ある状況を「問題」とできるとし、それを「改善」するためにクレームを世に発信する。つまり、彼らは「問題を解決し、物事をよい方向へ向かわせる」というポジティブな効果を期待して「クレーム申し立て活動」を行うのである。そこで本節では、これまでの「教育虐待」問題における「クレーム申し立て活動」がもたらした効果、及び期待される効果を検討する。

5.1.1 非クレーム側としての一般受容層への効果

(1) 問題の認知

まず、「教育虐待」問題の「クレーム申し立て活動」によって、従来見過ごされていた問題の存在が可視化され、人々に認知されるという効果がある。

2012年の『朝日新聞』の記事で、現在共有される意味合いで「教育虐待」という語が初めて文字として世に出たことは、「教育という名のもとで行われる虐待」の存在を坪井が学会で発表したという事実を、「教育虐待」の具体例とともに一般受容層に発信することで、社会に新たな問題の認知を促すとともに、一般受容層の人々が日常会話や類似した事例に遭遇した際に、この語を活用してその状況を表現することを容易にした。

(2) 議論の促進とコモンズの形成

上の効果と関連して、ネット記事やYouTube等のネット上での語の使用は、コメント欄を活用して、一般受容層に「教育虐待」という共通理解に基づいた議論を促すコモンズを形成する効果がある。例えば、NHKの番組「クローズアップ現代」の2024年2月13日の記事⁴⁷では「「教育虐待」してしまった、受けていた」というタイトルで体験談や情報を募っている。また、そのサイトの末尾にはコメント欄が設置され、ネットユーザーが「教育虐待」という語を使って自身の「教育虐待」体験談を他のユーザーと共有し、「教育虐待」という共通認識のもとそれぞれの意見を述べる場が形成されている。

(3) 問題への新しいアプローチの検討

また、語の使用は、新しい「社会問題」としての「教育虐待」への革新的な対処法を見出す契機となる。「教育虐待」は、従来の児童虐待防止法に基づいた4種類の「虐待」には収まらなるとされる。そのため、「児童虐待」への対応方法だと対処しきれないとされるために、その枠組みを超えた「教育虐待」という概念が提唱され、新しい問題としてそれを世に訴えることで、「虐待」とは別のアプローチで捉えることを民衆に促し、「教育虐待」だけでなく、「虐待」問題をも再考する機会を社会に与える効果がある。

実際には、「教育虐待」が現行の児童虐待防止法に対応するか否かは、クレーム申し立て者の意図や問題設定に依存する。本研究で何度か言及している大西らの研究では、武田が提唱する広義の「教育虐待」は児童虐待防止法に対応する一方で、古荘と宮本による「教育虐

⁴⁷ 「「あの教育は虐待だった…」子ども、親それぞれの思い」 NHK、<https://www.nhk.or.jp/minplus/0121/topic061.html>、2024年2月13日（参照 2025年1月5日）

待」や「教育ネグレクト」は、「保護者のみを対象としている児童虐待防止法の枠組みに収まらない、より広い概念である」とされている。さらに大西らは、「エデュケーショナル・マルトリートメント及びその関連概念と、児童虐待防止法の虐待概念との対応関係を厳密にすることは困難である」と述べた上で、「しかし...（中略）エデュケーショナル・マルトリートメントについて対応を行うためには、その法的根拠を示すために児童虐待防止法上の何らかの虐待概念に位置付けておく必要がある」と主張し、新しい問題への対処法を提案している。

(4)「被害者」と「加害者」の自己認識の促進

最後に、「教育虐待」問題の「被害者」及び「加害者」に自己認識を促す効果がある。メディアが「教育虐待」という言葉を用い、それに該当する具体的な行為を列挙することで、人々は自身の行動や経験を「教育虐待」として再認識する契機を得る。それによって、「被虐待者」は自身が「被害者」であることを認識し、自身を正当化できる一方で、「虐待者」は自身が「加害者」である自覚を得ることで反省に繋がるという効果が期待できる。

例えば、第4章で取り上げた古谷は自身を「教育虐待」の被害者であるとし、『毒親と絶縁する⁴⁸』という書籍を執筆している。その書籍の冒頭では、両親にされた代表的な「虐待行為」を挙げ、古谷が受けた行為は「現在であれば全国報道されるほどの立派な虐待行為、そう、「教育」を笠に着た「教育虐待」というべきもの」であると主張している。また、本書の第3章は「教育虐待」と題され、自身が受けた「教育虐待」の詳細な出来事を20ページにわたり綴り、「これが、世紀をまたいだ2001年の3月末まで、私が両親から受けた教育虐待の実相である」とまとめている。

この書籍は、「教育虐待」という語が2012年あたりに使われ始めてから8年経った2020年に刊行されたものであり、語の認知は十分にされている時期に世に出たものだ。筆者である古谷は「教育虐待」という語を活用し、実体験を綴り直すことで、自身が「教育虐待の被害者」であるという自己認識にいたったのだと考えられる。

以上のように、「教育虐待」の語の使用によって、社会への問題の認知の拡大、問題についての議論の促進と場の提供、問題への新しいアプローチの提案、「被害者」と「加害者」における自己認識の付与が期待されるという4つの期待される効果があると考えられる。

5.1.2 クレイム申し立て者への効果

本研究を進めていく中で判明したことは、「教育虐待」が、ほとんど第三者にのみ使用される語であるということだ。クレイム申し立て者としての専門家（臨床心理士や教育ジャーナリスト）たちや、子どもシェルターのスタッフ、大学の教員のみならず、非クレイム側の読者やかつての「教育虐待」の「被害者」及び「加害者」は、「教育虐待」問題の「当事者」

⁴⁸古谷経衡『毒親と絶縁する』集英社、2020年

ではないということに注意したい。特に、直前に挙げたかつての「被害者」と「加害者」が「教育虐待」という語を使用する際、彼らはすでに「加害者」である親から独立している立場、もしくは自身の子どもへの「教育虐待」行為に気づき、過去の行為を反省するという視点に立ち、「過去の出来事」として語っているのだ。

なぜクレーム申し立て者は、自身が「当事者」ではない上に、「クレーム申し立て活動」という、社会に変革を求める、労力の必要な行為を進んで行うのか。その動機は、「教育虐待」問題の解決という社会的な成果だけでなく、クレーム申し立て者側にも何かしらの利益が生じるからである。

(1) 専門的地位の確立

「教育虐待」問題におけるクレーム申し立て者は、「クレーム申し立て活動」を通じて、自身の専門的地位を確立していると考えられる。

例えば、武田、古荘、大西らは、それぞれ研究者としての立場を活用し、この分野における専門性を形成してきた。武田は教師教育学を専門とし、臨床心理士としての知見を活かして著書を執筆している。彼女はその書籍を通じて、教育現場における過剰な教育行為への問題提起を行い、自身の専門的立場を明確にしている。一方、古荘は小児精神科医としての視点から「教育虐待」という概念を扱い、同分野における議論を牽引している。彼の活動は、小児精神医学と教育問題の接点における専門的地位を確立する一助となっているといえる。また、大西も書籍を刊行し、研究者という立場から「教育虐待」の一形態としての「エデュケーショナル・マルトリートメント」に関する知見を提示している。この書籍を通じて、彼らは当問題の専門家としての役割を社会に示している。

(2) 経済的な利益の獲得

また、経済的な利益を得られることも、クレーム申し立て者が「教育虐待」問題における「クレーム申し立て活動」を積極的に行う動機になっていると考えられる。「クレーム申し立て活動」を行う中で、経済的な利益が得られることは、活動の一側面として注目される。この種の活動には、書籍の執筆やメディア出演など、原則として収益を伴うものが含まれており、経済的利益が活動を支える現実的な基盤となっている。

例えば、教育ジャーナリストのおおたや、ノンフィクション作家として活動する石井は、「教育虐待」問題に関連した書籍を刊行しており、それぞれの活動を通じてこのテーマを幅広く伝えている。石井は自身の著作を原作とした漫画を2024年3月から『月刊コミックパンチ』で連載しており、こうした展開は執筆活動が収益を伴うビジネスとしての側面を持つことを示している。

また、おおたは『ルポ教育虐待』の末尾で「この書籍の印税の一部を、『カリヨン子どもセンター』へ寄付する」と記しており、支援活動を行う意図を明示しているものの、「一部」という表現からも分かるように、印税は作者自身の収入にも繋がっている。

このような経済的利益は「クレーム申し立て活動」を行う動機の一部であると同時に、活

動の継続性を担保する重要な要素ともいえる。

(3) 社会的影響力の拡大

クレーム申し立て者にとって、社会的影響力を通じた名声や権威的な立場の獲得は、その活動を推進する動機の一つであると考えられる。具体的には、メディア出演や記事への寄稿、インタビュー対応といった公的な活動を通じて、「教育虐待」に関する発言権を有する専門家としてのイメージを一般層に浸透させる戦略が見られる。

例えば、武田は著書の執筆にとどまらず、他のクレーム申し立て者と比較しても、メディアにおける専門家としての発言が顕著である。彼女はこれまで「Abemaニュース」や「クローズアップ現代」などの番組に専門家として出演しており、特に2024年3月13日放送の「クローズアップ現代」では、「教育虐待」という概念を10年以上前から学会で提唱してきた人物として紹介された⁴⁹。この番組内で彼女は、専門的知見に基づいて「教育虐待」と「教育熱心」の差異や、日本の学校教育が抱える課題について議論を展開した。このような発言を通じて、彼女は「教育虐待」問題における権威としての地位をさらに強化しているといえる。

これらの事例は、クレーム申し立て者が自ら公的な場に出ることで社会的影響力を拡大し、その影響力を「教育虐待」問題に関する権威の確立に結びつけていることを示している。このような社会的影響力の拡大は、「クレーム申し立て活動」の重要な要素であり、その正当性を裏付ける効果を持つと考えられる。

5.2 言説の意図しない影響

「教育虐待」という概念が注目を集めることには一定の意義があるが、一方で、こうした言説が広まることにより予期せぬ影響が生じる可能性も否定できない。

(1) 実際の救済との乖離

「教育虐待」という言葉が社会的に広まったとしても、その言説を活用して「当事者」の救済を主張するのは主に第三者であり、「当事者」自身が自らの境遇を「教育虐待」とは認識していない可能性が指摘できる。

例えば、第3章で取り上げた2018年の滋賀医科大学生母親殺害事件は、「教育虐待」という言葉が既に社会で広く認識され、「教育虐待は悪である」というイメージが定着しつつあった時期に発生した。この事件の被告である女性は、フジテレビ系報道番組「Mr.サンデー」の番組記事⁵⁰において直筆の手紙を公開し、その中で「私もそうでしたが、『自分は教育虐待を受けている』と本人こそ気付かないし、気付きたくないし、周囲に気付かletたくないです」と述べている。この発言は、「教育虐待」という概念が社会的に普及しているからこそ、当事者がそれを自己認識したくないという動機を生み出すことを示してい

⁴⁹ 「“教育虐待” その教育は誰のため？」NHK クローズアップ現代、<https://www.nhk.jp/p/gendai/ts/R7Y6NGLJ6G/episode/te/7YR6344Z3K/> (参照 2025年1月8日)

⁵⁰ 「母殺害…殴られ、切られながら医学部9浪。獄中で娘が思う「本当は母に伝えたかったこと」FNNプライムオンライン、<https://www.fnn.jp/articles/-/684656?display=full>、2024年5月9日 (参照 2025年1月8日)

る。例えば、「教育虐待」という認識を持ってしまうこと自体が当人の自尊心を毀損してしまうことも考えられるし、また、「教育虐待」と社会的に位置づけられることが家庭の平穩をさらに乱すことへの心配からかえって家庭内のあり方について外部に知られることを避けたいと考えることを促すといったことも考えられよう。

(2) 家庭教育への不信感と民間教育への依存

「教育虐待」という語を使用した「クレイム申し立て活動」は、親による家庭での教育への不信感を煽り、民間教育への無条件な信頼と依存へつながる恐れがある。

例えば、何度か取り上げている武田の代表的な定義は、家庭教育に逆に混乱を招く懸念がある。極端な例を挙げると、仮に親が宿題をしない子どもに対し「宿題をしない」と言ったとして、子どもがそれを受けて「心身が耐えられる限界を超えた、これは虐待だ」と主張すれば、これは「教育虐待」になってしまうということだ。武田は、「教育虐待」関連の記事執筆やメディア出演が顕著ということから、「教育虐待」言説の中で権威的な存在であり、彼女の問題への発言は良くも悪くも説得力を帯びる。したがって、彼女のような専門家という権威が「教育虐待」に関する定形化された曖昧な定義を広め、「クレイム申し立て活動」を行うことで、単純化されたステレオタイプが蔓延する。それと同時に、親の家庭教育への不信感を増幅させ、この不信感が親たちを極端な学習塾や超早期教育教室などの民間教育機関に依存させる可能性がある。

(3) 専門家による権威の濫用

「教育虐待」問題の「クレイム申し立て活動」は、「子ども最優先」を主張するクレイム申し立て者による権力の濫用が懸念される。

「教育虐待」を含む「児童虐待」問題では、指針として「子どもの権利」が最優先となる。これに基づいて、クレイム申し立て者たちは、子どもにわずかでも悪影響を及ぼしうる行為が認められた途端に、「子どもの権利を無視している」と親たちを非難する。今津孝次郎は、「特に教育問題に関しては、それを論じることばに呪縛されて、肝心の現実がよく見えていないということがあるのではないか。ことばが多義的で曖昧なところがあり、どこか幻惑させるような性格を帯びていて、そうした一定のことばや言語表現を呪文のように唱えたと、そこで議論がストップしてしまったり、さらに一歩踏み込んだ分析は退けられてしまうようなことがあるのではないか⁵¹」と述べており、「子どもの権利」を盾とした「教育虐待」という語は、特に専門家という権威がこのようなことを主張する場合、異論を唱えることを許されない魔法の言葉と化すのである。また、内田は前掲書で「「虐待」とは強者たる専門家の言葉」と述べ、いかに「虐待」という言葉が専門家という権威によって占有されているかということを明らかにしている。これは「教育虐待」においても当てはまることであり、これは「教育虐待」問題の「クレイム申し立て活

⁵¹今津孝次郎、樋田大二郎『教育言説をどう読むか』新曜社、1996年

動」を行う上での注意すべき懸念点である。

このようなことから、「教育虐待」問題における「クレーム申し立て活動」は、必ずしも好ましい方向に向かわせるものではなく、検討しなければならない意図しない影響や懸念点がある。

おわりに

本稿では、全体的に「教育虐待」言説がいかに出現し、語られ続けているのかという構造を明らかにしてきた。

補足的な分析を加えるとすると、ベストの理論に基づき、「教育虐待」問題は「児童虐待」問題の「ドメイン拡張」の結果だと言える。第4章で参照した書籍において、ベストは、「ひとたびクレームが受け容れられると、その基盤の上に追加的なクレームを申し立てることが可能になる場合が多い」と主張し、当初の問題の道徳的等価物であるとして、より多くの問題が包摂される状態をドメイン拡張と名付けている。「児童虐待」問題に関しても、初期は「被虐待児症候群」と呼ばれていたものが「児童虐待」と名前を変えたことで「虐待」の境界線が拡張され、その後の2012年頃から使われ始めた「教育虐待」も「児童虐待」の範囲がより広範囲で曖昧なものになって出現した語である。国内で児童虐待防止法の施行や子どもの権利条約の批准した時期に注目された「児童虐待」はいわゆる「成功した」クレームであり、「教育虐待」におけるクレームはそれに立脚したドメイン拡張の結果であるといえる。

また、仮に「教育虐待」が実態として存在していたとして、本研究がその直接的な解決策になるとは主張しない。しかし、現場で横行しているとされる実際の問題と対峙する上で、クレーム申し立て者が頻繁に活用する「子どもの権利」や「教育虐待」という議論を遮断させてしまうような言葉を慎重に取り扱うことを提案することで、本稿が、間接的なアプローチとして「教育虐待」問題に関わる人々のヒントになりうることを期待する。

一方で、「教育虐待」の言説分析の限界も明らかになった。「教育虐待」は第三者による使用にほとんど限定されるため、「当事者」の声を拾うことができなかった。たしかに、第三者による「教育虐待」の認知の拡大や援助は有効なものでありうるが、滋賀医科大学生母親殺害事件の被告の女性が手紙に綴っていたように、「当事者」たちは、「教育虐待」に気付かない上に認めたくないし、知られたくない場合もある。このようなことから、結局、「教育虐待」の「当事者」が、本人が置かれた状態をいかに感じているか、具体的にどのような救済を求めているのか、もしくは求めていないのかをこの一連の「教育虐待」の「クレーム申し立て活動」、および本研究からも見出すことができなかった。

このような社会学における言説分析の限界を踏まえ、今後の展望として、文学研究的なアプローチが考えられる。当事者の視点を描いた文学作品の分析を通じて、社会学ですくいきれなかった「当事者」の視点について考察し、本稿で検討してきたような社会構築主

義的な知見と合わせて両面から考えることで、「教育虐待」および「児童虐待」問題について多面的に考えることができるのではないだろうか。今後の課題としたい。

計量分析による文体模倣評価の可能性と課題

—「金色夜叉」を題材として—

The Potential and Challenges of Quantitative Analysis in Evaluating
Stylistic Imitation: The Case of ‘The Gold Demon’

明治大学 国際日本学部

櫻井 千恵

Meiji University School of Global Japanese Studies

SAKURAI Chie

目 次

1. はじめに
2. テキストデータの入手方法
3. 同時代評価
4. 分析項目
 - 4-1. 地の文の長さ
 - 4-2. 読点の位置
 - (1) 読点前の品詞
 - (2) 読点後の品詞
 - 4-3. 品詞
 - (1) MVR
 - (2) 助詞・助動詞の対応分析
 - (3) 形容詞・動詞・形容動詞・副詞の対応分析
 - (4) 動詞の表記
 - (5) 接辞「げなり」
 - (6) 副詞の表記
 - 4-4. 芝居的
 - (1) 会話文と地の文の乖離
 - (2) 長台詞の割合
 - 4-5. 漢文訓読系の語法
 - 4-6. 形容詞・形容動詞「可一」の使用
 - 4-7. 語種
 - 4-8. お宮の会話文の特徴
5. 結論
6. 課題

1. はじめに

本研究では、尾崎紅葉「金色夜叉」、小栗風葉『終編金色夜叉』と長田幹彦の『金色夜叉終編上』の文体的特徴についての分析を通して、計量分析の可能性と課題について検討する。

尾崎紅葉は、1897年から1902年にかけて読売新聞で「金色夜叉」「後篇金色夜叉」「續金色夜叉」「續々金色夜叉」「續々金色夜叉續篇」を連載した¹。その後、「病氣その他の事情で作者が讀賣を退社してしまったので、結局中止の形となつた」²が「翌36年「新小説」の1月號から、最後の23章を再掲し、續いてその續編を執筆するつもりであつたが、病勢の昂進と共にそのこともならず」死去し、本シリーズは未完に終わった。単行本は、1898年から1903年にかけて春陽堂より『金色夜叉 前編』『金色夜叉 中編』『金色夜叉 後編』『金色夜叉 続編』『續續金色夜叉』が出版されている³。

小栗風葉は新潮社に依頼され、紅葉が残した腹案に基づいて1909年『終編金色夜叉』を出版する⁴。

長田幹彦は、1917年『やまと新聞』にて「続金色夜叉」の連載を始める。長田幹彦の「続金色夜叉」は連載中に浅草オペラ館で上演され、のちに映画化する。「長田幹彦氏の作物が所謂映画劇的の情調と波乱とに富んで居ると云うことは、我々映画研究者間に屢々伝えられる所である」⁵と言われている。その後、春陽堂より『続金色夜叉』（1918年）、『金色夜叉終編上』（1920年）、『金色夜叉終編下』（1922年）を出版する。

小栗、長田ともに、紅葉の「金色夜叉」との文体の近さに関する評価が見られるため、本分析の対象として適切であると考えている。また、小栗については同時代評価において、紅葉との文体の類似性が度々指摘されているものの、具体的にどのような点が似ているのかについては十分に検討されていない。

本研究では計量分析を用いて小栗および長田のテキストが、紅葉の「金色夜叉」の文体をどのように模倣しているのか明らかにする。またこの分析を通して、計量分析の手法そのものが持つ可能性と限界についても考察を行う。

2. テキストデータの入手方法

尾崎紅葉「金色夜叉前編」「金色夜叉中編」「金色夜叉後編」「續金色夜叉」「續續金色夜叉」については、まず青空文庫からテキストをダウンロードした。塩田良平が、春陽堂から出版された単行本について「大局から見れば、この本文は最も信ずるに足るものであ

¹ 紅葉「金色夜叉」『読売新聞』1897年1月1日～紅葉山人「續々金色夜叉續篇」『読売新聞』1902年4月23日

² 塩田良平『「金色夜叉」解題』『尾崎紅葉全集 第六卷』中央公論社、1941年6月

³ 紅葉山人『金色夜叉』春陽堂1898年7月～尾崎徳太郎『續續金色夜叉』春陽堂1903年6月

⁴ 小栗風葉「続編金色夜叉」の執筆に就いて『金色夜叉終編』新潮社、1909年4月

⁵ 「續金色夜叉」『活動之世界』1918年7月

り、紅葉の息が確實にかゝつてゐるものであり、従つて、紅葉の用字法その他の典拠となる最後のものは、この5冊本の本文でなければならない」⁶と述べているため、ダウンロードしたテキストを近現代文学館名著復刻全集（1968年12月）に合わせて修正した。小栗風葉『終編金色夜叉』および長田幹彦『金色夜叉終編上』は、次世代デジタルライブラリーよりダウンロードした。そのままでは文字化けが多数あるため、紙の資料と照らし合わせながら、手作業で修正を行った。

3. 同時代評価

小栗は「終編金色夜叉執筆において」で、執筆の難しさについて「慙くて余は故人の腹案覺書に依て大體の脚色を立案し、それより自家の餘暇を偷みて、「終編金色夜叉」の執筆に努むるありしが、文章の則熟、字句の洗煉を以て、殆ど無比の評ある故人の筆致を模するの困難は、實に喩ふべくも非ず」⁷と述べている。文体に関する同時代評価としては「紅葉そっくりの絢爛たる文章である」⁸「清婉と凄怨の作を以て鳴りし紅葉逝く、代りて『金色夜叉』を璧完したらむるはそも誰ぞ、小栗風葉は、その形骸を享けて精神を忘れたり」⁹「よく紅葉の文を真似てゐるが、それと共に同氏の如何に舊文章に囚はれてゐるかも察せられる」¹⁰「文章も苦勞性の作者のことゝて紅葉山人酷肖と云つても可い位に書かれ居る」¹¹「萬朝報曰く 文章字句共に能く故人紅葉の筆致に擬し、其圓熟と洗煉とは殆ど故人の壘を壓するの概あり、大體の脚色は故人の腹案覺書により、その描寫の精緻にして輕妙なる亦大體に故人の作を読むの感あり」¹²がある。

長田は、『やまと新聞』にて連載を始める前の1903年に「若しあの「霧」の文章をもつと單純化して而して作者の人格がもつと大きく出るやうになつたならば、恰度紅葉の「金色夜叉」か、但しはモウパッサンの「ベル、アミ」のやうな味ひのものになると、私は信じて居る」¹³とされていた。出版後は広告で「現文壇の逸材にして文の妙と想の功を以て大正の紅葉たるやの觀ある長田幹彦氏は、夙にこれを遺憾として文豪の志を繼いで完成せしめんとする年があつた。（中略）紅葉氏の作を読みたる人は必らず本書によりて長年の渴望を満たさねばならず、また之を一個獨立せる小説として見るも興味津々として卷を掩ふ能はざるものがある。天才は天才を知る」¹⁴「この名作の中絶されたるを読者は嘆き惜んだ。そこで大正の紅葉をもつて目せらるゝ長田幹彦氏は私淑せる戦陣の偉業を繼承

⁶ 塩田良平『『金色夜叉』解題』『尾崎紅葉全集 第六卷』中央公論社、1941年6月

⁷ 小栗風葉「『続編金色夜叉』の執筆に就いて」『金色夜叉終編』新潮社、1909年4月

⁸ 村松梢風『佐藤義亮伝』新潮社、1953年8月

⁹ 扶隆生「十作家を論ず（上）」『新声』1904年1月1日

¹⁰ XYZ「机上雑感」『読売新聞』1899年12月6日

¹¹ 白雲子「讀過雜感」『読売新聞』1909年12月

¹² 本間久雄『人及び芸術家としての尾崎紅葉』新潮社、1918年3月

¹³ 徳田秋聲「本年の文壇 創作界を顧みて」『時事新報』1913年12月13日、14日

¹⁴ 『続金色夜叉』広告『中央文學』1918年6月

し、多年苦心経営、遂に前後 3 巻に亙る続編を完成した」¹⁵と宣伝されていた。

4. 分析項目

地の文の長さ、読点前後の品詞、MVR、各品詞、会話文と地の文の乖離、長台詞の割合、漢文訓読系の語法、形容詞・形容動詞「可一」の使用、語種、お宮の会話文を分析項目とした。

品詞分解は Web 茶まめで行った。使用した辞書は「旧仮名口語」である。

対応分析には KH coder を使用した。分析対象のテキストが明治から大正のものであるため、KH coder に 2022-03 版の「旧仮名口語 UniDic」を導入した。KH coder 内での形態素分析には Mecab を使用している。また、すべての分析において人物名を強制抽出した。

土山玄は、「小説内部における会話文は描かれるストーリーや舞台に応じて、地の文とは文体が同様ではないことが考えられる」¹⁶と述べている。したがって、本研究においても、会話文と地の文を分けて分析を行うことにした。電報と手紙については、それぞれ独特の表記があり、データ量も限られているため、どちらにも含めなかった。

李広微「文学作品の模倣に関する計量的比較分析」は、ストーリーの展開についても文体研究の対象としている¹⁷。小栗の展開が紅葉の腹案をもとにしている¹⁸のに対して、長田は、高利貸を辞めた貫一が荒尾とともに北海道で事業を起こす話で、紅葉のストーリーとは独立したものである。以上より、腹案がある小栗の方がより紅葉に近いのは当然であるため、ストーリー展開については分析の対象外とした。

岡保生¹⁹は「風葉の代作が多く岡本霊華、真山青果ら門下生によつてなされたことは事実であるし、霊華らに作品発表の機会を与えるところから彼の代筆という現象がみられるようになったというのは、まず信じてよいだろう」「風葉合作」の文字が消えるころから、風葉の代筆という現象がみられるようになったのである。それは年代的にいうと、明治 37 年ごろからのことであつた」と述べている。小栗が『終編金色夜叉』を出版したのは 1909 年（明治 42 年）である。よって、本分析ではこの代筆問題を考慮し、小栗と長田の文体模写能力ではなく、テキストとして比較する。

4-1. 地の文の長さ

文の長さは、言語を問わず「著者推定や真贋判定では最も初期から利用されてきたテキス

¹⁵ 『長田幹彦全集 第四巻』非凡閣、1936 年 8 月

¹⁶ 土山玄「夏目漱石の小説における文語表現について」『じんもんこん 2018 論文集』2018 年 11 月

¹⁷ 李広微「文学作品の模倣に関する計量的比較分析」『テキストアナリティクス第 7 巻 文学と言語コーパスのマイニング』岩波書店、2021 年 6 月

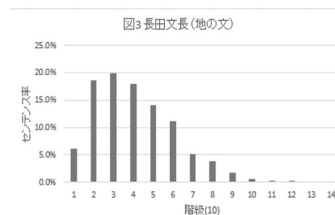
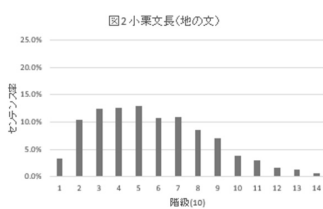
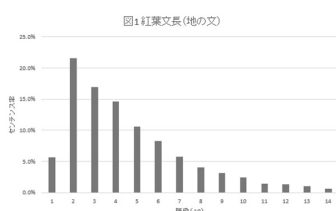
¹⁸ 小栗風葉「続編金色夜叉」の執筆に就いて『金色夜叉終編』新潮社、1909 年 4 月

¹⁹ 岡保生「風葉代作考」『国語と国文学』1969 年 8 月

ト特微量」²⁰だという。

地の文テキストデータを使用して、文の長さを調べた。テキストを句点ごとに区切り、1文に含まれる文字数をカウントした。1文の平均値は、紅葉が44.3文字、小栗が53.2文字、長田は36.8文字である。平均値から見れば、小栗・紅葉・長田の順に長い。

平均値は外れ値の影響を受ける可能性があるため、ヒストグラムを作成し分布を確認した。ヒストグラムを作成するにあたって、四分位範囲を用いて外れ値を判定した。上限は、第三四分位数+1.5×四分位範囲で求めている。紅葉の上限は114文字、小栗は135文字、長田は91文字だった。上限が最も大きい小栗を基準に、階級は140までとした。またテキスト量に差があるため、縦軸は全地の文のうち該当する階級に当てはまる文の割合とした。



ヒストグラムを見ると、小栗の分布が紅葉・長田と比べると特徴的であることがわかる。以上より、地の文の文長においては、長田の方が紅葉に近いといえそうだ。

4-2. 読点の前後の品詞

「統計分析からみた水村美苗著『続明暗』の文体模倣」を参考に、読点の前後の品詞を確認した。「文章を綴る際に、読点によってテンポを意識的に整えることができるが、どの文字・単語の後ろに打つかについては定則がないため、そこに書き手の癖が表れやすい」²¹ という。

会話文テキストデータと地の文テキストデータそれぞれについて、読点の直前・直後の1語を抽出し、Web 茶まめで品詞分解した。表は、テキストデータごとの出現回数の多い10の品詞リストとその回数、全データのなかでその品詞が占める割合を示している。

²⁰ 浅石卓真「テキストの特徴を計量する指標の概観」『日本図書館情報学会誌』2017年10月

²¹ 李広微・金明哲「統計分析からみた水村美苗著『続明暗』の文体模倣」『計量国語学』2019年6月

(1) 読点前の品詞

会話文（表 1）において長田は紅葉・小栗と比べると、読点前に「感動詞」や「代名詞」を置くことが多い。長田の代名詞のうち 61.8%（47 回）が「私、」の形で使用されている。紅葉が「私、」の形で使用するのは 4.7%（5 回）、小栗は 18.3%（11 回）だった。

表1 読点前の品詞 会話文

紅葉			小栗			長田		
品詞	数	割合	品詞	数	割合	品詞	数	割合
接続詞	792	17.2%	接続詞	360	19.9%	感動詞-一般	249	20.2%
助詞-格助詞	722	15.7%	助詞-格助詞	256	14.1%	接続詞	245	19.8%
助詞-接続助詞	551	12.0%	助詞-接続助詞	222	12.3%	助詞-接続助詞	166	13.4%
感動詞-一般	453	9.8%	助詞-係助詞	188	10.4%	助詞-格助詞	131	10.6%
助詞-係助詞	419	9.1%	助詞-終助詞	135	7.5%	代名詞	76	6.2%
助詞-終助詞	403	8.7%	感動詞-一般	125	6.9%	接尾辞-名詞的-一般	55	4.5%
助動詞	262	5.7%	助動詞	75	4.1%	助詞-係助詞	48	3.9%
名詞-普通名詞-一般	152	3.3%	代名詞	60	3.3%	副詞	47	3.8%
接尾辞-名詞的-一般	133	2.9%	名詞-普通名詞-一般	57	3.1%	助動詞	31	2.5%
代名詞	110	2.4%	副詞	53	2.9%	助詞-終助詞	30	2.4%
計		86.7%	計		84.5%	計		87.3%

地の文（表 2）では、長田は読点前に「助詞-接続助詞」を置く割合が紅葉・小栗と比べてかなり高い。また、「助詞-終助詞」は紅葉が 3.0%使用しているのに対して、小栗は 1.5%、長田は 0.7%と低かった。

表2 読点前の品詞[地の文]

紅葉			小栗			長田		
品詞	数	割合	品詞	数	割合	品詞	数	割合
助詞-接続助詞	2065	37.8%	助詞-接続助詞	1842	28.3%	助詞-接続助詞	756	50.8%
助詞-格助詞	905	16.6%	助詞-格助詞	1446	22.2%	接続詞	258	17.3%
助詞-係助詞	621	11.4%	助詞-係助詞	1053	16.2%	助詞-格助詞	245	16.5%
助動詞	442	8.1%	助動詞	396	6.1%	助詞-係助詞	55	3.7%
名詞-普通名詞-一般	348	6.4%	名詞-普通名詞-一般	327	5.0%	助詞-副助詞	40	2.7%
接続詞	242	4.4%	接続詞	279	4.3%	助動詞	26	1.7%
助詞-終助詞	166	3.0%	名詞-普通名詞-副詞可能	195	3.0%	名詞-普通名詞-副詞可能	24	1.6%
動詞-一般	153	2.8%	助詞-副助詞	183	2.8%	名詞-普通名詞-一般	21	1.4%
動詞-非自立可能	95	1.7%	動詞-一般	162	2.5%	動詞-一般	16	1.1%
助詞-副助詞	78	1.4%	副詞	111	1.7%	感動詞-一般	4	0.3%
計		93.7%			92.0%			97.0%

(2) 読点後の品詞

同様の方法で、読点直後に置かれる品詞について分析した。

表3 読点後の品詞[会話文]

紅葉			小栗			長田		
品詞	数	割合	品詞	数	割合	品詞	数	割合
代名詞	1043	22.5%	代名詞	439	24.1%	代名詞	294	23.9%
名詞-普通名詞-一般	870	18.8%	名詞-普通名詞-一般	363	19.9%	副詞	246	20.0%
副詞	595	12.9%	副詞	261	14.3%	名詞-普通名詞-一般	175	14.2%
名詞-普通名詞-副詞可能	456	9.9%	名詞-普通名詞-副詞可能	166	9.1%	名詞-普通名詞-副詞可能	116	9.4%
連体詞	322	7.0%	連体詞	84	4.6%	連体詞	93	7.6%
動詞-一般	172	3.7%	接頭辞	57	3.1%	接続詞	56	4.5%
接頭辞	158	3.4%	補助記号-括弧開	56	3.1%	名詞-固有名詞-人名-姓	29	2.4%
接続詞	109	2.4%	接続詞	52	2.9%	動詞-一般	25	2.0%
感動詞-一般	99	2.1%	動詞-一般	50	2.7%	名詞-固有名詞-地名-一般	23	1.9%
形容詞-一般	92	2.0%	名詞-普通名詞-サ変可能	37	2.0%	接頭辞	22	1.8%
計		84.6%	計		85.8%	計		87.7%

会話文（表 3）では、大きな差はみられなかった。小栗の特徴は、読点後に「補助記号—括

弧閉」が紅葉（0.5%）、長田（0.2%）と比べて多いところだ。長田は「名詞・固有名詞・人名・姓」の使用が紅葉（1.0%）、小栗（1.2%）に比べて多かった。

表4 読点後の品詞[地の文]

紅葉			小栗			長田		
品詞	数	割合	品詞	数	割合	品詞	数	割合
名詞・普通名詞・一般	1872	33.7%	名詞・普通名詞・一般	715	32.4%	名詞・普通名詞・一般	325	21.6%
代名詞	557	10.0%	副詞	231	10.5%	名詞・固有名詞・人名・名	220	14.6%
副詞	427	7.7%	名詞・普通名詞・副詞可能	205	9.3%	副詞	211	14.0%
動詞・一般	365	6.6%	連体詞	133	6.0%	代名詞	164	10.9%
連体詞	362	6.5%	代名詞	124	5.6%	名詞・固有名詞・人名・姓	99	6.6%
名詞・普通名詞・副詞可能	338	6.1%	動詞・一般	124	5.6%	連体詞	96	6.4%
接続詞	303	5.5%	接続詞	101	4.6%	名詞・普通名詞・副詞可能	74	4.9%
名詞・固有名詞・人名・名	174	3.1%	名詞・固有名詞・人名・名	101	4.6%	接続詞	44	2.9%
名詞・数詞	152	2.7%	名詞・固有名詞・人名・姓	92	4.2%	名詞・普通名詞・サ変可能	35	2.3%
名詞・普通名詞・サ変可能	151	2.7%	名詞・普通名詞・サ変可能	54	2.4%	名詞・固有名詞・地名・一般	31	2.1%
計		84.6%			85.1%			86.1%

地の文（表 4）においても、大きな差はみられなかった。小栗は、読点の後に「代名詞」を置く割合が 5.6%で、紅葉と長田に比べると低い。

4-3. 品詞

(1) MVR

樺島忠夫・寿岳章子²²は、文章を「要約的な文章」「描写的な文章」に分け、描写的な文章を「ありさま描写」「動き描写」の 2 つに分けた。それぞれの定義は順に、「事柄の骨組みだけを書く」文章、「文章を読めば、これにそえるさし絵を描くことができそうな」くらい「文章に表されるべき表現対象の様子を、読み手に具体的に感じ取らせるような文章」、「色、状態、質についての描写」、「行動、変化を述べる描写」である。この区分は、名詞率と MVR によって行われる。

名詞率は、「名詞数÷自立語」で求める。分母は名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の計であり、助詞・助動詞・接頭辞・接尾辞・句読点・かぎ括弧は含めない。また、M、V、R はそれぞれ形容詞・形容動詞・副詞・連体詞、動詞、名詞で、MVR は「 $100 \times M$ の割合/ V の割合」で求める。

名詞率が高い文章は「要約的な文章」で、名詞率が低いものは「描写的な文章」である。「描写的な文章」は MVR によって二分され、MVR が大きい文章が「ありさま描写」、MVR が小さい文章が「動き描写」である。

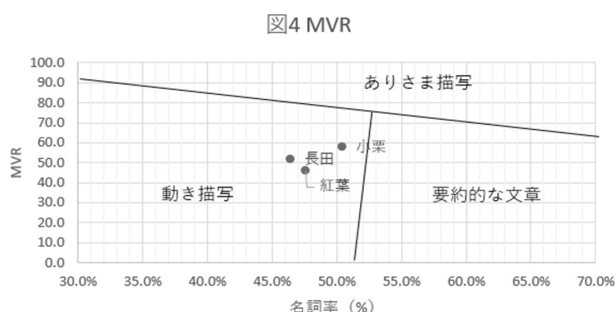
地の文テキストデータを使用し、Web 茶まめで品詞分解した。M には「形状詞・タリ」「形状詞・一般」「形状詞・助動詞語幹」「形容詞・一般」「形容詞・非自立可能」「副詞」「連体詞」を、V には「動詞・一般」「動詞・非自立可能」、R には「名詞・固有名詞・一般」「名詞・固有名詞・人名・一般」「名詞・固有名詞・人名・姓」「名詞・固有名詞・人名・名」「名詞・固有名詞・地名・一般」「名詞・固有名詞・地名・国」「名詞・普通名詞・一般」「名詞・普通名詞・助数詞可能」「名詞・普通名詞・サ変可能」「名詞・普通名詞・形状詞可能」「名詞・普通名詞・サ変形状詞可能」「名詞・普通名詞・

²² 樺島忠夫・寿岳章子『文体の科学』綜芸舎、1965 年 6 月

副詞可能」を含めた。「名詞・普通名詞・サ変可能」「名詞・普通名詞・形状詞可能」「名詞・普通名詞・サ変形状詞可能」「名詞・普通名詞・副詞可能」は、Rに分類される可能性とMに分類される可能性の両方が考えられる。しかし、樺島・寿岳はこれらについて大まかな分類を行っている。異なる基準で分類すると、図が変化してしまう可能性があるため、本分析ではWeb茶まめの大分類に従い、原則としてこれらをRに含めることとした。ただし、「名詞・普通名詞・サ変可能」には、「放火せし狂女」のように「名詞・普通名詞・サ変可能」「動詞・非自立可能」という構造の語が含まれている。これらについては「放火せ」で一つの動詞として数えた。

結果は、表5・図4の通りである。

表5 MVR			
	紅葉	小栗	長田
M数	6,083	2,574	2,843
V数	13,210	4,454	5,501
R数	18,745	7,649	7,611
自立語数	39,362	15,170	16,390
M率	15.5%	17.0%	17.3%
V率	33.6%	29.4%	33.6%
R率	47.6%	50.4%	46.4%
MVR	46.05	57.79	51.68
	動き描写	動き描写	動き描写



図の境界線は、樺島・寿岳によって引かれたものを参考にした。

分析の結果、紅葉・小栗・長田ともに名詞率が低く動詞率が高い「描写的な文章」の「動き描写」に分類された。その中では、小栗がやや名詞率が高く、要約的な文章に近かった。

(2) 助詞・助動詞

助詞・助動詞は「文章の内容にあまり依存しない」²³とされており、計量分析の手法としてよく用いられている。金明哲は、「井上靖・三島由紀夫・中島敦の短篇小说」を対象に、「助詞の分布を用いて文章を分類する場合、文章が著者別に分類されるか」確認したところ、「見かけ上100%の判別率が得られた」²⁴という。

そこで、テキスト内に出現した助詞・助動詞の書字形を使ってKH coderで対応分析を行った。KH coderはデフォルトでは、助詞・助動詞を含む機能語は分析対象外とするよう設計されている。そこで、本分析に限り「hinshi_mecab」ファイルを書き換え、分析対象に助詞・助動詞を追加した。また抽出語を確認したところ、KH coder上で判定が正しく実行されない語がいくつかあった。例えば、助動詞「けり」は動詞「蹴り」として処理されてい

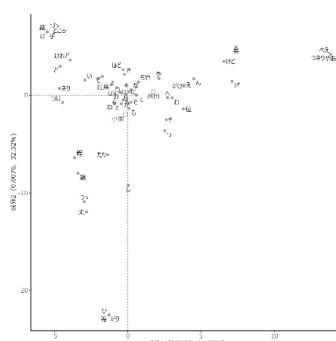
²³ 大久保博美・大久保起延「助詞・助動詞の使い方と漱石作品の分類」『計量国語学』2014年9月

²⁴ 金明哲「助詞の分布に基づいた文章の原著者の認識」『日本行動計量学会大会発表論文抄録集』1996年9月

対応分析は複数のグループを比較する時、共起語ネットワークより適切であると言われている。また原点から離れた語がより特徴的な語である²⁵。

結果は、図 5、6 の通りで原点の近くに集まった。地の文の助詞については、長田がやや特徴的であるといえそうだ。

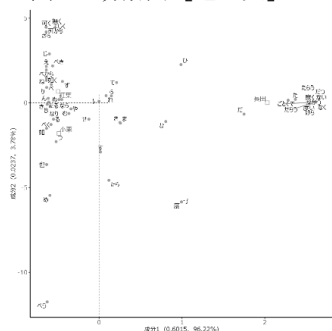
図 6 助詞 [会話文]



地の文の助動詞（図 7）については、紅葉・小栗と長田の差が大きかった。

品詞分解データを確認すると、長田は助動詞「た」を、2 番目に多かった「で」の約 3 倍使用しており、これが全体の 40%を占めていた。一方、紅葉は 5 回 (0.1%)、小栗は 2 回 (0.1%) とほとんど使用していない。

同時代評価でも、紅葉の金色夜叉について「人々の言い、又目立って堅苦しき地の文と、対話とが調和を欠ける何に「けり」「りぬ」の擬古調と出懸けた気取りさ下限、丸で

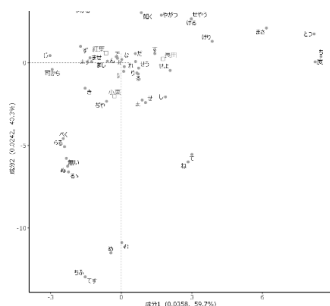


-342-

遊治郎が社杯を着けたようだ」²⁶、小栗について「舊文章に囚はれてゐる」²⁷とあるが、これらは地の文文末の助動詞で説明ができよう。

以上より、地の文の文末における助動詞の使用については小栗の方が紅葉に近そうだ。

図 8 助動詞 [会話文] 会話文の助動詞 (図 8) については助詞の場合と同様、原点付近に集まった。



(3) 形容詞・動詞・形容動詞・副詞の対応分析

形容詞・動詞・形容動詞・副詞についても、KH coder を用いて対応分析を行った。形容詞・形容動詞・動詞は活用するため、分析には語彙素を使用した。分析対象は地の文テキストデータである。

図は省略するが、いずれの品詞についてもそれぞれが原点から離れた位置にあり、独自の語を使用していることがわかった。

(4) 動詞の表記

木坂基²⁸によれば、『金色夜叉』では、ほとんどの動詞に漢字を宛てている。わずかに、「す」「なる」「あり」「いふ」の 5 語が仮名書きであるが、これらは動詞の 0.95% にすぎない」という。小栗と長田に同様の傾向がみられるか確認した。

小栗の場合は、地の文・会話文ともに漢字表記の動詞の方が多い。地の文の動詞のうち漢字表記は 82.7%、ひらがなのみ表記は 17.3%、会話文では漢字表記 84.8%、ひらがな表記 15.2% だった。

長田は、地の文・会話文ともに漢字表記とひらがなのみ表記を同じくらいの割合で使用している。地の文の動詞のうち漢字表記は 51.6%、ひらがなのみ表記は 48.4%、会話文では漢字表記 55.2%、ひらがなのみ表記は 44.8% だった。

以上より、紅葉の『金色夜叉』における動詞の漢字表記の多さという特徴をより取り込めているのは小栗のようだ。

²⁶ 迷羊「『金色夜叉』前編を読む」『早稲田文学』1898 年 8 月 3 日

²⁷ XYZ「机上雑感」『読売新聞』1908 年 12 月 6 日

²⁸ 木坂基『近代文章成立の諸相』和泉書院、1988 年 2 月

(5) 接辞「げなり」

前掲の木坂論文によれば、金色夜叉は形容動詞に「接辞「げなり」のつく語を多用する」傾向にあるという。

紅葉は、地の文で「人も無げなる紳士（前編）」「嬉しげなる目（前編）」「可惱しげなる姿（前編）」「忙しげなる（中編）」「可惱しげなるを（中編）」「難しげなる顔（後編）」「貧しげなるを（後編）」「佗しげなるに（後編）」「可恐しげなる澤（續々）」の計 9 回使用していた。

小栗は地の文で「用有りげなるを（6 ページ）」「由有りげなる貫一（17）」「慵げなる足取（16）」「忌々しげなる舌打（39）」「難しげなる氣色（41）」「惱ましげなる妻（41）」「事も無げなる答（60）」「由ありげなる様（90）」「睡げなる木鉢の音（94）」「由ありげなるを（98）」「事有りげなるを（146）」「氣遣しげなるに（160）」「怜らしげなるを（169）」「貧しげなる間（174）」「欲しげなる荒尾（192）」「健げなる心根（224）」「慌忙しげなる間（252）」「花輪重げなる姿（266）」「可愛げなるお鈴（294）」の計 19 回使用していた。

長田のテキストデータには接辞「げなり」はなかった。

(6) 副詞の表記

木坂によれば、金色夜叉は副詞に「未だ」「再び」「独り」「忽ち」「恰も」「最も」などの漢語を多用するのを特徴とする²⁹という。

紅葉は漢字表記の副詞が 91.5%、ひらがな表記が 8.5%だった。小栗は漢字表記が 89.0%、ひらがな表記は 11.0%と、紅葉と似た傾向を示した。一方長田は、漢字表記の副詞は 28.0%、ひらがな表記が 72.0%だった。副詞の表記については、小栗の方が明らかに紅葉に近い。

4-4. 芝居的

揚妻祐樹³⁰は、紅葉の作品群の中で『金色夜叉』が「雅俗折衷体であるというばかりでなく、『二人比丘尼色懺悔』より後の雅俗折衷体が会話文を地の文に埋没させるものが多い中、『金色夜叉』は俗語の会話文を地の文から独立させている点でも異色」と述べている。これは、「登場人物の〈声〉と語り手の〈声〉とが住み分けは、ちょうど舞台俳優の台詞と、陰で舞台の進行を語るナレーションとが住み分けに模した〈語り〉」のようで、「1 人の登場人物の長台詞が多い」ところもまた、「舞台上の役者の台詞のよう」だとしている。

以上より、地の文テキストデータと会話文テキストデータの乖離と、長台詞の多さで芝居的であるか分析する。

²⁹ 木坂基『近代文章成立の諸相』和泉書院、1988 年 2 月

³⁰ 揚妻祐樹「尾崎紅葉『金色夜叉』の〈語り〉—演劇的な〈語り〉」『日本文学会誌』盛岡大学日本文学会、2019 年 3 月

(1) 地の文テキストデータと会話文テキストデータの乖離

助動詞の分析を通して、紅葉と小栗は地の文で文語助動詞を多用していることがわかった。会話で文語助動詞があまり使われていなければ、地の文と会話文との乖離が大きくなる考えた。

まず地の文に含まれる助動詞のうち文語助動詞の占める割合を整理する。紅葉と小栗は文語助動詞の方が多くともに 68.7%で、長田は文語助動詞の方が少なく出現割合は 1.7%だった。

会話文の助動詞のうち文語助動詞の割合を調べた。紅葉は 3.4%、小栗は 5.0%、長田は 2.6%だった。以上より、小栗は紅葉と同様、地の文と会話文で文語助動詞の割合の差が大きいことがわかった (表 6)。

表6 文語助動詞の割合

	紅葉	小栗	長田
地の文 文語助動詞の割合(a)	68.7%	68.7%	1.7%
会話文 文語助動詞の割合(b)	3.4%	5.0%	2.6%
a-b	65.3%	63.7%	-0.9%

(2) 長台詞

長台詞の多さは、1 つの会話文に含まれる文字数の外れ値の多さで判断することにした。かぎ括弧に囲まれた範囲を 1 つの会話文とする。会話文に含まれる文字数の平均値は、紅葉が 46.5 文字、小栗が 63.6 文字、長田が 83.0 文字である。

外れ値上限の判定は、第三四分位+1.5×四分位範囲で求めた。紅葉の上限は 86 文字、小栗は 157.5 文字、長田は 216.5 文字だった。

外れ値として判定された会話文の数は、紅葉は 258、小栗は 57、長田は 37 であった。テキスト量に差があるため、外れ値として判定された文の割合に換算すると、紅葉は 11.8%、小栗は 10.0%、長田は 6.9%だった。長台詞は紅葉が最も多く、最も少ないのは長田だった。

地の文と会話文の助動詞の差、長台詞の割合ともに、小栗の方が紅葉に近いといえそうだ。

4-5. 漢文訓読系の語法

揚妻は、紅葉の『金色夜叉』では「漢文訓読系の「能ワズ」と和文系の「得+動詞+否定」が混用され」ており、「地の文は漢文訓読調を基調としながらも、文中には和文を混じるのは、情に訴える表現を志向したことと、力感のある表現を求めたことの両立を図ったからである」³¹といい、紅葉は「能ワズ」を 47 回、「得+動詞+否定」を 18 回使用していることを明らかにしている。

また小栗は「紅葉先生の門下教授法」で、紅葉から「日本には第一辭が少ない、それから國文と云ふものは變化が乏しい、而して優美でばかりあつて力が無い、だから、緻密な點を

³¹ 揚妻祐樹「尾崎紅葉『金色夜叉』における不可能表現の特徴—漢文訓読系の語法と和文系の語法—」『藤女子大学国文学雑誌』藤女子大学日本語・日本文学会、2022 年 1 月

書き分けたり、強い意味を現はしたり、文章の變化を求めたら、是非共辭の豊富な漢語を用ゐて、音に力のある漢文脈も取る必要がある」³²と言われたと述べている。紅葉の文体を模写するにあつて、漢文表現の使用は重要な要素の一つといえよう。

小栗と長田の全文テキストデータを使用して、これらの表現を探した。

「能ワズ」については、小栗は地の文で「禁ずる能はざるなり（96 ページ）」「看過する能はず成れるなり（145）」の 2 回使用していた。長田の使用はなかった。

「得＋動詞＋否定」については、小栗は地の文で「得遣らで遅らへり（2 ページ）」「得こそ診断すまじき（24）」「何も得言はぬを可き事にして（30）」「得言はぬにはあらず（31）」「得も教へざりし（82）」「得ならぬ衣の香（120）」「明様には得言はず（145）」「立ちも得遣らで（199）」「得堪へず（302）」の計 11 回使用していた。長田の使用はなかった。

4-6. 形容詞・形容動詞「可―」の使用

増井は、紅葉が『金色夜叉』で形容詞・形容動詞に「可羞（はづかしさ）」「可懷しき（なつかしき）」のように「可」使用した例をまとめていて、形容詞では 39 語、形容動詞では 6 語見られるという³³。また、「可―」型の形容詞表記を使用したのは紅葉 1 人ではないことがわかる。多用したのは紅葉 1 人であろうが³⁴と述べている。同様の表現が、小栗と長田に見られるか調査した。分析対象は全文テキストデータである。

小栗と紅葉で共通の語は、「可懷しき（なつかしき）29 ページ」「可愛き者（かわゆきもの）63・64・294」「可笑し（をかしい）58・228・233」「可哀さう（かわいそう）187」の 4 語、計 8 回だった。それ以外のものだと「可悔しく（くやしく）26・158」「可恠しい（をかしい）59・159・161・285」「可惜し（あたらし）230」があった。

長田と紅葉で共通するものは、「可笑しい（おかしい）24・158・184・198」「可哀さう（かあいさう）87・149・231」の 2 語、計 7 回だった。それ以外のものでは「可哀想（かあいそう）24・129・215」があった。

小栗、長田ともに形容詞・形容動詞に「可―」を使用していたが、長田の語は一般的に使用されるものに限られている。以上より、紅葉の独特な表現を取り込めているのは小栗だといえそうだ。

4-7. 語種

³² 小栗風葉「紅葉先生の門下教授法」『文章世界』1906 年 10 月

³³ 増井典夫「尾崎紅葉における形容語での「可」の用字について―『金色夜叉』『多情多恨』の場合―」『愛知淑徳大学国語国文』愛知淑徳大学国文学会、2003 年 3 月

³⁴ 増井典夫「尾崎紅葉における形容語での「可」の用字について」『愛知淑徳大学国語国文』愛知淑徳大学国文学会、2020 年 3 月

地の文・会話文それぞれの語種（和語・漢語・外来語）の割合を調べた。

表7 語種[地の文]				表8 語種[会話文]			
	紅葉	小栗	長田		紅葉	小栗	長田
和	89.5%	88.2%	89.2%	和	90.2%	88.2%	89.4%
漢	10.3%	11.5%	10.6%	漢	9.7%	11.8%	10.5%
外	0.2%	0.3%	0.2%	外	0.1%	0.1%	0.1%

地の文の結果は表7の通りで、大きな違いはみられなかった。特に長田は、紅葉との差が1%以下とかなり小さい。会話文は地の文よりもやや差があった(表8)。会話文においても、長田と紅葉の差は1%以下だった。

紅葉が連載を始めた1897年から長田が『金色夜叉終編上』を出版した1920年の間の作品を同時代作品とし、この中から試みに「吾輩は猫である(1905-1906年)」³⁵「破戒(1906年)」³⁶「田舎教師(1909年)」³⁷「刺青(1910年)」³⁸「芋粥(1916年)」³⁹の5作品を選び、全文テキストデータを対象に同様の分析を行った。テキストデータは青空文庫から入手

表9 語種 同時代作品との比較									
	紅葉(全文)	小栗(全文)	長田(全文)	武蔵野	破戒	吾輩は猫である	田舎教師	刺青	芋粥
和	89.8%	88.2%	89.3%	86.2%	86.2%	83.7%	86.4%	88.4%	87.0%
漢	10.0%	11.6%	10.6%	13.7%	13.7%	15.9%	13.2%	11.4%	13.0%
外	0.2%	0.2%	0.1%	0.05%	0.1%	0.4%	0.4%	0.2%	0.04%

した。本分析に限り、本文異同は誤差とする(表9)。

今回調査した限りでは、和語・漢語・外来語すべての割合において、紅葉との差が1%以下だったのは長田のみだった。以上より、語種の構成比については、長田が紅葉にかなり近いことがわかった。

4-8. お宮の会話文の特徴

渋谷倫子⁴⁰によれば、紅葉は1888年『貴女の友』で「てよだわ」言葉を「「異様の言葉」と呼び、「心ある貴女たちはゆめゆめこのような言葉を使って「美しき玉に瑕をつ

³⁵ 夏目漱石「吾輩は猫である」青空文庫、https://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/789_14547.html、2024年11月11日アクセス

³⁶ 島崎藤村「破戒」青空文庫、https://www.aozora.gr.jp/cards/000158/files/1502_24633.html、2024年11月11日アクセス

³⁷ 田山花袋「田舎教師」青空文庫、https://www.aozora.gr.jp/cards/000214/files/1668_26031.html、2024年11月12日アクセス

³⁸ 谷崎潤一郎「刺青」青空文庫、https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56641_59496.html、2024年11月12日アクセス

³⁹ 芥川龍之介「芋粥」青空文庫、https://www.aozora.gr.jp/cards/000879/files/55_14824.html、2024年11月12日アクセス

⁴⁰ 渋谷倫子「日本語における「近代的」セクシュアリティの形成」『ジェンダー史学』2006年2月

け、磨ける鏡を曇らせ」てはならぬと書いている」が、「批判をした同じ 20 年代はじめから「てよだわ」を使う若い女性を『飾海老』(明治 21)『最眞の掛け合い』(明治 23)などの短編小説に登場させてい」て、『多情多恨』には「てよだわ」を多用する女性为中心的なキャラクター(主人公の妹)として登場している」。この背景には、「文明開化の時代にふさわしい女性キャラクターとして、「近代教育を受けた女性」が模索された」ことがあるという。

また、佐竹久仁子⁴¹によれば 1878 年から学校教育において「男は漢文直訳体風、女は擬古文体風という従来おこなわれていた文語体の性差、特に書簡文の性差を解消して、同一文体(いわゆる「明治普通文」の文体)で指導することが方針とされ」たが、「男女は本質的に異なるものだというジェンダー観が疑われていなかった当時にあつて、文体の性差は必然だという論理は、当然のものとされていた」ため、「女子の文章には常体よりも敬体がふさわしいとされていたことが模範文例からうかがえる」という。

紅葉・小栗・長田のテキストデータからお宮の会話文を手作業で抽出し、「てよだわ」を含む終助詞と敬語表現について調べた。本分析では会話文の数を、文の数で数えている。

紅葉のテキストデータ内で、お宮の会話文は 333 あり、終助詞は「わ(37 回)」「よ(29 回)」「の(16 回)」「ね(13 回)」「て(2 回)」「ねえ(2 回)」「もの(2 回)」「よう(1 回)」「わね(1 回)」の 9 種類が使用されていた。敬語は唯繼・満枝・荒尾に対して使っていて、「です」「ます」「下さい」といった丁寧語は熱海のシーン以降の貫一・母・荒尾・貫一の老婢に使用していた。

小栗のテキストデータ内で、お宮の会話文は 96 あり、終助詞は「わ(19 回)」「よ(13 回)」「もの(5 回)」「ね(4 回)」「の(2 回)」の 5 種類が使用されていた。敬語表現はすべて唯繼に対してのもので、母と貫一、婢には敬語を使用していない。

長田のテキストデータ内でお宮の会話文は 56 あり、終助詞は「わ(4 回)」「もの(1 回)」の 2 種類のみが使用されていた。テキスト量の差を考慮しても、長田は終助詞をあまり使用しておらず、この点については、紅葉に似ていない。

また長田は敬語表現を、男性登場人物の唯繼・荒尾・貫一・遊佐に対して使っていて、女中に対してのみ使用していない。紅葉は貫一に対する敬語表現をお宮との関係性によって変えているように見える。熱海前は敬語がないが、熱海以降になると丁寧語を使用するようになり、貫一の夢の中で許される場面では敬語がなくなる。小栗のテキストでお宮は貫一に敬語を使用していないが、これはお宮が許された後のシーンだからであろう。一方長田は、分析対象とした『金色夜叉終編上』の前作『続金色夜叉』(1919 年、春陽堂)の最後に貫一がお宮を許すシーンがある。ここで、貫一は「我々の前にはこの九年の間の呪ふ可き歳月はなかつたものとして、昔のやうに楽しく、若々しく生きていかうぢやないか」と言い、「貫

⁴¹ 佐竹久仁子「明治後期作文教育とジェンダー」『ことば：研究誌』2009 年 12 月

一とお宮は九年の間の長い悪夢もさめて、熱いあつい眞實の抱擁に酔つたのであった」という文で終わっている。しかし、『金色夜叉終編上』でお宮は貫一に敬語を使用しており、紅葉の基準からは外れている。

5. 結果

分析尺度ごとに結果は異なった。長田が似ていたのは文の長さの分布と MVR、語種の割合といった大きな単位で紅葉に近かった。反対に、小栗はより細かい単位で紅葉に似ていて、共通して使用している語や文法が多い。同時代評価においては、小栗と紅葉の近さが複数指摘される一方で、長田に関する言及は宣伝文句に限られていた。以上の結果から、本分析において、小栗は紅葉との類似性が高いことが明らかになった。

長田の地の文における文語助動詞の少なさと、会話文を二重かぎ括弧でくくって改行せず地の文に組み込む点、会話文を終わらせ地の文に繋ぐ時に「と、云ふ（いふ）」とその活用を多用する（長田 138 回（96 回）、小栗と紅葉は使用なし）ところは、数値化せずとも明らかに特徴的で、紅葉の書いた続編と考えると違和感があった。

小栗については、長田と比べると際立った差は感じられないものの、文体・展開ともにあっさりとした印象を受けた。この点については、紅葉の腹案の影響も考慮すべきだが、今回の分析と照らし合わせれば、小栗のテキストが名詞率の高い「要約的な描写」に近かったことと関係があるかもしれない。また、小栗は紅葉の指導について「文章に就いては、成るべく平易に、なだらかに、誰にでも分かるやうに書け、先生御自身は那の通り文章の凝られた方ですが、例へば家の下女に讀んで聞かせても分るやうに書かなければ可けない、悪く拈らず、飾らず、氣取らず、拵へずに、見た通り、感じた通り、有りのまゝを書けと云ふのでした、其の當時の僕などは、何でも拈つて、飾つて、氣取らなくては名文で無いやうに心得て居たから、骨を折って綺麗な字や、難しい文句を並べて、此所が見せ場だと獨りで得意がつたものです、所が、先生に見て戴くと、其の大得意の所を何れも眞赤に消されて了ふ」「どうか平易に、拵へずに、眞卒に書きたいものだと思ふが、多年染込んだ習慣は失せないもので、可けないと知りつゝ、今でも矢張綺麗な詞など無意味に使つて見たくて困ります」⁴²と回想している。小栗の名詞率の高さは、紅葉の指導の影響によるものである可能性も考えられる。

また今回の分析で、地の文の長さの分布と語種の割合の項目では、小栗より長田の方が紅葉に近いという結果が出たが、この 2 点については読んでいるだけでは気がつかなかった。ここから、今回行った分析結果は等価のものではないと考えている。真似すると模倣度が大きく上がるが、ないと明らかな違和感が出てしまう重要な項目と、重要性が高いとは言えない項目があるように思う。

⁴² 小栗風葉「紅葉先生の門下教授法」『文章世界』1906 年 10 月

6. 課題

計量分析では、テキストが持つ文体的特徴や傾向を数字や図を使って、視覚的にわかりやすく表現することができる。

しかし、これらはいくまでも全体的な傾向を示すもので、読者の感じている文体の近さ・遠さを完全に再現するものではない。例えば対応分析では、紅葉・小栗・長田の助詞・助動詞の特徴について図で示した。これはテキストから助動詞のみを抽出し、出現頻度を基準に並べたデータをもとに作成したものである。データ内では同じ助動詞であっても、場面ごとに使われ方や効果が異なる可能性があり、読者は文体の近さをこうした観点から感じているかもしれない。しかし、対応分析はこれを見逃してしまう。文長についても同様で、本来文長の外れ値はテキストの中で緩急をつける効果があるが、平均値・ヒストグラムともにこの効果を平坦にしてしまう。

このように、計量分析は文体模倣評価において、視覚的にわかりやすい方法でテキストを比較できるというメリットがある一方で、限界もある。したがって、文体模倣評価を行う際には、計量分析の示す全体的な傾向と、読者目線の評価を組み合わせ、総合的な考察をすることが重要である。

※右開きからお読みください。

国語教科書における尾崎放哉と自由律俳句

The Representation of Ozaki Hōsai and Free-verse Haiku in Japanese Language Textbooks

明治大学 国際日本学部

野本 駿介

Meiji University School of Global Japanese Studies

NOMOTO Shunsuke

目次

一 はじめに

二 尾崎放哉の評価史と自由律俳句の位置づけ

三 国語教科書における自由律俳句の変遷

一、自由律俳句掲載開始以前

二、碧梧桐と井泉水

三、放哉と山頭火

四 詳細な掲載状況

一、中学生向け教科書

二、高校生向け教科書

三、各俳人の掲載句

五 山頭火ブームと放哉

六 おわりに

一 はじめに

大正期の俳人・尾崎放哉（明治一八〜大正一五）は、種田山頭火と並んで自由律俳句の大家として知られている。現代においても高い人気を獲得しているが、放哉の句や彼自身のパーソナリティが広く知れ渡るようになっていった過程は詳細に解き明かされていないのが現状である。先行研究においては、現在一般的に語られる「孤独」「放浪」「病没」といった放哉のイメージ形成には、死後刊行された放哉唯一の句集である『大空』の編纂者であり、彼が一高時代から師事した荻原井泉水（明治一七〜昭和五二）による放哉評の影響が大きいことが指摘されている⁸。

また、「咳をしても一人」をはじめとする放哉の自由律俳句は多くの国語教科書の俳句のページに登場しており、中等教育を修了したほとんどの国民が授業で一度は目にしているといえる。教科書に掲載される文学作品は、学習指導要領の改訂や編集委員会の協議、検定を経て選定されるため、掲載内容は年代や出版社によって異なる。しかし、国語教育において放哉の自由律俳句がある程度の期間にわたり採用されてきたことは、教材としての一定の価値が認められていることを示している。

本研究では、日本の中等教育における国語科で使用されている教科書を対象に、尾崎放哉や他の自由律俳句がどのように掲載さ

『尾崎放哉『大空 俳句集』春秋社、大正一五年

『重永楽「操作される文脈 尾崎放哉作品の同時代受容について」『語文論叢』平成二七年七月

⁸ 根本啓子「放哉の〈見果てぬ夢〉？ 子供を詠んだ放哉の句小

れ、どのように扱われてきたかを調査し、教育現場での受容の特徴を明らかにすることを目的とする。特に、荻原井泉水による放哉像の構築や、種田山頭火との比較を通じて、自由律俳句が俳句教育において果たしてきた役割と教育的意義を検証する。

二 尾崎放哉の評価史と自由律俳句の位置づけ

尾崎放哉は俳壇において、没後に急速に評価を高めた。その契機となったのは、荻原井泉水が創刊した自由律俳誌『層雲』である。放哉の死後、井泉水は『層雲』にて四ヶ月にわたり追悼記事や特集を組み、その生涯と作品を精力的に紹介した。この活動は、放哉を「孤独」「無言独居」「放浪」といった象徴的なイメージで語るものであり、俳句そのもの以上に彼の人間性を前面に押し出した特徴があった。特に、唯一の句集『大空』には「咳をしても一人」をはじめとする放哉の代表的な俳句が収録されているが、未発表句稿には子供との触れ合いを詠んだ作品が多く含まれていたにもかかわらず、これらはほとんど採用されなかった。この選択は、井泉水が「孤独な放哉」というイメージを意図的に構築しようとした結果であるという指摘もある⁹。井泉水による放哉像の形成は、俳壇内にとどまらず、読者層にも彼の作品や生涯を神話化するような印象を植え付けることに寄与したといえる。

浜・小豆島時代の放哉句稿から」『水燿通信』二五二号、平成二〇年六月）<https://www.ne.jp/asahi/suiyou/keiko/pages/252.htm>、令和六年一〇月一四日アクセス

放哉の没後当初の評価は必ずしも一貫したものではなかった。新聞における死亡記事は非常に小規模であり、俳壇の外ではほとんど注目されていなかった一方で、死の九年後に出版された評伝の広告⁵⁷では、放哉は「古の良寛や芭蕉、桃水、一茶に匹敵する存在」と評されるなど、一転して神格化されている。この評伝は自由律俳人である河本緑石が執筆し、井泉水が校訂を行ったものであり、「乞食の如くでもあり王者の如くでもあった」「彼は真人である」といった表現が、放哉の人物像をより特異な存在として描き出している。このような評価は、俳壇の外における放哉像の形成に影響を与えたと考えられる。

しかし、吉田精一の『新日本文学史序説』（昭和二二年）では、放哉の句は「客観性に乏しい短律の句⁵⁸」と酷評され、この時点では文学史的な評価を確立するには至っていない。昭和三年に初めて中学校の国語教科書に掲載された放哉の句は、「一時はこうした俳句が流行しましたが、今では衰えてきました。」とのみ解説されており、文学的な価値がある作品というよりも一過性の流行として扱われていたことがわかる。この教科書における記述は、放哉が自由律俳句の一部として紹介されるものの、その評価がまだ不安定であったことを示している。

放哉の自由律俳句が広く知られるようになるのは、昭和三五年

⁵⁷「尾崎放哉氏死去した 荻原井泉水、内島北郎両氏によって小豆島に埋葬」『読売新聞』大正一五年四月一三日

⁵⁸「広告 河本緑石／著 荻原井泉水／訂『昭和の一茶 大空放哉伝』『読売新聞』昭和一〇年三月三十一日

⁵⁹吉田精一『新日本文学史序説』巖松堂書店、昭和二二年

以降のことである。金子兜太が昭和四三年に放哉について「すでに人口に膾炙している」と述べたように、この時期には俳壇内外で再評価が進み、彼の句は教育の場でも重要視されるようになった。この背景には、俳句が日本文学の教育において普遍的な教材としての地位を築く中で、自由律俳句というジャンルがその多様性を示す格好の題材とされたことが挙げられる。

このように、自由律俳句は日本の俳句史において独自の位置を占めているだけでなく、国語教育においても徐々にその存在感を強めてきた。本研究では、その過程を解き明かすため、公益財団法人教科書研究センターが運営する教科書図書館に所蔵されている昭和二四年から令和六年現在に至るまでの国語教科書を調査し、掲載されている自由律俳句のデータベース化を行った。次章では、調査を通じて判明した俳句教育の文脈における自由律俳句の取り上げられ方の変遷について述べる。

三 国語教科書における自由律俳句の変遷

一、自由律俳句掲載開始以前

昭和二八年より前の国語教科書は、中学・高等学校ともに松尾芭蕉、小林一茶、与謝蕪村といった江戸時代の俳諧師たちや、正岡子規、高浜虚子、飯田蛇笏、川端茅舎、杉田久女などの戦前の

⁶⁰土岐善麿編『中学国語 二年以上』中教出版、昭和三三年

⁶¹「俳句を決める音律 安東次男氏への反論／金子兜太」『読売新聞』昭和四三年八月五日

有季定型俳句の代表句が主に掲載されている。この時期の俳句教育は専ら「五・七・五」の定型や季語という制約の中で表現をする楽しさや日本の文化としての独自性が強調されるものであり、自由律俳句は教材として採用されていなかった。

二、碧梧桐と井泉水

昭和二八年、河東碧梧桐（明治六〇昭和一二）と荻原井泉水の自由律俳句が初めて教科書に掲載された。この年を境に、碧梧桐の句として「赤い椿白い椿と落ちにけり」といった定型俳句の名句に加え、「曳かれる牛が辻ですつと見廻した秋空だ」のような自由律俳句が掲載されるようになる。碧梧桐は新傾向俳句の創始者として俳句の定型からの脱却を推進した、俳句史を学ぶうえで非常に重要な人物であるため、碧梧桐が取り組んでいたという点で自由律俳句を教科書で紹介する必要性が生まれたと考えられる。また、碧梧桐の一派からさらに分派し、より先鋭化された無季自由律俳句を確立した荻原井泉水の句も同時期に掲載が始まっている。「月光ほろほろ風鈴に戯れ」「かごからほたる一つ一つを星にする」などといった井泉水の句は碧梧桐の句と並んで掲載されていることが多く、俳諧や有季定型俳句との表現上の違いが教科書の中で扱われる例もみられるようになった。

しかし、俳人の安住敦は昭和三六年発行の教科書に『俳句とはどんなものか』という解説文を書き下ろし、その中で以下のように自由律俳句を批判している。

ところで、自由律俳句というものもある。明治の末に河東碧梧桐のとなえた新傾向運動のさらに発展したもので、大正の初めごろから起こったものである。これは、俳句という詩を新しい時代に生かすには、字数で型をきめてはいけないという主張によるもので、荻原井泉水などが先頭に立ってこの運動を始めた。たとえば、

蛙鳴けば聞く聞けば鳴いてゐる 井泉水

というようなものである。これらの主張には、それ相当の言い分があり、それはそれで聞くべき理由があるのだが、これが行きすぎると、しまいには俳句の特徴が見失われてしまうことはたしかである。わたしは俳句の定型を愛するがゆえに、これはとらない。

このように、当時の教科書に掲載されていた自由律俳句はあくまで従来の俳句と一線を画する風変わりな取り組みとして紹介される場合がほとんどであり、定型を崩すことに否定的な見解が含まれるものも多かった。

三、放哉と山頭火

昭和四〇年代頃から、現在自由律俳句の代表的俳人として知ら

れる尾崎放哉と種田山頭火（明治一五〇昭和一五）が教科書に多く登場するようになる。放哉と山頭火はともに荻原井泉水の創刊した自由律俳句の俳誌『層雲』の同人であり、ともに社会規範から逸脱しつつ、境涯俳句の色が濃い独自の句境を開いた人物である。彼らの句は人間の孤独や自然との一体感を主題とし、定型からの単なる逸脱にとどまらない文学的意義を自由律俳句にもたらした点が徐々に評価され、教科書においても碧梧桐や井泉水の自由律俳句と比べて肯定的にとらえられるようになっていった。たとえば、昭和四十七年発行の教科書に掲載された放哉の「咳をしても一人」には、すでに以下のような批判的でない解説文が付記されている。

最後に、自由律俳句を一句あげておきます。自由律とは、十七字や季題などの約束にとらわれないで表現する自由な詩型のことです。この放哉の句は、その中でも極端に短律の作品を試みたものです。放哉は晩年放浪生活を送り、小豆島のある寺の堂守として、生涯を終えました。冬のある日、小さな堂の中で、ふとせき入って、改めて自分ひとりきりであることを、しみじみと感じたのでしょう。③

また、朝日新聞にて連載されていた、俳句・短歌・漢詩・現代

③『中等新国語 三』光村図書、昭和四十七年
④「折々のうた 大岡信 咳をしても一人 尾崎放哉」『朝日新聞』昭和六〇年一二月三日

詩の鑑賞文を記す大岡信のコラム『折々のうた』でも「咳をしても一人」は取り上げられており、平成一〇年発行から現行に至るまでの教育図書の高校国語の教科書では俳句の単元における解説文としてそのまま掲載されている。その中では以下のように解説されている。

『大空』（大一一五）所収。放哉は種田山頭火とともに、荻原井泉水を先導者とする口語自由律句の代表作者だった。二人が世捨て人だったこと、伝統的な五七五の俳句形式を離れてしまったことは、たぶん密接に結びつく事柄だろう。「一人」であるとき、句は定型を順守する必要がなくなるのだと思われる。だが例えば右の句が三・三・三から成るように、全くの無形式ではない。彼らの自由律は「咳をしても一人」の境遇に耐えうる人のための詩形だった。⑤

これらの解説文の書き方から鑑みると、放哉の「咳をしても一人」、山頭火の「分け入つても分け入つても青い山」や「うしろすがたのしぐれてゆくか」などの句が特に多く教科書に掲載されるようになったのは、「自由律」でなければならない作品群であり、定型のいかんにかかわらず純粹に秀句として評価されているということが挙げられるだろう。また、定型を逸脱していることが

⑤『新編国語総合』教育出版、平成二九年

明白であり、自由律という形式を端的に示している点も教育現場において学習者の興味を引きやすく、教科書への採用を促進した一因と考えられる。

放哉と山頭火の自由律俳句が碧梧桐や井泉水の句に半ば取って代わるような形で教科書における多数派となつて以降は、俳句教育の一環として何らかの自由律俳句が最低でも一句は採用される場合がほとんどとなっており、放哉に色濃く影響を受けた天逝の僧侶・住宅顕信（昭和三六〇昭和六二）や、最も音数の少ない俳句である大橋裸木（明治二三〇昭和八）の「陽へ病む」などが教科書に採用された例もある。

次章では、データベースを元に作成した、中学校（十分なデータの数が得られた二年生向けと三年生向けのみ）、高校の必修科目、高校の選択科目に分けて出版社と出版年度ごとにどの俳人の句が掲載されているかを示す表をもとに、詳細な掲載状況からさらに具体的に論じる。

なお、俳人の名前は表1のようにそれぞれの俳号や姓の頭文字を符号として表す。

俳人	符号
大橋裸木	裸
荻原井泉水	井
尾崎放哉	放
河東碧梧桐	碧
栗林一石路	栗
住宅顕信	顕
種田山頭火	山
中塚一碧楼	中
黛まどか	黛
生徒作品	徒

表 1 凡例

岡本千太郎『現代俳句の批判的考察 特に言語・表記法の

四 詳細な掲載状況

一、中学生向け教科書

	大阪書籍	開隆堂	学校図書	教育出版	教育図書	教育図書研究会	三省堂	中教出版	東京書籍	日本書籍	光村図書
S28					井井井						
S30								碧碧			
S31					井井井碧碧						
S33		井井碧碧碧						栗放		井	
S36		碧碧碧				井					井井碧
S37	井井碧碧			井井							
S41				井井井						井	
S44				井井井						井	
S47										井	
S50										井	
S53			放						井	井	
S56			放栗						井		
S59			放栗						井		
S62							放山				
H14											山

表2 中学二年生向け教科書

面から』法政大学出版局、昭和三七年

	学校図書	教育出版	教育図書	三省堂	東京書籍	光村図書
S41						放
S44						放
S47						放
S50				碧		放
S53						放
S56						放
S59	放碧					放
S61					井放山山	
S62						井放
H1		放山				
H2	放碧			放山山	井	
H4			放山			山
H5	放山					
H8		放山				山
H9	放山			放碧	山	
H14	山	放山		碧山山	山	
H18	山	放放山山		放碧山	山	放山
H24	山	放山		放山山黛	山	放山
H28	山	放山		放碧山	山	放山
R2				放山	山	
R3		顕				放山

表3 中学三年生向け教科書

昭和から平成、令和にかけての中学校国語教科書における自由律俳句の掲載動向を検討する。なお、中学校一年生向けの教科書に関しては、掲載例が昭和三三年発行の日本書籍の教科書『中学国語 一』に荻原井泉水の「たんぽぽたんぽ砂浜に春が目を開く」が掲載されている一例のみであったため、詳細な分析は割愛する。

中学校二年生または三年生向けの国語教科書で俳句や短歌を扱う学年は時期によって異なり、二年生で短歌、三年生で俳句を

扱うのが主流になったのは平成に入ってからである。しかしながら、各学年の表を踏まえると昭和四〇年代から五〇年代を境に碧梧桐や井泉水といった先駆的な立ち位置の自由律俳人たちから次第に山頭火や放哉が中心となつていることを明確に確認することができる。この変化の背景には、光村図書の動向が大きな影響を与えている可能性がある。光村図書は昭和三九年の時点ですでに小中学校における教科書採択率を大幅に増加させ、「国語の光村」としての地位を確立している¹⁴。表3に目を移すと、光村図書は昭和四一年と比較的早い時期から中学三年生向け国語教科書において尾崎放哉の句を継続的に採用していることがわかるため、これが他の出版社にも影響を与え、俳句教材全体の傾向に変化をもたらしたのではないだろうか。

二、高校生向け教科書

¹⁴ 光村図書「沿革」<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/compa>

^{ny/enkaku} 令和七年一月六日アクセス

	大阪教育図書	旺文社	角川書店	教育出版	教育図書	桐原書店	三省堂	英数出版	秀英出版	尚学図書	数研出版	第一学習社	大修館書店	筑摩書房	中教出版	中央図書出版社	中等教育研究会	東京書籍	文英堂	明治書院
S28					井井井 井井井 碧碧碧				碧											
S30															井井井 碧					
S31								井井井 碧												
S32	井井井 井井			井井井					碧						井井井 碧碧碧		井井井 井			
S33			碧碧																	
S35									碧							井井井 中中中				井井
S38																				井
S42										放放放 碧碧碧				井						碧
S45										放放放 碧碧碧				碧						井碧
S48		碧		井井碧 碧								碧碧碧								
S51				井井井 碧碧碧																
S53												碧碧碧								
S54				井井井 碧碧碧																
S57		碧												山山山 山						
S60														山山山 山						
S61																	山			
S63													山	山山山 山			山			

表4 高校・必修教科目用教科書（昭和）

	大阪教育図書	旺文社	角川書店	教育出版	教育図書	桐原書店	三省堂	実教出版	秀英出版	尚学図書	数研出版	第一学習社	大修館書店	筑摩書房	中教出版	中央図書出版社	中等教育研究会	東京書籍	文英堂	明治書院
H3																		山		
H5													山	山山山山				碧山		
H6			放山	放			山						井放放碧山山	山山山						
H7												山山山								
H10			放放山山	放		放放	放放山						井放碧山					碧山山山山山		
H15				放		放放	山山山山					山山	碧碧山山	放山山				碧山山山山山		放放山山
H17											山山									
H19				放		放放山	山山山山					山山	碧碧山山	放山山				野驛山山山山山		放放山山
H23													碧碧山山							
H25				放放山		放放	井山山山山山				山山山山	山山	碧碧碧山山山	放山山				山山山山山		山山山山
H29				放放放放山		放	井山山山山山				山山山山山	山山山山	碧碧碧山山山	放山山				山山山山山山		山山山山
R4						放	山				山山山山山	山山山山	碧山山山	山				山山	放碧山	山

表5 高校・必修科目用教科書（平成・令和）

	大原出版	旺文社	学校図書	角川書店	教育出版	教育図書	桐原書店	三省堂	実教出版	秀英出版	尚学図書	数研出版	種文堂出版	第一学習社	大修館書店	筑摩書房	中央図書出版社	東京書籍	日本書院	日本書籍	光村図書	明治書院	右文書院
S30																		井井 井碧 碧中					
S32									井井 井碧														
S33													碧徒					井井 井碧 碧中					
S34					井井 井碧	井井 井碧																	
S35	碧																						
S37																		井井 井碧 碧中					
S39				碧		井井 井碧		井井															
S40										碧							井井 中					碧碧	
S42				碧		井井 井碧		井井										碧					
S43										碧												碧碧	
S44																	井井 中						
S46				碧		井井 井碧		井井										放放 放碧					
S47																						碧碧	
S49			碧			井井 井碧																井碧	
S52																				放放 放	井碧		
S55		碧	井井					放放 碧碧						碧碧 碧		山山 山山 山							
S58			井井 碧	碧碧 碧碧				放碧						山	山山 山							放放 碧	
S59																						放放 放	
S61			井井 碧	碧碧				放碧						山	山山 山								
S62																						放放 放放 放放	
S63																		放					

表6 高校・選択科目用教科書（昭和）

	大原出版	旺文社	学校図書	角川書店	教育出版	教育図書	桐原書店	三省堂	実教出版	秀英出版	尚学図書	数研出版	健文堂出版	第一学習社	大塚書店	筑摩書房	中央図書出版社	東京書籍	日本書院	日本書籍	光村図書	明治書院	右文書院
H1			井井碧	碧碧				放碧						山	山山山山山							放放碧	
H2															探			井				放放放放放放	
H3																		放					
H4			井井碧	碧碧				放碧						山山山山	山山山山山								
H5																		井					
H7		山	井井井放碧碧山山山								碧山山山山			山山	碧山山山山山山	山山山山山					放放放山山山	放碧山	山山山山山山
H8								放放山山							探							放放	
H11		山					山山	山			碧山山山			山山山山山山山山	山山山山山山山			放放額		放放放山山山	放碧山	山山山山山山	
H12								山							探							放放	
H16					山山		山	放放						山山	探井井放放山山山	放放		碧山山山				井井碧碧	山山山
H20					山山山		山	放放				放山		山山山	探井井放放山	放放		碧山山山				井井碧碧	
H26					山		山山山	放放山				放放		山山	井井放放放山山	放放碧山山		放放				井井碧碧	
H30					山山			放放山				放放放		山	井井放放	放放碧山山						井井碧碧	
R4								山山															
R5												放放		山	井井放放山	放放		放碧					

表7 高校・選択科目用教科書（平成・令和）

高等学校の教科書における自由律俳句の掲載状況には、中学校と比較していくつかの顕著な特徴が見られる。まず、文部科学省制定の学習指導要領では、これまで「現代国語」「国語Ⅰ」「国語総合」¹⁵、令和四年からは「現代の国語」および「言語文化」¹⁶といった名称の科目が必修科目として分類されてきた。そのため、これらの教科の教科書で取り上げられていた場合、多くの生徒が学ぶ機会を得ている。一方で、「現代文」のように選択科目としての国語も存在する。

自由律俳句の掲載傾向を表4～5（必修科目）と表6～7（選択科目）で比較すると、選択科目の教科書の方がより専門的な内容を扱っており、結果として自由律俳句全体の掲載数、特に尾崎放哉の句の掲載数も多いことが確認できる。この違いは、選択科目がより高度な文学的考察や多様な形式を提示する教材を必要とすること起因していると考えられる。

高校の教科書では、中学校の教科書に比べて掲載されている自由律俳句の種類が豊富であり、時代ごとの変遷も把握しやすい。特異な事例も存在し、昭和三三年発行の積文堂出版の教科書『高等学校新国語三 総合』には、生徒作品の自由律俳句「半熟卵毀つ甲板すでに台風圏」が掲載されている。この句は、十代向けの雑誌『若い広場』に投稿され、昭和三〇年十一月号に掲載された

ものである。¹⁷

このように、高校の教科書における自由律俳句の掲載は、中学校に比べて文学的背景や表現の多様性を深く掘り下げる教材が重視されており、特に昭和後期から平成・令和においては俳句教育の中で自由律俳句の地位が確立されていることがわかる。また、必修科目と選択科目の差異を通して見えてくる教育方針の違いは、俳句教育の目的が専門的かつ網羅的な理解へと展開する過程を象徴しているといえる。

三、各俳人の掲載句

次ページの表は、実際にどのような句がいくつ教科書に掲載されているかをそれぞれの俳人ごとに示した表である。なお、特に掲載数が多かった井泉水・放哉・碧梧桐・山頭火の句は五回以上掲載された句のみ取り上げている。

¹⁵ 文部科学省「資料6 高等学校国語科の科目構成について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/068/sit_yo/_icsFiles/afilefile/2016/04/01/369033-6.pdf 令和七年一月九日アクセス

¹⁶ 文部科学省「平成30年改訂の高等学校学習指導要領に関するQ&A（国語に関するパート）」
https://www.mext.go.jp/content/1422366_001.pdf 令和七年一月九日アクセス

¹⁷ 『若い広場 88』若い広場社、昭和三〇年

俳人	掲載句（数）
大橋裸木	陽へ病む（4）
荻原井泉水	月光ほろほろ風鈴に戯れ（26）
	かごからほたる一つ一つを星にする（10）
	月高くして漁火それぞれの座につけり（10）
	たんぽぼたんぽぼ砂浜に春が目を開く（9）
	空をあゆむ朗々と月ひとり（6）
	柿若葉日が照りだしてまた降る（5）
	棹さして月のただ中（5）
	潮のふかさしづかさ鱸の音を聞く（5）
尾崎放哉	咳をしても一人（83）
	入れものがない両手で受ける（22）
	こんなよい月を一人で見て寝る（15）
	一日もの云はず蝶の影さす（9）
	足のうら洗えば白くなる（5）
	うそをついたやうな昼の月がある（5）
	雀のあたたかさを握るはなしてやる（5）
	昼寝起さればつかれた物のかげばかり（5）
河東碧梧桐	曳かれる牛が辻でずつと見廻した秋空だ（69）
	大根を煮た夕飯の子供たちの中にをる（12）
	ミモザを活けて一日留守にしたベツドの白く（7）
	一軒家も過ぎ落ち葉する風のままに行く（6）
	潮のよい船あしを瀬戸のかもめはかもめづれ（5）
栗林一石路	シャツ雑草にぶっかけておく（2）
	どしゃ降りのガード下で夕刊を濡らすまいと売っている（1）
住宅顕信	点滴と白い月とがぶらさがっている夜（3）
	ずぶぬれて犬ころ（1）
種田山頭火	分け入つても分け入つても青い山（131）
	うしろすがたのしぐれてゆくか（89）
	どうしようもないわたしが歩いてゐる（17）
	鉄鉢の中へも霰（15）
	砂丘にうずくまりけふも佐渡は見えない（12）
	しぐるるやしぐるるや山へ歩み入る（11）
	窓あけて窓いつぱいの春（11）
	うどん供へて、母よ、わたくしもいただきます（7）
	しみじみ食べる飯ばかりの飯である（7）
	夕立やお地藏さんもわたしもずぶぬれ（7）
	雨ふるふるさとははだしであるく（5）
	てふてふひらひらいらかをこえた（5）
中塚一碧楼	子を生し子を生して住まふに赤いゆすらうめ（3）
	病めば蒲団のそと冬の青きを覚え（3）
	薊の花にじつと近く寄つた時日の色（1）
	能登が突き出で日のてりながら秋の海（1）
	番茶のめば父と話したし母と話したし冬の宵のほど（1）
黛まどか	薦青々と甲子園開幕す（1）
生徒作品 （栗田純夫）	半熟卵毀つ甲板すでに台風圏（1）

表8 各俳人の掲載句（掲載数）

五 山頭火ブームと放哉

昭和後期からの国語教科書においては、尾崎放哉や他の俳人以上に種田山頭火の句が圧倒的に多く掲載されている点が顕著である。この掲載数増加の傾向の背景には、山頭火が文学的・文化的な再評価を受ける契機となったいくつかの要因が挙げられる。

昭和四六年、『定本 種田山頭火句集』（彌生書房）が刊行され、それ以前から山頭火の顕彰に尽力していた大山澄太（明治三二〜平成六年）の活動が広まりを見せたことも相まって、この年から山頭火の句は俳壇外に急速に普及した。メディアでも「山頭火ブーム」と呼ばれるようになり、高度経済成長期という急速な社会変化の中で既存の価値観に対する反発が高まったことで、自然と同化した孤独の旅人として知られる山頭火の句が俳壇の枠を超えて広範な支持を受けることとなった。

さらに、昭和六三年には脚本家・早坂暁によるNHKドラマ『花へんろー 風の中の昭和日記3』が放送され、翌年には同じく早坂の脚本による『ドラマスペシャル 山頭火 何でこんなに淋しい風ふく』が放送された。これらの作品には山頭火が登場し、あるいは主人公として描かれ、その生き様を広く視聴者に届ける役割を果たした。これらの流れが俳句教育にどのような影響を及ぼしたかを前章の表のデータと照らし合わせると、一定の相関関係が見出せる。すなわち、山頭火を題材とした作品の影響力が強まり

「第二次ブーム」といえるような現象が起きているのに呼応するように国語教科書における山頭火の句の採用が急激に増加しているのである。

また「NDL Ngram Viewer」を用いて「放哉」と「山頭火」を同時に検索すると、先述の第一次・第二次山頭火ブームと同時に放哉も多くの媒体に取り上げられている。

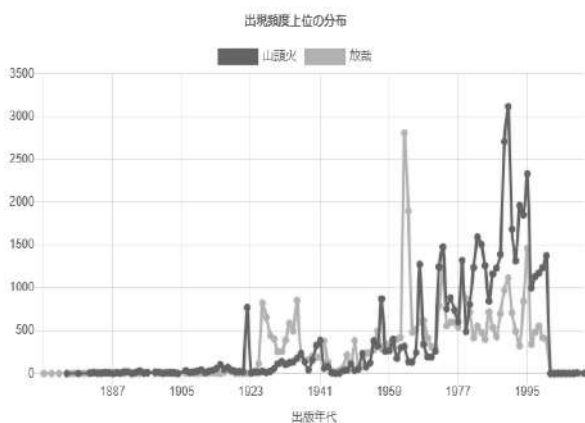


図1 「山頭火」と「放哉」の登場頻度推移

18 『週刊現代』講談社、昭和四六年十一月四日

19 国立国会図書館「NDL Ngram Viewer」<https://ab.ndl.go.jp/ngramviewer/?keyword=%E6%94%B%E5%93%89%2F%E>

このことから、二度にわたる山頭火ブームが放哉を含む自由律俳句全体の再評価を牽引し、その流れが国語教科書にも影響を及ぼしていると考えられる。

六 おわりに

本研究では、尾崎放哉を中心とする自由律俳句の教科書への掲載状況とその変遷について調査と分析を行い、俳句教育の中で果たしてきた役割を探った。研究を通じて明らかになったのは、自由律俳句が有季定型という俳句のきまりから逸脱しつつも、日本の文学教育において確固たる地位を築いているという事実である。その背景には、新傾向俳句の提唱者としての碧梧桐の存在の重要性、井泉水による尾崎放哉像の構築、俳壇外での山頭火ブームなど、多岐にわたる文学的再評価の潮流があつたことが確認できた。

また、教科書における自由律俳句、特に放哉や山頭火の代表句は、単なる教材としての価値を超え、学習者に孤独、旅情、人生のやるせなさなどをより直接的な言葉で問いかける役割を果たしている点で注目すべき教育的意義がある。自由律俳句の異質さは他の俳句や短歌などの中でも際立ち、学習者の興味を少なからず惹いているだろう。

そのため、今後の課題としては、自由律俳句が教育現場において具体的にどのような指導および受容されているかを明らかにする必要性が挙げられる。例えば、教科書だけではなく教師用指導書においても自由律俳句に絞った分析を行う、あるいは中学生

や高校生を対象に自由律の代表句を数句提示したうえでどのような印象を抱いたかなどについてのアンケートを行うなどのアプローチが考えられる。これらの調査によって知ることができる実態は、自由律俳句がどのような教育的効果をもたらしているのかをより具体的に示すものとなるだろう。特に、「咳をしても一人」のように短いながらも深い感情や情景を喚起する句が、学習者にどのような感想や考察を促しているのかを知ることが、教科書における自由律俳句を再評価する上でも重要である。

一方で、自由律俳句を教科書や教育現場でどの程度の比重で扱うべきかについては慎重に検討する必要があるだろう。自由律俳句が持つ形式的な自由さや文学的意義は認められるべきであるが、俳句教育全体の枠組みにおいて、これをメインの題材とすることには限界があるといえる。自由律俳句は、俳句表現の多様性を学ぶ一環として、現状のように定型俳句の補完的な位置づけで活用されていくべきだろう。俳句教育の基盤となるべきは、やはり季語と「五・七・五」という伝統的な形式を持つ有季定型俳句であり、この形式が日本文化や季節感を深く理解する上で重要な役割を果たしているからである。

例えば、生徒たちが自然や四季の移ろいを観察し、それを俳句で表現するといった機会では、あくまで有季定型俳句に限定することが適しているだろう。この形式の枠組みがあることで、生徒は言葉の選択や表現の工夫に挑戦し、結果として日本語そのものの美しさや制約の中で創造性を発揮する喜びを学ぶことができる。一方で、自由律俳句の創作においては、形式の自由さゆえに指導の明確な目標を設定しにくい面があり、学習者がかえって戸

惑う可能性も考えられる。以上を踏まえると、自由律俳句は教科書において「異質な存在」として俳句表現の多様性を示す例として扱われるべきであり、有季定型俳句を補完する教材としてその意義を発揮することが望ましい。こうした教育方針を取ることで、学習者が俳句文化の根幹にある価値を十分に学びつつ、自由律俳句を通じて表現の可能性や多様性に触れることができるだろう。

大江健三郎「夜よゆるやかに歩め」に見られる
リアリティとフィクションのあいまいさについて

The Ambiguity Between Reality and Fiction in Kenzaburo Oe's "Yoru yo Yuruyaka ni Ayume"

明治大学 国際日本学部

笹井 悠太

Meiji University School of Global Japanese Studies

SASAI Yuta

目次

はじめに

一、モデル小説としての「夜よゆるやかに歩め」

二、テキスト論と大江健三郎

三、リアリティとフィクションのあいまいさ

四、大江健三郎とあいまいさ

おわりに

はじめに

大江健三郎『夜よゆるやかに歩め』は『婦人公論』で一九五九年一月から六月にかけて連載された恋愛小説である。大江は「奇妙な仕事」¹が平野謙の称賛を受けて以降、新進作家として芥川賞の受賞など華々しい道をたどってきた。しかし、「夜よゆるやかに歩め」は「結局は失敗作、初期の汚点とされるような小説」²と評されている。またこの作品は単行本化され³のちに講談社 Roman Books のシリーズからも刊行されている⁴がそれ以降いづれの全集、文庫本にも収録されていない。「初期の汚点」と評され、大江自身にも封印された小説というのが「夜よゆるやかに歩め」のこれまでの評価である。しかし、大江の年譜や交友関係と「夜よゆるやかに歩め」を照らし合わせて読むと、この小説は大江自身に加えて、大江と親交のあった著名人もモデルとした「モデル小説」であると読むことができる。大江は自身の近辺の出来事や人物をモデルにしたと読者に思わせるような小説や、書き手と語り手を混同させるような技法を用いた小説を多く残している。「夜よゆるやかに歩め」はそうした作品群に先立つモデル小説として読むことができるのではないであろうか。

- ¹ 大江健三郎「奇妙な仕事」『東京大学新聞』一九五七年五月二二日
- ² 小谷野敦『江藤淳と大江健三郎 戦後日本の政治と文学』筑摩書房、二〇一五年二月
- ³ 大江健三郎『夜よゆるやかに歩め』中央公論社、一九五九年九月
- ⁴ 大江健三郎『夜よゆるやかに歩め』(Roman Books) 講談

本稿では「夜よゆるやかに歩め」を分析し、「封印作」⁵となった理由を考察することを目的とする。

一、モデル小説としての「夜よゆるやかに歩め」

「夜よゆるやかに歩め」は東京大学でフランス文学を学ぶ「康男」が音楽家の従兄の妻「節子」と不倫関係になるという筋である。内容が非常にスキヤンダラスであるだけにこの小説がすべて事実であるということは考え難い。しかし、登場人物の要素だけを切り取っていくと後年発表される「個人的な体験」⁶や「取り替え子」⁷にも見られるような、いつもの大江調であるとわかる。東大でフランス文学を学ぶ「僕」と性に奔放で「僕」を導いてくれるような女性の存在がそれである。例によって「康男」は大江自身のことをモデルにしていると推測ができ、「従兄」は大江が敬愛してやまない伊丹十三がモデルであろう。

また、物語のセッティングにも大江自身にゆかりのある地が用いられている。「夜よゆるやかに歩め」の中で「康男」たちが夏の休暇を過ごした地として北軽井沢が登場する。この北軽井沢という土地は大江にゆかりのある地である。北軽井沢には松室致が昭

- 社、一九六三年五月
- ⁵ 小谷野敦「夜よゆるやかに歩め」『jun-jun1965の日記』二〇一七年五月二八日、<https://jun-jun1965.hatenablog.com/entry/20170528>、二〇二五年一月一日閲覧
- ⁶ 大江健三郎『個人的な体験』新潮社、一九六四年八月
- ⁷ 大江健三郎『取り替え子』講談社、二〇〇〇年十二月

和三年に教育と共同生活の場として設立した「法政大学村」⁸があり、大江はこの法政大学村を好み創作活動を行っていた。大江は北軽井沢の岸田邸にて次のように語っている。

軽井沢では舞踏會に出たり、馬に乗って疾走したり、ロシア料理店にすわつていたりする手があるけれども、浅間牧場の向う、霧と暗い夜の北軽ではそういうわけにはゆかない。優雅な詩人岸田衿子さんはリスと犬を飼つていらつしやつて、そこは詩人だから、いずれ劣らぬすばらしい名前をそれらにあたえていられたが、きわめて散文的なぼくは、リスにまでボチと呼びかけて文学座の若い女優さんから眉をひそめられる始末なのだ。

「文学座の若い女優さん」とはもちろん文学座創設者の岸田國士の娘であり、岸田衿子の妹である岸田今日子のことである。これが発表されたのは一九五八年であるため、その時点での大江の軽井沢での過ごし方や、岸田姉妹との関係性について知ることができる。大江と交流のあった「女優」といえばこの時期には岸田今日子ということになっただろう⁹。

なお、一九六四年に発表される「個人的な体験」に節子とよく

⁸ 北軽井沢大学村組合『大学村五十年誌』一九八〇年六月、『大学村七十年誌』一九九九年十二月

⁹ 小谷野敦もそのように推定している。（「夜よゆるやかに歩め」『junjun1965の日記』二〇一七年五月二十八日、<https://junjun1965.hatenablog.com/entry/20170528> 二〇二五年一月一四

似た性的に奔放な「火見子」が登場する。この火見子についてもより詳細な説明がありモデルは岸田衿子であると推測されている。小谷野敦は火見子について次のように述べている。

ところで火見子は熊本の出身で、「巨大な陸橋を超えた向こうの数知れない寺と墓地とに囲まれた高台の一廓」の「路地の奥の一軒のしもた屋に独りで暮らして」おり男は先に自殺している。これは明らかに谷中だが陸橋を超えたと言うからには東から来なければならない。がそれはいいだろう。谷中初音町と言えば岸田衿子が父から譲り受けて住んでいた街である。（中略）私は火見子のモデルは岸田衿子だと思う。¹⁰

また大江は「大江健三郎作家自身を語る¹¹」の中で次のように述べている。

大学に入つてすぐ、詩人の岸田衿子さんと知り合いました。岸田さんに妹の家に一緒に行こうと言われた。（中略）ドアを開けるとそこに女優の岸田今日子さんがいられた。

このように東京大学に入学後ほどなくして大江は岸田姉妹と

日閲覧）

¹⁰ 小谷野前掲書

¹¹ 大江健三郎『大江健三郎作家自身を語る』新潮社、二〇〇七年五月

知り合っていたのである。

ここまで示したように「夜よゆるやかに歩め」は読む人が読めば大江自身のことや周辺の人物を想起させるようなセッティングである。しかし、小説の内容としては主人公と既婚者が不倫をするという極めてスキャンダラスなものである。大江は登場人物にモデルがいると読者に推測させるセッティングでスキャンダラスな小説を執筆しているということになるが読者は作者と小説の内容を重ねて読んでも良いのであろうか。

二、テキスト論と大江健三郎

大江文学のモデル性について加藤典洋は「取り替え子」を例に次のように述べている。

つまりこの小説を「モデル小説」だと感じるとする。その場合、このことは、そもそも、先の下卑た好奇心を発動させるゆえんだとして、あるいはテキストを現実に関連させてしまうことだとして、「倫理」的に、「戒められなければならないこと」なのだろうか。また、彼が、そう感じ、その読後感に照らしてこの作品を論じることが、——たしかにテキスト論の構えからいうと禁則違反ということになるが——その作品の読みとして、批評として、不当なものを含んでいるのだろうか。（中略）

¹² 加藤典洋『テキストから遠く離れて』講談社、二〇〇四年一月

¹³ 小谷瑛輔「大江健三郎『水死』と『みずから我が涙をぬぐい

正當な作品批評はこのモデル性ともいふべきテキストと現実の連関を考慮に入れるべきなのだろうか。そこは考慮に入れるべき、ではなく、考慮に入れてもよい、なのだろうか。それとも考慮すべきでない、なのだろうか。¹²

加藤は大江の作品をモデル小説的に読む際に立ち上がってしまふ「下卑た好奇心」が読者に戸惑いを与えることを指摘している。

こうした問題と関連して考えたいのは大江の小説が次のような問題を対象化するという小谷瑛輔の指摘である。

そもそも、フィクションとはすぐれてダブルバイン্ড的なコミュニケーションの様態である。ダブルバイン্ডが起り得る根本的な原因は、論理階型が不連続でありはつきり区別できる形式論理学とは異なつて、人間心理においては論理階型の不連続性が「絶えずかつ不可避的に破られる」からである。（中略）そこでは「リアリティ」が表現される一方で、それと相反する、これは現実ではないというメタメッセージも発され、現実であるか現実でないかははつきり区別することは難しいのである。

¹³

たまう日』フィクションはいかにして生成するか』『言語態』二〇一二年二月

「夜よゆるやかに歩め」についても現実である部分とフィクションの部分の見極めが難しいあいまいな作りになっている。明らかにフィクションだと分かる場面の例として「節子」の死が挙げられる。節子の死は物語の流れからすると唐突にも見え、さらに「節子」のモデルであると推測できる岸田衿子が当時死亡していないということからも「節子」の死は明らかにフィクションであると分かり、この小説全体が事実ではないということが示される。ここまで示したように「夜よゆるやかに歩め」ではモデルがいるとわかるようなキャラクターを登場させ、リアリティが表現される一方で、この小説はフィクションであるというメタメッセージを読者に投げかける部分が両立しており、その区別があいまいで判断が難しいのである。読者は「夜よゆるやかに歩め」を読むときリアリティとフィクションのダブルバインドに陥ると言える。

三、リアリティとフィクションのあいまいさ

前章で確認した通り、「夜よゆるやかに歩め」は、リアリティとフィクションの二項が対立し、その区別があいまいな小説である。ここで、大江が「夜よゆるやかに歩め」を執筆した年代に注目を集めたモーリス・ブランショを参照したい。

¹⁴ 村松嘉津「フランス現代詩とシュルレアリスム」『新潮』一九四九年一〇月

¹⁵ 中村眞一郎「心理小説作法」『文章講座 第4』河出書房、一九五四年九月

¹⁶ Maurice Blanchot, *L'espace littéraire*, Gallimard, 1955.

大江は一九五四年に東京大学に入学し、一九五六年に仏文科へと進学している。その年代に知識人の間で注目を集めていたのがモーリス・ブランショ (Maurice Blanchot) である。ブランショは一九四九年に日本の文壇で話題になり始め¹⁴、一九五四年に中村眞一郎が「今、パリの文壇で最も前衛的な傾向を代表しているふたりの小説家、モーリス・ブランショとサミュエル・ベケット¹⁵」と述べるまでになっている。一九五五年に代表作 *L'espace littéraire*¹⁶。『文学空間』を発表している。ここでブランショの« La littérature et le droit à la mort¹⁷ »を参照したい。ここでブランショは「名差す」という行為について次のように述べている。

わたしが「この女」という。ヘルダリーン、マラルメ、そして一般に、その詩が詩の本質を主題としている人たちは名差すという行為において不安にさせるふしぎを見たのである。ことばはそれが意味するものをわたしに与える。だがまず意味するものを抹殺するのだ。わたしが「この女」といえるためには、どのような方法であれ、わたしはその女からその血肉の現実を抜き去り、不在にし、無に帰させねばならない。ことばはわたしに存在物を与える。だが存在を奪われた存在物として与える

¹⁷ Maurice Blanchot, « La littérature et le droit à la mort » *La Part du feu*, Gallimard, 1949. ただし、引用は篠沢秀男訳モーリス・ブランショ「文学と死への権利」『現代人の思想 2 実存と虚無』平凡社、一九六七年五月による。

のだ。ことばはこの存在の不在であり、存在の虚無であり、存在を失った時に残っているものであり、すなわち存在がないという事実だけである。

ブランショはこの部分で我々が意味するものを名差すとき、その意味するものの存在が抜け落ち、消失するということを指摘している。このことを踏まえ、文学について次のように述べる。なお傍線は引用者による。

ある見地からすれば、文学は二つの面に分かれる。文学は否定の動きの方へ向き、その動きによって物がそれ自体から分離され、そして知られ従属させられ伝達されるために破壊される。この否定の動きを文学はその断片的で継続的な結果において迎え入れることに満足しない。それをそれ自体において捉えようとし、その結果はその全体において到達しようとする。否定がすべてについて正しかったものと想定されるなら、一つ一つのものとして取り上げられた実在物は、それらが共に構成するこの非実在的なすべてに、全体としてのそれらの意味である世界に帰属し、そして文学が自分のものとするのはこの見地であり、それは、もし否定が成就することができたら物が現実的に構成することになるまだ想像的なこのすべてという見地から物を見ることによってである。そこから非現実主義が、文学の餌食である影が生じる。そこから文学のことばへの不信が生じ、言語自体へ否定の動きを適用し、言語を一つ一つの単語が何物でもなくなるような全体として実現することによってか

らにする必要が生じる。

だが第二の面があるのだ。そこでは文学は物の実在性への配慮、自由で沈黙している物の知らない実在への配慮である。文学は物の無垢性であり、その禁じられた現われであり、あらわにされようとすると激怒する存在であり、外部へ現出しようとするものとの挑戦である。そこから文学は、暗闇、目的のない情熱、権利のない暴力と共感するのだ。世の中で、世界へやってくるものの拒否をいつまでも存続させるように見えるすべてのものと、共感するのだ。そこからまた、文学は言語の実在性と結びつき、それを輪郭のない物質、形のない内容、気まぐれで非個人的な力にする。その力は何物をもいわず何もあらわにせず、その何物をもいわないという拒否によって、それが夜からきて夜へ戻ることを告げるにとどまるのだ。この変身はそれ自体においては失敗していない。ことばが変質するのはほんとうだ。ことばはもはや影、大地を意味しはしない。もはや意味である影と大地との不在、影の明るさ、大地の透明を表現しはしない。不透明がことばの答えだ。閉ざされる翼のふれ合う音がそのいうことだ。物質的な重量が、すべての意味を失った音節の堆積の窒息的な密度をもつて、ことばの中に現われる。変身が行なわれたのだ。だがこの変身の中に、ことばを強化し、石化し、麻痺させた変化を越えて、ことばを明るみに出すこの変身の意味が再び出現する。(中略)

文学はその上一つの特権を持つ。すなわち、現実の場所と時間を超越して、世界の周辺に、時の終わりにのように位置し、そしてそこから物について語り、人間たちのことにかかずらわる

のだ。この新しい力によって、文学はいちじるしい權威を得るように思われる。各瞬間に対してそれが一部をなしているすべてをあらわにしながら、文学は、瞬間が自分ではないすべてについて意識を持つように、他のすべての一瞬間である他の瞬間になるように手助けをする。(中略)

歴史から却下されて、文学は他の面で作用する。文学が世界の中で世界を作るために働いているのでないとしたら、それは存在の(理解しうる現実性の)欠如によってまだ非人間的な実在に関連するからである。そうだ、文学はそれを認める。文学の本性には、在ると在らざる、現われと不在、現実と非現実とのあいだでの奇妙横すべりがあるのだ。作品とは何か？ 実在することばと想像的な歴史、起こることすべてを現実から借りている世界である。そしてこの世界は近づきたい。生きている者として与えられる人物である。だがかれらの生は生きないこと(虚構にとどまること)である。では純粹の虚無か？ しかし本は手にさわれるものとしてそこにあり、ことばは変え得ないものとして読み取られる。

傍線を引いた箇所にも明らかなようにここでブランショが問題にしているのはフィクションに関わる文学の機能である。この部分では文学の二面性について指摘している。先の引用で指摘されたことばの特性、つまりことばはその意味する人物の存在を消失させ、死の可能性、否定の力が働く面があることをまず指摘している。その一方で、文学には第二の面があり、「言語を一つ一つの単語が何物でもなくなるような全体として実現することによつ

てからに」し、言葉が物質的な質量をもつことになる「変身」が行われ、その上、現実と非現実の境界をあいまいにする特権も合わせて持つと指摘している。続けて、この二面のあいまいさについて次のように述べている。

文学は、あいまいさとなる言語である。(中略) 文学においては、あいまいさはまるで、それが見いだす容易さによってその過度に放置され、それが犯すことのできる濫用の広がりのために力つきているようである。あたかも、あいまいさがそれ自身のわなを暴露するようにかくれたわなが設けられ、無制限にあいまいさに身を委ねることによって文学が、世界の視野と世界の思考のそとにあいまいさが何物をも危険にせず completion 領域において、あいまいさを引きとめて置こうと試みているようだ。あいまいさはそこではそれ自身と戦っているのだ。言語のそれぞれの契機があいまいになり、言っているのとは別のことを言い得るだけではなく、言語の意味全体が不確定なのだ。表明しているのか表現しているのか、物であるのか物を意味しているのか、わからない。忘れられるためにそこにあるのか見られるように忘れられるのか、言っていることの意味があまりないので透明なのかそれを言う正確さによって明晰なのか、あまり多く言うから不明なのか、何も言わないから不透明なのか、わからないのだ。あいまいさは至るところにある。取るに足らない外観の中にある。だが最も気まぐれなものが真剣なもの、の仮面であり得るのだ。無関心さの中にある。だがこの無関心さの背後に世界の力があり、あいまいさはそれと、それを知

らずして和解するのだ。あるいはまた、あいまいさが、それなしでは行動が止まりまたは死ぬべきものとなるような諸価値の絶対的な性格を保全するのは、この無関心さの中でののだ。その非実在性はゆえに行動の原理であり行動することの不能である。同様に、虚構はあいまいさにおいては真実でありまた真実への無関心でもある。同様に、あいまいさが道徳に結びつくなら腐敗し、道徳を押し戻すならさらに悪化する。同様に、それ自身の終わりでないなら、あいまいさは何物でもなく、けれどそれ自身においては終わりを持つことができない。なぜならそれには終わりがなく、それ自身のそと、歴史の中で完結するのだ、等々。賛成から反対へのこれらすべての転倒。——これまでの数ページで描いたもの——は、たしかに極めてさまざまな原因によって説明される。文学が妥協しがたい多くの目的をかかえているのは、すでに見た。文学が、作家から読者へ、仕事から作品へと、対立する契機によって移行し、対立するすべての契機の肯定においてしか自己を認めないのも、すでに見た。だが、これらすべての矛盾、これらの敵対し合う要求、起源も種類も意味作用もあれほどちがうこれらの分裂と対立は、すべて一つの最終的なあいまいさに帰属する。その奇妙な効果は、意味をも表象をも無差別に変えることのできるある不安定な点に文学をおびき寄せることである。

この部分では文学の二面性、ことばが表しているのが実存から抽出された意味なのか、あるいはことばのもう一つの面、ことばの変身によって出現する限定された存在なのかがあいまいであ

ると述べている。そしてそのあいまいさこそが文学が帰属する一点であることを指摘している。

先に引用した部分もあわせてここまでの内容を踏まえ、ブランシヨは死について次のように述べている。

このことばの意味の意味は、ことばのその真実へと向かう動きであると共に言語の実在性によつての実在の暗い根底への帰還である。それによつて物が廃絶され破壊されて存在と観念になるこの不在は、われわれは、すでに長いこと検討した。それは死を抱き死の中で維持される生であり、その働きによつて実在がそれ自体から引き離され意味を持つようになる死、否定の奇蹟的な力、あるいはまた自由である。一方、この力が物の理解を作り出そうと働いている瞬間において、そしてことばの特殊化を作り出そうと働いている言語の中において、この力がいつも別の可能性としてさらに自己確認せず、還元不能の二重の意味、両極がそれらを対立させながら同一化するあいまいさの中で互いに重なり合う「二者択一」を永續させないようにすることは、何物にもできないのだ。

また上田和彦は「文学と死の権利」について次のように述べている。

ブランシヨによれば、死は「私」に確実に到来すると同時に、「私」に到来しない二重の出来事である死は「私」の実存を限定するはずだが、実は死に直面する時に「私」はこの経験から零

れ落ちており、「私」は自分の終わりを認定することができない。「私」に最も近いはずの死は、「私に決して到来しない死、私が決して然りとすることのできない死、それに対して可能な本来的連関のない死」である。かくして、死は有限であるはずの「私」を無際限さに曝すのである。ブランシヨはエクリチュールと死ぬことが連関する地点、つまり、有限であるはずの対象を限定しようとするや否や、無際限さに曝される位相に〈文学〉をみる。書くことにおいて作家は作品から隔離され、「私」は「私の死」から分離しているが、これらの秘密において〈文学〉の営みは位置付けられる。言語活動と死は人間を基礎付ける条件の一つであるが、ブランシヨの〈文学〉は人間が不可能性に曝される限界点に見出されるのである。¹⁸

ここまでのブランシヨの指摘を整理すると、ブランシヨは言葉が存在を「名差す」際に、その存在を否定し、不在化する力を持つと指摘している。言葉は存在を与えると同時に奪い、死の可能性を暗示する。この矛盾した性質が、文学における「あいまいさ」を生み出す。文学は否定の力を持ちながらも、物の実在性や未知の領域に触れる力を持つ二面性があり、この二つの側面が交錯し、文学のあいまいさが形成される。その上、虚構を語るという特権を与えられ、現実との間に奇妙な横滑りが起こるとブランシヨは

¹⁸ 上田和彦「文学と恐怖政治―ブランシヨ「いかにして文学は可能か」「文学と死の権利」を読む」『仏語仏文学研究』二〇二二年二月

述べる。

ブランシヨはまた、死を「私」に到来しながらも決して到来しない、二重の出来事と捉えた。死は「私」の実存を限定するかに見え、実際には死そのものを経験することはできず、「私」の外部に留まるものとしている。以上のようにブランシヨは文学にはあいまいな二項を統合する力があると指摘している。

大江の小説に見られる二項対立について井口時男は次のように述べている。

大江の課題が、書くことと生きることとを分離することなく両立させることであることははっきりしている。「中略」そうやって彼は、書きつつ生きる者として、「私」という一人称を作ってきた。大江が書き記す一人称「私」においては、小説だけでなくエッセイ（通常は小森陽一のいう「インサイダー情報」の有力な源泉としてつかわれる）でさえ、ときに「事実」の糸と「虚構」の糸とが分かちがたく縊り合あわさっている。¹⁹

大江が東大仏文科で学び、小説を書くようになっていった時期はこうしたブランシヨの議論が一世を風靡していた時代であった。大江が事実であるのかフィクションであるのか戸惑わせるよ

¹⁹ 井口時男『危機と闘争 大江健三郎と中上健次』作品社、二〇〇四年一月

うな小説を書いた背景にはこうしたことに関わっているよう。

四、大江健三郎とあいまいさ

前章まで示した「二項の区別がつかないあいまいな状態」というテーマは大江のキャリア初期から一貫したテーマでもあった。大江の出世作である「奇妙な仕事」について平野謙は次のように述べている。

犬どもはみな「杭につながれて敵意をすっかりなくして」いて、それはそのまま「無気力につながれている互いに似かよって、個性をなくした、あいまいな僕ら、僕ら日本の学生」のシンボルにほかならない。壁に囲まれ、杭につながれながら、尾をふって与えられる餌をおとなくしく食わねばならぬ「日本の学生」はまた、そのまま占領下の日本の全人民のシンボルではないか。こういう「壁の中の人間」の状況を必要に追及するところにこの作者はその文学的出発点を持った。²⁰

平野が注目する通り、「奇妙な仕事」のテーマは壁の中に閉じ込められ、個性をなくした「あいまいな」僕らである。また、平野は「芽むしり仔撃ち²¹」についても次のような言及をしている。

²⁰ 平野謙「解説」『大江健三郎全作品1』附録、新潮社、一九六六年六月

²¹ 大江健三郎「芽むしり仔撃ち」『群像』一九五八年六月

²² 平野前掲書

²³ 大江健三郎"Japan, The Ambiguous, and Myself", 1994. <https://>

非現実的な話と受取るか、ゆたかな創造的世界の話と受取るか、冒頭から読者が選択できるように、作者は意識的に書いているのだ。(中略)つまり、私どもは冒頭から非現実的な物語としてそつばをむくのと反対に、作者のイマジネーションの世界にそのままひきいれられてゆくのである。²²

言い換えれば「芽むしり仔撃ち」は読者としての受け取り方があいまいな小説と言える。「奇妙な仕事」が一九五七年、「芽むしり仔撃ち」が一九五八年、「夜よゆるやかに歩め」が一九五九年発表であることを鑑みるとあいまいさが初期大江文学の重要なテーマの一つであったと分かる。

「あいまい」というテーマは大江の出発点に留まらず、キャリア後期まで引き継がれたものである。一九九四年、大江はノーベル文学賞を受賞する。その受賞講演のタイトルが「あいまいな日本の私²³」である。そもそも「あいまいな日本の私」は大江より先に日本人としてノーベル文学賞を受賞した川端康成の受賞講演「美しい日本の私²⁴」を踏まえている。大江は講演のなかで川端の講演について触れており、次のように述べている。

[/www.nobelprize.org/prizes/literature/1994/oc/lecture/](http://www.nobelprize.org/prizes/literature/1994/oc/lecture/) (二〇二五年一月八日閲覧)

²⁴ エドワード・サイデンステッカー訳 川端康成『美しい日本の私』講談社、一九六九年三月 ただし、川端がノーベル賞受賞講演を行ったのは一九六八年二月二二日である。

Kawabata Yasunari, the first Japanese writer who stood on this platform as a winner of the Nobel Prize for Literature, delivered a lecture entitled Japan, the Beautiful, and Myself. It was at once very beautiful and vague. I have used the English word vague as an equivalent of that word in Japanese aimaina. This Japanese adjective could have several alternatives for its English translation. The kind of vagueness that Kawabata adopted deliberately is implied in the title itself of his lecture. It can be transliterated as 'myself of beautiful Japan'. The vagueness of the whole title derives from the Japanese particle 'no' (literally 'of') linking 'Myself' and 'Beautiful Japan'.

川端の講演をあいまい (vague) で美しいと評し、このあいまいさは川端の意図的なものであると指摘した。川端の講演のあいまいさを踏まえたうえで大江は「あいまいな日本の私」について次のように述べている。

As someone living in the present would such as this one and sharing bitter memories of the past imprinted on my mind, I cannot utter in unison with Kawabata the phrase 'Japan, the Beautiful and Myself'. A moment ago I touched upon the 'vagueness' of the title and content of Kawabata's lecture. In the rest of my lecture I would like to use the word 'ambiguous' in accordance with the distinction made by the

eminent British poet Kathleen Raine; she once said of William Blake that he was not so much vague as ambiguous. I cannot talk about myself otherwise than by saying 'Japan, the Ambiguous, and Myself'.

川端が意図的に表現したあいまいさ (vague) とは区別して、大江はあいまいさ (ambiguous) について論じたいということをつづいて述べている。

ここまでの大江のあいまいさについての引用からも分かるようにあいまいさは大江のキャリア初期から一貫したテーマである。このあいまいさというテーマの出発点はやはり、平野が「奇妙な仕事」について指摘したような「占領下の日本人のイメージ」であろう。大江はエッセイ「徒弟修業中の作家」の中で次のように語っている。

ぼくら日本の若い人間たちが、あいまいで執拗な壁にとじこめられてしまっているというイメージ、ぼくらのあいだには真に人間的な連帯はなく、ざらざらした毛皮をおしつけあつてほえる犬たちのように、ただ体をからませあっているだけだというイメージ。

そして、あいまいに閉ざされているために、しだいにリアリ
スチックな判断力や分析力が衰退したあげく、持続的なエネルギー
もうしなうて怒りつぽく非論理的になった若い精神の行き
つくところは、「おおかれ少なかれファシズムにつながるという

「ここで「あいまいに閉ざされている」とされているのは例えば「戦後世代と憲法」で大江が語る次のような問題であろう。

新制高校の一年生の時、ある朝のこと、新聞を読むと、徳田球一氏や野坂参三氏の写真があつて、共産党の幹部が追放されたという記事が載っていた。やはりそのときにぼくは、戦争が終ってからいけば最初の絶望的なショックを受けたと思います。憲法に言論の自由という言葉はあるけれども、ここに何人もの秀れた知識人たちが言論の自由を失つて、地上から追払われようとしていることを考えると、僕はとても辛い不安な気がした。もちろんぼくはコミュニズムについて知らず、野坂参三氏や徳田球一氏がどういう思想家かということも正確なことはなにひとつ知りませんでしたけれども、しかし、言論の自由ということを憲法に約束している以上は、これはまずいんじゃないかという暗い気分におちいったわけですね。そのときぼくは、なぜこういうことになるんだろうと考えていて、はじめで、それは現在自分の国が占領されているからだろう、日本は占領されていて外国の軍隊が日本にいるからだろう、そこで日本人のうち、いちばん過激な人たちが沈黙することを強いられたんだろうというふうに考えたのでした。そのときになっ

²⁵ 大江健三郎「徒弟修業中の作家」『朝日新聞』一九五八年二月二日

てはじめて占領という言葉がぼくの心のなかで意味をもってよみがえってきたのだったと思います。²⁶

戦後、新憲法が公布され民主主義の新しい時代が訪れるという明るいイメージの一方で、この押し付けられた新憲法に対する暗い疑いが大江の心をよぎったことが分かる。同じエッセイの中で大江は次のように語る。

おなじくそのころ警察予備隊というものができていて、それが今日の自衛隊にむかつてどんどん改造されてゆくのが新聞をつうじて眼にふれるし、警察予備隊にこいという勧誘がぼくらの身辺にある。そこでぼくは戦争放棄という戦後の日本の大看板というか、最大のモラルというか、それをすっかり踏みこじられている、辱かしめられているという気持をいだいた。しかもそういう現実があつて、自分がそれに気づきながら、それについて口をぬぐっている、なにも感じないふりをしている、それをひどく困る悪い状態だと思いました。

大江は戦争放棄を憲法で宣言しておきながらも警察予備隊を設置し、積極的に勧誘するという日本の矛盾した行為に対して「辱かしめられている」と感じたと言っている。こうした日本のダブルバインド的な二面背反に気が付きながらも気が付かない

²⁶ 大江健三郎「戦後世代と憲法」『朝日新聞』一九六四年七月一六日～一八日

ふりをして、自分の象徴するのが「徒弟修業中の作家」で述べられている「ぼくら日本の若い人間たちが、あいまいで執拗な壁にとじこめられてしまっているイメージ」であろう。

ここまで大江の文学の出発点となったテーマの一つであるあいまいさについて論じてきたが、小谷瑛輔は『水死²⁷』におけるリアリティとフィクションのあいまいさについて次のように述べている。

ダブルバインドに苦しみ言葉の二重性の世界²⁸フィクションへと入っていった者は、どのような形で救済されるのか。ことに、フィクションをものする作家ということにしかアイデンティティを持たない者にとって、単にそれから逃れることは解決ではなく、自己の崩壊をしか意味しない。そうしたときに、果たしてどのような道があり得るのだろうか。(中略)二つの選択肢のいずれも許されない状況の中で、いずれでもあり、またいずれでもないような複雑なメッセージの形態に追い込まれたものを、ベイトソンに従って、ダブルバインドから産まれた統合失調症的なフィクションだと考えるならば、ここで新たに生まれ変わっているフィクションの形態とは、いずれでも許される、自由の領域に展開されるものであるだろう。それは、古義人にとつての従来のなフィクションとは異質でありながら、しかしダブルバインドという点ではフィクションの出自を共有するものでもある。それによって、かつてのフィクションの

袋小路を破壊することなく、そこから救い出すような、もう一つのフィクションの唯一の道であると言えるのかも知れない。

28

小谷はいずれでもあり、またいずれでもないような複雑な二者択一を迫るフィクションをベイトソンに従い「統合失調的なフィクション」であると述べている。この二者択一を迫るようなダブルバインドはまさに戦後世代の日本人が感じていたような二面性の背反ではないだろうか。小谷は『水死』におけるフィクションは従来のフィクションとは異なり、いずれの選択肢も肯定されるような「治療的ダブルバインド」であると述べている。

ここで「夜よゆるやかに歩め」におけるリアリティとフィクションのあいまいさの問題点が浮き彫りになってくる。これまで述べたように「夜よゆるやかに歩め」ではリアリティとフィクションの境界があいまいになっておりこの相反する二項が分かちがたく重なり合っている。つまり「夜よゆるやかに歩め」は「統合失調的なフィクション」であると言い換えることができる。大江は「戦後世代と憲法」で日本が戦争放棄を宣言しながらも警察予備隊を設置し、積極的に勧誘するという矛盾したダブルバインド的な行為に際し、「辱かしめられている」という感想を抱いた。こうした問題意識を持つている大江にとつて読者をダブルバインドに陥れる「夜よゆるやかに歩め」は問題作であったと言えるのではないであろうか。はじめにの部分でも述べたが「夜よゆるや

かに歩め」はいずれの全集にも収録されていない。大江は自戒的な意味合いでこの作品を「封印作」にしたと言えるのではないだろうか。

おわりに

「夜よゆるやかに歩め」は初期の汚点とされ大江自身の手にもよって封印された小説である。その内容はリアリティとフィクションが同時に投げかけられ、境界があいまいなものであった。しかし、戦後のあいまいな日本をテーマの一つとしている大江にとつてそうした「統合失調症的なフィクション」は自身の問題意識を逆なでするような小説と言えるだろう。書き直しの作家としても知られる大江が、このような小説を「封印作」とする選択をしたことは、自然と言えるのではないか。

落語における独り言

Soliloquy in Rakugo

明治大学 国際日本学部

堀口 愛仁

Meiji University School of Global Japanese Studies

HORIGUCHI Yasuhito

目次

はじめに

一、日本人の独り言について

一―一、先行研究・独り言の問題点

一―二、独り言の終助詞について

一―二―一、終助詞「ね」

一―二―二、終助詞「よ」

一―二―三、終助詞「な」

二、落語に登場する独り言

おわりに

はじめに

落語という伝統芸能並びに大衆芸能の歴史は安土桃山時代まで遡ることができる。かの豊臣秀吉の御伽衆のひとりであった安楽庵策伝という僧が、説教を面白おかしく「下げ」（現代で言うところのオチ）をつける形式で行っていた。江戸時代の文政期には寄席の数が一二〇を超えるほどの隆興を見せていたが太平洋戦争戦時下では演じることが時代柄難しいと落語家たちが考慮した斬を禁演落語とし、その勢いが下火になることもあった。しかしながら今日まで落語という文化は絶滅することはなく、落語家の数も過去最高を更新し続けている。時代が移り変わろうとも、人間の良いところも悪いところもありのままに描き、生きているすべての人間の背中を押すような落語はこれからも人気を博し続けるだろう。落語という芸能は着物を着た一人が扇子と手ぬぐいのみを用いて身振り手振り演技分けであらゆる人物になりきりながら斬を進めていくものである。言葉のみでその時の状況や複数の登場人物とのやりとりを表現する落語の特性上、登場人物が思ったことや考えたことは言葉に出して表現する必要がある。ここで考えるのは独り言である。落語の演目は前述のように登場人物同士の対話以外にも独り言を話し、それが斬のオチと密

『山本進『落語の履歴書 語り継がれて400年』小学館、二〇一二年一〇月、一四頁

『文化デジタルライブラリー 大衆芸能編寄席 落語の歴史時代の急変と落語』日本芸術文化振興会 <https://www.2.nij.ac.go.jp/dglibh/contents/learn/edc20/rekishu/rakugo/index6.htm>
一、二〇一四年一二月三〇日閲覧

接に関わるものも少なくない。落語における独り言というのは、現実には話されているそれとはどのような違いがあるのだろうか。

本稿では落語における独り言が、実際に話されている独り言と比べてどのような違いがあるのか、そして落語における独り言は時が経つにつれどのように変化してきたのか、加えて落語以外のエンターテインメントでの独り言を概観し実際の独り言との比較を行い、落語の特殊性について考察し論じたい。

一、日本人の独り言について

一―一、先行研究・独り言の問題点

まず、前提として「独り言」とはどういったことを指す語句なのだろうか。森山卓郎^②は聞き手が存在しない状況で発話される言語表現のことでこれは単に周囲に誰もいない状況でのつぶやきのような現象だけでなく、文法的に伝達的環境がなくても成立する文のことを意味し、心内語などの「伝達を目的としない」文のこととも言えると定義している。更に、この現象は、他者との交流を目的としない言語使用の一形態であり、発話の内容や形式が他者の存在を前提としないことが独り言の特徴であると述べている。また、長谷川葉子^③はこの独り言の定義を三つのパターン

② 森山卓郎「独り言」をめぐって——思考の言語と伝達の言語——『日本語文法体系と方法』ひつじ書房、一九九七年一二月、一七三頁〜一八八頁

③ 長谷川葉子「第二章三層モデルによる独り言の分析」『三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ』開拓社、二〇一七年一月、二六頁〜四三頁

に分けようと試みた。

① 発話状況に基づく定義…発話の届く範囲内に他人がいない場合。

② 発話者の意図に基づく定義…発話者がその発話が誰にも向けられていないと意識している場合。

③ 発話の形状に依存する定義…特定の言語表現や文法構造が独り言として認識される場合。

それぞれの例を挙げてみるとすれば、一、発話状況に基づくものは一人で部屋にいるときに、「今日はいいい天気だな」とつぶやく場合が挙げられる。この発話は、周囲に誰もいないため、独り言と見なされる。この形が一般的に連想される所謂「独り言」と言えるだろう。次に二、発話者の意図に基づくものは混雑した街中で、「あれ、あの店はもう閉まっているのかな」と独り言をつぶやく場合。周囲に人がいても、話し手が自分の思考を表現しているため、独り言と見なされる。最後に三、発話の形状に依存するものは「疲れたなあ」「ああ、どうしよう」といった発話であろう。感情や思考を表現するための特徴的な形状を持っているため、独り言とされる。これらのうち、③のみで独り言がどうかを判断することは日本語の場合では難しく、①②のような文脈が重要である、というのが長谷川の主張である。

また、森山も長谷川も独り言の説明に関してはどの状況においても「独り言」とはこういうことである、といった明確な定義というものを提示していないということは前述の長谷川の説明か

・ 廣瀬幸生・長谷川葉子『日本語から見た日本人―主体性の言

らも理解できよう。森山は前述の定義を「ここでは」という語句から説明しており、長谷川が廣瀬幸生と行った独り言に関する研究²においてはその定義の仕方を、「ここでは、独り言とは、聞き手の存在を想定せずに、頭に浮かんだ事象を声に出すことと定義する」としている。このように今までの日本語学研究において独り言というのはいかに明確に定義することが難しいことであるかというところは理解に容易いだろう。

上記の日本語学研究の状況を踏まえて、本稿では「独り言」を森山の説明する「聞き手が存在しない状況で発話される言語表現」と定義づけることにする。

前掲廣瀬・長谷川論文は「独り言とは、聞き手の存在を想定せずに、頭に浮かんだ事象を声に出すこと」と定義している。これは前述の長谷川の挙げた三パターンの②に該当する。しかし、発話の意図というのは非常に曖昧である。例えば周囲に友人がいる状況で「おなか減ったなあ」と発話したとする。この発話は「独り言」だと受け取られてもよいし、友人からの反応があってもよいものである。こうした場合に聞き手の存在を想定しているかいないかというのは曖昧であると言わざるを得ない。前掲廣瀬・長谷川が行った録音実験についても、半ば録音データを聴かれることを意識したものであり、半ば独り言のようにふるまっているものであって、意図によつて独り言かそうでないかを区分するのは難しい。よつて本稿では「独り言」の定義を①とするのである。

一―二、独り言の終助詞について

語学―』開拓社、二〇一〇年三月、七五頁

先行研究では、発話が独り言であるかどうかは、使用される終助詞によって判断されると考えるものが多かった。この項では日本語学研究での終助詞と独り言の関係がどのように考えられてきたかを見ていくこととする。

一―二―一、終助詞「ね」

まず「ね」であるが、これはどのような用法で使用され、そしてどんな意味を持つのだろうか。

大曾美恵子⁹⁾は終助詞「ね」について「基本的には話し手と聞き手の間に同程度の情報、同じような判断、考えが存在することを前提とする」としている。つまり聞き手を想定した発話で使われることが一般的であるとしている。例として大曾は「今日はいい天気ですね」という発話者に対し聞き手は「ええ、そうですね」と返答できるという例を挙げている。

また益岡隆志・田窪行則¹⁰⁾は大曾と同じ立場を取りながら更に『ね』は、基本的には、相手も当該の知識を持っていると想定される場合に用いられる。自分の知識と相手の知識が一致していると想定し、これを相手に確認する場合には『同意』になり、自分の知識が不確かな場合に、相手に知識を求めるときは『確認』になる」としている。大曾の例に当てはめて考えれば「今日はいい天気ですね」という発話は「同意要求」でありそれに対しての「え

え、そうですね」は「同意」である。

一方で蓮沼昭子¹¹⁾は「ね」にはまた、単に「聞き手目当て」とは言えないような一連の用法がある。」と大曾や益岡らの説とは異なる方向から「ね」を説明している。例えば「家族を犠牲にしても彼女を愛せる？」という発話に対し「分かりませんね」という応答を挙げている。この「ね」は確かに「聞き手目当て」とは言い切れないだろう。蓮沼はこれらの考察から「ね」の基本的用法として「発話時において自分が述べようとしていることと、他の何らかのよりどころとなるものとの間に、食い違いがないということを、話し手が話の場を持ち出し確認する」と説明している。

金水敏¹²⁾も大曾や益岡・田窪の説のみでは説明しきれない問題を挙げた上で「ね」の意味論として、「当該の発話を、マッチする特定の文脈とリンクせよ」と規定している。情報が等価であると見なし同一視するということをリンクと呼び、表現と状況との同一性に不安定な要素がある場合にマッチングが必要である、と金水は述べている。こちらにも例を挙げると「今何時ですかーええと、七時ですね」という文がある。金水は「時計の視覚的な情報から時刻を読み取るのは特殊な計算を必要とし、表現「七時です」との同一性は自明ではない。計算の結果状況と表現が同一視できると判断した証として、ネをつけるのである」と説明している。

⁹⁾ 大曾美恵子「誤用分析」『今日はいいい天気ですね。』―『はい、そうです。』『日本語学』一九八六年九月、九一―九四頁
『益岡隆志・田窪行則『基礎 日本語文法』くろしお出版、一九八九年九月、四八頁

¹⁰⁾ 蓮沼昭子「続・日本語ワンポイントレッスン・第二回」『月刊言語』一九八八年六月、九四―九五頁
¹¹⁾ 金水敏「言語学の最新情報(日本語学)」『月刊言語』一九九三年四月、一一八―一二二頁

北野浩章⁵⁾は大曾や益岡・田窪の説を「共有情報説」、蓮沼の説を「内部確認行為説」と整理した上で、それらを包摂する説明として「ね」は、聞き手に対し、話し手の発話が妥当かどうかを確認するために用いられる」というものを提案している。

田窪行則・金水敏⁶⁾の「終助詞「ね」は「必ず聞き手に対する語り掛けの場面で用いられる」という説明は、こうした先行研究の知見を総合したものである。

伊豆原英子⁷⁾はここまで見てきた「ね」に加えて「な」「さ」「よ」なども含めた先行研究でこれらの助詞は文中でも用いられることが「間投助詞」という概念で検討されてきたことをまとめ、「聞き手目当て」機能が注目されてきたことを「聞き手の発見」とよんでいる。

今村和宏⁸⁾は金水の「ね」は「聞き手に対する発話態度（伝達態度）で説明する試み」としており、「聞き手に対する操作指令である」と解釈している。反対に大曾の「ね」の説明を、「対立する客観的な事実や判断で説明する立場」と解釈している。その上で今村は「語りかけ度」と「語りかけタイプ」という枠組みで分けることを提案しているが、「ね」も「よ」も「語りかけ度」、すなわち「話し手が聞き手に語りかける度合い」を高めると主張している。

⁵⁾ 北野浩章「日本語の終助詞「ね」の持つ基本的な機能について」『言語学研究』一九九三年二月、七三〜八八頁

⁶⁾ 田窪行則・金水敏「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』一九九六年九月

⁷⁾ 伊豆原英子「間投助詞はどのように位置付けられてきたか」

ここまで終助詞「ね」が聞き手の存在を必要とすると考えられる説を概観したが、独り言で終助詞「ね」が用いられ得るとする説も存在する。松下大三郎⁹⁾は「ね」そして「な」という終助詞について「これは相手の無い独言にも用いられる。「やあ雷が鳴り出した、これは晴れるな。」の類だ。自己が自己と対話する形式で自問自答である。自問自答的意識が鮮な場合には「晴れるね」と云ひ鮮でない場合には「晴れるな」などといふ」としている。

ここまで先行研究を見てきたがその大半が「ね」について聞き手の存在を想定した上でのものであったが、大曾よりおよそ五十年前の松下の説において「ね」は「独言にも用いられる」とされていることは印象的である。さらに「自己が自己と対話する形式」という箇所も近年の先行研究では説明されていなかった。加えてこの意識が自分の中ではつきりとあるか・ないかによって独り言の「ね」と「な」の用法が変化するということも興味深いところである。

前掲の廣瀬・長谷川論文では独り言における研究として二十代から四十代の男性八名と二十代から五十代までの女性十六名を対象に、個室で十分〜十五分間独り言を話してもらいそれを録音するという実験を行った。その実験の中で「ね」は終助詞として最も頻発し、数で言えば全発話三〇四二回中三一七回と発話総数

『愛知学院大学教養部紀要』二〇一一年二月

⁸⁾ 今村和宏「終助詞「よ」「ね」の「語りかけタイプ」と体の動き」『言語文化』二〇一一年二月、三七〜五一頁

⁹⁾ 松下大三郎『増補改定標準日本口語法』中文館書店、一九三〇年二月、五七頁

の実に一〇・四%であった。この結果を受け廣瀬らは「ね」と「よ」は、常に話し手と聞き手の関係を基に説明されてきたため、聞き手が存在しない独り言にもこれほど頻繁に出現するというのは予想外だった」としている。この実験結果は前掲田窪・金水論文の終助詞「ね」は「必ず聞き手に対する語り掛けの場面で用いられる」という通説の反例となっており、「必ず」とはいえないことが明らかになったと言える。

以上のように、終助詞「ね」は聞き手に対する語りかけの場面で用いられるとする説が主流であるが、独り言でも使えるという説も少数唱えられている。

一―二―、終助詞「よ」

次に終助詞「よ」についての先行研究を見ていくことにする。前掲大曾論文では終助詞「よ」と「ね」の違いについて「ね」が原則として話し手と聞き手の情報、判断の一致を前提とするなら「よ」は逆に話し手と聞き手の情報、判断の食い違いを前提としているようだ。そこから「協調」とか「主張」の意味が出て来る」と説明している。大曾はこの食い違いを三つのパターンに分けている。

話し手が相手は明らかに自分と違う判断をくだしていると感じて、それに反論する場合 (A)

「アメリカ人はあまり働きませんね。」―「いや、よく働きますよ。」

三 陳常好「終助詞―話し手と聞き手の認識のギャップを埋める

聞き手が当然知っているはずなのに忘れているようなことを話し手が指摘し、思い出させるような場合 (B)

(授業開始時間になってもがやがやとうるさい生徒に向かつて教師が)「もう九時ですよ。」

聞き手が気がついていないこと、知らないことを話し手が知らせる価値があると判断し、伝える場合 (C)

「上着に何かついてますよ。」
など少なくとも三つの場合がある。

同様に、陳常好^三は終助詞全体について「終助詞は話し手と聞き手のあいだの認識のギャップをうめることにかかわる文章表現である」とし、「よ」は、ある情報について、「聞き手の認識の度合が話し手より低い」、そして「それについて聞き手の認識を高める必要がある」と話し手が判断するときに使われる」と説明している。

こうした説を踏まえて、前掲金水論文は「ね」と「よ」の典型例が右のように説明されることを認めつつも、「よ」の意味論として「当該の発話を関与的なものとして登録せよ」と説明している。なお金水は「言語的な発話はそもそも聞き手に向けられるのが普通のあり方」であるという立場をとっている。

このように、終助詞「よ」も「ね」と同様に、あるいはそれ以上に、聞き手を想定する度合いが強い終助詞であると多くの研究では捉えられている。

ための文接辞』『日本語学』一九八七年一〇月

こうしたことから分かるように、多くの研究では独り言で「よ」が使用されることは想定されてこなかった。しかしながら、前掲廣瀬・長谷川の実験において、全発話数はそう多くはなかったにしろ、「よ」が三〇四二回中四回、「かよ」が一回登場した。独り言で使われない、ということはないのである。これら四つの「よ」について廣瀬・長谷川は「一瞥したところでは、独り言における「よ」は、話し手が否定的な気分とときに出てくるように見える」と分析している。例えば「間違ひ電話かよ。キムって誰だよ」という発話、「それで、食べ物はとりあえず、並べて売ると。団子売れないよ、絶対」などである。この二つの発話を見てみると確かに間違ひ電話に対しての苦情、「くない」という否定形に付いていることから否定的な気分と言っても差し支えないだろう。しかしながら、これの反例を見つけることもまた難しくないと廣瀬らは述べている。例えば実験の中で「うん、安い方がいいわ↓。あ、でも、朝食入ってるんだっけ。入って、入って八千いくらだから、うん、安いよ、そのほうが」という発話があったがここでの「よ」は全く否定的なニュアンスを伴わない。したがって、否定的な気分とときに出てくるという結論には疑問が残る。

廣瀬・長谷川らは独り言における「よ」の用法において井上優⁵を紹介している。井上は「よ」の機能についてイントネーションをもとに考察している。つまり上昇調↑を伴う「よ」と、上昇しない（平板、または下降の）「よ」に分けているということであ

⁵ 井上優「もしもし、切符を落とされましたよ」―終助詞「よ」を使うことの意味『月刊言語』一九九七年二月、六二頁

る。

「Pよ↓」は、話し手と聞き手を取りまいている状況を「P」ということが真になるという、そういう状況である」という線ととらえなおすよう強制することを表す。

例えば、「じゃ、私が行きますよ↓。」という発話と、「行きますよ↓。行けばいいんですよ。」という発話は、「私が行く」という境遇を引き受けることを自分自身に言い聞かせると同時に、聞き手にもその線でこの場の状況をとらえなおすよう指示する、という意味あいの発話になる。」と井上は述べている。また「Pよ↓」は自分自身に言い聞かせる形で聞き手不在であつても使用することが可能であるとしている。

あの人、まだあんなこと言ってるよ↓。（困ったもんだ）男はつらいよ↓。（まあ、しかたがないなあ）

次に「Pよ↑」については次のように説明している。

「Pよ↑」は、「話し手と聞き手」を取りまいてる状況は、Pということが真になるという、そういう状況である」ということを聞き手に示して、「このような状況の中でどうするか」という問題をなげかけることを表す。

く六七頁

こちらを例を挙げてみれば「君恵、ママが呼んでるよ↑。(どうする?)」という発話や、「甲…これ、あなたのですか?—乙…そうですよ↑。(で、どうされるんですか?)」という二者間の対話文がある。廣瀬・長谷川らはここまでの井上の説を受け「独り言では、「ね」は常に上昇調であるのに対し、「よ」は常に下降調である。この事実が、「よ↑」は聞き手の存在に依存するが、「よ↓」は依存しないという、井上の説に適っている」と結論付けている。

一―二―三 終助詞「な」

最後に終助詞「な」についての先行研究を見ていくことにする。前掲陳論文は「な」の基本的な用法について説明している。

(1)「な」は、聞き手の認識によつて話し手が自分の認識を確かなものにするときに使われる終助詞である。また、話し手の居ないときにはひとりとごと、内言として、気づきやそれにとまなう感動をあらわすばあいにも使われ、それとかわつて、あいての前でも詠嘆の意がこめられることもある。

(2)話し手が自分の認識よりも聞き手の認識のほうがたしかだと考え、自分の認識を聞き手の認識と同じ水準まで高めようとする用法を、「念おし」と言うが、「な」にも「ね」と同じようにこのような「念おし」の用法がある。すなわちこのようなばあいには「な」を「ね」におきかえられるのである。

①この頃、ろくに一緒に飯食うた時がないな。(ふた)

②まさか、極道とちがうやろな。(極道)

森山新「終助詞「な」の意味用法について」『高大日語教育研

(3)しかし「念押し」と言われる用法においての「な」は、「ね」とちがって、話しあいてがいつも対等が目下である。「な」は典型的なケースとして「独り言」も想定されているのである。

森山新は「な」を「伝達態度のモダリティ」という観点から分析した。森山によれば「な」には「聞き手めあて」のものと「聞き手不めあて」、そして「その中間」の三パターンに分けられると論じている。

(1)聞き手めあての場合

自分の主張。判断などを相手に納得させる。

「君もやってくれる(だろう)——まちがいないー・遅れないで来いよー」

直接的な感動を表わす。

「よく来たー」

(2)聞き手不めあての場合

自分の主張、判断などを自分で確認する気持ちを表わす。

「急げばまにあうー」

何かの実現を心から望む気持ちを表わす。

「早く来ないかー・待ってってくれるかー・晴れるといい(が)ー」

直接的な感動を表わす

「うれしいー・ほんとにきれいだー」

さらに、(1)と(2)の中間というべきものがある。これ

究』一九九八年

は「聞き手の知識や思考には触れず、表現の面では(2)のようにあたかも独り言をいうかのようにであるが、話し手の心には聞き手を意識している」用法である。たとえば以下のような場合がこれに相当する。

(01) さとみ「見られちゃったんですね、私。恥ずかしいな」

(02) さとみ「医大には行っている人に、そんなこと言われたくないな。」

これらはドラマの中で、独り言を言うように語られてはいるが、実際には目の前に聞き手が存在し、間接的に相手に自分の気持ちを伝達しているものである。ここではこれを、

「(3) 中間型」としておく。

陳及び森山の説では、「な」が「ね」「よ」と異なる点は、「聞き手が存在しない場合の発話」が典型例として想定されている。つまり「独り言」における終助詞として「な」は他二つより用いられやすい、ないしはより一般的であると見なされてきたのである。このいわゆる「聞き手不めあて」の用法について陳は以下のように加えて説明している。

(4)「な」のついた文は、かならずしも聞き手がその場になくても使えるものがある。この点も「ね」とはちがう。

⑤奥さん、変なそぶりもなかったな。(新藤兼人「ある映画監督の生涯」)

⑥ちっとも出ないな。(原一男「極私的エロス・恋歌一九七

四)

⑦もうせいぜい二、三年生きていたら、あるいはやったかもしれないな。(新藤兼人「ある映画監督の生涯」)

これらの「な」を使った文はひとりごとまたは内言として使っているようであるが、もしそれらと「ね」をおきかえると、どうしても聞き手がその場に居合わせなければならなくなる。

陳はこのように「な」について「聞き手不めあて」でも使用される例を示したが、この場合で「な」を「ね」に置き換えることは不可能であるとも述べている。しかしながら前景松下論文は「ね」や「な」は「相手の無い独言にも用ゐられる。『やあ雷が鳴り出した、これは晴れるな』の類だ。自己が自己と対話する形式で自問自答である。自問自答的意識が鮮な場合には「晴れるね」と云ひ鮮でない場合には「晴れるな」などといふ」と論じているように、独り言の「な」を「ね」に置き換えられるかどうかについては見解が分かれている。

以上、日本語学における「ね」「よ」「な」の意味論および独り言との関係についての研究を見てきたが、これらは落語の中に登場する独り言にも当てはまるのであろうか。本章ではその点について検討していきたい。

また以下に「ね」「よ」「な」それぞれの終助詞について、以上に挙げた研究が独り言に使われうるのかということについてどのような結論を出したのかを簡潔にまとめた表を示す。

人物	ね	よ	な
大曾	×	×	言及なし
益岡・田窪	×	言及なし	言及なし
蓮沼	△	言及なし	言及なし
金水	×	×	言及なし
北野	×	言及なし	言及なし
田窪・金水	×	×	言及なし
今村	×	×	言及なし
松下	○	言及なし	○
陳	×	×	○
井上	言及なし	○	言及なし
森山	言及なし	言及なし	○
本研究	○	○	○

二、落語に登場する独り言

この章では落語に登場する独り言を概観していき、同じ演目は時が経つとともにどのように変化してきたか、独り言の数や終助詞はどうであるかについて考察する。まず独り言の多さという観点から登場人物が少なく、一人になる場面が他の演目に比べて多いというポイントでいくつかの演目を挙げ、独り言の多さとその終助詞について比較していく。

㊦ 柳家つばめ「かはりめ」『文芸倶楽部』一九〇〇年十一月

まず、『代わり目』という人情噺を見ていくことにする。この演目は中盤から下げまでにかけて酔っ払った夫が妻におでんを買に行かせたことで一人となり、面と向かつては妻に言えないことを述べるということから独り言と思われる箇所が多いことで有名である

叱言を言やア怒るし、打擲りやアメソく、泣出す、あの塩梅ぢやア、打殺すと屹度化けて出るだらう。女子と小人は養ひ難しといふが、あんまり分らな過ぎらア[㊦]

これは一九〇〇年十一月発行の『文芸倶楽部』より初代柳家つばめが演じた『かはりめ』の一節である。明確その場に登場人物が一人であるという状況下において話している内容がこの箇所のみである。これは二文のみであり、噺全体において独り言が占めている割合は少ない。また、「ね」や「よ」、「な」という終助詞は使われていない。次に引用するのは一九三四年『講談倶楽部』より「代り目」である。落語は同じ演目であっても平仮名表記であったり漢字表記であったりと、その綴りが異なることがある。なお、傍線はすべて引用者によるものである。

アハ、ハ、行つちまつたなア。でも何でも女房なればこそ、斯うやつて乃公の世話をするんだ、ねえ、感謝しますよ、けれどもあの女悪いかい器量がー友達がさういつてゐらア、お

前には過ぎものだお前の内儀さんはーといはれると、さう思うね、裁縫は出来るしさ、あんな女房は持てませんよ、あゝ、二度とは持てないよ。けれどもそれを乃公がいつてしまやアもう仕舞だ、だから出て行けーといつてゐるけれどもさ、腹の中では手を合わせて拝んでいるんだ、勿體ない、濟みません、お内儀さん、勘辨して下さい、本當だよ、腹の中では泣いているんだ、本當に濟まないぞ。

戦前の落語で同じ演目の同じ場面なのにも拘わらず独り言の量は増え、それに伴い終助詞も「ね」「よ」「な」のそれぞれが使用されており、「ね」が一回、「よ」が四回、「な」が一回である。

この「代わり目」という演目のこの場面は、いつもは何かと邪見にしている妻がその場からいなくなり、独りになったことを確認した上でしみじみと独り言を話し始めるという箇所である。ここから読み取るに、「そう思うね」というこの用法には松下の説が適用できそうである。自分に言い聞かせるようにしていることから「な」ではなく「ね」になっている。次に最頻の「よ」であるがそのうちの二回は「持てません」「持てない」という否定的な文についていることから、廣瀬・長谷川の実験結果による「よ」は否定的な文につく」という一つの結論を適用することができる。しかし他二つの「よ」は「感謝します」「本当だ」という肯定的ではない文についている。これらの「よ」については下降調の「よ」

であるとすれば井上や廣瀬・長谷川の立場から説明できる。次に引用する「替り目」は二〇一〇年に、柳家三之助により口演された落語の中での独り言であると思われる箇所を稿者が書きだしたものである。なお、矢印はイントネーションが上昇調であるか下降調であるか、そのままであるかということを示す。

行っちゃった行っちゃった、うん。だけどね、ウチのかかあつてものはまあ、よくこの酔つ払いの面倒見つくれるよオ↓。いやあ仲間がそう言んだヨ↓、『おめえんこのカミさんは少し過ぎモンじゃあねえか』つてなことを言うね↑。ええ、俺はそこで『そうかなあ』つつたらこれ惚気になっちゃう。何を言つてやんだい、ばけべそ。ええ、俺あ買つてやつてんだヨ↑おめえ。手と足があつて俺の用さえしてりやあいんだよ↓んなものはあ、俺は買つてやつてんだあ〜！・・・つてね。まあ友達の前だからそら言うヨ↓。んん、だけどそうじゃねえ、そうじゃねえナ。俺あいつもそう思つてんだ、ねえ。おかみさん、よくまあこんな亭主野郎の面倒を見つくれますと。ええ、アタシはあなたがいなくちゃあ生きていかれませんか。あなたはアタシの弁天様ですつて俺あね↑、いつだつてこうして手エ合わして拝んでぞ。

これは先に挙げた『文芸倶楽部』『昭和戦前落語全集』の場面と

¹⁹ 七代目金原亭馬生「代り目」『講談倶楽部』一九三四年一二月
²⁰ 柳家三之助「替り目」二〇一〇年四月一三日口演 <https://www.youtube.com/watch?v=cBAXMHVBwWY>

www.youtube.com/watch?v=cBAXMHVBwWY 二〇一五年一月八日閲覧

対応する箇所である。この例は明治のそれと比べて独り言の多さが段違いである。また昭和のそれと比べても文量はおよそ一〇〇文字多い。こちらの「替り目」ではオチに向けて加速していく場面であり、この演目一番の見せ場と言っても過言ではない。そんな場面において独り言がこのように増え、漸全体で考えてもなくてはならない要素になっている。同じ漸でも時代を経てこのように独り言が漸における大きなウエイトを占めるようになっていくのである。また、それぞれの終助詞について見てみると、「ね」が四回、「よ」も四回、「な」が一回用いられている。この「な」は否定の「ねえ」に接続しており終助詞の「ね」が続くと「ねえね」となり不自然であるために「な」に置き換えられていると考えられる。次に、「よ」であるが上昇調のものと下降調のもの両方が登場している。下降調が三つ、上昇調が一つである。「俺あ買ってやってんだヨ↑おめえ」の「よ」が上昇調である。これを受けて陳や廣瀬・長谷川の、「独り言の「よ」は下降調になる」という説は必ずしもそうではないと言える。

明治・昭和・平成という三つの時代から「代わり目」という同じ演目の対応する場面を見てみた。明治三三年から昭和九年という三〇年ほどで独り言の文量や使用される終助詞まで、ここまで演目の様子が変わっているというのは興味深いことである。特に「ね」「よ」という、先の日本語学研究においては基本的に聞き手めあてでしか考えられてこなかった終助詞が頻用されているということが印象的である。

三三遊亭円遊「乾物箱」『百花園』一八八九年五月

次に引用するのは『百花園』より「乾物箱」という演目である。有難い、ハア―宜い二階だ何うだあマア此結構な。斯う云ふ二階なら毎晩来て寝度ねへ乃公の家のやうな汚な細工とは違はア火鉢の容子と云ひ……………此の夜具布団は何うだエ……………湯呑の容子から、覆しが有て向ふの床の間に掛てる軸は抱一さんだナ宜いなア花瓶に花が差して有て、碁盤将棋盤月琴木琴日本琴何ンでもあるなア……………併し若旦那は今頃は彼家へ往て花魁が悦んでるだらうチヨイとアノ竹庵さんは何故一緒に来ないのツて可然そうに花魁が癪を起こしや爲めエか……………トコトンサツサ、浮ひたゝ。瓢箪斗りが浮きものか、人力自転車陸蒸汽サツサ。ガラゝ。ニ

道楽者の若旦那が大旦那から軟禁され二階でじっとしていると言われる。しかし耐え切れずに、馴染みの善公に、吉原に行っている間は自分（若旦那）のふりをしてどうか大旦那を欺いてバレないようにしてくれと頼み込み吉原に行ってしまう。これはその後、善公が二階の様子に感心する場面である。ここでは「ね」が一回、「な」が四回現れている。「寝度ねへ」で「ね」が使われているが、「ね」は独り言には使えないとする通説では説明がつかない。「抱一さんだナ」「宜いなア」「何ンでもあるなア」の「な」は明らかに聞き手めあてである。前掲陳論文の説明を適用すれば「抱一さんだナ」は気づき、「宜いなア」「何ンでもあるなア」はそれにとりなう感動であると考えることができる。

次に引用するのは同じく「干物箱」という演目である。三遊亭兼好口演で、二〇二〇年六月に配信されたものである。先の「乾物箱」からは一三〇年余り経過している。

うまいねえ↓、えー、まあまあ、ここへね↑、こうしていやあ、若旦那からなんとか小遣いがもらえよおつてもんだけども。まあ、それにしてもいい家だねえ↓。どうしてこんないい家に居てなあ、この表へ出たがるかなあ。俺だったらこんな家だったらな、ひと月ふた月籠城してものなんてことないんだね。フツッ、だけれどもあれだね↑、一〇日ぶりになるといふと、今頃急いでんだろなあ。㊦

先の「乾物箱」と同じ場面であるがこちらの「干物箱」では独り言の文量は減少している。終助詞については「ね」が四回、「な」が五回用いられている。「うまいねえ」「いい家だねえ」の「ね」は終助詞であり、「ここへね」「あれだね」の「ね」は前掲伊豆原論文が「間投助詞」と整理したものである。いずれも聞き手の存在が意識されていると説明されてきた助詞である点は同様である。「な」については、「どうしてこないいい家に居てなあ、この表へ出たがるかなあ」と連続した発話内で「な」が用いられている。前者の「な」は間投助詞であり後者の「な」は終助詞で「自

分の主張、判断などを自分で確認する気持ちを表わす」ものであると考えられる。

次に引用するのは古今亭菊志んによつて二〇二四年八月三〇日に口演された「出来心」である。間抜けな泥棒が誰もいないと確認した家に忍び込んだ後、何を盗むでもなく煙草を呑んで呑気に落ち着こうとしている場面である。

おやつ、なんだい。ここに菓子箱があるよ↑。な、ええー、中なに、おやつ、羊羹だ羊羹。なんだ随分、薄っぺらに切りやがったねえ、おい。数余計見せようつてんだなあこれなあ。そうくりやこつちは計略の裏かいて三切れいっぺんに食っちゃうからねこつちはね。へへっ、ありがてえや。㊦

独り言としては今まで見てきた演目より少し短い、ここで特徴的なのは「それだけじゃないよ」の「よ」である。この「よ」は下降調ではなく上昇調になっている。

次に引用するのは『キング』に掲載された金原亭馬生による「つもり泥」である。こちらも「出来心」同様に泥棒が主役の噺である。泥棒が目を付けて忍び込んだ家の家財道具は何から何まで、猫までもが本物ではなく壁に描いた絵であった。このままでは悔しいと思った泥棒は盗んだ「つもり」でもしよう、と考える場面

㊦ 三遊亭兼好「干物箱」二〇二〇年六月二十八日配信、<https://www.youtube.com/watch?v=KZ19Yh4cUnQ> 二〇二五年一月八日閲覧

㊦ 古今亭菊志ん「出来心」びあ落語さんま、二〇二四年八月三〇日口演、<https://rakugo-zannmai.pia.co.jp/detail/2789> 二〇二五年一月八日閲覧

である。

どうだい、いい箆箭だな……オヤ幾らやつても、この手が箆箭へ掛らないね、をかしいな。……何だい、こりや皆描いてあるんぢやねえか。こつちは近眼なものであるから分らねえんだ。驚いたな……オヤ金庫も描いてあるんだよ。鏡臺、あれ何だい、これは煽風機、みな描いてあるんだよ。ア、電話も描いてあるんだ。道理で猫がいつ迄も欠伸して居ると思つたら、欠伸のし放した。鐵瓶の湯や何かみな描いてあるんだ。これはどうも驚いたね。何も持つて行くものはねえよ。道理で落着いて寝てると思つたな。いまゝしいな。箆箭やなんか皆ある積りなんだね……向ふが積りであるんだから。俺も一旦入つたんだから、盗んだ積りにしてやらうか、盗む積りで何か盗まう……サア何を盗まうかな。²⁴

それぞれ終助詞「ね」「よ」が三回、「な」が六回用いられている。「掛らない」「驚いた」「積りなんだ」に伴う「ね」であるが、こちらは伊豆原の論じた「間投助詞」ではないことが分かる。またしても、「ね」は独り言には使えないとする通説では説明がつかない。「よ」については「ねえ」にともなう「よ」は否定形に接続していることから廣瀬・長谷川の説明を適用することができ、しかし二つの「描いてあるんだ」に伴う「よ」は否定形ではなく、

これが下降調の「よ」であるとするれば廣瀬・長谷川の立場から説明が可能である。六回用いられている「な」については、これは独り言であるため聞き手不めあてである。「驚いた」に接続する「な」の意味としては森山の説明するところの「直接的な感動を表わす」ものでありその他は「自分の主張、判断などを自分で確認する気持ちを表わす」ものであると考えられる。

次に引用するのは桂文治によつて二〇二四年六月一日に口演された「だくだく」である。この「だくだく」という演目は名前こそ異なっているものの「つもり泥」と同内容であるので同じ演目と言えり。「つもり泥」と同じ場面を引用する。なお、○内はすべて引用者によるもので、状況描写である。

いい箆箭だねーオイ。総桐じゃあねえか、ありがてえねえ。
……（箆箭を掴もうとする）あれつ、（箆箭を掴もうとする）
……あれつ。なんだ、描いたんだよー、オイ。描きやがったねー、あつ、こゝへこういう箆箭を置こうてんだ。だけどもね、今あ厳禁の世の中ですよー。金庫にかかろうき……金庫の扉が開いてるよ↑お。ありがてえねー、ハハハッ……（金庫を掴もうとする）これも描いたんだよ↑お、オイ。俺あさつきからおかしいと思つたよ↓オ。だつて猫が欠伸しつ放しだあコレ²⁵

²⁴ 七代目金原亭馬生「つもり泥」『キング』一九三八年一月
²⁵ 桂文治「だくだく」ぴあ落語さんまい、二〇二四年六月一四

日口演、<https://rakugo-zannmai.pia.co.jp/detail/2697> 二〇二五年一月一八日閲覧

こちらの「だくだく」では「ね」が五回、「よ」も五回用いられている。「だけでも」に接続する「ね」は間投助詞であるが、それ以外の「ね」は間投助詞の使われ方とは異なっている。次に「よ」に関しては上昇調のもの・下降調のもの・どちらでもないものの三つとも発話され、陳や廣瀬・長谷川らの主張する「独り言の「よ」は下降調になる」というものと異なっており、説明がつかない。ここまで落語の演目の中の独り言について見てきた。これらいくつかの演目の例から言えることは、まず一つに落語の中の独り言というのは日本語学の先行研究で言われてきたこととは異なり、多くの研究者が「聞き手めあて」でのみ考えていた終助詞「ね」も「よ」も独り言として数多く自然に発話されており、何ら特別なものではないということである。

また前掲井上論文によれば、上昇調の終助詞「よ」は「聞き手めあて」的であるため、独り言においては「よ」は必ず下降調になると説明していた。しかし落語では上昇調の「よ」も見られる。

おわりに

これまで落語における独り言は先行研究の日本語学研究と比べどのようなかを調査した。こういった独り言は落語というジャンルに特有のものなのだろうか。それとも日本語の実態を反映したものとも見るべきだろうか。あるいは現実の実態を反映したものではないものの、日本語圏における虚構のさまざまなジャンルに見られるものと捉えるべきであろうか。

㊦ 芦塚雅俊『ひとりの終助詞』—志村正彦の「な」— ro

ひとつの可能性として、「ね」や「よ」は聞き手めあてであるという通説は基本的に正しいが、独り言において、あたかも聞き手がいるかのように演技的に振る舞うということがあるという解釈が考えられる。特に虚構においては登場人物の内面を観客や聴取者に理解させる上で、そのような演技的な振る舞いを導入することが好都合であり、しばしば表現技法として採用されるのではないだろうか。

最後に、こういったことを念頭に置き日本のエンターテインメントの別ジャンルにおいて「独り言」の表現がどのように扱われているのかということを見ていく。

二〇〇七年一月に日本のロックバンド、フジファブリックが発表した楽曲「若者のすべて」ではその歌詞に終助詞「な」が頻用されている。

最後の花火に今年もなったな

何年経っても思い出してしまふな

ないかな　ないよな　きつとね　いないよな

会ったら言えるかな　まぶた閉じて浮かべているよ

これはサビの歌詞であるが、すべての文に終助詞「ね」「よ」「な」のいずれかが付いている。この「な」について芦塚雅俊[㊦]は以下のように述べている。

ekin'on.com[㊦] 二〇二一年七月一四日[㊦] <https://rockinon.com/ne>

「よ」や「ね」が「会話」において役割を果たすものであるのに対し、「な」は語りかける相手が必要としないのだということがわかる。つまり「な」とは、「ひとりごと」の終助詞であるということだ。

「若者のすべて」が内省的な心情を克明に描写しているのは、やはりそこに歌われたいくつもの独白を繋いでいく「終助詞」の果たすところが非常に大きい。

すなわち、この曲は「な」というたった一音節によって、「ひとりごとを歌う」という確たる世界観を成立させているのだ。

日本の楽曲で、もちろん全ての曲を聴き知っているわけではないが、管見の限りここまで独り言のようなものを含んだ楽曲はない。この楽曲はリリースから一七年が経った今でも多くの人から支持されており、またプロアーティストからもカバーされている。この例は「独り言」という表現方法が広く認知され受け入れられている最たるもののひとつであると言えるだろう。

次に、アニメにおける独り言について見てみる。

高橋愛子³⁷は日本の国民的アニメである『サザエさん』における「独り言」や「心内語」について調査している。高橋は登場人物が口を動かしているかどうかや近くに對話相手がいるかどうか

ws/detail/199628' 二〇二五年一月七日閲覧

³⁷ 高橋愛子「アニメの心内吐露表現における時代的变化——『サザエさん』の「独り言」と「心内語」について——」『早稲

かによって、独り言なのか心内語なのかの判別の難しいものも含めた五パターンの分類を設け、昭和期と令和期のそれぞれ一〇回分に何件ずつ見られるかを数えている。それによれば、口を閉じたまま声が流れる確定的な心内語のパターンが二〇回から四八回に増えていた以外の独り言的なパターンの件数はいずれも減っていた。中でも「顔が映り、口元のパクに合わせて登場人物が話し、近くに對話相手がいない時、独り言であることが確定」という下での発話件数は一八八回から八七回とおよそ一〇〇回も減っていたという。

フジファブリックの「若者のすべて」そして国民的アニメである『サザエさん』の二つの事例を見たが、「独り言」というのは落語以外でも用いられており、独り言が用いられること自体は落語特有のものではないことが分かる。ただし、落語に特有な独り言の表現の特徴はあるように思われる。そうした点を検討するためにはさらに多くの事例を見る必要があるだろう。それを今後の課題としたい。

田大学大学院文学研究科紀要』二〇二三年三月、一六五頁〜一八四頁

椎名麟三論——評価の変遷——

Shiina Rinzo: Changes in Contemporaneous Reviews

明治大学 国際日本学部

芥川 徳

Meiji University School of Global Japanese Studies

AKUTAGAWA Toku

目次

- 一、はじめに
- 二、「深夜の酒宴」の同時代評価
- 三、「重き流れのなかに」の同時代評価
- 四、「深尾正治の手記」の同時代評価
- 五、『永遠なる序章』の同時代評価
- 六、『赤い孤独者』の同時代評価
- 七、「邂逅」の同時代評価
- 八、「自由の彼方で」の同時代評価
- 九、「神の道化師」の同時代評価
- 一〇、「美しい女」の同時代評価
- 一一、『懲役人の告発』の同時代評価
- 一二、おわりに

一、はじめに

本稿の目的は、椎名麟三の文学的評価が現役時代においてどのように評価されていたのか、主に同時代評価から分析することである。

椎名については、立尾真士が次の座談会を引きながら彼が戦後文学の代表と見なされたことを論じている。

奥野 日本の現実を強引に観念に結び付けたのが第一次戦後派の特徴だと思うのですが、その意味でいちばん椎名さんが戦後派らしい。(中略)

佐々木 このあいだ江藤淳君が言っていたが、ああいう世代の人には椎名麟三がいちばん異^{マヤ}型的な戦後派作家と映ったらしい。われわれ『近代文学』の連中なんか、たとえばコミュニケーションの問題を直接出している野間君などの方がもともと戦後文学的だと感ずる感じ方があるでしょう。若い人たちはそうではなくて、やはり椎名麟三がいちばん戦後的だと……。

本多 なるほどね。

佐々木 あれこそ戦後文学だと思ったというふうに言っていたね。

「立尾真士『死』の文学、「死者」の書法——椎名麟三・大岡昇平の「戦後」——」(翰林書房、二〇二五年一〇月)
「梅崎春夫、赤岩栄、奥野健男、佐々木基一、埴谷雄高、本多秋五「戦後文学の批判と確認」——第四回——椎名麟三(下)——

奥野 それは僕らでも感じましたね。

埴谷 実際そうでしょう。³⁰

このように、「第一次戦後派」「戦後文学」「戦後派」といえば椎名麟三だと捉えられてきたわけだが、椎名麟三の同時代評価の変遷を詳細に明らかにすることはこれまでなされてこなかった。そこで、本稿では、出世作「深夜の酒宴」以降に発表した作品に対する批評を作品ごとに見ていくことで、椎名の文学的評価がどのように移り変わっていったかを分析する。

二、「深夜の酒宴」の同時代評価

まずは、彼にとつて出世作となった「深夜の酒宴」がどのように批評されていたかを見ていこう。最初の同時代評というべきものは、本作を掲載した『展望』の編集後記の次の言及である。

椎名麟三氏の小説「深夜の酒宴」についての世評はさまざまであらうが、作者は敢然とこの野心的な道を進むべきであらうし、進むであらうことを期待するものである。ただ一言したいのは、これはかのサルトルなどが喋々されるより以前の制作であるから読者が妙な早合点をされないやうに願ひたい。³¹

「その仕事と人間」『近代文学』一九六〇年四月)
「椎名麟三「深夜の酒宴」『展望』一九四七年二月」
「編集後記」『展望』一九四七年二月)

この時期はサルトルの「水いらず」が翻訳されて、話題になった。直後であり、サルトルと関連付けて読まれてしまうことを懸念して寄せたコメントであるが、この時期にサルトルとの類似について言及することは、むしろ、本作の商品価値を高める効果を持つただろう。実際、椎名はサルトルを読んで「深尾正治の手記」『個性』一九四八年一月）を書いたことを自ら述べており、自身とサルトルとを結びつけようとしていた。

この編集後記のコメントは読者に印象を与えることに一定程度成功したようで、「深夜の酒宴」の最も早い同時代評の一つである加藤勝代の次の評のなかでも触れられている。

最後に椎名麟三であるが「深夜の酒宴」はいささか変つたものだ。焼跡の倉庫を改造したアパートに住む一群の救いなき人間のうちめきをじつと見ている。そこからもれてくるものは絶望のため息しかない。坂口安吾あたりが好んで書きそうな世界だ。

『吉村道夫訳、ジャン・ポール・サルトル「水いらず」』『世界文学』一九四六年一〇月）

『坂口安吾「日本の実存主義運動 肉体自体が思考する」』『読売新聞』一九四六年一月一八日）、正宗白鳥 宇野浩一 青野季吉「近代文学を語る 外国文学の影響を中心にして」『読売新聞』一九四七年一月一日）など

『椎名麟三「作中人物其他について」』『世界日報』一九四八年六月三、四日）

『加藤勝代「特集現代作家論 新人論」』『文華』一九四七年五

月号）として安吾よりもつと重苦しい。「展望」の後記でこれはサルトルが紹介される前に書かれた作品だ、とわざわざ断つてあるのもそうした類似が気になるからだろう。ただ作者の目はこうした異常世界を描きながら案外に健全なのではないかという疑問がおこる。もう一作拝見したいところだ。

なお、この評を掲載したのは一九四五年一月創刊の石川文化懇話会編『文華』だが、一九四三年十二月三日脱稿と記された「霧の旅愁」に用いられている原稿用紙と一九四六年七月二四日脱稿と記されている「黒い運河」に用いられている原稿用紙にはいずれも「文華三七号」と印字されている。これが『文華』の三七号を指すとすれば、一九四九年二月号のことになる。当該号には椎名の文章は掲載されていないが、この号の発行に関わる原稿用紙なのだとすれば、椎名の自筆原稿は記された通りの脱稿日に書かれたものではないということになる。

本作については、同じ月に青野季吉、伊藤整、中野好夫の創作

月）

『飯島洋「文華」』『占領期の地方総合文芸雑誌事典』金沢文園閣、二〇二二年六月）

『姫路文学館所蔵、登録番号 30-M1-000092

『姫路文学館所蔵、登録番号 30-M1-000094

『「霧の旅愁」「黒い運河」とともに』『椎名麟三全集二二巻』（冬樹社、一九七七年一月）では原稿用紙に記された日付を脱稿日と断定している。

合評会でも話題に上がっている。

伊藤 椎名麟三の「深夜の酒宴」(展望二月)はどうですか。私はまだ見てないのですが。

中野 これについてはね、編集者の方でのせるか、のせぬか、大分議論があつたとか聞きました。しかし結局思切つてのせることにしたんだそうだが、十分のせる意味はありますね。終戦後出た新人ではやはり一ばん腕が身についてんでせう。好き嫌いは別として、これだけ書き込めれば立派ですよ。もつとも、ズブの新人とは思えませんね。そういえば名前もなにか聞いたことがあるような気もするが、思い違いかな。

青野 (中略)ちゃんと変形した人間は人間として描きながら、じつと正直に見て書いているというような、そういう何かいいところがありますね。(中略) ちよつと面白いです。

中野 とにかく、一種の虚無的な絶望を質量感をもつて書き抜いていますね。手薄な借り物じや決してない。¹²

「のせるか、のせぬか、大分議論があつたとか聞きました。しかし結局思切つてのせることにしたんだそうだ」という中野の発言は本作が平凡なものではなく、注目すべき問題作だという印象

¹² 青野季吉、伊藤整、中野好夫「創作合評会(2)」(『群像』一九四七年五月一日)

¹³ 馬淵量司「痴酔とよ」『思索』一九四六年四月一〇日

¹⁴ 白井浩司「戦後の文学——フランスと日本の場合——」(『書

を与えるものである。「手薄な借り物じや決してない」という評価は、新人作家に対するものとしては異例のものといえるだろう。同時期には、白井浩司が馬淵量司の「痴酔とよ」¹³と共に評価している。

「深夜の酒宴」の椎名麟三や、「思索」創刊号の『とよ』¹⁴の馬淵量司の名を失することは出来ないであろう。一見デカダンスにみえながらも、じつは精神の日常性への反逆であり、飽くまで自我の純粋性を保たうとする努力に貫かれてゐるこの二人の作家の作品は、手法の上からいつて未だ研究の余地はあるけれども高く評価されなければならない。¹⁵

「手法の上からいつて未だ研究の余地はある」というのは、まだ発展途上にあるという見方であろうが、「高く評価されなければならない」と結論付けている。

とはいえ、本作は絶賛されるばかりであつたわけではない。例えば、土田隆の「魚達さへ言葉を語る」¹⁶と比較しながら酷評を加える佐々木基一の例もあつた。

評』一九四七年九月)

¹⁶ 土田隆「魚達さへ言葉を語る」(『新文学』一九四六年一一月)

「深夜の酒宴」もまた綺麗事ではないだらうか。過去の共產黨員、そしていまや生存の意味を喪失して、監房に似た四畳の一室に飢えてゐる人間。この主人公設定には、小説上の必然性が稀薄であつて、主人公が一人の孤独者として設定されたとすれば、飢ゑを孤独者の粉飾に用ひる理由は些かもないし、もし主人公が一人の敗戦者として設定されたとすれば、あのやうな周囲に対する傲慢な嫌悪と批判とが敗戦者を敗戦者たらしめる理由にはならない。(中略) 椎名氏の作品は、その見せかけの深刻さにも拘はらず、何ら理由のない(働けば食へる人間が飢ゑている理由がない、といふのでなく、小説の前提となるべきモチーフの規制が充分でない) 飢ゑ、行動への絶望感、宿命感などの装ひをめぐつて見れば、要するに、土田氏の作品に流れてゐると同様な、他人には文句をつけたがるが、自己を徹底的に追及剔抉する誠実さは嘗つて持つたことのない甘やかされた人間の甘やかされた人間の感情があらはになるだらう。読後妙に嫌な後味がのこるのもそのためである。こゝには真の孤独もなく絶望もなく、ただ装はれた孤独と絶望があり、時世へ依存する通俗的な何ものかゞひめられている。」

「装はれた孤独と絶望があり」というのは、先ほどの中野の「手薄な借り物じゃ決してない」という評とは正反対のものだ。

㉒ 佐々木基一「作品短評」『人間』一九四七年五月一日)
㉓ 岩上順一「注目すべき作品 上半期の決算」『民報』一九四七年七月一六日)

また、岩上順一も「私は救われぬ麻痺的な痴呆感だけしか受けなかつた」と否定的に述べている。

このように、厳しい評もあつたなかで、一貫して椎名を称賛していたのが「深夜の酒宴」掲載誌である『展望』である。六月には「重き流れのなかに」を掲載するとともに、「深夜の酒宴」によつて新しい時代の文学を待ち望むものの注目を一身に集めた椎名麟三氏」と称揚している。同年七月に白井吉見の椎名宛の公開書簡の形を採つた記事が『展望』に掲載されている。

「深夜の酒宴」は、一口にいつて、重さに堪へてゐることの告白だとおもふのですが、どうでせう。あなたにとつては一さいのものごとくが重さとしてゐる。「僕の左隣りにゐる人々もやはり重い」「自分が重かつた。そして人間が重かつた」「飢ゑはまことに重い」「戸田は僕には殺してしまひたいほど重いのだつた。そしてその自分がまた重く、世界が更に重いのだつた」——とあなたにとつて、たとへば平和とか、平等とか、正義とかいふ概念がどんなに重いことか、一個の思想が、どんなにどんなに重さとして感じられてゐることか。(中略) あらゆる思想は、人類を不幸に導くかも知れぬといふ思想の悲劇性に堪へることによつて、はじめて巨大な力を示すものであるかぎり、あなたが一個の思想をどんなに重さとして感じてゐるかがわ

㉔ 椎名麟三「重き流れのなかに」『展望』一九四七年六月)
㉕ 白井吉見「編集後記」『展望』一九四七年六月)

かるのです。「一九四六・文学的考察」に新しい世代の教養を見出すとすれば、「深夜の酒宴」に一個の鮮烈な個性を見出すのはこのためです。(中略)「深夜の酒宴」に、ドストエフスキーの「地下生活者の手記」を連想したものが多かったやうですが、あそこに見られる凶暴な抗議よりは、キェルケゴールの単独者の憂鬱に通ずるもののやうにおもひます。¹²

ここで臼井は、一世を風靡した『1946・文学的考察¹²』と並べながら「深夜の酒宴」の重要性を論じている。また管見の限り、ドストエフスキーやキェルケゴールを引き合いに出して椎名を評価する最初の評である。

花田清輝は、皮肉に満ちた書きぶりで、椎名について次のように述べている。

——僕は、椎名の作品に、生活のグロテスクな姿が描かれているとは思わない。描かうと努めながら、描ききれないでいるのだ。誤解しないようにしてくれよ。それはウデがないためぢやないのだ。ウデがありすぎるためなのだ。(中略)

——ウデがありながら、どうして庶民の姿が描けないのだろう？思想が破産しているためであらうか。しかし、その思想の破産しているところが、現在、絶えず思想的な動揺を経験して

いる小市民インテリゲンチヤには、魅力なんだろうね。

——破産するためには、いくらか思想をもつていなければなるまいが、元来、椎名は、びた一文だつて、思想なんかもつていたことはない。その点は、実にさばさばしたものだよ。

(中略)

——冗談じゃない！かれの絶望は本物です！その絶望の深さのわかる批評家は、たぶん、僕くらいのもだろうよ。ただ僕は、その絶望が、思想とは関係がないといっているのだ。(中略)

——(中略)しかるに椎名麟三は、荷風や宮本百合子がインテリゲンチヤだという意味では、少しもインテリゲンチヤじゃないよ。作品からうける感じでは、その教養の質は、ゴリキイなんかに近い。つまり、かれは特権をもたないのだ。批評家諸君が、かれの作品に、痛烈な文学青年の不幸を読みとらず、実存主義を発見したりするとすれば、それはかれの教養のせいにちがいない。椎名には思想はない。かれもまた荷風と同様、一介のアルチザンにすぎなのだ。ただ老人と違うのは、本物の絶望をしつている点だが、その絶望も、結局、「詩人」の絶望であるため、折角、庶民的でありながら、庶民の絶望をとらえることはできない。したがつて、作品のなかの庶民のグロテスクな姿は、すべて「詩人」の自画像だ、ということになる。僕は椎名がサルトルなんか気にかけて、ゴリキイでも再読してくれるといいと思うよ。うっかり流行作家にでもなろうものなら、

¹² 臼井吉見「展望」『展望』一九四七年七月)
¹³ 加藤周一、中村真一郎、福永武彦『1946・文学的考察』

(真善美社、一九四七年五月)

かれの絶望は、たちまち希望に変わるかもしれん。⁸³

また、一九四九年には太宰治の「ヴィヨンの妻」や野間宏の「顔の中の赤い月」などと一緒に、「深夜の酒宴」も中国に紹介するため翻訳中⁸⁴と報じられており、戦後日本文学を代表する作品として評価が定着しつつあったことがわかる。

三、「重き流れのなかに」の同時代評価

次に「深夜の酒宴」と同じ年に発表した「重き流れのなかに」の同時代評を見ていこう。窪田啓作が「椎名麟三氏の「重き流れのなかに」（展覧七月）は、前作「深夜の酒宴」において創始された、実存的人間の探究という極度にイデオロジックな実験の継続である。これを軽々に彼方のエクジスタンシアリズムと比較することはすこぶる危険だが、この作品では、前作に比して、救済はいよ／＼遠く、孤独の味はいよ／＼苦く、例えば、かのサルトルの見出した「社会的行動による救済」という一つの可能性からは、かえって、次第に遠ざかるかに見える。しかし、現在のこの作者に必要なものは、救済ではなく凝視であり、積み重ねられた制作のうちから、道は、——拓かれるものなら——自ら拓かれるに違いない⁸⁵」と評している。

また、高山毅は前述の瀬沼の評と同月の『青年論壇』で瀬沼と

同じく、椎名の小説が日本文学に新しい要素を与えるのではないかと注目している。

日本に新しい小説をもたらしている。いや、もたらそうとしている作家なのではなからうかと私は思った。（中略）とにかく、明治自然主義の文学観から完全にぬけだしていることだけは間違いない。（中略）全体の構成が整備されていて進歩の跡をみせている。人によつては二番煎じの感を抱くものがあるかも知れぬが、それはシチエイションに氣をとられすぎたの結果であつて、冷静に読めば作品自体は「深夜の酒宴」よりもすぐれている。⁸⁶

ここで高山は「深夜の酒宴」と比較して「重き流れのなかに」の方が優れた作品だと評している。

また、瀬沼茂樹が、「深夜の酒宴」や「重き流れのなかに」を踏まえて、次のように評している。

戦後生活の新しい条件、あるいは様式のうちから、新しい特性的な文学が生まれようとしている。それは、この新しい条件や様式に適した新しい方法と形式への模写として、その実験のうちに現れている。こうした実験は、自己の文学的伝承にしばら

⁸³ 花田清輝「椎名麟三論」『新小説』一九四七年十二月

⁸⁴ 「よみうり抄」『読売新聞』一九四九年八月一七日

⁸⁵ 窪田啓作「文芸時評②」『時事新報』一九四七年九月五日

⁸⁶ 高山毅「文芸時評 小説とは何ぞや」『青年論壇』一九四七年十一月

れない柔軟な若い世代の野心的な創造のうちに成立する。まず椎名麟三と野間宏とは、この戦後文学の新しい出発の二つの方向として注目される。¹³⁾

椎名と野間宏の二人こそが「新しい特性的な文学」を生み出す作家であり、「戦後文学の新しい出発の二つの方向」を示すものとして注目されている。後に椎名の文学史的な位置づけとなっていくような戦後文学を代表するものとしての見方が既にここに提示されていることに注意したい。

豊田三郎も前作と比較しつつ高く評価している。

結論からいふと、椎名氏はたいへん貴重な作家だとおもった。戦後かういふ人が出てきたのは、たのもしくうれしい。僕は「深夜の酒宴」によりも「重き流れのなかに」に感心した。(中略) 椎名氏はドイツ語の Dichter といふ言葉に値ひする人なのではないか。この人は小説をつくる機械でなくて、思索する詩人、描写する哲学者である。(中略) 彼は彼自身の思想をもつ作家である。つまり、本当の作家なら持つべきは思想をもつてあるのである。¹⁴⁾

椎名は『展望』で登場したときから、サルトルを引き合いに出

¹³⁾ 瀬沼茂樹「戦後文学の出發——椎名・野間・中村・梅崎の作品」『日本読書新聞』一九四七年一月一日(五日)。ただし、引用は『戦後文壇生活ノート 上』(河出書房新社、一九七五年七月)より

して特徴が表現されていたわけだが、豊田の右の評は、管見の限り、同時代評として初めて「哲学者」という言葉で椎名の特徴を表現したものである。

このように、「深夜の酒宴」よりは「重き流れのなかに」の方が相対的に高く評価されていることが同時代評をみると分かる。なお、翌年の一九四八年一月になると伊藤整が「深夜の酒宴」と「重き流れのなかに」の両作を踏まえて、次の所感を述べている。

「深夜の酒宴」が一九四七年の春雑誌「展望」に現れたとき、その作品は何度か日本に現れかけては立ち枯れたドストエフスキイ的な心理探求を戦後の日本で行おうとする新しい作家の姿勢を思わせた。この作品には、転向者シェストフがドストエフスキイから抽出した、より狭い地下室的な人間像を思わせる生存のエキスのようなものが漂っていた。第二作「重き流れの中に」では、その地下室に、ある光を作者は与えようとしている。むしろ求めようとしている。その特異な意匠は、時代から人間が被る必然の歪みを造型し得る実感の裏づけを持つてゐるのを私は感じる。その点で、明日を負う新しい作家として私はこの人を推したいと思う。¹⁵⁾

それまでの日本文学には何度かドストエフスキイ的な心理探

¹⁴⁾ 豊田三郎「創作月評」『文藝時代』一九四八年五月)
¹⁵⁾ 伊藤整「明日を負う新しい作家 椎名麟三氏」『キング』一九四八年一月)

求が出現しては消えるのを繰り返していたが、戦後に椎名がそれを試みたとして注目しているようだ。既に臼井吉見の公開書簡⁸⁸でもドストエフスキー的な要素が小説に含まれていると書かれている。椎名を大作家と捉える意見もあった。

大井廣介は、「椎名麟三は新人中の大作家である。地震で新しい島ができて海面にでた部分だけで水中に沈んだ部分のかさが察しられる」⁸⁹だと評価している。

平野謙は「私のうちなる古風な翫賞家は「深夜の酒宴」を受けつかなかった。「重き流れのなかに」は前作よりよかつた。学生のおふくろなぞなかなかよかつた。しかし、こりや本物かいなあ、といふ疑問はやはり残つた」⁹⁰と疑問を呈している。

これに対して、小田切秀雄は「わたしにとつて、椎名の作品くらいおよそ文学的興味の感じられない作品はない。」と酷評した上で、次のように平野に応答している。

戦争下に孤独な自我の抵抗をよぎなくされたために大衆への不信の念をまだ皮膚の感覚からぬぐい去りきることができず、「自愛」のおそろしい側面をも自ら知つてきてその記憶を容易に消すことのできないでいるわたしたちは、ただその「戦争経験」にいささか触れているというだけで「翫賞家」平野のように椎名を擁護することはできないばかりでなく、「戦争経験」か

らして人間の再生・新生を期さないではいられないわたしたちは、それが可能となつてきたこんにちに、かえつて理性とこれを支える意志と情熱と責任とを喪失し去つた醜惡なデク人形を情熱こめてつくりだすことで自我意識を主観的に確かめようとする椎名麟三の作品に対して批判を向けないではない。⁹¹

また、椎名本人がこのような文章を新聞に載せている。

ある批評家は、僕の作品大さから考えて、今年は僕にとつて運命の年となるであろうと予言された。全くいわれるとおり、今年には僕にとつて運命となるに違いない。(中略)僕は何を書いても安心だという作家を信用しない。常に次の作品がその作家にとつて運命となるに違いないと予感される作家こそ、本当の作家だと思うからである。というのは、そのような作家は、一つの作品に自己の一切を賭けているからだ。だからその作品のなかには、一回きりの死をもつこの生と同じように、その作家の危機がたゞよわずにはおられないのである。円熟も大切だろうし、ある場合には未完成も大切だろう。しかし一番大切なのは真剣さなのだ。そして人間が真剣にならざるを得ないのは、不可能へ面するときだ。真実が不可能を告げるとき、かえつてそ

⁸⁸ 臼井吉見「展望」『展望』一九四七年七月)
⁸⁹ 大井廣介「中村・野間・梅崎・椎名」『風雪』一九四八年三月)

⁹⁰ 平野謙「翫賞家の批評」『文藝』一九四八年三月)
⁹¹ 小田切秀雄「椎名麟三の問題と・平野謙の「翫賞」に就いて」『人間喜劇』一九四八年七月)

これからすべてがはじまるのである。そして戦後文学の特徴の一つは、可能性への情熱というよりは、むしろ不可能性への情熱を持つていないことではないかと僕には思われる。³⁴

ここで椎名は、不可能性への情熱という独自の視点を持つている。同時にそれが、戦後の混沌とした雰囲気の中で、文学の果たすべき役割だと考えているようだ。³⁴

四、「深尾正治の手記」の同時代評価

「深尾正治の手記」³⁵については、まず十返肇が「力作で読みごたえもあり現代的性格を提出したものとて面白い」³⁶と高く評価している。高山毅は「椎名氏の『深夜の酒宴』『重き流れのなかに』は醜悪な人生に孤独にジツとたえて行こうとする人間の意志があつた。その限りで多くの人に感銘を与えたことは争えぬが、この手記では社会への白眼以外の何ものもない。マンネリズムといわれるよりも墮落である。(中略) 椎名氏よ、ここらあたりで一つジツくり自己批判をされてはどうか」³⁷と評している。

高山は記事のなかでマンネリズムに触れていたが、「深夜の酒宴」発表時点で中野好夫も指摘している。「今日までやはり『深夜の酒宴』を推すが、最近方々に聞きだすと、はやマンネリズムを

思わせるところに、魅力がそのまゝ危機を瀕していることが看取できよう」³⁸と述べている。

広津和郎、平野謙が座談会で次のように意見を述べている。

平野 私は初め椎名君の作品が二つばかり展望に出たときには、本ものか偽ものかわからなかつたのですが、「深尾正治の手記」を読んで、なにか僕にわかるところがあるように思えらるです。

広津 僕はあなた(平野氏)の批評を読みながらこれ(深尾正治の手記)を読んでみたのですが、しかし文章の間に読者の意表に出る一種の逆説みたいなものが連続的にあるので、それに引つ張られたが、しかしその謎々はいつになつても謎々だ。その連絡もよくわからない。そうなんです、とか、そうなんだ、とか、それでいいんですよ、とか調子をつけて発想して行くが、読者の意表に出るような逆説的な表現をどうしてしなければならぬのか、どうも呑み込めない。

(中略)

広津 「深夜の酒宴」でも僕は危険を感じたが、この「深尾正治の手記」よりはまだおもしろいんじゃないかしら。非常にむずかしいものじゃないですよ。私がわからないと言うのは、も

³⁴ 椎名麟三「運命の年」『読売新聞』一九四八年一月五日

³⁵ 椎名麟三「深尾正治の手記」『個性』一九四八年一月

³⁶ 十返肇「文芸時評下」『国際タイムス』一九四八年二月一六日

³⁷ 高山毅「新進作家論(文芸時評)」『青年論壇』一九四八年六月一日

³⁸ 中野好夫「新人論」『読売新聞』一九四七年一〇月六日

つとわかつていいわけのものを、わからなくしているという意味です。³⁹⁾

ここで広津は椎名が「逆説的な表現」を使っていることを指摘しつつ、そのことを批判している。

五、『永遠なる序章』の同時代評価

つづく『永遠なる序章』⁴⁰⁾では、広告にこのような紹介文が記載されていた。

その世界は不安と絶望を含み執拗にして繊細、鋭利微妙な感覚の裏に逆説の人生を描く椎名作品の新しい展開は旧冬以来余業をたつてこの作品に盛上げられた！『従来の小説概念では許されない不可能の壁をも破らなければ』ならない筆者が、「深夜の酒宴」「重き流れの中に」「以下一連の世界から真理と絶対者の追求に新しいページをひらいた長編小説の第一作である。」⁴¹⁾

ここで、「不可能の壁をも破らなければ」ならない筆者と書かれている点は注目に値する。三章で挙げた通り、椎名は「可能性への情熱」が戦後文学の特徴だと宣言していたからだ。

³⁹⁾ 広津和郎、平野謙、平林たい子「創作合評（二五）」「群像」一九四八年七月一日）

⁴⁰⁾ 椎名麟三『永遠なる序章』（筑摩書房、一九四八年六月）

⁴¹⁾ 「書き下ろし長編小説 永遠なる序章 椎名麟三著」『近代文学』一九四八年六月

また、安部公房は「——登美子を一体自分は愛していたのか。愛していた。愛していなかったのか。愛していなかった。たゞ、登美子に関して動かずに居られなかった自分を信じるだけである」と作品の本文を引用して、この文章の重要性を述べている。

実は此の中にこそ、弱い人間にはとうてい正規し得ぬ激しい闘いが凝縮されているのだ。（中略）椎名麟三氏は見ることが知っている。情熱を語ってもこつけないにならない。僕は彼の道を、結局、人間への意志であると思っている。そしてねがわくば、彼をとりまいて喋々するあやつり人形を甘やかさぬように。人間の意志とは、あらゆるものが自己に対して意味を持つ、その意味を責任として意志することである。⁴²⁾

平野謙は「たしかに椎名麟三はこの長編によつて従来の「絶望の文学」を一投し、ひとつの変貌・脱皮をとげようと身悶えしている⁴³⁾」と評した。

野間宏は「この作品は「重さに堪えている」現代の人間が如何にして自由な人間にぬけでることができるかを追求して、実験小説から本格的な小説への一步をふみ出したものである。しかし、それは成功しなかった（成功、不成功にかかわらずこの冒険が文

⁴²⁾ 安部公房「文芸時評①」「時事新報」一九四八年七月三日）

⁴³⁾ 平野謙「脱皮と変貌と——椎名麟三「永遠なる序章」」（『書評』一九四八年八月）

学にとつては重要である。」と評したものの「しかし椎名氏がたしかに飛躍し自分の方向を切りひらいたことは認めなければならない¹⁵」と述べている。

『肉体』には「椎名麟三は『永遠なる序章』で確固たる地位を決定した。船山馨と、彼に期待するものは思想であり、観念である。太宰治と全く逆のコースから出発したこの二人の有能な作家の成長を日本文学のために祈つてもよいだらう¹⁶」という意見も掲載されている。

中田耕治は「椎名麟三の作品にはドストエフスキイのやうな観念の暴発はなく、冷徹なまで静謐な激情が見られるのは、この事情によるのであらう。静謐な激情とは、矛盾した措辞であるが、あの内的な狂瀾怒濤を思ひ浮べる時些も不自然ではない¹⁷」だと、「静謐な激情」という、逆説的な言葉を用いて説明している。

中島健蔵は「現代の烙印を、もつとも明瞭にあらわしている新しい作家が、二人いる。野間宏と、椎名麟三とである」と椎名を重要な作家だと認めた上で『永遠なる序章』は、最初から、主人公に死の烙印をむりなくおしていることによつて、彼の従来の作品にあつたような誇張の感じからまぬかれている。(中略)副主人公が不自然なのは、椎名麟三の作品の特徴の一つであつたが、この長編では、主人公の方が、合理的に描かれているだけに、この

¹⁵ 野間宏「文芸時評」『朝日新聞』一九四八年八月二二日

¹⁶ S・M「文芸時評〈太宰治、椎名麟三など〉」『肉体』一九四八年八月二五日

¹⁷ 中田耕治「椎名麟三論」『丹頂』一九四八年十一月

¹⁸ 中島健蔵「戦後文学の背景 一九四八年の文学をかえりみて」

欠陥が目立つ¹⁹」と両面的な評価をしている。

また、平田次三郎は「今年一年の『戦後文学』の足跡というのは、野間宏と椎名麟三の二人に象徴的に現われていると思うんです²⁰」と椎名を時代の象徴とみなしている。

同様に、一九四八年を総括する荒正人の文章では「椎名麟三、梅崎春夫、野間宏、中村真一郎の四人の新人はすでに戦後文学の代表的作家として前年にその位置を定着させてきた²¹」と椎名を筆頭にあげている。

一九五〇年の河上徹太郎と三好達治の対談で『永遠なる序章』についてそれぞれ述べていくくだりがある。

編集者 河上さん『永遠なる序章』は如何でした……。

河上 あれも余り感心しなかつたなあ。椎名といふ人を別に観念的な人とは思はないけれども、人に観念的なものだと思はれるやうなものは持つてゐますね。これは、随分、物を書く上に於ては盲点になるだらうと思ふね。さうすると、人間を見る目があらかじめ決められてしまふのですよ。そして目を使へば、使ふほど、斯ういふふうになつてしまふのです。

三好 だから椎名君を、斯ういふやうに育てなければならぬ

『人間』一九四八年十二月

¹⁹ 平野謙、野間宏、平田次三郎、荒正人「戦後文学とその周辺」『改造』一九四八年十二月

²⁰ 荒正人「文学界の回顧」『文芸年鑑1949』新潮社、一九四九年九月

といふやうなことは、無用なおせ、つかいだ。椎名君にはかういふやうなものを書かせて成長させなければならぬといふ理屈は何処にもないと思ひますね。

河上 動物につまらない芸を仕込むやうなことになつてしまふね。(笑声)

三好 さういふことになるね。この作品でも油の乗つて緊密なところと随分ゆるんで作者もげんなりで書いてるやうなところが眼につきますね。そんなことも意図の無理から来るのではないかでせうか。外からの束縛があつては困りものだ。⁸²

河上は一貫して否定しているのに対して、三好はそれに合わせながらも良い点と悪い点があるとして、悪い点の原因を「外からの束縛」に求めている。これはおそらく、書下ろし小説の企画が先にあつて、依頼して書かせたことを指している。逆にいえば、椎名が自分で書こうと思つたスタイルで書いたものには一目置いているということだろう。

一方で、板垣直子は河上が否定的な文脈であげた「観念的」という視点と同様の切り口から「椎名自身のスタイルは「永遠なる序章」にまで上昇してきているし、たとえ観念性が濃いにしても、

⁸⁰ 河上徹太郎、三好達治「対談 創作批評(第五回)」『風雪』一九五〇年五月

⁸¹ 板垣直子「第一期の新人ら 今年度の文壇を回顧①」『中京新聞』一九四八年十二月二三日

⁸² 椎名麟三『赤い孤独者』(河出書房、一九五一年四月)

⁸³ 亀井勝一郎「現代文学の空白」『読売新聞』一九五一年五月

一向差支えないのだ⁸⁴」と擁護している。全体としては、賛否両論の作品であつた。

六、『赤い孤独者』の同時代評価

『赤い孤独者』⁸⁵は、後で詳しく触れるように、椎名自身が転機を語る上で話題に出す作品である。

本作については、亀井勝一郎が「近來の良き収穫として感銘した作品だった⁸⁶」と高く評価している。後年の一九五二年に、亀井は「奥底にわだかまる二律背反、云はば未来への期待の内にあゝ、絶望的気分を強調しつつ、継いだのが椎名麟三ではなからうか⁸⁷」と述べている。

中野好夫は、自身のベストスリーの一作に選んでいる⁸⁸。

安部公房は「これまで椎名麟三が積重ねてきたあの独自の方法が、この小説ではつきり意識的に整理され、ほとんど完全と言つてよいほどの効果をあげていると思います」と述べている。続いて彼は「椎名麟三の『赤い孤独者』を、ためらわずにけつ作だと言いうるわけです。ぼくはこの作品を最も新しい小説の一つだと、確信をもつて言いましよう⁸⁹」と評価している。

二二日)

⁸⁴ 亀井勝一郎「椎名麟三論」『群像』一九五二年二月一日

⁸⁵ 「一九五一年藝術ベスト・スリー」『読売新聞』一九五一年二月三十一日

⁸⁶ 安部公房「椎名麟三『赤い孤独者』——河出書房刊——」『人間』一九五一年六月

七、「邂逅」の同時代評価

つづく「邂逅」³³では平田次三郎が「この作家従来のテンポのおそい文体が変化している点だけからいっても、その転換を十分期待させる長編といえよう」³⁴と作風の変化を認めた。田口東一郎も「こゝで作者が試みていることの一つは、新しい文体の創造にあるようだ」と文体の変化に注目しているものの、「文体だけの試みに走ることは問題だ」³⁵と述べている。

また、高山毅は「読者を意識して書きだしているところに、椎名という作家の成長がみられるようだ」³⁶と先ほどの平田同様に作家としての椎名の変化を述べている。

佐々木基一は「これは今年の文学の問題作たるにふさわしいものだ」³⁷と評している。

青山光二は「邂逅」や他作家の作品も列挙しつつ「いずれ劣らぬ力作で、一回だけ読んでみても、文句なしに、他の読切小説よりおもしろい」³⁸と述べている。

³³ 椎名麟三「邂逅」『群像』一九五二年四月（一〇月）

³⁴ 平田次三郎「文藝雑誌展望」『東京タイムズ』一九五二年四月三日

³⁵ 田口東一郎「創作時評 文藝雑誌三月号」『図書新聞』一九五二年四月七日

³⁶ 高山毅「文芸時評」『都新聞』一九五二年四月一六日

³⁷ 佐々木基一「雑誌月評」『全国出版新聞』一九五二年九月二五日

³⁸ 青山光二「雑誌合評」『全国出版新聞』一九五二年八月二五日

佐古純一郎は「確実なのはこの世界には不幸があるということだけだ」と登場人物のセリフを引きながら、「椎名氏にとつてはデカルトのあの「我思う、故に我在り」というようなものであつて、椎名文学のすべての問題がそこに根を下ろしているのだといつても過言ではないと思う」³⁹と注目している。

平野謙は他作家の作品も含めて挙げつつ「みな注目すべき長篇であり、本年度の収穫としてあげなければならない」と評価している。ところが「みなその最後において失敗している」⁴⁰と結末部分を批判している。

八、「自由の彼方で」の同時代評価

一九五三年になると、椎名は自伝小説を書き始めた。「自由の彼方で」⁴¹である。第一部が発表されると早速、臼井吉見が「秀作をもたらした注目すべき一例であろう」⁴²と評価している。片山修三は「この作家の庶民的な体質がよくにじみ出ていて、哀愁とユ一モアとの混晶した独得の文体の中で数多くの登場人物はそれ

目)

³⁹ 佐古純一郎「椎名麟三の『邂逅』について」『福音と世界』一九五三年五月

⁴⁰ 平野謙「本年度文学界の回顧」『北海タイムズ』一九五二年二月二二日

⁴¹ 椎名麟三「自由の彼方で」『新潮』一九五三年五月、九月、一九五四年二月

⁴² 臼井吉見「文芸時評」『中部日本新聞』一九五三年四月二三日

ぞれ抜きさしならぬ生活を持っています。それだけに各人物は生き生きと作品の自由に生きています²³⁾」と椎名の個性が存分に発揮できていることを評価している。

しかし、神西清は「おそらく好評を博すことであろうが、あえて直言が許されるとすれば、私はこの作者の案外すみに置けない小器用さに驚いたと言いたい。うっかりすると、それ以外の何物でもなくなる危険がこの作者にあるのではなからうか²⁴⁾」と述べている。

本多秋五も次のように述べている。

この作品は、熟読してみると、ぼくにはよくわからぬところがある。いろいろある。わからぬところは、もっぱら後半にある。(中略)「ひとで」という不良、「せんべい」という不良がよくわからない。熱いチキンライスをぶつかげたあとの、美代子に対する主人公の気持がよくわからない。それらのこまかい点は措くとして、主人公の清作が、新吉に三べん殴られて大怪我したあとで、新吉の世話になり、その新吉に「大洋軒のマスターが美代子に惚れている」と告げ口する気持がよくわからない。(中略)少年の自我形成以前の柔軟な「怖れと望み」をとらえるのに、強固な決断の上に立つこの作者の文体が適していないためではない。

²³⁾ 片山修三「五月号文藝雑誌」(『東京タイムズ』一九五三年五月一日)

²⁴⁾ 神西清「文芸時評」(『朝日新聞』一九五三年五月八日)

²⁵⁾ 本多秋五「文芸時評 五月号」(『日本読書新聞』一九五三年五月)

いかと思われる。(中略)主人公が、殴られて、わざとガラスに頭を突っ込むところ、これは大事なところが、ここもよくわからない。(中略)こうした場面の真実性を保証するためには、もっと細密な描写を必要とするのではないか?こうした場面のあるにはあるであろう。作者はまた、ある点からさき、心理描写というものを軽蔑しているのかも知れない。(中略)椎名麟三の作品には、前からわかりにくいところがあった。最近はおもしろわかり易くなった方である。全体としてわかり易くなっただけに、わかりにくい部分の指摘が容易になったのだ、とさえいえる。心せくまに、わかりにくいところを残して、書きすめられた作品は他にも沢山ある。そんなに急いで書いて、またそんなに急いで書かれたものを読んで、なんとするのだろうか²⁶⁾。

このように本多は複数の点にわたってわかりにくさを難じている。

一方で平野謙は「今月一等の秀作であつた。晦渋な椎名文学の意味する自由概念を、これほど平明に物語り得たことは、この作家の一進展を示すものだ²⁷⁾」と作家の飛躍の向上を高く評価して

月一日)

²⁶⁾ 平野謙「文芸時評の疑問」(『東奥日報』一九五三年五月三十一日)

いる。

木下順二、手塚富雄が椎名麟三も同席している座談会で「作者がいるのでデレる」と言いながら感想を述べている。木下は「非常におもしろかった」と一貫して称賛しており、手塚は「自伝小説」なんて消しちやつた方がいいのじやありませんか」「物足りない」などと様々に批判している¹⁴⁾。

「自由の彼方で」第二部の発表を踏まえて、平田次三郎は「作者は主人公山田の姿をかりて過去の自画像をかなり見事に描出している。というのは主人公山田が作者の手で十分批判的に誇張も感傷もなく客観的に描かれているからである。ここではこの作者特有の晦渋な思想追及がないので読者は的確かつ躍動的な描写を通してすらすらと主人公の人間形成の跡を追うことができるというわけである¹⁵⁾」と評している。

翌年の一九五四年に第三部が発表されると、奥野健男が「僕を感動させた。書かれている材料は今まで彼が方々に使ったものであるにも関わらず、これまでになかった自己の真実の姿を率直に見つめようという批判精神が感ぜられ、そのため庶民の善良性、愚かさ、哀しさを通じて、彼のもともめているものがちに伝わってくる。矢張椎名は、現在の第一級の作家であり、今後の発展が期

待される¹⁶⁾」と絶賛している。

『読売新聞』では「著者のあとがきによると、これは純然たるフィクションなのだが、その方法が自伝小説として新しく、また著者の文学の新しい分野をひらいたものとして世評が高かったのである¹⁷⁾」という記事が掲載されている。

大井廣介は「彼のこれまでの作品で、この作品を最も高く評価したい」としつつ「私は『自由の彼方で』によつて、再びこの作家の愛読者となった¹⁸⁾」と評している。

佐藤朔、桶谷繁雄、岡本太郎、ヴィリエルモの座談会では、本作のタイトルの解釈について議論になっている。

桶谷 「自由の彼方で」といつて、ちつとも「自由の彼方」ではない。椎名麟三という人は、この内容においては別にどうということはないのですけれども、非常に奇妙な言葉づかいをする人ですね。

ヴィリエルモ 一つの逆説的な題じやないのですか。不自由の中に一つの自由を見出したという意味じやないかと思いませんか。

桶谷 そういうふうに解釈すればいいんですがね。

佐藤 いや、そうでないだろうね。御当人は逆説的じやないと

日)

¹⁴⁾ 「最近の小説書 裸体▽自由の彼方で▽抹香町」『読売新聞』一九五四年三月一四日)

¹⁵⁾ 大井廣介「椎名麟三著『自由の彼方で』」『近代文学』一九五四年六月一日)

¹⁶⁾ 木下順二、椎名麟三、手塚富雄「創作合評(七三)」『群像』一九五三年六月一日)

¹⁷⁾ 平田次三郎「九月号文藝雑誌から」『神戸新聞』一九五三年九月二日)

¹⁸⁾ 奥野健男「雑誌月評」『全国出版新聞』一九五四年一月二五

思うね。「彼方で」というのはどういうことですか。自由が彼方にあるというのならわかるけども、「自由の彼方で」というこの時、主人公の占めている位置が、自由の手前なのですか。

桶谷 自由は向うでしょう。

佐藤 そうすると作者である椎名さんは自由の中にいて、まだ不自由の中にいる主人公を語っているのですか。

編集部 不自由のこなたにいますということでしょう。自由の方から見るとずつと彼方の不自由の世界を描いているのではないのでしょうか。

桶谷 そういうことになりますかね。

佐藤 そうとればわかるのですけど。そういう意味を現わすのにはこの標題はちよつと不十分だと思う。²⁵

山本健吉は「ことに椎名の「自由の彼方で」は「邂逅」に次いで彼の作品の飛躍を示すものであり、特異な自伝小説として、彼に新しい小説の可能世界を教えたのではなからうか²⁶」と評している。

谷田昌平は「椎名麟三の作品は、その発展性の乏しさにも拘らず尚ほくをひきつける何かを持っているわけであらう²⁷」と逆説

²⁵ 佐藤朔、桶谷繁雄、岡本太郎、ヴィリエルモ「創作合評（文壇外よりの作品批評）」『群像』一九五四年六月一五日）

²⁶ 山本健吉「上半期文壇の収獲 評論『志賀直哉』 小説『潮騒』など」『読売新聞』一九五四年六月二一日）

²⁷ 谷田昌平「椎名麟三論」『近代文学』一九五四年一〇月）

²⁸ 椎名麟三「神の道化師」『文藝』一九五五年三月）

的な表現で肯定的に評価している。

九、「神の道化師」の同時代評価

つづく「神の道化師²⁹」に関しては佐々木基一が「今月随一の傑作である。「自由の彼方で」と同じ自伝の一部であるが、椎名はたしかに自己の鉅脈にツルハシを打ち当てたらしい。ほとんど、どこからも文句のつけようのない完璧の作とは、こういう作品を指しているであらう³⁰」と絶賛している。

平野謙は「作者の力量がますます柔軟になってきたことをあかす佳作³¹」と評価して、今月の注目すべき作品として挙げている。

山本健吉も「思考がいちじるしく柔軟性を加え、イメージが具象性をましている³²」と先ほどの平野と同様に、柔軟性を評価している。

奥野健男は「登場する不良も一段と重みを加えるが、それとともに段々と私小説じみしてくるのは、どういうわけだろうか。日本において重量感、生活体験の厳しさを描く以外には生れないのであろうか³³」と述べている。

しかし瀬沼茂樹によれば「作品展開に緊迫した力を与えていな

²⁹ 佐々木基一「文芸時評」『中部日本新聞』一九五五年二月二六日）

³⁰ 平野謙「今月の文芸」『大阪新聞』一九五五年三月三日）

³¹ 山本健吉「文芸時評」『朝日新聞』一九五五年三月四日）

³² 奥野健男「文芸時評」『東京タイムズ』一九五五年三月四日）

い⁸⁴」と酷評している。

一方で、平田次三郎は自らの文学的欲求をモラルの追求として
いる。そもそも彼にとつてモラルとは「人生をいかに生くべきか」
とも、また新しい生の倫理とも「生とはいかなるものであるか」
とも解釈するし、他方では表面上もつぱら真や美に偏していよう
と差しつかえないと思うし、更には逆にあまりに正面切つての
「人生いかに生くべきか」風の作品でもどうかと思うのである。
この十の考えるモラルが今日までに発表されている大多数の文
学の作品に欠いていることが不満だと述べている。「このような
点「神の道化師」はぼくの心をゆさぶり、読者としてのぼくを深
く考えさせるのである⁸⁵」と高い評価を与えた。

一〇、「美しい女」の同時代評価

「神の道化師」と同じ月に、椎名は「美しい女⁸⁶」を発表した。
奥野健男は次のように述べている。

彼が全くうまい作家になつてしまつたのに驚嘆を感じる。文章
が平明、全然ひつかかる所がない。物語りも、あゝそうか、あゝ
そうかとどんだん読み流して行ける。そしてどこからともなく
けだるい、しみじみとした敗北的な雰囲気はぼくの中に浸み込

んで来て、そこにひたつていたいような気分させる。全くう
まくなつたものだ。だがぼくはそれが残念でならないのだ。
こゝには「重き流れの中で」の耐える烈しさも、「深尾正治の手
記」の破滅さへの意志も、「永遠なる序章」などの変革への意欲
も、そして「赤い孤独者」の難解性も、「邂逅」のリアリズムへ
の努力も、そのようなものは、一切影をひそめた。たゞあるも
のは、庶民的感情だけである。自己の中にある庶民性にあぐら
をかいた姿だけである。⁸⁷

奥野はこれまでの作品を比較して、逆説的な言い方で否定的な
評価をしている。

また、荒正人は「美しい女のイメージを通して、自由をもとめ
ようとする観念が、古ぼけた額縁になつてゐるが、書面の色調は
やはり気になる。平凡人を描くことから、平凡な文脈で、などと
いうばかげたことを考へてゐる筈もないが、なにかにあまえてい
るのではないか。この作者はこの辺でまた一転回する必要がある
⁸⁸」と椎名に対して変化を促している。

梅崎春夫、十返肇、平林たい子の座談会では、「造型力」の弱さ
に見える点が、「ワザと」なのかそうでないのかが話題になつて
いる。

⁸⁴ 瀬沼茂樹「文芸時評 ①」(『東京新聞』一九五五年三月四日)
⁸⁵ 平田次三郎「今日の文学的課題」(『東京タイムズ』一九五五
年四月一〇日)
⁸⁶ 椎名麟三「美しい女」(『中央公論』一九五五年三月)

⁸⁷ 奥野健男「文芸時評 九月号」(『日本読書新聞』一九五五年八
月二九日)
⁸⁸ 荒正人「私の今月の問題作五選」(『文学界』一九五五年一〇
月一日)

十返 この小説を読んで、ぼくは椎名さんは非常に小説づくりがうまくなったというか、悪い意味でなしに職人的なうまさみたいなものを感じただけど、ただ個々の人物のイメージというものは浮んでこない。読ませる技巧にくらべて、造型力が案外弱いような気がしましたが、どうですか。

梅崎 ふつうの意味の造型力の弱さは椎名さんの場合は初めてあるのじゃないですか。どこかでもう一つ締めるとはつきり浮んでくる人間が、そこを締めないためにちよつと浮いちゃうところがある。しかし彼はそれをワザとやっているんじゃないかな。

十返 描かれている女たちでも妙にとらえどころがないというか半分ボンヤリしたような感じで、ぐつと人間的にイメージが迫ってこないですね。それもまたワザとそうしたのかもしれないけど。

(中略)

十返 どうもどの女もちよつと半分ボケたような感じがして、椎名さんの小説としては非常に読みやすいし、抵抗感があまりなくてすらすら読めたのだけでも、その点は物足りなかつたな。
平林 まあ成功した小説ではないかもしれないね。しかしこういうタイプを描こうとしているということはとてもおもしろ

※ 梅崎春夫、十返肇、平林たい子「創作合評（一〇一）」『群像』一九五五年一〇月

※ 河上徹太郎「一九五五年ベストスリー」『読売新聞』一九五

ろいうことだと思つて、何かの境地に到達しているという感じがして……。※

このように、否定的な評価から始まっているが、『読売新聞』が主催するベストスリー※において最高票を獲得している。さらに、この年の芸術選奨文部大臣賞にも選ばれている。

翌年の一九五六年では、大谷誠は「この作を読み通してから、『深夜の酒宴』『重き流れの中に』『永遠なる序章』『赤い孤独者』『自由の彼方で』という系列を考えてみると、椎名もこのような感慨を述べるようになったものかな、という感を禁じ得ない」と述べている。続いて「問題の設定」と「人間の描写」との間に挟まって混乱に陥っている著者の当惑ぶりだけが明確なイメエジとして筆者の眼前に泛んで来る。しかしそれにしても、この作品が、本年度における収穫のひとつであったことはまちがいないからう※」と両面的な評価を与えている。

前述の芸術選奨文部大臣賞については、十返肇が「昨年度の文壇の大きい収穫であった。かねて私はこの小説が、どこの文学賞をも受けなかつたのを奇異に感じていたので、このたびの受賞には積極的に賛成である※」と認めている。

一一、『懲役人の告発』の同時代評価

五年十二月二五日)

※ 大谷誠「椎名麟三著『美しい女』」『作家』一九五六年一月)

※ 十返肇「文芸時評」『神戸新聞』一九五六年三月八日)

『懲役人の告発』³⁸についてみていこう。この作品が発表されてから、椎名本人と野間宏が対談を行っていた。椎名本人は「現代文学」に対して不満があったという動機から、『懲役人の告発』を書いた。この作品に対して、野間はこれまでの椎名の作品を越えているものとして高く評価している。

野間 この作品はずいぶん前から構想をねらっていたときいています。いつごろから始められた……？

椎名 七、八年前から書くように言われていて、ぼくもちょっと大げさだけど、現代文学に対する欲求不満みたいなものを満たしたい、満たさなきゃならないという義務感みたいなものがあったわけです。とにかく、今やらなきゃ駄目だと思ったことは事実です。（中略）

野間 ぼくの考えでは、「邂逅」「自由の彼方で」の二つの方法の上に乗っかっていながら、それを非常に大きく越えていると思う。³⁹

また、『読売新聞』では次の記事が掲載されていた。

これは「死んだように生きる生き方」しかない現代に対する、

³⁸ 椎名麟三『懲役人の告発』（新潮社、一九六九年八月）

³⁹ 椎名麟三、野間宏「機械文明と人間——書下ろし「懲役人の告発」をめぐって——」（『波』一九六九年七月）

⁴⁰ 「椎名麟三著 懲役人の告発『死んだように生きる』現代へ絶望的な問いかけ」（『読売新聞』一九六九年九月五日）

椎名氏の告発状である。「自由」「疎外」「幸福」「無」などという言葉が、哲学的ニュアンスをちらつかせながら、至極庶民的な登場人物たちの会話の中にちりばめられる。これは作者の性急さであるが、それだけそれが切実な主題であることを物語っている。この世に生き甲斐はあるのかという問いが、ほとんど絶望の底から問われているのだ。（中略）私はこの作品に、作者が執拗（しつよう）に問いかけ、求める切ない声をきく。それがたしかに感じられれば、この小説としてのふくらみの欠如も、さして気にすることはないのだ。⁴¹

しかし、寺田透は「椎名氏のこの本も、告発を題としているが、何に対して告発しているのかよく分らない⁴²」と述べている。

同月に発表された日野啓三の書評では、「この作品は、なかなか狡猾な作品である」と述べる。続いて彼は「この小説は素朴めいた表面にかかわらず、近代的人間主義に対するおそろべき告発の書ということができよう⁴³」だと作品に込められた抗議に注目している。

饗庭孝男は「私の考えでは、椎名氏は、長作の弟の、世界の全否定をもっと突っ込んで描くべきであつたと思う。少くとも長作に對立しうる人物に造型すべきであつたと思う。そうする時、こ

⁴¹ 寺田透「相互に他とは異なる主題もつ登場人物」（『文芸』一九六九年一〇月）

⁴² 日野啓三「傲慢な人間主義を弾劾」（『朝日ジャーナル』一九六九年一〇月）

の弟の現在の社会批判がさらに尖鋭になるとともに「自由」を求めてあつてなく自滅する長太郎と長次、及び「死んだように生きる」長作との緊張関係が強まり、小説が深く構造的になったことは疑いをえないからだ。おそらく弟の世界への全否定は今日における大学紛争の中の全共闘の論理に近いものになったことであろう。そうした論理をふみこんだ四者の思想があつてはじめて、現在の管理社会の怪物性に突きささる「告発」になりうると私は思うのである⁸²」とポテンシャルを認めつつも、限定的な評価を与えている。

一方で、松原新一は「椎名氏にたいしてある痛ましさのようなものを感じずにはいられなかったのである。しよせん椎名氏は、日常性との和解というような調和の道筋からは縁遠いところを歩いていくしかない作家らしい、ということをも、改めてわたしは確認せざるをえなかったのである⁸³」と述べている。

湯地朝雄は「観念がイメージをことばに結晶させ、ことばに定着させたイメージが逆に観念の飛躍を保証するという、初期の椎名作品に紛う方なき戦後文学の個性を刻印した、あの文体の機能が、ここではほとんどはたらいっていないといわなければなりません」と酷評している。続いて彼は「現実と観念とを媒介する文学の思想性を真正面に押し立て、それを方法化しようとした戦後文

⁸² 饗庭孝男「受容的態度への告発」『文學界』一九六九年十一月）

⁸³ 松原新一「みごとに結実した文学的野心」『群像』一九六九年十一月）

⁸⁴ 湯地朝雄「戦後文学の明暗」『新日本文学』一九六九年一二

学の理想に、「懲役人の告発」の作者は今なお忠実であるのかもしれない。しかし、遺憾なことには、実現された「懲役人の告発」一編は、畢竟、戦後文学のいたましい残骸であるというほかはないでしょう⁸⁵」と批判している。

奥野健男も「やはり時代のずれを感じずにはおれない⁸⁶」と述べた。

柄谷行人は「戦後初期の文学にはたしかに深刻な「不安」や「虚無」や「実存」があるが、それはあまり根の深いものではなく、当時の社会が与えたムードでしかなかった。それゆえ戦後の安定期に入ると、「実存」は「実存主義」のような観念におきかえられていかざるをえなかったのである。つまり自らの根拠にどんな「不安」もなくなってしまうのにそれを維持しようとすれば、知的な観念として以外には不可能だからである。『懲役人の告発』のような駄作が生れるのは、過去の自作をなぞろうとしながらも観念的にしかそれをなぞりえないためだ⁸⁷」と時代遅れの作品とみなしている。

椎名の作品は賛否両論なものが多かったが、最後の長編小説となった『懲役人の告発』もそのような評価であった。

一二、おわりに

月）

⁸⁵ 奥野健男「文芸時評」『サンケイ』一九六九年十二月二七日）

⁸⁶ 柄谷行人「文芸季評」『季刊芸術』一九七〇年一〇月）

椎名麟三の作品についての同時代評をみると、評価を与えることについて留保してみせるものや、逆説的な言い方で称賛したり批判したりするものが多いことがわかる。また、多くの作品が賛否両論に分かれているのも特徴である。批判していた者が肯定に転じたり、逆に称賛していた者が批判に転じたりと評価の不安定さが顕著である。これらのことは、同じ原因に基づくものである。すなわち、椎名の作品はどのように評価すればよいのか多くの同時代人が迷うようなものであったということだ。

もう一つ指摘できることとして、「邂逅」から椎名評価を改めた批評家が多いという点がある。「邂逅」は難解さが問題とされてきたそれまでの椎名の作品に比べて、平易な文体で書かれている。「邂逅」における作風の変化については、椎名自身が「私の小説観なぜ作家になったか」で語っている。

僕も「赤い孤独者」以後、書けなくなつた。なにをどう書いていいのか、解決の道がなかなかみつからなかつた。僕は行詰つた。その行詰りを解決する転機となつたのが長編「邂逅」であつた。「邂逅」を書き終えてから、僕はようやく自由になつた。

そして、生きてゆけるという自信をもつたのである。「自由の彼方で」という作品は、それ以後の作品である。¹⁰³

こうした変化を受けて、佐々木基一、高田毅、平田次三郎の三人は作家の成長や転換について賞賛している。

103 椎名麟三「私の小説観なぜ小説家になつたか」『文章倶楽

一方で、「重き流れのなかに」を評価していた平野謙は「邂逅」については「失敗している」と批判してみた。文章が平易になつたことを歓迎する読者は高い評価を与え、逆に難解だからこそ椎名に価値を認めていた読者は低い評価を与えることになつたとひとまずはいえよう。

しかし、椎名評価を巡っては、話はそれでは済まなかつた。本多秋五は「椎名麟三の作品には、前からわかりにくいところがあつた。最近ではむしろわかり易くなつた方である。全体としてわかり易くなつただけに、わかりにくい部分の指摘が容易になつたのだ、とさえいえる」として、作品の難解な点を指摘していた。わかりやすくなるがかえって、わかりにくさを浮き彫りにするという奇妙な逆説が椎名評価には纏わりつくこととなつた。

前述した「従来の小説概念では許されない不可能の壁」と『永遠なる序章』の紹介文に記載されていたが、読者を戸惑わせる晦渋さゆえにこそ不可能性を追求するものとして評価された椎名文学は、最後まで難解さと逆説のイメージのもとで受容されたのである。

（付記）本論文の執筆にあたっては、椎名麟三自筆原稿の閲覧において姫路文学館にご協力頂いた。記してお礼申し上げます。

部』一九五四年五月）

2024 年度卒業論文等テーマ一覧 /List of undergraduate final project themes

卒業論文等テーマ	学生氏名	指導教員名
都市型小型スーパー「まいばすけっと」の巧みなポジショニング	和泉 希美	呉 在垣
サッカー日本代表男子強化方策の分析	大和田 雄介	
eFootball のユーザーを増やす方法の考察	藤田 陸	
アイドルの韓国ファンダム (fandom) 文化と日本ファンダム (fandom) 文化の比較	ゴ ナヨン	
日本サッカーを盛り上げる J リーグの課題と展望	大島 惇	
ファッション消費の動向―家庭支出においてファッション消費が縮小傾向にある要因は何か―	三室 快大	
日本の若者の酒離れが起こっているのはなぜか	鈴木 秀汰	
ディズニーの若者離れ?～なぜ若者がディズニーに行かなくなったのか～	中山 耀晴	
ナイキとアディダスのスニーカー市場比較	伊藤 拓海	
為替レート変動と時代の遍歴	吉田 望人	
データセンターと ESG (環境) の両立可能性	イ ヨンボム	
なぜ中国の EC 化率が日本の EC 化率に大きく上回っているだろうか?	シュウ キンクン	
乃木坂 46 はなぜ長年に渡り安定的に活動できているのか?	光本 蒼彩	
Red Bull とストリートカルチャーの関係	伊藤 慧文	
K-POP がグローバル市場において成功することが出来たのはなぜか	齊藤 加奈	鈴木 賢志
Shining Stones in Swedish Healthcare System	高木 浩志	
スウェーデンの高自殺率について	荒井 萌花	
	保谷 そら	
幸福度を向上させるために日本には何が必要か	鈴木 亜胡	
	福田 哲大	
本当にスウェーデン人は冷たいのか	高橋 諒平	
	水越 瑠奈	
	若松 今日子	
スウェーデン / 日本の将来に対する意識	鈴木 朋実	
	林 穂乃花	
スウェーデンにおける移民政策の現状と実態～政府が掲げる移民政策と国民意識の乖離～	石田 瑞貴	
	KIM HYORIN	
「働く」を最大化するためのモデルケース	佐藤 俊介	
	平林 大樹	
運動が及ぼすスウェーデン (北欧諸国) と日本の幸福度の差	桐谷 凌	
	関口 萌	
北欧諸国の多様性・サステナブル意識におけるデザインの影響性	高村 紗彩	
	山崎 真羽	
スウェーデン人はなぜ魅力的な歯をしているのか?	助川 奏穂	
	竹内 杏歌	
日本の男女平等は進んでいるのか～スウェーデンとの比較～	姫野 晴己	
	外村 芽生	
	山屋 詩	
IDGs からみるスウェーデンと日本の教育比較	川田 心美	
	田邊 優奈	
スウェーデンでは、ワークライフバランスが進み、保育支援制度も充実しているにもかかわらず、なぜ出生率が下がりに続けているのか?	平川 鈴弓	
	和田 安純	

卒業論文等テーマ	学生氏名	指導教員名
色と語りが紡ぐナラティブ：異文化理解を促すビジュアルアートの実践	千葉 めいな	岸 磨貴子
日常生活における気づきと行動変容：演劇手法を活用したワークショップデザイン	池添 なつみ	
創造的学びのためのカードゲームの開発：接続詞でつなぐ即興的物語の実践を通して	進 智尋	
場のデザインを通じた創造的表現活動の実践と考察：『わたしの夢、仮面にのせて』ワークショップの事例研究	LI SIYUE	
「見えない」場のデザイン：暗闇カフェにおける対等な関わり構築	辻本 碧	
音楽で引き出す自己の省察と他者との関係性の構築	田山 湧作	
他者をなぞり無意識のバイアスを乗り越える：想像力の拡張における演劇手法を通じたアートの探究	森上 蒼牙	
越境経験としての暗闇カフェ：対等な対話を通じた“違いを越える”学びのプロセス	杉田 晴香	
アートベースの実践者に必要とされる素養とは：手法・目的の決定順序の是非を問う	北里 美玲	
演劇手法を用いた関係構築と相互理解をテーマとしたワークショップの実施と評価：ロールプレイングを通じた価値観の衝突におけるコミュニケーションを事例として	大尾 彩花	
Podcastを用いたアートベース・リサーチ：ナラティブ・インクワイアリーの可能性	鶴間 茜	
自然の中でのアートの探究：公園フィールドワークを通じた自己省察と共生の学び	山本 知佳	
ミームマーケティング戦略の可能性とリスク：ブランド認識と消費者反応に与える影響	ユ ジョ	小野 雅琴
コペンハーゲンの人間中心 (PEOPLE-BASED) の観光開発：コミュニティベースツーリズムの視点からの分析と応用	山下 栄実	
パッケージコピーの情報過剰感と制御焦点が促進焦点消費者の製品評価に及ぼす影響：関与度別の検討	高橋 諒平	
地方企業の経営資源制約と戦略選択の関係性の探求	伊藤 未央	
(翻 訳) Hiroshi Tanaka, “Branding in Japan,” in Brand Equity and Advertising: Advertising's Role in Building Strong Brands, ed. David A. Aaker and Alexander L. Biel (Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, 1993), 51 – 63.	チェ ヒョンジン	
処理流暢性がユーモラスな広告に与える影響	河合 智紀	
プロ野球ファン「オリ姫」に関する研究 －「カープ女子」の事例と比較して－	藤代 時悠	佐藤 郁
アニメ聖地巡礼の変遷 － 40 年間のアニメを分析して－	亀井 陽斗	
香りを用いた観光プロモーションの可能性 - 富山県を香りの観光地にするには -	君島 ともえ	
デザインマンホールによるインバウンドツーリズム活性化の研究 - 東京都を対象に -	松本 勇河	
コロナ禍における K-POP の推し活施策について	金井 彩葉	
喜多市方のラーメン産業衰退の原因とその解決策の提案 - 広域観光連携の視点から -	松林 良治	
インドネシアにおける日本語教育の実態と日本人ボランティア活動の必要性と課題 - 現地の日本語教師へのインタビューを通じて考える -	石毛 なつ	
なぜ人は旅をするのか - 幸福学と心理機能の観点から -	吉原 瑚香	

卒業論文等テーマ	学生氏名	指導教員名
都市型韓屋を利用したカフェの歴史と現状 - ソウル特別市鍾路区・恩平区を事例として -	片岡 若菜	佐藤 郁
日本酒産業の課題と今後 - ワインにおけるテロワールの概念から考察する -	栢沼 泰佑	
浅草地域における朝観光推進の可能性について	手嶋 夏希	
浦安市民によるシビックプライドの醸成要因と都市開発の関連性 - 中町、新町エリアの都市開発の観点から -	三浦 風々香	
東京ディズニーリゾートにおいてコアリピーターが多い理由とは - 「タコソボ化」の視点から考える -	北村 咲帆	
首都東京のスポーツツーリズム - FC 東京が調布市・東京都にもたらす地域活性と国内外からの観光需要促進 -	針金 翼	
日本におけるヴィーガン：ヴィーガンの現状と日本のヴィーガン食の選択肢について	水垣 結衣	
山口市の観光業の実態 -NY Times 紙掲載後の街の変化に着目して -	石塚 暖	
日本人 ARMY と「推し活」	黒岩 佑菜	
Defining Different Stages of Anime Pilgrimage Destinations	Tan Lue Peng	ヴァシリューク・スヴェトラナ (Svetlana Vassiliouk)
Examination of the Nanjing Massacre Issue in the Context of Japan-China Relations	Mone Ikoma	
Deepening Japan-Taiwan Relations and Their Impact on Japan-China Ties	Aoi Hosoe	
Analysis of the Japanese government' s diplomatic responses to China' s maritime intrusions in Kagoshima Prefecture	Rin Iijima	
The Abe Doctrine of "Proactive Pacifism" and Its Impact on US-Japan Relations	Seina Chazono	
The Core of the Yasukuni Issue Seen from Japan and South Korea: Focusing on the Developments during the Koizumi Administration	Miru Watanabe	長尾 進
e スポーツと地方創生	鈴木 航太	
運動部主将のリーダーシップが運動部活動の適応力に及ぼす影響	常田 真由	
多角的に見た日本のサッカー育成における現状と今後の展望	渡邊 正則	
中学校・高校部活動における体罰とバウハラ問題について	齋藤 陽奈	
sports-washing の現状と、日本におけるスポーツ利権について	山口 大成	
オリンピックとメディア -パリ五輪現地取材から-	岩崎 陽	
男子バスケットボール日本代表における選手起用の課題	葉山 隆誠	
テニスにおけるスポンサー契約について	鈴木 渚左	
サッカー欧州リーグで活躍する日本人選手の特色について	渡辺 大翔	
野球における「常識」の変容について	山田 翔太	
スポーツ技術と音楽について - Breakin' とフィギュアスケートの事例 -	中島 堯太	
椎名麟三論 - 同時代評価の変遷 -	芥川 徳	小谷 瑛輔
計量分析による文体模倣評価の可能性と課題 - 『金色夜叉』を題材として -	櫻井 千恵	
大江健三郎『夜よゆるやかに歩め』に見られるリアリティとフィクションのあいまいさについて	笹井 悠太	
「教育虐待」の言説分析 - 「クレイム申し立て活動」からみる第三者と当事者 -	津川 さくら	
国語教科書における尾崎放哉と自由律俳句	野本 駿介	
落語における独り言	堀口 愛仁	

卒業論文等テーマ	学生氏名	指導教員名
昭和日本の戦時標語について ～用例や頻度、共起する後からの考察～	鈴木 健太	田中 牧郎
小説の感情表現の意味と文法から見るその特徴	渡邊 菜々子	
なぜタイ語では「道を教える」と言えないのか 一日タイ言語コーパス 研究を通じた考察―	佐藤 加奈	小森 和子
「バイト敬語」の社会的妥当性に関する検討	山口 稜太	
映画『Stand by Me』の字幕翻訳	倉品 昂生	大須賀 直子
映画『Frozen』の字幕翻訳	三宮 彰太	
小説『Francie』の翻訳	相原 めいは	
映画『Rainman』の字幕翻訳	釵持 和	
小説『Dead Poets Society』の翻訳	石川 慶	
小説『Mulan』の翻訳	清水 向日葵	
映画『Back to the Future』の字幕翻訳	竹内 雪乃	
映画『Everything』の字幕翻訳	藤巻 晴佳	
映画『School of Rock』の字幕翻訳	石田 純菜	
映画『A Dog's Purpose』の字幕翻訳	岡本 結衣	
小説『We were Liars』の翻訳	板垣 里采	
映画『Wonka』の字幕翻訳	渡邊 みなみ	
映画『Miracle on 34th Street』の字幕翻訳	工藤 彩花	
映画『Green Book』の字幕翻訳	西村 佳子	
映画『Big』の字幕翻訳	三枝 伶紗	
小説『One Carefree Day』の翻訳	林 あやの	
小説『What Moves the Dead』の翻訳	藤本 菜央	
小中学校移行に伴う英語授業好感要因調査	廣澤 美吹	廣森 友人
教育段階に応じた語彙学習方略の傾向	長瀬 靖奈	
画像を併用した語彙学習の有用性	上村 悠菜	
中学校英語授業において深層レベルの異文化理解教育を行うには	佐藤 菜緒	
コミュニケーションを取ろうとする意思と習熟度の関連－習熟度別の関 連要因調査－	水嶋 春佳	
高校英語教科書の設問分析―批判的思考能力育成の進捗調査―	村崎 泰河	
英語学習者の性格と学習スタイルの関係―MBTIを用いて―	伊藤 理紗	
継続性のある英語学習者の特性に関する考察	森 媛花	
日本における英語偏重教育についての考察	橋爪 萌花	
大学生のクロノタイプ調査と英語学習との関連－クロノタイプの自認と TOEIC テストから－	山崎 翔空	
「推しコンテンツ」が第二言語学習の動機づけに与える影響： ケーススタディを通じた考察	滝川くるみ	
大学生の語彙学習方略の組み合わせ－反復方略の有効性の再検討－	川名 千遥	
動機づけを高める指導ストラテジーの効果分析	長濱 大希	
日本人大学生の英文読解を促進する BGM の使用 －音楽のジャンルが文章理解に及ぼす影響－	野村 美月	

本号執筆者

PARK SOHEE

新村百華

栗山葵衣

TANG GETIANYU

山口稜太

佐藤加奈

佐藤菜緒

廣澤美吹

森媛花

水嶋春佳

滝川くるみ

橋爪萌花

袴誠人

大島瑚遥

津川さくら

櫻井千恵

芥川徳

堀口愛仁

笹井悠太

野本駿介

編集委員

藤本由香里（編集委員長）

瀬川裕司

美濃部仁

大須賀直子

眞嶋亜有

明治大学国際日本学部学生論集 第11集（2024）

2025年3月31日

編集責任者 明治大学国際日本学部

発行所 東京都中野区中野 4-21-1

明治大学国際日本学部

電話 (03) 5343-8034

印刷所 株式会社ワコー